

図②⑤ 土器の出土位置(IVP-45)

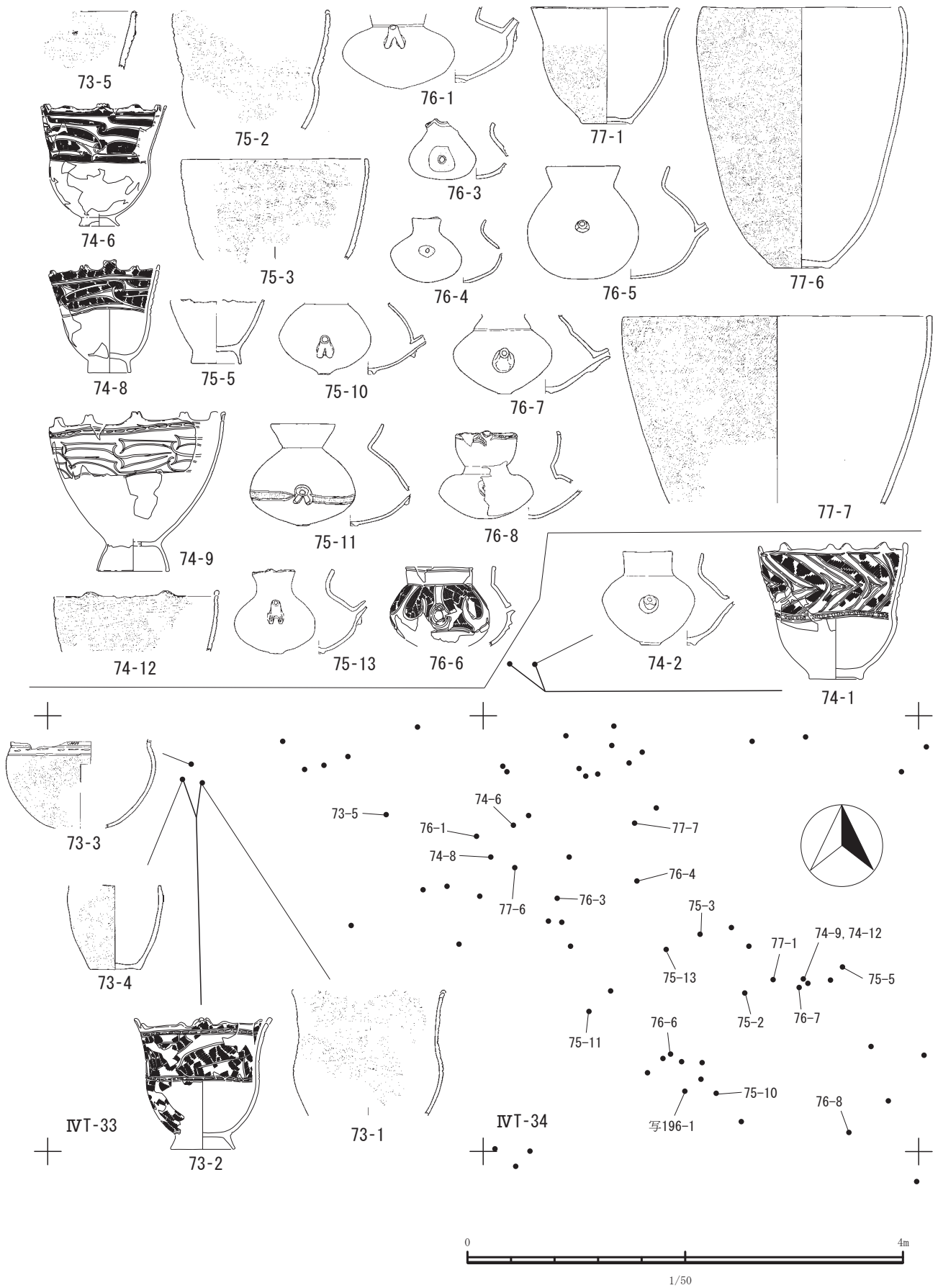
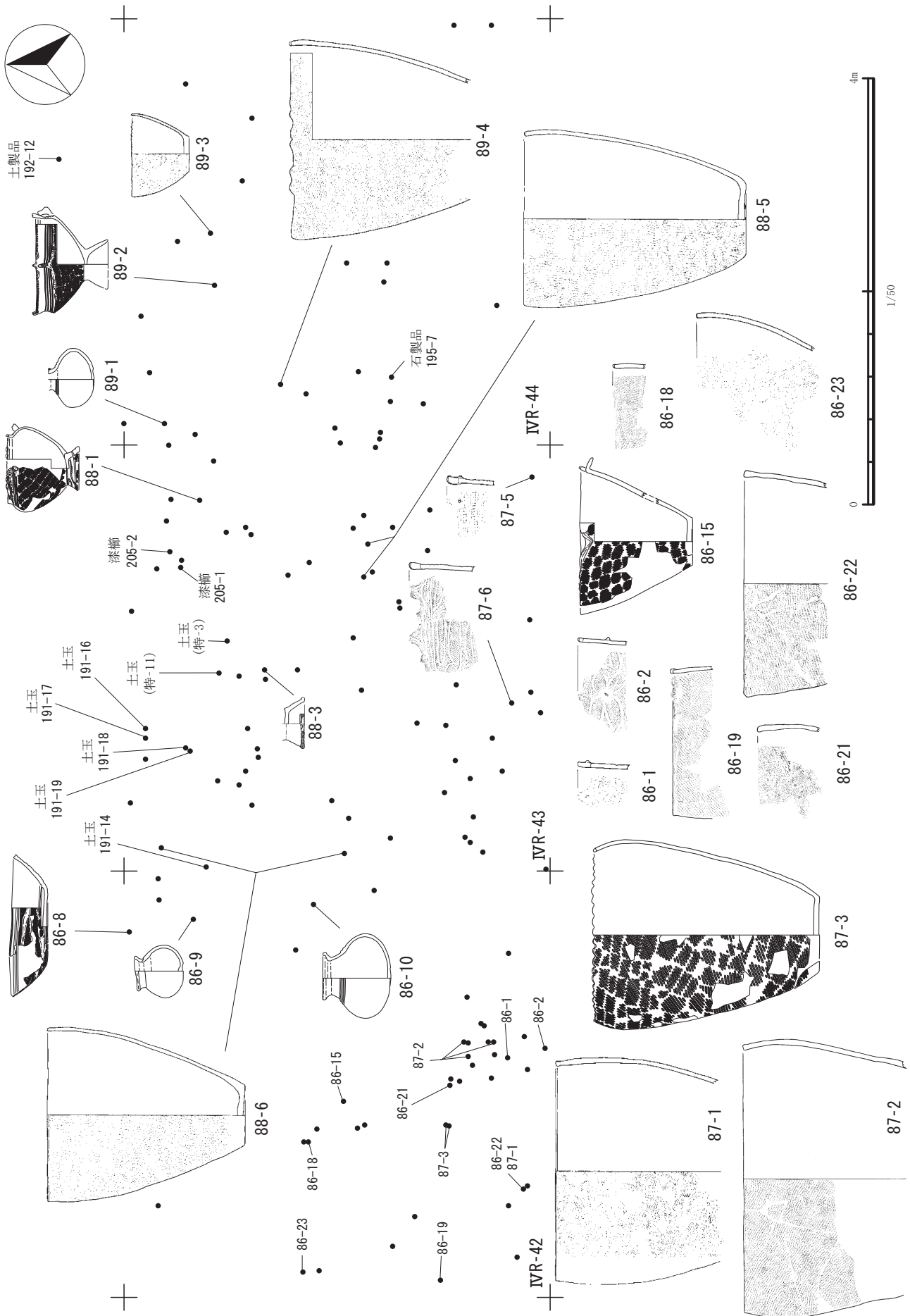


図26 土器の出土位置(IVT-33・34)



図②⑦ 土器の出土位置(IVR-42~44)

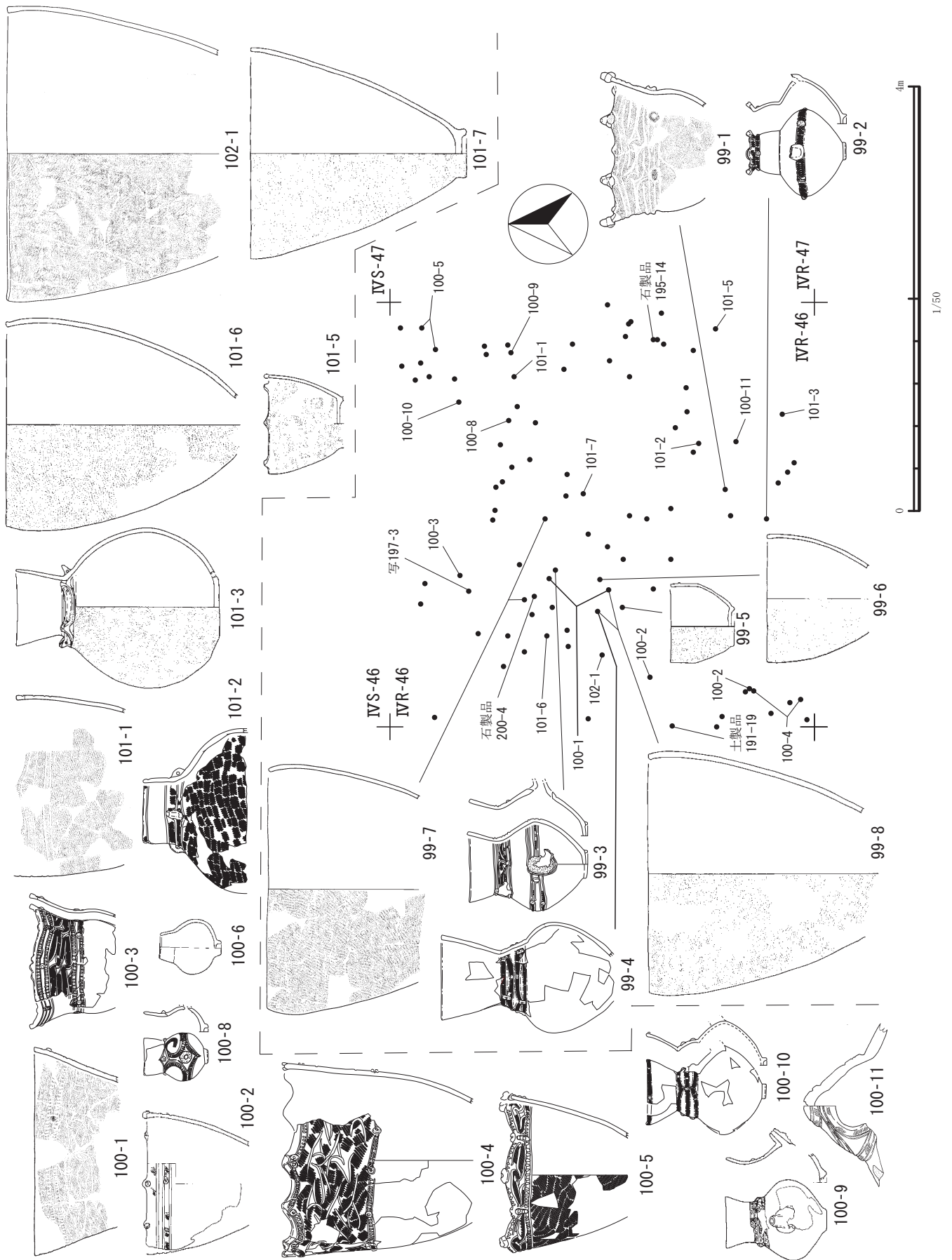


図28 土器の出土位置(IVR-46)

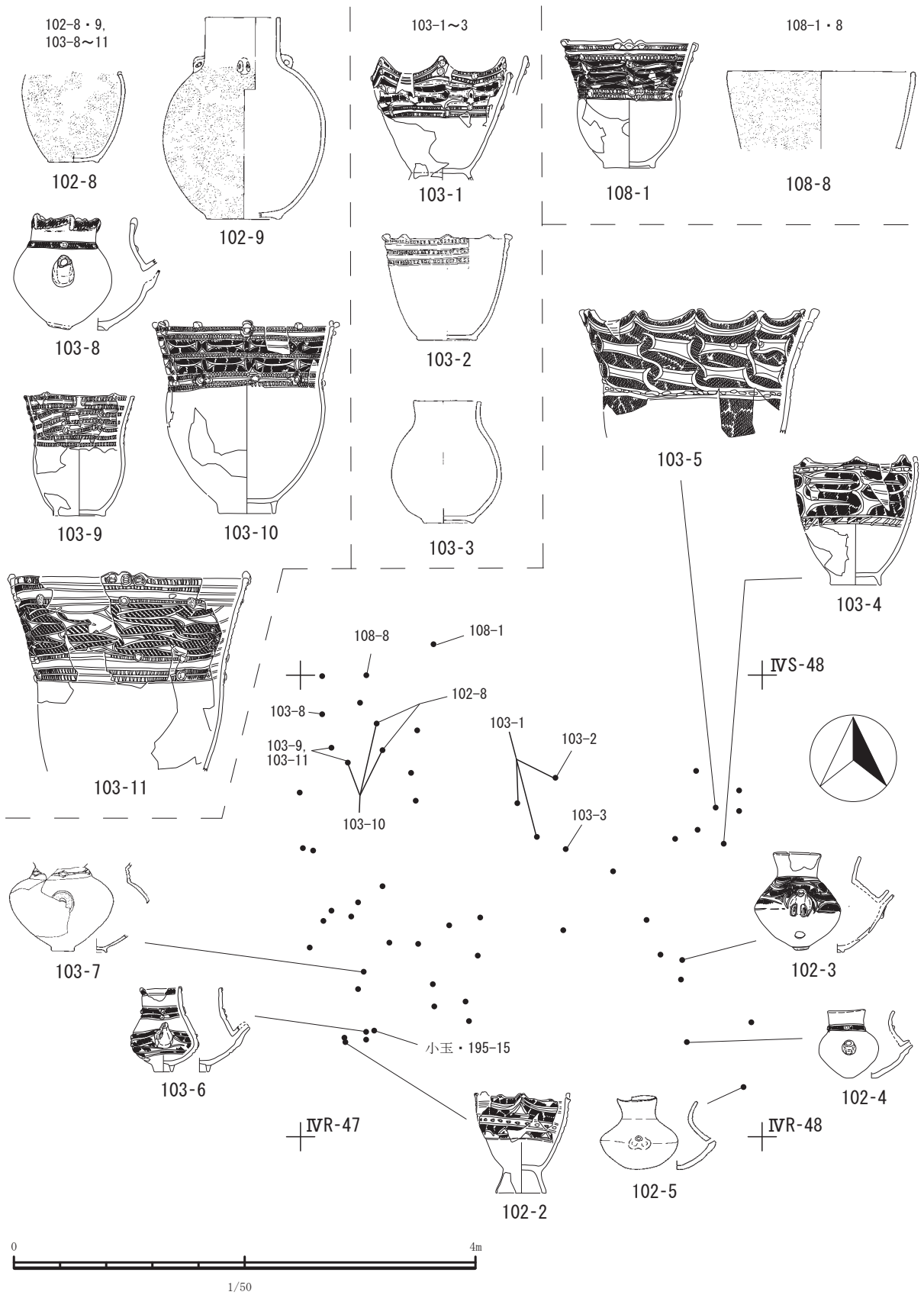
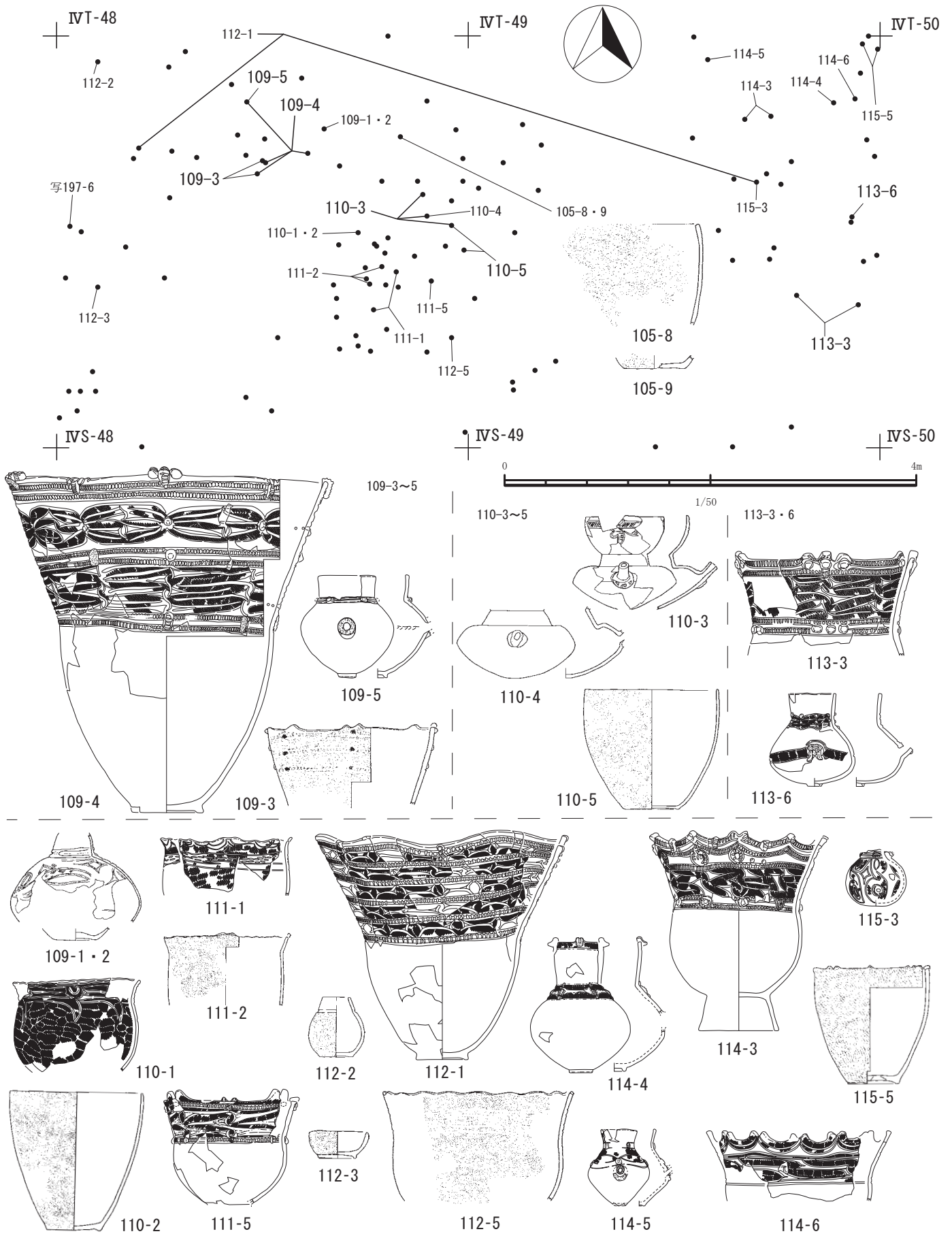


図29 土器の出土位置(IVR-47)



図③⑩ 土器の出土位置(IVS-48・49)

6 剥片石器・自然礫・石斧

石器の分類は、弘前市薬師遺跡の報告(青埋文編2014)に準じた。薬師遺跡は、本遺跡から距離的に近い縄文時代晩期の大集落で、石器組成の違い等を対比できるためである。しかし、平成23年度から26年度まで、複数の職員によって石器の整理が行われてきた経緯があり、細分は行わないこととした。そして、「ノッチ」(挟入削器)として台帳登録されていたものについては、削器に読み替える等整合性を図った。

ここでは剥片石器及び関連する石核転用敲石と、搬入された自然礫である原石、石斧について記述する。

【剥片石器】

剥片を素材とした石器で、掲載資料については器種ごとに分類し、観察表に記した。

- | | |
|--------|---|
| 石 鏃 | 石鏃としたものは、尖頭部をもち、先端部が薄く扁平な石器である。鏃身部先端の平面形態は基本的に二等辺三角形をなしている。掲載は尖基有茎鏃、平基有茎鏃、尖基鏃、平基鏃・凹基鏃・円基鏃・石鏃未成品(加工から石鏃と思われるが、形状が整わないもの)の順とした。 |
| 石 槍 | 尖頭部をもつ石器の内、左右対称形であり、石鏃と比較し大形で厚手のある石器である。 |
| 石 錐 | 尖頭部をもち、その断面形が三角形もしくは四角形の石器である。石鏃の先端部が比較的扁平であるのに対し、石錐は厚手である。つまみを有する形態、棒状形態、剥片の一端に錐状の加工を有するもの、錐部断片の順に図示した。 |
| 石 篋 | 両面加工でほぼ左右対称の細長い形状で、長軸一端に直交する刃部が作出されている石器である。 |
| 両面調整石器 | 形状が整わず、器種の特定できない両面調整の石器を一括した。 |
| 石 匙 | 素材剥片の一端に一对のえぐり加工をいれ、つまみ部を作出し、刃部と判断できる縁辺をもつ石器である。つまみ部の位置から縦方向に長い刃部を持つ縦形石匙、横あるいは斜め方向に刃部をもつ横形石匙の順に図示した。 |
| 搔 器 | 急角度の刃部をもつ石器である。刃部の平面形態は外湾もしくは直線状である。 |
| 削 器 | 刃部と判断できる縁辺をもつ石器である。 |
| 両極石器 | 対向する縁辺から、バルブが発達せず、リングの密な二次加工や階段状剥離の二次加工で形成されている石器である。 |
| 二次加工剥片 | 部分的に加工がみられるが、器種を特定できない場合を二次加工剥片とした。大半は貝殻状剥離がみられる。 |
| 異形石器 | 機能よりも、デザインを重視して加工がなされていると判断される石器である。人・動物・三日月に類した形状などがある。黒曜石や鉄石英、玉髓など、色の付いた石材のものが一定量含まれる。 |
| 微細剥片 | 剥片の縁辺に微小剥離痕がみられる石器である。 |

石 核 目的剥片を剥離したと思われる石器である。そして敲石類のうち、珩質頁岩製のものの多くは、石核を転用したと判断されるため、石核に続けて図示した。他の敲石と同様に、礫石器の中におき、縮尺率を3分の1にすると、小さな剥離の読み取りは難しい。また石器の変形を示す例となるため、石核としての履歴を考慮し、本報告書では剥片石器の中で記載することとした。

剥 片 二次加工や微細な剥離痕の認められない一群である。アスファルトが付着した資料も含まれる。特に微小なもの(碎片)は、図示していない。

【自然礫】

加工・使用痕のない礫であり、黒曜石、珩質頁岩などの原石、くびれ石や水晶などの搬入礫が該当する。原石や水晶片は図化を行わないが、一部は、写真撮影を行った。

【石斧】

磨製石斧と打製石斧に分類した。

打製石斧 剥片や礫を素材とし、形状は細長い形態であり、石篋に類似する。打製石斧の刃部は剥離基部が大きく深くえぐれた剥離で構成され石篋の刃部加工と異なる。そして、より大形で厚みがあり、石材が粗粒玄武岩など、礫石器の素材となる石でも作られている。

磨製石斧 研磨で最終的に整形し、長軸の一端に直交した刃部をもつ石器である。

【遺構外出土石器】

今回報告の区域は、縄文時代後期末から晩期にかけての土器に伴う限られた時間幅の資料であり、第Ⅰ層とした表土出土の石器についても、時期は同一である。そのため各層のものと、遺構構築時及び機能時のものとは限定できない柱穴出土の石器を一括して図示した。

石 鏃 (図119～図123)

尖基有茎鏃が多く、凹基は少ない。石鏃ではアスファルトが完成品の指標となるため、付着するもの(図119から図120-50)から図示した。長幅比、全長と茎の長さの比率、加工部分の比率などに着目すると類型化できそうなものがある。例えば図119-29・30・32のように茎が長く、茎部へ向かうラインが丸みを帯びる物がある一方で、36・39・47のようにラインが角張るもの、図119-8・120-21のように刺突機能部の短いものなどがある。特筆すべきものとして、図119-9・15のように全長1.5cm前後の小形のものがあることである。これは、石核のなかに全長2cm程度の小形のものがあることと対応している。

図120-52～56は黒曜石製石鏃である。黒曜石製のものは、珩質頁岩製のものと形状では特に異ならないが、全体的に小形である。また、その石質のためか、アスファルトの付着は確認できない。53は石錐にも類する。しかし珩質頁岩の産地では石錐に、軟らかい黒曜石よりも、より硬い珩質頁岩や

玉髓が選択される傾向にあるため石鏃とした。図121-1～図123-17はアスファルトの付着は明確に確認できないが、形状が整っており完成品の可能性があるものである。図123-14は、ほぼ正三角形で、本遺跡の多くの石鏃と形状が異なる。図123-16～17は剥片の周縁を急斜度で加工して三角形の先端を作り出している。図123-18～35は石鏃未製品の可能性がある。32のように側縁が非直線的なものや左右非対称な一群である。図123-36～47は未製品とした。42は平坦な剥離で押圧剥離によると思われるが先端部の作り出しが弱い。43～47は欠損部分を持つものであるが、加工途中の欠損の可能性がある。他は加工部分が少ないものの、形状と加工から石鏃との関係を推定し、石鏃未製品とした。

石 槍 (図124)

横長剥片を素材としたものが多いため厚みのあるものが多い。縦長剥片が多い石鏃と異なっている。図124-10・14～17は縦長剥片素材である。17は、素材剥片の湾曲が側面に現れている。12・13のように石鏃未製品の可能性があるものもあるが、厚みがあるため本類とした。

石 錐 (図125～図127)

つまみを有する形態、棒状形態、剥片の一端に加工したものがある。つまみを有するものは、つまみ部分が左右非対称のものが多い。図125-1～5のように、上辺が錐先に対して斜めに位置するものがある。うち1・3～5は上面に礫面が残る。礫面を持つ横長剥片のより厚みのある礫面側をつまみ部にしているものである。一方で、図125-9・12のように打面側がつまみ部となっているものがある。棒状のものは、摩滅がみられるものが多い。摩滅は両端に残るものもあるほか、観察表に明記したもの以外でも可能性を感じさせるものが多い。剥片の一端に加工したもの(図127-44～50)については、つまみを持つものと同様に摩滅が観察できるものが少ない。

石 篋 (図128～図129-12)

図128-1～3、図129-1のように、基部等に光沢をもつものがある。図128-1～3のように縦長剥片を素材とするもののほかに、図128-4・6・10・図129-9のように横長剥片素材のものがある。大きさや形状の変異が大きい。長さが4cm前後の小型のものでは、図129-6・10・12のように刃部が半円状となるものがある。

両面調整石器 (図129-13～図130)

石槍や石篋の未製品の可能性があるものが多い。側縁は非直線的であるが、さらに細部を加工すると削器・搔器への変形も可能である。図130-10は端部に光沢があるが、他の剥離面より風化度が古い。礫面の可能性があるが、周囲の礫面より新しい。刃部は未形成である。図130-13は石篋のように中央上部に光沢があるが、側縁・下部共に細部加工がなされていない。石篋の刃部が欠損し、再加工のために裏面の下辺から剥離加工を行った可能性もある。しかし、刃部の作り出しはなされておらず、本類とした。

石 匙 (図131～図143-7)

図131から図134-14までは縦形石匙である。うち図133-4までは、縦長剥片の打点側につまみ部を加工したものである。図133-5～7は横長剥片素材、図133-8～図134-14は素材剥片の末端につまみ部を作り出している。一方向から連続して生産された縦長剥片を素材としたものが図131-22や図133-11、図134-7のように散見される。図134-15～図143-7は、つまみ部が刃部の斜め及び横に作出された横形石匙である。長さや幅が5cm未満のものは、抉り部にアスファルトの付着するものがほとんどみられないが、5cm以上のものでは図133-1・2・7・9等のように付着するものがある。

図134-2～7をはじめとして、加工がつまみの作り出しを中心として、刃部にほとんどみられないものが多数存在する。素材剥片の形状をとどめているため、石核との対比ができる。また、つまみ部を素材剥片の、どの部分に作り出すのか把握できる。そのため図示点数を他のものより若干多くした。

また、つまみ部を二つもつものがあり、上下(図132-6)に位置するもの、左右(図137-15、図138-2)に位置するものがある。つまみ部については、刃部に向かない礫面付近の軟質部に作り出したもの(図138-3など)、礫面をつまみ部の上部に残すもの(図138-11など)がある。

搔器・削器 (図143-8・図143-10～図146-18)

図143-8は中央部に、10は刃部にアスファルトが付着している。図146-4も同様であるが、刃部に付着するものは、その搔き取りに使われた可能性がある。図143-11は、石刃状の縦長剥片の末端を腹面側から折り取るように加工して、側縁を刃部としている。図144-1～4は搔器である。1・3の側縁は削器としての加工がなされている。縄文時代草創期に類似する形状のものがあるが、両者とも特に風化が進んでいるということはないため、後期末から晩期の搔・削器の多様性のなかで理解したい。また、素材剥片が礫面や礫面付近の軟質部を持つ場合、図145-1・2のように凝灰岩質の軟質部をさけて、珪質頁岩の良質な部分を刃部としている。図146-5～8は、一側縁にアスファルトが付着した削器である。秋田県平鹿遺跡など秋田県内に類例が多いが、本遺跡周辺では弘前市薬師遺跡から同様のものが出土している。図146-9は石槍状の大きさであるが、正面右側の側縁付近に表裏とも光沢があり、同様の削器と考えられる。

両極石器 (図146-19～図147-3)

図146-19は基部付近の断面が逆台形状であり、基部正面側が両極打法により加工されている。20は正面下側が礫面に近い比較的軟質の部分であり、楔としての使用よりも、両極石核の可能性もある。21は側面の厚みがなく、両極剥片の可能性もある。

図147-1は対向する2辺に両極打法に伴う剥離痕がみられるが、刃部は未形成である。器体を薄くする加工に両極打法が使われたと考えられる。2は正裏ともに上部に階段状の剥離が顕著である。下部に対向する階段状の剥離がないことから、下端部が削片として割れ落ちて、欠損した可能性がある。3は上下に階段状の剥離がみられる。

二次加工剥片 (図147-4～図148)

図147-5～図148-3は石鏃・小型削器・石錐の未成品の可能性はある。石鏃未製品の可能性はあるが、目指す器種は特定できず、小型削器の可能性もあるものも含む。図148-7・8は、器体中央に向かい合う抉り加工を持つ。図148-11～17はアスファルトが付着している。刃部に付着するものは、その掻き取りに使われた可能性がある。

異形石器 (図149)

図149-2は上部を欠失しているが白に近い黄灰色であり、突起の存在から異形石器とした。図149-3～6、8は人が動物の形を意識していると思われる。図149-19はサメの歯の形に、そして秋田県増田町八木遺跡で命名された「嘴状石器」の中の一部に類似する。基部形態は異なるが、基部にアスファルトの付着したものが青森市三内丸山遺跡の第9次調査区(縄文時代中期後半)から出土している。

図149-20は、石核を素材として、中央部に左右から加工している。実用性をもたせた加工とすると、石錘への転用品の可能性はある。しかし、中央の断面の線付近を中心に上下でほぼ線対称となるので、本類においた。

微細剥片 (図143-9・図150)

微細な剥離痕のある剥片のうち、大形のものとはアスファルト付着のものを中心に図示した。図150-2の打面は非常に小さく幅6mmである。図150-6は、石刃状の縦長剥片を素材としているが、剥片剥離軸は非直線的である。

石核及び石核転用敲石 (図151～図160)

図151-1～15は黒曜石製である。原石は大きなものでも10cm未満と考えられ、礫面が残るものが多い。2・11は最後に上下から、14は左右から両極打法で剥離した痕跡が残る。図151-16～図153-4は縁辺から求心的に、剥片を剥離していくものである。剥片剥離は、全体として裏面の礫面に向かって進行する。長さが数cm程度の小形の石核の多くは、礫面からの淡黄色(2.5Y8/3前後)の軟質部が1～2cm内部に続くものがあり、軟質部が近づいた時点で剥離が終了するものが多い。図153-5～9は両刃礫器状に交互に剥片を剥離している。6は軟質部と正面左側の節理を避けながら剥片が剥離されている。図154～図158-9は、求心的な剥片剥離を基本としながらも、打面転移を頻繁に行うものである。そのうち図157-1～5は、最終形の一端が尖る部分を持つ。

図158-1・6～9のような小形の石核が、原石の小さな黒曜石ばかりではなく、珪質頁岩にも存在する。これは、石鏃の項でもふれたように長さが1.5cm～2cm程度の小形品(図122-45～47など)と対応するものと考えられ、小さな剥片でも目的剥片となりうる。

図158-10～図160は、石核を転用した敲石である。珪質頁岩の礫を直接敲石として使用し、剥落が生じたものと事実上の区分がつかない。しかし、それらは少数であると判断されるため、一括して取り扱う。図158-11のようにごく一部にのみ敲打痕がみられるもの、図159-5のように剥離が敲打痕からの剥落を主体とするものがある。図159-2は、ほぼ全面が敲打痕におおわれている。

剥片・接合資料（図161）

図161-1・2は同一グリッドから得られた接合資料で、1は5点の、2は3点の接合品である。1と2は、同一母岩であるが、両者をつなぐ剥片がなく、接合しない。図161-3は、両面加工の石器の製作途上で生じるポイントフレイク、図161-4は黒曜石製の両極剥片である。図161-5～14は、アスファルトの付着する剥片である。その掻き取りに使われたためか、縁辺を中心にして付着している。

自然礫

加工・使用痕のない礫であるが、搬入品として選択されたと考えられる。黒曜石、珪質頁岩などの原石、水晶、赤色顔料塊なども含まれる。これらは図化を行わなかったが、一部は、写真218で掲載した。

打製石斧（図162）

図162-1は緑色凝灰岩製であるが、硬質である。図162-2は正面の礫面に若干の光沢があるが、使用に伴うものか不明である。また、基部は長く、抉りの形成される部分の両側縁は潰れが顕著である。図162-3は、粗粒玄武岩製で正面の礫面の刃部付近に摩耗が認められる。

磨製石斧（図162-4～図165）

粗粒玄武岩、デイサイト、砂岩、凝灰岩、緑色凝灰岩の石斧を先に置き、遠隔地石材である緑色岩製のものを図165-2～10に置いた。

黒曜石製石器

黒曜石については、今回の刊行範囲内で1,029点以上出土している。今回の報告では石鏃5点、異形石器2点、石核、微細剥片及び剥片の一部を掲載した。内眼的にはつがる市出来島産（岩木山系）のものが多数を占める。産地分析は今後、遺跡全体を見渡したうえで試料を選定し、実施する予定である。分析を終え、最終報告書のなかで今回報告範囲についても遠隔地産のものなど必要な石器の図示や写真掲載を行う予定である。

原石は円礫・角礫両者の利用が認められる。近隣の大川添(4)遺跡では黒曜石剥片が早期前葉の深浦産の1点を除き出土しておらず、本遺跡とは対照的である。

写真図版で紹介した石器（写真217・218）

写真217・218は写真図版での紹介資料である。原石、アスファルト付着品、礫面付近の軟質部分を持つ珪質頁岩の部分を生かした削器、ジャスパーなどの色鮮やかな石材を用いた石器などを中心に紹介する。主に写真での紹介に適した資料であるが、一部、図化予定を変更したものを含む。写真217-1・2は、主に正面側の縁辺を加工して整形した石鏃で、図123-16・17と同類である。写真217-4は長さが約1.5cmの小形の石鏃である。写真217-5は鉄石英製の石錐の基部である。写真217-6～8は、アスファルト付着品である。7・8は、つまみ部に相当する基部に加工がある。石篋の未成品のようにも見えるが、横型石匙と同様のアスファルトの付着痕跡を持つ。 (齋藤)

7 礫石器

分類基準は以下のとおりである。

- 磨石** 磨面を主体とするもの
 円礫、楕円礫、俵状の形態で、器面には滑らかな磨痕が見られる
- 1類 磨痕のみ
 A：片面に磨痕 B：両面に磨痕
 - 2類 磨痕＋アバタ状の打痕(1類の磨痕の中にアバタ状の打痕が見られるもの)
 - 3類 磨痕の中に凹孔が見られるもの
 - 4類 全面に磨痕；円礫
 - 5類 トチノキ石に似る
 - 6類 スリコギに似る 棒状礫の端部に磨痕(敲石の形態)
 - 7類 扁平磨石またはこれに類似した石器
 - 8類 上記以外
- 敲石** 敲痕を主体とするもの 敲打痕と凹痕との区分は凹の深さによる
- 1類 扁平礫、棒状礫の端部に打痕
 - 2類 小礫素材で扁平気味の円(楕円)礫の平坦面に打痕
 - 3類 扁平礫、楕円球状礫の片面にアバタ状の打痕。凹石的でもある
 - 4類 端部が丸みを持つ円柱状、俵状の形態の石器
 - 5類 平面が隅丸長方形で厚みのある石器で4面に打痕
 - 6類 円礫素材で、周縁に打痕
 - 7類 扁平礫の側縁に打痕(磨石形態)
 - 8類 全面打痕のもの
- 凹石** 凹痕を主体とするもの
- 1類 凹孔のみが見られる石器
 A：1面に見られるもの B：2面に見られるもの C：その他 3面以上
 - 2類 凹孔＋磨痕
 A：1面に見られるもの B：2面に見られるもの C：その他 3面以上
 - 3類 凹孔＋敲き痕
 A：1面に見られるもの B：2面に見られるもの C：その他 3面以上
- 石皿** 磨面が中心となる板状の大型礫石器
- 1類 板状節理の素材を利用 薄板状で割れやすい
 A：片面利用 B：両面利用
 - 2類 1類以外の素材とする石皿で周縁に縁が見られるもの
 - 3類 1類以外の素材とする石皿で縁のないもの
- 台石** 敲打痕が中心となる板状大型礫石器
- 砥石** 筋状や湾曲のある平滑面をもつ板状もしくは不整形の石器

磨石 (図166～図168-7)

磨痕を主体とする石器である。237点出土した。これには、球状(円礫)礫や厚みのある円礫、楕円礫等の器面に磨痕が見られるものもほか、扁平・棒状・柱状礫等の器面や端部に磨痕が見られるものがある。多数を占めるのは、厚みのある円礫や楕円礫の片面あるいは両面に磨痕が見られるものであるが、両面に見られるものが多い。また、磨痕とともに線状痕やアバタ状の打痕ないしは凹孔が見られるものもある。これらの磨石の中には赤色顔料の付着が見られたものは8点あるが、これについては後述する。

扁平礫を素材としたものは一般的に扁平磨石と呼ばれているもので、側面に磨痕あるいは打痕、平坦面には凹痕(凹孔)が見られる。棒状あるいは柱状礫の類では、端部に磨痕が見られる(図168-5～7、図1-26 [SI02出土])。このうち、図1-26・図168-7はトチノキ石(あるいはトチムキ石)に似た石器である。石材には11種類が認められた。多い順に記述すると安山岩95点、凝灰岩40点、花崗閃緑岩31点、緑色凝灰岩25点、粗粒玄武岩23点、デイサイト12点、玄武岩4点、斑岩4点、流紋岩1点、閃緑岩1点、礫岩1点である。

凹石 (図168-8～図174-5)

凹痕を主体とする石器である。591点出土した。礫石器の中で半数近くを占めている。大半は扁平礫を素材とするものであるが、厚みのある円形、楕円形の礫や棒状礫のものを用いているものもある。凹痕は扁平礫の両面に見られるものが多数を占めているが、片面にのみ見られるものもある。また厚みのある礫や棒状礫の中には、3面以上の面に凹痕が見られるものもある。凹痕の数は2個から3個見られるものが多いが、中には多数の凹痕が連なって溝状を呈しているものもある。また、両面に凹痕が見られる場合は、表裏面の対応する位置に見られるものが多い。凹痕の深さには、1mm前後の浅いものから10mm前後の深いものまでであるが3～6mm前後のものが多く、中にはすり鉢状を呈しているものも相当数みられる。石材には10種類が認められた。緑色凝灰岩302点、安山岩の126点、凝灰岩91点、粗粒玄武岩38点、デイサイト24点、流紋岩1点、玄武岩4点、斑岩2点、ひん岩2点、砂岩1点である。

敲石 (図174-6～図174-25)

敲打痕を主体とする石器である。104点出土した。中には、敲打痕と凹痕との区分が紛らわしいものもあるが、ここでは凹みの深さによって区分した。敲打痕は、円礫の全面や側縁、扁平礫の平坦面や端部・側縁、棒状礫の端部等に見られた。また、凹痕の周辺には滑らかな磨痕が見られるものもある。石材には8種類が認められた。安山岩33点、花崗閃緑岩15点、凝灰岩21点、緑色凝灰岩17点、デイサイトの10点、玄武岩1点、粗粒玄武岩6点、閃緑岩1点である。

石 錘 (図175-1～4)

4点出土した。扁平礫を素材とし、長軸側縁に抉りをいれたものと短軸側縁に抉りを入れたものがある。石材は、安山岩1点、粗粒玄武岩2点、凝灰岩1点である。

礫 器 (図175-6～9)

5点出土した。棒状に加工したものや、角礫の一端に刃部を作出したもの、円礫の一端に刃部を作出したものがあ。石材はデイサイト2点、珪質頁岩3点である。

砥 石 (図175-10～図176-4)

筋状や湾曲のある平滑面をもつ板状もしくは不整形の石器である。6点出土した。筋状の痕跡を持つものは、いわゆる有溝砥石と呼ばれるもので、3点出土した。図175-10は板状の礫を素材としたもので、3本の溝状の砥ぎ痕が見られる。石材は安山岩である。図176-1は、全面に他方向からの砥ぎ痕が見られるもので、研磨による消耗度が激しい。石材は凝灰岩である。図176-2は板状の礫を素材とし、溝状の砥ぎ痕が斜交するよう見られる。石材は凝灰岩である。図176-3・4は板状の礫を素材とし、3は片面、4は両面に平坦な砥ぎ痕が見られる。石材は凝灰岩である。このほかに、SN39から出土した石皿の裏面には砥石として利用されたと思われる溝状の痕跡が見られる。

石 皿 (図176-5～図179-5)

石皿は板状節理の板状礫を利用したもの、大型の礫を利用したものがある。前者の石質は安山岩およびデイサイトであるが、厚さ2～3cmの薄板状で、割れやすいという特徴がある。そのため形状には一定のものはなく、破片となっているものも多い。片面を利用したものと両面を利用したものがあるが、前者が多い。なお、この類の石皿は大小含めて47点出土しているが、個体数は不明である。大型の礫を素材とするものには、周縁に縁が見られる有縁の石皿と無縁の石皿がある。191点の出土があるが、前者は27点、後者は121点で、どちらに属するか不明な破片が43点である。また完形品は前者が27点中4点、後者は121点中27点で、破損品が多い。赤色顔料の付着が見られた石皿は14点であるが、これについては後述する。また、黒色のタール状物質の付着が見られたものは2点ある(図177-2、図178-4)。石材には9種類が認められた。最も多いのは安山岩の140点であるが、これは前述の板状節理の破片が多いためである。これ以外では緑色凝灰岩55点、凝灰岩18点、デイサイト12点、花崗閃緑岩6点、礫岩2点、粗粒玄武岩2点、斑岩2点、閃緑岩1点がある。

台 石

62点出土した。石材には5種類が認められ、多い順に安山岩27点、緑色凝灰岩26点、花崗閃緑岩4点、デイサイト3点、凝灰岩2点である。

赤色顔料が付着している石器 (図180・181)

赤色顔料が付着している石器には磨石、凹石、石皿がある。このうち、図180-7～9の石器に見られる赤色顔料は器面のごく一部に痕跡的に見られるものであり、使用に伴って付着したかどうか疑わしい。また、同じことが石皿の破片にも見られるものが1点ある(未実測)。これらの4点を除くと、使用に伴って顔料が付着したことが確実な石器は磨石6点、石皿13点である。ほとんどが遺構外から出土したもので、遺構に伴って出土したのは第9号配石遺構(SQ09)の石皿1点のみである。

使用によって赤色顔料が付着した磨石は、厚みのある円礫、楕円礫を素材としている。顔料の付着

は、器面の全面に見られるもの(図180-3)や平坦面の両面と片面に見られるものがある。図180-1では片面に顕著である。図180-2は平坦面にも痕跡的に見られるが、とくに側縁に顕著である。図180-3では両面を中心に見られるが、とくに凹みのある面に顕著で、裏面では薄く痕跡的である。図180-5は両面の磨痕を中心として見られる。図180-6は平坦面よりは側縁部に顔料の付着が顕著である。石材はデイサイト、凝灰岩、緑色凝灰岩、斑岩、花崗閃緑岩がある。

石皿は13点のうち、板状節理の素材を用いたもの9点と無縁の石皿4点に赤色顔料の付着が見られた。図181-5は中央のくぼんだ面に薄く見られたがその周辺では馬蹄形状に色濃く見られ、開いた部分ではこれより若干薄く見られる。

さて、上記の石器は赤色顔料そのものが付着した例であるが、図181-3の場合はいくぶん様相が異なっている。板状礫の表面には樹脂状の赤色と黒色の物質が斑状に、そうでない部分では赤色顔料や黒っぽい煤状の物質の付着が観察できる。分析していないので不明であるが、樹脂状の物質は赤漆と黒漆の可能性があり、この板状礫はパレットとして使われた可能性がある。石材は安山岩である。

(畠山)

表5-8 礫石器の組成

石 材	磨 石	凹 石	敲 石	石 錘	礫 器	砥 石	石 皿	台 石	小 計
流 紋 岩	1	1	0	0	0	0	0	0	2
デイサイト	12	24	10	0	2	0	12	3	63
安 山 岩	95	126	33	1	0	2	140	27	424
玄 武 岩	4	4	1	0	0	0	0	0	9
斑 岩	4	2	0	0	0	0	2	0	8
ひ ん 岩	0	2	0	0	0	0	0	0	2
粗粒玄武岩	23	38	6	2	0	0	2	0	71
花崗閃緑岩	31	0	15	0	0	0	6	4	56
閃 緑 岩	1	0	1	0	0	0	1	0	3
砂 岩	0	1	0	0	0	0	0	0	1
礫 岩	1	0	0	0	0	0	2	0	3
凝 灰 岩	40	91	21	1	0	4	18	2	177
緑色凝灰岩	25	302	17	0	0	0	55	26	425
珪質頁岩	0	0	0	0	3	0	0	0	3
点 数	237	591	104	4	5	6	238	62	1,247
割合 (%)	19.0	47.4	8.3	0.3	0.4	0.5	19.1	5.0	100.0
重量 (g)	165,926	239,245	58,411	491	3,432	8,681	872,681	252,310	1,601,177

※石皿は破片数もカウントしていることから、この数字が個体数を表すものではない。

とくに割れやすい板状節理を素材とする石皿には多数の破片がある。

8 土 製 品

土偶は、顔の表現・全体の特徴から、後期末から晩期中葉ごろに比定される資料である。他の土製品も出土状況などから、当該時期のものと思われる。

土 偶 (図182～188)

図182-5は中空の遮光器土偶である。頭に角状の突起の形をした髪飾りが形成されている。眼部と口部ともに隆帯で楕円形に囲んで表している。眼部には隆帯部分の上に刻みが施されている。後頭部には透かし孔がある。体部の正面側には両肩から推定で臍にかけて三角形の隆帯がみられ、隆帯の上に刻みが施されている。下半身は欠損している。江坂輝弥(1960)の第4類土偶、藤沼邦彦(1997)の角状の突起がついた土偶に相当する。図182-1や図182-2は、同じ種類の遮光器土偶の右眼部分である。図182-4は角状突起である。図182-8は口である。図182-6は小形の遮光器土偶の頭部である。顔面は欠損している。図182-7は土偶の部品と思われる。図182-3は遮光器土偶の右眼である。

図183-1は中空の大形土偶である。胴部に比して頭部が大きい。眼部と口部ともに隆帯で楕円形に囲んで表している。口部は穿孔があり、内側に貫通している。頭頂部に開口部がある。背中には沈線で入組文風に文様を描いている。下腹部(臍部)は出ている。図183-2は遮光器土偶の頸部から背中にかけての部品である。図183-4は中空土偶の右肩、図183-3は中空土偶の脚部である。

図184-1は遮光器土偶の下半身部分と思われる。体部中央下よりに臍を表現したと思われる突起がついている。下面には穿孔があり、内部とつながっている。図184-2～8は土偶の部品と思われる。一部は図184-1と同一個体と思われる。

図185-1は中実土偶の頭部である。吊り上った眼をしている。眼部と口部ともに隆帯で楕円形に囲んで表している。眼部の隆帯部と、頬部、頸部、髪飾り部の沈線で囲まれた範囲に縄文が施文され、さらにこの部分は赤彩されている。環状の耳が付き、中央には孔がある。図185-2は上述の頭部と同一個体と思われる上半身部である。背中に入り組んだ三叉文状の文様が展開している。肩や肘などの関節部が肥厚し、縄文が施文されている。この肥厚部に顕著に赤彩がのこされているが、沈線内にも残されている部分があるので、本来は全面赤彩されたと思われる。図185-3、図186-1はその腕と推定される。

図186-2は土偶の頭部である。吊り上った眼を表現しているなど、頭部の作りは図185-1と類似している。眉、頬、髪の部分に縄文が施文されている。首部分の内部が空洞であり、口の孔とつながっている。図186-3は腕部であろうか。

図187-1と図187-3は小形の中実土偶である。図187-3は体部中軸に貫通孔がある。図187-2は胴部であり、妊娠線と思われる中軸の沈線がある。その部分に赤彩がみられる。また左腕の破損部に、黒色の付着物がみられる。アスファルトであろうか。

図188に掲載されているのは土偶の部品である。1～5は髪飾り、6・10は腕部、7～9・11は不明部分である。

耳飾り (図189～191)

白彩(図189-1～5)が出土しており、図189-1は玉抱き三叉文の文様を持つ赤彩の耳飾りである。図189-2は弧状の沈線文と、弧状モチーフの間4か所と耳飾りの中心に小孔がある。沈線内に赤彩が残されている。図189-3と図189-4と図189-5は素文である。図189-3以外は中心に孔がみられる。

中心に孔のない車輪形(図189-6～10)について、図189-8は刺突文があり、刺突部に赤色の顔料が付着している。鼓形(図189-11・12)も出土している。

中心に孔がある環状の耳輪(図189-13～17、図190、図191-1～4)があり、大半は素文である。図189-14、図189-17、図190-1など刺突文や沈線文モチーフのものもある。

断面が三角形のさらに薄い環状の耳飾りと思われる多数の断片資料が出土している(図190、図191-1～4)。

1点耳栓形態の耳飾りが出土している。

玉 類 (図191)

赤彩の玉が出土している。図191-5、図191-6など突起をもつ星形、図191-7、図191-8など歯車形状の玉、側面に沈線で螺旋状のモチーフを持つ図191-9などがある。図191-5はそれぞれIV Q-45、IV V-33と20m近く離れた地点から出土したもの同士が接合している。図191-11、図191-12は勾玉状の小さな玉、図191-13～18は小形の土製の玉である。すべて赤彩されている。

垂飾品 (図191)

図191-19はイモガイを模した垂飾品である。

ミニチュア土器・その他(図192)

ミニチュア土器として、壺、注口土器、鉢などが出土している。図192-12は棒状の芯に隆帯をつけ、C字文風モチーフを表現している。他に不明瞭な土製品が出土している(図192-13～18)。

土製円盤 (図193～194)

縄文地文の素材が多く、数点底部を素材としている。図193-4、図193-30、図194-6などは文様部分が土製円盤に加工されている。

(高橋)

9 石製品

石製品と選別したものは総数452点出土した。下記のとおり形状や加工状態などの特徴により分類し、記述する。なお、各分類の分布状況には際立った特徴は認められず、対象範囲の南東と南西隅付近を除く範囲に広く分布している様子が見られた。

岩版類 (図195-1～10)

板状の凝灰岩等の軟質な石材を用い、器表面に整形時の擦痕と沈線による文様が見られるものをまとめた。

図195-1～6はいわゆる岩版に分類されるものである。3が完形に近いがその他は破損している。1・3・4・6は臍または下腹部・正中線などの表現が見られるため、人体をイメージしていると考えられる。6の正面中央部には黒色物質が付着している。主な文様としては入り組み文や渦巻き文の他、3では三角形状の文様なども見られる。1と4では背面の表現も積極的にされているが、その他では擦痕が見られるだけである。

図195-7～10は表面に十字・放射状その他の沈線が見られるものである。7の沈線は縦横ともに全周している。8の沈線は表面のみ施文されている。9の正面には細く浅い沈線が主に下半部に見られる。10の正面の沈線は、最初に中心部を通る十字が施文され、その後放射状の沈線が施されている。

有孔石製品 (図195-11～30)

緑色凝灰岩、凝灰岩、軽石等の石材を用い、器体の一箇所ないし複数個所に貫通孔ないし盲孔が見られるものをまとめた。

図195-11～21は玉類とその未成品と考えられる。翡翠や緑色凝灰岩等を素材とした直径1cm程度の玉である。図195-11～16は完成品で、孔が貫通している。11と12は片側から穿孔されているが、その他は両側からの穿孔である。17は盲孔であるがほぼ完成品である。18～21は素材に穿孔途中もしくは素材そのものである。

図195-22～28は垂飾品と考えられる。22・23は軽石を用いている。孔は片側からの穿孔により貫通している。24は凝灰岩製である。全体形状は不明であるが、ブーメランのような形状をしている。表裏面及び側面は盲孔と沈線により加飾されており、作りは非常に丁寧である。表裏面の盲孔は形状に沿って2列あり、それぞれが表裏で対になる。また、孔の直径が大きい列と小さい列が見られ、大きい孔は貫通直前まで穿孔されているものが多い。側面には盲孔列とその間を埋めるように×状の沈線が施文されている。盲孔の内部には赤色顔料が残存している。26～28には複数の貫通孔が見られる。26と27は湾曲した素材を用い、端部や中央付近に両側からの穿孔による貫通孔が見られる。26の正面には赤色顔料が塗布されている。28は粘板岩製で扁平に整形されている。

図195-29・30は垂飾の未成品と考えられる。29はマンガンノジュールに穿孔を試みているものである。30は盲孔の周囲に敲打痕が見られる。表面には擦痕も見られる。

円盤状石製品（図196～198）

凝灰岩・板状の安山岩・デイサイト等を素材とし、敲打・剥離・研磨等の整形により円形ないし多角形に仕上げられたものをまとめた。

図196-1～5は直径が3cm程度、厚さが5mm～1cm弱程度で全面が丁寧に研磨されたものである。横断面形は長方形である。4の中央部には浅い盲孔が見られる。6は側面のみ研磨されており、直径が5.6cmと大きい。

図196-7～図197-11は側縁を片面からまたは両極打撃による急角度調整で整形されているものである。直径は3cm程度から、大きいものは直径9cm程度のものであり、4～5cm程度のもが多い。平面形状は小型のものは円形を呈するものが多く、大きいものの一部に剥離が全周しないものや多角形を呈するものなどがある。概して小さいもののほうが丁寧に製作されているようである。横断面形は側縁の剥離角は急角度であるため、台形ないし長方形を呈するものがほとんどである。剥離の稜線が磨耗しているもの(図196-7・8・11・12・22)、整形剥離の後敲打調整が施されるもの(図196-17・24・32・図197-8～11)がある。また、表面に黒色物質(図196-25)や赤色顔料(図196-26)等が付着しているものもある。剥離の稜線が磨耗するものについては、裏面側の縁辺部が強く磨耗しているものが見られるが、用途を推定するための材料となるかどうかは不明である。

図197-12～図198-14は側縁の整形剥離が両面から施されることで、横断面形が楔形を呈するものである。直径は4cm～7cm程度のもが見られる。平面形状がきれいな円形を呈するものは少なく、多角形状や楕円形状のものが目立つ。整形剥離の後に敲打調整が行われているもの(図198-5～7・11・12)がみられる。特殊なものとして、黒色物質が付着するもの(図198-4)や、表面に擦痕が見られるもの(図198-11・12)がある。

石棒・石剣・石刀類（図199～202）

柱状ないし棒状の粘板岩、安山岩等の石材を用い、敲打や研磨整形を用い各種の形態を形作っているものをまとめた。これらは被熱しているものを多く含む。

図199・図200には体部の横断面形が円形ないし楕円形のもの、もしくは男性器を模倣したと思われるものをまとめた。いわゆる石棒と呼ばれるものである。

図199-1・2は小型で男性器を模倣したと考えられるものである。図199-1は凝灰岩製の反りのある素材の上端付近と正面中央に沈線が施されている。沈線内には赤色顔料が塗布されている。2は砂岩製で剥離・敲打整形により上端部付近に括れが作出されている。正面には擦痕も見られる。

図199-3～図200-3は粘板岩等を素材とし、敲打・研磨により整形され、横断面形が円形、楕円形、隅丸方形のものである。体部の一部に帯状の敲打痕や沈線による区画が見られるものもあり、柏子所型石棒と呼ばれるものを含む。図199-3・4は傘状の頭部を持つ。4の頭部には平行沈線の他に円形の沈線が表裏それぞれに2個一対施文されている。5の頭部には遮光器土偶の目のような文様が施されている。また、頭部直下には両端に貫通孔がある。図199-6・7・10・11・15・図200-2などには帯状の敲打痕や沈線が見られ、敲打痕を縁取る沈線が見られるものもある。この部分から下位が柄部と見られる。また、沈線間に×字状の沈線が見られるものもある。11は折損したものの破断面を研磨し再加工しているものである。図199-16や図200-2の先端部分には磨耗痕が見られる。

図200-4～6は大きめな安山岩等の棒状礫を用い、敲打と一部研磨により整形されたものである。被熱しているものが多い。

図201には棒状の粘板岩等を素材とし、敲打・研磨により整形され、横断面形が菱形、レモン形のものをまとめた。断面形状から石剣と呼ばれるものである。断面形状以外は図199-3～図200-3の粘板岩素材の石棒とあまり変わらない。先端部付近に帯状の敲打痕と沈線の縁取りが見られるものがあり、この部分から下部が柄部と見られる。熊登型石剣と呼ばれるものを含んでいる。1・8は折損した破断面を再度研磨整形している。6は断面形状が扁平で、下端部がすぼまり柄の作出があるため石刀に分類される可能性がある。7～12の先端部は磨耗している。13も扁平であるため小型の石刀の可能性もある。

図202-1～12は粘板岩等を素材とし、敲打・研磨により整形され、横断面形が扁平、楔形等のものをまとめた。いわゆる石刀である。図202-1・2はやや大型で、刃部が内反りである。2は擦痕が明瞭である。3～5は柄頭部と見られ、括れを持つ。3と5の柄頭には2本一対の平行沈線が上下に見られる。3の背には沈線が施されている。6・7は刃部～鋒部にあたる。6は鋒が四角く、身が直線状である。7は刃部が内反りである。9には刃関がみられる。11と12は両端部が磨製石斧の刃部のように整形されている。11は両端ともに縦断面が両刃に整形されている。表面には成形段階の剥離面を残している。12は両端ともに片刃に仕上げられている。被熱し、黒色物質が付着している。

棒状石製品 (図202-13・14)

チャートや凝灰岩を素材とし、敲打・研磨により整形され、全体形が棒状のものをまとめた。図202-13は完形品で、全面研磨整形されている。特に下端部には擦痕が明瞭であり、研磨により複数の面が形成されている。14の表面は擦痕があまり明瞭ではない。

石製模倣品 (図202-15～図203-9)

軟質の凝灰岩などを使用し、さまざまなものを模倣したと考えられるものをまとめた。

図202-15～図203-5は表面の一部が緩く凹むため、容器を模倣したと考えられるものである。図202-15と図203-2は凝灰岩製である。図202-15は研磨整形されており、外面に沈線が施文されている。図203-1・3～5は安山岩や粗粒玄武岩製である。1は正面が明瞭にへこんでいる。側面から裏面の中央付近は敲打成形により帯状に凹んだ部分が見られる。正面のへこんだ部分には黒色物質が広く付着している。同様の状況は図203-4にも見られる。図203-3～5は正面がごく緩く凹んでいる。凹んでいる部分は敲打痕が見られるものもある。正面以外の部分にも敲打成形が見られる。5は横断面形が算盤玉状である。

図203-6～8は石槍を模倣したと考えられる。両面からの剥離整形が施されるため、見た目は石槍と大差ないが、素材がデイサイトと凝灰岩であり、実用の石槍とは考えにくい。8には一部に擦痕も見られる。

図203-9・10は石冠である。2点ともに凝灰岩製で、敲打と研磨整形が施される。9は弧状の側縁に擦痕が見られる。また、表裏面に敲打による凹みも見られる。10は弧状に緩く湾曲する体部に突起が作出されている。突起は体部の中央からややずれた位置に作出されている。

擦痕の見られる石製品 (図204-1~13)

器表面に研磨整形痕及び擦痕が見られるものをまとめた。

図204-1~3は全面が研磨整形されている。1は長方形の板状に、2・3は細長い棒状に仕上げられている。2は裏面の2箇所に見られる。4は円盤状石製品に似るが、楕円形を意識していることからこの類に含めた。7も同様である。4の側面には敲打痕が見られる。7は表面と側面に擦痕が見られる。

図204-5は耳飾状の石製品である。下端部がやや広がる鼓状の形状で、上下両端が凹んでいる。

図204-11の表裏面には擦痕の他、敲打による凹みも見られる。12の表面は擦痕も見られるが磨耗した状況が広く見られる。石皿のような使われ方をした可能性もある。13は岩版の可能性もある。

自然礫利用石製品 (図204-14・15)

加工痕跡は見られないが、礫に自然に開いた孔が見られるものである。垂飾品等として利用されたかどうかは不明である。

(茅野)

10 漆製品

芯の部分を失い、漆塗膜のみが残った資料が出土している。

図205-1～3は堅櫛である。破損が著しく、歯の部分は残存していない。その特徴から結糸式堅櫛であろうか。他に、写真240のJ03、J04、J06、J07など脆弱なため土ごと取り上げた資料が数点ある。特徴からこれらも結糸式堅櫛と思われる。

図205-4は籃胎漆器と思われる容器の一部である。くびれをもつ器形のため、壺の可能性が高い。小片のため復元実測はしていない。口縁の一部が肥厚しており、山形の突起をもつ可能性がある。これ以外に、写真240のJ05、J09、J12、J13など繊維の痕跡が認められ、籃胎漆器と思われる資料が数点確認されている。これらの資料は脆弱なため、土ごと取り上げた。

図105-12は土器の底部に赤色顔料(漆の可能性もある)が厚く付着した資料である。

(高橋)

11 アスファルト関連遺物

図205-5は注口土器もしくは壺形土器の底部にアスファルトが付着している。写真241A-9はアスファルトが付着している。これ以外にも図205-7、図205-6など土器片にアスファルトが付着しているものが出土している。これらの土器内にアスファルトを保存していたと思われる。

図205-8～11、写真241A-8はアスファルトの塊である。

写真197-1～7は注口土器に付着したアスファルト状黒色物質(実測図なし)。

(高橋)

12 赤色顔料原礫 (写真241)

赤色顔料については、刊行範囲では約150点出土している。主要なものは写真241の集合写真に示したが最大のもは、集合写真の左上のもので2,673.6gある。顔料採取の容易な、すりつぶせる軟質部を外側にもつもののほかに、中心部の硬い部分のみ残るものがある。また、鉄石英として石器素材との区分が難しいものがある。赤色顔料についても分析を行った後、最終報告書で、まとめる予定である。

(齋藤)

13 焼成粘土塊 (写真232)

調査区から粘土塊が検出されている。関連資料として焼けひずみのある土器(図77-3)があり、焼きは堅い。焼成失敗土器の可能性はある。

(高橋)

14 その他

コハク

透明感のある褐色の鉱物らしきものがIVT-34グリッドⅢ層で2点出土し、コハクの可能性がある。発見時には1cm未満の塊で加工痕跡はなく、取り上げ時に砕けてしまったため掲載はしていない。

焼 骨

遺跡内では細片となった焼骨が出土している。Ⅲ層で出土位置を押さえた箇所としては特-4・17・45・50・51がある。グリッドではIV0-41・IVS-48などで出土している。いずれも少量であり、すべてを回収できたわけではない。遺構内ではPit0072などで出土しているが、直接当該遺構に伴うものとは考えていない。一部の資料について骨組織形態学的検討を行った。ヒトは含まれておらず、すべて動物骨である。また、4点について年代測定を実施中である。分析結果の詳細は、次年度以降に刊行される報告書に掲載する。

炭 化 物

Ⅲ層出土の炭化材について樹種同定を行った。同定結果は次のとおりである。

IVR-36・Ⅲ層下部・C-3：トリネコ属、IVR-55・Ⅲ層(色調うすい範囲)：ニレ属、IVR-35・Ⅲ層・P-1834下部：アスナロ。詳細は、次年度以降に刊行される報告書に掲載する。

白色粘土

基本層序で白色粘土が確認された。Pit0035では白色粘土塊も出土している。また、Ⅲ層中で塊として、あるいは土器に収められた白色粘土が出土している(写真90-4~8)。粘土塊は後期後葉~晩期にかけてのものであることは確かだが、時期が判明する土器には伴っていない。

(岡本)

第3節 縄文時代後期中葉以前の土器(図118・写真192)

報告範囲では十腰内V群から晩期にかけての土器が圧倒的に多いが、少量ながら十腰内IV群以前に属する土器が出土しており、遺跡規模が大きくなる後期7-4期より遡る時期にも断続的な土地利用があったことを示している。本節で扱う時期の土器破片は、後期7-4期以降のものと比較した際判別可能なものが多かったため、図化可能な個体についてはほぼすべて抽出できたのではないかと思っている。特定の地区で集中して出土するわけではなく、遺跡全体で散発的に出土する。包含層下部や漸移層で出土した破片もあるが、多くは後期7-4期から晩期の遺物に混じって出土している。時期別に見ると、遺構出土分も含め榎林式～最花式(中期後葉)の出土数が多い。報告範囲では典型的な十腰内V群土器は出土していないため、後期後葉の一時期に土地利用の断絶が認められる。なお、本遺跡の放射性炭素年代測定で3,400yrBPより古い値を示した炭化物は、本節で触れるいずれかの時期の土地利用によって生じたものと考えられる。

円筒下層d式

写真195-21・22がSec3下部の漸移層から出土している。図示していないが、Sec3では同式のものがこのほかに2点出土している。本遺跡で最も古い時期の遺物である。

円筒上層c式

図118-1がⅢ層下部で出土している。

榎林式・大木8b式

4点を図示した(図118-2~5)。2~4が榎林式、5はそれと併行する大木8b式にあたると思われる。3は緩やかな波状口縁を呈し、波頂部の下に楕円形と推定される透かしが施されている。4はⅢ層下部で出土した。

最花式

2点を図示した(図118-6・7)。このほか、遺構ではPit0126から当該期の土器破片がまとまって出土している。

中期後葉

文様をもたない土器で、榎林式から最花式と考えられる。2点を図示した(図118-8・9)。遺構ではSQ18下層で小片が出土している(写真195-11)。

十腰内I群

5個体7点を図示した(図118-10~16)。15は櫛歯状工具で施文しているが、モチーフは不明である。Ⅲ層下部で出土しており、出土状況は写真85-2に示した。写真右側が15であり、左側の土器よりも低い位置で出土したことが分かる。16は網目状捺糸文が施文されている。

十腰内IV群

2点図示した(図118-17・18)。器厚はやや厚手で色調は黒褐色である。17は結節のない羽状縄文が施文されている。

(岡本)

第6章 弥生時代以降の遺物

第1節 出土遺物

1 弥生土器(遺物図206、写真242)

破片1片の出土である。小破片でしかも割れ口を含め全体摩滅が著しいため時期特定は困難だが、弥生土器の可能性があるとして最終的に推定したものである(本遺跡の縄文土器の範疇には該当させ難い)。

器種は、甕・壺・鉢のいずれかと思われ、復元口径は20.7cmを測る。

外面文様は、口端直下に1条の隆帯、その下位に無文の頸部、さらに下位の肩部には2条の横走沈線が巡る。口端直下の隆帯は、強くつまみ回す過程で器体に密着し、体部との隙間は全く認められない。このため、口端～隆帯まで非常に一体化しており、凹線を伴う肥厚帯のような状態に仕上がっている(平安時代のロクロ製品の口唇部形状に類似する)。上位の横走沈線には、15×5mm程度の粘土粒が被さるように貼付され、晩期後葉の深鉢などにみられる2個1対の粘土粒に類似する。

口端部に残る若干の凹凸は、刻目痕跡の可能性はあるが、復元図では平口縁としておいた。

内面の口端部も外面と同時につまみ出すように作られ、その下位には3条の凹線、そのさらに下位の屈曲部には縄文が帯状に施されている。この縄文は単節であることは確かだが、施文後に擦れて歪んだようで、LRかRLかの判別は難しい。

焼成は堅緻、外面色調は浅黄橙色(10YR8/4)～橙色(5YR7/6)、内面色調は灰色(5Y5/1)、胎土中には1mm前後の小礫が多量に混入する。

上述のように本資料は弥生土器と確定できるものではないが、青森県域で生産された資料とみなして時期的な位置づけを行うなら田舎館式期頃と想定しておきたい。勿論、外来系の縄文土器である可能性も否定できない。注意喚起の意味も込め、あえてここに独立させて報告した。忌憚のないご指摘を待ちたい。

(木村)

2 土師器(遺物図206、写真242)

ロクロ坯の口縁部破片1点のみの出土である。大きく端反り、外面には段状のロクロ目が明瞭に認められる。色調は灰白～灰黄色を呈し、焼成堅緻で、胎土には細砂粒と海面骨針が含まれている。小片であるため、年代を特定するには情報が少なすぎるが、青森県域における大まかな年代観に照らせば、概ね10世紀代を中心とするものと推定される。

(木村)

3 近世以降の遺物(写真242)

陶磁器、土器、銭貨等が出土しており、出土層位は全てⅠ層である。陶磁器は、18世紀の肥前(肥前Ⅳ期)から20世紀の製品まで出土している。陶磁器の一部と土器2片のみを写真掲載し、ほかは図・写真とも省いた。

陶磁器

写真242-1～6は肥前Ⅳ期の磁器であり、1～3は皿類、4・5が碗類、6は瓶類である。1は人物文の可能性のあるもの、5は外面青磁釉、内面縁文が四方襷文(?)の碗と思われる。これらと同時存在した可能性のある陶器が18の播鉢で、いわゆる唐津である。24の壺類は内面に黒色の鉄釉が施され、肥前Ⅳ期の唐津の可能性はある。

7～11は19世紀中葉の瀬戸である。7・8は碗、9・10は小坏、11は色絵の仏花瓶である。これらと併存した可能性のあるのが19の播鉢類、22、23の片口鉢で、これらは地元製品「悪戸」である。

12～14は19世紀後葉以降の摺絵である。12は皿類、13が碗類、14は瓶類である。時間的に下るものではあるが、産地は不明である。

これら以外の15～17、20・21、25・26の7点の陶器も産地不明であるが、19世紀の中には収まっているものと推定される。

土器(写真242)

27・28は同一個体で、出窓をもつタイプのいわゆる舟カマド形の焔炉と思われる。27は突出する皿状の部分であり、脚が貼付されている。28は本体の底部で、内面に強いロクロ目、外底面には回転糸切痕がみられる。19世紀中葉頃の製品と推定され、7～11の瀬戸などと共存したものと推定される。

銭貨

新寛永2点(一文と四文)、富士1銭アルミ貨(昭和16年)が1点出土している。

その他

銅製の指貫やガラス製のお弾きなどがある。

(木村)

第7章 調査の成果と課題

第1節 遺構

1 検出遺構の時期区分

今回の報告範囲で検出された遺構は、建物跡6、焼土遺構42、単独で検出された柱穴(Pit)225、土坑5、石棺状配石3、配石遺構15、土器埋設遺構36である。このうち、おおよその時期が判明しているものは次のとおりである。

中期後葉：Pit0126

後期後葉：SR07

後期末葉：SI05、SQ06、SQ14、SQ18、ブロック08、ブロック09、ブロック旧SI03

晩期初頭：SN15、SQ19、SR28、ブロック07

晩期前葉：SI01、SI02、SI04、SI06、SN01、SN31、SR01、SR19、SR20、SR21、SR22、SR23、SR25

晩期中葉：SI101、SN13、SN41、SK01、SN04、SQ08、SQ09、SQ12、SQ41、SR16

晩期後葉：Pit0128、Pit0436、Pit0542

やや時期幅をもつもの

後期後葉～後期末葉：SQ11

後期後葉～晩期初頭：SN28、SN50、SK05、SQ01、SQ02、SQ16、SR06

後期末葉～晩期初頭：SQ07、SR27

後期後葉～晩期前葉：SQ03、Pit0018—0019—0102—0536

後期後葉～晩期前半：剥片集中域2、剥片集中域3

後期末葉～晩期前半：SN33

後期後葉～晩期中葉：SN38、SN39

後期末葉～晩期中葉：SN09

晩期前半：剥片集中域4

晩期前葉以降：SN44、剥片集中域1

晩期：SN02、SN04、SN05、SN16、SN25、SN43、SN49

報告範囲では、十腰内V群の前半期(後期7-1～3期)に比定される土器がほとんど出土していない。それ以前は円筒下層d式、円筒上層c式、榎林～最花式、十腰内I式、十腰内IV群土器が少量ずつ出土しており、縄文時代前期から後期にかけての断続的な土地利用が認められる。後期7-4期から晩期5期にかけては途切れることなく土器が出土しているため、後期後葉に集落が形成され晩期後葉まで維持されたと考えられる。晩期6期の土器は出土しておらず、それ以降の遺物は弥生土器・土師器が1点ずつ、近世陶磁器が少量であり遺構は検出されていない。出土土器の時期と量から考えて、時期が確定できない遺構は後期後葉(後期7-4期)から晩期後葉(晩期5期)の間に構築された可能性が高い。

遺構・遺物の数量から考えて、川原平(1)遺跡は津軽ダムによる水没地区において、砂子瀬遺跡の後を受けて拠点集落としての役割を果たしたと理解できる。本遺跡の晩期集落は晩期5期のうちに縮小または廃絶し、水没地区内ではこの後、大川添(3)遺跡で平安時代の竪穴建物跡5棟を含む小規模な集落が確認されるものの、大規模な集落が営まれることはなく、近世に砂子瀬村・川原平村が成立して現代に至る。本遺跡は川原平村の外縁に位置していたため、近世の土地利用の痕跡はほとんど確認できない。近代以降もあまり地形改変を受けなかったようで、縄文時代の遺構や遺物包含層が極めて良好に保存されていた。

2 遺物包含層の成り立ちについて

第5章図④でグリッドごとの土器出土重量を示したように、本遺跡では遺物が多量に出土する場所とそうでない場所の差が大きい。遺物が多量に出土する場所は図⑥の区域区分で区域A・B・C・Dにあたる範囲であり、東西約70m、南北約30mの弧状を呈している。この範囲は第4章において「南捨て場」と仮称されたが、完形に復元できる土器が多数出土していることや、地点的に一括性の高い出土状況が認められるなど、集落構造を考える上では「捨て場」として位置づけるのが妥当である。ただし、今回は遺物包含層として現地調査を進めており、報告にあたっては遺構外として扱った。

捨て場(区域A～D)と捨て場外(区域E・F)では第3章第2節でも触れたように、堆積土の様相がやや異なる。調査では縄文時代の堆積土をⅢ層としたが、捨て場のⅢ層は黒～黒褐色なのに対し、捨て場外のⅢ層は黄褐色～褐色で、Ⅲ層の堆積も捨て場内の方が厚い。捨て場内のⅢ層は遺物や礫、炭化物を多く含むことから自然に堆積したものではなく、人為堆積が主と考えられる。Ⅲ層に含まれる礫の多くは、遺構掘削の際に地山から掘りあげられ、廃棄された可能性が高い。今回報告範囲では前節で記したようにそれ以前の遺構・遺物は極めて希薄であることから、後期7-4期に本遺跡での居住が開始され、地表面にモノが捨てられたことが捨て場の始まりと考えられる。今回報告範囲のすぐ北側には柱穴が集中する範囲があり、最初期の居住域は確定していないもののその範囲内に求めてよいのではないかと考えられる。Ⅲ層と地山との間には漸移層が確認できる場所が多いため、捨て場内では整地のような地形改変は行われていないのであろう。後期8期、晩期1a期においても引き続き捨て場は継続しており、同時に配石遺構、土器埋設遺構が捨て場内に作られることもあった。一部の竪穴建物も捨て場と重複しているが、建物周辺からは同時期の遺物が多量に出土することはなく、廃絶後の窪みにもそれほど遺物は含まれていない。モノを捨てる場所と祭祀的な場所は明確に区分されていなかったようであるが、居住場所とモノを捨てる場所はそれほど近接していなかった可能性がある。晩期1b期はそれ以前に比べて遺物量が減り、晩期2期はさらに少ない。晩期3期には区域Aで一括遺物が得られており、捨て場としての機能が復活した感もあるが、晩期4期・5期は再び遺物量が減少する。今回報告した捨て場は、後期後葉～晩期初頭に最も利用されたといえる。

今回報告した捨て場は、1,500㎡を超える範囲に広がる。堆積土の上下関係は部分的に設定したセクションベルトでしか捉えることができない。区域BにはSec1・5・7が設定されており、Sec1では下部のⅢ-3層が後期、上部のⅢ-2層が晩期の堆積である。Sec5では下位が後期後葉、中位が後期末葉～晩期初頭、上位が晩期前葉の堆積である。Sec7では下位が後期後葉～末葉、上位が晩期前葉の堆積である。この範囲は主に後期後葉～晩期前葉に捨て場として機能し、晩期中葉には建物SI101が建てられる。後葉には土地利用の痕跡がほとんど認められない。このことから、全時期を通じて同一地点に廃棄され続けたのではなく、時期により廃棄される地点は異なっていることが分かる。また、同じく区域Bの例をあげると最も小さいブロック09が2.3×3m、最も大きいブロック07が3×6.7mの範囲で確認されており、実際の廃棄単位はおおむね調査で設定した1グリッド程度で捉えることが可能であることも分かった。捨て場というのはこのような小さな廃棄単位が累積したものと考えることができる。

3 石棺状配石の時期と系譜

捨て場の西端では、いわゆる石棺墓に類似した配石遺構が3基検出された(SQ14・SQ18東石組・SQ18西石組)。青森県内の石棺墓は、縄文時代中期末葉～後期前葉に構築されたと考えられており、本遺跡の下流約2kmには20基以上の石棺墓が検出された水上(2)遺跡が位置する。本遺跡でも調査時点では時期は不明ながら石棺墓を検出したと発表した(青埋文編2013a・b)。その後の整理で出土土器の検討、炭化材の放射性炭素年代測定を経て、SQ14・18が後期末葉頃に構築されることが明らかとなり、青森県で知られている石棺墓と時期が異なること、墓としての機能が確定できないことなどから、石棺状配石として報告した(第5章第1節)。石棺状配石の石組内はいずれも埋め戻されている。SQ18東石組・同西石組で蓋石のようにみえる上面礫は、石組の上部に架け渡されたものではなく、埋め戻された土の上に置かれたものであるため石組内に空間は作れない。石組内を埋めた土はその後掘り起こされておらず、石棺状配石が墓であったとしても、再葬との関連はない。

では、中期末葉～後期前葉の石棺墓と、本書で報告した石棺状配石には関連があるのだろうか。青森県内では後期中葉以降に属する石棺墓は知られていない(児玉2007)が、秋田県大館市矢石館遺跡では晩期(大洞B式)の「組石棺」が5基検出されている(奥山1954)。矢石館遺跡では組石棺のほか列石が検出されており、本遺跡の状況と類似している。時間的・空間的な近接(両遺跡の距離は約30km; 第4章図X V参照)、列石を伴うという構造上の類似から、両者の関連はあると考えてよい。これとは別に、後期から晩期にかけては再葬と関連しない石棺墓が関東・中部地方の一部で作られており(加藤2007)、時期的に併行する本遺跡の石棺状配石や矢石館遺跡の組石棺は関東・中部地方との関連も視野に入れる必要があるが、東北北部と中部・関東地方を直接結びつける要素は希薄である。ところで、本遺跡北西部では日時計形組石を伴う晩期前葉の土坑が検出されている(県565集で報告予定)ほか、近隣では弘前市大森勝山遺跡に晩期の環状列石が存在する。日時計形組石をもつ晩期の墓は、秋田県鹿角市玉内遺跡でも検出されている(秋埋文編1988)。石棺墓や環状列石は後期前葉の十腰内文化を特徴付ける遺構(鈴木2013)であり、秋田県鹿角市大湯環状列石などの例から日時計形組石も同時期の代表的な遺構の一つといえる。本書で報告した石棺状配石を含め、秋田県米代川流域と青森県岩木川上流域では、十腰内文化で盛行した石組の遺構を構築する習わしが時代が下っても継続していたと考える方が、地理的に隔たった関東・中部地方との関連を考えるより妥当と考えられる。

4 土器埋設遺構

後期後葉～晩期の土器埋設遺構が36基検出された。粗製土器が多数のため、詳細な時期が確定できないものが多い。青森県内でこれまでに調査された土器埋設遺構は後期後葉が6基、晩期が28基(鈴木編2014)であるが、今回の調査ではこれを上回る数が検出された。

土器埋設遺構は捨て場内に分布し、群集箇所が複数あることが明らかとなった。群集した場所では接してはいるものの、隣接する土器を壊したものは確認できず、土器が埋められていることが地表面で分かるようになっていた可能性が高い。埋設位は正立31、倒立4、不明1で、掘方は確認できない場合が多い。また、当初から底部を欠いた個体を正位埋設した例がSR01をはじめ22基確認されており、ひとつの特徴といえる。また、報告範囲内では墓と認定できる遺構が検出されておらず、本書で報告した土器埋設遺構と墓域の関連は低いと考えられる。(岡本)

第2節 遺物

今回報告範囲で出土した遺物は、土器・土製品724箱、石器・石製品404箱、漆製品3箱である(調査で使用した箱は容積36リットルの段ボール箱)。土器重量は約5,500kg、剥片重量は約1,200kgである。また、調査区のほぼすべてが今回報告範囲に含まれる2003年度の調査では、土器62箱、石器17箱が出土しており、この区域での出土量は1,200箱を超える。本遺跡全体では約7,400箱の遺物が出土しているため、今回報告した遺物量は全体の2割に満たない。亀ヶ岡文化(川原平(1)遺跡はその成立直前も含むが)の拠点集落には膨大な量の遺物が埋蔵されているということを改めて認識させられる。なお、青森県内では円筒土器文化の遺跡で大量の遺物が出土することが知られており、三内丸山遺跡で約4万箱、水上(2)遺跡で約6,500箱、畑内遺跡で約4,800箱が出土している。三内丸山遺跡は別格としても、本遺跡の遺物出土量は円筒土器文化の拠点集落における出土量に比肩するものである。

1 土器

図③①は後期7-4期、図③②は後期8期、図③③は晩期1a期、図③④は晩期1b期、図③⑤は晩期3期、図③⑥は晩期2・4・5期の主要な土器を示した。いずれも一括資料を提示したわけではなく、文様・形状などが分かるものを時期ごとにまとめている。今回報告範囲では、青森県内ではこれまでまとまって出土していなかった後期7-4期・8期の土器が大量に出土した。このほか、晩期1a期・3期の資料が充実している。晩期1b期は図③④にはやや多めに掲載したが、出土量はそれほど多いわけではない。晩期2・4・5期の出土量は少なく、晩期6期は出土していない。

後期7-4期(図③①)はIV0・P-43、IVR-47、IVS-49風倒木にまとまりがみられる。いずれの器種でも精粗を問わず口唇に面取りが施されることが多く、器壁は厚手で、色調は黒～黒褐色を呈するものが多い。底部はすべての器種で高台状のものも多く、壺・注口を除き台付のものがある。深鉢と鉢は器高と口径の差がないものも多く明瞭に区分されないため、ここでは深鉢・鉢を合わせて深鉢として述べる。粗製深鉢はくびれない器形(I類)が多く、精製深鉢はくびれのある器形(II類)が多い。I類の精製深鉢は一定量あるが、108-4のようにII類の粗製深鉢は極めて少数である。II類の精製深鉢はくびれより上に文様が施文されることが多い。文様部より下は無文であることが多く、37-5のように全体が縄文地であるものは稀である。文様の特徴としては沈線間の刻目、大ぶりの貼瘤があげられるほか、磨消縄文で文様が描かれる場合、磨消部が彫去されたように一段低くなったものもみられる。文様の要素は比較的単純で、三叉状の磨消部あるいはそれが横位または斜位に結合したくびれのある四角形または平行四辺形の磨消部が配置されたものであることが多い。口縁は突起の付く平口縁が多く、波状口縁のものは少数である。浅鉢は文様をもつものは少ないが、無文のものでもミガキが丁寧に施されている。壺・香炉は少なく、注口の比率は高い。46-10は注口の上部に香炉にみられる突起が付く例である。

後期8期(図③②)はブロック09、ブロック旧SI03、IVP-44、IVP-45、IVT-34にまとまりがみられる。口唇の面取り、厚手の器壁、底部の形状、深鉢と鉢の不分明などの特徴は前代を引き継いでいるが、土器の色調は赤褐色のものが一定数あらわれる。白色の小礫を胎土に含むものがあることが特徴的である。波状口縁深鉢は少数となり、くびれないI類の精製深鉢が増加し、II類でもくびれ部分の屈

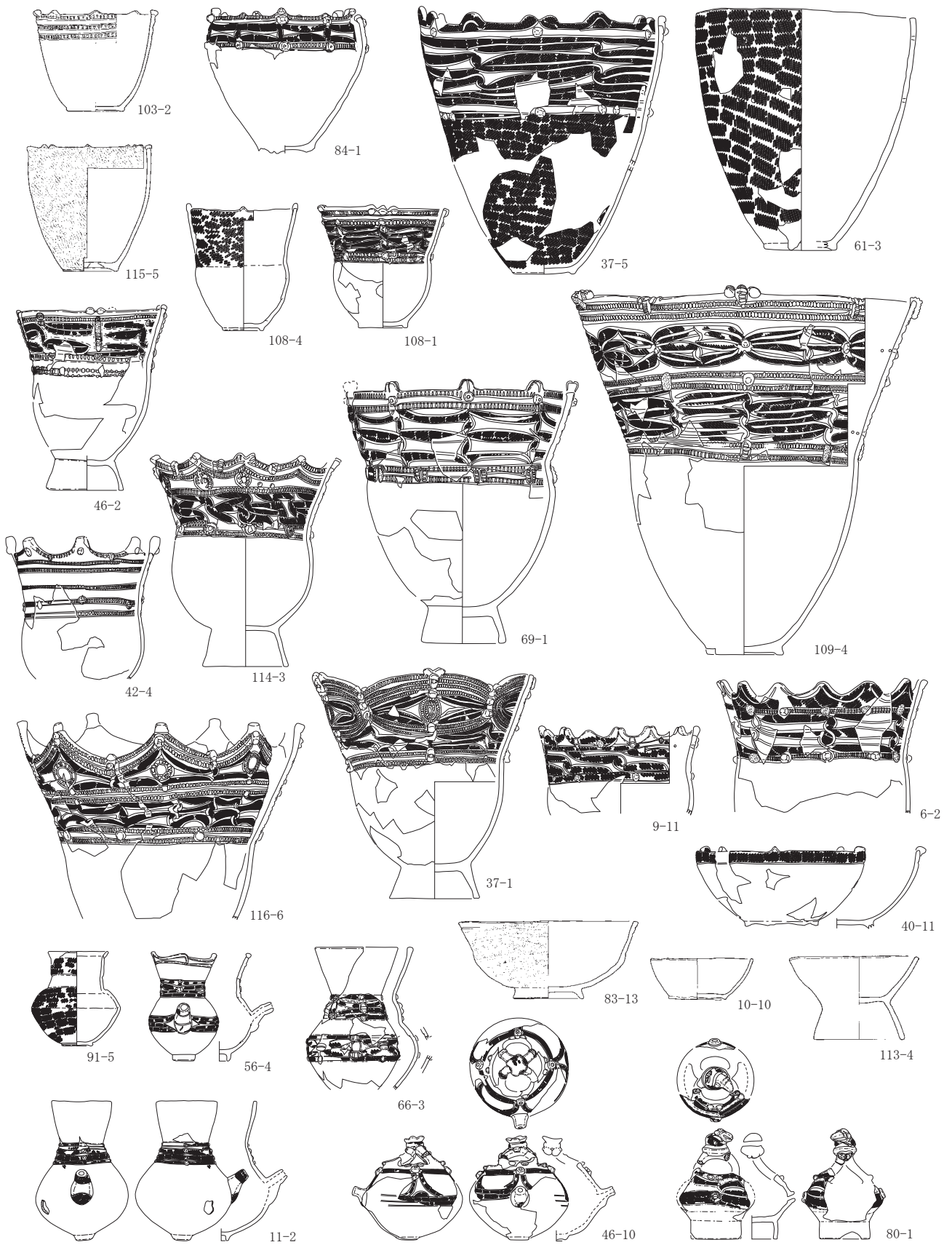
曲が弱まる。体部文様は前代よりも複雑な入組文が増えるようで、44-6のように一定のパターンのないものもみられる。70-7は粗製土器に文様が施文された珍しいものだが、本遺跡では同様の例が複数個体確認されている。沈線間の刻目や貼瘤は少数である。口縁突起の頂部に向かって弧線が施される例が多いことも本期の文様の特徴である。壺はやや大型の半精製・粗製のものが伴う。注口は基部に二袋状の膨らみが付されるものが目立つ。

晩期1a期(図③)はブロック07、IV0-42、IV0-44にまとまりがみられる。器壁は後期に比べて精製・粗製を問わず薄くなる。深鉢では底部の高台が残存する。96-1や12-4のような後期の形態を引き継ぐ深鉢・鉢では、突起の間隔が狭まって口縁の平たい部分のはっきりしなくなる。これらの口縁部には独立した三叉文が配され、体部文様は単純な入組文であることが多い。17-2・79-7・78-8・53-1は体部が膨らむ金魚鉢形ともいうべき台付鉢で、本期に新たに出現する器形である。口縁は小波状を呈し、体部文様は単純な入組文である。体部は縄文が施文されることが多い。115-6は器形は金魚鉢形であるが口縁文様は後期からの伝統を引き継いだものであり、金魚鉢形の台付鉢の祖型のようなものと考えられる。また、本期には92-1・22-12などのように、文様をもつ浅鉢が一定量伴うことも特徴である。金魚鉢形の鉢と同様に小波状口縁を呈す浅鉢もある。精製壺は少量で、17-6は典型例というわけではない。半精製壺は101-3のように頸部に隆帯をもつものがある。注口は底部の高台が消失する。基部の二袋状の膨らみは96-5のように一部で残るものの、19-12のように装飾となって痕跡化する。28-5は正面の口縁部に人面が付いた優品である。

晩期1b期(図④)はIVM-39にまとまりがみられる。深鉢・鉢は前代に比べて小型のものが増えるようである。口縁は平縁ではなく、小波状(57-2)か連続した刻目(40-1)となる。底部は19-3のように平底のものが確実に伴うため、粗製土器でも高台は消失傾向にあると考えられる。文様要素としては深鉢・鉢にみられた入組文が消失し、入組三叉文が深鉢・鉢・浅鉢・壺など多くの器種に施される。どの器種にも同じ文様が施されるようになるのはこの時期以降の晩期の特徴であろう。105-1・110-1のように深鉢・鉢には「野脇類型」(小林2010)の文様も施される。53-2のように金魚鉢形の鉢も組成する。壺は多様な精製壺が伴う。注口は体部が扁平となって壺との共通性がなくなり、注口独自の器形が完成する。文様は注口部周辺にのみ施されることが多い。

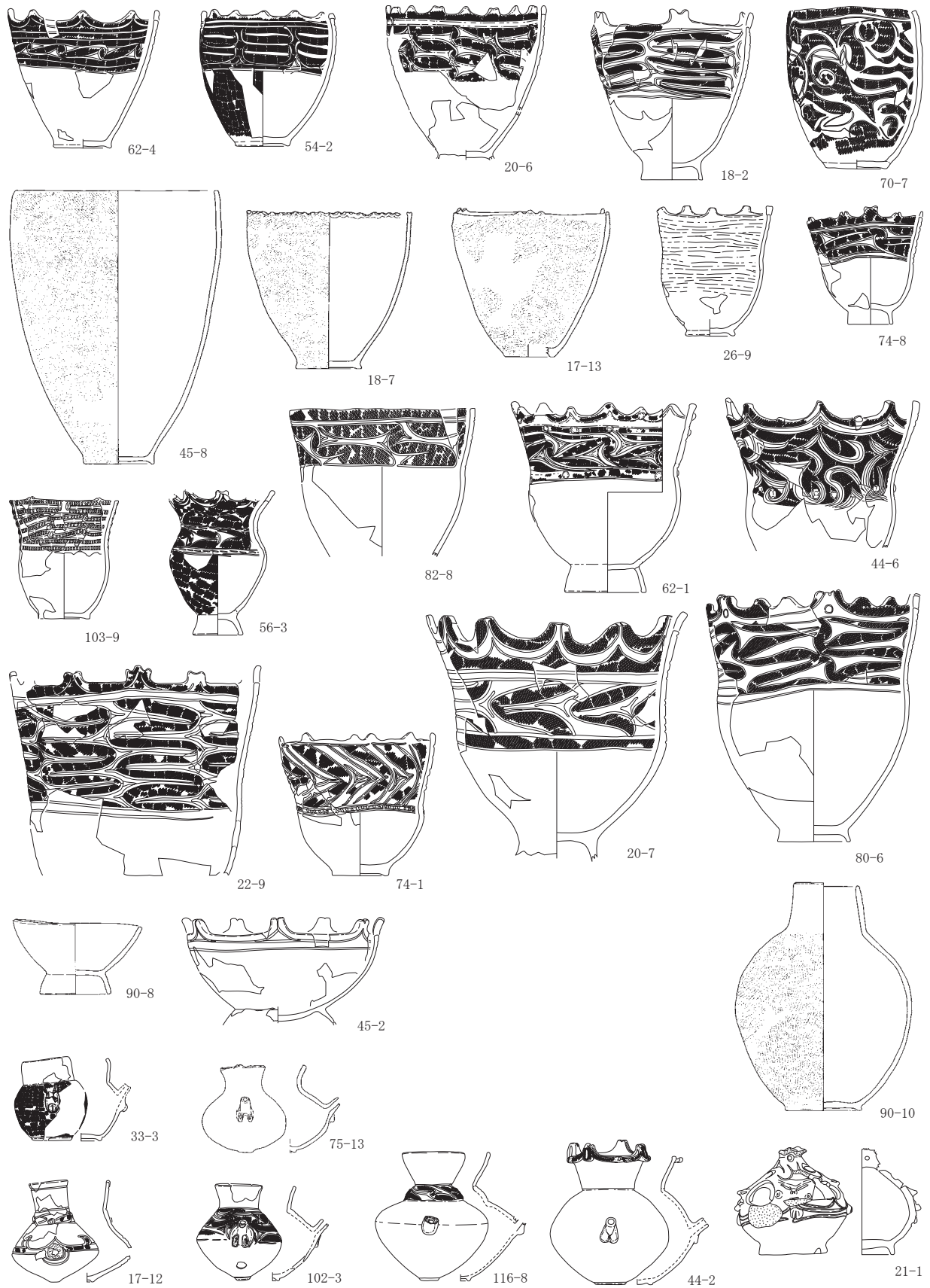
晩期2期(図⑤上段)は出土数が少ない。羊歯状文が本期の代表的な文様である。63-2は特殊な器形の注口である。

晩期3期(図⑤)はSec2-Ⅲ-7層、IVN-44、IVN-45・46、IV0-45にまとまりがみられる。50-15のように容量の大きい粗製深鉢と50-13のような小型の半精製鉢が明瞭に区分される。89-5のような大型の半精製深鉢は本遺跡ではほとんどみられない。粗製深鉢は基本的に平縁または口唇に刻目のあるもので、平縁のものには50-15・58-6のようにB突起が正面にのみ付く場合がある。底部は平底もしくは凹底で、高台が付くものはない。半精製鉢は台付のものが多く、文様は羊歯状文が省略され沈線間の刻目となった50-13・59-15のようなものと、32-1・57-9のように沈線のみのもので共存するようである。浅鉢は平縁で口縁が内湾するものが多い。63-5のようにB突起が付くものは少なく、晩期2期の特徴が残存したものと考えられる。体部が磨消縄文となるものは口縁に沈線間の刻目が施されたものが多く、体部に縄文が用いられない場合は沈線のみとなるようである。49-8・9は口唇に刻目が施される皿で、単独では晩期4期に位置づけたいが、49-6・10・11のような浅鉢と共伴しており本



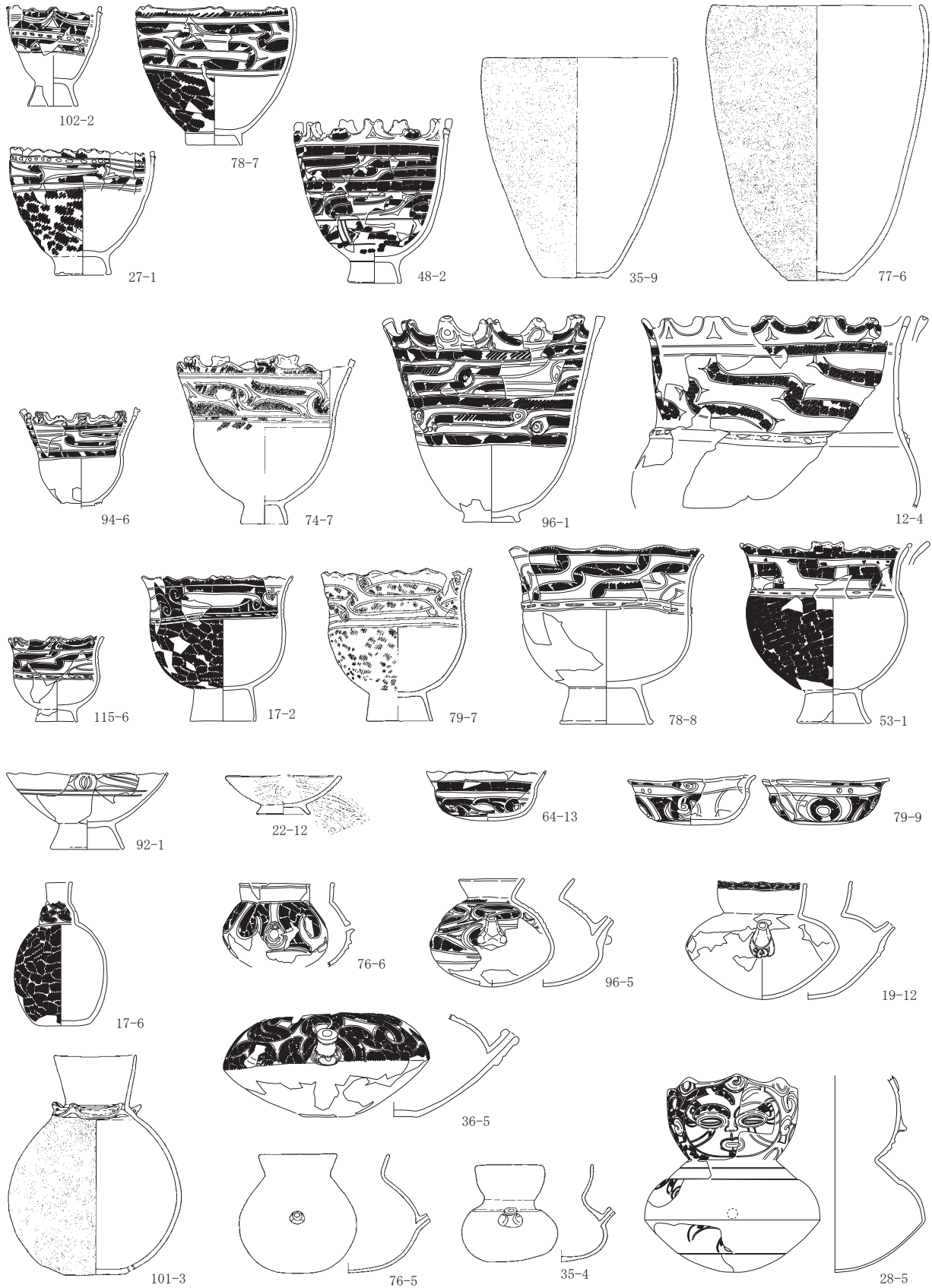
数字は掲載番号
S=1/8

図③① 後期7-4期の土器



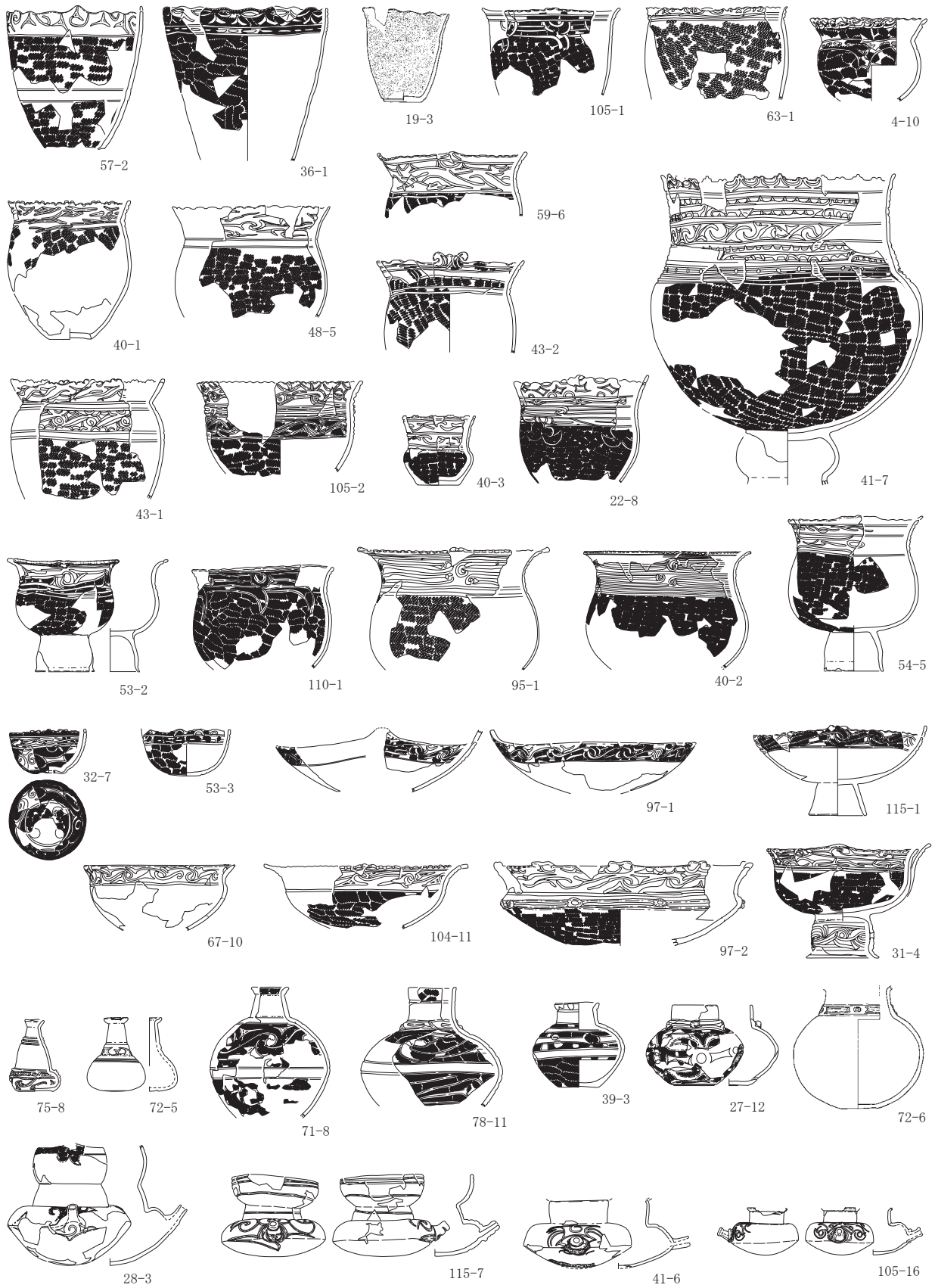
数字は掲載番号
S=1/8

図③② 後期8期の土器



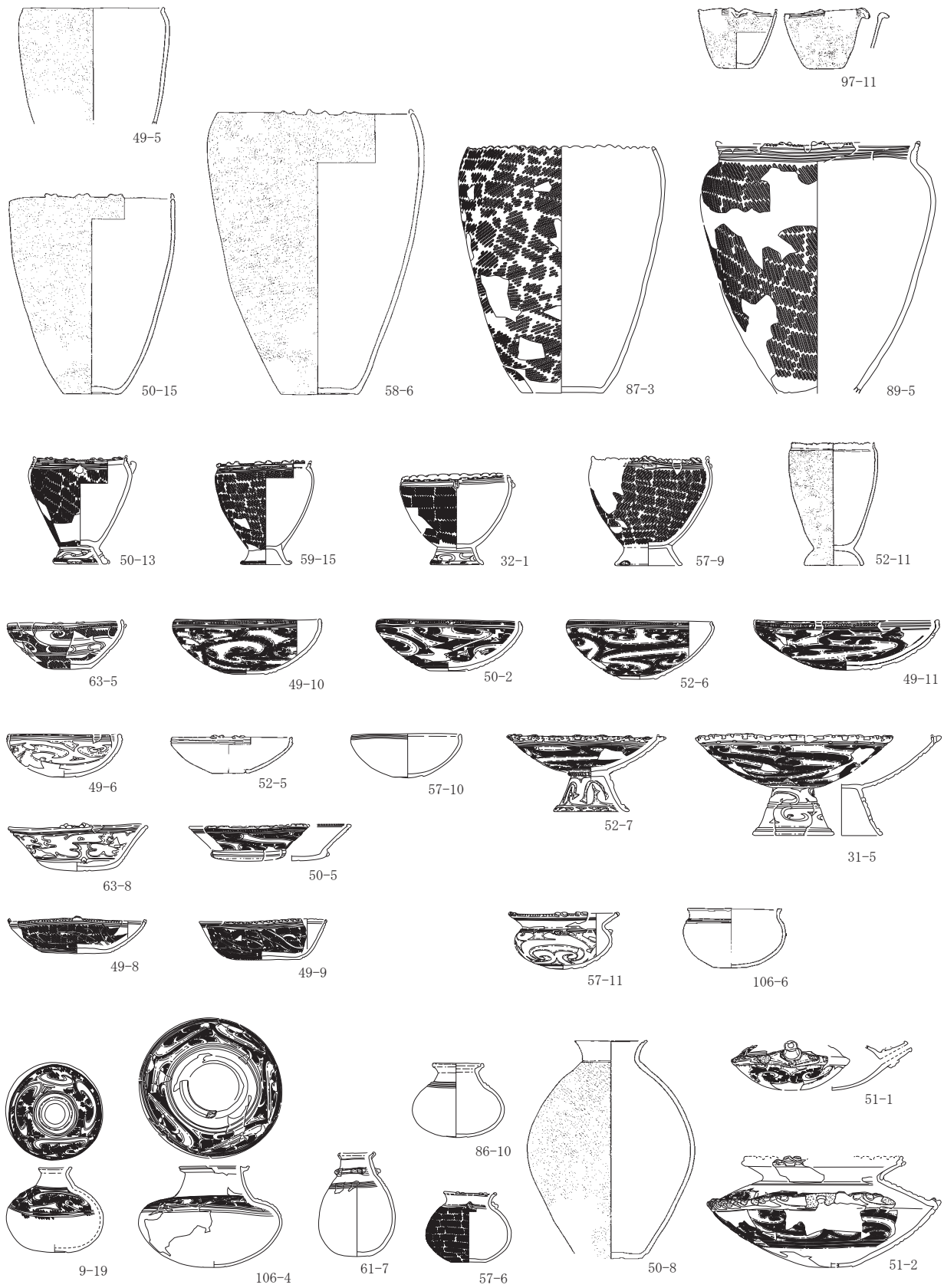
数字は掲載番号
S=1/8

図33 晩期1a期の土器



数字は掲載番号
S=1/8

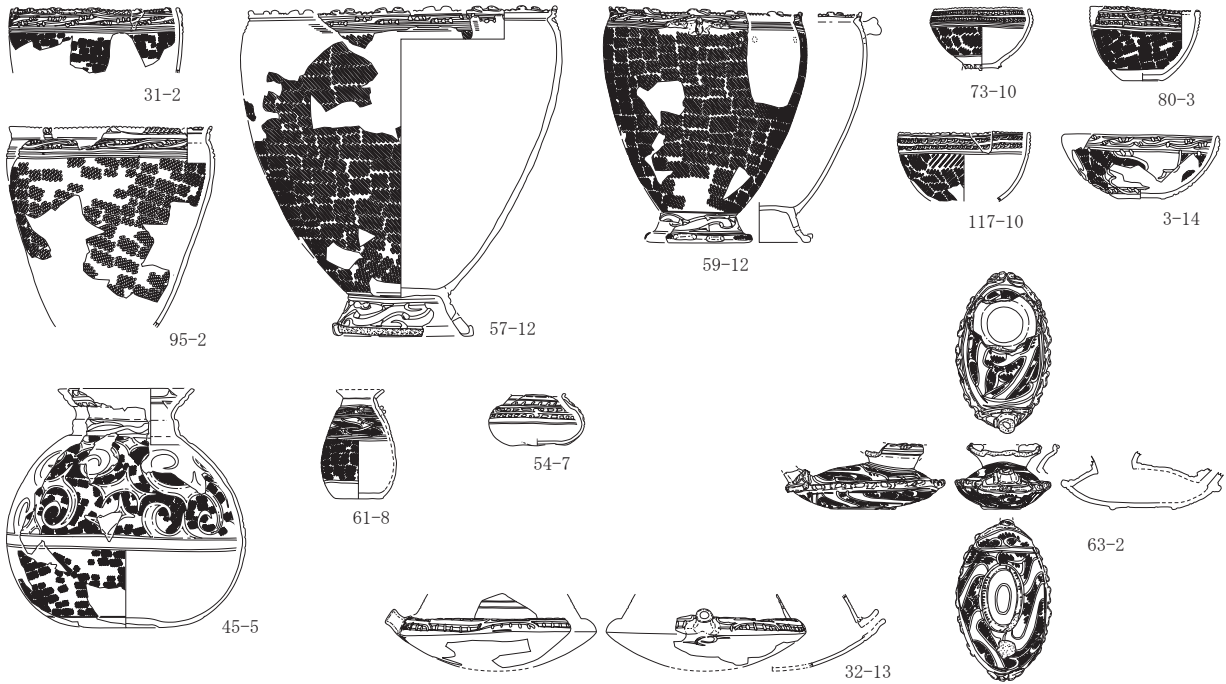
図③④ 晩期1b期の土器



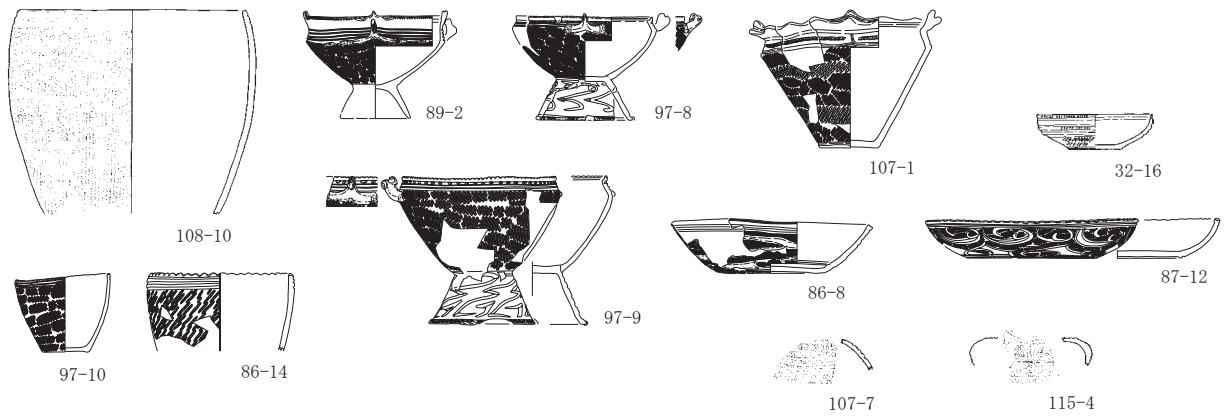
数字は掲載番号
S=1/8

図35 晩期3期の土器

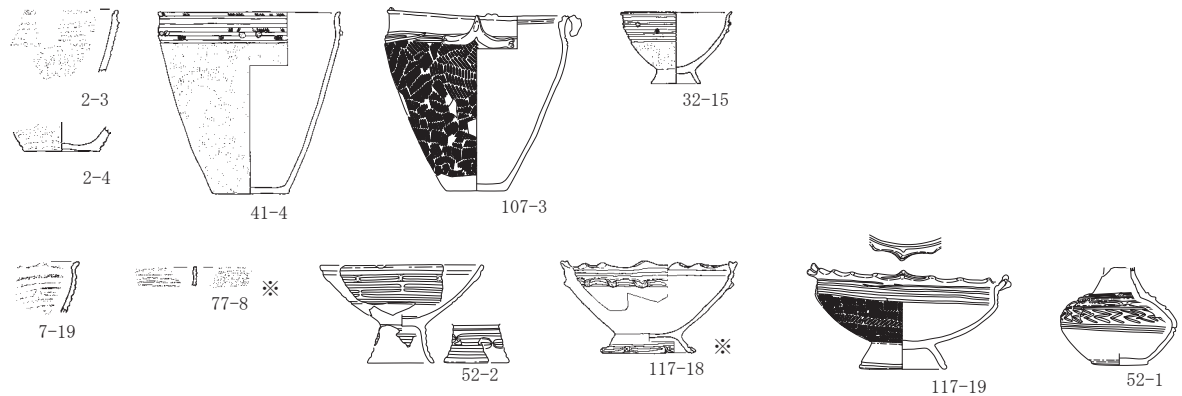
晩期2期



晩期4期



晩期5期



数字は掲載番号
S=1/8(※は1/6)

図36 晩期2期・4期・5期の土器

期にまとめた。

晩期4期(図36中段)は出土数が少ない。108-10は口縁に沈線をもつ縦走縄文の深鉢である。半精製鉢には台付とそうでないものがあり、台付鉢は頸部に一箇所の突起が付くようである。107-1は津軽地域には少なく、より南の地域で多く出土する形態の半精製鉢で、小波状口縁と頸部文様が特徴的である。97-10・86-14は晩期3期の可能性もある。精製土器の主体は86-8・87-12のような皿である。32-16は晩期5期に下る可能性もある。107-7・115-4は精製壺である。

晩期5期(図36下段)も出土数が少ない。今回報告範囲で出土したものは晩期5期でも古い段階に属するものが多いと考えられる。

放射性炭素年代との関係

測定結果の詳細は次年度に刊行される報告書に掲載するが、後期後葉から晩期初頭の土器付着物を多量に測定した(第5章第2節)。特に後期7-4期で9点、後期8期で6点、晩期1a期で9点とこれまでほとんど測定が行われてこなかった連続した時期について年代値が得られた意義は大きい。中央値は後期7-4期が3,300~2,970yrBP、後期8期が3,080~2,910yrBP、晩期1a期が2,980~2,910yrBPに分布する。後期7-4期と晩期1a期は分布範囲が重ならないが、後期7-4期と後期8期・後期8期と晩期1a期はそれぞれ分布範囲が重複する。また、これまでの年代測定結果と比較した場合、大洞B1式を3,120~3,050yrBPとする見解(小林2010)に対して中央値の分布範囲が重複せず100年程度後出の年代値を得たことになり、測定結果の詳細が公開された後にはあらためて晩期の開始年代について議論する必要が生じるだろう。

参考までに上記以外の青森県内における後期後葉から晩期の測定結果をまとめる。

炭化物等

- ・十腰内Ⅳ群：十腰内(1)遺跡/SI07床面・3,260±40yrBP,3,260±40yrBP(青埋文編2001)
- ・十腰内Ⅴ群：大川添(4)遺跡/SI09・3,080±20yrBP、SK09底面直上・3,130±20yrBP(青埋文編2014)
- 芦沢(2)遺跡/SI06床面・3,130±20yrBP(青埋文編2014)
- 獅子神遺跡/1号住・2,540±50yrBP,2号住・3,050±50yrBP(青埋文編2003)
- 米山(2)遺跡/SI1004・3,220±40yrBP(青埋文編2005)
- ・後期末葉～晩期初頭：川原平(1)遺跡/SN-33(図4-14土器内)・3,070±20yrBP(本報告)
- ・晩期初頭：川原平(1)遺跡/Sec1-Ⅲ-2層(特23漆塗膜)・3,000±20yrBP(本報告)
- ・晩期初頭～前葉：有戸鳥井平(7)遺跡/ASI3・2,890±30yrBP(青埋文編2003)
- ・大洞B2式：野尻(1)遺跡/407号焼土・2,970±40yrBP(青埋文編2002)
- ・晩期前葉～中葉：有戸鳥井平(7)遺跡/BSI11・2,860±30yrBP(青埋文編2003)
- ・大洞C1式：野尻(1)遺跡/414号土坑・2,680±50yrBP(青埋文編2002)
- ・晩期中葉：野尻(1)遺跡/409号焼土・2,700±50yrBP(青埋文編2002)

土器付着物

- ・後期後葉～晩期初頭：芦沢(2)遺跡/2,920±20yrBP(青埋文編2014)
- ・後期後葉～晩期前葉：大川添(2)遺跡/2,930±20yrBP(青埋文編2012)
- ・大洞B1式：川原平(1)遺跡/4,280±40yrBP(青埋文編2006)
- ・大洞B2式：大川添(2)遺跡/2,920±20yrBP(青埋文編2012)
- 川原平(1)遺跡/2,960±30yrBP(青埋文編2006)
- ・大洞B2式～BC式：不備無遺跡/2,925±20yrBP(関根・上條編2012)
- ・大洞BC式：川原平(1)遺跡/2,925±35yrBP,2,875±30yrBP,2,990±40yrBP(青埋文編2006)
- ・大洞BC～C1式：不備無遺跡/2,880±20yrBP(関根・上條編2012)

- ・大洞C1式：杉沢遺跡/2, 860±20yrBP(関根・上條編2012)
- ・大洞C2式：川原平(1)遺跡/2, 580±80yrBP、2, 710±40yrBP(青埋文編2006)
- ・大洞C2～A式：米山(2)遺跡/AOMB1a・2, 570±30yrBP、AOMB1b・2, 450±35yrBP(青埋文編2005)

注目される土器

1)穿孔のある土器

いわゆる補修孔ではない焼成後穿孔が施された土器として図11-2(注口・後期7-4期)、53-4(注口・晩期1a)、57-5(壺・晩期3)、102-3(注口・後期8)、115-5(深鉢・後期7-4)があげられる。117-8は後期末葉～晩期初頭の注口で、底部に穿孔を試みた痕跡が確認できる。

図109-4・116-1は、深鉢の胴部中位に補修孔が認められる例である。

2)香炉の使用痕

図21-1では、香炉の内底面に付着したススの範囲を図化した。80-1も同様に内底面にススが付着しており、香炉内部では何かを燃やしたことが明らかである。

3)人面・獣面付土器

本遺跡では人面・獣面付土器が多数出土している。過去の調査においても写真92に示したように人面付注口、人面・獣面付香炉が出土している。今回報告範囲でも次のように多数出土している。図21-1(人面付香炉)、21-2(人面付注口)、28-5(人面付注口)、33-2(簡略化された獣面が付された香炉)、61-5(獣面付香炉)、64-9(獣面付香炉)、72-10・11(人面付壺?)、80-1(獣面付香炉)、92-11(人面・獣面付香炉)、94-3(簡略化された人面が付された壺)、117-7(人面付深鉢?)。時期は後期後葉～晩期初頭に集中している。なお、人面・獣面付土器は特別な出土状況を示してはおらず、その表現は土器の装飾の一部であったと考えられる。

4)両性表現のある土器

後期末葉から晩期初頭の注口土器は、注口部を男性器に見立て、基部に二袋状の膨らみをもつ例が多数ある。図44-4もその一つで、時期は晩期1a期である。注口基部の二袋状の膨らみの間に、スリットを伴う突起が付されている。このような例は他に知られておらず、男性器表現と女性器表現が同一個体内に共存している現象と捉えたい。

5)焼けひずみのある土器と焼成粘土塊

図77-3は焼けひずみのある粗製深鉢で、焼成失敗品の可能性がある。時期は晩期前半と考えられる。焼成粘土塊は写真232に示したように複数点出土しているが、これらの時期は特定できていない。また、後期末葉には図38-4・70-7など本遺跡でしか確認できないような粗製深鉢に文様を描いたと考えられる土器があり、本遺跡内で土器を生産していた可能性は高い。このほか、保管されたような出土状況を示す白色粘土(写真90)もあり、これらが土器生産と関係するのかどうか検討すべき課題である。

(岡本)

2 石器

1 石材環境

本遺跡の最初の報告(青埋文編2006)で、膨大な量の珪質頁岩製の剥片と長径15cmほどの原石が数点出土したことが記述された。珪質頁岩が分布する西目屋村の遺跡においては、一般に各時期とも石器の出土量が多く、原石も集落内に持ち込まれて石器製作が行われている。その詳細については『大川添(4)遺跡』で詳述した(青埋文編2014)。

石材産地だけに、礫面がついた剥片も石器素材として多数使用されている。両縁に加工のあるものについて、珪質頁岩の部分が刃部、礫面に近い軟質部分については手に持つ部分もしくは着柄部分に位置する可能性がある。削器のなかには加工の大きな縁辺が軟質部分であり、反対側の珪質で側縁の弱い剥離のある方が刃部と判断できる物がある。

珪質頁岩の原石は基本的に、水摩をうけており、凸部にローリングの痕跡をもつものが多い。このことから岩木川の本・支流の川原から搬入したのことが多いと考えられる。石質は堅緻で良質のものから、珪化の進んでいないものまで多様である。

写真217-14は、刃部のみが珪質頁岩で、他は軟質で凝灰岩質となっている。石核においても、事実記載の項でふれたように礫面を作業面の背後にし、中心部の珪質頁岩の部分を可能な限り採取しようとしているのがみられる。

石材については、晩期になると、在地石材の利用が顕著になる。北海道では黒色の安山岩で削器が製作されることもある。津軽西部では地元で採取できる緑色凝灰岩を使用した玉作りが行われる。磨製石斧に関しては岩手県川目A・手代森遺跡の「蛇紋岩」、二子貝塚の花崗岩類、雨滝遺跡や青森県泉山遺跡の安山岩製のものなどが製作される。本遺跡では、北海道日高産と考えられる良質の緑色岩のほか、粗粒玄武岩など、磨石などに使用される石材のものが出土している。今回の報告資料には敲打整形の石斧等の未製品の出土はなく、本遺跡で製作された痕跡はない。しかし、粗粒玄武岩は各地に産するので製作地域は不明である。千点以上出土した黒曜石については、今後、産地分析を行う予定であるが、肉眼的には出来島(岩木山系)産のものが多数を占め、深浦産のものを含む。遺跡から北に峠を越えて9.5km先の、中村川支流の孫産童子川でも同質の黒曜石が採取できる。中村川ではその合流点より下流でも採取することができる。本遺跡の周辺では筆者が整理した大川添(4)遺跡(縄文時代中期末～後期初頭主体)では黒曜石は縄文時代早期の日計式に伴う深浦産が1点のみ出土した。西目屋村では後期前葉～末葉の砂子瀬遺跡で161点の黒曜石が産地分析され、出来島(岩木山系)産のものが多数を占めている(青埋文編2012・2014)。後期前葉以降、その利用が増加するようであるが、晩期を主体とする弘前市薬師遺跡で計9,416.6gの黒曜石が出土しており(青埋文編2014)、晩期にはより多く使用されると考えられる。

磨石・石皿等の礫石器に使用される石材についても、付近に花崗閃緑岩の大沢岩体があるほか、デイサイト、安山岩、緑色凝灰岩、粗粒玄武岩なども岩木川の河原で採取可能である。そのためか、礫石器の出土数量は多い。

2 石器生産技術

縦長剥片を連続的に剥離するものや、石核縁辺から求心的に剥離するもの、両極打法などがあり、それらで得られる多様な形状の剥片が各種石器に利用されている。

石鏃については、加工部分が少ないものや側縁が非直線的などで粗い加工のものなど、石鏃の項目の未成品としたものから、二次加工剥片とした初期段階のものまで各段階のものがそろそろ。これらの素材となる小形剥片を剥離した小型の石核も得られており石鏃の製作が行われていたことを示すものと考えられる。

また、両極石器が出土しており、それらがみられないと報告された縄文時代後期末の西目屋村水上(4)遺跡(青森県教育委員会2011)と様相が異なる。

石核転用敲石の一部は磨製石斧製作遺跡にみられる「多面体を呈する敲石」(阿部1984・1990)に類似する。対象物については不明であるが、本遺跡の場合は、有縁石皿、中高の石皿などの敲打整形に使用した可能性も想定される。

3 アスファルト付着石器

産地である秋田県境に近いいためか、石鏃・石匙はアスファルトの付着するものが多い。付着率を提示することはできなかったが、前述の大川添(4)遺跡と比較すると、川原平(1)遺跡の付着率は高い。特に石匙への付着は、大川添(4)遺跡ではみられず、岩木川をはさんで、その対岸にある大川添(3)遺跡でも報告されていない。石匙への付着についても縄文時代晩期の時代性が関係する可能性がある。また、削器や剥片においても、付着しているものがあり、使用の際に搔き取りのために使用された可能性がある。

4 剥片等石器組成

本報告書の範囲内は遺構内外ともに縄文時代後期末から晩期であるため、合算して1表にまとめた。珪質頁岩の産地だけに、石核の重量は計194kg、剥片は計1,106kgと非常に多い。また、定形石器では、石鏃・石錐・石匙の比率が高い。

なお、両面調整石器については、分類当初、器種として設定していなかった。刃部が未形成であることから、多くを二次加工剥片に、一部は石槍(未製品?)等他の器種に分類していた。図示したものは、1表の作成にあたって両面調整石器に振り替えた。そして、1表ではその多くが含まれると考えられる二次加工剥片と合算した。

(齋藤)

1表 剥片石器等組成

大分類	器種	点数	重量(g)
定形石器その他	石 鏃	1,100	1,938.7
	石 槍	43	384.9
	石 錐	455	1,863.2
	石 匙	582	8,207.9
	石 篋	38	1,070.1
	搔 器	15	282.7
	削 器	661	13,678.1
	兩極石器	36	498.3
	二次加工剥片*	3,988	70,960.2
	異形石器	25	394.9
	微細剥片	1,382	26,523.2
	(小計)	8,325	125,802.2
	石 核	石 核	2,228
石核転用敲石		53	6,898.4
剥 片	接合資料含む		1,105,700.0
黒曜石	黒曜石製剥片・石核**	1,022	2,626.4
石 斧	磨製石斧	17	1,790.1
	打製石斧	3	885.2
自 然 礫	珪質頁岩原石	82	16,702.6
	黒曜石原石	1	94.0
	水 晶	7	10.8
全 合 計		10,606	1,432,362.5

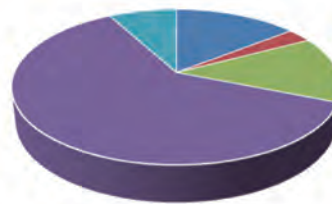
※ 両面調整石器を含む。

※※ 二次加工剥片・微細剥片を含む。石鏃・異形石器は含まない。

主要5器種 点数比率



主要5器種 重量比率



■石鏃 ■石槍 ■石錐 ■石匙 ■石篋

3 その他の遺物

1 共伴土器から推定される土偶の時期

図185-1はIV P-45グリッドで後期8期の土器とともに出土しており、後期末葉の土偶である。図186-2はIV V-32グリッドで後期末葉頃の注口土器破片(P2006・非掲載)の隣で出土しており、これも後期末葉の土偶として問題がないように思われる。

2 鉱物(マンガンノジュール)を加工した遺物

図195-29は鉱物(マンガンノジュール)を加工した遺物である。外見は金属滓のようであるが自然の素材で、それに対して石製品のように穿孔を試みている。出土場所はIV T-45グリッドⅢ層である。当該グリッドの土器は図化したものがないが、取上げ時のメモは「斜面下の方、大洞BCの近くで出土。攪乱があったかも知れないがⅢ層から出たのは確か。9月8日」となっており、調査時点では金属滓と考えていた。2014年調査で西捨場から同様の有孔製品が出土しており、マンガンノジュールと判定されたため図195-29も金属滓ではないことが分かり、縄文時代の遺物として掲載することができた。

3 漆製品

今回報告範囲は台地上の乾燥地であるが、漆製品が多数出土した。漆製品の多くは櫛の破片と考えられるが、実測できたものは少ない。図205-4は籃胎漆器で、器種は壺と考えられる。また、生漆と思われるものが付着している土器(図27-10・写真197)が確認できるため、遺跡内で漆の調整を行っていたと考えられる。漆は赤色漆が多く、黒色漆は少ない。漆付着土器は塗彩されたものを含め、今回報告範囲では晩期に限られる。

4 アスファルト

アスファルト塊は図205に示したように数点出土している。補修や貯蔵、調合に用いたためにアスファルトが付着した土器もある。図205-5の黒色付着物は、分析の結果アスファルトと漆の混合物であることが分かった。漆黒色で光沢のある黒色物質は、アスファルトと漆の混合を疑う必要があるだろう。205-8・11のように皺の多く入ったアスファルト塊は、表面に砂粒が多く食い込んでおり、精製前に地面に置かれたことが分かる。断面で見ると不純物が含まれていたようにはみえない。

5 赤色顔料の生産に関わる遺物

赤色顔料の煮沸製粉に関わると考えられる、内面に顔料が付着した深鉢が複数点出土した。図4-20・21-3・105-12は晩期と考えられる。100-2は後期、4-10・108-10は晩期の有文土器で、確実に煮沸製粉に用いられたと言えるわけではないが、内面に赤色顔料が付着している。また、赤色顔料粉末を貯蔵したと考えられる壺(図112-2)や注口(図80-5・113-5)も出土している。写真240で示したように赤色顔料の素材となる赤石も多量に出土しているほか、赤石を粉末にする際に用いられた敲石や石皿がある(図180・181)。赤色顔料塗彩土器は主に晩期で、特に確実な赤色漆が塗彩されたものは今回報告範囲では晩期に限られる。(岡本)

引用参考文献

- 青森県教育庁文化財保護課編 2002『三内丸山遺跡XX』青森県埋蔵文化財調査報告書第338集 青森県教育委員会
- 青森県教育庁文化財保護課編 2015「西目屋村川原平(1)・(4)遺跡隣接地」『青森県遺跡詳細分布調査報告書』27
青森県埋蔵文化財調査報告書第560集 青森県教育委員会
- 青森県埋蔵文化財調査センター編 1987『大湊近川遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第104集 青森県教育委員会
- 青森県埋蔵文化財調査センター編 1988『上尾駸(1)遺跡C地区』青森県埋蔵文化財調査報告書第113集 青森県教育委員会
- 青森県埋蔵文化財調査センター編 1993『野脇遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第149集 青森県教育委員会
- 青森県埋蔵文化財調査センター編 1996『泉山遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第190集 青森県教育委員会
- 青森県埋蔵文化財調査センター編 2001『十腰内(1)遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第304集 青森県教育委員会
- 青森県埋蔵文化財調査センター編 2002『野尻(1)遺跡Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第320集 青森県教育委員会
- 青森県埋蔵文化財調査センター編 2003『獅子神遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第339集 青森県教育委員会
- 青森県埋蔵文化財調査センター編 2003『有戸鳥井平(7)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第348集 青森県教育委員会
- 青森県埋蔵文化財調査センター編 2005『米山(2)遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第391集 青森県教育委員会
- 青森県埋蔵文化財調査センター編 2006『川原平(1)・(4)遺跡・大川添(2)遺跡・水上遺跡』
青森県埋蔵文化財調査報告書第409集 青森県教育委員会
- 青森県埋蔵文化財調査センター編 2012『砂子瀬遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第513集 青森県教育委員会
- 青森県埋蔵文化財調査センター編 2012『大川添(2)遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第515集 青森県教育委員会
- 青森県埋蔵文化財調査センター編 2013a『平成25年度川原平(1)遺跡・水上(2)遺跡現地見学会資料』
- 青森県埋蔵文化財調査センター編 2013b『川原平(1)遺跡』『平成25年度青森県埋蔵文化財発掘調査報告会』
- 青森県埋蔵文化財調査センター 2014「川原平(1)遺跡」『文化財発掘出土情報』2014年7月号通巻398号 ジャパン通信情報センター
- 青森県埋蔵文化財調査センター編 2014『川原平(4)遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第539集 青森県教育委員会
- 青森県埋蔵文化財調査センター編 2014『芦沢(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第540集 青森県教育委員会
- 青森県埋蔵文化財調査センター編 2014『大川添(4)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第542集 青森県教育委員会
- 青森県埋蔵文化財調査センター編 2014『砂子瀬遺跡Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第543集 青森県教育委員会
- 青森県埋蔵文化財調査センター編 2014『大川添(3)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第544集 青森県教育委員会
- 青森県埋蔵文化財調査センター編 2014『上新岡館・薬師遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第545集 青森県教育委員会
- 青森県立郷土館編 1984『亀ヶ岡石器時代遺跡』青森県立郷土館調査報告第17集・考古-6
- 大平山元Ⅰ遺跡発掘調査団編 1999『大平山元Ⅰ遺跡の考古学的調査』大平山元Ⅰ遺跡発掘調査団
- 平賀町教育委員会編 1981『堀合Ⅰ遺跡』平賀町埋蔵文化財報告書第9集
- 秋田県埋蔵文化財センター編 1983『平鹿遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第101集 秋田県教育委員会
- 秋田県埋蔵文化財センター編 1988『玉内遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第171集 秋田県教育委員会
- 秋田県埋蔵文化財センター編 1989『八木遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第181集 秋田県教育委員会
- 秋田県埋蔵文化財センター編 1990『深渡遺跡-森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ-』
秋田県文化財調査報告書第286集 秋田県教育委員会
- 秋田県埋蔵文化財センター編 1998『虫内Ⅰ遺跡』秋田県文化財調査報告書第274集 秋田県教育委員会
- 秋田県埋蔵文化財センター編 2000『戸平川遺跡』秋田県文化財調査報告書第294集 秋田県教育委員会
- 秋田県埋蔵文化財センター編 2002『向様田A遺跡 遺構編』秋田県文化財調査報告書第346集 秋田県教育委員会
- 秋田県埋蔵文化財センター編 2004『向様田A遺跡 遺物編』秋田県文化財調査報告書第370集 秋田県教育委員会
- 秋田県埋蔵文化財センター編 2005『向様田D遺跡』秋田県文化財調査報告書第392集 秋田県教育委員会
- 秋田県埋蔵文化財センター編 2006『深渡遺跡-森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書XVI-』
秋田県文化財調査報告書第407集 秋田県教育委員会
- 秋田県埋蔵文化財センター編 2008『堀ノ内遺跡』秋田県文化財調査報告書第432集 秋田県教育委員会
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター編 1986『駒板遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第98集
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター編 1986『手代森遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
第108集 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター編 1994『黒内Ⅷ・黒内XⅢ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査
報告書第208集 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター編 2010『雨滝遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第562集
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター編 2012『川目A遺跡第5次調査発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査
報告書第589集 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 久慈市教育委員会 1993『二子貝塚』久慈市文化財調査報告書第16集 久慈市教育委員会
- 中郷村教育委員会 1987『籠峰遺跡発掘調査概報』中郷村教育委員会
- 北海道埋蔵文化財センター編 1987『千歳市 ママチ遺跡Ⅲ』北海道埋蔵文化財センター調査報告書第36集 北海道埋蔵文化財センター
- えりも町教育委員会 2000『油駒遺跡』えりも町教育委員会

- 奥尻町教育委員会 1999『青苗B遺跡』 奥尻町教育委員会
- 泊村教育委員会 1985『渋井遺跡発掘調査報告書』 泊村教育委員会
- 秋田かな子 2008「加曽利B式土器」『縄文土器総覧』 アム・プロモーション
- 阿部朝衛 1984「多面体を呈する敲石について」『豊栄市史研究』第2号 豊栄市
- 阿部朝衛 1990「多面体を呈する敲石・再論」『帝京史学』第5号 帝京大学
- 江坂輝彌 1960『土偶』 校倉書房
- 江坂輝彌 1965「青竜刀形石器考」『史学』第38巻第1号 三田史學會
- 奥山 潤 1954「縄文晩期の組石棺—秋田県北秋田郡早口町矢石館遺蹟—」『考古学雑誌』第40巻第2号 日本考古学会
- 加藤雅士 2007「関東・中部地方後晩期の石棺墓」『死と弔い—葬制—』縄文時代の考古学9 同成社
- 児玉大成 2007「東北地方北部の再葬」『死と弔い—葬制—』縄文時代の考古学9 同成社
- 児玉大成 2015「北東北の環状列石」『津軽海峡圏の縄文文化』環太平洋文明叢書1 雄山閣
- 小林謙一ほか 2006「川原平(1)遺跡出土土器付着物の14C年代測定」『川原平(1)・(4)遺跡・大川添(2)遺跡・水上遺跡』
青森県埋蔵文化財調査報告書第409集 青森県教育委員会
- 小林圭一 2008「瘤付土器」『縄文土器総覧』 アム・プロモーション
- 小林圭一 2010『亀ヶ岡式土器成立期の研究—東北地方における縄文時代晩期前葉の土器型式—』
早稲田大学総合研究機構先史考古学研究所
- 齋藤岳・島口天・長井雅史・金成太郎・杉原重夫 2010「弘前市中村川支流の孫産童子沢に分布する黒曜石の全岩化学組成」
『青森県立郷土館研究紀要』第34号 青森県立郷土館
- 島口 天 2006「遺跡周辺の地形・地質」『川原平(1)・(4)遺跡・大川添(2)遺跡・水上遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第409集
青森県教育委員会
- 島口 天 2013「川原平(4)遺跡A区の地形・地質」『川原平(4)遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第527集
- 鈴木克彦 2008「十腰内Ⅰ遺跡の青玉攻玉と壺に収納された青玉の流通」『研究紀要』第13号 青森県埋蔵文化財調査センター
- 鈴木克彦 2013「第Ⅰ部1 分布圏と文化圏」『青森県史 資料編』考古2 縄文後期・晩期 青森県
- 鈴木克彦編 2014『北日本縄文時代埋設土器・埋設遺構集成』北日本縄文文化研究会叢書2 北日本縄文文化研究会
- 鈴木克彦 2015『遮光器土偶の集成研究』 弘前学院出版会
- 鈴木保彦 2015「配石墓研究 追録と再考(1) —その分布と形態—」『縄文時代』第26号 縄文時代文化研究会
- 須藤 隆 1992「東北地方における晩期縄文土器の成立過程」『加藤稔先生還暦記念 東北文化論のための先史学歴史学論集』
加藤稔先生還暦記念会
- 須原 拓 2013「川目A遺跡出土の磨製石斧にみる石斧生産について」『紀要』XXXⅡ
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター編
- 関根達人 2002「沢上貝塚出土晩期縄文土器の再検討」『宮城考古学』第4号 宮城県考古学会
- 関根達人 2005「十腰内Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ群土器」に関する今日的理解」『葛西勳先生還暦記念論文集 北奥の考古学』
葛西勳先生還暦記念論文集刊行会
- 関根達人・上條彦彦編 2012『下北半島における亀ヶ岡文化の研究 青森県むつ市不備無遺跡発掘調査報告書』
弘前大学人文学部日本考古学研究室研究報告8 弘前大学人文学部附属亀ヶ岡文化研究センター
- 関根達人 2013「第Ⅰ部2 土器の編年」『青森県史 資料編』考古2 縄文後期・晩期 青森県
- 辻誠一郎・中村俊夫 2001「縄文時代の高精度編年」『第四紀研究』第40巻第6号 第四紀研究会
- 辻誠一郎 2006「三内丸山の層序と年代」『植生史研究』特別第2号 日本植生史学会
- 富樫泰時 1983「青竜刀形石器」『縄文文化の研究』9 雄山閣
- 中門亮太 2013「東北地方北部における瘤付土器の基礎的研究」『古代』第131号 早稲田大学考古学会
- 奈良修介・豊島昂 1967『秋田県の考古学』郷土考古学叢書3 吉川弘文館
- 成田末五郎 1959「第14章 第1節14、遺蹟と沿革」『日屋ダム建設記念 砂子瀬部落誌』十和田岩木川総合開発協議会
- 西本豊弘 2009『平成16～20年文部科学省・科学研究費補助金学術創成研究費「弥生農耕の起源と東アジア—炭素年代測定による
高精度編年体系の構築—」(課題番号16G S0118)研究成果報告書』研究代表者西本豊弘
- 福田友之 1984「西目屋村砂子瀬村元出土の遺物」『青森県考古学』第1号 青森県考古学会
- 藤沼邦彦 1997『歴史発掘③ 縄文の土偶』 講談社
- 藤沼邦彦ほか編 2005『青森県東津軽郡平館村今津遺跡発掘調査報告書—津軽半島東沿岸部における亀ヶ岡文化の遺跡—』
弘前大学人文学部日本考古学研究室研究報告2 弘前大学人文学部日本考古学研究室
- 藤沼邦彦・関根達人 2008「亀ヶ岡式土器(亀ヶ岡式系土器群)」『縄文土器総覧』 アム・プロモーション
- 藤沼邦彦ほか編 2008『青森県三戸郡三戸町杉沢遺跡発掘調査報告書』弘前大学人文学部日本考古学研究室研究報告6
弘前大学人文学部日本考古学研究室・弘前大学人文学部附属亀ヶ岡文化研究センター
- 前川寛和・大塚和義・請関秀彦 2010「岩石考古学の構築：岩石学の手法を用いた縄文石器の解析」
『特別史跡 三内丸山遺跡 年報』第10号 青森県教育委員会
- 村越 潔 1984『増補 円筒土器文化』雄山閣考古学選書10 雄山閣
- 山口義伸 2014「遺跡周辺の地形及び地質について」『川原平(4)遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第539集 青森県教育委員会
- 新潮社編 2014『青森縄文王国』 新潮社

檢出遺構一覽表

検出遺構一覧表(1)

遺構種別	遺構名	遺構図	写真	グリッド	備考	遺物図	調査年
建物跡	SI01	1	19	IVP-25, 26		1	11
	SI02	2	20	IVR-40, 41		1	11
	SI03	【欠番】		—	土器ブロックに変更	22~24	11
	SI04	3	21	IVR-27		2	13
	SI05	4	22	IVR-37		2	11
	SI06	4	22	IVU-31		2	13
	SI101	5	23, 24 36	IVT-34, 35, 36 IVU-34, 35, 36	SN45~48および82基のPitで図上復元	3, 写193	整理
焼土遺構	SN01	6	25	IVV, IVW-32		4	11
	SN02	6	25	IVV-32			11
	SN03	6	25	IVR-43		4	11
	SN04	6	25	IVR-43			11
	SN05	6	26	IVQ-41			11
	SN06	6	26	IVQ-41			11
	SN07	6	26	IVQ-39			11
	SN08	6	26	IVQ-40			11
	SN09	6	27	IVR-44			11
	SN10	7	27	IVQ-41			11
	SN11	7	27	IVR-40			11
	SN12	7	27	IVR-42			11
	SN13	7	28	IVR, IVS-44			11
	SN14	7	28	IVR-37			11
	SN15	7	28	IVR-36			11
	SN16	7	28	IVS-36, 37	SN17・SN20含む		11
	SN17	【欠番】		IV	SN16に統合		11
	SN18	7	28	IVR-38			11
	SN19	8	28	IVS-37			11
	SN20	【欠番】		IVS-37	SN16に統合		11
	SN21	8	29	IVN-41			11
	SN22	8	29	IVN-42			11
	SN23	8	29	IVP-42			11
	SN24	8	29	IVN-44			11
	SN25	8	29	IVR, IVS-46		4	11
	SN26	8	30	IVR-46			11
	SN27	8	30	IVS-47			11
	SN28	8	30	IVR-49		4	11
	SN29	9	30	IVQ-44, 45			11
	SN30	9	31	IVR-46			11
	SN31	9	31	IVS-49		4	11
	SN32	9	31	IVQ-46		4	11
	SN33	9	31	IVQ-44, 45	SN40を含む	4	11
	SN34	9	32	IVR-45			11
	SN35	9	32	IVR-45		4	11
	SN36	【欠番】		IVT-48	SQ41に変更	13	11
	SN37	10	32	IVS-44			11
	SN38	10	32, 33	IVT-48		5	11
	SN39	10	33, 52	IVT-48		5, 6	11
	SN40	【欠番】		IVQ-44	SN33に統合		11
	SN41	10	33	IVT-35			11
(SN42)	【欠番】	現地性の焼土ではないが、隣接するSN41の時期判定のため、本焼土直下の出土土器を掲載。				6	11
SN43	10	34	IVV-34		6	13	
SN44	10	34	IVS-36		6	13	
SN45~48	【欠番】	24	IVU-34, 35	SI101に統合		13	
SN49	10	34	IVV-33		6	13	
SN50	10		IVS-35	Sec7の中にあり		13	
SN51~52	Ⅲで報告						
SN53	10	34	IVS-37			13	
土坑	SK01	11	38	IVS-42		8	11
	SK02	11	38	IV0-37			11
	SK03	11	38	IVN-38			11
	SK04	11	38	IV0-40		8	11
	SK05	11	38	IVR-28		8	13

検出遺構一覧表(2)

遺構種別	遺構名	遺構図	写真	グリッド	備 考	遺物図	調査年	
石棺状配石	SQ14	12~14	39~41 47	IVU, IVV-32		11	13	
	SQ18	12・15~19	39・42~ 46・48	IVU-32, 33 IVV-32, 33		11	13	
配石遺構	SQ01	20	49	IVV-32		9	11	
	SQ02	20	49, 50	IVV-31, 32		9	11	
	SQ03	21	50	IVV, IVW-32			11	
	SQ04	21	50	IVQ-40			11	
	SQ05	21	50	IVR-43		写194	11	
	SQ06	21	50	IVR-43		9	11	
	SQ07	21	50	IVR, IVS-37		9	11	
	SQ08	21	51	IVR, IVS-45		9	11	
	SQ09	22	51	IVR-44, 45	SQ13を含む	10	11	
	SQ10	22	51	IVS-46			11	
	SQ11	23	52	IVS-47		10, 11	11	
	SQ12	22	52	IVT-48		5	11	
	SQ13	【欠番】			SQ09に統合		11	
	(SQ14)	12~14			上記参照	「石棺状配石」とする	11	
	SQ15	IVで報告					12	
	SQ16	23	46	IVV-31, 32・IVW-31	SQ17を含む	11	13	
	SQ17	【欠番】			IVV-32	SQ16に統合		13
	(SQ18)	12・15~19			上記参照	「石棺状配石」とする	11	
	SQ19	24	53	IVR-34, 35・IVS-35	「旧IVR-35配石」を含む	12, 13	13	
	SQ20~37	Ⅲ, IVで報告						
SQ38~40	【欠番】						13	
SQ41	23	52	IVT-48	SN36から変更	13	整理		
土器埋設 遺 構	SR01	25	54	IVW-32		14	11	
	SR02	25	54	IVQ-38		14	11	
	SR03	25	54	IVQ-38		14	11	
	SR04	25	54	IVQ-38		14	11	
	SR05	25	55	IVQ-38		写195	11	
	SR06	25	55	IVQ-42		14	11	
	SR07	25	55	IVP-40		14	11	
	SR08	25	55	IVR-44		14	11	
	SR09	25	55, 56	IVR-44		14	11	
	SR10	26	55, 56	IVR-44		14	11	
	SR11	26	56	IVR-43		15	11	
	SR12	26	56	IVR-43		15	11	
	SR13	26	56	IVR-44		15	11	
	SR14	26	57	IVR-44		15	11	
	SR15	26	57	IVR, IVS-43		15	11	
	SR16	26	57	IVS-44		15	11	
	SR17	26	57	IVS-44		15	11	
	SR18	26	58	IVM-40		15	11	
	SR19	27	58, 59	IVM-39		15	11	
	SR20	27	58, 59	IVM-39		15	11	
	SR21	27	58, 59	IVM-39		16	11	
	SR22	27	58, 59	IVM-39		16	11	
	SR23	27	58, 59	IVM-39		16	11	
	SR24	28	59	IVN-39		写195	11	
	SR25	27	58, 59	IVM-39		16	11	
	SR26	28	60	IVR-44			11	
	SR27	28	60	IVQ-45			11	
	SR28	28	60	IVQ-45		16	11	
	SR29	28	60, 61	IVR-46			11	
	SR30	28	61	IVT-49, 50		16	11	
	SR31	28	61	IVS-49		写195	11	
	SR32	28	61	IVS-49		16	11	
	SR33	28	62	IVT-49		16	11	
	SR34	28	62	IVS-44		16	11	
	SR35	28	62	IVQ, IVR-44		16	11	
	SR36	28	62	IVR, IVS-44			11	

柱穴一覧表(1)

Pit No.	グリッド	深さ (cm)	出土遺物・備考
0001	IVQ-39	12	後期7-4期～晩期
0002	IVQ-39	13	後期7-4期～晩期
0003	IVR-40	15	後期7-4期～晩期
0004	IV0-36	43	晩期1期(図7-1)。
0005	IVN-36	31	遺物なし
0006	IV0-35	25	沈線のみ施文の土器片、晩期か。剥片(図161-8)。
0007	IV0-36	35	遺物なし
0008	IV0-36	34	遺物なし
0009	IVP-36	26	遺物なし
0010	IVP-36	17	遺物なし
0011	IVP-36	22	遺物なし
0012	IVP-36	20	遺物なし
0013	IVP-35	22	遺物なし
0014	IVP-35	32	遺物なし
0015	IVP-35	21	遺物なし
0016	IVP-35	38	遺物なし
0017	IVP-35	26	遺物なし
0018	IVS-38	113	晩期前葉壺頸部。
0019	IVR-37	114	多量に破片を含む。 柱痕で後期7-4深鉢ほか(図7-2, 3, 5, 6)、 掘方で後期7-4期～晩期の粗製深鉢(図7-4)。 S I 05より新しい。
0020	IVS-40	26	後期7-4期～晩期。
0021	IVS-41	37	遺物なし
0022	IVS-41	35	晩期赤彩壺。
0023	IVS-41	33	後期7-4期～晩期
0024	IVS-41	35	遺物なし
0025	IVR-41	34	晩期赤彩壺。
0026	IVS-41	21	遺物なし
0027	IVS-41	27	遺物なし
0028	IVR-41	25	晩期5期 浅鉢。
0029	IVR-40	35	後期7-4期～晩期
0030	IVR-41	24	遺物なし
0031	IVR-41	42	遺物なし
0032	IVR-39	45	晩期1期 台付鉢(図7-7)。
0033	IVS-39	17	晩期1a期 深鉢(図7-8)。
0034	IVR-44	33	後期7-4期～晩期の粗製深鉢(図7-9)。
0035	IVR-44	25	粘土1、礫3、石斧1(図163-1)。
0036	IVQ-38	1	遺物なし 【二列弧状の外側】
0037	IVQ-38	不明	遺物なし 【二列弧状の外側】
0038	IVQ-38	6	遺物なし 【二列弧状の外側】
0039	IVQ-38	7	遺物なし 【二列弧状の外側】
0040	IVQ-38	25	遺物なし 【二列弧状の外側】
0041	IVQ-38	13	後期7-4期～晩期 【二列弧状の外側】
0042	IVQ-38	10	遺物なし 【二列弧状の外側】
0043	IVR-38	19	後期7-4期～晩期 【二列弧状の外側】
0044	IVR-39	20	後期7-4期～晩期 【二列弧状の外側】
0045	IVR-39	15	遺物なし 【二列弧状の外側】
0046	IVR-39	不明	遺物なし 【二列弧状の外側】
0047	IVR-39	不明	遺物なし 【二列弧状の外側】
0048	IVR-38	6	平底の粗製深鉢底部。晩期。 【二列弧状の内側】
0049	IVR-38	5	遺物なし
0050	IVQ-38	不明	遺物なし 【二列弧状の内側】
0051	IVR-38	不明	遺物なし 【二列弧状の内側】

Pit No.	グリッド	深さ (cm)	出土遺物・備考
0052	IVR-38	15	遺物なし 【二列弧状の内側】
0053	IVR-38	23	遺物なし 【二列弧状の内側】
0054	IVR-38	16	遺物なし
0055	IVR-38	18	無文の注口土器。後期末葉～晩期初頭。
0056	IVR-38	14	後期7-4期～晩期
0057	IVR-38	17	遺物なし
0058	IVR-37	23	遺物なし
0059	IVR-37	36	遺物なし
0060	IVR-38	22	遺物なし
0061	IVS-37	28	遺物なし
0062	IVR-37	24	後期7-4期～晩期
0063	IVR-37	21	晩期1b期 壺(図7-10)。
0064	IVQ-38	11	後期7-4期～晩期
0065	IVR-38	9	後期7-4期～晩期
0066	IVR-39	31	晩期赤彩壺。
0067	IVR-39	27	後期7-4期～晩期
0068	IVR-39	17	無文の注口土器。後期末葉～晩期。
0069	IVR-39	26	遺物なし
0070	IVP-42	25	遺物なし
0071	IV0-42	12	後期7-4期～晩期
0072	IV0-41	26	後期8期深鉢(図7-11)、破碎した焼骨。
0073	IV0-41	12	遺物なし
0074	IV0-40	12	晩期1b期注口。
0075	IV0-40	20	遺物なし
0076	IVN-40	21	晩期1期注口。
0077	IV0-40	16	晩期前葉とみられる粗製深鉢(図7-12)。
0078	IVN-40	46	遺物なし
0079	IVN-39	23	遺物なし
0080	IVP-38	30	遺物なし
0081	IVR-43	17	遺物なし
0082	IVR-43	27	遺物なし
0083	IVR-43	18	遺物なし
0084	IVR-43	16	遺物なし
0085	IVR-43	15	遺物なし
0086	IVQ-43	31	遺物なし
0087	IVR-43	24	遺物なし
0088	IVR-43	27	遺物なし
0089	IVQ-39	36	遺物なし
0090	IVQ-40	22	遺物なし
0091	IVR-40	14	遺物なし
0092	IVR-40	9	遺物なし
0093	IVR-40	17	遺物なし
0094	IVQ-40	26	遺物なし
0095	IVQ-40	23	遺物なし
0096	IVQ-41	25	遺物なし
0097	IVQ-41	23	遺物なし
0098	IVQ-41	12	遺物なし
0099	IVQ-41	8	遺物なし
0100	IVR-40	35	遺物なし
0101	IVR-40	24	遺物なし
0102	IVS-39	31	遺物なし
0103	IVS-37	45	遺物なし
0104	IVS-37	22	遺物なし

柱穴一覧表(2)

Pit No.	グリッド	深さ (cm)	出土遺物・備考
0105	IVR-36	43	遺物なし
0106	IVR-37	29	遺物なし
0107	IVR-37	44	遺物なし
0108	IVQ-37	14	遺物なし 【二列弧状の内側】
0109	IVR-37	26	遺物なし
0110	IVR-37	19	遺物なし
0111	IVQ-37	25	後期7-4期～晩期の粗製深鉢(図7-13)。 【二列弧状の内側】
0112	IVQ-37	13	遺物なし
0113	IVQ-37	23	後期7-4期～晩期
0114	IVQ-37	29	遺物なし 【二列弧状の内側】
0115	IVQ-37	21	遺物なし 【二列弧状の内側】
0116	IVQ-37	23	遺物なし 【二列弧状の内側】
0117	IVQ-37	16	遺物なし
0118	IVQ-37	16	遺物なし
0119	IVQ-37	33	遺物なし
0120	IVQ-37	22	遺物なし
0121	IVQ-37	21	遺物なし
0122	IVP-43	20	遺物なし
0123	IV0-43	28	遺物なし
0124	IV0-43	34	遺物なし
0125	IV0-43	34	遺物なし
0126	IV0-44	26	最花式。後晩期を含まない(図7-14～18)。
0127	IV0-44	30	遺物なし
0128	IVN-48	34	晩期5期壺(図7-19)。
0129	IVR-46	23	後期7-4期～晩期の粗製深鉢(図7-20)。
0130	IVR-33	41	遺物なし
0137	IVR-32	29	遺物なし
0176	IVT-39	46	剥片7、RF1、石核1、石鏃1。 柱痕で条痕文深鉢(写193-30)、 掘方で晩期3～4期壺(写193-31)、 覆土で晩期5期深鉢(写193-29)。
0181	IVT-39	55	柱痕で晩期3期鉢(写193-32)、 掘方で晩期1b期深鉢。石鏃未成品1。
0187	IVT-35	52	後期7-4期深鉢(図3-2)、 掘方で異系統深鉢(図3-3)。 【SI101柱穴】
0188	IVU-35	32	晩期2期深鉢(図7-21)、 後期7-4期～晩期の粗製深鉢(図7-22) 【SI101柱穴】
0189	IVU-35	46	柱痕で後期8期深鉢(写193-25)。 掘方で晩期初頭の可能性がある摩滅した有文土器 片。晩期1期の粗製深鉢(図7-23)。【SI101柱穴】
0190	IVU-35	19	遺物なし 【SI101柱穴】
0191	IVU-35	26	遺物なし 【SI101柱穴】
0192	IVT-39	16	遺物なし
0194	IVT-38	24	遺物なし
0195	IVS-38	14	遺物なし
0196	IVT-39	11	遺物なし
0200	IVT-39	18	遺物なし
0208	IVT-38	96	剥片2、RF1。後期7-4期～晩期
0209	IVT-38	50	晩期1a期浅鉢(写193-33)。
0211	IVT-39	12	遺物なし
0212	IVT-39	17	遺物なし
0220	IVT-40	13	遺物なし
0221	IVT-40	16	遺物なし
0222	IVT-40	8	遺物なし
0223	IVT-40	11	遺物なし

Pit No.	グリッド	深さ (cm)	出土遺物・備考
0241	IVS-41	27	遺物なし
0242	IVT-41	70	遺物なし
0280	IVT-43	132	遺物なし
0307	IVT-44	33	後期7-4期～晩
0318	IVT-45	57	遺物なし
0319	IVT-45	18	遺物なし
0333	IVT-46	15	遺物なし
0336	IVT-46	36	後期7-4期～晩期
0337	IVT-46	19	柱痕で後期7-4期～晩期初頭の粗製深鉢。
0338	IVT-46	33	無文の注口土器。後期末葉～晩期初頭。
0340	IVT-47	30	遺物なし
0341	IVT-47	15	遺物なし
0418	IVT-41	27	遺物なし
0426	IVT-41	82	後期7-4期～晩期
0436	IVT-41	97	晩期5期深鉢(写193-34)。
0453	IVT-46	31	遺物なし
0455	IVT-46	31	遺物なし
0456	IVT-46	16	無文の注口土器。後期末葉～晩期初頭。
0457	IVT-46	93	高台状の底部。後期末葉～晩期初頭。
0458	IVT-46	21	遺物なし
0459	IVT-46	11	遺物なし
0533	IVT-47	27	剥片1。晩期前半とみられる粗製深鉢。
0535	IVU-34	40	晩期1a期深鉢(写193-20)。 【SI101柱穴】
0536	IVS-36	98	掘方で後期8期注口(図7-26, 27)、 柱痕および1層で晩期1a期深鉢(図7-24, 25)
0537	IVS-37	51	遺物なし
0538	IVS-37	54	後期7-4期～晩期の粗製深鉢(図7-28)。
0539	IVT-36	21	小波状口縁の粗製深鉢。後期末葉～晩期前半。
0540	IVU-35	21	遺物なし 【SI101柱穴】
0541	IVV-32	22	後期7-4期～晩期
0542	IVU-35	29	晩期4期鉢(写193-17)。 【SI101柱穴】
0543	IVV-32	19	後期7-4期～晩期
0544	IVU-35	46	後期7-4期～晩期 【SI101柱穴】
0545	IVU-34	50	掘方で晩期1a期の台付深鉢(写193-24)。 【SI101柱穴】
0546	IVU-35	22	後期7-4期～晩期 【SI101柱穴】
0547	IVT-37	25	遺物なし
0548	IVT-36	50	遺物なし
0550	IVT-35	14	後期7-4期～晩期 【SI101柱穴】
0555	IVU-35	19	柱痕で後期末葉～晩期初頭注口(写193-15)。 【SI101柱穴】
0556	IVT-35	49	後期7-4期～晩期 【SI101柱穴】
0558	IVU-36	28	遺物なし
0571	IVU-48	61	遺物なし
0577	IVT-37	20	遺物なし
0586	IVT-35	27	遺物なし 【SI101柱穴】
0587	IVT-35	22	遺物なし 【SI101柱穴】
0588	IVU-35	61	遺物なし 【SI101柱穴】
0589	IVU-35	28	遺物なし 【SI101柱穴】
0590	IVU-35	16	遺物なし 【SI101柱穴】
0591	IVU-35	46	遺物なし 【SI101柱穴】
0592	IVT-35	15	遺物なし 【SI101柱穴】
0593	IVU-36	23	遺物なし 【SI101柱穴】
0594	IVU-36	16	遺物なし 【SI101柱穴】

柱穴一覧表(3)

Pit No.	グリッド	深さ (cm)	出土遺物・備考
0595	IVU-35	27	遺物なし 【SI101柱穴】
0596	IVT-35	22	遺物なし 【SI101柱穴】
0597	IVT-35	20	後期7-4期～晩期 【SI101柱穴】
0598	IVT-34	15	晩期1b期深鉢。 【SI101柱穴】
0599	IVT-34	22	後期7-4期～晩期 【SI101柱穴】
0600	IVT-34	19	後期7-4期～晩期 【SI101柱穴】
0601	IVT-34	11	後期7-4期～晩期 【SI101柱穴】
0602	IVT-34	23	遺物なし 【SI101柱穴】
0603	IVT-34	10	後期7-4期～晩期 【SI101柱穴】
0604	IVT-34	10	後期7-4期～晩期 【SI101柱穴】
0605	IVT-34	13	後期7-4期～晩期 【SI101柱穴】
0606	IVT-34	18	後期7-4期～晩期 【SI101柱穴】
0607	IVT-34	17	晩期1a期台付鉢(図7-29)。 【SI101柱穴】
0608	IVT-34	21	後期7-4期～晩期 【SI101柱穴】
0609	IVT-34	18	後期7-4期～晩期 【SI101柱穴】
0610	IVU-34	13	後期7-4期～晩期 【SI101柱穴】
0611	IVU-34	14	後期8期深鉢。 【SI101柱穴】
0612	IVU-34	14	後期7-4期～晩期 【SI101柱穴】
0613	IVU-34	32	後期7-4期～晩期 【SI101柱穴】
0614	IVU-34	15	後期7-4期～晩期 【SI101柱穴】
0619	IVU-34	19	遺物なし 【SI101柱穴】
0620	IVU-34	25	異系統深鉢(図3-4)、晩期1a期台付深鉢(写193-16)。 【SI101柱穴】
0621	IVU-34	12	後期7-4期～晩期 【SI101柱穴】
0622	IVT-34	16	遺物なし 【SI101柱穴】
0623	IVT-35	37	柱痕で後期7-4期深鉢(写193-23)。 【SI101柱穴】
0624	IVT-35	12	遺物なし 【SI101柱穴】
0628	IVT-34	25	後期7-4期～晩期 【SI101柱穴】
0631	IVT-34	8	晩期1a期深鉢(写193-22)。 【SI101柱穴】
0632	IVU-34	13	後期7-4期～晩期 【SI101柱穴】
0642	IVT-34	16	後期8期注口土器(写193-21)。 【SI101柱穴】
0643	IVT-35	6	遺物なし 【SI101柱穴】
0644	IVT-35	10	晩期1期深鉢(写193-18)。 【SI101柱穴】
0645	IVT-35	11	遺物なし 【SI101柱穴】
0646	IVT-35	11	遺物なし 【SI101柱穴】
0647	IVT-35	6	遺物なし 【SI101柱穴】
0648	IVT-35	18	遺物なし 【SI101柱穴】
0649	IVT-35	22	後期7-4期～晩期 【SI101柱穴】
0650	IVS-36	30	遺物なし
0651	IVT-47	14	無文の精製壺。晩期。
0658	IVT-46	29	遺物なし
0666	IVT-34	9	後期7-4期～晩期 【SI101柱穴】
0667	IVT-34	27	後期7-4期～晩期 【SI101柱穴】
0668	IVT-34	14	遺物なし 【SI101柱穴】
0669	IVT-35	19	遺物なし 【SI101柱穴】
0670	IVT-35	27	遺物なし 【SI101柱穴】
0671	IVT-35	29	後期7-4期～晩期 【SI101柱穴】
0672	IVT-35	35	遺物なし 【SI101柱穴】
0673	IVT-35	39	遺物なし 【SI101柱穴】
0674	IVT-35	39	後期末葉～晩期初頭(写193-26)。 【SI101柱穴】
0675	IVT-35	31	遺物なし 【SI101柱穴】
0676	IVT-36	59	遺物なし 【SI101柱穴】
0692	IVT-35	28	遺物なし 【SI101柱穴】
0693	IVT-35	29	後期7-4期～晩期 【SI101柱穴】

Pit No.	グリッド	深さ (cm)	出土遺物・備考
0695	IVT-35	39	遺物なし 【SI101柱穴】
0707	IVV-34	40	後期7-4期深鉢(写193-27)、耳飾。
0710	IVT-36	50	後期7-4期～晩期 【SI101柱穴】
0711	IVU-36	40	遺物なし 【SI101柱穴】
0712	IVU-36	33	遺物なし 【SI101柱穴】
0713	IVU-36	25	遺物なし 【SI101柱穴】
0714	IVU-35	15	遺物なし 【SI101柱穴】
0715	IVU-35	11	遺物なし 【SI101柱穴】
0716	IVT-34	22	遺物なし 【SI101柱穴】
0717	IVR-33	52	遺物なし
0718	IVR-33	16	遺物なし
0719	IVV-33	20	遺物なし
0720	IVV-33	45	後期7-4期深鉢(写193-28)。
0733	IVT-42	53	遺物はPit0436・0733で取りあげている。後期7-4期～晩期。剥片2。
0743	IVT-40	71	晩期3期浅鉢(写193-35)。
0787	IVT-38	44	後期7-4期～晩期
0824	IVT-40	22	遺物なし
0829	IVT-41	13	遺物なし
0830	IVT-41	37	遺物なし
0870	IVT-46	28	遺物なし
0927	IVT-47	15	遺物なし
0928	IVT-47	18	遺物なし
0929	IVT-47	17	遺物なし
0931	IVU-48	17	遺物なし
0932	IVT-48	24	遺物なし
0934	IVU-48	16	遺物なし
1038	IVT-39	21	遺物なし
1039	IVT-38	13	剥片1
1086	IVT-41	84	赤彩土器。晩期か。
1115	IVT-47	22	遺物なし
1117	IVW-32	30	晩期1a期深鉢(図7-31)。後期7-4期～晩期の粗製深鉢(図7-30)。
1118	IVS-38	10	遺物なし
1119	IVS-38	10	遺物なし
1125	IVT-39	11	遺物なし
1126	IVS-39	6	遺物なし
1127	IVS-39	4	遺物なし
1128	IVT-39	13	遺物なし
1131	IVS-41	7	遺物なし
1132	IVT-41	24	遺物なし
1133	IVT-41	41	遺物なし
1134	IVS-42	26	遺物なし
1146	IVT-45	47	後期7-4期～晩期
1174	IVS-36	36	遺物なし
1175	IVU-35	19	遺物なし 【SI101柱穴】
1176	IVV-33	30	遺物なし
1177	IVV-33	27	遺物なし
1178	IVV-33	18	遺物なし
1179	IVV-33	23	後期7-4期～晩期
1180	IVV-33	14	遺物なし
1181	IVU-33	20	遺物なし
1182	IVU-32	25	遺物なし
1188	IVU-33	27	遺物なし

遺物觀察表

縄文土器観察表(1)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
1-1	93	SI01	貼床	深鉢	Ⅱ	晩期1b	口唇：刻目。外面：沈線。縄文LR(横位)。内面：ナデ。胎土：海綿骨針少量。使用痕：外スス。内コグ。			348
1-2	93	SI01	貼床	深鉢	Ⅱ	晩期1a~b	外面：沈線。縄文LR(横位)。内面：ナデ。胎土：海綿骨針少量。使用痕：なし。			347
1-3	93	SI01	貼床	注口		晩期1a	外面：ミガキ。内面：ミガキ。内外面全体を黒色に焼き上げているが光沢は乏しい。	1-4と同一個体。		352
1-4	-	SI01	上層	注口		晩期1a	-	1-3と同一個体。		353
1-5	93	SI01	下層	深鉢	Ⅰ	晩期1b	平口縁に刻目を持つ突起。外面：沈線による入組文。縄文LR(横位)。内面：ナデ。胎土：海綿骨針少量。使用痕：外スス。			350
1-6	93	SI01	下層	浅鉢か		晩期1a	外面：縄文LR(横位)に沈線(三叉文か)。体部無文。内面：ナデ。胎土：目立った砂粒を含まない。使用痕：外スス。	黒色漆塗彩。		351
1-7	93	SI01	上層	深鉢		後期後葉 ~晩期	外面：縄文LR(横位)。内面：ナデ。底部：ナデ。高台。胎土：砂粒多い。使用痕：なし。	底径：5.0cm。		349
1-12	93	SI02	床面	深鉢	Ⅱ	晩期1b	外面：沈線。体部縄文LR(横位)。内面：ナデ。使用痕：内コグ。		P-15	358
1-13	93	SI02	1層	深鉢		後期7-4	平口縁に突起。口唇：面取。外面：沈線間に連続する刻目。突起下に貼瘤。縄文LR。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。			354
1-14	93	SI02	1層	深鉢		後期7-4	外面：沈線間に連続する刻目。縄文LR(横位)。内面：ナデ。使用痕：不明。			361
1-15	93	SI02	1層	深鉢		晩期1a	外面：沈線による入組文。縄文LR(磨消)。内面：ナデ。使用痕：外スス。内コグ。			362
1-16	93	SI02	1層	浅鉢か		晩期1a~b	外面：沈線。沈線による入組文。縄文LR。内面：ナデ。			364
1-17	93	SI02	1層	壺		晩期2	口唇：刻目。外面：沈線。沈線間に連続する刻目。内面：沈線。ナデ。胎土：海綿骨針。			363
1-18	93	SI02	1層	注口		晩期2~3	外面は全体を黒色に仕上げている。外面：沈線。ミガキ。内面：ナデ。胎土：海綿骨針を含む。使用痕：なし。			360
1-19	93	SI02	1層	台付鉢		晩期1a~b	外面：沈線。縄文LR。内面：ナデ。使用痕：なし。	底径：6.5cm。	P-1	366
1-20	93	SI02	1層	粗製又は半精製壺		後未~晩初	外面：沈線。体部縄文LR(横位)。内面：ナデ。			357
1-21	93	SI02	1層	粗製深鉢	Ⅰ	後期後葉 ~晩期	縁やかな波状口縁か。口唇：面取。外面：縄文LR(横位)。内面：ナデ。使用痕：外スス。内コグ。			359
1-22	93	SI02	1層	粗製深鉢	Ⅰ	後期後葉 ~晩期	小波状口縁。外面：縄文LR。内面：ナデ。使用痕：外スス。			365
1-23	93	SI02	1層	粗製深鉢	Ⅰ	後期後葉 ~晩期	口唇：面取。外面：縄文LR(横位)。内面：ナデ。胎土：海綿骨針を含む。使用痕：外スス。			355
1-24	93	SI02	1層	粗製深鉢		後期後葉 ~晩期	外面：縄文LR(横位)。内面：ナデ。底部：ナデ。高台。胎土：小礫。使用痕：外スス。		P-2	356
2-1	93	SI04	貼床	深鉢	Ⅰ	晩期2~3	口唇：刻目。外面：沈線。縄文LR。口縁直下に刺突か。内面：ナデ。胎土：精良。使用痕：外スス。			2288
2-2	93	SI04	貼床	深鉢		後期7-4	平口縁に突起。口唇：面取。外面：縄文LR。沈線間に連続する刻目。最上段の刻目は縄文地に施される。磨消縄文による文様。貼瘤。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。			2291

縄文土器観察表(2)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
2-3	93	SI04	1層	深鉢	ICI	晩期5	外面：口縁に縄文LR。口縁直下に無文帯。縄文地(縄文LR)に多条の沈線。最上部の沈線は低い突起により塗切れており、眼鏡状隆起のようになっている。内面：口縁が内側に傾斜し、その部分に沈線。板状工具によるナデ。胎土：砂粒。使用痕：内コゲ。	2-4と同一個体。		2295・2294
2-4	93	SI04	1層	深鉢	ICI	晩期5	外面：縄文LR。沈線。底部：平底。底面はケズリ後ナデ。内面：摩滅。胎土：小礫。使用痕：確認できない。	2-3と同一個体。		2296
2-8	93	SI05	1層	深鉢		後期8	小波状口縁の可能性あり。外面：縄文LR(横位)。沈線。部分的にナデ。内面：ナデ。胎土：3~5mmの小礫含む。使用痕：外スス。			367
2-9	93	SI06	覆土	深鉢	I	晩期1b	口唇：面取なし。外面：入組三又文。沈線。体部縄文LR。内面：ナデ。胎土：精良。使用痕：確認できない。非常に器壁が薄い。			2289
3-1	94	SN45	焼土	深鉢	II	晩期2	口唇：刻目。外面：沈線。刻目。羊歯状文か。内面：ナデ。口縁に強い張り出し。胎土：砂粒。使用痕：外スス。内コゲ。			2275
3-2	94	Pit0187	覆土	深鉢	I	後期7-4	口唇：面取。外面：沈線間に連続する刻目。ナデ。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。砂粒。使用痕：外スス。			2269
3-3	94	Pit0187	掘方	深鉢		後期前葉～晩期前葉	口唇：面取。外面：沈線間に連続する円形刺突。刺突は竹管状の工具による。体部縄文LR。内面：ナデ。	異系統か。		2268
3-4	94	Pit0620	覆土	深鉢		後期前葉～晩期前葉	一	3-5と同一個体。異系統か。		2261
3-5	94	SN45周辺(IVU-34)	2層	深鉢		後期前葉～晩期前葉	口唇：面取。外面：縄文地(縄文LR)に刻目(4段まで確認できる)。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。	3-4と同一個体。異系統か。		2260
3-6	94	SN45周辺(IVU-35)	III層	台付鉢		晩期2	外面：沈線。縄文LR。台部ナデ。内面：ケズリのちナデ。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：11.3cm、器高：13.3cm、底径：7.3cm。	P-2056	2183
3-7	94	SN45周辺(IVU-35)	Pit0189 確認面	台付鉢か		晩期2	外面：沈線。縄文LR(無筋)。内面：ナデ。胎土：クサリ礫。海綿骨針。使用痕：なし。			2270
3-8	94	SN45周辺(IVT-35)	炭下焼土	壺	III	後期8	外面：縄文LR。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。	器高：11.1cm、底径：3.2cm。		2136
3-9	94	SN45周辺(IVU-34)	2層	深鉢	I	後期7-4	口唇：面取。外面：縄文LR。沈線間に連続する刻目。体部ナデ。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。			2273
3-10	94	SN45周辺(IVU-34)	2層	深鉢	II Ba3t	後期7-4	波状口縁(5単位)。波頂部面脇に突起。波底部に突起。口唇：面取。外面：貼瘤。貼瘤上に刻目。沈線間に連続する刻目。沈線による入組文。縄文LR(磨消)。体部無文(接合しなない同一個体で確認)。貼瘤は文様施文後に貼付。使用痕：外スス。胎土：砂粒。海綿骨針。	口径：32.1cm。施文順(沈線→縄文、刻目→沈線再施文)。		2113
3-11	94	SN45周辺(IVU-34)	2層・床下・III層	鉢	II Ba3t	後期7-4	波状口縁(4単位)。波頂部三山状突起。口唇：面取。波底部に2個一組の突起。外面：沈線間に連続する刻目。沈線による入組文。縄文LR。貼瘤。体部無文。使用痕：外スス。胎土：小礫。海綿骨針。	口径：26.8cm。施文順(沈線→縄文、刻目、貼瘤→沈線再施文)。	P-2419	2195
3-12	94	SN45周辺(IVT-34)	III層	深鉢		後期8	平口縁に突起(大小2種。ともに頂部に刻目)。口唇：面取。外面：沈線。刻目。ナデ。沈線による粗雑な入組文。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。			2239
3-13	94	SN45周辺(IVT-34)	III層	深鉢		後期8	平口縁に連続する突起。突起上に刻目。口唇：面取。外面：縄文LR。沈線。沈線による入組文。縄文LR(磨消)。磨消部はナデ。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。			2249
3-14	94	SN45周辺(IVU-35)	III層	浅鉢	I B1	晩期2	口唇：面取なし。外面：口唇部に沈線と短沈線で半歯状文風の文様。体部は沈線による文様。縄文LR(磨消)。磨消部はミガキ。底部：円形の凹底。内面：ミガキ。胎土：精良。使用痕：なし。内外面黒斑。	口径：16.3cm、底径：5.0cm、器高：6.9cm。	P-2054	2191
3-15	94	SN45周辺(IVT-35)	III層	浅鉢	I	晩期2	口唇：沈線。外面：沈線。羊歯状文。部分的に縄文LR。内面：ナデ。胎土：精良。使用痕：なし。		P-2262	2258
4-1	-	SN01		深鉢		晩期2か	口唇：刻目。外面：ケズリ。内面：ナデ。底部：ナデ。胎土：4mm以下の小礫を多く含む。使用痕：はっきりしない。	4-2と同一個体。炉体		333-1

縄文土器観察表(3)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
4-2	94	SN01		深鉢		晩期2か	—	底径：9.0cm、4-1と同一個体。	P-1	333-2
4-3	94	SN03	覆土	深鉢か		後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：沈線2条。縄文LR。内面：ナデ。使用痕：なし。			334
4-4	94	SN25	III層	深鉢	I	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR(複筋)。内面：ナデ。約5mm幅の工具。単位内に細かい筋が認められる。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。内面に灰白色の付着物。			1463
4-5	94	SN25	III層	深鉢		後期後葉 ～晩期	外面：縄文LR。底部：高台。底面は荒れている。内面：ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外スス。			1459
4-6	94	SN25	III層	粗製深鉢		後期後葉 ～晩期	外面：縄文LR(横位)か。内面：ナデ。底部：低平な高台。ナデ。胎土：長石粒を多く含む。使用痕：外全体に赤化し荒れている。内コグバンドは残存するが炉としての使用時の赤化が目立つ。底面荒れている。	底径：8.5cm、炉としての埋設前に煮沸用として使用されていたと考えられる。	炉体	332
4-7	94	SN28	III層	粗製深鉢	I	後期後葉 ～晩期	外面：縄文LR(横位)。内面：ナデ。使用痕：外スス。内コグ。	4-8と同一個体。	P-2	331-1
4-8	—	SN28	III層	粗製深鉢		後期後葉 ～晩期	—	4-7と同一個体。	P-1	331-2
4-9	94	SN28	III層	台付鉢		晩期	外面：ナデ。内面：ナデ。胎土：海綿骨針少量。使用痕：なし。		P-3	329
4-10	94	SN31	III層	深鉢	II	晩期1b	小波状口縁。外面：波頂部下に凹形刺突。波底部から刺突に接続する弧線。最上部の沈線から上方に向けてトゲ状の抉り。縄文LR。沈線。横位に連続する短沈線。三叉状の抉り。内面：ナデ。胎土：クサリ礫。使用痕：外スス。内コグ。	口径：16.1cm、内面に赤色顔料付着。顔料精製に関連する土器か。	P-2	336・337-1
4-11	94	SN31	III層	深鉢	II	晩期1b	小波状口縁。外面：沈線。沈線間に連続する短沈線。縄文LR(横位)。内面：ナデ。使用痕：外スス。内コグ。		P-2	335
4-12	95	SN32	III層	深鉢		後期後葉 ～晩期	外面：ナデ。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：内コグ。			1461
4-13	95	SN32	III層	深鉢		後期7-4	外面：沈線間に連続する刻目。ナデ。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外ス。内コグ。			1464
4-14	95	SN33	I層	粗製又は半精製壺	III1	後未～晩初	外面：沈線。体部縄文LR(横位)。底部との境界に沈線。底部：高台。ナデ。内面：ナデ。口縁に連続する突起。外面：貼瘤。沈線間に連続する刻目。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コグ。	口径：7.0cm、器高：13.6cm、底径：5.6cm。	P-1	330
4-15	95	SN33	覆土	深鉢		後期7-4	口縁に連続する突起。外面：貼瘤。沈線間に連続する刻目。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コグ。	施文順(沈線→刻目)。		1416
4-16	95	SN33	覆土	粗製深鉢		後期後葉 ～晩期	平口縁に突起。口唇：面取。外面：縄文L(無筋)。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。			1414
4-17	95	SN33	I層	台付鉢		後期後葉 ～晩期	外面：ナデ。台部が付くと思われる。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：全体が赤化しており、二次被熱か。		P-3	1460
4-18	95	SN35	覆土	注口		後期8	外面：沈線による入組文。縄文LR(磨消)。磨消部ナデ。体部ナデ。内面：筋のつくナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：なし。		P-7	1415
4-19	95	SN35	覆土	深鉢		後期後葉 ～晩期	外面：ナデ。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：確認できない。		P-6	1462
4-20	95	SN35	覆土 III層	粗製深鉢	I Bb1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。口縁に面取時の粘土の段。その上から縄文を施文。内面：ケズリのちなナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：なし。全体が赤化しており、二次被熱か。	4-21、22と同一個体。内外面赤色顔料付着。	P-8	1465
4-21	95	IV0-46	III層	粗製深鉢	I Bb1	後期後葉 ～晩期	外面に黒斑。	4-20、22と同一個体。内面赤色顔料付着。	P-1474	1467
4-22	95	SN35	覆土	粗製深鉢	I Bb1	後期後葉 ～晩期	—	4-20、21と同一個体。内面赤色顔料付着。	P-2, 3	1466
5-5	95	SQ12	I層中	粗製深鉢	II Bc1	後期後葉 ～晩期	粘土紐の最上部は内面の接合痕が残る。口唇：面取。外面：口縁外端は強いツマミナデ。縄文LR。内面：口縁肥厚。ナデ。使用痕：はつきりしない。	口径：27.5cm。	P-1	407

縄文土器観察表(4)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
6-2	96	SN39脇 (IVT-48)	Ⅲ層	深鉢	ⅡBa5	後期7-4	突起が連続する口縁。口唇：面取。口縁部文様帯には口縁部形態に連動しLR縄文帯が波状に巡る。頸部文様帯の上端と下端を、斜め構方向からの幅狭の刻目を施す刻目帯で画し、刻目帯には突起に呼応する貼瘤を付す。頸部文様帯には、3段の右下がりの入組文。入組文の起点部、連繫部、終点部が突起と呼応し、入組文の描線の上端と下端が区画帯に連結する特徴がある。体部はナデ。胎土：細砂粒。海綿骨針。胎土が緻密で精選され、粘土基質の量比が高い。使用痕：外スス、内コゴ。	口径：29.4cm。	P-1828	1244
6-3	96	(SN42) 欠番遺構	焼土下	深鉢	Ⅱ	晩期1b	口唇：刻目。外面：沈線。沈線に斜めの部分があり、入組三又文か。内面：ナデ。胎土：精良。使用痕：外スス、内コゴ。			2292
6-4	96	SN43	埋設炉	粗製深鉢	Ⅰ	後期後葉 ～晩期	口唇：面取なし。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：確認できない。全体に赤化。			2290
6-5	96	SN44	焼土直上	壺か	Ⅱ	晩期前葉か	口唇：面取なし。外面：粗いミガキ。沈線。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：なし。		P-1	2293
6-6	96	SN49	炉体	粗製深鉢	IAa1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取なし。外面：縄文LR。摩滅により不明瞭。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス、内コゴ。	口径：22.0cm。		2090
7-1	96	Pit0004	覆土	深鉢	Ⅱ	晩期1a～b	外面：縄文地(縄文LR)に沈線。内面：ナデ。使用痕：外スス。			373
7-2	96	Pit0019	1層 柱痕	粗製深鉢	Ⅰ	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR(横位)。内面：ナデ。使用痕：外スス。			370
7-3	96	Pit0019	1層 柱痕	粗製深鉢	Ⅰ	後期後葉 ～晩期	平口縁に突起。口唇：面取。外面：縄文LR(横位)。内面：ナデ。使用痕：外スス。			369
7-4	96	Pit0019	2層 柱痕	粗製深鉢	Ⅰ	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR(横位)。内面：ナデ。使用痕：外スス。			371
7-5	96	Pit0019	柱痕	深鉢		後期7-4	平口縁に突起。口唇：突起部以外面取。外面：突起下に貼瘤。貼瘤上に刻目。沈線間に連続する刻目。内面：ナデ。使用痕：外スス。			368
7-6	96	Pit0019	柱痕	深鉢		後期7-4	外面：沈線間に連続する刻目。縄文LR(横位)。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス、内コゴ。			372
7-7	96	Pit0032	1層	台付鉢		晩期1a～b	外面：縄文LR。台部ナデ。内面：ナデ。台部内面ナデ。使用痕：外スス。	底径：9.0cm。	P-1	375
7-8	96	Pit0033	1層	深鉢	ⅡBb4	晩期1a	小波状口縁。口唇：面取。外面：縄文LR。沈線描出が粗雑。文様帯上下端を2本の沈線で区画。沈線による入組文。入組文の屈曲部に三又状の沈線。上下の沈線は何度か書き直しており、部分的に3本存在する場所もある。体部縄文LR(横・斜位)。内面：ナデ。使用痕：不明。黒斑残るため使用頻度低い。	口径：19.4cm。	P-5, 3	382
7-9	96	Pit0034	1層	粗製深鉢	Ⅰ	後期後葉 ～晩期	平口縁に突起(形状不明)。口唇：刻目。外面：縄文LR(横位)。内面：ナデ。使用痕：外スス。			374
7-10	96	Pit0063	1層	壺		晩期1b	外面：沈線。体部縄文LR(横位)。内面：ナデ。			381
7-11	96	Pit0072	1層	深鉢又は 鉢		後期8	外面：沈線。文様モチーフ不明。縄文LR。内面：ナデ。使用痕：外スス。胎土：2mm以下の小礫。海綿骨針。			377
7-12	96	Pit0077	1層	粗製深鉢	Ⅱ	後期後葉 ～晩期	小波状口縁。外面：縄文LR(横・斜位)。内面：ナデ。使用痕：外スス、内コゴ。			376
7-13	96	Pit0111	覆土	深鉢	Ⅰ	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：ナデ。内面：ナデ。胎土：海綿骨針少量。使用痕：外スス。			380
7-14	96	Pit0126	覆土	深鉢		最花	波状口縁。外面：刺突。胎土：海綿骨針少量。	補修孔あり。		383
7-15	96	Pit0126	覆土	深鉢		最花	外面：刺突。沈線。摩滅のため縄文は確認できない。内面：ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。使用痕：なし。			385

縄文土器観察表(5)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
7-16	96	Pit0126	覆土	深鉢		中期後葉	外面：縄文LR(縦位)。内面：ナデ。使用痕：外スス。			386
7-17	96	Pit0126	覆土	深鉢		中期後葉	外面：縄文RLR(斜位)。使用痕：外スス。			387
7-18	96	Pit0126	覆土	深鉢		中期後葉	外面：縄文RLR(斜位)。底部付近には縄文なし。内面：ナデ。使用痕：外スス。			384
7-19	97	Pit0128	覆土	台付浅鉢	II Bc1t	晩期5	平口縁に突起。外面：工字文。内面：ナデ。使用痕：不明。	内面赤彩。		378
7-20	97	Pit0129	覆土	深鉢		後期後葉 ～晩期	外面：縄文LR。内面：ナデ。底部：ナデ。高台。使用痕：外スス。			379
7-21	97	Pit0188	覆土	深鉢	II Bc2	晩期2	口唇：刻目。外面：ナデ。沈線。半歯状文。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。			2271
7-22	97	Pit0188	覆土	深鉢	I	後期後葉 ～晩期	平口縁に突起。口唇：面取なし。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。			2272
7-23	97	Pit0189	覆土	深鉢か	II	晩期1a～b	外面：沈線。縄文LR。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕なし。			2274
7-24	97	Pit0536	I層	深鉢	II	晩期1a	小波状口縁。外面：縄文地(縄文LR)に沈線。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。 内コゲ。			2257
7-25	97	Pit0536	柱痕	深鉢		晩期1a	外面：縄文地(縄文LR)に沈線。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕なし。			2256
7-26	97	Pit0536	掘方	注口か		後期8	波状口縁か。口唇：面取。外面：口縁肥厚。沈線。縄文LR。無文部は粗いナデ。貼瘤(頂部刻目が1本のものと2本のもの2種)。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕なし。	7-27と同一個体。		2314
7-27	97	Pit0536	柱痕・掘方	注口か		後期8	—	7-26と同一個体。		2313
7-28	97	Pit0538	覆土	深鉢	I	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。			2259
7-29	97	Pit0607	覆土	台付鉢か		晩期1a	外面：ミガキ。沈線。縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕なし。	外面赤彩(漆)。		2264
7-30	97	Pit1117	覆土	深鉢	I	晩期	平口縁に連続した突起。口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：凝灰岩片。海綿骨針。使用痕：外スス。			2262
7-31	97	Pit1117	覆土	深鉢		晩期1a	外面：沈線。縄文LR(磨消)。磨消部ナデ。体部縄文LR。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。			2263
8-1	97	SK01	2層	半精製鉢	I Ba1	晩期4	口唇：刻目。外面：沈線3条。縄文RL(斜位)。内面：口縁に凹線。使用痕：外スス。			338-2
8-2	97	SK01	2層	深鉢		晩期4	外面：縄文LR(斜位)。内面：ナデ。底部：ナデか。使用痕：外スス。	底径：4.8cm。		338-1
8-3	97	SK04		浅鉢	I	晩期3か	外面：沈線。内面：ナデ。口縁肥厚。使用痕：不明。	内外面赤彩。		340
8-4	97	SK04	覆土	注口		晩期1～2	外面：ミガキ。沈線。内面：ナデ。			339
8-5	97	SK04	I層	半精製鉢	II Bc2t	晩期3	口唇：刻目。刻目の間に突起があったと思われるが欠損の為不明。外面：沈線間に刺突列。縄文RL(斜位)。内面：口縁に強い張り出し。使用痕：外スス。	口径：10.8cm。 施文順(縄文→沈線)。	P-1	79
8-6	97	SK04	I層	深鉢		後期後葉 ～晩期	外面：縄文LR(横位)。内面：ナデ。使用痕：外スス。内コゲ。	底径：6.7cm。	P-1	341
8-7	97	SK05	覆土	半精製深鉢	II Ba1	後期8	口唇：内削ぎに面取。外面：口縁と頸部に沈線。ナデ。内面：ケズリのちナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。	外面炭：3020±20yrBP。 補修孔。		2297

縄文土器観察表(6)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
9-1	97	SQ01	確認面	注口又は壺		後期7-4	平口縁に突起。口唇：面取。外面：ナデ。貼瘤。縄文LR。内面：ナデ。胎土：海綿骨針多く含む。			395
9-2	97	SQ01	確認面	注口		後期7~8	外面：注口部先端及び基部に縄文LR。貼瘤。貼瘤上面に刻目。内面：ナデ。胎土：海綿骨針を多く含む。使用痕：なし。	注口部充存。		393
9-3	97	SQ01	確認面	注口		後期7~8	注口部は確認できない。外面：ナデ。内面：ナデ。底部：高台。胎土：海綿骨針多量。	底径：1.9cm。		344
9-4	97	SQ01	確認面	深鉢	II	後期8	口唇：面取。外面：沈線による入組文。縄文LR(摩滅)。内面：ナデ。胎土：2mm以下の小窪含む。使用痕：外スス。			396
9-5	97	SQ01	I層	台付鉢か	II Ba5	後期7~8	小波状口縁。外面：沈線。縄文LR。内面：ナデ。使用痕：内コゴ。			397
9-7	97	SQ02	確認面	深鉢		後期7-4	平口縁に台形突起。口唇：面取。外面：突起下に貼瘤。沈線。刻目。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。			392
9-8	97	SQ02	確認面	浅鉢	I	後期7~8	口唇：面取。外面：縄文LR。沈線。ナデ。内面：ナデ。		P-3	394
9-9	97	SQ02	確認面	深鉢	I	後期8	平口縁に突起。外面：沈線。縄文LR。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。			390
9-10	97	SQ02	確認面	粗製深鉢	I	後期後葉 ~晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：小窪。海綿骨針。使用痕：外スス。		P-2	389
9-11	97	SQ02南(IV V-32)・ IVU-31・ IVU-32	III層	深鉢	II Ba5	後期7-4	口縁に連続する突起(計14単位)。山形突起と上部に刻目のある台形突起の2種が交互に配置されるが、1箇所は台形突起が連続して並んで付される。台形突起の内面は「八」の字状に肥厚。口唇：面取。外面：台形突起の下に三角形の無文部。縄文LR。沈線。貼瘤。沈線による入組文(8単位)。縄文LR(摩滅)。胎土：体部ナデ。内面：ナデ。使用痕：外スス。内コゴ。胎土：緻密で粘土基質の量比が高い。細砂粒。海綿骨針。	口径：22.7cm。 補修孔。 施文順(沈線→貼瘤→縄文)。		1076
9-12	97	SQ06		深鉢か		後期8	口縁に突起。外面：沈線。縄文LR。内面：ナデ。使用痕：外スス。			391
9-13	97	SQ06		粗製深鉢	I	後期後葉 ~晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。使用痕：外スス。胎土：海綿骨針。			388
9-15	98	SQ07	I層	粗製深鉢	I	後末~晩初	外面：条痕。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。2mm程度の小窪少量。使用痕：外スス。	9-16と同一個体。		345-1
9-16	98	SQ07	I層	粗製深鉢	I	後末~晩初	—	9-15と同一個体。		345-2
9-17	98	SQ07	I層	深鉢		後期8か	外面：沈線間に連続する刻目。内面：ナデ。胎土：海綿骨針多い。使用痕：外スス。			346
9-19	98 巻頭9下	SQ08	2層	壺	III 1	晩期3	口唇：面取なし。外面：頸部ミガキ。体部沈線。沈線による雲形文(彫去なし)。縄文LR(磨消)。C字文は4単位だが大きさが不揃い。体部下半ミガキ。底部：円形の凹底。内面：ナデ。口縁沈線。胎土：精良。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：4.5cm、底径：3.5cm、器高：11.8cm。 施文順(縄文→沈線→磨消)。 外面および内面口縁部赤彩(漆)。	P-2	22
10-1	98	SQ09		注口	III	後期8	外面：沈線。ナデ。底部：高台。体部と底部の境に沈線。内面：ナデ。胎土：小窪。使用痕：なし。	底径：5.5cm。 注口部は途中から欠損。	P-2	27
10-2	98	SQ09	覆土	半精製鉢	II Bc1	晩期4	平口縁に突起(単位はおそらく2単位だが形状は不明)。外面：沈線3条。縄文LR(横位)。内面：沈線1条。突起裏に別沈線。使用痕：外面黒斑残るため使用頻度低い。内面僅かにコゴあり。	口径：11.8cm。	P-1	342
10-3	98	SQ09・ IVR-45	覆土・ III層	半精製壺	III 1	晩期3	口唇：面取。外面：沈線。隆帯上に突起。体部縄文LR(横位)。内面：沈線。ナデ。胎土：砂粒。小窪多く含む。	口径：22.5cm。	P-6, 1405	343
10-4	98	SQ09・ IVR-45	覆土・ III層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉 ~晩期	口唇：面取。外面：ナデ。粘土紐の接合痕が残る。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。内コゴ。内外面に黒斑残るため使用頻度低い。	口径：33.0cm。	P-7, 843	1087

縄文土器観察表(7)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
10-7	99	SQ11脇 (IVS-47)	Ⅲ層	半精製壺	Ⅲ1	後期8	口唇:面取。外面:縄文RL。沈線。ナデ。底部:高台。内面:ナデ。胎土:小礫多く含む。使用痕:なし。外面黒斑。	口径:10.2cm、器高:29.0cm、底径:8.1cm。	P-1617, 1703, 1766	1313
10-8・9	98	SQ11脇 (IVS-47)	Ⅲ層	粗製深鉢		後期7~8	平口縁にB突起。口唇:面取。口縁に面取時の粘土の段。外面:ナデ。底部:高台。内面:ナデ。胎土:小礫。使用痕:外スス。内コガ。外底面に黒斑。	口径:14.9cm、器高:5.9cm、底径:8.3cm。	P-1619	1400
10-10	98 巻頭8上	SQ11脇 (IVS-47)	Ⅲ層	浅鉢	I B1	後期7-4	口唇:面取。外面:ミガキ。沈線。縄文RL(磨海)。貼附列4単位(正面以外は一列に4個。正面は3個か)。注口部:先端と基部に沈線。縄文RL。底部:高台。内面:ナデ。胎土:砂粒。海綿骨針。使用痕:なし。内外面に黒斑。	外面内外面赤彩。一部に光沢のあるアスファルト付着。併した10-8が形式的に古い特徴を有すため、7章では7-4期とした。	P-1615	1198
11-1	98	SQ11脇 (IVS-47)	Ⅲ層	注口	Ⅲ	後期7-4	外面:沈線。貼附。縄文RL。ミガキ。注口先端磨滅。注口部:先端に沈線、縄文RL。基部に沈線。縄文RL。貼附。底部:高台。内面:ナデ。胎土:砂粒。海綿骨針。使用痕:なし。内外面に黒斑。	口径:7.3cm、器高:16.7cm、底径:3.4cm。 注口部完存。	P-1625	1220
11-2	98 巻頭8上	SQ11脇 (IVS-47)	Ⅲ層	注口	Ⅱ1	後期7-4	口唇:面取。外面:ミガキ。沈線。縄文RL(磨海)。貼附列4単位(正面以外は一列に4個。正面は3個か)。注口部:先端と基部に沈線。縄文RL。底部:高台。内面:ナデ。胎土:砂粒。使用痕:なし。	口径:8.7cm、底径:2.0cm、器高:20.2cm。 体部に穿孔。注口部完存。	P-1614	12
11-4	99	SQ14	2層	深鉢		後期後葉 ~晩期	外面:横方向の筋は沈線ではなく調整の痕跡。縄文RLか。燃糸文の可能性もある。内面:ナデ。胎土:砂粒。使用痕:外スス。			2286
11-5	99	SQ14	2層	深鉢		円筒下層	外面:縄文LR押圧。縄文RL。内面:ナデ。胎土:繊維。使用痕:外スス。			2285
11-8	99	SQ16 (SQ17下 IVV-33)	Ⅲ層	深鉢		後期7-4	平口縁に突起。口唇:面取。外面:縄文LR。沈線。貼附。沈線間に連続する刻目。内面:ナデ。胎土:小礫。使用痕:外スス。内コガ。			2279
11-9	99	SQ16(SQ17 下 IVV- 33)		深鉢		後期7-4	口唇:面取。外面:沈線間に連続する刻目。内面:ナデ。胎土:小礫。使用痕:外スス。			2280
11-10	99	SQ16(SQ17 下 IVV- 33)		粗製深鉢	I	後期後葉 ~晩期	口唇:面取。口縁内外に面取時の粘土の段。外面:縄文RL。内面:ナデ。胎土:小礫。海綿骨針。使用痕:外スス。			2281
11-11	99	SQ18 西石 組	覆土上位	深鉢		後期7-4	口唇:面取。外面:沈線間に連続する刻目。貼附の剥離痕。内面:ナデ。胎土:小礫。使用痕:外スス。			2282
11-12	99	SQ18	掘方 A1層	注口か		後末~晩初	外面:沈線。ミガキ。内面:ケズリ。胎土:海綿骨針。砂粒。使用痕:なし。			2284
11-13	99	SQ18	掘方	深鉢		後期7~8	外面:沈線。刻目。縄文RLか。沈線による入組文か。磨消部ナデ。内面:ナデ。胎土:小礫。海綿骨針。使用痕:外スス。		P-2	2283
11-14	99	SQ18 (IVV-33)	構築面	深鉢		後期8か	外面:沈線。内面:ナデ。胎土:小礫。クサリ礫。使用痕:なし。全体に赤褐色に焼かれている。	胎土および色調から後期8期と推定。		2287
11-15	99	SQ18 (IVV-33)	構築面	深鉢		円筒上層d か	外面:縄文LR。貼付隆帯。内面:磨滅。胎土:凝灰岩片。使用痕:外スス。	11-17と同一個体か。		2277
11-16	99	SQ18 (IVV-33)	構築面	粗製深鉢	I	後期後葉 ~晩期	口唇:面取。外面:縄文LR。内面:ナデ。胎土:小礫。使用痕:外スス。			2276
11-17	99	SQ18 (IVV-33)	構築面	深鉢		円筒上層d か	外面:結東第1種(LR+LR)。内面:ナデ。胎土:凝灰岩片。使用痕:内コガ。	11-15と同一個体か。		2278
12-1	100	SQ19	1層	深鉢	I Aa4	晩期1a~b	小波状口縁か。外面:沈線。縄文LR(一部磨消)。内面:ナデ。胎土:精良。使用痕:外スス。内コガ。	補修孔。		2267

縄文土器観察表(8)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
12-2	100	SQ19	I層	深鉢	IAa4	晩期1a~b	小波状口縁。外面：縄文LRに沈線による入組文。入組文の入組部中央のみ磨消。内面：ナデ。胎土：クサリ礫。使用痕：外スス。内コゲ。			2265・2266
12-3	100	SQ19東 (IVR-35)	III層	台付深鉢	IIA5	後期8	口縁に低い台形突起が連続し、小波状口縁のようになっている(11~12単位)。口唇：弱い面取。外面：文様帯上下端を沈線間に連続する短沈線で区画。縄文LR(磨消)。沈線による入組文。磨消部はナデ。胎土：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：25.7cm、底径：8.8cm、器高：24.3cm。 施文順(縄文→沈線)。		2203
12-4	100	SQ19・ SQ19周辺 (IVR-35)	I層・ III層・ III層下	鉢	IIA5	晩期1a	平口縁に突起2種類(刻目が2箇所入ったものと頂部に円形突起が施されるもの)が交互。口唇：面取。外面：沈線。三叉文。沈線による入組文。※1箇所が崩れている(写真参照)。入組文の屈曲部に三叉文の沈線。縄文LR。頸部部に隆帯。隆帯上に連続する刺突。胎土：砂粒。海綿骨針。無文。使用痕：外スス。黒斑残るため使用頻度低い。胎土：砂粒。海綿骨針。	口径：37.1cm。 施文順(沈線→縄文→沈線再施文)。	P-2427	2198
12-5	100	IVS-35	SQ19直下	注口	III	晩期1a	外面：ミガキ。注口直下に半円状の隆帯。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：なし。外面：黒斑。	底径：2.3cm。 注口部完存。	P-2349	2009
14-1	101	SR01		粗製深鉢	IAa1	後期後葉 ~晩期	口唇：面取。外面：縄文LR(回転方向に規則性がない)。内面：ナデ。使用痕：外スス。黒斑残存。胎土：海綿骨針少量。	口径：29.2cm。	P-1 埋設 土器本体	303
14-2	101	SR02	覆土	粗製深鉢		後期後葉 ~晩期	外面：縄文LR(回転方向に規則性がない)。内面：ナデ。使用痕：外スス。内コゲ。スス酸化。	残存悪く復元不可能。	埋設土器 本体	312
14-3	101	SR03		粗製深鉢 (台付か)		後期後葉 ~晩期	外面：縄文LR(横位)。内面：ナデ。使用痕：外スス。内コゲ(パッチ状)。		埋設土器 本体	315
14-4	101	SR04		粗製深鉢		後期後葉 ~晩期	外面：縄文LR(横位)。内面：ナデ。使用痕：外スス。		埋設土器 本体	313
14-5	101	SR06		粗製深鉢	IAa1	後期後葉 ~晩期	—	14-6と同一個体。	埋設土器 本体	304-2
14-6	101	SR06		粗製深鉢	IAa1	後期後葉 ~晩期	口唇：面取。外面：縄文LR(横位)。底部付近は縄文なし。底部：高台。内面：ナデ。底面：ナデ。胎土：大粒の砂粒を少量含むが、比較的精良。使用痕：外スス。スス酸化ははつきりしない。内底部直上にごく細いコゲバンド。底面に黒斑残るため使用頻度低い。	底径：9.0cm。 14-5と同一個体。	埋設土器 本体	304-1
14-7	101	SR07		深鉢		後期7-4	平口縁に山形突起(6単位)。口唇：面取。外面：貼瘤。沈線間に連続する刻目。沈線による入組文。縄文LR。内面：ナデ。使用痕：外スス。		埋設土器 本体	325
14-8	101	SR08	III層	粗製深鉢	IBb1	後期後葉 ~晩期	口唇：面取。外面：口縁に面取時の粘土の段。縄文LR(横・斜位)。内面：ナデ。胎土：長石粒を多く含む。使用痕：外スス。	口径：31.0cm。	埋設土器 本体	326
14-9	101	SR09	III層	粗製深鉢		後期後葉 ~晩期	外面：縄文LR(横位)。内面：ナデ。胎土：海綿骨針多量。使用痕：外スス。スス酸化。内コゲ。		埋設土器 本体	314
14-10	101	SR10	覆土	粗製深鉢	IAa1	後期後葉 ~晩期	平口縁に突起(単位数不明)。口唇：面取。外面：縄文LR(横位)。内面：ナデ。胎土：海綿骨針含む。使用痕：外スス。	14-11と同一個体。	埋設土器 本体	318-1
14-11	101	SR10	覆土	粗製深鉢	IAa1	後期後葉 ~晩期	—	14-10と同一個体。	埋設土器 本体	318-2
15-1	101	SR11	覆土	粗製深鉢		後期後葉 ~晩期	外面：縄文LR(横位)。内面：ナデ。胎土：3mm大の小礫多く含む。使用痕：外スス。内コゲ。		埋設土器 本体	316
15-2	101	SR12		粗製深鉢	IAa1	後期後葉 ~晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：海綿骨針少量。使用痕：外スス。		埋設土器 本体	319
15-3	101	SR13		粗製深鉢		後期後葉 ~晩期	外面：縄文LR(横位)。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。		埋設土器 本体	320
15-4	101	SR14		粗製深鉢		後期後葉 ~晩期	外面：縄文LR(横位)。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。		埋設土器 本体	321
15-6	102	SR15		粗製深鉢		後期後葉 ~晩期	外面：縄文LR(横位)。内面：ナデ。使用痕：外スス。内コゲ。スス酸化消失。	残存状態が悪く部分的な復元にとどま	埋設土器 本体	305
15-7	102	SR16		粗製深鉢		後期後葉 ~晩期	外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。	る。	埋設土器 本体	322

縄文土器観察表(9)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
15-8	102	SR16・IVS-44	覆土・III層	浅鉢	IA1	晩期3	口唇：面取なし。外面：沈線。連続する刻目。文様帯内は全体に縄文LRを施文した後、沈線と三叉状の採りを施文する。磨消縄文ではない。ミガキ。底部：円形の凹底。内面：ミガキ。胎土：精良。海綿骨針。使用痕：なし。 外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。内コゴ。	口径：18.0cm、器高：5.5cm。 施文順(縄文→沈線)。 内外面赤彩(漆)。	P-247	265
15-9	102	SR17		粗製深鉢		後期後葉～晩期	外面：縄文LR。内面：ナデ。使用痕：外スス。		埋設土器本体	323
15-10	102	SR18		粗製深鉢		後期後葉～晩期	外面：縄文LR。内面：ナデ。使用痕：外スス。		P-1 埋設土器本体	324
15-12	102	SR19	I層	粗製深鉢		後期後葉～晩期	外面：縄文LR。内面：ナデ。使用痕：外スス。内コゴ。		埋設土器本体	441
15-13	102	SR20	III層	粗製深鉢	IBb1	後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR(横位)。底部から3cmくらい上までは縄文なし。内面：ナデ。底面：高台。ナデ。使用痕：外スス。内コゴ。口縁は部分的にしか残存しないが、使用痕跡が著しい。外底面使用による磨滅。 外面：縄文LR(横・斜位)。内面：ナデ。底面：ナデ。使用痕：外スス(2段に分かれているのが特徴的)。スス酸化。内コゴ。 外面：縄文LR(下部磨滅)。内面：ナデ。使用痕：外スス。内コゴ。	口径：35.6cm、器高：33.2cm、底径：9.6cm。	P-1 埋設土器本体	301
16-1	102	SR21		粗製深鉢		後期後葉～晩期	外面：縄文LR(下部磨滅)。内面：ナデ。使用痕：外スス。内コゴ。	底径：10.0cm。	P-1 埋設土器本体	302
16-2	102	SR22		粗製深鉢		後期後葉～晩期	外面：縄文LR(横位)。内面：ナデ。使用痕：外スス。使用痕度低い。		P-1 埋設土器本体	309
16-3	102	SR23		粗製深鉢	I	後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR(横位)。内面：ナデ。使用痕：外スス。使用痕度低い。		P-1 埋設土器本体	307
16-4	102	SR25		粗製深鉢		後期後葉～晩期	外面：縄文LR(横位)。内面：ナデ。使用痕：外スス(下半)。器表面荒れ目立つ。	残存状態が悪く部分的な復元にとどまる。	P-1 埋設土器本体	311
16-5	102	SR27		粗製台付鉢	IAa1t	後期未葉～晩期初頭	平口縁に突起(6単位か)。頂部をV字状に整形する台形突起と、頂部が鋭角な山形突起を交互に配置か。口唇：面取。外面：突起部無文。口縁部から体部下端まで節の細かなLR縄文を斜位施文。底部：高台。内面：ナデ。使用痕：外スス。体部下半に顕著に付着。口縁部から体部下端に内コゴ。胎土：緻密で精選され、粘土基質の量比が高い。細砂粒。海綿骨針。	口径：16.3cm。器厚が4mm程度と薄い。	埋設土器本体	45
16-6	103	SR28		深鉢	II Ba1	晩期1a	口唇：面取。口縁部文様帯に運動して平行な縄文帯を形成し、頸部文様帯の上端は1帯の短沈線帯で、下端の屈曲部は無文帯で面すが、磨り消しを施す工程で上端の短沈線帯が消滅し、短沈線帯が局所的に残る。頸部文様帯には、2段の右下がりを入組文を7単位で生成し、起点部と終点部に対向する三叉状沈刻が連続する。なお、体部は節の細かなLR縄文が横位に施文される。内面：ナデ。使用痕：口頸部の外面に広くスス。口頸部の内面にコゴ。胎土：緻密で精選され、粘土基質の量比が高い。細砂粒。海綿骨針。	口径：26.0cm。 外面炭：2950±20yrBP。 施文順(沈線→縄文)。	埋設土器本体	55
16-7	103	SR30		粗製深鉢		後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR(横・斜位)。内面：ナデ。使用痕：外スス。		埋設土器本体	317
16-8	103	SR32		粗製深鉢		後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR(横位)。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。 補修孔。		埋設土器本体	306
16-9	103	SR33		粗製深鉢		後期後葉～晩期	外面：縄文LR(斜位)。内面：ナデ。使用痕：外スス。内コゴ。		埋設土器本体	327
16-10	103	SR34		粗製深鉢		後期後葉～晩期	外面：縄文LR。内面：ナデ。使用痕：外スス。内コゴ。		埋設土器本体	308
16-11	-	SR35		粗製深鉢		後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR(横・斜位)。内面：ナデ。胎土：大粒の砂を多く含む。使用痕：外スス。劣化激しい。	16-12と同一個体。	埋設土器本体	328
16-12	103	SR35		粗製深鉢		後期後葉～晩期	外面：縄文LR(下部磨滅)。内面：ナデ。使用痕：外スス。内コゴ。内面に黒斑残存。	16-11と同一個体。	埋設土器本体	310
17-1	104	ア・ウツ7下層(IVS-34)	III層	台付鉢	II Ba5t	晩期1a	口縁に連続する突起。突起は大小2種類。大突起は1単位のみ、他は小突起。全体の単位数は不明。大突起頂部に円形の刺突。小突起頂部に刻目2本。外面：突起下に三叉文。沈線。沈線による入組文。入組文内に2本の縦位沈線。縄文LR(磨消)。磨消部ナデ。入組文の空隙に三叉文。体部縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。内コゴ。	口径：23.4cm。 外面炭：2945±20yrBP。	P-2166	2096

縄文土器観察表(10)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
17-2	104	7 ⁰⁰⁷⁷ 下層(IVT-34)	III層	台付鉢	IIA4	晩期1a	小波状口縁。平らな口縁を作った後に鐮状工具で波状に整形する工程が特徴として窺えるほか、波頂部を三山に刻む部分が認められる。口唇：面取。口縁部文様帯には幅狭な縄文帯を水平に形成し、頸部文様帯の上端は単帯の幅の狭い縄文帯で、下端は沈線間に連続する短沈線で面す。頸部文様帯には、単帯の右下がりの入組文を生成する。起点部、終点部の沈線から弧線が伸び、刺突を中心に巻き込んで田文を構成する点、磨消縄文手法による縄文部と無文部の形成が逆転し、入組文が無文化する点が特徴的である。なお、体部は節の細かいLR縄文が横位施文され、台部が無文となる。使用痕：外スス。内コゴ。胎土：緻密で精選され、粘土基質の量が高い。細砂粒。海綿骨針。	口径：20.2cm、底径：8.8cm、器高：20.6cm。 外面炭：2930±20yrBP。 器厚が4mm程度と薄い。	P-2170	2032
17-3	104	7 ⁰⁰⁷⁷ (IVR-37)	III層	台付鉢	IBb4	晩期1b	小波状口縁。外面：縄文LR(磨消)。沈線。磨消部はナデ。文様8単位。体部縄文LR。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コゴ。	口径：12.1cm。 施文順(沈線→縄文→沈線再施文)。	P-2096	2144
17-4	104	7 ⁰⁰⁷⁷ 下層(IVS-34)	III層	台付深鉢	II Bb4	晩期1a	小波状口縁(11単位か)。1箇所(実測図左端)の波頂部のみ高くつくられている。外面：縄文LR(斜位、0段多条か)。沈線。体部縄文LR。使用痕：外スス。内コゴ。胎土：小礫。海綿骨針。	口径：19.7cm。 外面炭：2930±20yrBP。 施文順(縄文→沈線)。	P-2134	2076
17-5	104	7 ⁰⁰⁷⁷ (IVT-34)	III層	粗製深鉢	I	後期8	口唇：面取。外面：縄文LR。沈線。粗製土器に粗雑な文様を描いている。内面：ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゴ。	口径：3.7cm、底径：6.8cm、器高：19.9cm。 外面赤彩(漆)。外面漆：2910±20yrBP。 底径：8.5cm。	P-2170-2	2302
17-6	104 巻頭9上	7 ⁰⁰⁷⁷ (IVT-33)	III層	壺	IV1	晩期1a	口唇：摩擦。外面：口縁ナデ。頸部沈線。縄文LR。磨消縄文と思われる。体部縄文LR。底部：平底。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：なし。	口径：3.7cm、底径：6.8cm、器高：19.9cm。 外面赤彩(漆)。外面漆：2910±20yrBP。 底径：8.5cm。	P-2082, 2088	2057
17-7	104	7 ⁰⁰⁷⁷ (IVR-34)	III層	粗製深鉢		後期後葉～晩期	外面：縄文LR。底部：高台。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゴ。	口径：8.5cm。 底径：15.0cm。	P-2096	2236
17-8	104	7 ⁰⁰⁷⁷ 下層(IVT-34)	III層	粗製深鉢	IBb1	後期後葉～晩期	口唇：弱い面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コゴ。	口径：15.0cm。	P-2173	2103
17-9	104	7 ⁰⁰⁷⁷ (IVT-34)	III層	粗製深鉢	IAa1	後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。底部：高台。内面：ミガキ。胎土：精良。使用痕：外スス。内コゴ。	口径：9.5cm、器高：10.0cm、底径：5.3cm。	P-2169	2050
17-10	104	7 ⁰⁰⁷⁷ 下層(IVT-34)	III層	粗製壺	III	後末～晩初	外面：縄文LR。底部：高台。内面：板状工具によるナデ。胎土：小礫。使用痕：なし。外面黒斑。	底径：6.5cm。	P-2139	2068
17-11	104	7 ⁰⁰⁷⁸ (IVU-34・IVU-33)	III層	深鉢	II Ba5	後期7-4	平口縁に二山一組の突起(単位数不明)。口唇：面取。外面：沈線。突起下に貼瘤。沈線に由来する入組文。縄文LR(磨消)。頸部の貼瘤に刻目。文様帯下端を沈線間に連続する刻目で区画。体部無文。使用痕：外スス。内コゴ。胎土：海綿骨針。	口径：22.8cm。 施文順(沈線→縄文、刻目→沈線再施文)。補修孔。		2101
17-12	104	7 ⁰⁰⁷⁸ 下層(IVU-34)	III層	注口	III1	後期8	口唇：面取。外面：口縁肥厚。縄文LR。沈線。頸部肥厚し文様帯となる。沈線。貼瘤。縄文LR。体部ナデ。最大径部分に縄文帯。注口周辺に沈線文。縄文やや摩擦。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：5.2cm、底径：1.4cm、器高：14.4cm。 注口部は基部から欠損。	P-2241	2037
17-13	104 巻頭8下	7 ⁰⁰⁷⁸ 下層(IVU-34)・7 ⁰⁰⁷⁸ (IVU-34)	III層	粗製深鉢	IBb1t	後期7~8	平口縁に突起。突起は三山と二山があるが、単位数・配置順は不明。口唇：面取。縄文LR。底部直上5cmくらいは縄文なし。底面：高台。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コゴ。	口径：21.7cm、器高：20.8cm、底径：6.9cm。 突起形状から後期の土器と判断した。7章では後期8期としたが、後期7-4期の可能性もある。	P-2241, 2241b	2092
18-1	105	7 ⁰⁰⁷⁹ (IVU-34)・IVU-34	III層	深鉢	II Ba5	後期7-4	口縁に平らな部分は確認できず、三山状突起と二山状突起を交互に配置する(全体の単位数は不明)。口唇：面取。三山突起の直下には2個一組とする瘤を、二山突起の直下には一つの瘤を付加し、両者の直下に刻目を施す下向きの弧線文を表出する。さらに、それらの下位に口縁突起間を起点とする下向きの弧線文が面す。屈曲部の太い刻目による刻目帯には貼瘤を付すが、突起との対応関係は窺われず、刻目帯の上位に上向きの弧線文を表出する。頸部文様帯の中心位には沈線描出による1帯の横に連続する入組文を生成し、入組部は突起の中間に対応する。なお、体部は無文(ナデ)となる。底部：高台。使用痕：外スス、コゴ。内コゴ。	口径：24.5cm、底径：7.6cm、器高：28.2cm。縄文一部摩擦。残存率1/3。	P-2251, 2276	2081

縄文土器観察表 (11)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
18-2	105 巻頭8下	7' u79 (IVT-34) IVT-34	III層	台付深鉢	I Bb1t	後期8	平口縁に突起(6単位)。頂部がV字形に刻まれる双頭の台形突起。口唇：面取。突起直下の口縁部を無文帯に構成し、頸部文様帯下端の区画帯は縦位沈線が2条から1条へと変化する不安定な表出である。頸部文様帯に入組文。入組文描帯の上端と下端が区画帯に連結する点の特徴である。体部と台部は無文となる。使用痕：外スス、コグ。内コグ。	口径：21.2cm、底径：8.4cm、器高：23.7cm。略完形。	P-2255, 2256	2025
18-3	105	7' u79 (IVT-34)	III層	鉢	I Bb1t	後期8	平口縁に台形突起(単位数不明)。突起頂部に刻目1本。口唇：面取。外面：沈線による入組文。突起2単位に対して1単位の入組文。縄文LR。文様帯下端には区画帯なし。体部ケズリに近いナデ。底部：平底。使用痕：外スス。内コグ。胎土：小礫。砂粒。	口径：20.7cm、底径：5.0cm、器高：19.6cm。 施文順(縄文→沈線)。	P-2244	2098
18-4	105	7' u79 (IVT-34)	III層	鉢	I Aa2	晩期1a	口唇：連続する刻目。外面：沈線。沈線による入組文。縄文LR(磨消)。磨消部ナデ。体部下半ケズリのちナデ。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫多く含む。使用痕：外スス。内コグ。	口径：13.3cm、底径：7.0cm、器高：13.8cm。	P-2247	2073
18-5	105	7' u79 (IVT-34) IVT-34	III層	台付鉢	I Aa5	後期8	平口縁に山形突起(単位数不明)。突起頂部に凹形刺突。口唇：面取。外面：浅い沈線による入組文。縄文LR(磨消)。文様帯下端には区画帯なし。体部無文。使用痕：外スス。内コグ。内面に黒斑残るため使用頻度低い。胎土：小礫。砂粒。海綿骨針。	口径：26.2cm、底径：10.7cm、器高：26.7cm。 施文順(沈線→縄文→沈線再施文)。	P-2255, 2193	2043
18-6	105	7' u79 (IVT-34)	III層	壺		晩期1a	外面：沈線。凹形刺突。縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：なし。	外面赤彩。		2242
18-7	105 巻頭8下	7' u79 (IVT-34)	III層	粗製深鉢	I Bb2	後期7~8	口唇：0字の刻目が連続。外面：縄文LR。底部：突出した台状。底面は平坦。内面：ナデ。胎土：小礫多く含む。海綿骨針。使用痕：外スス。内コグ。	口径：23.1cm、器高：22.1cm、底径：9.1cm。 後期8期の一括資料に含まれるため、7章でも後期8期とした。	P-2246-1, 2246-2	2030
19-1	106	7' u711 (IVS-34)	III層	鉢	II Ba5	後期8	口縁に連続する突起(単位数不明)。突起頂部には内面にこのびる刻目。口唇：面取。外面：縄文LR。沈線による入組文。文様帯上下端を沈線間に連続する短沈線で区画。体部無文。使用痕：外スス。内コグ。胎土：砂粒。海綿骨針。	口径：22.0cm。施文順(縄文→沈線)。	P-2395	2099
19-2	106	7' u711 (IVS-34)	III層	台付鉢	I Bb5	晩期1a	口縁に連続する突起。突起は一山のものと二山のものが交互に並ぶわけではないようである。口唇：面取なし。外面：沈線。縄文LR(無痕)充填の順で施文。三又状の折りを行う。体部はケズリナデ。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。内コグ。	口径：14.3cm、底径：8.2cm、器高：13.3cm。施文順(沈線→縄文充填)。	P-2325	2071
19-3	106	7' u711 (IVS-34)	III層	深鉢	II A4	晩期1b	小波状口縁。外面：全面に縄文LR。縄文地に沈線。底部直上に沈線。底部：平底。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。内コグ。	口径：23.00	P-2300	2146
19-4	106	7' u711 (IVS-34) IVS-34	III層	台付鉢		晩期1a~b	外面：縄文LR。沈線。体部下半ナデ。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：内コグ。	P-2303, 2324, 2325		2131
19-5	106	7' u711 (IVS-34)	III層	台付鉢		晩期1a~b	口唇：面取なし。外面：ナデ。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コグ。	底径：10.4cm。	P-2289	2141
19-6	106	7' u711 (IVT-34)	III層	浅鉢	I B1	後期7~8	口唇：面取なし。外面：ナデ。底部：高台。内面：ナデ。胎土：クサリ礫。使用痕：なし。	高台内側赤色顔料付着。	P-2339	2166
19-7	106	7' u711 (IVS-34)	III層	半精製壺	III	晩期1a~b	外面：頸部に突起(横方向の貫通孔)。沈線。体部縄文LR。底部：高台。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：なし。外面黒斑。	器高：6.9cm、底径：3.3cm。	P-2332	2162
19-8	106	7' u711 (IVS-34)	III層	注口	II	晩期1a	外面：ミガキ。注口直下に凹形のエピソードを伴う膨らみ。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：なし。外面黒斑。	底径：2.4cm。注口部は基部から欠損。	P-2326	2156
19-9	106	7' u711 (IVT-34)	III層	注口	II 1	晩期1a	口唇：面取なし。外面：ナデ。全体に磨滅。内面：ナデ。胎土：小礫多く含む。使用痕：なし。	口径：6.5cm、器高：10.5cm、底径：1.4cm。 注口部は途中から欠損。	P-2340	2161
19-10	106	7' u711 (IVS-34)	III層	注口	II	晩期1a	外面：ミガキ。注口基部に一袋状の膨らみ。注口先端磨滅。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。小礫。使用痕：なし。外面黒斑。	注口部は途中から欠損。	P-2298	2002
19-11	106	7' u711 (IVS-34)	III層	注口	III 1	晩期1a	口唇：弱い面取。外面：ミガキ(全体に磨滅)。沈線。注口基部に沈線と刺突による文様。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：9.1cm、器高：16.0cm。 注口部は基部から欠損。	P-2323, 2334	2122

縄文土器観察表 (12)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
19-12	106 巻頭9上	F ^u 7/11 (IVS-34)	III層	注口	II 4	晩期1a	小波状口縁。口唇：面取。外面：口縁に縄文LR。下端を沈線で区画。縄文地に縦方向と横方向の短沈線。頸部、体部ミガキ。注口直下に粘土細貼付。玉杓三叉文。縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：なし。	口径：12.2cm、器高：16.5cm。 注口部充存。	P-2322	2022
19-13	106	F ^u 7/11 (IVT-34)	III層	粗製深鉢	I Bb1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。底部直上5cmくらいは縄文なし。底部：高台。内面：口縁に面取時の粘土の段。ナデ。板状工具痕。胎土：小礫多く含む。使用痕：外スス。内コゴ。胎土：砂粒。海綿骨針。胎土：小礫多く含む。使用痕：外スス。	口径：25.0cm、器高：25.0cm、底径：11.2cm。	P-2339	2042
20-1	107	F ^u 7/12 (IVT-35)	III層	深鉢	II Ba3t	後期7-4	波状口縁(4単位前後)。波頂部と波底部に突起。突起上に刻目。口唇：面取。外面：沈線間に連続する刻目。縄文LR(複消)。磨消縄文と刻目による入組文。磨消部はナデ。体部下半ナデ。器表面摩滅。内面：ナデ。胎土：小礫多く含む。使用痕：外スス。	口径：25.3cm。 施文順(沈線→縄文、刻目→沈線再施文)。	P-2367	2150
20-2	107	F ^u 7/12 (IVS-35)	III層	深鉢	I Bb1t	後期8	平口縁に山形突起。口唇：面取。外面：縄文LR(磨消)。沈線による入組文。磨消部はナデ。文様帯下端を沈線間に短沈線で区画。貼瘤。体部下半ナデ。文様帯下端の沈線より下にも一部縄文。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。	口径：21.0cm。	P-2259	2170
20-3	107	F ^u 7/12 (IVT-35)	III層	深鉢	I Aa1t	後期8	平口縁に山形突起と台形突起が交互(計8単位)。口唇：面取。外面：沈線間に連続する刻目。貼瘤(円形のもの)と縦長で3本刻目を施すものと2種。沈線による入組文。縄文LR。体部無文。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コゴ(使用頻度低い)。	口径：16.9cm。 施文順(沈線→縄文、刻目→沈線再施文)。	P-2375	2119
20-4	107	F ^u 7/12 (IVU-34)・ IVT-34	III層 炭層	深鉢	II Ba1t	後期7-4	平口縁に山形突起と台形突起が交互(計8単位)。口唇：面取。外面：沈線間に連続する刻目。貼瘤(円形のもの)と縦長で3本刻目を施すものと2種。沈線による入組文。縄文LR。体部無文。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コゴ(使用頻度低い)。	口径：32.0cm。 施文順(沈線→縄文、刻目→沈線再施文)。	P-2366	2108
20-5	107	F ^u 7/12 (IVT-35)	III層	深鉢		晩期1a～b	外面：沈線。縄文LR。体部下半ナデ。底部：高台。内面：ナデ。胎土：精良。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゴ。	底径：6.5cm。	P-2376	2062
20-6	107	F ^u 7/12 (IVS-35)	III層	台付深鉢	I Bb5	後期8	平口縁に山形突起と台形突起が交互。口唇：面取。外面：沈線。浅い沈線による入組文。縄文LR(磨消)。入組文の空隙に三叉文。文様帯下端には区画線なし。体部無文。使用痕：外スス。内コゴ。胎土：小礫。海綿骨針。	口径：22.2cm。	P-2382	2115
20-7	107 巻頭8下	F ^u 7/12 (IVS-35)	III層	台付深鉢	II A5	後期8	口縁に突起が連続。口唇：面取。外面：口縁部文様帯には口縁部形態に運動して無文帯を介在する縄文帯が波状に巡る。文様帯の下端を平行沈線で面す。頸部文様帯には沈線描出による入組文を生成し、入組文の空隙に三叉文を付す。縄文LR(磨消)。頸部文様帯の下端は縄文帯で画し、体部と台部は無文となる。使用痕：外スス。内下半コゴ。	口径：26.2cm。	P-2389	2019
20-8	107	F ^u 7/12 (IVT-34)	III層	台付浅鉢	I B1	後期7～8	口唇：面取なし。外面：ナデ。内面：ナデ。胎土：クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外面の一部にスス。煮沸痕跡でないため廃棄後の二次被熱か。	口径：22.0cm、器高：8.7cm、底径：10.0cm。	P-2369	2135
20-9	107	F ^u 7/12 (IVS-35)	III層	浅鉢	I B4	晩期1b	小波状口縁。外面：縄文LRに沈線による入組文。体部ミガキ。内面：ミガキ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外面部分的にスス、ただし、煮沸痕跡はない。	口径：7.8cm、器高：12.8cm、底径：6.7cm。	P-2399	2301
20-10	107	F ^u 7/12 (IVT-35)	III層	半精製又は粗製壺	II 1	晩期1a～b	口唇：面取。外面：ミガキ(口縁部縦位、頸部横位)。頸部に突起(横方向の貫通孔)。体部正面とは運動しない。口唇：面取。外面：貼瘤。縄文LR(磨消)。磨消部は彫去状。底部：高台。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：なし。	注口部は基部から欠損。	P-2363	2047
20-11	107	F ^u 7/12 (IVT-34)	III層	注口	II 5	後期7-4	平口縁に山形突起(8単位前後)。1単位(正面裏面測図左端)だけ高くつくられているが、土器正面とは運動しない。口唇：面取。外面：貼瘤。縄文LR(磨消)。磨消部は彫去状。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫。注口部直下に二袋状の彫らみ。外面黒斑。	注口部は基部から欠損。	P-2363	2127
20-12	107	F ^u 7/12 (IVS-35)	III層	注口	II 1	晩期1a	口唇：面取。外面：ミガキ。注口部直下に二袋状の彫らみ。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：7.4cm、器高：11.1cm、底径：1.6cm。 注口部は基部から剝離していたが、本体の直近で出土した。注口部先端の一部が欠損。	P-2389	2064
20-13	107	F ^u 7/12 (IVS-35)	III層	注口	II 1	晩期1a	口唇：面取なし。外面：ナデ。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：なし。	口径：7.2cm、器高：14.3cm、底径：1.2cm。注口部は基部から欠損。	P-2386	2126

縄文土器観察表 (13)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
21-1	108 巻頭8下 109 巻頭10上	F ⁷ V ⁷ / ₇ 12 (IVS-35) IVS-35 Sec7 IV S-35	III層・ III-6層・ III-8層	香炉		後期8	外面：透かし彫りの入組文。刻目1本を伴う貼瘤。沈線。腰部円形に刺落2箇所。入面3単位(表情違う)。口縁に耳飾りのような円形突起のある突起。円形の透かし孔。頂部に貫通孔。使用痕：内底面にスス。外面は目立った二次被熱なし。外底面に黒斑残存。高台接地面摩滅。胎土：小礫。クサリ礫(晩期初頭にはみられない胎土)。	アクリル系樹脂で修復。	P-2258, 2384	2258
21-2	108 巻頭10下	F ⁷ V ⁷ / ₇ 12 (IVT-35) IVU-34 IVS-34	III層	注口		後期8	口縁に連続する異形な突起。外面：縄文LR。沈線。貼瘤縁の突起で入面を表現。入面は5単位と思われ、4単位が確認できている。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。	沈線内に赤色顔料塗形の痕跡。14年調査VK-35、VL-44両グロットでそれぞれ別の顔破片が出土し、接合している。	P-2374, 2381	2218
21-3	107	F ⁷ V ⁷ / ₇ 12 (IVT-34)	III層	粗製深鉢	IAa1	後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒多量。使用痕：なし。内外面摩滅激しい。	内面赤色顔料付着。	P-2371	2299
22-1	109	F ⁷ V ⁷ / ₇ 12 (ESI03)	覆土	深鉢		後期7-4	平口縁に突起。外面：連続する刻目。沈線。貼瘤。沈線による入組文。縄文LR。内面：ナデ。胎土：大粒の砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。			555
22-2	109	F ⁷ V ⁷ / ₇ 12 (ESI03)	覆土	深鉢		後期7-4	外面：貼瘤。連続する刻目。沈線による入組文。縄文LR。内面：ナデ。胎土：シルト。使用痕：外スス。		P-61	552
22-3	109	F ⁷ V ⁷ / ₇ 12 (ESI03)	覆土	深鉢		後期7-3	—	83・9・10と同一個体か		557
22-4	109	F ⁷ V ⁷ / ₇ 12 (ESI03)	覆土	深鉢		後期8	—	22-5と同一個体。	P-14	546-2
22-5	109	F ⁷ V ⁷ / ₇ 12 (ESI03)	覆土	深鉢		後期8	平口縁に突起。口唇：面取。外面：沈線。縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。	22-4と同一個体。	P-14	546-1
22-6	109	F ⁷ V ⁷ / ₇ 12 (ESI03)	覆土	深鉢		後期8	平口縁に大小の突起。突起頂部に刻目。外面：沈線による入組文。縄文LR。内面：ナデ。胎土：5mm以下の小礫。3mm程度が多い。使用痕：外スス。		P-39	537
22-7	109	F ⁷ V ⁷ / ₇ 12 (ESI03)	覆土	深鉢		後期8	平口縁に突起。突起頂部に縦に深い刻目。口唇：面取。外面：縄文LR。沈線による入組文。体部無文。内面：ナデ。胎土：シルト質。海綿骨針。使用痕：外スス。		P-36, 38	575
22-8	109	F ⁷ V ⁷ / ₇ 12 (ESI03)	覆土	深鉢	II Bb4t	晩期1b	小波状口縁に突起(1単位確認できる)。外面：沈線。間延びした入組三又文。体部縄文LR(横・斜位)。縄文地に沈線で文様(3単位確認できる)。内面：ケズリのうちナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。内コグ。	口径：18.4cm。内外面赤彩。	P-60	57
22-9	109	F ⁷ V ⁷ / ₇ 12 (ESI03)	覆土	深鉢	II A1t	後期8	平口縁に突起(12単位か)。頂部が三山を呈する台形突起と双頭を呈する台形突起を交互に配す。口唇：面取。口縁部文様帯には縄文帯を形成し、台形突起の頂部直下を起点と終点に弧線が「八」字状に連絡し、三角の区画を形成する。頸部文様帯の上端と下端は幅狭な無文帯で面し、頸部文様帯には沈線描出による入組文を生成し、連繫部に三又状沈刻が連続する。縄文LR(磨消)。入組文の描線の上端と下端が区画帯に連絡する特徴があり、起し点部と連繫部と終点部が突起に対応する。なお、体部は無文となる。使用痕：外は口頸部に局所的にスス。内は口頸部に薄いコグ。胎土：緻密で精選され、粘土基質の量比が多い。細砂粒。細礫。微量の海綿骨針。	口径：35.1cm。 口縁突起は大小が交互か不明。施文順は沈線下書き後、縄文を施文しその後沈線を再施文か	P-10	5
22-10	109	F ⁷ V ⁷ / ₇ 12 (ESI03・ IVQ-42)	覆土・ III層	台付深鉢	II Ba1t	後期8	平口縁に台形突起(6単位)。台形突起と山形突起を交互に配す。口唇：面取。口縁部文様帯には台形突起に連続して台形突起を起点と終点とする幅の狭い2帯の縄文帯が下向き2重の弧線文状に連絡することにより、台形突起直下に「八」字状の区画を形成し、無文帯とする。頸部文様帯の上端は1条の沈線で、下端を縄文帯で面す。頸部文様帯には沈線描出による入組文を7単位で生成し、文様描線の上端と下端が区画帯に連絡する特徴がある。入組文の起し点部、連繫部、終点部が突起に対応する。縄文LR(磨消)。なお、体部と台部は無文となる。使用痕：外スス、コグ。内コグ。胎土：緻密で、粘土基質の量比が高い。細砂粒。海綿骨針。凝灰岩に由来する白色微粒子が多い。	口径：28.0cm、底径：8.9cm、器高：28.3cm。 施文順(縄文→沈線)。	P-36, 39, 40	98
22-11	109	F ⁷ V ⁷ / ₇ 12 (ESI03)	覆土	台付深鉢		後期8か	外面：縄文LR。沈線。体部ナデ。内面：ナデ。胎土：大粒の砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。内コグ。	底径：8.0cm。	P-11	598

縄文土器観察表(14)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
22-12	109	フ ^{ナツ} ク IES103・ IVQ-41・ IVQ-42	覆土・ III層	台付皿	II B1	晩期1a	平口縁だが玉抱三又文の上部は欠損しているため突起がつくとと思われる(おそらく4単位)。口唇：基本的丸く収める。突起部分のみ口唇に沈線。外面：縄文LR。沈線による玉抱三又文。体部ミガキ。内面：ナデ。台部：内面やや粗いナデ。胎土：砂粒多い。使用痕：なし。	口径：16.0cm、器高：5.3cm、底径：7.5cm。	P-44	541-3
22-13	109	フ ^{ナツ} ク IES103	覆土	注口又は壺		後期7-4	平口縁に大小の突起。どちらも突起頂部に刻目。口唇：面取。外面：縄文LR。沈線はミガキにより境界が不明瞭。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：なし。	底径：1.0cm。 注口部は基部から欠損。		534
22-14	109	フ ^{ナツ} ク IES103	覆土	注口		後期7-4	外面：頸部に沈線間の刺突列。ナデ。体部最大径の部分に縄文LRが原体の幅で横位に回転施文。注口部直下に二袋状の彫らみを粘土粒貼付によって表現。底部：高台。高台の周囲に沈線。内面：ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。使用痕：なし。			94
22-15	109	フ ^{ナツ} ク IES103	覆土	注口		後期8	外面：沈線。沈線間に連続する刻目。縄文LR。頂部を刻む貼瘤。注口基部に貼瘤3個。さらにその両脇に2個ずつ貼瘤(頂部刻目なし)。無文部はミガキ。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：なし。外面黒斑。	底径：2.4cm。注口部先端欠損。 補修孔周辺に黒色物質(アスファルトか)附着。外面の一部に赤色顔料附着。 注口部反対位置の内面に穿孔痕(穿孔後、孔を埋められたと思われる)。刺瘤状況から沈線→貼瘤→刻目の順に施文。	P-1	15
23-1	110	フ ^{ナツ} ク IES103	覆土	粗製深鉢	I	後期後葉 ～晩期	平口縁に突起。突起は2単位残っており、一方は頂部に刻目、一方は頂部に刺突。口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。内コゴ。		P-67	505
23-2	110	フ ^{ナツ} ク IES103	覆土	粗製深鉢	I	後期後葉 ～晩期	口唇：面取後丁寧なナデ。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：クサリ礫。3mm以下の小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。		P-49	504
23-3	110	フ ^{ナツ} ク IES103	覆土	粗製深鉢	IAa1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：クサリ礫。小礫。使用痕：外スス。	口径：25.2cm。	P-61	509
23-4	110	フ ^{ナツ} ク IES103	覆土	粗製深鉢	IAa1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：4mm以下小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。		P-4	501
23-5	110	フ ^{ナツ} ク IES103	覆土	粗製深鉢	IAa1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：3mm以下小礫。砂粒(やや粗)。使用痕：外スス。	口径：32.0cm。	P-57	511
23-6	110	フ ^{ナツ} ク IES103	覆土	粗製深鉢	IC1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ(幅1cm弱の板状工具の痕跡が縦方向に残る)。胎土：3mm以下の小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。		P-22	510
23-7	110	フ ^{ナツ} ク IES103	覆土	粗製深鉢	IAa1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：シルト質。3mm以下の小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゴ。	口径：31.0cm。	P-4	612
23-8	110	フ ^{ナツ} ク IES103	覆土	粗製深鉢		後期後葉 ～晩期	外面：縄文LR。底部：ナデ。高台。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。内コゴ。	底径：7.0cm。	P-53	606
23-9	110	フ ^{ナツ} ク IES103	覆土	粗製深鉢		後期後葉 ～晩期	外面：縄文LR。底部付近には縄文なし。底部：高台。内面：ナデ。胎土：3mm以下小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゴ。	底径：8.0cm。	P-19	506
24-1	110	フ ^{ナツ} ク IES103	覆土2回目	深鉢		後期7-4	口唇：面取。外面：貼瘤。沈線間に連続する刻目。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：不明。			553
24-2	110	フ ^{ナツ} ク IES103	覆土2回目	鉢		後期7~8	外面：沈線間に連続する刻目。縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。			550
24-3	110	フ ^{ナツ} ク IES103	覆土2回目	深鉢	II	後期8	平口縁に突起。口唇：面取。外面：沈線。縄文LR。沈線による入組文。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。			574
24-4	110	フ ^{ナツ} ク IES103	覆土2回目	深鉢		後期8	平口縁に大小交互の突起。大突起は二山。小突起は一山。口唇：面取。外面：沈線による入組文。縄文LR。内面：ナデ。胎土：3mm以下の小礫。使用痕：外スス。			573
24-5	110	フ ^{ナツ} ク IES103	覆土2回目	深鉢		後期7-4か コゴ	外面：沈線。貼瘤。体部無文。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。砂粒。使用痕：外スス。内コゴ。	台が付くかどうかは不明。		594
24-6	110	フ ^{ナツ} ク IES103	覆土2回目	台付鉢		後末～晩初	外面：ナデ。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：なし。	底径：7.0cm。	P-64	602

縄文土器観察表 (15)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
24-7	110	7 ^{ウツ} IS103	覆土2回目	粗製深鉢		後期後葉 ～晩期	外面：縄文LR。底部付近には縄文なし。底部：高台。内面：ナデ。底面ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：内コゲ。	底径：10.4cm。	P-68	603
24-8	110	7 ^{ウツ} IS103	覆土2回目	粗製深鉢	IAa1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。			512
24-9	110	7 ^{ウツ} IS103	覆土2回目	粗製深鉢	IAa1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒多し。使用痕：外スス。		P-63	515
24-10	111	7 ^{ウツ} IS103	覆土3回目	深鉢		後期7-3	外面：縦長貼瘤。貼瘤上に刻目。沈線間に連続する貼瘤。内面：ナデ。胎土：3mm以下小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。	24-11と同一個体。83・9・10によく似ている。		547-2
24-11	111	7 ^{ウツ} IS103	覆土3回目	深鉢		後期7-3	—	24-10と同一個体。		547-1
24-12	111	7 ^{ウツ} IS103	覆土3回目	壺	III1	後末～晩初	口唇：面取。外面：ミガキに近いナデ。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：なし。	口唇：10.1cm。		597
24-13	111	7 ^{ウツ} IS103	覆土3回目	注口		後期8	外面：沈線。右側面沈線上に貼瘤刺離と思われる痕跡があるが、欠損により不明。ナデ。底部：高台。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：なし。	底径：2.8cm。外面黒斑。 注口部先端欠損。		92
24-14	111	7 ^{ウツ} IS103	覆土3回目	注口		後期8か	内外面：ナデ。底部：高台。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：なし。	底径：2cm。注口部は基部から欠損。		205
26-1	114	Sec1 IVR-36・IVR-36	III-3層 III層	深鉢		後期7-4	平口縁に連続する突起。口唇：面取。外面：貼瘤。貼瘤には乱れがある。沈線間に連続する刻目。沈線による入組文。刻目。縄文LR。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。		P-749	1027
26-2	114	Sec1 IVQ-37	III-3層	深鉢	II	後期8か	平口縁に突起。突起は大小交互と思われ。大突起には1本、小突起には2本頂部に刻目。口唇：面取。外面：沈線。貼瘤による入組文。縄文LR(磨消)。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。内コゲ。		P-201	1022
26-3	114	Sec1 IVQ-37	III-3層	注口	II1	後期8	口唇：面取なし。外面：沈線。ミガキ。注口基部に三日月状の隆帯。隆帯上に縄文LR。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。使用痕：なし。外面黒斑。体部下半に最大径。	口径：7.2cm。底径：2.0cm。器高：11.6cm。 注口部完存。	P-193	28
26-4	114	IVR-35	Sec1-III-3層	注口	II1	後期7-4	口唇：磨滅。外面：口縁貼瘤(1箇所残存)。沈線。ミガキ。底部：高台。体部最大径の左側に径5mmの焼成後穿孔。胎土：小礫多く含む。使用痕：なし。外面黒斑。	底径：2.6cm。器高：12.0cm。 注口部は基部から欠損。	P-819	62
26-5	114	IVR-36	Sec1-III-3層	注口		後期7-4	外面：ミガキ。沈線。縄文LR。頸部貼瘤(2箇所残存)。体部の貼瘤は1個と上下2個一組を交互に配置。注口基部は丸く膨らむ。膨らみの右側面に1個の貼瘤。注口部直下に上部を刻む半円形の貼瘤。底部：高台。内面：粗いナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：なし。外面黒斑。	底径：2.1cm。施文順(縄文→貼瘤→沈線)。 注口部完存。	P-748	20
26-6	114	IVR-36	Sec1-III-3層	台付浅鉢	IB1	後期7～8	口唇：面取。内外面：劣化。剥落。ミガキだと思われる。胎土：砂粒。5mm以下小礫。使用痕：なし。	口径：19.4cm。器高：10.6cm。底径：9.3cm。	P-741	209
26-7	114	Sec1 IVQ-37	III-3層	粗製深鉢	IAa1t	後期後葉 ～晩期	平口縁に三山一組の突起(5単位)。口唇：面取。外面：縄文LR(横位)。胴部下半は縄文LR(斜位)。内面：ナデ。胎土：小礫。砂粒。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：20.0cm。	P-199, 216	69
26-8	114	Sec1 IVR-36	III-3層	粗製深鉢	I	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。		P-751	1018
26-9	114 巻頭8下	IVR-36	Sec1-III-2層	粗製深鉢	II Ba1t	後期7～8	平口縁に突起(5単位)。外面に篋状工具による整形痕。口唇：面取。突起頂部整形に伴い端部の内外面が肥厚。外面：口縁部文様帯、頸部文様帯を無文に構成し、口縁部文様帯に対応して、素拙が乾燥しない工程で施した横位方向の指によるナデ調整が顕著に残る。底部：高台。使用痕：外は口縁部から底部にスス。内は底部にコゲ。胎土：緻密で精選され、粘土基質の量比が高い。細砂粒。細礫。微量の海綿骨針。	口径：16.2cm。底径：6.9cm。器高：18.2cm。 器形及び突起形状から後期の土器と判断した。体部の屈曲が不明瞭なものは時期が下ると多くなるようなので、7章では後期8期としている。	P-564	61
26-10	114	Sec1 IVR-36	III-2層	深鉢	II	後期7-4	平口縁に山形突起。口唇：面取。外面：突起下に縦長貼瘤。貼瘤上に刻目。沈線。縄文LR。沈線による入組文。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。		P-571	1003

縄文土器観察表 (16)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
26-11	114	Sec1 IVR-36	III-2層	深鉢		後期7-4	波状口縁。波頂部に突起。口唇：面取気味に成る。外面：沈線間に連続する刻目。沈線による入組文。縄文LR(磨消)。内面：ナデ。胎土：砂粒。小礫。海綿骨針。使用痕：不明。			1021
26-12	114	Sec1 IVR-36	III-2層	深鉢		後期7-3	小波状口縁か。口唇：連続した浅い刻目。外面：連続する貼瘤2段。縄文LR。内面：ナデ。胎土：シルト質。海綿骨針。使用痕：外スス。			1004
26-13	114	Sec1 IVR-36	III-2層	深鉢		後期8	平口縁に二山状の台形突起。口唇：面取。外面：沈線。沈線による入組文か。縄文LR。内面：ナデ。胎土：シルト質。砂粒。使用痕：外スス。			1023
26-14	114	Sec1 IVR-36	III-2層	深鉢		後期8	小波状口縁。口唇：面取。外面：沈線による入組文。入組文の屈曲部に三叉状の沈線。縄文LR(磨消)。内面：ナデ。胎土：シルト質。小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コグ。		P-592	1011
26-15	114	Sec1 IVR-36	III-2層	深鉢		後期8	平口縁に突起。突起外面に貼瘤。外面：沈線。文様帯下端には区画線なし。体部無文。内面：ナデ。胎土：砂粒。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コグ。			1007
26-16	114	Sec1 IVQ-37・Sec1 IVQ-36	III-2層	深鉢	II Ba1t	後期8	平口縁に突起(6単位か)。口唇：面取する部分もあり。外面：沈線。縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。やや粗。使用痕：外スス。	復元口径：22.0cm。	P-92	1009
26-17	114	Sec1 IVR-36	III-2層	深鉢		後期8	平口縁。口唇：面取。外面：沈線。沈線による入組文。縄文LR。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。小礫。使用痕：外スス。		P-580	1006
26-18	114	Sec1 IVR-36	III-2層	深鉢		後期8	平口縁に突起。口唇：面取。外面：沈線。縄文LR。沈線による入組文。胎土：シルト質。砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。		P-703	1005
27-1	115 巻頭9上	Sec1 IVQ-37	III-2層	台付鉢	I Bb4	晩期1a	小波状口縁。口唇：面取。工具の押圧により波状に整形。外面：口縁部文様帯には幅狭な無文帯を水平に形成し、頸部文様帯の上端を単段の幅の狭い短沈線帯で、下端を単段の無文帯で面す。頸部文様帯には、沈線描出による単段の右上がりの入組文を7単位で生成し、入組文の描線の下端が区画帯に連結する。縄文LR(磨消)。体部縄文LR、台部が無文。使用痕：外は口縁部から高台部にスス、内は口縁部から体部中心にコグ(コグバンドもあ)。胎土：緻密で、粘土基質の量が高い。細砂粒。微量の海綿骨針。	口径：19.0cm、底径：7.4cm、器高：17.8cm。 略完形。	P-94, 70	44
27-2	115	Sec1 IVQ-36	III-2層	台付鉢	II Bb5	晩期1a	突起が連続する口縁。口唇：面取。外面：口縁部文様帯には口縁部形態に対し水平な縄文帯を形成し、頸部文様帯の上端を1条の横位沈線で、下端を幅狭の短沈線帯で面す。頸部文様帯には沈線描出による入組文を生成し、入組文の空隙に三叉状沈線を配す。縄文LR(磨消)。体部縄文LR。胎土：緻密で精選され、粘土基質の量が高い。細砂粒。微量の海綿骨針。使用痕：外スス。	口径：31.5cm、底径：10.5cm、器高：24.3cm。 施文順(縄文→沈線→磨消)。器厚は4mm程度と薄い。 残存率1/4。	P-152, 109, 168	49
27-3	115	Sec1-III-2層・IVR-36・IVR-35	III層	台付鉢	II Ba4	晩期1a	小波状口縁。口唇：面取。外面：口縁部文様帯には幅狭な縄文帯を水平に形成し、頸部文様帯の上端と下端はともに1条の横位沈線で面す。頸部文様帯には、沈線描出による入組文を5単位で生成し、起点部と終点部に単一の三叉状沈線を接合する。縄文LR(磨消)。原形は直前段が太いRと細いRによるLRと思われる。入組文を沈線により上下2等分するあり方が看取される。体部と台部は無文となる。使用痕：外全面スス。内は口縁部にコグ。胎土：緻密で精選され、粘土基質の量が多い。細砂粒。海綿骨針。	口径：22.9cm、底径：9.1cm、器高：25.5cm。 施文順(縄文→沈線→磨消)。 残存率3/4。	P-699, 703, 700, 241	2
27-4	115	Sec1 IVQ-35	III-2層	台付鉢	II Ba5	晩期1a	大小2種類の突起が連続する口縁。外面：三叉文は扶り。縄文LR。文様帯下端を沈線間に連続する短沈線で区画。体部縄文LR。使用痕：外スス。内コグ。		P-167, 166	1008
27-5	115	Sec1 IVR-36	III-2層	深鉢		晩期1a	大小の突起が連続する口縁。小波状口縁との区別が困難。口唇：面取気味にナデ。外面：沈線。沈線による入組文。入組文内を2本の縦線で区画。入組文の屈曲部に三叉状の扶り。縄文LR(磨消)。磨消部はナデ。内面：ナデ。胎土：砂粒多い。使用痕：外スス。		P-594	1024
27-6	115	Sec1 IVQ-36	III-2層	台付深鉢		晩期1a~b	外面：縄文LR。胎土：ナデ。内面：ナデ。砂粒。使用痕：外スス。	底径：8.2cm。	P-110	1015
27-7	115	Sec1 IVQ-36	III-2層	台付鉢		晩期1a~b	外面：縄文LR。体部と台部の境にごく浅い沈線。台部：ナデ。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。ススは台部にはなく体部のみ。	底径：8.0cm。	P-168	1013
27-8	115	Sec1 IVQ-36	III-2層	台付浅鉢か	I B4	晩期1a	小波状口縁。口唇：面取。外面：沈線。縄文LR。文様帯の下は無文。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。		P-143	1002

縄文土器観察表 (17)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
27-9	115	IVR-36	Sec1-III-2層	台付皿	IB1	後末～晩初	口唇：面取。内外面：ミガキ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：なし。	口径：10.7cm。	P-689	207
27-10	115	Sec1 IVR-36・IV0-43	III-2層・III層	粗製壺		後末～晩初	外面：体部縄文LR。内面：ナデ。胎土：粒子細かく精良。	遠距離接合。全面に漆附着(褐色)。顔料がまじっているかどうか不明。	P-692, 957	1016
27-11	115	Sec1 IVR-36・IVR-36	III-2層・III層	壺		後末～晩初	外面：縄文LR。底部：低平な高台。内面：ナデ。胎土：小礫多く含む。使用痕：外スス。外面黒斑。	口径：6.0cm。	P-577, 239	247
27-12	115	Sec1 IVQ-36	III-2層	壺	III1	晩期1b	口唇：面取なし。外面：ミガキ。頸部隆帯、3単位の突起(横方向の貫通孔)。沈痾。縄文LR(磨消)。磨消部はミガキ。底部：ミガキ。内面：ナデ。胎土：精良。使用痕：なし。	口径：6.2cm、底径：5.5cm、器高：11.2cm。 外面赤彩(漆)。 外面附着漆年代測定中。	P-146	70
27-13	115	Sec1 IVR-36	III-2層	壺	III1	晩期1a	平口縁。口唇：丸く収める。外面：磨滅激しい。地文なし。頸部に2条の隆帯。上部隆帯：隆帯上に沈線1条。5箇所突起。突起内を沈線の延長が貫通。下部隆帯：隆帯上に沈線1条。沈線が透切れる部分に突起推定6箇所。隆帯上には縄文LRの痕跡。内面：ナデ。胎土：白色砂粒少量。	口径：4.4cm、器高：12.9cm。 注口部は基部から剥離。	P-566	1017
28-1	116	Sec1 IVQ-36	III-2層	注口	III1	晩期1a	口唇：面取なし。外面：ミガキ。屈曲部に浅い沈痾。注口部直下に低平な隆帯。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：7.9cm、器高：12.9cm。 注口部は基部から剥離。	P-156	59
28-2	116	IVR-36	Sec1-III-2層	注口	III1	晩期1a	口唇：面取。外面：ミガキ。注口基部に隆帯。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：なし。	口径：8.4cm、器高：13.6cm。 注口部は基部から剥離。	P-584	58
28-3	116	Sec1 IVQ-36	III-2層	注口	III1t	晩期1b	平口縁に突起(1単位。欠損のため形状不明)。外面：口縁に縄文帯(縄文LR)。正面は「ノ」の字状に垂下。ミガキ。注口先端磨滅。注口周囲に沈線と縄文LRによる文様。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：8.9cm、器高：16.8cm。注口部壳存。	P-155	19
28-4	116	IVR-35・Sec1 IVR-36	III層・III-2層	注口	III1t	晩期1a	平口縁に突起(正面にのみ3単位と思われる)。口唇：面取。外面：口縁部に人面。文様は正面のみ。体部(28-5)は接合場所不明。沈痾。縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：なし。外面黒斑。	外面赤彩。 注口部は基部から欠損。注口欠損部に黒色物質(アスファルトか)附着。 アクリル系樹脂で修復。	P-686	1371
28-5	116	Sec1 IVQ-36	III-2層	粗製鉢	IBb1t	後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。内外底面やや荒れている。胎土：やや粗い。砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。内ナデ。	口径：10.3cm、器高：8.5cm、底径：5.6cm。	P-157	211
28-6	116	Sec1 IVQ-36	III-2層	粗製鉢	IBb4	後期後葉～晩期	小波状口縁。口唇：面取なし。外面：縄文LR。底部付近には縄文なし。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。内コケ。	口径：14.0cm、底径：7.0cm、器高12.6cm。	P-98	1025
28-7	116	Sec1 IVQ-37	III-2層	粗製鉢	I Aa1	後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。底部：高台。底面ナデ。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。内コケ。	口径：29.0cm、底径：7.5cm、器高：41.0cm。底部は図上復元。	P-592, 593, 153	1020
29-1	117	Sec1 IVR-36・Sec1 IVQ-36	III-2層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。小礫。使用痕：外スス。	口径：29.0cm。	P-687	1001
29-2	117	Sec1 IVR-36	III-2層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。胎土：砂粒。使用痕：外スス。	口径：36.5cm。	P-568	1028
29-3	117	Sec1 IVR-36	III-2層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：3mm以下小礫。使用痕：外スス。	口径：41.5cm。	P-703	1029
29-4	117	Sec1 IVR-36	III-2層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。		P-88	1010
30-1	117	Sec1 IVQ-37	III-2層	粗製深鉢	I C1	後期後葉～晩期				

縄文土器観察表 (18)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
30-2	116	Sec1 IVR-36	III-2層	粗製深鉢	IAa1t	後期後葉～晩期	平口縁に突起。口唇：面取。外面：縄文RL。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。砂粒。使用痕：外スス。内コガ。			1012
30-3	117	IVR-35・IVR-35・配石付近	Sec1-III-2層・III層	粗製深鉢	IAa1	後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR(横位、胴部下半は一部斜位)。縄文は面取後に施文。内面：ナデ。底部：平底。胎土：小礫。砂粒。使用痕：外スス。内コガ。	口径：30.6cm、底径：8.9cm、器高：42.6cm。	P-699, 241	1
30-4	116	Sec1 IVR-36	III-2層	粗製深鉢		後期後葉～晩期	外面：縄文LR。底部付近には縄文なし。底部：高台。底面：ナデ。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。	底径：9.0cm。	P-696	1019
30-5		Sec1 IVR-36	III-2層	粗製深鉢		後期後葉～晩期	外面：縄文LR。底部：高台。底面：ナデ。胎土：3mm以下小礫。使用痕：外スス。内コガ。	底径：6.8cm。	P-572	1014
30-6	116	Sec1 IVQ-35	III-2層	香炉		後期8	香炉突起。側面の肥厚する部分にごく浅い沈線(口の表現なのか)。外面：貼瘤。貫通孔(一方向)。沈線。縄文LR(原体は疑似縄文の可能性もある)。内面：ナデ。胎土：シルト質。砂粒。海綿骨針。使用痕：薄くスス付着。		P-118	1030
30-7	118	Sec2 IVP-44	III-8層・III-11層・III層	粗製深鉢	IAa1	後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：縄文RL。内面：ナデ。胎土：小礫多く含む。海綿骨針。使用痕：外スス。	口径：29.8cm。	P-18	702
31-1	118	Sec2 IVQ-44	III-8層・III-6層	深鉢	IIBa5	後期8	口縁に高低の突起が交互に連続。高い方の頂部に刻目。口唇：面取。外面：沈線による入組文。縄文LR。文様帯上下端を沈線間に連続する短沈線で区画。体部無文。使用痕：外スス。内コガ。胎土：砂粒。	口径：24.7cm。 施文順(沈線→縄文→沈線再施文)。	P-20	719
31-2	118	Sec2 IVQ-44	II層・III-6層・III-8層	深鉢	IBb5	晩期2	平口縁にB突起(単位数不明)。口唇：刻目。外面：沈線。最上部の沈線から口縁にむかっけてトゲ状の短沈線。沈線と刺突による羊歯状文。縄文LR。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。内コガ。	口径：17.6cm。		712
31-3	118	Sec2 IVQ-44	III-6層・III-8層	粗製深鉢	IBb1	後期後葉～晩期	口唇：弱い面取。外面：ナデ。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コガ。	口径：17.0cm。	P-14	714
31-4	118	Sec2 IVQ-44	III-6層・III-8層・III層	台付浅鉢	II4t	晩期1b	裝飾的な小波状口縁。大突起1単位。外面：頸部と台部に入組三叉文。文様帯に縄文なし。体部縄文LR。台部：透かし孔。使用痕：なし。胎土：砂粒。海綿骨針。	口径：21.0cm、底径：10.2cm、器高：16.0cm。		136
31-5	118 巻頭9下	Sec2 IVN-44	III-1層・III-7層	台付皿	IB5	晩期3	透かし孔のある裝飾的なB突起が連続する口縁。外面：沈線。彫去による雲形文。縄文LR(磨消)。磨消部はミガキ。台部：沈線、透かし孔。ミガキ。内面：ミガキ。胎土：精良。海綿骨針。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：27.1cm、底径：11.4cm、器高：14.0cm。内外面赤彩。	P-2	112
31-6	118	Sec2 IVN-44	III-7層	浅鉢	IA1	晩期3	口唇：面取なし。外面：沈線。連続する刻目。彫去による雲形文。縄文LR(磨消)。磨消部はミガキ。底部：円形の凹底。内面：ミガキ。胎土：砂粒。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：15.7cm、底径：4.4cm、器高：5.5cm。		115
31-7	118	Sec2 IVN-45	III-1層・III-7層	浅鉢	IA1	晩期3	口唇：面取なし。外面：連続する刻目。沈線。縄文LR(磨消)。彫去による雲形文。底部：凹底。内面：ミガキ。胎土：精良。海綿骨針。使用痕：なし。	口径：16.3cm、底径：4.2cm、器高：6.6cm。 内外面赤彩(漆)と思われる。		134
31-8	118	Sec2 IVN-44	III-1層・III-7層・III層	浅鉢	IA1	晩期3	口唇：面取なし。外面：沈線間に連続する刻目。縄文LR(磨消)。彫去による雲形文。底部：凹底。内面：ミガキ。胎土：精良。海綿骨針。使用痕：なし。	口径：19.5cm、底径：3.4cm、器高：7.0cm。 内外面赤彩(漆)。	P-2	131
31-9	118	Sec2 IVN-44	III-1層・III-7層上面・III-7層	浅鉢	IA1	晩期3	口唇：面取なし。外面：連続する刻目。沈線。縄文LR(磨消)。磨消部ミガキ。沈線による雲形文(彫去なし)。内面：ミガキ。胎土：精良。海綿骨針。使用痕：なし。	口径：21.0cm。		135
32-1	118 巻頭9下	Sec2 IVN-44	III-7層上面	半精製鉢	IAa5	晩期3	口縁外側に三叉状の枒りを施し、連続した突起を作出。外面：沈線。突起1箇所。突起上면에刻目。体部縄文RL(横位)。台部：沈線。下端肥厚。肥厚部に縄文RL。使用痕：外スス。	口径：14.0cm、底径：7.3cm、器高：12.6cm。 施文順(縄文→突起→沈線)。	Sec2 P-9	78
32-2	118	Sec2 IVN-44	III-7層・III層	半精製鉢	IAa5	晩期3	口縁外側に三叉状の枒りを施し、連続した突起を作出。外面：沈線。突起1箇所。突起上面に刻目。体部縄文RL。使用痕：外スス。内コガ。胎土：砂粒。	口径：12.1cm。 外面付着炭化物年代測定中。		701

縄文土器観察表 (19)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
32-3	118	Sec2 IVN-44	III-7層	半精製鉢	IAa5	晩期3	平口縁に三叉状の抉りを通し、抉り間の口唇にユビオサエを施すことで連続した突起様の裝飾を作出。外面：沈線。口縁直下に突起1箇所。体部縄文RL。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。内コグ。	口径：14.4cm。		715
32-4	119	Sec2 IV0-44	III-6層	深鉢	II Bb4	晩期1a~b	小波状口縁。外面：口縁部文様帯には幅狭な縄文帯を水平に形成し、波底部直下を起点と終点に連続する下向き弧縄文を表出する。頸部文様帯の上端と下端は太めの横位沈線で飾り、頸部文様帯には入組文を生成する。縄文LR(磨消)。縄文を磨消す工程で縄文部と無文部が逆転する現象が窺われる。体部は筋の細かい縄文で覆われる。使用痕：外スス。内コグ。胎土：磁器で精選され、粘土基質の量が高い。細砂粒。微量の海綿骨針。	口径：16.0cm。器厚は4mm程度と薄い。		720
32-5	119	Sec2 IV0-44	III-6層	深鉢	II Bb4	晩期1a~b	小波状口縁。外面：沈線。縄文LR。ナデ。体部縄文RL。内面：ケズリのちナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。クサリ礫。使用痕：外スス。	口径：17.0cm。		711
32-6	119	Sec2 IV0-44	II層・III-6層	半精製鉢	II Bc5	晩期3	口縁内部に三叉状の抉りを通し、連続した突起を作出。外面：肩部突起1単位。頸部に沈線と刻目による羊歯状文。体部縄文RL。内面：口縁に強い隈り出し。使用痕：外スス。内コグ。胎土：砂粒。	口径10.6cm。		703
32-7	119	Sec2 IVP-44	II層・III-6層	浅鉢	I B1t	晩期1b	平口縁に5個一組の突起が1単位。口唇：面取なし。外面：縄文LR(磨消)。磨消部ミガキ。沈線。入組三叉文。底面にも縄文。底部：4足状の突起。突起は内面から外側に器面を突くことで形成される。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：なし。	口径：10.2cm、器高：6.2cm。 底部に内面からの押し出しによると思われる隅が4個。 施文順(突起貼付→縄文→沈線)。		102
32-8	119	Sec2 IVP-44	III-6層	粗製壺	I 1	晩期1か 後期後葉 ～晩期	口縁：面取なし。外面：ナデ。縄文LR。底部：平底。内面：ナデ。胎土：小礫多く含む。使用痕なし。外面黒斑。	口径：10.3cm、器高：27.2cm、底径：6.0cm。		215
32-9	119	Sec2 IV0-44	II層・III-6層	粗製深鉢	II Bb4t	後期後葉 ～晩期	小波状口縁に突起。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コグ。	口径：20.1cm。		707
32-10	119	Sec2 IV0-44	III-6層	深鉢	Sec2 IV0-44	後期後葉 ～晩期	外面：縄文LR。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫多く含む。海綿骨針。使用痕：外スス。内コグ。	底径：8.2cm。		708
32-11	119	Sec2 IV0-45	III-5層	半精製台付鉢	II Bc2t	晩期3	口縁に連続するB突起。口唇：刻目。外面：沈線。沈線間に刺突列。縄文LR。肩部に突起(1単位)。突起上部は欠損。台部：沈線。透かし孔。ナデ。台端部肥厚。肥厚部に縄文LR。内面：口縁に強い隈り出し。沈線。ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。内コグ。	口径：14.0cm、底径：8.0cm、器高：15.7cm。 P-17		199
32-12	119	Sec2 IV0-45	III-5層	浅鉢	I B1	晩期3	口唇：面取なし。外面：沈線。連続する刻目。縄文LR(磨消)。彫去による雲形文。彫去部分はミガキ。底部：凹底。内面：ミガキ。胎土：海綿骨針。使用痕：なし。	口径：16.1cm、底径：5.0cm、器高：6.7cm。 外面赤彩(漆)。 注口部完存。	Sec2 P-11	74
32-13	119	Sec2 IV0-44・IV0-44	III-5層 II層 III層	注口		晩期2	外面：沈線による羊歯状文。注口部直下に入組三叉文。胎土：精良。海綿骨針。			706
32-14	119	Sec2 IVN-44	III-1層	鉢	II Bc5	晩期3	口縁に連続するB突起。外面：沈線。頸部に連続する雑な刺突。沈線による雲形文(彫去なし)。縄文LR(磨消)。内面：口縁に強い隈り出し。沈線。ナデ。使用痕：外スス。内コグ。胎土：砂粒。海綿骨針。	口径：15.2cm。 施文順(縄文→沈線)。		716
32-15	119	Sec2 IVN-44	III-1層	半精製鉢	I Ba1	晩期5	外面：磨滅激しい。沈線。突起。工字文。体部下半縄文RL。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コグ。	口径：11.6cm、器高：7.5cm、底径：5.2cm。 P-7		216
32-16	119	Sec2 IVN-45	III-1層	半精製浅鉢	I A1	晩期4	外面：縄文LR。ミガキ。肩部隆帯。隆帯上に縄文LRと刻目。体部下半縄文LR。底部：凹底気味。底面ケズリのちナデ。内面：口縁沈線。粗いミガキ。胎土：精良。使用痕：なし。	口径：12.0cm、器高：3.6cm、底径：5.5cm。 施文順(沈線→縄文→沈線再施文)。		710
32-17	119	Sec2 IVN-44	III-1層	深鉢	Sec2 IVN-44	後期後葉 ～晩期	外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外スス。	底径：7.0cm。		721
32-18	119	Sec2 IVN-44	III-1層	粗製深鉢	I Bb1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コグ。	口径：13.6cm。		704
33-1	120	Sec3 IVQ-44・IVQ-45	III-8層・III-11層・III層	深鉢	Sec3 IVQ-45	後期7~8	平口縁に突起。突起は大小2種類あるが規則的な配置ではない。大突起は上面をユビオサエ。小突起は頂部に刻目。口唇：面取。外面：沈線。ケズリのちナデ。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コグ。	口径：28.5cm。 P-18, 19,1481		259

縄文土器観察表 (20)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
33-2	120	Sec3 IVQ-44	III-11層	香炉		後期7~8	香炉頂部。貫通孔1箇所。左右側面に凹形突起(右側3点。左側4点)。焼成良好。胎土：砂粒。海綿骨針。			1515
33-3	120	Sec3 IVR-44	III-8層	半精製注口	II 1	後期8	口唇：面取。外面：ナデ。縄文LR(横位、注口周辺は縦位)。注口直下に上面に刻目のある貼瘤。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：6.5cm、底径：5.1cm、器高：11.7cm。 注口部先端欠損。	P-17	245
33-4	120	Sec3 IVQ-44	III-6層	深鉢		後期7-4	波状口縁。波頂部は欠損。波底部に3個一組の突起。口唇：面取。外面：沈線。沈線間に連続する刻目。縄文LR(磨消)。磨消部ナデ。貼瘤。(円形と楕円形で上部に刻目のあるもの2種)。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：24.0cm。		904
34-1	120	Sec3 IVS-44	III-4層	半精製台付鉢	II Bc2	晩期4	口唇：面取。外面：沈線。肩部に大突起1単位。2個一組の粘土粒による小突起が大突起の高脇に1単位ずつ、大突起の反対側の面に1単位。縄文LR(縦・斜位)。台部：沈線。内面：口縁沈線。ナデ。胎土：小礫。砂粒。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：12.9cm。正面突起が欠損。	P-12	122
34-2	120	Sec3 IVS-44	III-4-d層	半精製鉢	I Bb2	晩期3か	口唇：刻目。外面：沈線。縄文LR。底面ケズリ。内面：ケズリのちナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：12.0cm、器高：11.3cm、底径：5.2cm。		243
34-3	120	Sec3 IVS-44	III-4-d層	粗製深鉢	I C2	晩期2~3か	口唇：刻目。外面：縄文LR(無筋)。内面：ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外スス。	口径：23.7cm。		902
34-4	120	Sec3 IVR-44	III-4-b層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉~晩期	口縁：面取。外面：縄文LR。縄文は面取後に施文。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：30.8cm。	P-4	906
34-5	120	Sec3 IVR-44	III-4-f層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉~晩期	口唇：部分的に面取。外面：縄文LR。内面：工具状によるナデ。工具幅約2cm。胎土：クサリ礫。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：28.0cm。	P-11	903
34-6	120	Sec3 IVR-44・IVR-44	III-4-c層・III層	粗製深鉢	I C1t	後期後葉~晩期	平口縁にB突起(1単位)。口縁：面取。外面：縄文LR。縄文は面取後に施文。底部直上2cmくらいは縄文なし。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：27.2cm、器高：28.5cm、底径：8.9cm。補修孔。	P-8	246
34-7	120	Sec3 IVS-44	III-4-d層	深鉢		後期後葉~晩期	外面：縄文LR。底部直上には縄文なし。底部：低平な高台。底面に多くの乱雑な沈線。内面：板状工具によるナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。	底径：6.8cm。		244
34-8	120	Sec3 IVR-45	III-4-f層	深鉢		後期後葉~晩期	外面：ケズリのち縄文LR。底部直上5cmくらいは縄文なし。底部：平底。底面ケズリ。内面：ケズリのちナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。	底径：5.8cm。 注口部完存。	P-10	189
34-9	120	Sec3 IVQ-44・SR-35・IVR-44	III-2層	深鉢	II	後期7-3	外面：ナデ。貼瘤(円形と楕円形で上部を刻むもの2種)。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。		P-19	909
35-1	121	Sec5 IVS-36・IVS-36	III-8層・III-8-9層・III-7-8層・III層	深鉢	II A5	後期8	口縁に連続する突起。口唇：面取。外面：沈線。縄文LR。沈線による入組文。体部無文。内面：板状工具によるナデ。使用痕：外スス。内コゲ。胎土：砂粒。海綿骨針。	口径：22.7cm。 施文順(沈線→縄文→沈線再施文)。		2199
35-2	121	Sec5 IVS-36	III-8-9層・III-8層	粗製鉢	I Aa1t	後期後葉~晩期	平口縁に突起。口唇：面取。外面：縄文LR。底部：高台。内面：ナデ。板状工具痕。一部に縄文LR。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：9.0cm、器高：7.5cm、底径：5.1cm。		2182
35-3	121	Sec5 IVS-36	III-7-8層	深鉢	II Ba1t	後期7-4	平口縁に二山状の台形突起。口唇：面取。外面：貼瘤(円形で先端が尖るものと円形で上部に十字刻目をもつもの2種)。沈線間に連続する刻目。沈線による入組文。縄文LR(磨消)。磨消部は粗いミガキ。体部縄文LR。内面：ケズリのちナデ。胎土：砂粒。クサリ礫。使用痕：外スス。			2210
35-4	121 巻頭9上	Sec5 IVS-35	III-7-8層・III-7層	注口	III 1	晩期1a	口唇：面取。外面：ミガキ。注口先端肥厚。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：なし。	口径：9.3cm、器高：13.3cm、底径：1.5cm。 注口部完存。		2015
35-5	121	Sec5 IVS-36	III-7層	壺か		晩期1a~b	外面：縄文LR。体部と底部の境に沈線。底部：高台。内面：ナデ。胎土：精良。海綿骨針。使用痕：なし。	底径：7.8cm。内外面黒色漆塗膜。		2197

縄文土器観察表 (21)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
35-6	121	Sec5 IVS-35	III-5層	台付鉢か	II Ba4	晩期1a	小波状口縁。口唇：面取。外面：口縁部文様帯は幅の狭い縄文帯を形成し、頸部文様帯の上端を上条の横位沈線帯で、下端を短沈線帯で画す。頸部文様帯には入組文を5単位生成す。入組文の連結部に三叉状沈線、縄文LR(磨消)。体部縄文LR(実測図では表現されていない)。使用痕：外スス。内上半コゴ。胎土：緻密で粘土基質の量が高い。細砂粒。海綿骨針。	口径：19.2cm。残存率4/5。		2061
35-7	121	Sec5 IVS-34・7・9・11 (IVS-34)	III-5層・III層	深鉢	II Ba5	後期8	口縁に高い二山状の台形突起と低い山形突起が交互に連続。低い突起の頂部に刻目。口唇：面取。外面：沈線による入組文。縄文LR(磨消)。入組文の空隙に三叉文。文様帯上下端を沈線間に連続する短沈線帯で区画。体部無文。使用痕：外スス。内コゴ。胎土：小礫。海綿骨針。	口径：25.0cm。縄文順(縄文→沈線)。	P-2305	2100
35-8	121	Sec5 IVS-34	III-4層・III-5層	壺	III 1	晩期1~2	口唇：面取。外面：ナデ。底面：高台。内面：ナデ。板状工具痕。胎土：小礫。使用痕：外ス。外面黒斑。	口径：6.4cm、器高：20.2cm、底径：6.6cm。		2121
35-9	121 巻頭9上	Sec5 IVS-35	III-5層	粗製深鉢	I Bb1	後期後葉 ~晩期	口唇：面取。外面：ナデ。底面：低平な高台。胎土：海綿骨針。使用痕：外ス。内コゴ。	口径：26.8cm、器高：30.7cm、底径：9.0cm。 7草で晩期1a期としたのは、高台が低くなっているためである。		2041
36-1	122	Sec5 IVS-35	III-4層	深鉢	I C4	晩期1b	小波状口縁。外面：縄文LR(一部磨消)。小波状縁の直下には、縄文地に上向き弧線文と下向き弧線文が結合して紡錘形の文様を展開し、使用痕：外スス、コゴ。内コゴ。胎土：下端は短沈線帯で画し、体部は縄文帯に覆われる。	口径：23.0cm。 外面炭：2960±20yrBP。 残存率4/5。器厚が薄い。		2018
36-2	121	Sec5 IVR-34・IVR-34	III-4層・III層下	台付鉢	II Bb5	晩期1a	口縁に山形突起と台形突起が交互に連続(単位数不明)。台形突起の頂部に刻目2本。外面：沈線による崩れた入組文。入組文の屈曲部に三叉状の沈線。縄文LR。体部無文。使用痕：外スス。内コゴ。胎土：海綿骨針。	口径：22.0cm、底径：9.7cm、器高：27.1cm。	P-2431	2193
36-3	122	Sec5 IVS-34	III-4層	台付鉢	II	晩期1a~b	外面：沈線による入組文、縄文LR(磨消)。磨消部ナデ。沈線間に連続する短沈線。体部下半縄文LR。体部と台部の境に浅い沈線。台部ナデ。内面：ケズリの内ナデ。胎土：海綿骨針。クサリ縁。使用痕：外スス。内コゴ。	底径：5.0cm。		2147
36-4	122	Sec5 IVS-34	III-4層	台付鉢	II A5	晩期1a	口縁に低い山形突起と台形突起が交互に連続(計12単位)。台形突起の頂部に刻目2本。外面：縄文LR。沈線による崩れた入組文。入組文の屈曲部に三叉状の沈線。体部縄文LR。内面：ナデ。使用痕：外スス。内コゴ。胎土：砂粒。	口径：22.2cm。施文順(縄文→沈線)。		2139
36-5	122	Sec5 IVS-34	III-4層	注口		晩期1a	外面：沈線。縄文LR(磨消)。磨消部ミガキ。体部下半無文。注口：先端肥厚。基部に円形刺突と三叉文。底面：平底(わずかに高台状の高まり)。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コゴ。	底径：6.4cm。 注口部完存。注口部および文様の一部に漆塗膜(黒色漆)。	P-2450	2056
37-1	122 巻頭8上	Sec7 IVS-35	III-10層・III-9層・III層中・III層下	台付鉢	II Ba3t	後期7-4	波状口縁(5単位)。頂部及び底面に突起。口唇：面取。外面：沈線間に連続する刻目。貼縁。縄文LR(磨消)。磨消部は彫去状。体部と台部ナデ。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コゴ。	口径：30.7cm、底径：13.0cm、器高：33.4cm。残存率4/5。		2053
37-2	122	Sec7 IVS-34	III-2層・III-3層・III-10層	台付鉢	II Ba5	晩期1a	口縁に低い山形突起と台形突起が交互に連続。台形突起の頂部に刻目2本。口唇：面取。外面：沈線。台形突起の下に三叉文。縄文LR。沈線による崩れた入組文。入組文の屈曲部に三叉状の沈線。入組文内に2本の縦位沈線。体部無文。使用痕：外スス。内コゴ。胎土：砂粒。海綿骨針。	口径：23.7cm。		2080
37-3	122	Sec7 IVS-35	III-10層	注口	III	後期7~8	外面：ミガキ。注口部直下に三日月状の膨らみ。底面：高台。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：なし。外面黒斑。	底径：2.0cm。注口部は基部から欠損。欠損部に黒色物質(アスファルトか)付着。	P-2436	2052
37-4	122	Sec7 IVS-34・IVT-34	III-10層・III層	注口か		晩期1a	外面：縄文LR(磨消)。沈線。磨消部はミガキ。上下に対向する挟りによる三叉文。体部下半ミガキ。底面：低平な円形の粘土粒を貼付。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：なし。外面黒斑。	底径：0.6cm。	P-2372, 2400	2051

縄文土器観察表 (22)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
37-5	123	7 ^ブ 11 (IVS-34) ・7 ^ブ 112 (IVS-34) ・Sec7 ^ブ 11 (IVS-35)	III層・ III-10層	深鉢	I Bb1t	後期7-4	平口縁に山形突起と二山状突起が交互(計12単位)。口唇：面取。外面：沈線。貼瘤。沈線による入組文。縄文LR(磨消)。沈線ひき直しの痕跡多い。体部縄文LR。底部：高台。使用痕：外スス。内コゴ。胎土：砂粒。海綿骨針。	口径：35.7cm、底径：8.8cm、器高：38.7cm。 施文順(沈線→縄文→沈線再施文)。	P-2393, 2394, 2439	2091
37-6	123	Sec7 ^ブ 11 (IVS- 34)・ Sec7 ^ブ 34	III-10層 ・III層	粗製深鉢	I Bb1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。底部直上には縄文なし。内面：ナデ。底部：高台。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コゴ。	口径：37.8cm、器高：43.2cm、底径：10.3cm。	P-2392	2027
37-7	122	Sec7 ^ブ 34 IVS-	III層下・ III-2層	台付鉢	II Ba4	晩期1a	小波状口縁。口唇：面取。外面：縄文LR(一部磨消)。口唇部文様帯には縄文帯が巡り、波頂部を起点と終点に下向き弧線文が連絡して「八」字状の区画を形成する。頸部文様帯の上端は幅狭な縄文帯で、下端を短沈線帯で面す。頸部文様帯には沈線描出による右上がりの入組文を生成する。体部は縄文で覆われる。胎土：緻密で、粘土基質の量が高い。細砂粒。海綿骨針。使用痕：外は上半にスス、コゴ。内は口頸部から底部にコゴ。	口径：22.2cm。 外面炭：2910±20yrBP。 残存率1/2。		2082
38-1	123	Sec7 ^ブ 35・ IV1-35	III-9層・ III層	深鉢	I Bb1t	後期7～8	平口縁に突起。口唇：面取。外面：縄文LR。沈線。口唇部直下に縄文帯。3個一組の単位で径の小さい貼瘤を付す。縄文帯の下位には、横斜め方向からの鋭利な突起を等しい間隔で施す3帯の刺突帯が重畳する。体部は縄文で覆われる。胎土：粘土基質の量が高い。細砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゴ。	口径：24.0cm。		2128
38-2	123	Sec7 ^ブ 35・ IV1-35	III-9層・ III層	台付浅鉢	I B1	後期7～8	口唇：面取。外面：ケズリのうちナデ。底面ケズリ。内面：ケズリのちナデ。胎土：小礫。クサリ礫。使用痕：口縁内面に薄いスス。	口径：18.4cm、器高：7.7cm、底径：7.4cm。		2060
38-3	123	Sec7 ^ブ 35	III-9層	壺	IV	後期7～8	外面：ミカキ。内面：ナデ。底部：平底。ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：なし。外面黒斑。	底径：4.0cm。頸部内面に赤色顔料付着。		2178
38-4	123	7 ^ブ 12 (IVS-35) ・Sec7 ^ブ IV S-35・ Sec7 ^ブ 36・ IVS-35	III層・ III-7層・ III-9層・ III層上	粗製深鉢	I Aa1	後期8	粗製深鉢に縄文施文後沈線で雑な文様を描いている。文様の要素は有文土器に見られるものだが全体としてみた場合、有文土器の作り手が描いた文様には見えない。口唇：面取。胴部；縄文LR。細く鋭い沈線。三叉文が連結したような、くびれのある四角形の配置文を多用。配置文内部など縄文を磨り消そうとした痕跡はあるが、きれいに消すことはできていない。胎土：小礫多い。使用痕：外スス。	口径：25.0cm。 外面炭：2950±20yrBP。 施文順(縄文→沈線) 補修孔。	P-2381	2200
38-5	123	Sec7 ^ブ 35	III-9層	粗製深鉢	I Aa1t	後期後葉 ～晩期	平口縁に三山一組の突起(4単位)。口縁：面取。外面：縄文LR(無節)。内面：ナデ。板状工具痕。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コゴ。	口径：16.9cm。		2024
38-6	123	Sec7 ^ブ 35	III-9層	粗製鉢	I Bb1t	後期後葉 ～晩期	平口縁に突起(山形の一部が確認できる)。口唇：面取。外面：縄文LR。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。	底径：6.6cm。		2134
38-7	123	Sec7 ^ブ 35	III-9層	粗製深鉢	I Bb1	後期後葉 ～晩期	口唇：弱い面取。外面：縄文LR。底部直上には縄文なし。底面：高台。底面ケズリ。内面：ナデ。胎土：小礫多く含む。使用痕：外スス。内コゴ。	口径：32.3cm、器高：34.0cm、底径：8.0cm。		2054
38-8	124	Sec7 ^ブ 35・ IV1-34・ IV1-35	III-7層・ III層	深鉢	II Ba1t	後期8	平口縁に高低の突起(計12単位か)。高い突起頂部には刻目1本、低い突起頂部には刺突1個。口唇：面取。外面：文様帯上下端を沈線間に連続する短沈線で区画。沈線で左右に連結しない入組文。入組文の空隙に三叉文。縄文LR。体部無文。使用痕：はつきりしない。胎土：小礫やや多い。クサリ礫。海綿骨針。	口径：30.0cm。 施文順(沈線→縄文→沈線再施文)。 口縁部外面に赤色顔料僅かに付着。口縁部外面に圧痕。	P-2198	2109
38-9 38-10	124	Sec7 ^ブ 36・ IVS-35・ IVS-36	III-7層・ III層	深鉢	II	後期8	口唇：弱い面取。外面：沈線。沈線間に連続する刻目。貼瘤。無文部および体部下半はナデ。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コゴ。			2211-1 2211-2

縄文土器観察表 (23)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
38-11	124	Sec7 IVS-36	III-7層	深鉢	II	後期7~8	外面：くびれ部に円形の貼瘤と楕円形の突起が交互に貼り付けられる。楕円形の突起は上に横位の短沈線が施される。体部下半ナデ。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。	くびれ部に人面風の表現。		2222・2223
39-1	124	Sec7 IVS-35・IVT-35	III-6層・III層	台付鉢	II Ba5	晩期1a	口縁に山形突起と台形突起が交互に連続。台形突起の頂部に刻目2本。口唇：面取。外面：各突起下に上向き三叉文。文様帯上下を沈線間で区画。沈線による左下がりの入組文。入組文の屈曲部に三叉状の沈線。入組文内に2本の縦位沈線。縄文LR。磨消は不十分。入組文の沈線を引き直した箇所あり。使用痕：外スス。内コゲ。胎土：海綿骨針。	口径：29.9cm。 施文順(沈線→縄文→沈線再施文→一部縄文再施文)。		2110
39-2	124	Sec7 IVS-35	III-5層	注口	II 1	晩期1a	口唇：面取なし。外面：ナデ。沈線。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：なし。	口径：5.3cm、器高：9.0cm、底径：1.6cm。 注口部は基部から欠損。		2016
39-3	124	Sec7 IVS-35	III-2層	壺	III 1	晩期1b	口唇：面取なし。外面：口縁肥厚。ミガキ。沈線。縄文LR(磨消)。磨消部はミガキ。体部中央に無文帯。体部下半縄文LR。内面：ナデ。胎土：精良。使用痕：なし。	口径：5.9cm、底径：5.4cm、器高：11.9cm。 外面および内面珪質赤彩(漆)。 外面付着漆年代測定中。	P-2449	2017
39-4	124	Sec7 IVS-35・IVS-34	III-2層・III-3層・III層	壺	III 1	晩期1a	口唇：面取。外面：縄文LR。沈線。ナデ。頸部に隆帯。隆帯上に縄文、沈線、突起。底部：高台。内面：ナデ。胎土：凝灰岩片。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：10.8cm。 体部と底部の境に帯状に、また底面に黒色物質(漆又はアスファルト)付着。		2079-1
39-5	124	Sec7 IVS-35・IVS-34	III-2層・III-3層・III層	壺	III 1	晩期1a	—	底径：9.6cm、39-4と同一個体。		2079-2
40-1	125	IVN-39	III層	深鉢	II Bb5	晩期1b	口縁にB突起(単位数不明)。口唇：刻目。外面：入組三叉文。沈線。体部上半縄文LR。体部下半ケズリのちナデ。底部：高台。内面：ナデ。胎土：クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：17.0cm、底径：6.0cm、器高：19.4cm。	P-437	1151
40-2	125	IVN-39	III層	台付鉢	II Bb2	晩期1b	口唇：刻目。外面：文様帯上下に平行沈線。平行線化した入組三叉文。末端に円形刺突。体部は筋の細かな縄文LRで覆われる。胎土：緻密で精選され、粘土基質の量比が高い。細砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：23.0cm。残存率1/2。器厚が4mm程度と薄い。	P-438, 582	271
40-3	125	IVN-39	III層	鉢	II Ba1t	晩期1b	平口縁にB突起(単位数不明)。口唇：面取なし。外面：沈線。入組三叉文。ナデ。体部縄文LR(横位)。底部：平底。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：10.8cm、底径：5.4cm、器高：9.7cm。	P-437	1113
40-4	125	IVN-39	III層	深鉢		後期後葉～晩期	外面：ケズリのち縄文LR。底部直上5cmくらいは縄文なし。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コゲ。	底径：7.0cm。	P-437	283
40-5	125	IVN-39	III層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：口縁に面取時の粘土の段。縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：28.3cm。	P-680	273
40-6	125	IVN-39	III層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR(横位)。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。外面黒斑。	口径：25.9cm。	P-682, 681	64
40-7	125	IVN-39	III層	深鉢	II Ba1t	後期7-4	平口縁に突起(二山一組で5単位)。口唇：面取。外面：沈線。貼瘤。貼瘤による入組文。縄文LR(磨消)。体部は無文。内面：ナデ。胎土：粘土基質の量比が高い。細砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：22.2cm。 施文順(縄文→沈線→貼瘤)。部分的に施文順前後する。沈線下書き後、縄文を充填施したと思われる。	P-483	260
40-8	125	IVN-39	III層	台付鉢	II Ba1	後期7-4	外面：沈線間に連続する刻目。貼瘤。沈線による入組文。縄文LR(磨消)。磨消部は彫去状。体部下半ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：22.0cm、器高：22.0cm、底径：10.6cm。	P-484	1119
40-9	125	IVN-39	III層	深鉢		後期8分)	外面：沈線。縄文LR。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：22.0cm、器高：22.0cm、底径：10.6cm。	P-528	280
40-10	126	IVN-40	III層	注口	II 5	後期7~8	平口縁に大小交互の山形突起(計8単位)。口唇：面取。外面：口縁縄文LR。頸部以下ナデ。底部：高台。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：8.5cm、器高：15.9cm、底径：3.1cm。 注口部途中から欠損。	P-432	1073

縄文土器観察表 (24)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
40-11	126	IVN-40	III層	台付浅鉢	IB1t	後期7-4	平口縁に突起(6単位)。口唇：面取。外面：縄文LR(横位)。沈線。ミガキ。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：なし。内外面黒斑。	口径：23.7cm。施文順(沈線→縄文)。突起形状が108-4、115-5と共通するたため、7章では7-4期とした。	P-652, 653, 654	167
41-1	126	IVN-40	III層・II層	深鉢	II Ba3t	後期7-4	波状口縁(4単位)。波底部に2個の突起。口唇：面取。外面：沈線間に連続する刻目。波頂部直下の三角形の区画内に「八」の字状の沈線。沈線による入組文。縄文LR(磨消)。磨消部は彫去状。体部無文。胎土：緻密で精選され、粘土基質の量比が高い。細砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。内コガ。	口径：25.2cm。残存率1/3。	P-431, 465, 466, 467	1078
41-2	126	IVN-40	III層	粗製鉢	IAa1t	後期後葉～晩期	平口縁にB突起(4単位か)。口唇：弱い面取。外面：縄文LR。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫多く含む。使用痕：外スス。	口径：17.0cm、器高：13.9cm、底径：8.0cm。	P-432	1082
41-3	126	IVN-40	III層	鉢		後期8	外面：沈線による入組文。縄文LR。文様帯下端を沈線間に連続する短沈線で区画。体部無文。器表面摩滅。使用痕：外スス。内コガ。胎土：砂粒。小礫。海綿骨針。	施文順(縄文→沈線)。上部の破断面は疑口縁。	P-504	276
41-4	126	IVN-44	III層	半精製深鉢	IBa1	晩期5	口唇：面取。外面：口縁縄文LR。縄文は面取後に施文。沈線。頸部に隆帯。隆帯上に沈線。突起。縄文LR。体部縄文LR。底部直上1cmくらいは縄文なし。底部：平底。底面に擦痕。内面：ナデ。胎土：小礫多く含む。使用痕：外スス。内コガ。	口径：19.2cm、器高：19.1cm、底径：8.0cm。	P-945	139
41-5	126	IVN-42	III層	深鉢	IC1	晩期1a	口唇：弱い面取。外面：沈線。縄文LR。部分的に三又状の抉り。渦巻状の文様の中心に刺突。内面：ナデ。胎土：クサリ礫。海綿骨針。使用痕：内コガ。			1456
41-6	126	IVN-43	III層	注口	III	晩期1b	口唇：面取。外面：ミガキ。口縁から頸部は工具痕が目立つ。注口部周辺に沈線文。内面：ナデ。口縁に面取時の粘土の段。胎土：海綿骨針。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：7.9cm、器高：9.5cm。注口部完存。	P-1077	169
41-7	127	IVN-43	III層	台付深鉢	II Ba5	晩期1b~2	突起が連続する装飾的な口縁。突起形状は二山と三山の2種あり、交互に付される。口唇：弱い面取。外面：口縁部に沈線と三又文。頸部文様は3段構成で、上段と下段には沈線と縦位短沈線、又は三又状の抉りによる羊歯状文。中段には沈線による入組三又文。肩部は縄文LR施文後に沈線と円形刺突列。体部は縄文LR。台部ナデ。内面：ナデ。胎土：砂粒。小礫。使用痕：外スス。内コガ。内外面黒斑。	口径：32.5cm。表5-7、図③では晩期1b期扱い。	P-944	104
41-8	126	IVN-43	III層	粗製鉢	IA1	晩期1~2	口唇：面取。外面：縄文LR。底面は摩滅。内面：ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：内スス。外面黒斑。	口径：8.5cm、器高：5.4cm。	P-895	261
41-9	126	IVN-43	III層	粗製深鉢	IBb1t	後期後葉～晩期	口唇：面取なし。外面：縄文LR。底部直上5cmくらいは縄文なし。内面：ナデ。胎土：小礫多く含む。使用痕：外スス。内コガ。	口径：24.1cm。		297
41-10	126	IVN-43	III層	粗製深鉢	IAa1	後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。底部：高台。底面ケズリ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コガ。内面に黒斑残るため使用頻度低い。	口径：22.2cm、器高：32.8cm、底径：9.1cm。		267
42-1	127	IV0-38	III層	深鉢	II Ba1t	後期7-4	平口縁に突起。大小が交互と思われる。小突起頂部には横位の沈線。口唇：面取。外面：沈線間に連続する刻目。縄文LR(磨消)。沈線による入組文。貼瘤(円形と頂部を刻む楕円形の2種)。体部下半はナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コガ。	口径：21.6cm。施文順(沈線→貼付文→縄文・沈線→平行沈線間刻目)。		1098
42-2	127	IV0-38	III層	台付浅鉢	IB1t	後期8	平口縁に突起(6単位か)。口唇：面取。外面：ナデ。台部：透かし孔。全形は不明ながら三又文の可能性が高い。内面：ナデ。胎土：精良。使用痕：なし。外面および口縁部に黒斑が確認できる。	口径：23.8cm。		1129
42-3	127	IV0-39	III層	深鉢	II Ba1t	後期7-4	平口縁に突起(8単位か)。口唇：面取。外面：沈線間に連続する刻目。沈線による入組文。縄文LR(磨消)。貼瘤(円形と頂部を刻む楕円形の2種)。体部無文。底部：高台。使用痕：外スス。内コガ。胎土：砂粒。クサリ礫。	口径：30.0cm、底径：8.5cm、器高：32.2cm。文様下書き後縄文充填施文と思われる。	P-386	185
42-4	127	IV0-39	III層	深鉢	II Ba1t	後期7-4	平口縁に台形突起(8単位か)。口唇：面取。外面：沈線間に連続する刻目。貼瘤(口縁の突起は刻目なし。頸部の突起は頂部を十字に刻む)。体部無文。内面：ナデ。使用痕：外スス。内コガ。胎土：砂粒。海綿骨針。	口径：22.3cm。施文順(沈線→刻目→貼瘤、沈線再施文)。	P-167, 362	1110
42-5	127	IV0-39	III層	深鉢	II Ba1t	後期7-4	平口縁に台形突起(8単位か)。突起頂部に刻目。口唇：面取。外面：沈線間に連続する刻目3本。縄文LR(磨消)。沈線による入組文。磨消部は彫去状。体部下半ナデ。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。			1081

縄文土器観察表 (25)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
42-6	127	IV0-39	III層	深鉢	II Ba1t	後期7-4	平口縁に突起。口唇：面取。外面：突起間直下には円錐形の径が小さな貼瘤を付し、屈曲部に付す貼瘤と上下で対応する。口縁直下から屈折部まで刻目帯と無文帯を交互に配置し、斜め横方向から等間隔に施す太めの刻目帯形成される。体部は無文。胎土：緻密で精選され、粘土基質の量が高い。細砂粒。微量の海綿骨針。使用痕：外スス。	口径：23.7cm。器厚は4mm程度と薄い。	P-354, 356	1121・1122
42-7	127	IV0-39	III層	粗製台付鉢	I Aa1t	後期後葉～晩期	平口縁に突起(8単位)。口唇：面取。外面：ナズ。内面：ナズ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コグ。	口径：13.2cm。	P-361	288
42-8	128	IV0-40	III層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナズ。胎土：小礫。クサリ礫。使用痕：外スス。	口径：28.4cm。	P-391, 488	257
43-1	128	IV0-41	III層	深鉢	II Bb2t	晩期1b~2	平口縁にB突起。口唇：刻目。外面：沈線。入組三叉文。体部縄文LR。内面：ナズ。使用痕：外スス。胎土：精良。海綿骨針。混和材ほとんどない。	口径：21.3cm。 図⑨では晩期1b期扱い。	P-576, 606	1138
43-2	128	IV0-41	III層	深鉢	II Bb4t	晩期1b	小波状口縁に羊の角のような形状をした突起(1単位か)。口唇：面取なし。外面：沈線。縄文LR(磨消)。沈線による間延びした入組文。体部縄文LR。内面：ナズ。胎土：クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内面に黒斑残るため使用頻度低い。	口径：20.4cm。		1116
43-3~8	128	IV0-41・IVN-41	III層	台付浅鉢		晩期3	台部に膨らみをもつ台付浅鉢。全体磨滅。外面：沈線。突起。刻目。透かし孔。内面：ナズ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：なし。	外面赤彩(漆)。接合しない破片多数。	P-544	1383
43-9	128	IV0-42	III層	注口	II 1	晩期1a	口唇：面取。外面：ミガキ。粘土紐の接合痕が残る。注口先端磨滅。内面：ナズ。胎土：小礫。砂粒。使用痕：なし。	口径：9.3cm。注口部完存。	P-664	1096
43-10	128	IV0-42	III層	半精製壺	III 1	晩期1a	口唇：面取。外面：縄文LR。沈線。ナズ。頸部隆帯。隆帯上に横方向の貫通孔のある突起(剥落)。体部縄文LR。底面：高台。内面：ナズ。胎土：小礫。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：9.2cm。器高：25.1cm。底径：11.0cm。 底部直上に黒色物質(アスファルトか漆)が帯状に付着。	P-663, 665, 719	1077
43-11	128	IV0-42・IVP-42	III層	粗製壺	III 1	後期8	口唇：面取。外面：ナズ。体部縄文LR。底面：高台。底面は平坦。内面：ナズ。胎土：砂粒。クサリ礫。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：9.1cm。器高：24.1cm。底径：7.2cm。	P-664, 665	173
43-12	128	IV0-42	III層	深鉢	I Bb1t	後期7-4	平口縁に突起。口唇：面取。外面：沈線間に連続する刻目。ナズ。縄文LR(磨消)。部分的に縄文LRに切られている。貼瘤(9単位)。体部ナズ。胎土：緻密で精選され、粘土基質の量が高い。細砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。内コグ。	口径：21.2cm。残存率4/5。	P-659	162
43-13	129	IV0-42	III層	深鉢	II Ba1t	後期7-4	平口縁に大小の突起(計16単位)。口唇：面取。外面：縄文LR(磨消)。大突起直下には横長の貼瘤が付されるが、1箇所限りその下に円形の貼瘤も付される。突起直下の刻目帯が口縁部形態に連動して波状に巡り、その直下に幅1mm程度の細沈線による入組文を生成する。一方、頸部文様帯の上端は単帯の刻目帯で、下端の屈曲部は貼瘤を付した2帯の刻目帯で画し、刻目帯は等しい間隔で斜め横方向から施す刻目により表出する。屈曲部の貼瘤には3個一組の円錐形を呈する貼瘤と円形の横割り帯の二者が存在し、貼瘤相互の配置に規則性は窺えない。頸部文様帯には、口縁部文様帯と同様の沈線描出による入組文を生成する。連繫部は、口縁部文様と同様に山形突起に対応するあり方が窺え入組文の描線の起點部と終點部が区画帯に連結する。体部は無文となる。胎土：緻密で精選され、粘土基質の量が高い。細砂粒が多い。海綿骨針。使用痕：外スス。内コグ。	口径：25.0cm。 補修孔。 施文順(細い沈線で文様下書き→縄文→沈線)。残存率3/5。	P-956	285
43-14	128	IV0-42	III層	深鉢	II Ba1t	後期7-4	平口縁に大小の突起(計12単位か)。口唇：面取。外面：口縁部に無文帯が巡り、頸部文様帯の上端と下端には縄文帯を形成し、山形突起に対応する縦の刻目を施す貼瘤を付す。頸部文様帯には、沈線描出による入組文を生成する。縄文LR(磨消)。入組文の起點部、連繫部、終點部が山形突起に対応する。入組文の描線の先端と下端が区画帯に連結する。体部は無文となる。胎土：緻密で粘土基質の量が高い。細砂粒。海綿骨針。白色粒子の量が高い。使用痕：外スス。内コグ。	口径：22.0cm。	P-927	1089・1088

縄文土器観察表 (26)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
44-1	129	IV0-42	III層	深鉢	IBb1t	後期8	平口縁に突起(6単位)。突起頂部に刻目2本。外面：沈線。縄文LR。沈線による入組文。入組文の屈曲部に三叉状の沈線。磨消縄文風だが本来縄文があるべき所にもと施され、残っていない部分がある。沈線はさき処理されており粘土のマツクレが残る。ひき直したのももきちんと消されていない。体部無文。使用痕：外スス。内コゲ。胎土：砂粒。小礫。	口径：18.6cm。外面径：2910±20rrBP。補修孔。	1099	
44-2	129	IV0-42	III層	注口	II1t	後期8	平口縁に突起(4単位)。突起頂部に刻目1本。口唇：沈線。外面：口縁に陰帯。陰帯に縄文LR。突起間の口縁外端に頂部を刻む小突起。ミガキ。注口先端磨滅。注口部直下に二袋状の膨らみ。底部：高台。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：なし。	口径：11.0cm。底径：4.0cm。器高：20.3cm。外面赤彩(内面は顔料残存なし)。注口部完存。	P-958	108
44-3	129	IV0-42	III層	壺又は注口		後期7~8	外面：ミガキ。底部：高台。内面：ナデ。胎土：クサリ礫。海綿骨針。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：3.5cm。	P-1458	272
44-4	129	IV0-42	III層	注口		晩期1a	外面：沈線。縄文LR。ミガキ。注口直下に二袋状の膨らみ。膨らみの間に頂部に刻目のある突起。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：なし。	注口部先端一部欠損。注口部に男性器と女性器を合わせたような表現。	P-912	1384
44-5	129	IV0-42	III層	深鉢		後期末葉~晩期初頭	口唇：面取。口縁の上端、内側、外面と、少なくとも3回に分けて面取しており、丁寧な調整である。条痕は面取前に施文。外面：条痕。内面：板状工具による調整後、丁寧なナデ。胎土：クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。	口唇の面取が明瞭で、胎土と色調から後期末葉~晩期初頭の可能性がある。	P-551	1452
44-6	129	IV0-42	III層	深鉢	II Ba3t	後期8	波状口縁(7単位か)。波頂部は平坦なものとなったものの2種ある。波底部に突起。口唇：面取。外面：口縁部文様帯には口唇部形態に連動した波状の縄文帯と無文帯とを形成する。波頂部下の無文帯に三叉文を意識したと思われる山形の沈線を施す。頸部文様帯下端に区画帯を設けず、波頂部に対応する位置に、円錐形の貼瘤が2個一組で付される。頸部文様帯には、縄文LR施文後に沈線によりネガ文様を描出し、その沈線の内側を工具により磨消す弊義の磨消縄文手法により、複雑な文様意匠を生成する。体部は無文となる。使用痕：外スス、コゲ。内コゲ。	口径25.9cm。残存率1/3。	P-551, 610, 611	1213
44-7	129	IV0-42	III層	深鉢	II A5	後期8	平口縁に突起。突起は2種類と思われる(一つは山形、もう一つは欠損のため形状不明)。山形突起の頂部に横方向の沈線。口唇：面取。外面：沈線。沈線による入組文。縄文LR。体部無文。内面：ナデ。胎土：クサリ礫。使用痕：外スス。		P-551	1453
44-8	129	IV0-42	III層	台付深鉢		後末~晩初	外面：沈線。縄文LR。文様帯下端には区画線なし。体部ナデ。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。	口径：9.6cm。	P-610, 611	250
45-1	130	IVP-39	III層	深鉢	II Ba3t	後期7-4	波状口縁(4単位か)。波底部に突起。口唇：面取。外面：沈線間に連続する刻目。貼瘤。沈線による入組文。縄文LR。磨消部は彫去状。使用痕：煮沸痕跡あるがはっきりしない。胎土：クサリ礫。砂粒。海綿骨針。	口径：27.9cm。施文順(沈線→縄文・貼瘤・刻目→沈線再施文)。	P-370	1095
45-2	130	IVP-40	III層	台付浅鉢	I B1t	後期8	平口縁に台形突起(7単位か)。突起頂部には内面にのびる刻目。口唇：面取。外面：磨滅激しい。沈線。使用痕：なし。内外面に黒斑残存。胎土：砂粒。	口径：28.6cm。	P-400, 401	161
45-3	130	IVP-40	III層	鉢	I Bb1t	後期7-4	平口縁に突起。口唇：面取。外面：縄文地(縄文LR)に沈線間に連続する刻目。体部縄文。底部直上4cmくらいはナデ。底部：高台。内面：ナデ。胎土：緻密。細砂粒。細礫。微量の海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：27.0cm。底径：7.0cm。器高：23.1cm。施文順(縄文→沈線→刻目)。補修孔。残存率1/2。	P-448	65
45-4	130	IVP-42・IVP-43	III層	深鉢	I Aa5	晩期1a	口縁に連続する突起。突起形状は2種。山形のもの、頂部に刻目のある台形。口唇：面取。外面：台形突起の下に三叉文。沈線。縄文LR(磨消)。沈線間に連続する短沈線。沈線による入組文。入組文の屈曲部に三叉状の沈線。体部下半はミガキ。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：P-934, 935, 907	1450	
45-5	130	IVP-42	III層	壺	III 1	晩期2	口唇：面取。外面：口縁に沈線と短沈線による羊歯状文。頸部ミガキ。退化した入組三叉文。体部文様は沈線。縄文LR(磨消)。磨消部はミガキ。体部中央に無文帯。体部下半は上下を沈線で画された幅広の縄文帯。縄文帯より下部はミガキ。底部：凹形の凹底。内面：ナデ。口縁に沈線。胎土：砂粒。使用痕：なし。	口径：14.3cm。底径：7.0cm。器高：25.2cm。内外面赤彩(漆)。	P-702	294
45-6	130	IVP-42	III層	粗製台付鉢	I Aa1t	後期末葉~晩期	平口縁に突起(2単位残存)。口唇：面取。外面：ナデ。内面：ナデ。胎土：砂粒。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：16.0cm。器高：16.3cm。底径：8.3cm。	P-934	174

縄文土器観察表 (27)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
45-7	130	IVP-42	III層	注口	II1	晩期1a	口唇:面取なし。外面:ナデ。沈線。縄文LR。玉抱三叉文。注口先端摩滅。注口部直下に二袋状の膨らみ。器表面摩滅が著しい(文様、縄文施文範囲が不明)。内面:ナデ。底部:高台。胎土:小礫。使用痕:外スス。	口径:8.6cm、底径:2.0cm、器高:15.0cm。 注口部完存。	P-714	176
45-8	130 巻頭8下	IVP-42	III層	粗製深鉢	IAa1	後期後葉 ～晩期	口唇:面取。外面:縄文LR。縄文は面取後に施文。体部下半には縄文が確認できないう部分あり。底部:高台。内面:ナデ。胎土:小礫を多く含む。クサリ礫。使用痕:外スス。内面黒斑。内コゲなし。	口径:28.6cm、器高:38.5cm、底径:9.8cm。 小礫を多く含む胎土は後期に多い。7章では後期8期としたが、前後の時期の可能性は否定できない。	P-720, 721, 736	179
46-1	131	IVP-43	III層	深鉢	II Ba1t	後期7-4	平口縁に突起(9単位)。口唇:面取。外面:貼瘤(円形と縦長の2種。どちらとも頂り瘤を付す。口縁部文様帯に縄文帯と幅狭の無文帯を形成し、頸部文様帯下端は横長縦割りを付す。口縁部の無文帯で面す。頸部文様帯には入組文を生成する。入組文の描線の上下端が区画帯に連結する。入組文の起点部、連繫部、終点部は突起に対応する。体部は縄文で覆われる。底部:高台。胎土:細砂粒。白色粒子。海綿骨針。使用痕:外スス。内コゲ。	口径:22.7cm、底径:8.2cm、器高:24.3cm。 施文順(縄文→沈線→貼付)。略完形。	P-1003, 1037	163
46-2	131 巻頭8上	IVP-43・ IV0-43	III層	台付深鉢	II Ba1t	後期7-4	平口縁に3個一組の突起(4単位)。口唇:面取。外面:貼瘤(円形と縦長の2種。どちらとも頂部)に刻目。沈線間に連続する刻目。沈線による入組文。縄文LR(磨消)。磨消部は彫去状。体部無文。使用痕:外スス。下半は赤変。内コゲ。胎土:白→灰色の小礫。海綿骨針。	口径:21.0cm、底径:11.1cm、器高:26.8cm。 縄文は沈線に切られているが、文様に沿って縄文が回転施文されていることから、沈線下書→縄文→沈線の順で施文されたと思われる。	P-1037, 1038 1124	166
46-3	131	IVP-43	III層	深鉢	II Ba1t	後期8	口唇:面取。外面:沈線。縄文LR。入組文の空隙に三叉文。沈線による入組文。体部下半ケズリ。内面:ケズリ。原体は端部の痕跡から幅約1.5cmの板状工具か。口縁に面取時の粘土の段。胎土:小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕:外スス。	口径:21.0cm、底径:11.1cm、器高:26.8cm。 縄文は沈線に切られているが、文様に沿って縄文が回転施文されていることから、沈線下書→縄文→沈線の順で施文されたと思われる。	P-782	1443
46-4	131	IVP-43	III層	深鉢	II Ba1t	後期8	口唇:弱い面取。外面:沈線。縄文LR(磨消)。沈線による入組文。磨消部はナデ。内面:ナデ。胎土:小礫。クサリ礫。使用痕:外スス。内コゲ。	口径:21.0cm、底径:11.1cm、器高:26.8cm。 縄文は沈線に切られているが、文様に沿って縄文が回転施文されていることから、沈線下書→縄文→沈線の順で施文されたと思われる。	P-999	1437
46-5	131	IVP-43	III層	深鉢	II Ba1t	後期8	平口縁に突起。突起頂部に刻目2本。口唇:面取。外面:沈線間に連続する短沈線。沈線による入組文。縄文LR。内面:板状工具痕。ナデ。胎土:ケズリ。内面:ナデ。底径:高台。胎土:小礫。	口径:21.0cm、底径:11.1cm、器高:26.8cm。 縄文は沈線に切られているが、文様に沿って縄文が回転施文されていることから、沈線下書→縄文→沈線の順で施文されたと思われる。	P-986	1445
46-6	131	IV0-43	III層	深鉢	II Ba1t	後期8	平口縁に突起。突起頂部に刻目2本。口唇:面取。外面:沈線間に連続する短沈線。沈線による入組文。縄文LR。内面:板状工具痕。ナデ。胎土:ケズリ。内面:ナデ。底径:高台。胎土:小礫。	口径:21.0cm、底径:11.1cm、器高:26.8cm。 縄文は沈線に切られているが、文様に沿って縄文が回転施文されていることから、沈線下書→縄文→沈線の順で施文されたと思われる。	P-978, 973 1439・ 1438	1439・ 1438
46-7	131	IV0-43	III層	台付浅鉢	IB1	後期7~8	口唇:面取。外面:ケズリのちナデ。台部:透かし孔。内面:ケズリのちナデ。胎土:小礫。使用痕:なし。内面黒斑。	口径:27.0cm、器高:10.4cm、底径:11.6cm。 底径:2.1cm。注口部先端欠損。	P-976, 978	184
46-8	131	IV0-43	III層	注口	II Ba1t	後期7-4	口唇:面取。外面:ミガキ。内面:ナデ。胎土:クサリ礫。海綿骨針。使用痕:なし。外面黒斑。	口径:27.0cm、器高:10.4cm、底径:11.6cm。 底径:2.1cm。注口部先端欠損。	P-1072	1079
46-9	131	IV0-43	III層	注口	II1	後期7~8	口唇:面取。外面:ミガキ。内面:ナデ。胎土:クサリ礫。海綿骨針。使用痕:なし。外面黒斑。	口径:5.2cm。注口部は基部から剥離。	P-1068	1125
46-10	131 巻頭8上	IV0-43	III層	注口	I5	後期7-4	2本の粘土紐をそれぞれ環状にし釣手状に成形。貼瘤上刺突は竹管状工具による。沈線。縄文LR(充填)。底部:高台。	底径:2.5cm、器高:15.3cm。注口部完存。	P-1004	1072
46-11	131	IVP-43	III層	粗製深鉢	I	後期後葉 ～晩期	口唇:面取。外面:ケズリのちナデ。内面:ナデ。胎土:小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕:外スス。内コゲ。	口径:27.0cm、器高:10.4cm、底径:11.6cm。 底径:2.1cm。注口部先端欠損。	P-984	1440
46-12	131	IV0-43	III層	粗製深鉢	I	後期後葉 ～晩期	口唇:面取。外面:縄文LR。内面:ナデ。3mm位の単位。単位内に細かな筋が認められ胎土:クサリ礫。海綿骨針。使用痕:外スス。内コゲ。	口径:27.0cm、器高:10.4cm、底径:11.6cm。 底径:2.1cm。注口部先端欠損。	P-1053	1441
47-1	132	IV0-43	III層	粗製深鉢	IAa1	後期後葉 ～晩期	口唇:面取。外面:縄文LR。内面:ナデ。底部:高台。胎土:小礫。使用痕:外スス。内コゲ。	口径:12.5cm、器高:16.6cm、底径:8.4cm。	P-973	295

縄文土器観察表 (28)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
47-2	132	IVP-43・ IV0-43	III層	粗製深鉢	IAa1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。面取りの前と後の2回、縄文が施文される。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。小礫。クサリ礫。使用痕：外スス。内コゲ。		P-982, 1003	1449
47-3	132	IVP-43	III層	粗製深鉢	IBb1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。縄文は面取後に施文。内面：ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：32.0cm。	P-986	291
47-4	132	IVP-43	III層	粗製深鉢	IC1t	後期後葉 ～晩期	平口縁に四山一組の突起(4単位か)。口唇：面取。外面：口縁下に沈線(縄文施文後)。縄文LR。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。		P-1037	1476
47-5	132	IV0-43	III層	粗製深鉢	IAa1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。縄文は面取後に施文。内面：ナデ。胎土：小礫多く含む。使用痕：外スス。内コゲ。内面黒斑。	口径：25.2cm。	P-977	249
47-6	132	IVP-43	III層	深鉢		後期後葉 ～晩期	外面：縄文LR。底部：低平な高台。内面：ナデ。板状工具痕。胎土：小礫。使用痕：磨滅により不明。	底径：8.0cm。	P-780	188
47-7	132	IVP-43	III層	深鉢		後期後葉 ～晩期	外面：縄文LR。底部直上3cmくらいは縄文なし。底部：高台。内面：ナデ。板状工具痕。胎土：小礫。クサリ礫。使用痕：外スス。内コゲ。	底径：8.7cm。	P-980下	187
47-8	-	IVP-43	III層	深鉢		後期後葉 ～晩期	外面：縄文LR。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫多く含む。使用痕：外スス。		P-980上	1447
47-9	-	IVP-43	III層	深鉢		後期後葉 ～晩期	外面：縄文LR。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。		P-1006	1446
47-10	-	IVP-43	III層	深鉢		後期後葉 ～晩期	外面：ナデ。底部：高台。内面：ナデ。胎土：クサリ礫。小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。		P-1002	1448
48-1	132	IV0-43	III層	深鉢	II Ba5	後期8	口縁に突起が連続(6単位)口唇：面取。外面：沈線。縄文LR(磨消)。底部：ナデ。胎土：高台。内面：ナデ。胎土：緻密で粘土基質の量が高い。細砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。	底径：6.8cm。略完形。口縁突起はすべて意図的に打ち欠かれたと考えられる。	P-1011	149
48-2	133 巻頭9上	IV0-43	III層	台付鉢	I Bb5	晩期1a	口縁に大小の台形突起が交互に連続(単位数不明)。大突起は頂部を1箇所、小突起は頂部を2箇所刻む。口唇：面取。外面：大突起下に三叉文。小突起下に縄文LRと沈線。ナデ。縄文LR。沈線。底部は沈線による入組文2段か。縄文LR(磨消)。磨消部ナデ。体部下半にも沈線と縄文。体部と台部の境に沈線がありその部分まで縄文が施されているが磨滅により縄文が確認できない。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：21.6cm、底径：7.4cm、器高：22.7cm。	P-957	180
48-3	132	IV0-43	III層	鉢	I Bb1t	晩期1a	平口縁に低い山形突起。口唇：面取。外面：沈線間に連続する短沈線。突起下に掛りによる三叉文。沈線。縄文LR(磨消)。沈線による入組文。磨消部はナデ。体部下半ナデ。器表面磨滅。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：19.2cm。施文順(沈線→縄文→沈線再施文)。	P-1010	1163
48-4	133	IV0-43	III層	台付鉢	II Ba4	晩期1a	小波状口縁。口唇：面取。外面：口縁部文様帯は幅の狭い縄文帯を形成し、頸部文様帯の上端と下端を1条の横位沈線で面す。頸部文様帯には、沈線描出による入組文を5単位に生かす。入組文の連繋部に三叉状沈線が接する。縄文LR(磨消)。体部は縄文で覆われ、台部が無文となる。使用痕：外面の全域に広くススとコゲが、口縁部から体部下位の内面にコゲが附着する。胎土：緻密で精選され、粘土基質の量が高い。細砂粒。海綿骨針。	口径：21.5cm、底径：8.0cm、器高：18.8cm。略完形。器厚が4mm程度と薄い。	P-777	1075
48-5	133	IV0-43	III層	鉢	II Bb2	晩期1b	口唇：刻目。外面：沈線。入組三叉文。文様部に縄文は伴わない。体部縄文LR。内面：ケズリに近いナデ。使用痕：外スス。内コゲ。胎土：砂粒。海綿骨針。	口径：22.0cm。外面付着炭化物年代測定中。	P-776	1137
48-6	132	IV0-43	III層	浅鉢	I B1t	後期7-4	平口縁に突起(単位数不明)。口唇：面取。外面：縄文LR。沈線。ナデ。底部と体部の境に沈線。底部：高台。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。	器高：9.9cm、底径：7.5cm。浅鉢だが煮沸痕跡あり。	P-968	262
48-7	133	IV0-43	III層	注口	II 1t	後期7-4	平口縁に突起(4単位か)。突起頂部に刺突。外面：口縁部は肥厚し、突起を含めて沈線により施文。ミカキ。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：なし。	口径：7.6cm、底径：1.3cm、器高：17.5cm。外面赤形。注口部完存。	P-947	109
48-8	133	IV0-43	III層	半精製台付鉢	I Aa1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：沈線。縄文LR(無節)。内面：ナデ。胎土：小礫多く含む。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：15.8cm、器高：14.9cm、底径：6.6cm。裾が広がらない台部の形状と、胎土や面取の特徴から後期後葉～晩期初頭の可能性がある。	P-1069	155

縄文土器観察表 (29)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
48-9	133	IV0-43	Ⅲ層	粗製深鉢	IAa1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。縄文は面取後に施文。内面：ケズリのちナデ。胎土：小礫多く含む。クサリ礫。使用痕：外スス。内コゴ。	口径：22.6cm。	P-1050, 1128	290
48-10	133	IV0-43	Ⅲ層	粗製深鉢	IAa1t	後期後葉 ～晩期	平口縁に突起(2個一組が1単位)。口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外スス。外面に黒斑残るため使用頻度低い。	口径：27.1cm。	P-786, 933	256
48-11	133	IVP-43	Ⅲ層	粗製深鉢	I	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。		P-935	1442
48-12	133	IV0-43	Ⅲ層	台付鉢小		後期8	透かし孔をもつ台部か。外面：透かし孔の下に1条の浅い幅広い沈線。ナデ。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：なし。	色調から8期とした。		1455
49-1	134	IVN-44	Ⅲ層	浅鉢	IA1	晩期3	口唇：面取なし。外面：連続する刻目。沈線。縄文LR(磨消)。彫去による雲形文。磨消部ミガキ。底部：凹底。内面：ミガキ。胎土：クサリ礫。使用痕：なし。	口径：17.3cm、器高：7.0cm。縄文順(縄文→沈線)。内外面部分的に黒色漆塗彩か。	P-1022	114
49-2	135	IVN-44	Ⅲ層	半精製台付鉢	IAa5	晩期3	平口縁に三又状の袂りを施すことで連続した突起様の裝飾を作出。外面：沈線。体部縄文LR。胎土：ミガキ。沈線。下端肥厚。胎土：クサリ礫。使用痕：ミガキ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。使用頻度低い。	口径：10.0cm、器高：8.8cm、底径：6.7cm。	P-1022	222
49-3	135	IVN-44	Ⅲ層	半精製台付鉢	IIBc5	晩期3	平口縁に二山一組の突起が連続。外面：肩部突起1箇所。頸部文様は3条の沈線で、突起の部分で沈線が接せず交差。体部縄文LR(斜位)。台部：沈線。下端肥厚。胎土：クサリ礫。使用痕：外スス。胎土：砂粒。使用痕：外スス。胎土：ミガキ。胎土：クサリ礫。使用痕：外スス。内コゴ。	口径：13.2cm、底径：5.7cm、器高：16.2cm。 縄文順(縄文→突起→沈線)。	P-1022	147
49-4	134	IVN-44	Ⅲ層	浅鉢	IA1	晩期3	口唇：面取なし。外面：連続する刻目。沈線。沈線による雲形文(彫去なし)。縄文LR(磨消)。磨消部は縄文部よりやや低いが、彫去はされていない。底部：図上では口縁の水平を優先したため突出して見えるが円形の凹底。内面：ミガキ。胎土：海綿骨針。シルト質で砂粒少ない。使用痕：なし。	口径：17.3cm、底径：4.6cm、器高：7.0cm。 外面赤彩(漆)。	P-1014, 1015	73
49-5	135	IVN-44	Ⅲ層	粗製深鉢	IIBc1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：口縁に面取時の粘土の段。口縁直下ヨコナデ。縄文LR。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コゴ。	口径：19.3cm。 晩期3期の浅鉢と共存しているため、7章では該期とした。	P-945, 1014, 1021	227
49-6	134	IVN-44	Ⅲ層	浅鉢	IB1	晩期3	口唇：面取なし。外面：沈線。ミガキ。沈線による雲形文(彫去なし)。縄文なし。底部：凹底。内面：ミガキ。胎土：精良。海綿骨針。使用痕：なし。	口径：15.4cm、底径：3.2cm、器高：5.9cm。 内外面赤彩(漆)。	P-1024下	1112
49-7	134	IVN-44	Ⅲ層	浅鉢	IB1	晩期3	口唇：面取なし。外面：沈線。彫去による雲形文。縄文なし。文様帯の下端に区画線はない。体部無文ミガキ。内面：ミガキ。胎土：海綿骨針。シルト質で砂粒は目立たない。使用痕：なし。	口径：15.2cm。 内外面赤彩(漆と思われる)。	P-1023	1111
49-8	134 巻頭9下	IVN-44	Ⅲ層	皿	I B2t	晩期3	口縁に突起(4単位)。口唇：連続する刻目。外面：沈線。縄文LR(磨消)。磨消縄文ではない。底面ミガキ。内面：口縁沈線。ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：なし。内外面黒斑。	口径：18.2cm、底径：9.6cm、器高：5.1cm。	P-1024上, 1024下	7
49-9	134	IVN-44	Ⅲ層	皿	IB2	晩期3	口唇：刻目。外面：文様帯上方に3条、下方に2条沈線。文様帯内部に縄文地(縄文LR)に沈線でC字状の文様。内面：口縁下に沈線1条。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：なし。内外面に黒斑残存。	口径：17.8cm、底径：9.4cm、器高：5.7cm。型式的には4期に近い。磨消縄文にはなっていない。	P-1024上, 1024下	137
49-10	134 巻頭9下	IVN-44	Ⅲ層	浅鉢	IA1	晩期3	口唇：面取なし。外面：沈線。連続する刻目。彫去による雲形文。縄文LR(磨消)。磨消部ミガキ。底部：凹底。内面：ミガキ。胎土：砂粒。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：19.7cm、底径：4.4cm、器高：7.7cm。 内外面赤彩(漆)。	P-1023-1	9
49-11	134	IVN-44	Ⅲ層	皿	IA1	晩期3	口唇：面取なし。外面：沈線。連続する刻目。縄文LR(磨消)。彫去による雲形文。磨消部ミガキ。底部：凹底。内面：ミガキ。底面に凹形の凹み。胎土：クサリ礫。海綿骨針。使用痕：なし。内外面に黒斑。	口径：25.4cm、底径：5.0cm、器高：7.0cm。 補修孔2対。内外面赤彩。	P-1024下	130
49-12	134	IVN-44	Ⅲ層	浅鉢	IA1	晩期3	口唇：面取なし。外面：沈線。連続する刻目。彫去による雲形文。縄文LR(磨消)。磨消部ミガキ。底部：凹底。内面：ミガキ。胎土：砂粒。使用痕：なし。内外面黒斑。	口径：20.0cm、底径：4.0cm、器高：8.0cm。 内外面赤彩(漆)。	P-1023-2	11

縄文土器観察表(30)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
49-13	135	IVN-44	III層	粗製壺	III1	晩期3	外面：口頸部ミカギ。沈線。体部縄文LR。内面：口縁沈線。ナデ。口縁部ミカギ。胎土：海綿骨針。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：9.0cm、底径：5.3cm、器高：15.4cm。 外面の一部に赤色顔料が付着。	P-1023-2, 1024上, 1024下	124
50-1	134	IVN-44	III層	浅鉢	IA1	晩期3	口唇：面取なし。外面：沈線。連続する刻目。彫去による雲形文。縄文LR(磨消)。磨消部ミカギ。底部：凹底。内面：ミカギ。胎土：砂粒。クサリ髷。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：17.6cm、器高：7.4cm。 外面赤形(漆)。	P-1078	113
50-2	134 巻頭9下	IVN-44	III層	浅鉢	IA1	晩期3	口唇：面取なし。外面：沈線。連続する刻目。彫去による雲形文。縄文LR(磨消)。磨消部ミカギ。底部：凹底。内面：ミカギ。胎土：砂粒。使用痕：なし。内外面黒斑。	口径：19.0cm、底径：5.3cm、器高：7.1cm。 外面赤形(漆)。	P-931	128
50-3	134	IVN-44	III層	浅鉢	IA1	晩期3	口唇：面取なし。外面：沈線。連続する刻目。彫去による雲形文。縄文LR(磨消)。磨消部ミカギ。底部：凹底。内面：ミカギ。胎土：砂粒。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：17.0cm、底径：4.3cm、器高：6.5cm。 内外面赤形(漆)。 内外面付着漆年代測定中。	P-1122	10
50-4	134	IVN-44	III層	浅鉢	IB5	晩期3	平口縁に沈線を施すことで連続した突起様の装飾を作出。口唇：肥厚。外面：沈線。最上部の沈線から突起頂部に向かつて三叉状の袈り。縄文LR(磨消)。彫去による雲形文。磨消部はミカギ。底部：凹底。内面：ミカギ。胎土：海綿骨針。使用痕：なし。	口径：21.8cm、底径：5.0cm、器高：6.2cm。 内外面赤形(漆)。	P-931	1061
50-5	134	IVN-44	III層	皿	II5	晩期3	平口縁に三叉状の袈りと刻目を施すことで連続した突起様の装飾を作出。口唇：肥厚。外面：沈線。連続する刻目。縄文LR(磨消)。沈線による雲形文(彫去なし)。磨消部はミカギ。底部と体部の境界に突起(1箇所)。底部に凹形の沈線。内面：ミカギ。胎土：海綿骨針。クサリ髷。使用痕：なし。	口径：16.2cm、器高：5.1cm。	P-1020	138
50-6	134	IVN-44	III層	浅鉢	IB1	晩期3	口唇：面取なし。外面：沈線。ミカギ。彫去による雲形文。縄文なし。底部：凹底。内面：ミカギ。胎土：精良。海綿骨針。使用痕：なし。内外面に黒斑。	口径：20.0cm、底径：5.9cm、器高：8.6cm。		133
50-7	135	IVN-44	III層	粗製壺	III1	晩期3か	口唇：内割ぎの面取。外面：口縁無文。体部縄文LR。下半は縄文施文前にケズリ。内面：口縁に沈線1条。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：内外面が全体にくすんでおり。外面の一部にススが付着。二次被熱の可能性もある。	口径：14.0cm。		1060
50-8	135 巻頭9下	IVN-44	III層	粗製壺	III1	晩期3か	口唇：面取なし。外面：ナデ。体部と頸部の境に沈線。体部縄文LR。底部：平底と思われ。底面に剥離。摩擦。内面：口縁沈線。ナデ。胎土：小礫多く含む。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：10.0cm、器高：30.0cm。 晩期3期がまとまっているグリップで出土しており、晩期3期の可能性が高い。	P-932	239
50-9	135	IVN-44	III層	粗製壺	III1	晩期3か	口唇：面取なし。外面：ナデ。体部縄文LR。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：なし。外面に黒斑。	口径：9.8cm。		1033
50-10	135	IVN-44	III層	半精製壺	III1t	晩期3	平口縁に2個一組のB突起(1単位)。外面：B突起の下の頸部に突起。沈線。体部縄文LR。底部：凹底。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：なし。口縁部に黒斑。	口径：8.4cm、器高：11.1cm、底径：5.0cm。		190
50-11	134	IVN-44	III層	半精製台付鉢	II Bc2t	晩期3	平口縁にB突起(単位数不明)。口唇：刻目。外面：沈線。透かし孔。内コゴ。体部縄文LR。内面：口縁に強い張り出し。沈線。使用痕：外スス。内コゴ。胎土：砂粒。海綿骨針。	口径：10.7cm。		1039
50-12	135	IVN-44	III層	半精製台付鉢	II Bc2t	晩期3	平口縁にB突起(単位数不明)。口唇：刻目。外面：沈線。透かし孔。体部縄文LR。肩部突起1箇所。海綿骨針。	口径：14.9cm。 外面付着炭化物年代測定中。	P-900, 901	1040
50-13	135 巻頭9下	IVN-44	III層	半精製台付鉢	II Bc2t	晩期3	平口縁にB突起(単位数不明)。外面：沈線。透かし孔。下部肥厚。肥厚部に縄文LR。内面：口縁に強い張り出し。使用痕：外スス。内コゴ。	口径：12.7cm、底径：7.2cm、器高：15.1cm。 台部内面種子圧痕か。 外面付着炭化物年代測定中。		143
50-14	135	IVN-44	III層	半精製台付鉢	II Bc2t	晩期3	平口縁にB突起(単位数不明)。口唇：刻目。外面：沈線。透かし孔。下部肥厚。肥厚部に縄文LR。2個一組の突起1箇所。内面：口縁に強い張り出し。使用痕：外スス。内コゴ。	口径：10.3cm、底径：5.8cm、器高：13.2cm。		220

縄文土器観察表 (31)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
50-15	135 巻頭9下	IVN-44	III層	粗製深鉢	IBb1t	後期後葉 ～晩期	平口縁にB突起が3個連続して付される。口唇：面取。外面：ケズリのち縄文LR。底部直上2cmくらいは縄文なし。底部：凹底。内面：ナデ。使用痕：外スス。内コゲ。内外面に黒斑残るため使用頻度低い。	口径：23.0cm、器高：27.0cm、底径：7.9cm。 晩期3期がまとまっているグリッドで出土しているため、7章では晩期5期とした。		120
51-1	134	IVN-44	III層	注口		晩期3	外面：注口部に粘土紐貼付。粘土紐上にB突起か。肩部隆帯上に沈線。体上部と正面体下部に沈線。縄文LR(磨消)。胎土：精良。クサリ線。	注口部完存。		221
51-2	136	IVN-44	III層	注口	III5	晩期3	平口縁に沈線を施すことで連続した突起様の装飾を作出。口縁は1片しか残存せず、体部とは接合しない。外面：沈線。彫去による雲形文。縄文LR(磨消)。体部屈曲部に二山一組の突起が上下2段に連続。内面：ナデ。胎土：シルト質で砂粒が目立たない。海面骨針。使用痕：なし。	口径：21.5cm、底径：5.6cm、器高：15.1cm。 注口部は基部から欠損。 口縁部一部残存。		101
51-3	134	IVN-44	III層	注口		晩期3	外面：体部屈曲部に沈線と突起を組み合わせた装飾。体部下半は雲形文(彫去なし)。縄文LR(磨消)。ミガキ。内面：ナデ。胎土：精良。海綿骨針。使用痕：なし。	口径：14.7cm、器高：5.2cm。 外面赤彩。注口部は残存しない。		212
52-1	137	IVN-45	III層	壺	IV	晩期5	外面：剥落激しい。匹字状の工字文。沈線による簡略化された稜形文(N字が横倒しになったもの)が連続。沈線。ミガキ。内面：ナデ。胎土：精良。使用痕：なし。	底径：6.0cm、器高：剥落著しい。 外面赤彩(沈線間に漆塗痕残存)。	P-1	192
52-2	137	IVN-45	III層	浅鉢	IB1	晩期5	外面：体部及び台部に工字文。器表面摩滅により文様不鮮明。内面：底面に円形の凹み。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：なし。内面黒斑。	口径：17.2cm、底径：6.8cm、器高：10.4cm。 内外面赤彩。		1034
52-3	137	IVN-45	III層	壺	III1	晩期3	外面：沈線。頸部に横位B突起が1箇所残存。左右それぞれに突起の剥落痕があり、剥落形状から別形状の突起(縦位B字状か)と思われる。頸部隆帯上に縄文LR。ミガキ。底部：円形の凹底。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：なし。	口径：7.5cm、器高：16.9cm。 外面赤彩。内面口縁～頸部赤彩。	P-1247	127
52-4	137	IVN-46	III層	浅鉢	IB1t	晩期3	平口縁に2個一組のB突起(1単位)。口唇：面取。外面：平行沈線文2条。ミガキ。内面：ミガキ。胎土：精良。海綿骨針。使用痕：なし。内外面に黒斑。	口径：17.3cm。 内外面赤彩(漆)。	P-1318	1181
52-5	137	IVN-46	III層	浅鉢	IA1t	晩期3	平口縁に2個一組のB突起(1単位)。口唇：面取なし。外面：平行沈線文2条。ケズリ後ミガキ。底部：円形の凹底。内面：ミガキ。胎土：クサリ線。海綿骨針。使用痕：なし。内外面に黒斑。	口径：16.4cm、器高：5.0cm、底径：5.0cm。 内外面赤彩(漆)。	P-1318, 1373	1180
52-6	137 巻頭9下	IVN-45	III層	浅鉢	IA1	晩期3	口唇：面取なし。外面：沈線。連続する刻目。彫去による雲形文。縄文LR(磨消)。磨消部ミガキ。底部：円形の凹底。内面：ミガキ。胎土：砂粒。使用痕：なし。内外面黒斑。	口径：19.2cm、底径：4.6cm、器高：8.2cm。 内外面赤彩(漆)。内外面付着漆年代測定中。	P-1248	8
52-7	137 巻頭9下	IVN-45	III層	台付皿	IB5	晩期3	裝飾的な口縁。外面：沈線。彫去による雲形文。縄文LR(磨消)。磨消部ミガキ。刻目。台部：彫去による入組文。縄文施文なし。下端肥厚。肥厚部に三叉状の抉り。内面：口縁隆帯。隆帯上に連続する刻目。底面円形に凹む。胎土：精良。使用痕：なし。口縁黒斑。	口径：21.5cm、底径：10.0cm、器高：10.6cm。内外面赤彩(漆)。	P-1431	111
52-8	137	IVN-45	III層	台付鉢	IAa1t	後期8	平口縁に突起(8単位)。口唇：面取。外面：口縁部文様帯は幅の狭い縄文帯を水平に形成し、頸部文様帯の上端と下端を1条の横位沈線で繋ぐ。頸部文様帯には入組文を7単位に生じ、入組文の描線の上端と下端が区画沈線に連続する。縄文LR(磨消)。突起の単位数と入組文の単位数には相違があり、両者の相関性は低く、突起直下に入組文の起点部、連繫部、終点部が対応するのは僅か1単位で、文様の起点であった可能性もある。体部は縦走縄文で覆われ、台部が無文となる。使用痕：外面の全域に広くススとコゲが、口縁部から体部中位の内面にコゲが付着。胎土：粘土基質の量比が高い。細砂粒。海綿骨針。	口径：19.8cm、底径：8.0cm、器高：20.4cm。完形。	P-1248	123
52-9	137	IVN-46	III層	半精製台付鉢	II Bc5	晩期3	平口縁に連続するB突起。外面：連続する刻目。沈線。肩部突起1箇所。体部縄文LR。内面：口縁に強い張り出し。沈線。使用痕：外スス。内コゲ。胎土：砂粒。海綿骨針。	口径：12.2cm。	P-1266	1192
52-10	137	IVN-46	III層	半精製台付鉢	II Bc2t	晩期3	平口縁に突起。口唇：刻目。外面：沈線。沈線間に刺突列。肩部突起1箇所。縄文LR。内面：口縁に強い張り出し。沈線。使用痕：外スス。内コゲ。胎土：砂粒。	口径：13.8cm。 施文順(縄文→沈線→刻目)。	P-1319	1193

縄文土器観察表 (32)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
52-11	137	IVN-45	I層	粗製台付 深鉢	II Bc2	後期後葉 ～晩期	口唇：刻目。外面：口縁強いヨコナデ。内面：口縁に強い張り出し。ナデ。胎土：クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：11.4cm、器高：17.0cm、底径：8.0cm。 短く内に折れる口縁の特徴が49-5と共通するため、7章では晩期3期としている。		1046
52-12	137	IVN-46	III層	粗製深鉢	II Ba1t	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：24.0cm、器高：35.7cm、底径：8.0cm。	P-1320, 1373	1333
53-1	138 巻頭9上	IV0-44	III層	台付鉢	II Ba4 t	晩期1a	小波状口縁。突起(1単位)。口唇：面取。外面：口縁部文様帯は幅の狭い縄文帯を形成し、頸部文様帯の上端は1条の縄位沈線で、下端は短沈線帯で面す。頸部文様帯には入組文を5単位で生成する。縄文LR(磨消)。入組文の中央に縦位に平行する沈線を表出する。体部は縦走縄文で覆われ、右部は口縁部から体部上半の外面に広くススが、内面の体部中に幅のある帯状のコゲが付着。胎土：緻密で精選され、粘土基質の量比が高い。細砂粒。海綿骨針。	口径：23.6cm、底径：9.6cm、器高：25.2cm。 完形。器厚が4mm程度と薄い。	P-802, 804, 925	118
53-2	138	IV0-44	III層	台付鉢	II Bb2	晩期1b	平口縁に二山状の突起(5単位か)。口唇：刻目。外面：沈線。突起に対応する位置に玉袍三叉文、縄文LR、文様帯下半では縄文地に沈線を施文。台部：ナデ。内面：ナデ。胎土：砂粒。クサリ礫。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：15.0cm、底径：7.9cm、器高：16.3cm。	P-803	125
53-3	138	IV0-44	III層	浅鉢	I B4	晩期1b	小波状口縁か、外面：縄文地(縄文LR)に沈線。文様帯下端を沈線間に連続する短沈線で区画。底部と体部の境に沈線2条。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：なし。	口径：12.1cm、器高：6.6cm。	P-802	225
53-4	138	IV0-44	III層	注口	III 1	晩期1a	口唇：面取。注口部直下に沈線文。体部に穿孔。	口径：8.8cm、器高：12.8cm。 注口部完存。	P-924	34
53-5	138	IV0-44	III層	台付鉢	I Aa1	晩期1a～b	外面：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：精良。使用痕：外スス。	口径：14.8cm。	P-803, 804, 805	240
53-6	138	IV0-44	III層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：26.0cm。	P-802	1327
54-1	138	IV0-44	III層	深鉢	I Bb5	後期8	口縁に連続する突起(11単位か) 突起頂部に刻目。口唇：面取。外面：沈線。縄文LR。沈線による入組文。縄文LR(磨消)。磨消部ナデ。体部下半ナデ。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：16.8cm。施文順(縄文→沈線)。	P-1079	282
54-2	138 巻頭8下	IV0-44	III層	深鉢	I Aa1t	後期8	平口縁に突起。口唇：面取。外面：縄文LR。口縁部文様帯には口縁部形態に平行する縄文帯を形成し、頸部文様帯の上端と下端を幅の狭い縄文帯で面す。頸部文様帯には推定8単位の上下2段に連続する精円形文様に互いの文様を上下に二分する太い縄位沈線を描出する。体部は縄文で覆われるが、体部下端を約2cmの幅で無文に残す。底部：高台。使用痕：外面の全域にススとコゲが、内面上半に薄いコゲが付着。胎土：粘土基質の量比が高い。細砂粒。海綿骨針。	口径：17.6cm、底径：7.2cm、器高：19.1cm。 施文順(縄文→沈線)。略完形。	P-1111	144
54-3	138	IV0-44	III層	深鉢	II A1t	後期8	平口縁に突起(7単位か)。口唇：面取。外面：口縁部文様帯には口縁部形態に運動して、幅の狭い縄文帯が波状に巡り、頸部文様帯上端を面す無文帯も口縁部形態に運動して波状を呈し、頸部文様帯の下端は水平な無文帯で面す。口頸部文様帯には沈線描出による入組文を7単位で生成し、文様描線の上端と下端が区画帯に連続する。縄文LR(磨消)。起点部、連繫部、終点部が波頂部に呼応する規則性が窺える。体部は縄文で覆われる。底部：高台。使用痕：口頸部の外面に広くススとコゲが、底部を除く内面に広くコゲが付着。胎土：緻密で、粘土基質の量比が高い。細砂粒。海綿骨針。	口径：23.5cm、底径：8.3cm、器高：26.4cm。完形。	P-1114	75
54-4	138	IV0-44	III層	台付鉢	I Aa5	後期8	口縁部突起(8単位)は全て欠損。口唇：面取。外面：縄文LR。沈線。ナデ。沈線による入組文。縄文LR(磨消)。入組文の空隙に三叉文。入組文の起点・終点は口縁突起に対応。体部は無文。使用痕：口頸部の外面に広くススとコゲが、口頸部の内面に局所的なコゲと体部下半の内面に帯状のコゲが付着。胎土：緻密で精選され、粘土基質の量比が高い。細砂粒。海綿骨針。	胴部中央平行沈線下に2条の平行沈線を胎土色調の異なる粘土で埋めた痕跡あり。口縁突起は意図的に打ち欠かれた可能性がある。	P-1047	77

縄文土器観察表 (33)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
54-5	139	IV0-44	III層	台付鉢	II Bb4t	晩期1b	小波状口縁。三山の突起(1単位)。口唇：面取。外面：口縁部は無文。頸部文線帯は上下2段に分かれ、それぞれに沈線による入組文。体部は鉤の細かい縄文LRで覆われ、台部は無文となる。使用痕：口縁部と体部の外面にススとコゲが、口縁部の内面にコゲが付着。胎土：緻密で精選され、粘土基質の量比较高い。細砂粒。微量の海綿骨針。	口径：18.1cm、底径：8.3cm、器高：21.6cm。 残存率1/2。器厚が5mm程度に薄い。	P-1019	1131
54-6	139	IV0-44	III層	深鉢	II Bb4	晩期1a	小波状口縁。外面：縄文LR。沈線。体部ミガキ。内面：ミガキ。	口径：24.0cm。	P-987	1117
54-7	139	IV0-44	III層	壺	II	晩期2	外面：沈線間に弧状の刺突ないしは沈線による半楕状文。底部：張り出し状の脚が4脚。底面は凹形の凹底。	底径：5.7cm、器高：5.5cm。 外面赤影(漆)。内面口縁部に赤色顔料付着。 外面付着漆年代測定中。	P-785	40
54-8	139	IV0-44	III層	浅鉢	I B1	後期7~8	口唇：面取。内外面：ナデ。胎土：3mm以下の小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：なし。	口径：18.1cm、器高：7.9cm、底径：7.2cm。	P-1042	203
54-9	139	IV0-44	III層	注口	II 1	後期7~4	口唇：面取。外面：頸部文様3単位。貼瘤。縄文LR。黒斑残存。底部：高台。胎土：砂粒。小礫。海綿骨針。	口径：9.2cm、底径：3.2cm、器高：18.2cm。 注口部は基部から欠損。	P-1017	286
54-10	139	IV0-44	III層	注口		晩期1a	外面：注口部脇に三叉状沈線文。	注口部先端欠損。	P-1048	88
55-1	139	IV0-44	III層	粗製深鉢	I Aa1t	後期後葉 ~晩期	平口縁に2個一組の二山状の低い突起(1単位)。外面：縄文LR(横位)。内面：ナデ。底部：凹底。使用痕：外スス。	口径：9.7cm、底径：4.9cm、器高：10.1cm。 外面にごく僅かに赤色顔料付着	P-1127	51
55-2	139	IV0-44	III層	粗製深鉢	II Bc1	後期後葉 ~晩期	口唇：面取。外面：縄文LR(横位)。底部：低平な高台。内面：ナデ。胎土：小礫。砂粒。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：18.8cm、底径：7.6cm、器高：19.0cm。	P-796	89
55-3	139	IV0-44	III層	粗製深鉢	I Aa1t	後期後葉 ~晩期	平口縁に連続する突起(単位数不明)。口唇：面取。外面：縄文LR。突起外面に貼瘤。すべの突起に付くわけではなく、形は不整形。内面：貼瘤状に肥厚する突起あり。ナデ。胎土：小礫多く含む。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：23.6cm。 口縁形状と胎土から、後期7~8期か。	P-1047	1374
55-4	139	IV0-44	III層	粗製深鉢	I Bb1	後期後葉 ~晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。底部直上には縄文なし。底部：低平な高台。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：29.7cm、器高：34.2cm、底径：8.4cm。	P-1079	232
55-5	139	IV0-44	III層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉 ~晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。縄文は面取後に施文。内面：ナデ。底部：低平な高台。胎土：砂粒。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：36.0cm、器高：46.7cm、底径：8.2cm。	P-1112, 112	103
56-1	140	IVP-44	III層	鉢		後期7~4	外面：沈線間に連続する刻目。貼瘤。ナデ。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コゲ。	底径：6.3cm。	P-1156	223
56-2	140	IVP-44	III層	台付鉢	I Aa5	後期8	口縁に連続する山形突起。口唇：面取。外面：沈線。沈線による入組文。縄文LR(磨消)。磨消部ナデ。入組文の空隙に三叉文。体部下半ナデ。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。	口径：24.8cm。略壳形。 口縁部正面。種実庄痕か。 器厚が5mm程度と薄い。	P-1158	140
56-3	140 巻頭8下	IVP-44	III層	台付深鉢	II Ba5	後期8	口縁に連続する突起(10単位)。口唇：面取。外面：縄文LR。沈線。沈線による入組文。縄文LR(一部磨消)。磨消部ナデ。文線帯下端を沈線間に連続する短沈線で区画。体部縄文LR。台部ナデ。内面：ナデ。胎土：小礫多く含む。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：16.0cm、底径：6.8cm、器高：20.2cm。施文順(口縁に沿った弧状の沈線と頸部平行沈線を施文後に縄文を施文、その後他の沈線を施文したと思われる)。	P-1162	24
56-4	140 巻頭8上	IVP-44	III層	注口	III3	後期7~4	波状口縁(4単位)。口唇：面取。外面：口縁隆帯。頸部貼瘤上下2段が6単位。沈線。縄文LR(磨消)。磨消部及び頸部・体部の無文部はナデ。器表面磨滅が著しい。注口先端に沈線。縄文LR。注口直下に沈線。底部：高台。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：なし。	口径：8.6cm、底径：2.7cm、器高：15.8cm。 注口部完存。	P-1154, 1155	16
56-5	140	IVP-44	III層	粗製深鉢	I Bb2	後期後葉 ~晩期	口唇：刻目。外面：縄文LR。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫多く含む。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：13.6cm、器高：15.0cm、底径：5.8cm。	P-1166	213
56-6	140	IVP-44	III層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉 ~晩期	口唇：面取。外面：ケズリのち縄文LR。縄文は面取前に施文。内面：口縁に面取時の粘土の段。ケズリのちナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：30.6cm。	P-1123	234

縄文土器観察表(34)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
56-7	140	IVP-44	Ⅲ層	粗製深鉢	IAa1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：小礫多く含む。使用痕：外スス。内コケ。	口径：29.6cm。	P-1158, 1159, 1162	1036
57-1	140	IVP-44	Ⅲ層	深鉢	IIA1t	後期8	平口縁に突起(4単位か)。突起頂部に刻目。口唇：面取。外面：沈線。縄文LR。ほとんど磨消部のない粗雑な磨消縄文。体部下ナデ。内面：ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：なし。外面に黒斑が確認できる。		P-1165	1469
57-2	140	IVP-44	Ⅲ層	深鉢	IBb4t	晩期1b	小波状口縁に山形突起(1単位残存)。口唇：面取。外面：沈線。三叉文。体部縄文LR(横位、直前段が太いRと細いR)。体部中央に沈線で区画された無文帯。使用痕：外スス。内コケ。	口径：18.6cm。	P-800, 991	148
57-3	140	IVP-44	Ⅲ層	壺	Ⅲ	晩期	外面：ナデ。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。使用痕：なし。外面黒斑。	底径：8.8cm。		235
57-4	141	IWO-45	Ⅲ層	壺	Ⅲ1	晩期3	外面：口縁部と肩部に平行沈線文。ミガキ。底部：円形の凹底。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：なし。	口径：8.1cm。底径：4.1cm。器高：9.1cm。外面赤彩。内面頸部内側まで顔料付着。	P-1277	87
57-5	141	IWO-45	Ⅲ層	壺	Ⅲ1	晩期3	外面：口縁部と肩部に平行沈線文。ミガキ。底部：円形の凹底。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：なし。	口径：9.4cm。底径：4.1cm。器高：10.4cm。胴部下半に孔。外面赤彩。内面頸部内側まで顔料付着。	P-1273	85
57-6	141 巻頭9下	IWO-45	Ⅲ層	半精製壺	Ⅲ1t	晩期3	平口縁に2個一組の突起(2箇所)。外面：頸部に突起1単位。沈線。体部縄文LR(横位)。	口径：6.8cm。底径：4.5cm。器高：9.8cm。	P-1288	60
57-7	141	IWO-45	Ⅲ層	粗製壺	Ⅲ1t	晩期2～3	平口縁に2個一組の突起(1単位)。口唇：面取なし。外面：口縁部ミガキ。頸部と体部の境に沈線。体部縄文LR。内面：ケズリ。胎土：小礫。使用痕：なし。	口径：9.6cm。	P-1289	1048
57-8	141	IWO-45	Ⅲ層	粗製壺	I 1	晩期2～3	口唇：面取。外面：口縁部ナデ。体部縄文LR。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。ススは体部下半を全周しており、煮沸痕跡と思われる。内面にコケはない。	口径：9.4cm。器高：20.9cm。底径：8.5cm。	P-1283	218
57-9	141	IWO-45	Ⅲ層	半精製台付鉢	II Bc2t	晩期3	平口縁にB突起(8単位か)。口唇：刻目。外面：肩部突起1箇所。沈線。体部縄文LR。台部：下端に突起剥離痕。内面：口縁に強い張り出し。使用痕：外スス。胎土：砂粒。海綿骨針。	口径：15.2cm。底径：9.0cm。器高：15.0cm。	P-1279	197
57-10	141	IWO-45	Ⅲ層	浅鉢	IA1	晩期3	口唇：内削ぎ状に面取。外面：口縁部に2条の平行沈線文。ミガキ。内面：ミガキ。底部：円形の凹底。	口径：14.8cm。底径：4.1cm。器高：6.1cm。内外面赤彩。	P-1274	81
57-11	141	IWO-45	Ⅲ層	鉢	II 1t	晩期3	平口縁に2個一組のB突起(4単位)。外面：口縁外端に刻目。頸部の突起は1箇所のみ確認される。沈線。彫法による雲形文。縄文なし。口縁と文様帯の上下にそれぞれ2条の沈線。ミガキ。底部：円形の凹底。内面：口縁沈線。ミガキ。胎土：精良。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：15.1cm。底径：3.4cm。器高：8.1cm。内外面赤彩。	P-1285	129
57-12	141	IWO-45	Ⅲ層	半精製台付鉢	II Bc2t	晩期2	口縁にB突起が連続(4単位残存)。口唇：刻目。外面：沈線と削ぎによる羊歯状文。沈線。体部縄文LR(横・斜位)。台部：砂粒。使用痕：外スス。内コケ。	口径：32.4cm。底径：15.0cm。器高：34.8cm	P-1281	107
58-1	141	IWO-45	Ⅲ層	粗製深鉢	IAa1t	後期後葉 ～晩期	平口縁に2個一組のB突起(1単位)。口唇：面取なし。外面：縄文LR。底部：平底。内面：口縁肥厚。肥厚部の上部を内削ぎ気味に強くヨコナデ。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コケ。	口径：20.2cm。器高：24.5cm。底径：7.6cm。	P-1272	198
58-2	141	IWO-45	Ⅲ層	粗製深鉢	IAa1t	後期後葉 ～晩期	平口縁に二山状の突起(1単位か)。口唇：面取。外面：口縁に面取時の粘土の段。縄文LR。縄文は面取後に施文。内面：ナデ。胎土：小礫。砂粒。クサリ礫。使用痕：外スス。内コケ。	口径：27.5cm。	P-1279	1037
58-3	141	IWO-45	Ⅲ層	粗製鉢	IAa1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。底部：低平な高台。内面：ナデ。胎土：小礫。砂粒。使用痕：外スス。内コケ。	口径：13.5cm。器高：12.0cm。底径：5.8cm。	P-1289	224
58-4	142	IWO-45	Ⅲ層	粗製深鉢	IAa1t	後期後葉 ～晩期	平口縁に突起(1単位か)。口唇：部分的に面取。外面：縄文LR。底部直上には縄文なし。底部：低平な高台。底面に圧痕。内面：ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コケ。	口径：21.4cm。器高：23.5cm。底径：8.3cm。	P-1284	1044

縄文土器観察表 (35)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
58-5	142	IV0-45	III層	粗製深鉢	IAa1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：口縁に面取時の粘土の段。ケズリのちナデのち縄文LR。縄文は全体に施文されておらず、また器表面の乾燥が進んでから施文されたためか不明。内面：ナデ。胎土：砂粒。クサリ襷。使用痕：外スス。	口径：30.4cm。	P-1279	1066
58-6	142 巻頭9下	IV0-45	III層	粗製深鉢	IAa1t	後期後葉 ～晩期	平口縁にB突起(連続して3個)。口唇：面取。外面：縄文LR。底部直上5cmくらいは縄文なし。底部：平底。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。内外面に黒斑残るため使用頻度低い。	口径：27.6cm、器高：38.8cm、底径：10.8cm。	P-1275	106
58-7	142	IV0-45	III層	粗製深鉢	IAa1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：28.2cm。	P-1279	233
59-1	143	IV0-45	III層	注口	II1t	後期7-4	平口縁に山形突起(6単位)。口唇：面取。外面：沈線。貼瘤。縄文LR。頸部に隆帯。隆帯上に貼瘤(5単位)と沈線。体部に沈線と縄文LRによる入組文。注口部直下に二袋状の膨らみ。底部：高台。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：なし。外面に黒斑。	口径：6.8cm、底径：2.9cm、器高：14.3cm。 注口部は基部から欠損。 外面赤彩。実測図では顔料付着が確認できた部分のみに赤トーン。	P-155	110
59-2	142	IV0-45	III層	深鉢		後期8	平口縁に低い突起又は小波状口縁。口唇：面取。外面：縄文LR。沈線。沈線による入組文。縄文LR(磨消)。磨消部ナデ。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。	口径：21.0cm、底径：7.5cm、器高：20.2cm。残存率1/2。	P-1586	1472
59-3	143	IV0-45	III層	鉢	II Ba1t	後期8	平口縁に突起(8単位か)。口唇：面取。外面：口縁部文様帯は突起直下に口縁部に平行する幅狭な縄文帯を形成し、頸部文様帯の上端は1条の沈線で、下端の屈曲部は単帯の無文帯で面す。頸部文様帯には沈線描出による入組文を上下2段に生成する。縄文LR(磨消)。描出表現が粗雑で稚拙な特徴があり、熟練度の低さが窺える。口縁突起に両者の文様が対応するあり方は窺えず、文様描線の上端と下端が区画帯に局所で連結する特徴がある。なお、体部は無文となり、底部形態が高台状を呈する。使用痕：口縁部と頸部から体部上半の外面にススと、口頸部から体部中央の内面にコゲが付着。胎土：緻密で精選され、粘土基質の量が高い。細砂粒。海綿骨針。白色粒子の量が高い。	口径：21.0cm、底径：7.5cm、器高：20.2cm。残存率1/2。	P-1586	217
59-4	143	IV0-45	III層	深鉢	II A5	後期8	口縁部に連続する突起(大小交互に計12単位)。口唇：面取。外面：口縁部文様帯には突起直下の縄文帯が口縁部形態に連動して波状を呈し、その直下の無文帯を水平に表出する。頸部文様帯下端には単帯の縄文帯が圍繞される。頸部文様帯には、沈線描出による入組文を生成する。縄文LR(磨消)。口縁突起と頸部文様は対応していない。体部は無文となる。使用痕：外面にススとコゲが、内面と内面に広くコゲが付着。胎土：粘土基質の量が高い。細砂。細礫。海綿骨針。	口径：19.0cm。 器面摩滅が著しい。残存率4/5。	P-1584	229
59-5	142	IV0-45	III層	半精製壺	III1	晩期1b	口唇：弱い面取。外面：ナデ。頸部隆帯。隆帯上に沈線と円形の凹みが連続。体部縄文LR。底部：低平な高台。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。	口径：10.0cm、器高：22.6cm、底径：7.2cm。	P-1402	1043
59-6	142	IV0-45	III層	深鉢	II Bb2t	晩期1b	連続する刻目による小波状口縁に山形の突起(4単位か)。外面：頸部文様は沈線による入組三又文。最下部の沈線は縄文地を切るように施文され、「ノ」の字状の文様が描かれると考えられる。体部縄文LR。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：20.6cm。	P-1429, 1430	1059
59-7	142	IV0-45	III層	浅鉢	I B1	晩期3	口唇：面取。外面：口縁直下に連続する刻目。沈線。縄文LR(磨消)。彫去による雲形文。磨消部はミガキ。底部：円形の凹底。内面：ミガキ。胎土：精良。海綿骨針。使用痕：なし。内外面に黒斑。	口径：20.9cm、底径：4.7cm、器高：8.1cm。 内外面赤彩と思われる。赤彩(漆塗膜残存)。		132
59-8	142	IV0-45	III層	半精製鉢	II Bc5	晩期3	平口縁に三又状の枒りを施し、連続した突起を作出。外面：沈線。沈線間に刺突列。体部縄文LR。内面：口縁に強い張り出し。沈線。使用痕：外スス。内コゲ。胎土：砂粒。海綿骨針。	口径：13.6cm。施文順(縄文→沈線)。		1053
59-9	143	IV0-45	I層	半精製鉢	II Bc2t	晩期3	平口縁にB突起(単位数不明)。口唇：刻目。外面：沈線。沈線間に刺突列。肩部突起1箇所。体部縄文LR。内面：口縁に強い張り出し。使用痕：外スス。内コゲ。胎土：砂粒。海綿骨針。	口径：17.8cm。施文順(突起→縄文→沈線)。		1057

縄文土器観察表 (36)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
59-10	143	IV0-45	III層	半精製鉢	II Bc2t	晩期3	平口縁にB突起(単位数不明)。口唇：突起間に刻目。外面：口縁直下の溝底に刺突列。沈線。沈線間に刺突列。体部縄文LR。内面：口縁に強い張り出し。沈線。ナデ。使用痕：外スス。内コガ。胎土：砂粒。海綿骨針。	口径：22.0cm。		1054
59-11	143	IV0-45	III層	半精製鉢	II Bc2t	晩期3	平口縁にB突起(単位数不明)。口唇：刻目。外面：沈線。沈線をまたぐように4個一組の刺突。体部縄文LR。内面：口縁に強い張り出し。沈線。使用痕：内外面に白色粘土付着。外スス。内コガ。胎土：砂粒。海綿骨針。	口径：18.5cm。		1038
59-12	143	IV0-45	III層	半精製台付鉢	II Bc2t	晩期2	口縁に連続するB突起(14単位)。口唇：刻目。外面：沈線と刺突による半歯状文。沈線。縄文LR(横・斜)。肩部に縦長の突起1個、横長の突起2個。台部：沈線。沈線内に透かし孔。下端肥厚。肥厚部に縄文LR。突起1単位(肩部突起に対応)。内面：口縁に強い張り出し。ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。内コガ。	口径：19.8cm、底径：10.3cm、器高：24.9cm。 施文順(突起→縄文→沈線)。補修孔2対。	P-1429	1119
59-13	143	IV0-45	III層	半精製台付鉢	II Bc2t	晩期3	平口縁にB突起(単位数不明)。口唇：刻目。外面：沈線間に刺突列。体部縄文LR。台部：下端肥厚。肥厚部に縄文LR。内面：口縁に強い張り出し。沈線。使用痕：外スス。内コガ。胎土：砂粒。海綿骨針。	口径：12.8cm、底径：7.1cm、器高：12.3cm。		191
59-14	143	IV0-45	III層	半精製台付鉢		晩期2~3	外面：縄文LR。台部：ミガキ。沈線。下端肥厚。肥厚部に縄文LR。内面：ミガキ。台部ミガキ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。内コガ。	底径：6.4cm。		238
59-15	143 巻頭9下	IV0-45	III層	半精製台付鉢	II Bc2t	晩期3	平口縁にB突起(単位数不明)。口唇：刻目。外面：沈線。刺突。体部縄文LR。頸部の刺突は水平に連続するが全体で1箇所(2単位)が斜めに施される。台部：下端肥厚。肥厚部に縄文LR。2個一組の突起1箇所。内面：口縁に強い張り出し。沈線。使用痕：外スス。内コガ。胎土：砂粒。海綿骨針。	口径：12.9cm、底径：6.3cm、器高：14.3cm。 台部の突起の上方肩部に突起があったと思われるが欠損。	P-1430	1116
60-1	142	IV0-45	III層	半精製台付鉢	I Bb5	晩期3	口縁端部から外面にかけて短沈線を施し、裝飾的な口縁にしている。外面：沈線。体部縄文LR。ナデ。台部：下端肥厚。内面：ナデ。胎土：小礫。砂粒。使用痕：外スス。	口径：9.5cm、器高：6.6cm、底径：5.5cm。	P-1250	121
60-2	143	IV0-45	III層	半精製台付鉢	I Aa5	晩期3	平口縁に三叉状の抉りを施し、連続した突起様の裝飾を作出。外面：沈線。体部縄文LR。ミガキ。台部：下端肥厚。肥厚部に縄文LR。突起剥離痕1箇所。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。	口径：10.4cm、器高：10.1cm、底径：6.2cm。		195
60-3	143	IV0-45	III層	半精製台付鉢	I Aa5	晩期3	平口縁に三叉状の抉りを施し、連続したB突起様の裝飾を作出。外面：沈線。肩部突起1箇所。体部縄文LR。台部：下端肥厚。肥厚部に縄文LR。使用痕：外スス。内コガ。胎土：砂粒。海綿骨針。	口径：14.9cm、底径：8.8cm、器高：15.3cm。		145
60-4	144	IV0-45	III層	半精製台付鉢		後期後葉 ～晩期	外面：縄文LR。台部：下端肥厚。肥厚部に縄文LR、2個一組の突起1箇所。内面：ミガキ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。内コガ。	底径：8.2cm。		219
60-5	144	IV0-45	III層	粗製深鉢	I Aa1t	後期後葉 ～晩期	平口縁にB突起(1単位)。口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。内コガ。	口径：17.5cm。	P-1426	242
60-6	144	IV0-45	I層・III層	粗製深鉢	I Aa1t	後期後葉 ～晩期	平口縁に突起(単位数不明)。破損により突起形状不明。口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コガ。	口径：26.9cm。		1065
60-7	144	IV0-45	III層	粗製鉢	I Bb1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コガ。	口径：14.5cm、器高：12.0cm、底径：7.0cm。	P-1435	194
60-8	143	IV0-45	III層	粗製深鉢	I Bb1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫多く含む。使用痕：外スス。内コガ。	口径：20.0cm、器高：22.8cm、底径：7.8cm。補修孔。	P-1436	1041
60-9	144	IV0-45	III層	粗製深鉢	I Bb1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。縄文は面取後に施文。底面直上2cmくらいは縄文なし。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫多く含む。使用痕：外スス。内コガ。	口径：26.0cm、器高：26.0cm、底径：7.8cm。補修孔。	P-1422	231
61-1	144	IV0-45	III層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。外面黒斑。	口径：27.8cm。	P-1426	1064
61-2	144	IV0-45	III層	深鉢		後期後葉 ～晩期	外面：ナデ。底部：高台。胎土：小礫。砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。内コガ。内面黒斑。	底径：7.8cm。	P-1909	158

縄文土器観察表 (37)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
61-3	144 巻頭8上	IV0-45	III層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR(横位)。体部下半は縄文LR(斜位)。底部：高台。	口径：31.5cm、底径：10.5cm、器高：35.0cm。補修孔2対。補修孔脇に穿孔途中の凹みが残存。器壁が厚い。口唇処理が7-4期の有文深鉢と共通するため、7章では7-4期とした。	P-1454	76
61-4	145	IVP-45・ IVQ-45・ IVR-45	III層	深鉢	I Bb1t	後期7-4	平口縁に突起(単位数不明)。突起は二山と三山の2種。口唇：面取。外面：文様帯上端を3帯、下端を2帯の刻目帯で面す。主文様は沈線による入組文で描線の先端と下端が区画帯に連結する。縄文無筋LR(磨消)。入組文の起点・終点が突起に対応するあり方が窺える。体部は無文となるが上部に平行沈線の磨消痕あり。使用痕：外面にスラスとコゲが、内面に部分的にコゲが付着。胎土：緻密で、粒子が非常に細かく精選され、粘土基質の量比が高い。細砂粒。微量の海綿骨針。	口径：32.2cm。 口唇部と内面に種子のような圧痕。 口唇部と内面に種子のような圧痕。		293
61-5	145	IVP-45	III層	香炉		後期7～8	香炉頂部突起。外面：貫通孔。縄文LR。胎土：2mm以下小礫。海綿骨針。		土製品-x	1380
61-6	145	IVP-45	III層	壺		後期7～8	外面：縄文LR。底部：高台。底面は平坦。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：なし。	底径：10.0cm。		237
61-7	145 巻頭9下	IVP-45	III層	壺	III1	晩期3	口唇：ミガキ。頸部突起(4単位)。平行沈線文3条。ミガキ。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：4.9cm、底径：3.2cm、器高：14.2cm。器面剥落多い。 外面および口縁内面赤彩(漆)。	P-1286	82
61-8	145	IVP-45	III層	壺	III1	晩期2	口唇：面取。外面：ミガキ。沈線と刻目による羊歯状文。沈線。縄文LR(磨消)。底部直上は無文帯。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：なし。	口径：5.0cm、底径：5.0cm、器高：11.5cm。 施文順(縄文→沈線→磨消)。	P-1424	41
62-1	145 巻頭8下	IVP-45	III層	台付鉢	II Ba5	後期8	口縁部に大小8単位の突起が連続。口唇：面取。外面：2箇所小突起に貼瘤を付す。口縁部文様帯には突起直下の縄文帯が口縁部形態に運動して波状に巡り、その直下の無文帯と縄文帯は水平に表出し、縄文帯に突起と対応する貼瘤を付す。頸部文様帯下端の屈曲部には縄文を施文した後に貼瘤を施す。文様帯には複雑な入組文が生成する。縄文LR(磨消)。入組文の空隙に三叉状沈線。入組文の描線の上端と下端が区画帯に連結し、入組文の起点部、連繫部、終点部が突起に対応するあり方が窺える。なお、体部と台部は無文となる。実測図正面の貼瘤が剥がれた部分に縄文が確認でき、縄文施文後に貼瘤を施したことがわかる。内面：面取時に生じた粘土の段。ナデ。使用痕：外スス。内コゲ。胎土：緻密で精選され、粘土基質の量比が高い。細砂粒多い。海綿骨針。	口径：23.7cm、底径：10.4cm、器高：26.7cm。 完成形。	P-1579	117
62-2	145	IVP-45	III層	台付鉢	I Bb1t	後期7-4	平口縁に突起(8単位と思われる)。口唇：面取。外面：口縁部文様帯には口縁部形態に運動して、突起頂部を起点と終点とする下向きの弧線文を表出し、斜め横方向から大きい刻目を等しい間隔で施す。頸部文様帯には沈線描出による四角形の文様。頂部に2本の刻目をもちつ貼瘤。頸部文様帯の下端は草帯の刻目帯で面し、体部は縄文LRで覆われる。使用痕：口縁部から体部上半の外面にコゲが付着。胎土：緻密で粘土基質の量比が高い。細砂粒。細砂が多い。海綿骨針。	口径：24.9cm。 施文順(沈線→縄文)。残存率2/5。	P-1566, 1570, 1571, 1588	141
62-3	145	IVP-45	III層	台付鉢	II Ba5	後期8	口縁に大小交互の連続する突起(計12単位)。口唇：面取。外面：口縁部文様帯は突起直下に無文帯を形成し、頸部文様帯の上端と下端の屈曲部には単帯の刻目を設け、刻目帯は等しい間隔で斜め横方向から施す刻目により表出する。頸部文様帯には沈線描出による入組文を8単位で生成する。縄文LR(磨消)。入組文の描線の起点部と終点部が区画帯に連結する。体部は無文。底部：高台。外面にスラスが、内面の全域にコゲが付着。胎土：粘土基質の量比が高い。細砂粒。細砂が多く、海綿骨針。	口径：17.4cm。 施文順(縄文→沈線→刺突)。略壳形。	P-1583	142

縄文土器観察表 (38)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
62-4	145	IVP-45	III層	鉢	IBb5	後期8	波状口縁(8単位と思われる)。口唇：面取。外面：沈線。入組文。縄文LR(磨消)。波頂部と頸部文様は相関性が低く、波頂部直下に連繫部が対応するのは僅か一組で、文様の起点であった可能性もある。底部は無文。底面：高台。使用痕：外面底部上位にススガ、内面と内面に広くコゲが付着。胎土：緻密。細砂粒。微量の海綿骨針。白色粒子の量比が高い。	口径：21.1cm、底径：7.3cm、器高：19.8cm、残存率3/4。	P-1580, 1635	126
62-5	145	IVP-45	III層	鉢	II I	晩期1a	平口縁に突起(単位数不明)。突起頂部に刻目。口唇：面取。外面：文様部分磨滅。沈線による入組文。縄文LR(磨消)。磨消部ナデ。底部：高台。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：18.3cm、器高：17.0cm、底径：7.2cm。	P-1643	214
62-6	146	IVP-45	III層	台付深鉢	II Ba1t	後期8	平口縁に突起(計12単位か)。1単位はほかより大きい。残存状況が悪く配置は復元できない。口唇：面取。外面：口縁部形態には口縁部形態に平行な幅狭な縄文帯を形成し、頸部文様帯の上端と下端を1帯を1帯で描すが、描出表現が粗雑で稚拙な特徴があり、2度描きの頻度も高く、熟練度の低さが窺える。頸部文様帯には入組文を生成する。縄文LR(磨消)。胎土は無文。使用痕：口縁部から底部の外面に広くススガ、頸部と体部上半の内面にコゲが付着。胎土：粘土基質の量比が高い。細砂粒。多量の細織。	口径：33.0cm、施文順(縄文→沈線)。残存率1/2。	P-1638	146
62-7	146	IVP-45	III層	深鉢		晩期1a	平口縁に二山状の台形突起。口唇：面取。外面：沈線。縄文LR。突起下に扶りによる三叉文。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：なし。	口径：16.41cm、底径：8.0cm、器高：29.1cm、器厚が4mm程度と薄い。	P-1572, 1573, 1641, 1642	1062
62-8	146	IVP-45	III層	深鉢	II Ba5	晩期1a	口縁部に台形突起と山形突起が交互に連続(計12単位か)。口唇：面取。外面：口縁部文様帯には口縁部形態に連動して縄文帯を水平に形成し、台形突起の頂部直下には三角状刻目を、山形突起の頂部直下には短沈線を施す。頸部文様帯の上端は単帯の幅の狭い縄文帯で、下端も単帯の幅の狭い縄文帯で描す。頸部文様帯には沈線描出による入組文を生成し、入組文の連繫部に三叉状刻目が接続する。縄文LR(磨消)。胎土は無文。使用痕：外面の全域にススガ、口縁部と体部上位の内面にコゲが付着。胎土：緻密で精選され、粘土基質の量比が高い。細砂粒多い。海綿骨針微量。	口径：25.0cm、底径：8.0cm、器高：29.1cm、器厚が4mm程度と薄い。	P-1572, 1573, 1641, 1642	1062
62-9	-	IVP-45	III層	鉢		後期7~8か	外面：ナデ。内面：ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：なし。	口径：18.0cm、器高：7.8cm、底径：8.0cm。	P-1583	1474
62-10	146	IVP-45	III層	浅鉢	IB1	後期7~8	口唇：面取。外面：磨滅。底部：高台。内面：磨滅。胎土：小礫多く含む。使用痕：なし。	口径：18.0cm、器高：7.8cm、底径：8.0cm。	P-1569	193
62-11	146	IVP-45	III層	粗製深鉢	IAa1	後期後葉~晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。	口径：15.87cm、底径：16.37cm。	P-1587, P-1637	1471
62-12	146	IVP-45	III層	粗製深鉢	IAa1	後期後葉~晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：小礫多く含む。海面骨針。使用痕：外スス。	口径：30.8cm、補修孔。	P-1567, P-1636	1035
63-1	146	IV0-46	III層	深鉢	II Bc2	晩期1b	口唇：刻目。外面：沈線。体部縄文LR。使用痕：外スス。内コゲ。胎土：砂粒。海綿骨針。	口径：19.6cm、外面付着炭化物年代測定中。	P-1315	1231
63-2	146	IV0-46	III層	注口	III5	晩期2	口縁に三叉状の扶りを伴う装飾的な突起が連続。外面：沈線。ミガキ。縄文LR(磨消)。磨消部ミガキ。体部曲部および注口基部に突起。底部：高台。高台外端に刻目。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：なし。	口径：7.3cm、底径：4.0cm、器高：6.9cm、注口部先端欠損。	P-1268	6
63-3	146	IV0-46	III層	半精製台付鉢	II Bc5	晩期3	口縁に沈線を伴う装飾的な突起が連続。外面：沈線。沈線間に刻目列。肩部突起(1単位)。体部縄文LR(横位)。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：12.6cm、外面付着炭化物年代測定中。	P-1269	50
63-4	146	IV0-46	III層	浅鉢	IA1	晩期3	口唇：面取なし。外面：沈線。連続する刻目。彫去による雲形文。縄文LR(磨消)。ミガキ。底部：円形の凹底。内面：ミガキ。胎土：精良。海綿骨針。使用痕：なし。内外面黒斑。	口径：16.1cm、底径：4.4cm、器高：6.5cm、外面赤彩(漆)。		1203
63-5	146	IV0-46	III層	浅鉢	IA1t	晩期3	平口縁に2個一組のB突起(1単位)。口唇：内削ぎに面取。外面：沈線。連続する刻目。口縁突起下の肩部に突起(1単位。沈線による雲形文(彫去なし)。縄文LR(磨消)。ミガキ。底部：円形の凹底。内面：ミガキ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：なし。	口径：15.5cm、底径：5.2cm、器高：6.8cm。	P-1314	1187
63-6	146	IV0-46	III層	粗製壺	III1	晩期3か	口唇：面取なし。外面：口頸部ミガキ。体部縄文LR。底部：平底。内面：ナデ。板状工具痕。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：なし。	口径：9.6cm、器高：12.6cm、底径：6.8cm。		1306

縄文土器観察表 (39)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
63-7	146	IVQ-46	III層	粗製壺		晩期	口唇：面取なし。外面：ナズ。底部：高台。内面：ナズ。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。口唇に装飾的な突起(1箇所)。口唇：面取。面取が確認できない部分あり。外面：沈線と彫去による雲形文のような文様。縄文なし。粘土粒貼付。全体に摩滅。底部に2重の沈線。内面：口縁下に沈線。ナズ。胎土：海綿骨針。使用痕：内外面の一部にスス。二次被熱か。内面に黒斑残存。	器高：7.0cm、底径：5.0cm。	P-1419	1200
63-8	147	IVP-46	III層	浅鉢	IC1t	晩期3	口唇：面取なし。外面：ナズ。底部：高台。内面：ナズ。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。口唇に装飾的な突起(1箇所)。口唇：面取。面取が確認できない部分あり。外面：沈線と彫去による雲形文のような文様。縄文なし。粘土粒貼付。全体に摩滅。底部に2重の沈線。内面：口縁下に沈線。ナズ。胎土：海綿骨針。使用痕：内外面の一部にスス。二次被熱か。内面に黒斑残存。	口径：6.6cm、器高：18.4cm、外面赤彩か。一部摩滅して、沈線文様が不鮮明。	P-1418	1170
64-1	147	IVQ-35	III-3層	注口		後期7~8分	外面：摩滅。内面：ナズ。胎土：砂粒を多く含む。	注口部は基部から欠損。注口欠損部に黒色物質(アスファルトか)付着。		406
64-2	147	IVQ-35	III-3層	注口		晩期1b	外面：頸部玉拍三又文。体部縄文LR(磨消)。磨消部や彫去状。内面：ナズ。胎土：細かい砂粒多い。焼成良好。黒色に焼き上げている。海綿骨針。使用痕：なし。	外面赤彩。		437
64-3	147	IVQ-35	III層	浅鉢		晩期2	平口縁。外面：口縁部に羊歯状文が退化した刻目。彫去による雲形文。縄文LR(磨消)。胎土：砂粒や多い。海綿骨針。	外面全体に赤彩(おそらく漆)の痕跡。		438
64-4	147	IVQ-35	III層	浅鉢	IA1t	晩期2	平口縁にB突起。外面：頸部無文帯はミガキ。頸部に羊歯状文と突起貼付。体部にミガキと沈線と縄文LRで平板な磨消縄文。胎土：小礫少量。使用痕：不明。			426
64-5	147	IVQ-35	III層	粗製深鉢		後期後葉~晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナズ。胎土：砂粒多い。使用痕：外スス。内コガ。			427
64-6	147	IVQ-35	III層	粗製壺	III1	晩期1a	口唇：面取。外面口縁：ナズ。外面頸部：突起(5単位か)とその間に沈線。外面胴部：頸部部界は沈線状の強いナズ。その下に縄文LR。胎土：砂粒。小礫多い。海綿骨針。使用痕：なし。			408
64-7	147	IVQ-36	III層	粗製壺	I 1	後期8	外面：体部縄文LR。底ナズ。内面：ナズ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：なし。	口径：10.0cm。	P-185	210
64-8	-	IVQ-36	III層	台付深鉢		晩期1a~b	外面：縄文LR。台部：ナズ。内面：ナズ。胎土：小礫。使用痕：外スス。	口径：2.3cm、器高：7.3cm、底径：4.8cm。		412
64-9	147	IVQ-36	III層	香炉		後期7~8	頂部突起。イノシシカ。外面：縄文LR。内面：ナズ。胎土：シルト質。小礫。海綿骨針。使用痕：なし。	底径：8.0cm。		1026
64-10	147	IVQ-36	III層	深鉢	II Ba1t	後期7-4	平口縁に大小の突起。口唇：面取。外面：4ないし5箇所の突起ごとに貼着。貼着上に刻目。口縁に沈線間の連続する刻目2段。縄文地(縄文LR)に沈線による入組文。部分的に磨消縄文。頸部部界に沈線間の連続する刻目。内面：ナズ。胎土：砂粒。多く含む。使用痕：外スス。	三又文成立以前。		399
64-11	147	IVQ-36	III層	台付深鉢	II Ba4	晩期1a	小波状口縁。口唇：面取。外面：沈線。沈線による入組文。縄文LR。文様帯下端をレンズ状隆帯(隆帯上方は部分的に沈線)で区画。体部縄文LR。内面：ナズ。胎土：クサリ礫含む。使用痕：外スス。内コガ。	口径：33.0cm、外面炭：2980±20yrBP。	P-184	419-1
64-12	147	IVQ-37	III層	浅鉢		晩期	外面：縄文LR。沈線。底部：高台。高台平面は方形。高台の角に突起。内面：ナズ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：なし。外面に黒斑。			1377
64-13	147	IVQ-37	III層	浅鉢	II 4	晩期1a	小波状口縁(12単位か)。外面：沈線。縄文LR(磨消)。玉拍三又文と乳線を組み合わせた入組文。ミガキ。内面：ナズ。胎土：精良。使用痕：なし。内外面に黒斑。	口径：16.3cm、器高：6.9cm。		80
64-14	147	IVQ-37	III層	注口		晩期1a	外面：沈線。縄文LR。上下に対向する扶りによる三又文。底部：丸底か。内面：ナズ。胎土：砂粒多い。使用痕：なし。	注口部は基部から剥離。		413
64-15	147	IVQ-37	III層	深鉢	I Bb1t	後期8	平口縁に山形突起。口唇：面取。外面：突起下に貼着。沈線による入組文。縄文LR(磨消)。体部無文。内面：ナズ。胎土：砂粒多い。使用痕：外スス。	口径：25.0cm。	P-180	423
64-16	147	IVQ-37	III層	深鉢	II Ba5	後期8	突起が連続する口縁。口唇：面取。外面：沈線。縄文LR。沈線による入組文。体部無文。内面：ナズ。胎土：最大径5mmの小礫を多く含む。使用痕：外スス。		P-173	429
65-1	148	IVR-34	III層	鉢	I Aa2t	晩期1b	連続した刻目による小波状口縁。大ぶりの突起(1単位)。外面：縄文地(縄文LR)に沈線。使用痕：外スス。内コガ。胎土：雲母か。	口径16.8cm。施文順(縄文→沈線)。		2181

縄文土器観察表(40)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
65-2	148	IVR-34	III層下	注口	III1	晩期1a	口唇：面取。外面：ミガキ。頸部と口縁部頸部と体部の境に沈線。注口部直下に二袋状の膨らみ。内面：ナデ。板状工具痕。胎土：小礫。砂粒。使用痕：内面に赤色の物質が付着しており赤色顔料容器の可能性がある。外面黒斑。	口径：9.0cm、器高：14.6cm、底径：1.7cm。注口部は基部から剥離。内面に赤色の物質が付着しており赤色顔料容器の可能性がある。	P-2430	2190
65-3	148	IVR-34	III層	香炉か		後期8か	香炉の上半部か。外面：頂部突起欠損。貫通孔。沈線。縄文LR。貼瘤(上部に刻目)。外周に突起。内面：ほとんど調整しておらず。粘土の層が目立つ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：内スス。貫通孔の下側開口にある沈線内の器表面が摩滅。	65-4~6と同一個体か。外面赤彩。	特-212	2235
65-4	148	IVT-34	III層	香炉か		後期8か	外面：沈線。ミガキ。縄文LR。貼瘤。内面：粗いナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：内スス。	65-3・5・6と同一個体か。外面赤彩。		2232
65-5	148	IVR-36	III層	香炉か		後期8か	外面：沈線。ミガキ。縄文LR。頂部に沈線のある突起。内面：ほとんど調整しておらず粘土の層が目立つ。胎土：海綿骨針。使用痕：内スス。	65-3・4・6と同一個体か。外面赤彩。		2237
65-6	148	IVT-50		香炉か		後期8か	口縁に突起。口唇：面取なし。ミガキ。外面：突起下に三叉状の抉り。沈線。ミガキ。縄文LR。貼瘤は頂部刻目3本と、円形利突の2種。内面：口縁肥厚。面取時の粘土の段。ナデ。胎土：クサリ礫。海綿骨針。使用痕：内コグ。	65-3~5と同一個体か。外面赤彩。		2233
66-1	149	IVR-35	III層下(配石下)	深鉢	IIA5	後期7~4	突起が連続する口縁。口唇：面取。外面：数個ごと(間隔は一定しない)の突起直下に工具による押圧を伴う縦長横割り瘤を付す。口縁部文様帯と屈曲部に太い刻目を斜め横方向から施す刻目帯を2帯設けて頸部文様帯を画し、沈線で描出された入組文を多段に生成する。縄文LR(磨消)。入組文の描線の上端と下端が刻目帯に連結する特徴があり、屈曲部の刻目帯には2個一組を単位とする貼瘤を付す。体部は無文となる。使用痕：外スス。内コグ。	口径25.5cm。 残存率1/4。		2194
66-2	149	IVR-35	III層下(配石下)	鉢	II	晩期1a	外面：縄文LR。磨消縄文による入組文か。沈線間に連続する短沈線。体部に上向きに連続した弧線。途切れた部分(実測区右端)は三叉文風の人字状沈線。使用痕：外スス。内コグ。胎土：砂粒。	施文順(縄文→沈線)。	P-2425, 2426	2179
66-3	149	IVR-35	III層下(配石下)	注口	III1	後期7~4	口唇：面取。外面：貼瘤。沈線。縄文LR(磨消)。頸部文様3単位。体部文様4単位。貼瘤は頂部刻目2本と刻目1本と刻目なしの3種。黒斑残存。胎土：砂粒。海綿骨針。	口径：12.0cm。注口部は基部から欠損。		2189
66-4	149	IVR-35	III層(配石下)	注口	II1t	後期7~4	平口縁に突起(山形とB字状の2種が交互か)。口唇：面取。外面：縄文LR。沈線。無文部は粗いミガキ。頸部と体部の境が肥厚し、文様帯となる。貼瘤(7単位)。沈線。縄文LRで施文。体部は無文。注口部直下に膨らみ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：なし。	口径：7.3cm、底径：2.6cm、器高：13.9cm。注口部完存。	P-2052	2177
66-5	149	IVR-35	III層下(配石下)	注口		後期8か	外面：体部と底部の境に残り沈線。ナデ。注口先端摩滅(一部欠損)。注口基部に二袋状の膨らみ。底部：高台。内面：ナデ。板状工具痕。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：なし。外面黒斑。	底径：2.7cm。		2186
66-6	149	IVR-35	III層下(配石下)	注口	II1t	晩期1a	平口縁に突起(1単位)。注口部に対応。口唇：面取なし。外面：ミガキ。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：6.5cm、器高：8.5cm、底径：3.6cm。注口部途中から欠損。	P-2442	2185
66-7	149	IVR-35	III層下・III層(配石下)	粗製鉢	IAa1	後期後葉 ~晩期	口唇：面取。外面：ナデ。底部：高台。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。内コグ。	口径：21.6cm、器高：17.7cm、底径：6.6cm。		2196
66-8	149	IVR-35	III層下(配石下)	粗製深鉢	IAa1t	後期後葉 ~晩期	平口縁に突起(8単位か)。突起内外に粘土粒を貼瘤のように付している。口唇：面取。外面：縄文LR。縄文は面取前に施文か。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コグ。	口径：22.0cm。	P-2440	2180
67-1	149	IVR-35	III層下(配石下)	粗製深鉢	I	後期後葉 ~晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コグ。		P-2416	2300
67-2	149	IVR-35	III層下(配石下)	粗製深鉢	IBb1	後期後葉 ~晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。縄文は面取後に施文。内面：ナデ。板状工具痕。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。内コグ。	口径：22.9cm。		2174
67-3	150	IVR-35	III層下(配石下)	粗製深鉢	IAa1	後期後葉 ~晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。縄文は面取後に施文。内面：ナデ。底部：高台。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コグ。	口径：36.8cm、器高：47.7cm、底径：10.4cm。	P-2441	2204

縄文土器観察表 (41)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
67-4	150	IVR-35	III層	深鉢	II	後期8	小波状口縁で波頂部に刻目。口唇：面取。外面：口縁縄文帯。上下を沈線で区切られた文様帯の中に沈線による入組文。縄文LR(磨消)。頸胸部界を沈線間に連続する短沈線で面す。底部縄文(LR)。胎土：砂粒少量。使用痕：外スス。内コグ。	P-1834	424	
67-5	150	IVR-35	III層	深鉢	II	後期8	小波状口縁。外面：沈線による入組文。縄文LR(磨消)。磨消部ナデ(一部磨消されない縄文が残る)。底部縄文LR。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。内コグ。		401	
67-6	150	IVR-35	III層	深鉢	II	晩期1a	小波状口縁。口唇：面取。外面：波頂部下に逆丁字の三叉文。その間に弧線。縄文地(縄文LR)に沈線。沈線間に連続する短沈線。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。内コグ。	P-1834	403	
67-7	150	IVR-35	III層	深鉢	II	晩期1a	平口縁に突起。突起部は残存しない。口唇：面取。外面：突起下に三叉文。沈線。縄文LR。沈線による入組文。入組文の空隙に三叉文。きちんとした磨消縄文になっていない(磨消部がはつきりしない)。沈線間に連続する短沈線。内面：ナデ。使用痕：外スス。	P-1834	400	
67-8	150	IVR-35	III層	深鉢	II Bb1t	晩期2	平口縁にリボン状の突起。口唇：面取。外面：沈線。羊歯状文。底部縄文LR。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。内コグ。	P-244	432	
67-9	151	IVR-35	III層	注口		晩期1a	外面：ミカキ。体部と頸部の境に浅い沈線。注口直下に粘土粒と沈線で二袋状の膨らみを表す。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：なし。	P-240	91	
67-10	151	IVR-35	III層	浅鉢	II 1	晩期1b	平口縁に突起。突起は1箇所と思われる。大突起は剝離。大突起基部に粘土紐貼付。ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：なし。		48	
68-1	151	IVR-35	III層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：小礫。砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。	P-240	414	
68-2	150	IVR-35	III層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。小礫を含む。海綿骨針多い。使用痕：外スス。	P-1834	440	
68-3	150	IVR-35	III層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉 ～晩期	平口縁。口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ(ケズリ気味)。胎土：小礫。クサリ礫。使用痕：外スス。	P-243	428	
68-4	150	IVR-35	III層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：体部上半縄文LR(斜位)。体部下半ケズリ。底部：低平な高台か。剝離。内面：ナデ。板状工具痕。胎土：砂粒。使用痕：外スス。内コグ。	P-244	67	
68-5	150	IVR-35	III層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：3mm以下の砂粒。小礫含む。使用痕：外スス。	P-242	409	
68-6	150	IVR-35	III層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒多い。使用痕：外スス。	P-242	416	
69-1	151 巻頭8上	IVR-36	III層	台付鉢	II Ba1t	後期7-4	平口縁に突起(10単位)。突起上に十字状沈線。口唇：面取。口縁部文様帯には口縁部形態に平行する刻目帯と無文帯を形成し、突起直下の刻目帯に凹形突起を施すボタノ状貼瘤を付す。下方の頸部文様帯の上端は斜め横方向から等しい間隔で太い刻目を施す1帯の刻目帯で。下端は突起に対心する2個一組の縦長横割り瘤を付した無文帯を介する2帯の刻目帯で面す。頸部文様帯には沈線による入組文を10単位で生成する。縄文LR(磨消)。磨消部は彫去状。入組文の起点部、連繫部、終点部が突起と貼瘤に対心する強い規則性が窺える。体部と台部は無文となる。内面：口縁に段状の肥厚。ナデ。使用痕：口縁部から体部下半の外面にススとコグが、内面に薄く点在。胎土：緻密で精選され、粘土基質の量比が高い。細砂粒。海綿骨針。	P-229, 230	3	
69-2	151	IVR-36	III層	深鉢	II	後期7-4	外面：頸部文様帯に入組文。縄文LR(磨消)。頸部文様帯下端の屈折部は1帯の無文帯を介する幅狭で斜め横方向から太い刻目を施す2帯の刻目帯で面し、無文帯に8単位のボタノ状の貼瘤を付す。体部は節の細かな縄文LRで覆われ、使用痕：頸部から体部下半の外面に広くススが、体部上位から下位の内面に幅のある帯状のコグが付着。胎土：緻密で精選され、粘土基質の量比が高い。細砂粒。海綿骨針。	P-233	54	
69-3	151	IVR-36	III層	深鉢	II Ba1t	後期8	平口縁に凹形突起。突起頂部には内面にのびる刻目。口唇：面取。外面：沈線間に連続する刻目。沈線による入組文。縄文LR。貼瘤。体部無文。内面：ナデ。使用痕：外スス。内コグ。	P-236	431	

縄文土器観察表(42)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
69-4	151	IVR-36	III層	深鉢	II	後期8	平口縁に大小の山形突起。大突起の頂部には内面に縦く刻目。口唇；面取。外面；縄文地(縄文LR)に沈線を磨消。内面；ナデ。焼成；堅緻。使用痕；外ス。内コゴゲ。		P-238	402
69-5	151	IVR-36	III層	粗製深鉢	IC1	後期後葉 ～晩期	口唇；面取。外面；縄文LR。底部付近は縄文なし。底部；高台。底面；ナデ。内面；ナデ。胎土；5mm以下の小礫を含む。使用痕；外ス。内コゴゲ。	口径：28.5cm、器高：26.5cm、底径：8.0cm。	P-228	411
69-6	151	IVR-36	III層	粗製深鉢	IAa1	後期後葉 ～晩期	平口縁。口唇；面取。外面；縄文LR。内面；ナデ。胎土；最大4mm程度の小礫をやや多く含み、内面は小礫の部分からクラックが発達。使用痕；外ス。内コゴゲ。		P-226	425
69-7	151	IVR-36	III層	粗製深鉢	IAa1	後期後葉 ～晩期	口唇；面取。外面；縄文LR。内面；ナデ。胎土；砂粒やや多い。使用痕；外ス。	口径：39.5cm。	P-238	410
70-1	152	IVR-36	III層	壺	III1	後期8	口唇；面取。外面；黒斑。胎土；小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕；なし。外面黒斑。	口径：13.8cm、底径：5.2cm、器高：34.6cm。	P-319	63
70-2	152	IVR-36	III層	粗製深鉢	IAa1t	後期後葉 ～晩期	平口縁に突起(8単位か、3単位残存)。口唇；面取。外面；縄文LR(横位)。内面；ナデ。底部；高台。胎土；小礫。使用痕；外ス。内コゴゲ。	口径：13.9cm、底径：6.6cm、器高：18.0cm。	P-261	66
70-3	152	IVR-36	III層	注口か		晩期1a	平口縁に突起。口唇；面取。外面；三又文(玉抱きか)を持つ磨消縄文。縄文は細かいLR。内面；粗いナデ。胎土；砂粒多い。海綿骨針。使用痕；なし。			433
70-4	152	IVR-36	III層	深鉢		後期8	平口縁に連続する台形小突起。外面；文様帯上下端を沈線間に連続する短沈線で区画。沈線による入組文。入組文の屈曲部に三又状の沈線。縄文LR。内面；ナデ。使用痕；外ス。内コゴゲ。			430
70-5	152	IVR-36	III層	注口		後期8か	外面；ナデ。注口先端磨滅。基部に沈線。縄文LR。頂部を刻む貼礫。内面；ナデ。注口連続部に爪痕。胎土；砂粒。使用痕；なし。注口の孔を開けなおしており、内面に二つの孔がある。	注口部完存。		2227
70-6	152	IVR-37	III層	台付鉢	II Bb1	晩期1b	平口縁に突起剥離痕が2箇所確認できる。口唇；面取なし。外面；沈線。1箇所で「ノ」の字状に垂下。縄文LR。台部ナデ。内面；ナデ。胎土；小礫。砂粒。使用痕；外ス。内コゴゲ。外面黒斑。	口径：10.8cm、底径：6.3cm、器高：13.3cm。 施文順(沈線→縄文)。	P-246	46
70-7	152 巻頭8下	IVR-37	III層	粗製深鉢	IAa1	後期8	口唇；面取。外面；器形は粗製土器であり、粗製土器に文様が施文されたと考えられる。三又文等も複合する不規則で複雑な文様意匠を表出する。末端に罫形や渦巻文の要素を付加するが精製土器に付される文様とは異なる。地文(縄文LR)を下地に文様を描出して磨り消す。狭義の磨消縄文手法を採用する。底部直上5cmくらいは縄文なし。底部；高台。使用痕；外ス。内部のコゴゲははつきりしない。底部付近に黒斑残るため使用頻度低い。胎土；小礫。クサリ礫多い。海綿骨針。	口径：17.0cm、底径：8.3cm、器高：22.7cm。 外面炭；3030±20yrBP。 施文順(縄文→沈線→磨消)。 器厚が7mm程度と厚い。完形。	P-251	23
71-1	152	IVR-37	III層	深鉢		後期後葉 ～晩期	平口縁に突起。突起頂部に刻目。口唇；面取。外面；沈線間に連続する刻目。縄文LR。円形突起。内面；ナデ。胎土；小礫。海綿骨針。使用痕；外ス。	異系統か。		434
71-2	152	IVR-37	III層	深鉢	I Bb1	後期7-3	口唇；面取。口縁内面に細い粘土紐を貼り付けて肥厚させる。外面；沈線間に連続する貼礫。沈線はナデ消された部分あり。体部縄文LR。胎土；海綿骨針。使用痕；外ス。	口径：13.6cm。		405
71-3	152	IVR-37	III層	浅鉢	IA1	後期後葉 ～晩期	口唇；面取。外面；縄文LR。沈線。内面；ナデ。胎土；海綿骨針。使用痕；不明。			404
71-4	152	IVR-37	III層	注口		晩期1a～b	外面；微隆帯。ミガキ。突起。注口先端肥厚。内面；ナデ。胎土；砂粒。海綿骨針。	外面塗彩(胎土の上に赤漆。その上に黒漆と思われる)。塗彩は注口部の残りがよいが本来全面か。黒漆は部分的にしか残存しない。 突起形状から晩期2期に下る可能性もある。注口部完存。		439
71-5	152	IVR-37	III層	浅鉢	I B2	晩期1b	口唇；連続する刻目。外面；沈線(12単位と思われる入組文)。台付の可能性が高い。内面；ナデ。胎土；海綿骨針。使用痕；外ス。	口径：35.4cm。		398

縄文土器観察表 (43)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
71-6	152	IVR-37	III層	壺か	III1	後期8	口唇：内削ぎに面取。外面：口頸部ミガキ。体部縄文RL(横位)。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：なし。	口径：9.2cm。頸部に、整形によると思われる沈線状の痕跡が残存。外面に黒色物質(アスファルトか)付着。	P-245	72
71-7	152	IVR-37	III層	深鉢	III1	後期後葉～晩期	外面：劣化激しい。縄文RLか、底部付近には縄文なし。内面：ナデ。底面：ナデ。胎土：4mm以下の小礫多い。海綿骨針。使用痕：内コゲ。	口径：7.8cm。底径：7.8cm。	P-225	415
71-8	153	IVS-34	III層	壺	IV1	晩期1b	外面：口縁外側肥厚。体部上半に沈線と三叉状の持ちによる玉抱三叉文風の入組文。縄文LR。胎土：砂粒。海綿骨針。	口径：5.2cm。施文順(沈線→縄文→沈線再施文)。外面全体と内面口縁から頸部赤彩(漆)。器面剥落著しい。外面付着漆年代測定中。	P-2162	2205
71-9	153	IVS-34	III層	注口		晩期1a	外面：沈線。ミガキ。注口先端肥厚。内面：ナデ。胎土：クサリ礫。海綿骨針。使用痕：なし。	器高：8.3cm。注口部完存。	P-2196	2067
71-10	153	IVS-34	III層	注口	I 1	晩期2	口唇：面取。外面：沈線と刺突による半歯状文。刻目。ミガキ。注口基部に隆帯と突起。注口先端肥厚。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：なし。	口径：10.2cm。器高：7.8cm。注口部完存。		2003
71-11	153	IVS-34	III層	台付鉢		晩期1a～b	外面：ケズリのちナデ。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。		P-2164	2168
71-12	153	IVS-35	III層下	鉢	I Bb5	後期8	口縁に突起が連続(単位数不明)。口唇：面取。外面：口縁部文様帯には口縁部形態に運動して無文帯を介する縄文帯が波状に巡り、頸部文様帯の下端を縄文帯で画す。頸部文様帯には沈線描出による入組文を生成し、この直下に区画帯の縄文帯に連結する上向き弧線文を表出する。縄文LR(磨消)。体部は無文。底部：高台。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：21.0cm。底径：7.4cm。器高：20.9cm。補修孔あり。残存率2/3。		2097
71-13	153	IVS-35	III層中	注口	II 1	後期7-4	口唇：面取。外面：頸部に沈線、縄文RL、貼瘤。注口基部に中央に刻目のある貼瘤。底部：高台。胎土：海綿骨針。使用痕：なし。外面全体が黒く、黒斑残存。	口径：8.6cm。底径：2.8cm。器高：18.0cm。注口部完存。	P-2420	2120
72-1	153	IVS-35	III層	深鉢		後期未葉	外面：縄文地(縄文RL)に沈線。磨消縄文ではない。モチーフ不明。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫多く含む。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：7.9cm。底径：7.9cm。		2143
72-2	153	IVS-35	III層	香炉か		後期8	平口縁に突起。口唇：面取。外面：沈線。縄文RL(磨消)。貼瘤(剥落)。内面：ナデ。胎土：クサリ礫。使用痕：なし。			2246
72-3	153	IVS-35	III層	注口	III	晩期1a	外面：沈線。ミガキ。注口先端磨滅。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：なし。外面黒斑。	注口部完存。	P-2257	2011
72-4	153	IVS-35	III層	壺	III	晩期1a～b	外面：縄文LR。内面：ナデ。底部：高台。底面ミガキ。胎土：砂粒。クサリ礫。使用痕：なし。外面黒斑。	底径：7.8cm。外面赤彩(漆)。		2074
72-5	153	IVS-36	III層	壺	IV1	晩期1b	沈線と挟りによる文様。頸部文様3単位。平行沈線文2条。ミガキ。底部：円形の凹底。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。	口径：3.4cm。底径：2.5cm。器高：10.3cm。外面全体及び内面口縁～頸部赤彩。	P-2019	2176
72-6	154	IVS-36	III層	壺	III1	晩期1b	外面：全面ミガキ。頸部隆帯。隆帯上に彫去による退化した玉抱三叉文。三叉文は連結して四角形になっている。底部：円形の凹底。内面：ナデ。板状工具痕。胎土：砂粒。使用痕：なし。外面黒斑。	器高：17.1cm。底径：5.8cm。外面及び内面頸部赤彩。	P-2022	2175
72-7	154	IVS-36	III層	深鉢		後期7-4	口縁に連続する高低交互の山形突起(単位数不明)。口唇：面取。外面：貼瘤。沈線間に連続する刻目。鋭い沈線による入組文。縄文RL(磨消)。内面：ケズリに近いナデ。使用痕：外スス。内コゲ。胎土：海綿骨針。砂粒。	口径：28.0cm。施文順(沈線→縄文、刻目→沈線再施文)。		2201
72-8	153	IVS-36	III層	深鉢		晩期1a～b	突起をもつ小波状口縁。外面：沈線。三叉文。内面：沈線。三叉文。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：外面磨滅により不明。	内外面に文様。		2243
72-9	154	IVS-36	III層	注口	II 1t	後期7～8	平口縁に突起(4単位)。口唇：面取。外面：縄文LR。沈線。ナデ。頸部貼瘤(5単位)。注口部直下に縄文LR。2箇の貼瘤で二袋状の膨らみを表現。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：7.4cm。器高：16.5cm。底径：3.3cm。注口部は途中から欠損。	P-2307	2118
72-10	153	IVS-36	III層	壺又は注口		後期8か	外面：隆帯と沈線で人面を表現。縄文LR。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：なし。	72-11と同一個体と思われる。人面表現あり。		2250

縄文土器観察表(44)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
72-11	153	SN45周辺 (IVU-34)	III層	壺又は 注口		後期8か	一	72-10と同一個体。		2231
72-12	154	IVS-37	III層	深鉢		後期後葉 ～晩期	外面：縄文LR。内面：ナデ。底部：平底。胎土：凝灰岩片。使用痕：外スス。内コグ。	底径：5.0cm。		263
73-1	154	IVT-33・ IVU-33	III層	深鉢	II Ba1t	晩期1a	平口縁に突起。2種類突起(一つは二山状、もう一つは欠損のため形状不明)が交互か。口唇：面取。外組文の突起下に三叉文。沈線。縄文LR(磨消)。沈線による入組文。入組文の終点部に円形突起。文様帯下端を沈線間に連続する短沈線で区画。短沈線の間に上下からトコ状の突起を入れることで、眼鏡状浮文のようにしている。体部下半ナデ。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。		P-2071, 2020	2306・ 2304
73-2	154	IVT-33	III層	台付鉢	II Ba1t	晩期1a	平口縁に突起(4単位)。三山状突起の左右両側に小山形突起が付随する。口唇：面取。外組文：口縁部文様帯には口縁部の形態に連動した平行な縄文帯を形成し、頸部文様帯の上端と下端を短沈線帯で画す。頸部文様帯には、入組文を4単位に生成する。縄文LR(磨消)。入組文の起点部と終点部に三叉状突起が接合し、入組文の内側に2条から4条の変異を伴う縦位の沈線が施される。体部は縄文で覆われ、台部は無文となる。使用痕：外スス。内コグ。胎土：緻密で精選され、粘土基質の量が高い。細砂粒。海綿骨針。	口径：19.8cm、底径：9.0cm、器高：19.3cm。 残存率3/4。	P-2070, 2071	2078
73-3	154	IVT-33	III層	台付鉢	II	晩期1a	外面：沈線。沈線間に連続する短沈線。体部縄文LR。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。内コグ。		P-2069	2104
73-4	154	IVT-33	III層	粗製鉢	I Aa1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：口縁に粘土紐の接合痕が残る。縄文LR。底部：凹底。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。	口径：13.4cm、器高：12.2cm、底径：7.2cm。	P-2070	2072
73-5	154	IVT-33	III層	深鉢		後期8	平口縁に突起。口唇：面取。外面：沈線。貼瘤。沈線間の刻目。縄文は施文せず、沈線間の刻目による入組文。無文部はナデ。内面：ナデ。胎土：クサリ礫。海綿骨針。使用痕：内コグ。			2311
73-6	154	IVT-33	III層	鉢	II Ba1t	晩期1a	平口縁に大小の突起が交互(計12単位)。口唇：面取。外面：大突起下に中央に刺突のある凹文と三叉文(玉抱三叉文にはなっていない)。沈線による入組文。入組文の空隙に三叉文。縄文LR(磨消)。文様帯下端を沈線間に連続する短沈線で区画。体部無文。底部：高文。使用痕：外スス。内コグ。胎土：小礫。海綿骨針。	口径：28.2cm、底径：8.2cm、器高推定：28.3cm。施文順(沈線→縄文→沈線→再施文)。	P-2224	2105
73-7	154	IVT-33	III層	台付鉢	II Ba4	晩期1a	小波状口縁。外面：波頂部下に三叉文。沈線による入組文。入組文の屈曲部に三叉状の沈線か、縄文LR(磨消)。文様帯下端を沈線間に連続する短沈線で区画。体部縄文LR。台部無文。使用痕：外スス。内なし。胎土：海綿骨針。	口径：26.5cm。施文順(縄文→沈線)。		2093
73-8	154	IVT-33	III層	深鉢	I Bb4	晩期1b	小波状口縁。口唇：面取。外面：全面に縄文(無筋)による地文。縄文地に浅い沈線で施文。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。内コグ。		P-2078	2305
73-9	154	IVT-33	III層	粗製深鉢		後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫。砂粒。使用痕：外スス。内コグ。	口径：17.3cm、器高：18.0cm、底径：6.0cm。		2045
73-10	154	IVT-33	III層	半精製 台付鉢	I Aa5	晩期2	口唇：刻目。外面：沈線間にD字の刻目が2段。沈線。縄文LR。体部下半に1条の沈線があり、その下はナデ。台部と体部の境に連続する刻目。内面：ナデ(3mm幅位の工具)。胎土：精良。使用痕：外スス。	口径：10.0cm。		2028
74-1	155 巻頭8下	IVT-34	III層	鉢	II Ba1t	後期8	平口縁に一山の突起と二山の突起が交互(計8単位)。口唇：面取。外面：ナデ。沈線。縄文LR(磨消)。沈線による入組文風の文様。磨消部はナデ。入組文の空隙に三叉文。器表面の2/3は逆「く」の字を連続させた入組文風の文様であるが1/3は文様が異なる(写真図版155巻頭参照)。文様帯下端を沈線間に連続する刺突で区画。体部下半ナデ。内面：口縁に面取時の粘土の段。ナデ。底部：高台。胎土：小礫多く含む。内コグ。	口径：21.5cm、底径：7.8cm、器高：19.9cm。	P-2131, 2132	2031
74-2	155	IVT-34	III層	注口	II 1	後期8	口唇：面取。外面：ミガキ。内面：ナデ。底部：高台。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕なし。	口径：7.1cm、器高：13.7cm、底径：2.7cm。 注口部は途中から欠損。	P-2131	2010
74-3	155	IVT-34	III層	深鉢		後期8	外面：沈線。細く鋭い刻目。貼瘤。内面：ケズリ。胎土：クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外スス。	117-2と同一個体か。		2244

縄文土器観察表 (45)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
74-4	155	IVT-34	III層	深鉢	IAa4	後期8	小波状口縁。外面：外面；縄文地(縄文R)に沈線。磨消縄文ではない。モチーフ不明。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：なし。			2247
74-5	155	IVT-34	III層	台付鉢	IBb1t	後期8	平口縁に台形突起。突起頂部に刻目。口唇：面取。外面：沈線。縄文LR(磨消)。沈線による入組文。入組部に三又状の挟り。体部ナデ。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：15.6cm。		2035
74-6	155	IVT-34	III層	台付鉢	IIBa1t	晩期1a	平口縁に緩い山形突起と台形突起交互(計12単位か)。台形突起頂部に刻目。口唇：面取。外面：沈線。沈線による入組文。入組部に刺突。縄文LR。文様帯区画線よりも下に所々縄文がはみ出す。体部無文。内面：ナデ。使用痕：外スス。内コゲ。胎土：小礫。海綿骨針。	口径：30.7cm、底径：9.0cm、器高：29.8cm。 施文順(縄文→沈線)。	P-2181	2084
74-7	155 巻頭9上	IVT-34	III層	台付鉢	IIBa5	晩期1a	口縁に緩い山形突起と二山状の台形突起が交互に連続(単位数不明)。口唇：面取。外面：沈線。縄文LR(磨消)。沈線による入組文。磨消部はナデ。入組文の空隙に三又文。体部下半ナデ。内面ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：25.0cm、器高：23.5cm、底径：6.5cm。		2040
74-8	155 巻頭8下	IVT-34	III層	台付鉢	IIA5	後期8	平口縁に低い山形突起と高い二山状の台形突起交互(計12単位か)。山形突起頂部に刻目。口唇：面取。外面：沈線。沈線による入組文。磨消部ナデ。文様帯下端の沈線は水平でなく、やや波打っている。体部下半ナデ。内面：ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：16.1cm、底径：6.2cm、器高：16.6cm。	P-2231	2034
74-9	155	IVT-34	III層	台付鉢	IBb1t	後期8	平口縁に台形突起(10単位か)。突起頂部に刻目。口唇：面取。外面：文様帯上端を沈線間に連続する短沈線で区画。沈線による入組文。縄文なし。体部無文。使用痕：外スス。内コゲ。胎土：砂粒。小礫。海綿骨針。	口径：25.6cm、底径：10.5cm、器高：23.3cm。	P-2275	2094
74-10	155	IVT-34	III層	深鉢	IIBa1t	後期8	平口縁に大小の突起。大突起頂部に刻目。口唇：面取。外面：沈線。縄文LR(磨消)。沈線による入組文。入組文の空隙に三又文。文様帯上端を沈線間に連続する短沈線で区画。体部無文。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。			2208
74-11	155	SN45周辺 (IVT-34) ・IVT-34	III層	深鉢	IIBa1t	後期8	口縁に2箇所剥離痕があり、突起があった可能性がある。口唇：面取。外面：文様帯上端を沈線間に連続する短沈線で区画。縄文LR(磨消)。沈線による入組文。磨消部ナデ。体部下半ナデ。内面：ナデ。胎土：小礫多く含む。使用痕：外スス。	口径：24.0cm。	P-2191	2312
74-12	155	IVT-34	III層	深鉢		後期8	平口縁に突起。口唇：面取。外面：口縁部文様帯には口縁部に平行する幅の狭い無文帯を形成し、頸部文様帯の上端を短沈線帯で画す。短沈線帯を表出する沈線は描出表現が粗雑で稚拙な特徴があり、2度描きの頻度も高く、熟練度の低さが窺える。頸部文様帯には、沈線描出による入組文を生成する。縄文LR。磨消縄文であるがきちんと磨消されていない部分が多い。使用痕：口頸部の外面に広くススが付着。胎土：緻密で精選され、粘土基質の量比が高い。細砂粒。海綿骨針。		P-2275	2145
75-1	156	IVT-34	III層	深鉢	IAa1t	後期8	平口縁に二山状突起と台形突起が交互(計8単位か)。台形突起の頂部に刻目1本。口唇：面取。外面：沈線による入組文。縄文LR(磨消)。文様帯下端を沈線間に連続する刻目で区画。区画は水平ではない。体部無文。内面：ナデ。使用痕：外スス。胎土：クサリ礫。海綿骨針。	口径：20.8cm。施文順(縄文→沈線)。		2114
75-2	156	IVT-34	III層	深鉢	IIBa1t	晩期1a	平口縁に突起。口唇：面取。外面：沈線。縄文LR(磨消)。磨消部ナデ。文様帯下端を沈線間に連続する短沈線で区画。体部下半ナデ。内面：ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。使用痕：外スス。	口径：22.9cm。	P-2335	2123
75-3	156	IVT-34	III層	粗製深鉢	IBb1	後期8	粗製土器に文様を付したものの可能性がある。口唇：面取。外面：口縁部に縄文帯。頸部文様帯の上端と下端を1条の横状沈線で画す。頸部文様帯には沈線描出による右下がりの入組文を多段に生成し、入組文の描線の起点部と終点部が区画帯に連結する。縄文LR(磨消)。体部下半は無文か。使用痕：口縁部の外面にススが、内面に広くコゲが付着。胎土：緻密で精選され、粘土基質の量比が高い。細砂粒。微量の海綿骨針。	口径：27.0cm。	P-2240	2140
75-4	156	IVT-34	III層	深鉢		晩期1a	外面：沈線。縄文LR(磨消)。磨消部ナデ。沈線による入組文。入組部に円形刺突。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。			2250
75-5	156	IVT-34		台付鉢	IC1t	後末～晩初	平口縁にB突起(単位数不明)。口唇：面取なし。外面：ナデ。内面：ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。使用痕：なし。内面に黒斑。	口径：13.8cm、器高：9.6cm、底径：7.2cm。	P-2337	2130

縄文土器観察表(46)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
75-6	156	IVT-34	III層	深鉢		晩期1a~b	外面：沈線。ナデ。底部：高台。内面：ナデ(5mm位幅の工具痕)。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゴ。外面に黒斑残るため使用程度低い。	底径：5.2cm。	P-2198	2036
75-7	156	IVT-34	III層	粗製壺	III1	後末~晩初	口唇：面取。外面：ミガキ。体部と口縁部の境に細く浅い複数条の沈線。されいに全周していない。体部と底部の境にも部分的に沈線。底部：高台。底面ケズリ。内面：ナデ。板状工具の痕跡。胎土：クサリ礫。使用痕：なし。外面に黒斑。	口径：6.2cm、器高：11.9cm、底径：4.7cm。	P-2306	2152
75-8	157	IVT-34	III層	壺	IV1	晩期1b	口唇：面取なし。外面：沈線。刻目。ミガキ。入組三又文。底部：平底。内面：ナデ。胎土：精良。海綿骨針。使用痕：完形のまま被熱しており、外面の半分にススが付着。もう半分は被熱により漆が劣化。器体にヒビが入っている。	口径：2.7cm、底径：4.9cm、器高：10.1cm。外・内面赤彩(漆)。所々被熱により赤彩が消失、もしくは上面にススがかぶっている。内部に黒色物質(分析中)が塊状に付着。	P-2087	2063
75-9	156	IVT-34	III層	壺	III	晩期1a	外面：頸部貼瘤(5単位)。3単位が残存。頂部に刺突が入るものと入らないものがある。貼瘤間に沈線。体部細文LR。黒斑残存。底部の直上と外底面にケズリ。底部：高台。胎土：砂粒。海綿骨針。	底径：7.9cm、外面に黒色付着物。外面および内底面に漆付着。	P-2170	2086
75-10	157	IVT-34	III層	注口		後期8	外面：ミガキ。全体を黒色に焼き上げている。注口筋直下に二袋状の膨らみ。底部：高台。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：なし。	底径：1.8cm、注口部完存。	P-2174	2004
75-11	157	IVT-34	III層	注口	II1	後期8	口唇：面取。外面：ケズリのちナデ。沈線。細文LR。注口部直下に二袋状の膨らみ。底部：高台。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：なし。体部下半に数箇所の円形剥落。高台接地面摩滅。	口径：9.4cm、器高：15.0cm、底径：2.2cm。 注口部は基部から欠損。	P-2270	2033
75-12	157	IVT-34	III層	注口	II1	後期8	口唇：面取なし。外面：沈線。細文LR(磨消)。注口部直下に二袋状の膨らみ。膨らみの上に沈線。底部：高台。使用痕：なし。胎土：砂粒。	口径：6.6cm、底径：1.8cm、器高：12.7cm。注口部完存。		2138
75-13	157 巻頭8下	IVT-34	III層	注口	II1	後期8	平口縁に突起(4単位)。突起頂部に刻目。口唇：面取。外面：ミガキ。注口先端摩滅。注口部直下に二袋状の膨らみ。膨らみの上面に短沈線。底部：高台。内面：ナデ。胎土：砂粒。クサリ礫。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：6.2cm、器高：12.3cm、底径：1.9cm。注口部完存。	P-2327	2005
76-1	157	IVT-34	III層	注口	II	後末~晩初	外面：沈線。ミガキ。注口先端摩滅。注口部直下に二袋状の膨らみ。内面：ナデ。底部：高台。胎土：小礫。使用痕なし。	底径：2.5cm、注口部完存。	P-2183	2048
76-2	157	IVT-34	III層	注口	II1	後末~晩初	口唇：面取なし。外面：ミガキ。注口基部に二袋状の膨らみ。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：なし。	口径：5.1cm、注口部は基部から欠損。		2154
76-3	157	IVT-34	III層	注口	II1t	後末~晩初	平口縁に突起。口唇：面取。沈線。外面：口縁に面取時の粘土の段。体部ケズリのちナデ。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：なし。	器高：8.8cm、注口部は基部から剥離。	P-2084	2007
76-4	157	IVT-34	III層	注口	II1	後末~晩初	口唇：面取。外面：ミガキ。内面：ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：4.3cm、器高：9.5cm。注口部は基部から剥離。	P-2191	2013
76-5	157 巻頭9上	IVT-34	III層	注口	II1	後末~晩初	口唇：弱い面取。外面：ナデ。注口先端摩滅。内面：ナデ。胎土：小礫多く含む。海綿骨針。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：10.7cm、器高：16.5cm。注口部完存。注口部外面の一部と内面にアスファルト状の黒色物質付着。注口部に補修はなく体部内面には付着しない。	P-2188	2117
76-6	157	IVT-34	III層	注口	II1	晩期1a	口唇：面取。外面：沈線。細文LR。ミガキ。垂下する礎状の文様が3単位。注口基部に2重の隆線(「L」の字と「J」の字)。	注口部は基部から欠損。	P-2269	2125
76-7	157	IVT-34	III層	注口	III	後末~晩初	外面：ナデ。注口先端摩滅。頸部と体部の境に浅い沈線。底部：高台。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：なし。	底径：2.0cm、注口部完存。	P-2336	2001
76-8	157	IVT-34	III層	注口	III1t	晩期1b	平口縁に突起(1単位)。注口部に対応。口唇：面取。外面：突起周辺に玉苞三又文の崩れたような文様。沈線と細文LRによる縄文帯が口縁を全周。ミガキ。注口基部に囲むように沈線。内面：ナデ。胎土：精良。使用痕：なし。外面に黒斑。本来は全面黒色に仕上げたかったものと思われる。	口径：8.8cm、器高：12.9cm、底径：1.3cm。注口部は基部から欠損。	P-2200	2058
76-9	157	IVT-34	III層	注口	III1	晩期1a	口唇：面取。外面：ケズリのちミガキ。注口部：先端肥厚。摩滅。基部に2箇の粘土粒貼付。内面：ナデ。胎土：クサリ礫。海綿骨針。使用痕：なし。	口径：8.6cm、注口部完存。		2148

縄文土器観察表 (47)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
77-1	156	IVT-34	III層	粗製鉢	II Bb1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：口縁ケズリのちミガキに近いナデ。体部縄文LR。底部直上2cmくらいは縄文なし(ナデ)。底部：高台。内面：ナデ。板状工具痕。胎土：小礫。クサリ礫。使用痕：外スス。内コガ。内外面黒斑。	口径：21.6cm、器高：17.0cm、底径：7.8cm。	P-2359	2095
77-2	156	IVT-34	III層	粗製鉢	I Aa1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：ケズリのち丁竪なナデ。内面：ナデ。底部：高台。胎土：小礫。砂粒。使用痕：外スス。内コガ。	口径：18.7cm、器高：18.0cm、底径：6.4cm。		2077
77-3	156	IVT-34・ IVR-48	III層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：小礫を多く含む。海綿骨針。使用痕：なし。焼成時のゆがみか、本来肉髯する口縁が部分的に直立。口縁は出せないが、大型の深鉢。色調は淡灰色の部分が多く、硬質に焼かれている。	遠距離接合。 焼けひずみのある土器。焼成失敗品か。小礫を多く含む。胎土から後期後葉に属す可能性。		2298
77-4	156	IVT-34	III層	粗製深鉢	I Aa2t	後期後葉 ～晩期	口唇：連続するK字の刻目。外面：縄文LR。内面：ケズリのちナデ。体部中央付近タテミガキ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コガ。	口径：22.2cm。		2075
77-5	158	IVT-34	III層	粗製深鉢	I C1t	後期後葉 ～晩期	平口縁にB突起(1箇所)。口唇：弱い面取。外面：条痕(縦位)。工具は約1cm幅の板と思われ、端部の痕跡はない。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。内コガ。			2248
77-6	158 巻頭9上	IVT-34	III層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。底部：高台。内面：ナデ。砂粒。小礫。使用痕：外スス。内コガ。外面黒斑。	口径：29.2cm、器高：38.2cm、底径：8.2cm。 器壁が薄く、高台も低いため晩期と判断し、7章では晩期1a期とした。	P-2086	2055
77-7	156	IVT-34	III層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：ケズリのち縄文LR。縄文がはつきり確認できない部分もある。内面：ケズリのちナデ。胎土：小礫多く含む。使用痕：外スス。内コガ。外面黒斑。	口径：45.2cm。	P-2190	2106
77-8	156	IVT-34	III層	浅鉢		晩期5	口唇：面取。外面：横位沈線。内面：口縁沈線。ミガキ。胎土：精良。海綿骨針。使用痕：なし。			2219
78-1	158	IVT-35	III層中	台付鉢	II Ba1t	後期7-4	平口縁に突起(4単位か)。口唇：面取。外面：口縁部文様帯には1帯の無文帯を介在する2帯の刻目帯を形成し、頸部文様帯下端の区画帯も同一の構成となるが、縦列する2個一組を単位とする眼帯を付す。頸部文様帯の上端には下向き弧線文を表出するが、描線の上端が刻目帯に連結する。入組文。縄文LR(磨消)。磨消部は影去状。体部と台部はともに無文となる。使用痕：外面にススとコガが、内面に広くコガ(暖水線直上のコガか)が付着。胎土：緻密で精選され、粘土基質の量比が高い。細砂粒。	器高26.0cm、口径24.7cm、底部径10.0cm。 略完形。		2026
78-2	158	IVT-35	III層	半精製 台付鉢	II Bc1	晩期3	口唇内側に三叉状の抉りを施し、連続したB字状の突起を作出。外面：ケズリのちナデ。内面：口縁に沈線。口縁に強い張り出し。ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。内コガ。胎土：クサリ礫。海綿骨針。使用痕：なし。	口径：15.6cm、器高：13.3cm、底径：8.0cm。		2133
78-3	158	IVT-35	III層	台付浅鉢	I B1	後期7～8	口唇：面取。外面：ナデ。部分的に砂粒が動き、ケズリの近い箇所がある。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：なし。			2240
78-4	158	IVT-35	III層上	粗製鉢	I Bb1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。板状工具痕。底部：平底の外周の一部のわずかな高まり。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：11.0cm、器高：10.7cm、底径：5.5cm。		2137
78-5	158	IVT-35	III層	半精製壺	II B1	晩期	口唇：面取なし。外面：沈線。ミガキ。体部縄文LR。底部：円形の凹底。内面：ナデ。胎土：砂粒。小礫。使用痕なし。	底径：2.8cm。	P-2021	2006
78-6	158	IVT-36	III層	深鉢		後期8か	平口縁に突起。突起頂部に刻目。口唇：ナデ。面取なし。外面：沈線。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。内コガ。			2226
78-7	158 巻頭9上	IVU-33	III層	鉢	I Aa1t	晩期1a	平口縁に突起。口唇：面取。外面：口縁部文様帯は突起直下に口縁部に平行する幅狭な縄文帯を形成し、頸部文様帯の上端は単帯の幅狭な無文帯で、下端も同様に単帯の幅狭な無文帯で面す。頸部文様帯に沈線描出による6単位の入組文を生じ、連繫部に三叉状沈線が連続する。縄文LR(磨消)。入組文の起点部と終点部が突起と対応するあり方が窺われ、文様描線の上端と下端が区画帯に連結する。体部は縄文で覆われる。底部：高台。使用痕：口頸部と体部下半の外側にススが、底部を除く内面の全域にコガが付着。胎土：緻密で粘土基質の量比が高い。細砂粒。海綿骨針微量。	口径：21.8cm、底径：7.5cm、器高：20.4cm。 略完形。	P-2074	2044

縄文土器観察表(48)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
78-8	158 巻頭9上	IVU-33	III層	台付鉢	IIA4	晩期1a	小波状口縁。口唇：面取。外面：口縁部に縄文帯を形成し、下端を1条の沈線で面す。頸部文様帯には沈線描出の入組文を生成するが、波状線との対応関係は窺えない。屈曲部は内面に波線を形成しない緩やかにあり、外面は断続した短沈線が円筒状に肥厚する。使用痕：浮文で面す。体部と台部は無文となり、台部の下端外面が玉縁状に肥厚する。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：27.0cm、底径：12.8cm、器高：25.0cm。	P-2060	2021
78-9	158	IVU-33	III層	台付浅鉢	IB1t	後期8	平口縁に二山状の突起(4単位か)。口唇：面取。外面：縄文LR。沈線。体部ミガキ。内面：ミガキ。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：なし。内外面黒斑。	口径：14.8cm、器高：8.7cm、底径：7.5cm。 内外面赤彩。	P-2067, 2068	2066
78-10	159	IVU-33	III層	半精製壺	III	後期8	外面：沈線。縄文LR。内面：ナデ。底部：高台。胎土：クサリ礫。使用痕：なし。	底径：4.0cm。注口部は途中から欠損。	P-2075	2008
78-11	159	IVU-33・ IVU-34	III層	壺	IV1	晩期1b	口唇：面取なし。外面：縄文LR。沈線。ミガキ。頸部に眼鏡状隆帯。沈線による入組文が2段。縄文LR(磨消)。磨消部はミガキ。内面：ナデ。胎土：精良。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：6.7cm。	P-2078	2116
78-12	159	IVU-33	III層	注口	II1	後期7-4	口唇：面取。外面：沈線。頂部を刻む貼瘤。体部の瘤は縦刻目と横刻目の2種。縄文LR。注口部直下に二袋状の膨らみ。注口先端に沈線、縄文LR。使用痕：不明。黒斑残存。胎土：海綿骨針。クサリ礫。	口径：10.5cm。外面赤彩。注口部完存。	P-2067	2107
79-1	159	IVU-33	III層	注口	II5	後期8か	口縁に連続する突起(6単位)。突起頂部に刻目。口唇：面取。外面：突起間をつなぐ弧線。頸部と体部の境に短沈線のような膨らみ。全面ケズリのちミガキ。底部：高台。内面：ナデ。板状工具痕。胎土：小礫多く含む。海面骨針。使用痕：なし。内外面黒斑。	口径：11.1cm、器高：17.2cm、底径：2.3cm。注口部完存。	P-2138	2012
79-2	159	IVU-33	III層	注口	II1t	後末～晩初	平口縁に突起(4単位か)。口唇：面取なし。外面：ナデ。注口先端に沈線。注口基部に二袋状の膨らみ。内面：ナデ。胎土：クサリ礫。海綿骨針。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：6.5cm。注口部完存。	P-2065	2153
79-3	159	IVU-33	III層	注口	III1	後末～晩初	口唇：面取なし。外面：全体をミガキ(現況では磨滅)。注口先端磨滅。基部に沈線を施し、二袋状の膨らみを表現。内面：ナデ。口縁はミガキ。胎土：精良。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：9.8cm。注口部は途中から欠損。	P-2063	2046
79-4	159	IVU-33	III層	注口	III	晩期1b	外面：全体をミガキ調整。黒斑残存。体部は注口部付近にのみ沈線による文様。注口基部に玉抱三叉文。胎土：精良。	注口部完存。		2158
79-5	159	IVU-33	III層	深鉢		後期7-4	波状口縁(5単位か)。波頂部と波底部に突起。波頂部突起の頂部に刻目。口唇：面取。外面：沈線間に連続する刻目。頂部を刻む貼瘤。縄文LR(磨消)。沈線による入組文。磨消部はナデ。内面：ケズリのちナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：27.0cm。施文順(沈線→縄文→沈線再施文)。		2202
79-6	159	IVU-33	III層	深鉢	II Ba5	後期8	口縁に頂部を刻む突起が連続(16単位前後)。口唇：面取。外面：沈線。縄文LR(磨消)。沈線による入組文。磨消部はナデ。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。	口径：20.9cm。施文順(縄文→沈線)。		2151
79-7	159 巻頭9上	IVU-33・ IVU-33	III層	台付鉢	II Bb4	晩期1a	小波状口縁。口唇：面取。外面：口縁部文様帯には口縁直下に幅狭な無文帯を形成するもの、頸部文様帯との分帯が不明瞭で頸部文様帯と同化し、頸部文様が口縁直下まで進出する。口縁部文様帯には沈線描出による入組文を5単位で生成し、横位連続入組文の起点と連続部と終点部の描線が円形に巻き込む特徴がある。縄文LR(磨消)。上下2段になる入組文の起点部、連続部、終点部が互いに対応する規則性が窺える。体部は節の細かい縄文で覆われ、台部が無文となる。使用痕：口縁部から胴部下半の外面にススとコゲが、口縁部から体部上半の内面にコゲが付着。胎土：緻密で粘土基質の量比が高い。細砂粒。海綿骨針微量。	口径：20.7cm、器高：21.2cm、底径：9.0cm。 外面炭：2915±20yrBP。完形。	P-2079	2087
79-8	159	IVU-33		深鉢	II Ba5	後期8	口縁に突起が連続。口唇：面取。外面：縄文LR(磨消)。文様帯上下端を沈線間の短沈線で区画。沈線による横位に連続する入組文。磨消部はナデ。体部下半ナデ。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。			2310
79-9	159 巻頭9上	IVU-33	III層	浅鉢	II1	晩期1a	平口縁に突起(1単位)。口唇：弱い面取。外面：沈線。縄文LR。ミガキ。内面：ミガキ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：なし。	口径：17.4cm、器高：6.9cm。補修孔。		2038
79-10	159	IVU-33	III層	粗製台付浅鉢	I A1	後期8か	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：なし。	口径：19.5cm、器高：10.0cm、底径：7.5cm。	P-2061	2160
79-11	159	IVU-33	III層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：ケズリのち縄文LR。縄文は面取後に施文。内面：ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外スス。	口径：22.0cm。補修孔。		2088

縄文土器観察表 (49)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
79-12	160	IVU-34	III層	台付鉢	I Bb1t	後期8か	平口縁に突起(単位不明。頂部に刻目があるものもないものがある)。口唇:弱い面取。外面:沈線間に連続する刻目。ナデ。底部:台がつくとと思われるが破壊。内面:ナデ。胎土:小礫。使用痕:外スス。内コグ。	口径:10.3cm。		2029
79-13	160	IVU-34	III層	深鉢		後期8か	平口縁に突起。口唇:面取。外面:刻目。貼瘤。粗いミガキ。内面:ナデ。胎土:砂粒。使用痕:外スス。			2251
79-14	160	IVU-34	III層	深鉢		後期8か	口縁に連続する突起。突起頂部に刻目。口唇:面取。外面:突起下に三又状の抉り。縄文LR。沈線。貼瘤。内面:ナデ。胎土:海綿骨針。使用痕:外スス。			2224
80-1	160	IVU-34	III層	香炉		後期7-4	頂部突起は左右対称でない。沈線と貼付文様で動物の頭部を表現か。外面:浅い沈線。縄文LR(磨消)。貼瘤。貼付突起を伴う貫通孔(対向する2単位が残るが本来4単位か)。内面:ナデ。使用痕:台部外面が黒いのは黒斑か。内底面スス。胎土:小礫。砂粒。海綿骨針。	底径:7.2cm、器高推定:16.0cm。 内底面の中央が僅かに黒変。	P-2273	2149
80-2	160	IVU-34	III層	香炉		後期8か	香炉の頂部突起か。外面:頂部に突起。円形削文のある貼瘤。沈線。縄文LR。端部に円形刺突。上部に沈線。胎土:砂粒。クサリ礫。使用痕:なし。黒斑あり。	器体から剥落したものをアスファルトで補修したと考えられる。		2255
80-3	160	IVU-34	III層	鉢	I Aa2t	晩期2	口唇:刻目。外面:刻目の頂部にむけて短沈線。沈線による半面状文。体下部にも沈線があり、その上は縄文LR。下は無文。内面:口縁肥厚。使用痕:外スス。胎土:砂粒。	口径:11.6cm、底径:4.2cm、器高:7.8cm。 施文順(縄文→沈線)。		2164
80-4	160	IVU-34	III層	注口	III1	後期7~8	口唇:面取。外面:ミガキ。底部:高台。内面:ナデ。胎土:小礫。使用痕:なし。	口径:5.3cm、器高:11.6cm、底径:2.0cm。注口部は途中から欠損。	P-2286	2155
80-5	160	IVU-34	III層	注口	II1	後期7-4	口唇:面取。外面:無文部はミガキ。縄文LR。沈線。底部:高台。内面:ナデ。胎土:小礫。使用痕:なし。外面黒斑。	口径:5.8cm、底径:2.4cm、器高:12.5cm。土器内に粉末状の赤色顔料。注口部は基部から剥離。注口剥離部に黒色物質(アスファルトか)付着。	P-2282	2065
80-6	160 巻頭8下	IVU-34	III層	深鉢	II Ba5	後期8	突起が連続する口縁。台形突起は5単位。台形突起の間に山形突起が2個。突起は計15単位。台形突起頂部の刻目は内面に長くのびる。山形突起頂部にも刻目。口唇:面取。外面:口縁部文様帯には、台形突起の頂部を起点と終点とする下向きの弧線文を生成し、台形突起の頂部直下には円形文を付す。頸部文様帯には、沈線抽出による入組文を生成する。縄文LR(磨消)。入組文の起点部と終点部。連繫部が台形突起に対応するあり方が窺える。頸部文様帯の下端は平行沈線で画し、入組文の描線の上端と下端が区画帯に連結する特徴がある。体部と台部は無文となる。使用痕:外面上半に広くコグが、内面に咬水線直上のコグが付着。胎土:緻密で精選され、粘土基質の量比が高い。細砂粒。海綿骨針。白色粒子の量比が高い。	口径:29.4cm、底径10.2cm 器高:35.3cm。 外面炭:2930±20yrBP。 完形。	P-2131	2020
80-7	160	SN45周辺 (IVU-34)・ IVU-34	III層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉 ~晩期	口唇:面取。外面:ケズリのち縄文LR。底部直上3cmくらいは縄文なし。ケズリのちナデ。底部:高台。内面:ナデ。胎土:小礫。砂粒。使用痕:外スス。内コグ。	口径:31.0cm、器高:36.5cm、底径:9.0cm。補修孔。	P-2279	2083
80-8	161	IVU-34	III層	半精製壺	III1	晩期1b	口唇:面取。外面:口縁直下に浅い沈線。ナデ。頸部隆帯。隆帯上に沈線。横方向の貫通孔がある突起。縄文LR。体部縄文LR。内面:ナデ。板状工具痕。胎土:小礫多く含む。使用痕:なし。外面黒斑。	口径:9.6cm。	P-2283	2102
80-9	160	IVU-34	III層	半精製壺	III1	晩期1b	口唇:面取なし。外面:口縁ナデ。頸部に隆帯。隆帯上に円形の刺突と沈線。体部縄文LR。内面:ナデ。胎土:クサリ礫。使用痕:外スス。	口径:10.3cm。	P-2083	2085
81-1	161	IVU-34	III層	半精製壺	III1	晩期	口唇:面取。外面:口縁直下に浅い沈線。ナデ。体部と頸部の境に沈線。体部縄文LR。内面:ナデ。底部:凹底。胎土:小礫。使用痕:なし。外面黒斑。	口径:9.3cm、器高:17.2cm、底径:6.7cm。	P-2283	2059
81-2	161	IVU-34	III層	粗製壺	III1	晩期	口唇:面取。外面:ナデ。体部と頸部の境に沈線。体部ケズリのち縄文LR。内面:ナデ。底部:平底。胎土:小礫。使用痕:外スス。	口径:8.6cm、器高:16.3cm、底径:6.8cm。	P-2077	2023
81-3	161	IVU-34	III層	粗製壺		晩期	外面:ナデ。内面:ナデ。底部:高台状だが周縁にわずかな高まりがある程度。胎土:海綿骨針。使用痕なし。外面黒斑。	底径:5.2cm。		2014

縄文土器観察表 (50)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
81-4	-	IVU-34	III層	粗製鉢	I Aa1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面；縄文LR。底部；平底だが周縁の一部にわずかな高まり。内面；ナデ。胎土；海綿骨針。使用痕；外スス。内コグ。	口径：12.0cm、器高：10.8cm、底径：6.5cm。		2049
81-5	161	IVU-34	III層	深鉢	I Aa1	後期8か	口唇：面取なし。外面；ナデ。沈線。外縁モチーフ不明。体部無文。内面；ナデ。胎土；クサリ礫。海綿骨針。使用痕；なし。外面黒斑。			2253
81-6	161	IVU-34	III層	台付鉢か		後期8か	外面；沈線による弧線。ナデ。刺突。刺突は基本的に裏面に貫通する表側からの穿孔であるが、一部盲孔もある。内面；ナデ。胎土；小礫。海綿骨針。使用痕；なし。			2252
81-7	161	IVU-35	III層	浅鉢	II I	晩期1b	口唇；面取なし。外面；沈線による直線化した入組三叉文風の文様。体部ナデ。内面；ナデ。胎土；精良。使用痕；外スス。			2220
81-8	161	IVV-33・ IVU-35	III層	深鉢		後期8	平口縁に一山の突起と二山の突起が交互。一山のものには口唇に沈線。口唇；面取。外面；縄文LR(磨消)。沈線。磨消部ナデ。内面；ナデ。胎土；小礫多く含む。クサリ礫。使用痕；外スス。内コグ。	口径：25.8cm。 遠距離離接合。		2207
81-9	161	IVV-33	III層	台付鉢	II Ba4	晩期1a	口縁に山形突起と三山状突起が交互(単位数不明)に連続。口唇；面取。外面；各突起の下に三叉文。沈線。縄文LR(磨消)。沈線による入組文。入組文の空隙に三叉文。体部縄文LR。台部無文。使用痕；外スス。胎土；砂粒。		P- 2080, 2036	2132
81-10	161	IVV-33	III層	鉢	II Ba1t	後期7-4	平口縁に突起(8単位)。口唇；面取。外面；貼着。貼着上に刻目。沈線間に連続する刻目。沈線による入組文。縄文LR(磨消)。体部縄文LR。使用痕；外スス。内コグ。胎土；砂粒。小礫。海綿骨針。	口径：27.0cm。	P-2081	2111
81-11	162	IVV-33	III層	壺	III	晩期1b	外面；頸部隆帯。頸部文様5単位。体部縄文LR。内面；ナデ。使用痕；内外に黒色物質が付着し煮沸に使われた可能性あり。胎土；砂粒。	沈線内に漆塗膜。	P-2099	2089
81-12	161	IVV-33	III層	粗製深鉢	II Bb1t	後期後葉 ～晩期	平口縁に突起。突起は二山一組のものとし山のもの同士が交互か。口唇；弱い面取。外面；縄文LR。内面；ナデ。胎土；小礫。使用痕；外スス。内コグ。	口径：38.1cm、底径：10.6cm、器高推定：40.0cm。	P-2080	2129
82-1	162	IVQ-39	III層	深鉢	II Ba1t	後期7-4	平口縁に大小2種の突起(単位数不明)。口唇；面取。外面；口縁部文様帯には刻目帯を介する幅狭な無文帯が巡り、刻目帯は間隔が等しい斜め横方向からの太い刻目で表出する。大突起直下に縦長縦割り帯を付し、小突起直下に横長帯を付す。頸部文様帯の上端は1帯の刻目帯で、下端の屈曲部は2帯の刻目帯で画し、下端の刻目帯には2個一組の横長縦割り帯を付し、大突起と頸部貼着の間にも同様の帯が挿入される。頸部文様帯の中心には1帯の刻目帯が巡り、頸部文様帯の上段と下段に同一文様を表出する。沈線描出による入組文を生成し、入組文の描線の上端と下端が刻目帯に連結する特徴がある。縄文LR(磨消)。体部は無文。底部；高台。高台に1箇所のみ。使用痕；外スス。内コグ。胎土；緻密で精選され、粘土基質の量比が高い。細砂粒。微量の海綿骨針。		P-145	1133
82-2	162	IVQ-40	III層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉 ～晩期	口唇；面取。外面；縄文LR。内面；ナデ。胎土；小礫。海綿骨針。使用痕；外スス。内コグ。使用痕度低い。	口径：45.8cm。	P-318	298
82-3	162	IVQ-41	III層	粗製深鉢		後期7～8	口唇；面取。外面；ケズリ気味のナデ。内面；ナデ。胎土；小礫。砂粒。使用痕；外スス。			608
82-4	163	IVQ-41	III層	深鉢		後期7-3	口唇；面取。外面；沈線間に連続する貼着。内面；ナデ。胎土；砂粒。使用痕；外スス。			558
82-5	162	IVQ-41	III層	深鉢	II	後期7-4	平口縁に突起。口唇；面取。外面；沈線間に連続する刻目。貼着。沈線による入組文。縄文LR。内面；沈線。胎土；砂粒。使用痕；外スス。内コグ。	内面炭：3300±20yrBP。		538
82-6	162	IVQ-41	III層	鉢	I Aa1	後期7-4	口唇；面取。外面；沈線間に連続する刻目。沈線による入組文。体部無文。内面；ナデ。胎土；砂粒。海綿骨針。使用痕；外スス。			539
82-7	163	IVQ-41	III層	深鉢		後期7-4	波状口縁。波底部に突起。口唇；面取。外面；貼着。沈線間に連続する刻目。沈線による入組文。縄文LR。内面；ナデ。胎土；3mm以下小礫。海綿骨針。使用痕；外スス。			540
82-8	162	IVQ-41・ IVQ-49・ IVS-49・ IVT-49	III層	深鉢	II Ba1	後期8	口唇；面取。外面；口縁部文様帯には口縁部と平行な縄文帯と頸部文様帯の上端を面す幅狭の無文帯を形成する。頸部文様帯の下端は横位沈線で画し、その内側に沈線入組文を生成し、連繫部の左右両側に三叉文の沈線が接続する。入組文の描線の上端と下端が頸部文様帯の区画に対し弧状に連結する。縄文LR(磨消)。体部は無文。内面；ナデ。胎土；砂粒。海綿骨針。使用痕；外スス。	口径：26.0cm。	P- 1030, 1708	543

縄文土器観察表 (51)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
82-9	163	IVQ-41	Ⅲ層	深鉢	I	晩期1b	小波状口縁。外面：沈線。沈線間に連続する短沈線。縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。			589
82-10	-	IVQ-41	Ⅲ層	注口		後末～晩初	外面：ナデ。内面：ナデ。胎土：砂粒。	注口部先端は一部欠損。	P-213	521
82-11	162	IVQ-41	Ⅲ層	粗製深鉢	IAa1	後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：3mm以下小礫多い。使用痕：外スス。		P-133	502
82-12	163	IVQ-41	Ⅲ層	粗製深鉢	IAa1	後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：クサリ礫。4mm以下小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。			503
83-1	162	IVR-40	Ⅲ層	粗製鉢	IAa1	後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：ケズリのち縄文LR。縄文は面取後に施文。底部：高台。内面：ナデ。胎土：クサリ礫。口唇：面取。外面：貼瘤。沈線間に連続する刻目。縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。	口径：18.2cm、器高：17.7cm、底径：6.7cm。	P-108	165
83-2	163	IVR-41	Ⅲ層	深鉢		後期8	波状口縁か。口唇：面取。外面：貼瘤。沈線間に連続する刻目。縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。			585
83-3	163	IVR-41	Ⅲ層	台付鉢	II	晩期	外面：ナデ。沈線。縄文LR。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。外面に黒斑残るため使用頻度低い。使用痕：なし。		P-340	596
83-4	163	IVR-41	Ⅲ層	台付浅鉢	IA3	晩期1a	波状口縁(単位数不明)。外面：文様帯は2段。沈線による入組文。縄文LR。体部下半と台部はナデ。内面：ナデ。胎土：粒子は全体に細かい。砂粒1mm少量。使用痕：なし。	口径：22.4cm、器高：10.0cm、底径：10.7cm。		418
83-5	163	IVR-41	Ⅲ層	粗製深鉢	I	後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。		P-344	519
83-6	163	IVR-41	Ⅲ層	粗製深鉢	IAa1	後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ケズリ気味のナデ。胎土：シルト質。砂粒多い。使用痕：外スス。	口径：33.0cm。	P-344	611-1
83-7	163	IVR-41	Ⅲ層	粗製深鉢	IAa1	後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。	口径：40.0cm。	P-146	609
83-8	163	IVR-41	Ⅲ層	深鉢		後期後葉～晩期	上部に文様のある個体と思われる。外面：ミガキに近いナデ。底部：高台。内面：ナデ。底面：ナデ。胎土：砂粒。4mm以下小礫。使用痕：外スス。内コケ。	底径：8.0cm。	P-1537	599
83-9	163	IVQ-42	Ⅲ層	深鉢		後期7-3	平口縁に突起。突起頂部に刻目。口唇：面取。外面：沈線間に連続する貼瘤。内面：ナデ。胎土：大粒の砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。	83-10と同一個体。22-3と同一個体か。24-10・11にもよく似ている。		524-1
83-10	163	IVQ-42	Ⅲ層	深鉢		後期7-3	-	83-9と同一個体。22-3と同一個体か。		524-2
83-11	163	IVQ-42・IVR-43・IVQ-43	Ⅲ層	深鉢		後期7-4	波状口縁。口唇：面取。外面：沈線間に連続する刻目。貼瘤。貼瘤上に刻目。沈線による入組文。縄文LR(磨消)。磨消部影去状。焼成：堅緻。使用痕：外スス。内面：不明。			422
83-12	163	IVQ-42	Ⅲ層	浅鉢	IB1	後期7～8	口唇：面取。外面：ミガキ(表面摩滅)。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：なし。	口径：23.0cm。		525
83-13	163	IVQ-42	Ⅲ層	台付浅鉢	IB1	後期7-4	口唇：面取。外面：縄文LR。沈線。内面：ナデ(内外面劣化)。胎土：砂粒。クサリ礫。使用痕：外スス。接合しない上下を図上復元。	口径：26.0cm、器高：11.2cm、底径：9.8cm。 縄文帯が巡る特徴は40-11と共通するた め、7章では7-4期とした。		523・522
83-14	163	IVQ-42	Ⅲ層	深鉢	II Ba5	後期8	口縁部突起が連続(12単位)。口唇：面取。外面：頸部文様帯には沈線描出による入組文を生成する。入組文の空隙に三叉状沈刻を配し、入組文の描線の上端と下端が頸部文様帯の区画帯に連結する。縄文LR(磨消)。体部は無文となる。使用痕：外スス。内コケ。	口径：16.5cm。 内面炭：3080±20yrBP。 施文順(縄文→沈線→縄文磨消(一部再施文か)。残存率2/3。		56
83-15	163	IVQ-42	Ⅲ層	深鉢	IAa1t	後期8	口唇：面取。外面：沈線による入組文。縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。内コケ。			587

縄文土器観察表 (52)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
84-1	165 巻頭8上	IVq-44	III層	台付鉢	IAa1t	後期7-4	平口縁に3種の突起が交互(計10単位)。口唇：面取。外面：口縁部文様帯には斜め横方向から等間隔に刻目を施す刻目帯と無文帯を形成し、無文帯の突起直下には円錐形の貼瘤を付すが、1単位の貼瘤が割り付けから除外される。頸部文様帯の上端は1条の横位沈線であり、下端は突起に対応する円形突起を伴う円錐形の貼瘤を付す刻目帯で画す。頸部文様帯には入組文を10単位に生成する。入組文の描線の先端と下端が区別帯に連結する特徴があり、入組文の起点部と連繫部と終点部が突起に対応する。縄文LR(磨消)。体部は無文となり、底部が欠損する。内面：口縁肥厚。使用痕；口縁部から体部上半の外面に広くススガ、底部を除く内面全域にコグが付着。胎土：緻密で精選され、粘土基質の量比が多い。細砂粒。海綿骨針。	口径：21.0cm。施文順は沈線下書き後、貼瘤と縄文とキザミを施文しその後沈線を再施文と思われる(下書きとかわれる、細い沈線が残存)。	P-5, 199	53
84-2	164	IVq-43	III層	深鉢		後期7-4	平口縁に突起。口唇：面取。外面：沈線間に連続する刻目。貼瘤。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕；外スス。内コグ。			526
84-3	164	IVq-43	III層	深鉢		後期7-4	口縁に大小の山形突起が交互に連続か。口唇：面取。外面：沈線間に連続する刻目。縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕；外スス。		P-40	527
84-4	165	IVq-43	III層	深鉢	II	後期7-4	外面：縄文LR。貼瘤。沈線間に連続する刻目。体部無文。内面：ナデ。胎土：砂粒多い。海綿骨針。使用痕；外スス。	台付かどうかは不明。	P-264	593
84-5	164	IVq-44	III層	注口		後末～晩初	外面：沈線。縄文LR。ミカキ。注口剥離痕から注口直下には二袋状の膨らみがあったことがわかる。底部：欠損しているが体部の傾きの変化から高台があったと推定される。内面：ナデ。胎土：砂粒。クサリ礫。使用痕；なし。外面黒斑。	口径：6.0cm。注口部は基部から剥離。外面赤彩。	P-189	287
84-6	164	IVq-43	III層	深鉢		後期8	平口縁に突起。突起頂部に刻目。口唇：面取。外面：沈線による入組文。縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕；外スス。			528
84-7	164	IVq-43	III層	深鉢		後期8	平口縁に山形の突起。突起頂部には内面にのびる刻目。口唇：面取。外面：沈線。粗雑な入組文。縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒多い。海綿骨針。使用痕；外スス。			417
84-8	164	IVq-43	III層	深鉢		後期8	平口縁に二山状の台形突起。口唇：面取。外面：沈線。沈線による入組文。縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕；外スス。		P-295	582
84-9	164	IVq-43	III層	深鉢	II Ba1	後期8か	小波状口縁か。口唇：面取する部分がある。外面：沈線による入組文。入組文の屈曲部に三叉状の沈線。縄文LR。体部無文。内面：ナデ。胎土：大粒の砂粒。海綿骨針。使用痕；外スス。	84-10と同一個体。		578
84-10	164	IVq-43	III層	深鉢	II Ba1	後期8か	—	84-9と同一個体。	P-267	579
84-11	164	IVq-43	III層	深鉢		後期8	平口縁に大小の突起が交互に連続。大突起の頂部には内面に続く刻目。口唇：面取。外面：大突起下の三叉状の文様は複数の沈線によるもので線の先端は閉じておらずはつきりした三叉文ではない。沈線。沈線間に連続する短沈線。縄文LR。沈線による入組文。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕；外スス。			420
84-12	164	IVq-43	III層	深鉢		後期8	平口縁に二山の突起。口唇：面取。外面：沈線間に連続する短沈線。沈線による入組文。縄文LR。内面：ナデ。胎土：大粒の砂粒。使用痕；外スス。			529
84-13	164	IVq-43	III層	深鉢	II Ba1t	後期8	平口縁に山形突起。口唇：面取。外面：沈線。沈線間に連続する刺突。沈線による入組文。入組文の屈曲部に三叉状の沈線。縄文LR。体部無文。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕；外スス。内コグ。			577
84-14	164	IVq-43	III層	深鉢		晩期1a	口唇：連続する刻目。外面：沈線間に連続する短沈線。縄文LR。沈線。玉抱三叉文。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕；外スス。内コグ。		P-41	584
84-15	165	IVq-44	III層	深鉢	II Ba5	後期8	平口縁に連続する台形突起。口唇：面取。外面：縄文LR。沈線間に連続する短沈線。縄文LR(磨消)。磨消部はナデ。沈線による入組文。入組文の屈曲部に三叉状の沈線。縦方向3本の沈線(中央の線が短い)。体部下半も縄文か。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕；外スス。内コグ。	口径：21.9cm。		268
84-16	164	IVq-43	III層	深鉢	II	晩期1a	小波状口縁に突起。外面：口縁縄文帯の中に三叉状の決り。沈線。突起下に三叉文。縄文LR。沈線による入組文。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕；外スス。内コグ。			586
84-17	164	IVq-43	III層	深鉢	II	晩期1b	深鉢の突起部分。装飾的な大型の突起をもつ。外面：沈線。縄文LR。入組三叉文。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕；外スス。内コグ。		P-103	588

縄文土器観察表 (53)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
85-1	164	IVQ-44	Ⅲ層	台付鉢		後期8	外面：沈線。縄文LR(磨消)。磨消部ナデ。抉りによる三叉文。連続する短沈線。体部下半ナデ。内面：ナデ。胎土：小礫多く含む。使用痕：外スス。	底径：6.8cm。	P-14, 190	1130
85-2	164	IVQ-43	Ⅲ層	深鉢		後期後葉 ～晩期	口唇：連続する刻目。外面：沈線。縄文LR。内面：ナデ。胎土：3mm以下の小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。		P-306	590
85-3	164	IVQ-43	Ⅲ層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：4mm以下の小礫。使用痕：外スス。		P-270	530
85-4	164	IVQ-43	Ⅲ層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。内コゴ。		P-306	531
85-5	164	IVQ-43	Ⅲ層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉 ～晩期	平口縁と思われるが、やや波うつ箇所あり。口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：はつきりしない。			421
85-6	164	IVQ-43	Ⅲ層	粗製深鉢	I Aa1 t	後期後葉 ～晩期	平口縁に突起。口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：3mm以下の小礫。使用痕：外スス。内コゴ。		P-335	532
85-7	164	IVQ-43	Ⅲ層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。横方向の筋状に残る溝は粘土紐接合痕か。内面：ナデ。胎土：大粒の砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。		P-306	580
85-8	165	IVQ-43	Ⅲ層	粗製深鉢	I Bb1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。ナデ。胎土：シルト質。3mm以下小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。		P-274	516
85-9	165	IVQ-43	Ⅲ層	粗製深鉢	I Bb1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：シルト質。4mm以下小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。	口径：31.2cm。	P-294	513
85-10	164	IVQ-43	Ⅲ層	粗製深鉢		後期後葉 ～晩期	外面：縄文LR(ススの付着で観察できない)。内面：ナデ。底部：高台。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。	底径：7.2cm。	P-47	601
85-11	165	IVQ-43	Ⅲ層	粗製深鉢	I Bb1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：シルト質。4mm以下小礫。使用痕：外スス。内コゴ。	口径：42.0cm。	P-273	520
85-12	165	IVQ-44	Ⅲ層	粗製台付深鉢	I Aa1 t	後期後葉 ～晩期	平口縁に突起(単位数不明)。口唇：面取。外面：ケズリのちナデ。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コゴ。	口径：17.2cm。	P-200	1085
85-13	164	IVQ-43	Ⅲ層	台付鉢		晩期1a	外面：ナデ。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。	底径：9.0cm。	P-267	604
86-1	166	IWR-42	Ⅲ層	深鉢		後期8	平口縁に大小の突起。小突起頂部に刻目。口唇：面取。外面：大突起下に貼瘤。小突起の下には文脈帯の中に貼瘤。沈線。沈線による入組文。縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。	86-2と同一個体。	P-90	545-1
86-2	166	IWR-42	Ⅲ層	深鉢		後期8	一	86-1と同一個体。	P-85	545-2
86-3	166	IWR-42	Ⅲ層	注口		晩期1a～b	注口頸部か。外面：沈線。三叉文。体部縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：なし。			548
86-4	166	IWR-42	Ⅲ層	深鉢	Ⅱ	晩期1a～b	小波状口縁。外面：沈線。縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。内コゴ。			533
86-5	166	IWR-42	Ⅲ層	鉢		晩期2か	口唇：連続した刻目。外面：沈線。連続する刻目。縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。内コゴ。			535
86-6	166	IWR-42	Ⅲ層	浅鉢	I A1	晩期3	口唇：面取。外面：沈線。連続する刻目。彫去による雲形文。縄文LR(磨消)。内面：ミガキ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：なし。	おそらく内外赤漆塗(塗膜痕跡あり)。		536
86-7	166	IWR-42	Ⅲ層	浅鉢又は皿	I B1	晩期3～4	口唇：裝飾的な沈線。外面：沈線。内面：ミガキ。胎土：細かい砂粒。海綿骨針。使用痕：なし。	内外及び口縁赤彩。		549
86-8	166	IWR-42	Ⅲ層	皿	I B1	晩期4	口唇：沈線。外面：沈線。沈線による雲形文(彫去なし)。縄文LR(磨消)。磨消部ミガキ。内面：沈線。ミガキ。胎土：砂粒。使用痕：なし。	口径：21.3cm、底径：11.2cm、器高：5.8cm。内外面赤彩。施文順(縄文→沈線)。	P-219	71
86-9	166	IWR-42	Ⅲ層	壺	Ⅲ1	晩期3	口唇：面取なし。外面：ミガキ。底部：円形の凹底。胎土：小礫。使用痕：顔料は塗彩ではないため貯蔵用器か。外面黒斑。	口径：5.0cm、底径：2.5cm、器高：7.3cm。内外面に赤色顔料付着。顔料は塗彩ではないため貯蔵用器か。	P-222	93

縄文土器観察表(54)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
86-10	166 巻頭9下	IVR-42	III層	壺	III1	晩期3	口唇：面取なし。外面：平行沈線文。ミガキ。底部：凹形の凹底。内面：ナデ。胎土：精良。使用痕：なし。	口径：6.8cm、底径：3.3cm、器高：10.2cm。外面および内面口縁～頸部赤彩。	P-217	86
86-11	166	IVR-42	III層	鉢	II Bc2	晩期3～4	口唇：単純な縦刻目。外面：沈線。縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。			554
86-12	166	IVR-42	III層	鉢	II Bc2	晩期3～4	口唇：裝飾的な刻目。外面：沈線。角状の突起。縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。内コケ。			556
86-13	166	IVR-42	III層	鉢	II Bc2t	晩期3	口唇：刻目。外面：沈線。沈線間に刺突列。体部縄文LR(斜位)。内面：平口縁に強い張り出し。ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。内コケ。			90
86-14	166	IVR-42	III層	深鉢	I Bb2	晩期4	口唇：刻目。外面：沈線。縄文LR(2本によるLLRの可能性もある)。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。内コケ。	口径：15.4cm。台付鉢か。		95
86-15	166	IVR-42	III層	粗製深鉢	I C1 t	後期後葉～晩期	平口縁に2個一組の突起が2単位残存。突起上に僅かに沈線あり。片口付き。外面：縄文LR(横位)。底部：凹底。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コケ。	口径：21.5cm、底径：6.3cm、器高：17.0cm。	P-316	83
86-16	166	IVR-42	III層	鉢	II Bc2	後期後葉～晩期	口唇：連続した刻目。外面：沈線。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。			551
86-17	166	IVR-42	III層	粗製深鉢	I	後期後葉～晩期	口唇：連続した刻目。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。内コケ。			559
86-18	166	IVR-42	III層	粗製深鉢	I	後期後葉～晩期	口唇：丸く収める。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。		P-317	607
86-19	166	IVR-42	III層	粗製深鉢	I	後期後葉～晩期	口唇の1/3が残り突起が1箇所を確認できる。口唇：粗く面取。外面：外面に面取時の粘土の段。縄文LR。内面：ナデ。胎土：3mm以下小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コケ。	突起形状からおそらく晩期前半。	P-99	581
86-20	166	IVR-42	III層	粗製深鉢	I	後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。内コケ。			576
86-21	166	IVR-42	III層	粗製深鉢	I	後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：大粒の砂粒。使用痕：外スス。		P-322	508
86-22	166	IVR-42	III層	粗製深鉢	I C1	後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：3mm以下小礫多く含む。使用痕：外スス。	口径：34.2cm。	P-381	514
86-23	166	IVR-42	III層	粗製深鉢	I	後期後葉～晩期	口唇：連続した0字刻目。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。内コケ。		P-102	507
87-1	166	IVR-42	III層	粗製深鉢	IAa1	後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒多い。使用痕：外スス。	口径：33.0cm。	P-381	517
87-2	166	IVR-42・アノック EIS103	III層・覆土	粗製深鉢	IAa1	後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。	口径：40.0cm。	P-323, 324, 347, 349, 17	610
87-3	167	IVR-42	III層	粗製深鉢	IAa4	後期後葉～晩期	小波状口縁。外面：縄文LR(横位。体部下半は斜位)。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。	口径：25.7cm、底径：11.1cm、器高：34.1cm。晩期中葉がまとまっているグリッドで出土したため、7章では晩期3期とした。	P-97, 193	4
87-4	167	IVR-43	III層	深鉢		後期7-4	平口縁に突起。突起頂部に刻目。口唇：面取。外面：貼漣。沈線。縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。内コケ。			562
87-5	167	IVR-43	III層	深鉢		後期7-4	平口縁に突起。突起頂部に刻目。口唇：面取。外面：貼漣。沈線。縄文LR。内面：ナデ。胎土：大粒の砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。		P-278	583
87-6	167	IVR-43	III層	深鉢		後期8	平口縁に大小交互の突起が連続。大突起の頂部に刻目。口唇：面取。外面：沈線。沈線間に連続する短沈線。沈線による入組文。縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。		P-216	544

縄文土器観察表 (55)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
87-7	167	IVR-43	Ⅲ層	深鉢		後期8	口唇：面取。外面：縄文LR(磨消)。沈線による入組文。底部下半はナデ。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コゴ。		P-999	1444
87-8	167	IVR-43	Ⅲ層	深鉢		後期8	口唇：面取。外面：沈線間に連続する短沈線。縄文LR。沈線。三叉文。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゴ。			563
87-9	167	IVR-43	Ⅲ層	深鉢		後期8	平口縁に小突起。口唇：連続した浅い刻目。外面：沈線(入組三叉文か)。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。内コゴ。			564
87-10	-	IVR-43	Ⅲ層	深鉢小		後期8	外面：沈線。沈線間に連続する短沈線。縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。			572-1
87-11	167	IVR-43	Ⅲ層	深鉢小		後期8	-			572-2
87-12	167	IVR-43	Ⅲ層	Ⅲ	IB2	晩期4	小波状口縁。口唇：連続した短沈線。外面：縄文LR。沈線による雲形文(彫去なし)。縄文LR(磨消)。磨消部ミガキ。底部：平底。底面ミガキ。内面：口縁沈線。体部と底部の境に段。ミガキ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：なし。			97
87-13	167	IVR-43	Ⅲ層	浅鉢	IA1	晩期3	外面：連続する刻目。沈線。縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：なし。			560-1
87-14	167	IVR-43	Ⅲ層	浅鉢		晩期3	-			560-2
87-15	167	IVR-43	Ⅲ層	Ⅲ	IB1	晩期4	平口縁に突起。口唇：突起の間に沈線。外面：沈線。縄文LR。内面：ミガキ。底部と体部の間に沈線。胎土：砂粒。使用痕：なし。			561
87-16	-	IVR-43	Ⅲ層	浅鉢	IA1	晩期3	-			570
87-17	-	IVR-43	Ⅲ層	浅鉢	IA1	晩期3~4	外面：口縁部刻目。沈線。縄文LR。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：なし。			565
87-18	167	IVR-43	Ⅲ層	浅鉢	IA1	晩期3~4	平口縁に突起(4単位か)。口唇：弱い面取。外面：縄文LR。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫多く含む。使用痕：外スス。			569
87-19	-	IVR-43	Ⅲ層	浅鉢	IA1	晩期3~4	外面：口縁部刻目。細沈線。縄文LR(全体に磨滅)。胎土：砂粒。使用痕：なし。			567
88-1	167	IVR-43	Ⅲ層	半精製台付鉢	ⅡBc2t	晩期3	平口縁にB突起。口唇：刻目。外面：沈線。刺突。肩部突起1単位。体部縄文LR。台部：沈線。沈線内に透かし孔。下端肥厚。肥厚部に縄文LR。内面：口縁沈線。口縁に強い張り出し。ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゴ。		P-286	96
88-2	-	IVR-43	Ⅲ層	鉢		晩期2~3	外面：沈線。縄文LR。内面：ナデ。胎土砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゴ。			571
88-3	167	IVR-43	Ⅲ層	台付鉢		晩期3か	台部：下端肥厚。肥厚部に縄文LR。突起1箇所。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：なし。		P-188	568
88-4	167	IVR-43	Ⅲ層	粗製深鉢	I	後期後葉 ~晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。		P-322	518
88-5	167	IVR-43	Ⅲ層	粗製深鉢	IAa1	後期後葉 ~晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。底部：凹底。内面：ナデ。胎土：小礫。砂粒。使用痕：外スス。内コゴ。		P-58, 59	1091
88-6	167	IVR-43	Ⅲ層	粗製深鉢	IAa1	後期後葉 ~晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。底面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コゴ。		P-211, 223	605-600
89-1	167	IVR-44	Ⅲ層	壺	Ⅲ	晩期3	外面：平行沈線文3条。ミガキ。底部：円形の凹底。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：なし。		P-249	84
89-2	167	IVR-44	Ⅲ層	半精製台付鉢	IBa2 t	晩期4	平口縁にA突起(4単位)。A突起の面縁に1個ずつB突起。口唇：沈線(突起上を含め全周)。外面：口縁外端刻目。頸部4条沈線。肩部に口縁にむけて立ち上がる突起1箇所。突起面縁に2個ずつ突起。突起側面に溝巻文。口縁直下ミガキ。沈線内に細かな刺突。体部縄文LR。台部：ナデ。内面：口縁沈線。ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゴ。		P-22	160

縄文土器観察表 (56)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
89-3	167	IVR-44	III層	粗製鉢	I Bb2	後期後葉 ～晩期	口唇：刻目。外面：縄文LR。底面ナデ。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。内コゴゲ。 平口縁に3個のB突起が並んで付される。口唇：面取。外面：ケズリのち縄文LR。内面：ナデ。胎土：小礫。砂粒。使用痕：外スス。内コゴゲ。内外面に異状残るため使用頻度低い。胎土：緻密で精選され、粘土基質の量比が高い。細砂粒。海綿骨針。	口径：12.1cm、器高：8.7cm、底径：5.0cm。 口径：29.4cm。	P-23	172
89-4	168	IVR-44	III層	粗製深鉢	I Aa1 t	後期後葉 ～晩期	口縁にB突起(2箇所残存。単位数不明)。口唇：刻目。縄文LR。沈線施文後無文部をナデ。胎土：小礫。砂粒。使用痕：外スス。内コゴゲ。胎土：小礫。細砂粒。海綿骨針。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コゴゲ。	口径：28.0cm。	P-204	269
89-5	168	IVS-43	III層	深鉢	II Bc2 t	晩期3	口唇：面取なし。外面：頸部ケズリのちナデ。頸部と体部の境に浅い沈線。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コゴゲ。	口径：8.8cm。	P-194	1086
89-6	168	IVS-44	III層	半精製壺	III 1	晩期3	平口縁に突起4単位。突起間に2個一組の小突起を付す所が1箇所あり。口唇：弱い面取。外面：平行沈線3条。縄文LR。口縁頸部ケズリのちミカギ。内面：口縁沈線。突起裏は各所三又状の抉り。ナデ。胎土：クサリ礫。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：10.2cm。	P-32	1342
89-7	168	IVS-44	III層	半精製壺	III 1 t	晩期3	口唇：面取。外面：口縁部強いヨコナデ。工具痕なのか沈線状の筋が確認できる。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コゴゲ。	口径：13.1cm、器高：8.8cm、底径：5.2cm。		159
89-8	168	IVS-44	III層	粗製鉢	II Bc1	晩期3	口唇：弱い面取。外面：粘土紐の接合痕が残る。縄文LR。底面ケズリ。内面：ケズリのちナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。内コゴゲ。使用に伴うものか、外底面磨滅。	口径：12.3cm、器高：10.0cm、底径：5.4cm。	P-29	151
89-9	168	IVS-44	III層	粗製鉢	I Bb1	後期後葉 ～晩期	口唇：部分的に面取。外面：縄文LR。最上部の粘土紐の接合痕が残る。内面：ケズリのちナデ。上部2段の粘土紐接合痕が消されていない。胎土：砂粒。使用痕：外スス。内コゴゲ。	口径：14.1cm。		251
89-10	168	IVS-44	III層	粗製深鉢	I Bb1	後期後葉 ～晩期	波状口縁。波頂部は三山。口唇：面取。外面：貼瘤。沈線間に連続する刻目。縄文LR(磨消)。波頂部の下に沈線による入組文。体部下ナデ。内面：ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゴゲ。	口径：24.0cm、施文順(口唇部貼付→沈線、刺突→縄文→貼付)。残存率1/3。	P-1482	1105・ 1106
90-1	170	IVQ-45	III層	深鉢	I C3	後期7-4	波状口縁(7単位)。波頂部に凹形刺突。波底部に突起。口唇：面取。外面：口縁部文様帯には口縁部形態に連続して刻目帯と無文帯が波状に巡り、無文帯に突起に対応した貼瘤を付す。頸部文様帯の上端と下端には単帯の刻目帯を形成し、上端の刻目帯は口縁部文様帯に連続して波状を呈し、下端の刻目帯には波底部に対応する円錐形の貼瘤を付す。刻目帯は等しい間隔で斜め横方向から施す太い刻目で表出する。頸部文様帯には、沈線描出による入組文を生成する。入組文の起点部、連繫部、終点部が波頂部に対応し、入組文の描線の上端と下端が区画帯に連結する。縄文LR(磨消)。胎土は無文。使用痕：外スス。内コゴゲ。胎土：粘土基質の量比が高い。細砂粒。細礫多い。海綿骨針。		P-1309	175
90-2	169	IVQ-45	III層	深鉢	II Ba3 t	後期7-4	平口縁に突起(4単位)。外面：口縁部文様帯には口縁部形態に平行して刻目帯を介する2帯の無文帯を形成する。頸部文様帯の上端は1帯の刻目帯で、下端は無文帯を介する2帯の刻目帯で画し、刻目帯は斜め横方向から等しい間隔で施す刻目で表出する。頸部文様帯には沈線描出による入組文を生成し、入組文の描線の上端と下端が区画帯に連結する特徴がある。縄文LR(磨消)。使用痕：外面の全域にススが、口頸部の内面に薄いコゴゲが付着。胎土：緻密。細砂粒。微量の海綿骨針。	口径23.8cm。		1115
90-3	169	IVQ-45	III層	深鉢	I Bb1 t	後期7-4	平口縁に突起(4単位か)。口唇：面取。外面：口縁部文様帯には無文帯を介する2帯一組と単帯の刻目帯が巡り、突起直下にはボタン状の貼瘤を、単帯の刻目帯には縦刻目の貼瘤を付し、これらの刻目帯は斜め横方向からの太い刻目で表出される。頸部文様帯には縄文地に沈線による入組文。縄文LR(磨消)。入組文の描線の上端と下端が区画帯に連結する。入組文の起点部、連繫部、終点部が突起と貼瘤に対応する。頸部文様帯の下端には、頸部文様帯を起する刻目帯が僅かに残存する。使用痕：内面に僅かにコゴゲが付着。胎土：緻密で精選され、粘土基質の量比が高い。細砂粒。海綿骨針。	口径：35.5cm。	P-1482, 1519	1114
90-4	169	IVQ-45	III層	深鉢		後期7-4				1114

縄文土器観察表 (57)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
90-5	169	IVQ-45	III層	深鉢		後期7-4	平口縁に突起(4単位か)。口唇：面取。外面：口縁部文様帯には、斜め横からの刺突を施す2帯の刺突列を構成し、突起間の中央に3個一組を単位とする貼瘤を付加する。頸部文様帯の下端にも刺突列を設け、頸部文様帯の中央に太い刻目による刻目を設定する。上段と下段に分岐した頸部文様帯には入組文を生成し、描線の上端と下端が区画帯に連結する。縄文LR(磨消)。使用痕：外スス。内コケ。	口径：24.0cm。	P-1486	279
90-6	169	IVQ-45	III層	深鉢	II Ba1t	後期7-4	平口縁に三山突起と小山形突起を交互に配置。口唇：面取。外面：口縁部文様帯には口縁部形態に平行する無文帯と刻目帯が巡り、刻目帯に1単位の小山形突起に対応する推定2個一組の貼瘤を付す。下方の頸部文様帯は多帯の構成を特徴とし、斜め横方向から等間隔に太めの刻目を施す刻目帯により、3帯に分帯する。多帯化する文様帯の上段には2種の突起を起点と終点に、上下で対峙する下向きと上向きの弧線文を表出し、文様帯の中段と下段は無文帯とする。縄文LR(磨消)。中段の刻目帯には小山形突起に対応する1単位の貼瘤を、頸部文様帯下端の屈曲部には三山突起と相対的に対応する3単位一組の貼瘤を付す。内部は無文となる。内面：口縁肥厚。使用痕：口頸部外面の全域にスス、口頸部上位の内部にコケが付着。胎土：緻密で洗練。細砂粒が多い。海綿骨針。	口径：33.5cm。 施文順(縄文→平行沈線→貼瘤→刻目)。	P-1597	258
90-7	168	IVQ-45	III層	深鉢	II	後期7-4	外面：沈線。縄文LR。貼瘤。体部ナズ。内面：ナズ。胎土：小礫。クサリ礫。使用痕：外スス。内コケ。	P-1446, 1598	1090	
90-8	171 巻頭8下	IVQ-45	III層	台付浅鉢	I B1	後期7~8	口唇：面取。内外面：ナズ。ミガキ。胎土：シルト質。4mm以下の小礫。砂粒。海綿骨針。使用痕：なし。	口径：18.1cm、器高：10.6cm、底径：9.8cm。 後期7-4期とした113-4と形態は同じ。台付浅鉢が後期8期にも伴うという意味で7章では後期8期としている。	P-1465	208
90-9	171	IVQ-45	III層	台付鉢	I B1	後期7-4	口唇：面取。外面：ミガキ。体部下半と台部縦ミガキ。胎土：クサリ礫。3mm以下小礫。使用痕：なし。	口径：14.3cm、器高：11.2cm、底径：7.4cm。	P-1226	204
90-10	169 巻頭8下	IVQ-45	III層	粗製壺	III 1	後期8	口唇：面取。外面：口頸部ナズ。体部縄文LR。内面：ナズ。底部：高台。胎土：小礫。クサリ礫。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：9.0cm、器高：31.9cm、底径：10.8cm。 後期8期では後期7-4期に比べて器面の色の調の明るいものが多い。本例はその観点から後期8期とした。	P-1482	177
91-1	170	IVQ-45	III層	注口	III	後期7-4	外面：頸部に貼瘤(5単位)。沈線。縄文L(充填)。注口部直下に貼瘤2個。底部：高台。	底径：2.8cm、器高：17.3cm。注口部は基部から剥離。	P-1129	153
91-2	170	IVQ-45	III層	注口	III 1t	後期7-4	平口縁に突起(6単位)。口唇：面取。外面：口縁に縄文LR。貼瘤2種。沈線。ミガキ。頸部に沈線。貼瘤(4単位か)。縄文LR。体部ミガキ。胎土：小礫。底径：高台。内面：ナズ。胎土：砂粒。使用痕：なし。	口径：12.0cm、底径：2.7cm、器高：18.7cm。注口部は基部から剥離。施文順(縄文→沈線→貼瘤)。	P-1228	38
91-3	170	IVQ-45	III層	注口		後期7-4	外面：ミガキ。口縁直下、頸部、体部にそれぞれ文様帯。沈線。貼瘤。縄文LR。注口直下に貼瘤。注口先端と基部に沈線、縄文LR。底径：高台。内面：ナズ。胎土：砂粒。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：なし。	口径：2.2cm。胴部下半、貼瘤1箇所のみ胎土が他より荒い。注口部完存。	P-1230	14
91-4	170	IVQ-45	III層	注口	III 1	後期7-4	口唇：面取。外面：頸部に沈線。貼瘤。体部ナズ。底部：高台(部分的に残存)。内面：ナズ。胎土：海綿骨針。使用痕：なし。外面に黒斑残存。	口径：9.9cm。体部残存度が1/2で注口部は確認できない。施文順(沈線→貼瘤)。	P-1514	156
91-5	170 巻頭8上	IVQ-45	III層	半精製壺	III 1	後期7-4	外面：沈線。縄文LR。ナズ。底部：高台。内面：ナズ。胎土：砂粒。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：8.7cm、底径：4.5cm、器高：13.7cm。 底部が低平な高台のため、後期8期になる可能性もある。	P-910	39

縄文土器観察表 (58)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
91-6	168	IVQ-45	III層	深鉢	II Ba1 t	後期8	平口縁に突起(単位数不明)。山形と台形の2種が交互。口唇：面取。外面：口縁部文様帯には口縁部形態に平行する縄文帯を形成し、頸部文様帯の上端を幅の狭い単帯の無文帯で、下端を幅の狭い無文帯と縄文帯の2帯で画す。頸部文様帯には文様帯上端の区画帯に下向きの弧線文が、下端の区画帯に上向きの弧線文が連続し、楕円形や弧線が連続する楕円や入組文等を不規則に複合した複雑な文様意匠を表出する。同時に、2~3条の浅く太い沈線をも10mm程度の幅に重複させて描出する。縄文LR(磨消)。使用痕：外面に広くススが、口縁部から屈曲部内面にかけてコゲが付着。胎土：緻密で精選され、粘土基質の量比较高い。細砂粒。海綿骨針。	口径29.2cm。残存率2/5。	P-1130	284
91-7	169	IVQ-45	III層	深鉢	II Ba1 t	後期8	平口縁に2個一組の台形突起と低い山形突起が交互(計8単位か)。口唇：面取。外面：沈線。縄文LR。三叉文。体部無文。器表面磨滅。使用痕：内コゲ。胎土：小礫。	口径：24.5cm。	P-821, 822	1148
91-8	169	IVQ-45	III層	深鉢	II Ba5	後期8	平口縁に突起。台形突起と山形突起交互か。外面：文様帯上下端を沈線間に連続する短沈線で区画。沈線による入組文。縄文LR。体部無文。内面：ナデ。使用痕：外スス。内コゲ。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。	口径：25.6cm。	P-1131	1135
91-9	169	IVQ-45	III層	深鉢	II Ba4	後期8	小波状口縁。口唇：面取。外面：口縁部文様帯には口縁部形態に対し水平な縄文帯を形成し、頸部文様帯の上端は横位沈線で、下端は幅狭の縄文帯で画す。頸部文様帯には沈線描出による入組文を生成する。縄文LR(磨消)。入組文の起点部、連繫部、終点部が突起に対応する規則性は窺えず。入組文の描線の上端と下端が区画帯に連続する特徴がある。体部は無文。使用痕：口頸部外面にススが、口縁部から体部中位の内面にコゲが付着。胎土：緻密で精選。細砂粒多い。海綿骨針。白色粒子の量比较高い。	口径：19.5cm。残存率2/5。	P-1136, 1137	1118
91-10	170	IVQ-45	III層	深鉢	II Ba5	晩期1a	口縁に突起が連続。突起は二山一組のものとし山の間が交互に付される。口唇：面取なし。外面：二山突起の下に沈線と三叉文。口縁の入組文の入り組文の2段構成。口縁の入組文の屈曲部に三叉状の沈線。縄文LR(磨消)。磨消部はナデ。文様帯下端は沈線間の連続する沈線で区画。体部縄文LR。内面：ナデ。胎土：小礫。砂粒。使用痕：内コゲ。	口径：22.0cm。		270
91-11	170	IVQ-45	III層	深鉢	II Bb4	晩期1a	口唇：刻目。外面：沈線。縄文LR(磨消)。沈線による入組文。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：29.3cm。		1132
92-1	171	IVQ-45	III層	台付浅鉢	I B4	晩期1a	小波状口縁。口唇：面取。外面：沈線。三叉文。ミガキ。内面：ミガキ。台部：ナデ。胎土：精良。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：22.3cm、底径：9.8cm、器高：10.6cm。	P-820	47
92-2	170	IVQ-45	III層	深鉢	I Aa1 t	後期後葉 ~晩期	平口縁に三山一組の突起(6単位か)。口唇：面取。外面：2~3mm幅の単位によるナデ。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：16.5cm。		1355
92-3	171	IVQ-45	III層	粗製鉢	I Aa1	後期後葉 ~晩期	口唇：面取。面取りがはつきりしない部分もある。外面：縄文LR。縄文施文以前のケズリのような筋状の痕跡。底部：高台。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：10.6cm、器高：8.1cm、底径：3.9cm。	P-1136	277
92-4	170	IVQ-45	III層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉 ~晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。底部直上5cmくらいは縄文なし(ナデ)。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：14.5cm、器高：16.2cm、底径：7.9cm。	P-1355	1161
92-5	170	IVQ-45	III層	粗製台付鉢	I Aa1 t	後期後葉 ~晩期	平口縁に突起(単位数不明)。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：18.8cm、器高：15.9cm、底径：8.2cm。	P-1599	281
92-6	171	IVQ-45	III層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉 ~晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。	口径：33.6cm。	P-1455, 1454, 1657, 1599	248
92-7	171	IVQ-45	III層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉 ~晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。板状工具痕。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：36.2cm。	P-1130, 1134, 1137	1109
92-8	171	IVQ-45	III層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉 ~晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：35.6cm。	P-1481, 1483, 1520	292
92-9	170	IVQ-45	III層	香炉か		後期7~8	香炉の上部と思われる。外面：両側面に刻目。縄文LR。沈線。無文部はミガキ。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：なし。	92-10と同一個体。		1398
92-10	170	IVQ-45	III層	香炉か		後期7~8	香炉の上部と思われる。外面：両側面に刻目。縄文LR。沈線。無文部はミガキ。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：なし。	92-9と同一個体。内面赤彩。		1397

縄文土器観察表 (59)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
92-11	170 巻頭10 下	IVR-47・ IVQ-45	III層	香炉		後期7~8	香炉頂部突起。突起の片側に入面。もう一方に獸面を粘土紐・粘土粒貼付と沈線によって表現。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：なし。外面黒斑。入面の口より下の部分は二次被熱により黒斑が消失。		特-67	1247
92-12	171	IVQ-45	III層下部	浅鉢	IB1	後期7~8	手づくね成形の小型土器。口縁は歪んでいるが平縁を意識。口唇：面取。内外面：雑なナデ(板状工具も使用)。底部：凹底。胎土：砂粒。クサリ礫。使用痕：なし。	口径：6.8cm、底径：2.5cm、器高：2.7cm。 回みの作り方が注口土器底部と類似するため、後期末と考えた。	P-1751	1164
93-1	172	IVQ-46	III層	深鉢	II Ba3	後期7-4	波状口縁。口唇：面取。外面：波頂部に平坦なボタン状突起と、波底部最下点に楕円状の貼瘤を配置し、両者に呼応して下方の刻目帯に貼瘤が連続する。口縁部文様帯には口縁形態に連動して無文帯を貫入する刻目帯を形成し、下方の無文帯を貫入する刻目帯と連続して三角形の構図を創出する。屈曲部にも同様に無文帯を貫入する刻目帯を形成し、上下を区画された頸部文様帯には入組文を生成する。縄文LR(磨消)。突起と波底部に横位連続入組文の起点部、連繫部、終点部が呼応し、入組文の描線の先端と下端が刻目帯に連結。体部は無文となる。使用痕：外面の2/3にススとコゲが、内面にコゲが付着。	口径：28.4cm。貼付剥離有り。残存率2/3。	P-1372	1227
93-2	172	IVQ-46	III層	注口	II 1	後期8	口唇：面取なし。外面：板状工具によるナデ。ミガキ。磨滅部分多い。注口部先端肥厚。肥厚部に沈線。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。使用痕：なし。外面に黒斑残存。	口径：8.0cm、底径：4.8cm、器高：12.4cm。注口部完存。	P-1371	36
93-3	172	IVQ-46	III層	深鉢	II Ba3	後期7-4	波状口縁(9単位か)。波底部に突起。口唇：面取。外面：沈線間に連続する刻目。貼瘤。沈線による入組文。縄文LR(磨消)。磨消部ナデ。体部下半ナデ。内面：ナデ。板状工具痕。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。	外面炭：3000±20yrBP。	P-1216, 1352	1212
93-4	172	IVQ-46	III層	台付鉢	I C1t	後期7~8	平口縁に突起(計5単位か)。口唇：面取。突起口唇に沈線。外面：沈線間に連続する刻目。貼瘤。ナデ。体部と底部の境に沈線。内面：ナデ。胎土：小礫多く含む。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：13.1cm、器高：11.3cm、底径：6.9cm。	P-1374	1169
93-5	172	IVQ-46	III層	粗製鉢	I C1t	後期7~8	平口縁に突起(7単位)。突起両脇に粘土粒を貼付け。三山の突起に見えている。縄文LR。内面：ナデ。底部：高台。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：15.4cm、器高：14.0cm、底径：7.4cm。	P-1210	1171
93-6	172	IVQ-46	III層	注口	II 4	後期8	口縁に連続する突起(8単位)。口唇：面取。外面：口縁に縄文帯(縄文LR)。縄文帯の下端は浅い沈線で区画され、頸部以下はナデ。注口部直下に膨らみ。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外面部分的にスス。二次被熱か。黒斑残存。	口径：7.3cm、底径：1.4cm、器高：12.8cm。注口部完存。	P-1213	37
93-7	172	IVQ-46	III層	深鉢	II Ba1	後期7-4	口唇：面取。外面：口縁部文様帯と屈曲部には3帯の刻目帯が巡り、間隔の等しい太い刺突で表出する。頸部文様帯には沈線描出による入組文を生成し、横位連続入組文の描線の先端と下端が区画帯に連続する。縄文LR(磨消)。体部は無文。使用痕：外スス。	口径：21.0cm。 残存率1/4。	P-1473	1263
93-8	172	IVQ-46	III層	深鉢	II Ba1t	後期7-4	平口縁に四山一組の突起。口唇：面取。外面：沈線間に連続する刻目。縄文LR(非常に節が細かい)。刻目で囲まれた三角形の区画内に入組文。縄文LR(磨消)。磨消部は除去状でミガキ。貼瘤は四種(円形、楕円形、円形で頂部を刻むもの)。楕円形で頂部に2本の刻目をとももの確認できる。体部下半ナデ。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。	類例が見当たらない変わった文様。丁寧に作られた土器。		1270
93-9~ 11	172	IVQ-46	III層	深鉢	II Ba1	後期8	平口縁に二山一組の突起。口唇：面取。外面：浅い沈線と細い刻目による入組文。貼瘤。体部無文。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：14.17-1.3-5-6		
93-12	172	IVQ-46	III層	深鉢	II Ba1t	後期7~8	平口縁に低い山形突起(単位数不明)。口唇：弱い面取。外面：沈線間に連続する刻目。全体をナデ。体部と底部の境に沈線。底部：高台。内面ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。黒斑残存のため使用傾度低い。	口径：9.4cm、器高：9.6cm、底径：4.5cm。	P-1492	1357
93-13	172	IVQ-46	III層	粗製深鉢	II Ba1t	後期7~8	平口縁に突起(4単位か)。口唇：面取なし。外面：縄文LR。くびれ部の縄文はナデで消し。内面：ナデ。底部：高台。胎土：小礫。使用痕：外スス。	口径：10.0cm、器高：10.5cm、底径：5.5cm。	P-1240	1189

縄文土器観察表 (60)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
94-1	172	IVQ-46	III層	注口	II1	後期7-4	口唇：面取。外面：沈線。縄文LR(横位)。貼瘤(縦2個と3個が交互の計6単位)。ナデ。底部：高台。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：なし。	口径：12.7cm、底径：3.0cm、器高：23.3cm。注口部基部から剥落。欠損面に黒色物質(アスファルトか)付着。施文順(縄文→沈線→貼瘤→貼瘤周辺など)。	P-1241, 1480	26
94-2	172	IVQ-46	III層	注口		後期7-4	外面：頸部に縄文LR、沈線、貼瘤。体部ナデ。注口部直下に粘土細貼付により二袋状の膨らみを表現。底部：高台。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：なし。外面黒斑。	底径：3.0cm。注口部先端欠損。	P-1214	1242
94-3	172	IVQ-46	III層	壺	III1	晩期1a	口唇：面取。外面：ミガキ。頸部に縦長と横長の突起が交互に連続し、人面風の表裏に見える。横長突起上に横位沈線。突起列下に沈線。体部は縄文LR。内面：ミガキ。胎土：小粒多く含む。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：なし。	口径：12.0cm。	P-858	1381
94-4	173	IVQ-46	III層	半精製壺	III1	晩期1b	口唇：面取なし。外面：縄文LR。沈線。頸部には頂部に縦位の沈線をもつ突起。体部縄文LR。底部：高台風の凹底。胎土：小粒。クサリ礫。使用痕：外スス。二次被熱か。外底面に黒斑残存。	口径：9.9cm、器高：21.9cm、底径：7.8cm。		1379
94-5	173	IVQ-46	III層	鉢	IBb4	後期8	小波状口縁。口唇：面取。外面：口縁部文様帯に縄文帯を形成する。頸部文様帯の下端は2条の平行沈線で区画帯を形成し、幅狭の頸部文様帯に入組文を生成し、入組文の描線の先端と下端が区画帯に連続する。縄文LR(磨消)。体部は縄文。底径：高台。使用痕：外スス、コケ。内コケ。	口径：20.8cm、底径：7.6cm、器高：21.8cm。	P-1292	1215
94-6	173 巻頭9上	IVQ-46	III層	台付鉢	IIBa5	晩期1a	口縁に2種の突起が交互に連続(単位数不明)口唇：面取。外面：台形突起には2個一組の三又文を、山形突起には突起の形態に運動する上向きの弧線文を表出する。頸部文様帯の上端と下端は縄文帯で面され、その内側に入組文を生成する。縄文LR(磨消)。入組文の沈線は一方のみ縄文帯に接続する。体部は無文。使用痕：外スス、コケ。内コケ。胎土：緻密で精選され、粘土基質の量比が高い。細砂粒。海綿骨針。	口径：16.6cm。残存率2/3。	P-1294	1195
94-7	173	IVQ-46	III層	深鉢	IIA5	後期8	口縁に連続する山形突起(12単位前後か、2単位のみ残存。)突起頂部に沈線。口唇：面取。外面：沈線による入組文風の文様。縄文LR(磨消)。文様帯下端を沈線間に連続する短沈線で区画。体部ナデ。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。内コケ。	口径：31.7cm。施文順(沈線→縄文→沈線再施文)。		1369
94-8	173	IVQ-46	III層	注口	II2	晩期1a	口唇：面取。大ぶりの刻目。外面：口縁部に縄文帯。頸部は縄文LR施文後に、沈線間に連続する短沈線を施す。体部は沈線と縄文LRにより三又状の快りを加える。注口部直下に二袋状の膨らみ。注口先端は磨滅。内面：ナデ。使用痕：なし。外面黒斑残存。胎土：砂粒。海綿骨針。	口径：10.2cm。注口部完存。		1259
94-9	173	IVQ-46	III層	注口	III	晩期1a	外面：ミガキ。体部下半は器表面の剥落が目立つ。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：なし。外面に黒斑残存。	底径：2.8cm。注口部は基部から欠損。	P-911	1311
95-1	173	IVQ-46	III層	深鉢	II Bb2t	晩期1b	口縁突起(4単位か)。口唇：刻目。外面：沈線→丁字ナデ。入組部に刺突。体部縄文LR。内面：ナデ。使用痕：外スス。内コケ。胎土：砂粒。海綿骨針。	口径：26.7cm。補修孔。	P-729	1265
95-2	173	IVQ-46	III層	深鉢	II Bc2t	晩期2	口唇：刻目。外面：口縁直下の沈線から刻目によって生じた口縁突起の頂部にむかつて短沈線。頸部に沈線と刻目による羊歯状文。体部縄文LR。内面：口縁に強い張り出し。沈線。使用痕：外スス。内コケ。胎土：砂粒。海綿骨針。	口径：21.2cm。外面付着炭化物年代測定中。	P-733	1337
95-3	173	IVQ-46	III層	粗製深鉢	IBb1t	後期後葉 ～晩期	口縁に突起。口唇：面取。外面：口縁部から体部を節の細かな縄文LRで覆うが、施文方向が一定しておらず、斜行縄文に横走縄文が混在する。使用痕：口頸部の外面に広くススが、口縁部から体部の内面にコケが付着。胎土：緻密で、粘土基質の量比高い。細砂粒。微量の海綿骨針。	口径：22.8cm。	P-1367	1234
95-4	173	IVQ-46	III層	粗製台付深鉢	IBb1t	後期後葉 ～晩期	平口縁に突起。口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。小粒。海綿骨針。使用痕：外スス。内コケ。	口径：28.2cm、器高：30.4cm、底径：8.2cm。	P-1474	1303
95-5	173	IVQ-46	III層	粗製深鉢	IAa1t	後期後葉 ～晩期	平口縁に突起。口唇：面取。外面：ナデ。胎土：小粒。海綿骨針。使用痕：外スス。内コケ。	口径：14.0cm。	P-1474	1228
95-6	174	IVQ-46	III層	粗製鉢	IAa1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：ナデ。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小粒。使用痕：外スス。内コケ。	口径：14.1cm、器高：12.9cm、底径：7.4cm。	P-1211	1175

縄文土器観察表 (61)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
95-7	173	IVQ-46	III層	粗製深鉢		後期後葉 ～晩期	外面:ナデ。底部:平底。ナデ。内面:ナデ。胎土:小礫。使用痕:なし。外面黒斑。	底径:4.7cm。	P-1367	1183
95-8	174	IVQ-48	III層	深鉢	IIA5	晩期1a	平口縁に高い台形突起と低い山形突起が交互。台形突起は上部をユビオサエ。山形突起は頂部刻目2本。口唇:面取。外面:縄文LR(磨消)。沈線。最上部の沈線から台形状の突起に縦沈線。沈線による入組文。磨消部はナデ。内面:ナデ。胎土:海綿骨針。使用痕:外。内コケ。			1392
95-9	174	IVQ-48	III層	深鉢	IIA5	後期8	口縁に台形状の突起が連続。口唇:面取。外面:突起下に三角形の無文部が形成されるが、三叉文は配置されていない。沈線。縄文LR(磨消)。刻目を持つ突起の下には三叉文。内面:ナデ。胎土:海綿骨針。使用痕:外。内コケ。			1409
95-10	174	IVQ-48	III層	香炉		後期7～8	香炉上部の透かし孔部分か。沈線。縄文LR。内面:ナデ。胎土:砂粒。使用痕:内。外。外面は黒斑が確認できる。			1457
96-1	174 巻頭9上	IVR-47・ IVQ-47	III層	鉢	IIA5	晩期1a	口縁に連続する台形突起。頂部に2箇所刻目をもち、外側に円錐形の瘤を付し、外側に山形突起を配す。口唇:面取。外面:口縁部から底部外周までを筋の細かな縄文LRで覆う。底部:高台。使用痕:口縁部から底部外周の全域にススガ、底面を除く口縁部から底部下端の全域にコケが付着。胎土:緻密で精選され、粘土基質の量比が高い。細砂粒。微量の海綿骨針。	口径:30.8cm、底径:7.6cm、器高:28.2cm。 外面炭:2970±20yrBP。	P-1410	1323
96-2	174	IVQ-47	III層	粗製鉢	IAa1t	後期後葉 ～晩期	口縁部形態が平縁を呈し、外側に円錐形の瘤を付し、外側に山形突起を配す。口唇:面取。外面:口縁部から底部下端までを筋の細かな縄文LRで覆う。底部:高台。使用痕:口縁部から底部外周の全域にススガ、底面を除く口縁部から底部下端の全域にコケが付着。胎土:緻密で精選され、粘土基質の量比が高い。細砂粒。微量の海綿骨針。	器高:19.2cm、口径:18.8cm、底径:8.2cm。残存率2/3。	P-1631	1217
96-3	174	IVQ-47	III層	香炉		後期7～8	外面:ナデ。胎土:小礫。使用痕:内面全体に黒ずみありススガ。	器高:7.3cm、底径:7.8cm。	P-1196	1179
96-4	174	IVQ-47	III層	壺	IV	晩期	外面:ナデ。内面:ナデ。全体に表面剥離。劣化。胎土:3mm以下の小礫。	底径:5.0cm。内面(最大径よりも下の体部と底面)に膜状の黒色物質が付着しており漆容器の可能性もある。頸部内面に風船技法のような皺がめだつ。	P-562	202
96-5	174 巻頭9上	IVQ-47	III層	注口	II 1	晩期1a	外面:沈線。縄文LR。左下に長く伸びる三叉文を囲むように、磨消部を伴う楕円形の文縁が体部に5単位横つながりに連続する。文縁帯下端を面する沈線が1条。磨消部の下端を面する沈線は閉じておらず、また水平でもなく器表面を1周する。底面は丸底。外面に黒斑が認められる部分もあるが、広い範囲が摩滅している。注口部直下に二袋状の膨らみ。注口先端摩滅。胎土:砂粒。海綿骨針。	口径:8.6cm、器高:15.0cm。 注口部充存。	P-1092	1223
96-6	174	IVQ-49	III層	粗製深鉢	IAa1	後期後葉 ～晩期	口唇:面取。外面:縄文LR。縄文は面取後に施文。底部直上には縄文なし。内面:ナデ。底部:高台。胎土:小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕:外。内。外面に黒斑残るため使用頻度低い。	口径:25.9cm、器高:41.0cm、底径:9.2cm。	P-1107	1340
96-7	174	IVQ-49	III層	注口		晩期1a	外面:ミガキ。注口直下に沈線で文縁。内面:ナデ。胎土:砂粒。海綿骨針。使用痕:なし。	注口部は途中から欠損。	特-43	1362
96-8	174	IVQ-50	III層	深鉢		後期8	口縁に突起が連続。頂部を刻む台形のものとは半円状のものが交互。口唇:面取。外面:縄文LR。沈線。磨成前片側穿孔(外面から)。入組文であるが無文部は縄文を消すのではなく、沈線を何度も引くことにより作出している。内面:口縁に面取時の粘土の段。ナデ。胎土:クサリ礫。海綿骨針。使用痕:外。内。外面に黒斑。			1395
97-1	175	IVR-45	III層	浅鉢	IB1t	晩期1b	平口縁に突起(1単位)。口唇:面取なし。外面:縄文LR。沈線による入組文。三叉文が付加される。内面:ナデ。胎土:小礫。海綿骨針。使用痕:なし。内外面に黒斑。	口径:27.5cm。施文順(縄文→沈線)。	P-829, 834	253
97-2	175	IVR-45	III層	浅鉢	II 1 t	晩期1b	平口縁にB突起(3単位残存、単位数不明)。口唇:刻目。外面:口縁下に短い弧線が連続。沈線による入組三叉文。屈曲部に隆帯。隆帯上に円形押圧と沈線。体部縄文LR。内面:ナデ。胎土:クサリ礫。使用痕:なし。	口径:36.0cm。	P-831, 832, 833, 838, 837	105

縄文土器観察表 (62)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
97-3	175	IVR-45	III層	深鉢	II Ba1t	後期7-4	平口縁に頂部をユビオサエした山形の突起(4単位か)。口唇：面取。外面：沈線間に連続する刻目。縄文RL(磨消)。貼輪。沈線による入組文。磨消部はナデ。体部下半ナデ。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コグ。	口径：17.7cm。施文順(沈線→縄文→沈線再施文)。		1104
97-4	175	IVR-45	III層	深鉢	II Ba1t	後期7-4	平口縁。口唇：面取。外面：沈線間に連続する刻目。縄文RL(磨消)。貼輪。沈線による入組文。磨消部はナデ。体部下半ナデ。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コグ。	口径：18.5cm。 施文順(縄文→沈線)。		1356
97-5	175 巻頭8上	IVR-45	III層	鉢	II Ba1t	後期7-4	平口縁に突起(7単位か)。口唇：面取。外面：口縁部文様帯には無文帯を介する5帯の刻目帯が巡り、刻目帯は間隔が等しい斜め横方向からの太い刻目/表示する。突起直下に円錐形を呈する瘤を付し、屈曲部に巡る頸部文様帯下端の刻目帯には縦割り瘤を付すが、相互に相関性は窺えない。体部は無文となる。使用痕：外スス。内コグ。胎土：海綿骨針。	口径：20.3cm。施文順(沈線→貼輪→刻目→一部沈線再施文)。残存率3/4。	P-1356	150
97-6	175	IVR-45	III層	深鉢	I Clt	後期7-4	平口縁に突起。小山形突起と三山突起を交互に8単位配す。口唇：面取。外面：口縁部文様帯に口縁部形態に運動して平行な無文帯と刻目帯を交互に表出し、頸部文様帯下端の屈曲部は無文帯を介する2帯の刻目帯で面す。頸部文様帯には沈線描出による入組文を生み出す。縄文RL(磨消)。一部RLか。入組文の描線の先端と下端が区画帯に連結する。三山突起の下方では突起直下の3個一組の貼輪と、屈曲部の単一の貼輪、3個一組の貼輪とが呼応して連続し、小山形突起の下方では突起直下の単一の貼輪と、屈曲部の上下で一組となる単一の貼輪が呼応して連続する関係にあり、入組文の起点部、連繋部、終点部もこれらと呼応する規則性が窺える。体部は無文となる。使用痕：外スス。内コグ。正面突起欠損面にも炭化物付着、突起剥落後に使用か。胎土：緻密で、粘土基質の量が高い。細砂粒。海綿骨針。	口径：25.9cm。残存率1/3。		1081
97-7	175	IVR-45	III層	深鉢	II Ba1	後期7-4	口唇：面取。外面：口縁部文様帯と頸部文様帯は同一の文様が連続する構成で、口縁部文様帯には無文帯を介する4帯の刻目帯を設け、頸部文様帯が多段化する。体部は無文となる。使用痕：口縁部から体部に広くススが付着し、光沢がある。胎土：緻密で精選され、粘土基質の量が高い。細砂粒。微量の海綿骨針。	口径：19.8cm。残存率1/4。		1102・ 1103
97-8	175	IVR-45	III層	半精製 台付鉢	II Bc2	晩期4	口唇：刻目。外面：沈線。沈線内に連続する刺突。肩部突起(1単位)。突起側面に沈線。体部縄文RL。台部：沈線。沈線の屈曲部に刺突。刺突の一部は貫通し、透かし孔となっている。下端肥厚。肥厚部に縄文RL、B突起(1単位)。内面：ナデ。胎土：小礫。砂粒。使用痕：外スス。内コグ。	口径：14.4cm、底径：10.1cm、器高：11.2cm。		152
97-9	175	IVR-45	III層	半精製 台付鉢	II Bc2	晩期4	口唇：刻目。外面：口縁沈線上に刺突列。肩部に大突起とB突起(突起上に短沈線)。体部縄文RL(横・斜位)。台部：沈線。下端肥厚。肥厚部に縄文RL。突起1箇所残存。使用痕：外スス。内コグ。	口径：16.1cm、底径：11.1cm、器高：15.9cm。	P-1080	252
97-10	175	IVR-45	III層	半精製鉢	I Bb2	晩期4	口唇：刻目。外面：沈線。縄文RL(横・一部斜位)。底部：凹底。内面：横方向のケズリ。胎土：精良。海綿骨針。使用痕：外スス。内コグ。	口径：9.9cm、底径：4.7cm、器高：8.3cm。 施文順(沈線→縄文)。	P-1312	52
97-11	175 巻頭9下	IVR-45	III層	半精製鉢	I C1	晩期3か	片口。平口縁にB突起。口唇：残存部が少ないが、沈線状の凹みが確認できる所もある。外面：沈線。縄文RL。底部：平底。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。内コグ。	口径：10.9cm、器高：8.4cm、底径：4.8cm。 口縁の突起と沈線から、晩期3期の可能性が高いと判断した。		154
98-1	176	IVR-45	III層	粗製鉢	I Bb2	後期後葉 ～晩期	口唇：刻目。外面：ケズリのち縄文RL。底部：凹底。内面：ナデ。底面に幅5mm位の板状工具痕。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。内コグ。	口径：13cm、器高：9.3cm、底径：5.3cm。	P-1299	168
98-2	176	IVR-45	III層	粗製深鉢	I Bb1	後期後葉 ～晩期	外面：縄文RL。内面：ナデ。胎土：精良。使用痕：外スス。内コグ。	口径：14.0cm。		275
98-3	176	IVR-45	III層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文RL。縄文は面取部に施文。内面：ナデ。胎土：精良。海綿骨針。使用痕：外スス。内コグ。	口径：16.8cm。施文順(縄文→沈線)。	P-1030	164
98-4	176	IVR-45	III層	深鉢		後期後葉 ～晩期	外面：縄文RL。底部：平底。内面：ナデ。胎土：小礫。砂粒。使用痕：外スス。内コグ。	底径：6.2cm。	P-1235	266

縄文土器観察表 (63)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
98-5	176	IVR-45	III層	粗製深鉢	IAa1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：ケズリ。内面：ケズリのちナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。	口径：29.8cm。		300
98-6	176	IVR-45	III層	粗製深鉢	IAa1 t	後期後葉 ～晩期	平口縁にB突起(2単位)。口唇：面取なし。外面：縄文RL。粘土紐の接合痕が残る。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。	口径：26.0cm。	P-1082	186
98-7	176	IVR-45	III層	粗製鉢	IAa1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文RL。縄文は面取後に施文。底部直上には縄文なし。内面：ナデ。底部：平底。胎土：砂粒。使用痕：外スス。内コガ。	口径：29.0cm、器高：26.4cm、底径：8.5cm。	P-1594	181
98-8	176	IVR-45	III層	粗製深鉢	IAa1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文RL。内面：ナデ。胎土：小礫多く含む。使用痕：外スス。内コガ。	口径：41.0cm。	P-1406	299
98-9	176	IVR-45	III層	粗製深鉢	IBb1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取なし。外面：縄文LR。内面：ナデ。底部：平底。底面ケズリ。胎土：海綿骨針。	口径：20.4cm、器高：20.9cm、底径：6.8cm。	P-1299	182
99-1	177	IVR-46	III層	深鉢	IIBa3t	後期8	波状口縁。波頂部、波底部に突起。波頂部の突起は円形二つ重ね。波底部の突起は山形。口唇：面取。口縁：沈線。縄文LR(磨消)。沈線による入組文。貼瘤。貼瘤は楕円形と頂部に刺突のある円形が交互。体部無文。ナデ。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。内コガ。		P-1253	1272
99-2	177	IVR-46	III層	注口	III t	後期7-4	平口縁に大小交互の突起(計8単位)。大突起の頂部に施される横方向の沈線は2種あり、突起上端が「ニ」字状に見えるものと「ロ」字状に見えるものとがある。これら2種は交互に付けられる。小突起はいずれも頂部に縦方向の刻目をもつ。外面：口縁には縄文RL。大突起下には貼瘤。頸部と体部の無文部はナデ。体部中央に縄文帯(縄文RL)。縄文帯上下に浅い沈線。縄文帯内に貼瘤5単位。縄文は貼付後に施文。底部：高台。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：5.5cm、底径：2.4cm、器高：15.0cm。注口部は基部から欠損し、欠損部の一部に黒色物質(アスファルトか)付着。	P-1252	30
99-3	177	IVR-46	III層	注口	II 1	後期7-4	口唇：面取。外面：沈線。貼瘤。縄文LR。沈線による入組文。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。	口径：9.9cm、底径：4.0cm、器高：17.8cm。注口部は基部から欠損。	P-1396	1221
99-4	177	IVR-46	III層	注口	III 1	後期7-4	口唇：面取。外面：ミガキ。頸部に縄文RL、沈線、貼瘤。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：なし。	口径：12.7cm。口縁部外面に種物片のよくな圧痕あり。注口部欠損。	P-1394	1348
99-5	177	IVR-46	III層	粗製鉢	IBb 1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文RL。底部：高台。内面：ナデ。板状工具痕。胎土：小礫多く含む。使用痕：外スス。内コガ。	口径：11.7cm、器高：9.6cm、底径：5.4cm。	P-1393	1178
99-6	177	IVR-46	III層	粗製深鉢	IBb 1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文RL。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コガ。		P-1392	1338
99-7	-	IVR-46	III層	粗製深鉢	IAa1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。縄文は面取後に施文。内面：ナデ。胎土：小礫多く含む。使用痕：外スス。	口径：36.5cm。	P-1398、1607	1331
99-8	177	IVR-46	III層	粗製深鉢	IAa1	後期後葉 ～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。縄文は面取後に施文。内面：ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。使用痕：外スス。外面に黒斑残るため使用頻度低い。	口径：36.0cm。	P-1394、1604	1329
100-1	177	IVR-46	III層	深鉢		後期7-4	口唇：面取。外面：口縁直下ミガキ。沈線間に連続する刻目。貼瘤。縄文LR。文様は縄文地に沈線で描かれているがほとんどで、磨消縄文となつていのはごく一部。磨消部はミガキ。内面：ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外スス。外面に黒斑。	口径：31.2cm。	P-1604、1609	1351
100-2	177	IVR-46	III層	深鉢	IBb1t	後期8	平口縁に突起(単位数不明)。口唇：面取。外面：貼瘤。縄文LR。沈線。体部ケズリのちナデ。内面：ナデ。板状工具痕。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：内コガ。	内面赤色顔料付着。	P-1139	1262
100-3	177	IVR-46	III層	深鉢	IIBa3t	後期7-4	波状口縁(5単位か)。波頂部と波底部に突起。口唇：面取。外面：沈線間に連続する刻目。貼瘤(円形と楕円形で上部に3本の刻目をもつもの2種)。縄文LR(磨消)。沈線による入組文。磨消部はナデ。体部下半ナデ。器表面の剥落が激しい。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。	口径：18.7cm。施文順(沈線→縄文、刻目→沈線再施文)。器面剥落著しい。	P-1305	1250
100-4	178	IVR-46	III層	深鉢	IBb5	後期7-4	口縁に連続する突起。突起頂部に円形刺突。口唇：面取。外面：沈線間に連続する刻目。沈線による入組文。縄文LR(縄文磨滅)。部分的に磨消縄文。磨消部ナデ。貼瘤。貼瘤頂部に円形刺突。体部無文。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コガ。	口径：29.8cm。外面炭：3000±20yrBP。	P-961、1141	1336

縄文土器観察表 (64)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
100-5	178	IVR-46	III層	深鉢	I C3t	後期7-4	波状口縁。波頂部には頂部に円形刺突を伴う突起が、波底部には円形刺突の中央に刻目を伴う突起を配す。口唇：面取。外面：口縁端部が段状に肥厚し、等間隔の太い刻目により刻目を表出する。口頸部文様帯の幅が狭く、口縁の波底部と下端の刻目帯とを縦位の貼瘤で連絡する。区画された波頂部直下には入組文を生成し、入組文の描線の上端と下端が区画帯に連結する。縄文LR(磨消)。体部は縄文で覆われる。使用痕：外スス。	口径：24.1cm。縄文一部磨滅。残存率2/3。	P-1669, 1670	1218
100-6	178	IVR-46	III層	壺	III1	後期7~8	口唇：内削ぎに面取。頸部に浅い沈線。外面：無文。内面：ナデ。底部：高台。胎土：白。口砂粒。使用痕：なし。	口径：3.7cm。器高：9.2cm。底径：1.5cm。	P-1142	206
100-7	178	IVR-46	III層	粗製鉢	I C1t	後期7~8	平口縁に突起(4単位)。口唇：面取。外面：ケズリのみナデ。底部：高台。底面ケズリ。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コケ。	口径：12.0cm。器高：8.5cm。底径：4.9cm。		1174
100-8	178	IVR-46	III層	注口	II1	後期7-4	口唇：面取なし。外面：全体をミガキ。注口部を中心に体部半部に文様施文。沈線間に連続する刻目。貼瘤。沈線。底部：高台。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：5.4cm。底径：1.6cm。器高：9.7cm。注口部は基部から欠損。文様は左右対称でない。	P-1471	17
100-9	178	IVR-46	III層	注口	II1	後期7-4	口唇：弱い面取。外面：無文部はケズリのちミガキ。頸部に沈線、縄文LR、貼瘤。注口基部に「コ」の字状の粘土紐貼付。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫。砂粒。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：7.2cm。器高：15.2cm。底径：4.0cm。注口部完存。	P-1413	1315
100-10	178	IVR-46	III層	注口	III1	後期7-4	平口縁に突起(2単位)。口唇：面取。外面：沈線。貼瘤。縄文LR。底部：高台。胎土：砂粒。海綿骨針。	口径：9.0cm。底径：2.1cm。器高：18.1cm。施文順(沈線→縄文)。注口部欠損。2単位の突起は類例少ない。	P-1647	1321
100-11	178	IVR-46	III層	香炉		後期7~8	香炉の上半部か。側面に円形の透かし孔が2箇所あると思われる。外面：頂部に円形刺突。沈線。縄文LR。ミガキ。内面：ナデ。透かし孔の縁はミガキ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：なし。	外面赤彩。	P-1144	1382
101-1	178	IVR-46	III層	深鉢	I Bb1t	晩期1a	平口縁に連続した山形突起を大小交互に配置。口唇：面取。外面：沈線。ナデ。縄文LR。体部縄文LR。内面：ナデ。海綿骨針。使用痕：外スス。内コケ。	口径：9.0cm。施文順(把手→縄文→沈線)。	P-1412	1475
101-2	178	IVR-46	III層	半精製壺	III1	晩期1a	口唇：部分的に面取。外面：沈線。頸部に突起4単位(横方向の貫通孔)。縄文LR。使用痕：なし。胎土：砂粒。小礫。海綿骨針。	口径：11.5cm。器高：30.7cm。底径：8.9cm。体部外面に漆塗膜。	P-1145	1343
101-3	179 巻頭9上	IVR-46	III層	半精製壺	III1	晩期1a	口唇：面取なし。外面：ナデ。頸部に眼鏡状隆帯6単位。体部縄文LR。底部：平底。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：7.3cm。器高：18.4cm。底径：5.6cm。	P-1036	1334
101-4	179	IVR-46	III層	粗製壺	III1	晩期	口唇：面取なし。外面：ナデ。頸部と体部の境に沈線。体部条痕文。底部：平底。内面：ナデ。胎土：精良。使用痕：外スス。黒斑。煮沸痕跡ではないように思う。	口径：14.8cm。胎土や口縁突起から後期7~8期と思われる。		1240
101-5	179	IVR-46	III層	粗製台付鉢	I Bb1t	後期後葉 ~晩期	平口縁に突起(6単位)。口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。底部：高台か台か、破損により不明。胎土：小礫多量含む。海綿骨針。使用痕：外スス。	口径：31.0cm。	P-1532	1173
101-6	179	IVR-46	III層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉 ~晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。縄文は面取後に施文。内面：口縁に面取時の粘土の段。ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コケ。	口径：31.8cm。器高：32.5cm。底径：7.2cm。	P-1205	1316
101-7	179	IVR-46	III層	粗製深鉢	I C1	後期後葉 ~晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。底部：高台。クサリ礫。クサリ骨針。使用痕：外スス。内コケ。	口径：44.0cm。	P-1379	1330
102-1	179	IVR-46	III層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉 ~晩期	口唇：面取。外面：ケズリのち縄文LR。ナデ消されたのか縄文がはつきりしないものが多い。内面：ナデ。板状工具痕。胎土：小礫。クサリ礫。使用痕：外スス。内コケ。	口径：13.3cm。底径：7.0cm。器高：14.1cm。外面赤彩。	P-1257	1370
102-2	180 巻頭9上	IVR-47	III層	台付鉢	I Bb1t	晩期1a	平口縁に大小の突起が交互(単位数不明)。木突起頂部には内面にのびる刻目。小突起頂部には竹管工具による刺突。外面：沈線。縄文LR。三角形の磨消部。沈線内に連続する短沈線。文様帯下端は区画されない強いヨコナデになる段がある。体部下半ナデ。内面：ナデ。胎土：砂粒。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外スス。	口径：6.4cm。底径：1.6cm。器高：13.5cm。注口完存。体部に穿孔。	P-1149	1255
102-3	180 巻頭8下	IVR-47	III層	注口	II1	後期8	口唇：面取。外面：口頸部ナデ。沈線。縄文LR(磨消)。磨消部はナデ。三叉文。体部下半ミガキ。注口直下に二袋状の膨らみ。膨らみ上面に縦位沈線。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫。砂粒。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：6.4cm。底径：1.6cm。器高：13.5cm。注口完存。体部に穿孔。	P-1026	13

縄文土器観察表 (65)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
102-4	180	IVR-47	III層	注口	II1	後期7-4	口唇：面取なし。外面：ナデ。頸部に沈線、縄文LR、貼瘤5単位。注口直下に貼瘤状の膨らみ。内面：ナデ。底部：尖底気味の丸底。高台はない。胎土：小礫多く含む。使用痕：なし。	口径：5.1cm、器高：9.5cm。施文順(貼瘤→縄文→沈線)。注口部完存。	P-1181	35
102-5	180	IVR-47	III層	注口	II1	晩期1a	口唇：面取なし。外面：無文。器表面摩擦。頸部に段はもたない。注口直下に二袋状の膨らみ。底部：高台状に突出せず凹底となる。胎土：4mm以下の小礫。	口径：5.4cm、器高：10.2cm。	P-1027	201
102-6	180	IVR-47・IVR-48・IVT-51	III層	深鉢	I Bb1t	後期7-4	平口縁に台形突起。3個一組のもの(計12単位)。3個一組のものは、高台の突起頂部に刻目、中央の突起頂部に円形突起。刺突は棒状の工具による。口唇：面取。外面：沈線による入組文。沈線間に細い工具による連続する刻目。縄文LR(磨消)。入組文の屈曲部には円文が入る。口縁内面に粘土紐の接合痕が残り、1.5cm幅の粘土紐を積み上げていることがわかる。使用痕：外スス。胎土：砂粒多い。クサリ礫。海綿骨針。	口径：26.6cm。施文順(沈線→縄文、刻目→沈線再施文)。遠距離接合。		1354
102-7	180	IVR-47	III層	粗製鉢	I Aa1	後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。底部：高台。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コケ。	口径：20.0cm、器高：19.4cm、底径：7.2cm。		1206
102-8	180	IVR-47	III層	粗製鉢	I Aa1 t	後期後葉～晩期	平口縁に突起。口唇：面取。外面：縄文LR(無節)。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫多く含む。使用痕：外スス。	口径：13.2cm、器高：12.5cm、底径：6.8cm。	P-1538, 1727	1309
102-9	180	IVR-47	III層	半精製壺	III1	晩期1a	口唇：面取。外面：口頸部ナデ。頸部に突起4単位(横方向の貫通孔)。体部縄文LR。内面：ナデ。底部：高台。胎土：小礫多く含む。外面黒斑。	口径：10.3cm、器高：28.0cm、底径：10.2cm。	P-1728	1243
103-1	180	IVR-47	III層	台付鉢	I C3	後期7-4	波状口縁(6単位)。口唇：面取。外面：貼瘤。沈線間に連続する刻目。沈線による入組文。縄文LR。体部無文。器表面摩擦により文様不鮮明。使用痕：外スス。内コケ。胎土：小礫。	口径：18.6cm。施文順(沈線→縄文、刻目→沈線再施文)。	P-1502, 1503, 1504	1322
103-2	180 巻頭8上	IVR-47	III層	鉢	I Bb1t	後期7-4	平口縁に突起。口唇：面取。外面：口頸部文様帯には無文帯を貫入する3帯の刻目帯が巡り、刻目帯は等間隔の斜め横方向からの太い刻目で表出する。体部は無文となる。使用痕：外スス。内コケ。	器高：19.8cm、口径：18.0cm、底部径：8.0cm。完形。	P-1504	1177
103-3	180	IVR-47	III層	壺	III1	後末～晩初	口唇：面取。外面：ケズリのうちナデ。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：9.3cm、器高：16.9cm、底径：6.8cm。	P-1501	1222
103-4	180	IVR-47	III層	台付鉢	I Bb1t	後期8	平口縁に突起(6単位)。口唇：面取。外面：口縁部文様帯は突起直下の幅狭な縄文帯と短沈線帯で構成し、頸部文様帯下端の区画帯は斜行した短沈線が囲繞される。頸部文様帯には沈線描出による入組文を生成する。縄文LR(磨消)。描線の上端と下端が区画帯に連結する。体部は無文。底部：高台。使用痕：外スス、コケ。内コケ。	口径：17.2cm、底径：6.8cm、器高：18.5cm。略完形。	P-1094	1239
103-5	180	IVR-47	III層	深鉢	IIA5	後期8	口縁に突起が連続(11単位)。突起頂部から内面にのびる刻目。口唇：面取。外面：口縁部文様帯には口縁部の形態に連動して弧状の縄文帯と波状の無文帯とを形成し、屈曲部には横方向の列点文を区画帯に採用する。頸部文様帯には入組文を生成し、入組文の描線の上端と下端が区画帯に連結する。縄文LR(磨消)。体部は無文で覆われる。使用痕：外スス、コケ。内コケ。	口径：24.4cm。外面段；2935±20yrBP。補修孔あり。残存率1/3。	P-1096	1225
103-6	181	IVR-47	III層	注口	II1	後期7-4	平口縁に突起。口唇：面取。外面：縄文LR。沈線。貼瘤。ミガキ。底部：高台。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：5.6cm、底径：2.4cm、器高：11.8cm。注口部先端は一部欠損。	P-1506	1258
103-7	181	IVR-47	III層	注口	III	後期7-4か	外面：沈線(菱形の文様とそれをつなぐ横線で構成)。ミガキ。底部：高台。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：なし。外面黒斑。	底径：3.2cm。注口部は基部から剥離。	P-1508	1278
103-8	181	IVR-47	III層	注口	II5	後期7-4	平口縁に大小交互の突起(計10単位)。大突起は片山状。片山の突起部に楕円形の貼瘤。口唇：面取。外面：縄文LR。沈線。ミガキ。頸部の貼瘤は6単位。底部：高台。内面：ナデ。板状工具痕。胎土：クサリ礫。小礫。海綿骨針。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：8.8cm、底径：2.5cm、器高：15.8cm。注口部先端欠損。頸部施文順(沈線→縄文→貼瘤)。	P-1254	29
103-9	181	IVR-47	III層	深鉢	II Ba1t	後期8	平口縁に突起。口唇：面取。外面：刻目。貼瘤。沈線による入組文。刻目を伴う。縄文施文なし。無文部はミガキ。体部下半ナデ。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫多い。使用痕：外スス。内コケ。	口径：14.8cm、底径：7.0cm、器高：17.1cm。	P-1255, 1256	1261

縄文土器観察表 (66)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
103-10	181	IVR-47	III層	台付深鉢	II Ba1t	後期7-4	平口縁に突起。形態の異なる突起を交互に配す。円形貼付文を直下に伴う突起と、外面が肥厚する山形突起が交互に付加され、前者は頂部の前後で分岐する双頭を呈する。口唇：面取。外面：口縁部の突起と屈曲部の貼付の異なる円形と楕円形の異なる組み合わせには規則性と、屈曲部に交互に付される円形と楕円形の異なる組み合わせには規則性が看取される。口縁部文様帯、頸部文様帯、屈曲部には太い刻目を斜め横方向から施す刻目帯を敷き、頸部文様帯が上段と下段に多帯化する。多帯化する文様帯相互には同一文様帯が施され、文様の起点を突起に対応させ、主軸線が水平に沈刻されて面縁が共に開く三又状沈刻が展開する。三又状沈刻の咬合部には、上下からの棘状沈刻が施されるが、上段と下段の文様で互い違いに出現する。縄文LR(磨消)。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：25.8cm、底径：7.8cm、器高：26.7cm。 外面炭；2995±20yrBP。 補修孔あり。残存率2/5。	P-1256, 1538, 1727	1349
103-11	181	IVR-47	III層	深鉢	II Ba1t	後期7-4	平口縁に突起。口唇：面取。外面：突起直下に円形の貼付を3個一組で付加し、突起と突起の中間点には口唇部直下に単一の貼付を付す。口縁部文様帯には無文帯を介する2帯一組と単帯の刻目帯が巡り、単帯の刻目帯に貼付を付す。屈曲部は無文帯を介する単帯と2帯一組の太い刻目で表出する刻目帯が巡り、相互の刻目帯に付した貼付が突起と相互に呼応する。頸部文様帯には縄文LRによる入組文。縄文LR(磨消)。入組文の描線の上端と下端が刻目帯に連結する。体部は無文。使用痕：外面に広くススとコゲが、内面の上半と底部付近にコゲが付着。胎土：粘土基質高い。細砂粒。海綿骨針。	口径：32.2cm。 外面炭；3030±20yrBP。 残存率3/5。	P-1255, 1256	1324
104-1	181	IVR-48	III層	深鉢	II Ba1t	後期7-4	平口縁に突起。外面が肥厚する1単位の山形突起と3単位で一組の三山突起を交互に配す。口唇：面取。外面：口縁部の突起とその直下の貼付、屈曲部の貼付とが上下で呼応し、頸部文様帯の入組文の連繋部もこれに呼応する。口縁部の突起形態と屈曲部の貼付には規則性が窺われ、三山突起の下位には1単位の貼付が、山形突起の下位には2個1対の貼付が付される。口縁部文様帯と屈曲部に太い刻目を斜め横方向から施す刻目帯を2帯付けて頸部文様帯を画し、入組文を生成し、上下の刻目帯には弧線文が連結する。縄文LR(磨消)。体部は無文となる。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：23.4cm。 外面炭；2985±20yrBP。 残存率2/3。	P-1238	1335
104-2	181	IVR-48	III層	深鉢	II A1t	後期7-4	平口縁に突起。口唇：面取。外面：突起の頂部直下と上方が途切れるC字状の弧線文を表出し、口縁部文様帯には口縁部形態に連繋する縄文帯が波状に巡り、無文帯を介して下端を横位沈刻で画す。この無文帯の波底部最下点下方に粒径の小さい貼付を付し、頸部文様帯の下端を画す縄文帯には突起と呼応する貼付を付す。頸部文様帯には沈刻描出による入組文を生成し、入組文の描線の上端と下端が頸部文様帯の区画に連結する。縄文LR(磨消)。体部は無文となる。使用痕：外面に広くススとコゲが、内面の上半と下端にコゲが付着。胎土：細砂粒が多い。海綿骨針。	口径：20.3cm。 外面炭；2970±20yrBP。 縄文全体的に磨滅。残存率1/2。	P-1239	1226
104-3	181	IVR-48・ IVR-49	III層	深鉢	II	後期7-4	口唇：面取。外面：波状口縁。波頂部に三山の突起。波底部に突起。沈瀬間に連繋する刻目。沈瀬。縄文LR(磨消)。磨消部はミカギ。頂部に2本の刻目がある貼付。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。			1410
104-4	181	IVR-48	III層	台付浅鉢	I B1t	晩期1a	口唇：面取なし。外面：ミカギ。内面：ナデ。底面に凹形の凹み。胎土：精良。海綿骨針。使用痕：なし。内外面磨滅と剝離激しい。	口径：22.4cm、器高：9.2cm、底径：8.2cm。	P-1219	1182
104-5	182	IVR-48	III層	深鉢	II Ba1t	後期8	平口縁に突起(8単位前後)。突起頂部には内面にのびる刻目。口唇：面取。外面：沈瀬。沈瀬による入組文。縄文LR。体部無文。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：27.0cm。施文順(沈瀬→縄文→沈瀬再施文)。	P-1401	1264
104-6	182	IVR-48	III層	台付深鉢	II Ba5	後期8	口縁部に突起が連繋。大小の山形突起を交互に配す。口唇：面取。外面：口縁部文様帯は口縁部の形態に連繋して無文帯が波状に巡り、大突起の直下と頂部とする波状の沈瀬を表出する。頸部文様帯には入組文を生成し、入組文の描線の上端と下端が区画帯に連結する。縄文LR(磨消)。体部と入組文は無文。使用痕：外面にススとコゲが、内面にコゲが付着。	口径：21.2cm、底径：9.2cm、器高：24.4cm。 残存率1/2。	P-1383	1245
104-7	182	IVR-48	III層	鉢	II Bb	晩期1b	口唇：面取なし。外面：口縁部縄文LR。沈瀬。縄文LR。縄文地に入組三又文。体部ナデ。底部：高台。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：10.5cm、器高：8.6cm、底径：4.7cm。外面赤彩カ。	P-1153	1320
104-8	182	IVR-48・ IVS-48	III層	深鉢	II Ba5	後期8	平口縁に連繋する突起。突起は頂部に3本の刻目をもつヒレ状の突起と山形突起の2種が交互に付される。口唇：面取。外面：面取。外面：沈瀬。縄文LR(磨消)。沈瀬による入組文。内面：ナデ。胎土：クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外スス。	補修孔。	P-1719, 1720, 1750	1256

縄文土器観察表 (67)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
104-9	182	IVR-48	III層	深鉢		晩期1a	口縁に頂部を2箇所刻む突起。口唇：面取。外面：突起部に三又状の執りが対向して配置される。縄文LR。縄文地に、沈線間に連続する短沈線を施す。内面：ナデ。胎土：精良。海綿骨針。使用痕：外スス。内コグ。			1413
104-10	182	IVR-48	III層	深鉢	I Bb1t	晩期1a	平口縁に突起。口唇：面取。外面：沈線。縄文LR(磨消)。沈線による入組文。入組部に円形刺突。磨消部はナデ。文様部は2段に分かれる。体部下半ナデ。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。内コグ。			1411
104-11	182	IVR-48・IVR-49	III層	浅鉢	II 2t	晩期1b	平口縁に突起。口唇：刻目。外面：頸部に沈線による入組三又文。体部ケズリのち縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：なし。	口径：28.5cm。	P-918	1368
105-1	182	IVR-49	III層	深鉢	II Bb2t	晩期1b	平口縁にB突起風の突起。口唇：刻目。外面：縄文地(縄文LR)に沈線。沈線の一部が「ノ」の字状に垂下。内面：ケズリ(下から上へ。口縁付近ヨコ)。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コグ。	口径：19.0cm。施文順(縄文→沈線)。外面付着炭化物年代測定中。	P-1120	1367
105-2	182	IVR-49	III層	深鉢	II Bb2	晩期1b	口唇：刻目。外面：口縁部は沈線による入組三又文。円形刺突を伴う。頸部に隆帯。隆帯上に円形刺突と沈線。体部は全面に縄文LR。肩部は縄文地に沈線による入組文。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。内コグ。	口径：23.1cm。	P-1067	1248
105-3	182	IVR-49	III層	深鉢	II Bb4	後期8	小波状口縁。口唇：面取なし。外面：縄文地(縄文LR)に沈線。沈線間に連続する短沈線で文様部を区画。体部縄文LR。内面：ナデ。胎土：クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外スス。			1406・1405
105-4	182	IVR-49	III層	浅鉢	II 1	晩期1b	口唇：面取なし。外面：ミガキ。沈線。入組三又文。体部縄文LR。内面：ミガキ。胎土：精良。海綿骨針。ごく少量の小礫とクサリ礫。使用痕：なし。	105-5と同一個体。		1407
105-5	182	IVR-49	III層	浅鉢	II 1	晩期1b	一	105-4と同一個体。	P-1103	1408
105-6	182	IVR-49	III層	粗製鉢	I Aa1	後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：ケズリのちミガキに近いナデ。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫多い。使用痕：外ススか。内外面摩滅激しい。	口径：15.3cm、器高：12.2cm、底径：8.2cm。	P-1337, 1338	1185
105-7	182	IVR-49	III層	粗製鉢	I Bb1t	後期後葉～晩期	平口縁に突起(単位数不明)。突起は一山と二山が交互。口唇：面取。外面：縄文LR。体部下半摩滅。底部：高台。使用痕：外スス。内コグ。	口径：20.4cm、器高：19.8cm、底径：7.0cm。胎元形。	P-1333	1210
105-8、9	182	IVR-49・IVS-48	III層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：縄文(無節)。内面：ナデ。幅5mm位の工具を使っている。底部：凹底。胎土：小礫。クサリ礫。使用痕：外スス。		P-1558	1412-1・3
105-10~12	183	IVR-48・49	III層	粗製深鉢		後期後葉～晩期	外面：縄文LR。内面：ナデ。一部ケズリ。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外スス。	赤色顔料付着。内面：赤色顔料付着。底部に赤色顔料塊。顔料の精製に用いられたものか。	P-1100, 1148	1418
105-13	183	IVR-50	III層	粗製深鉢	I Aa1t	晩期2~3	片口。平口縁にB突起(単位数不明)。口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。口縁に面取時の粘土の段。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。	口径：16.0cm。		1366
105-14	183	IVS-50・IVR-50	III層	台付鉢		晩期1a~b	外面：ミガキ。台部の接地部を面取状に強くナデ。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：なし。外面黒斑。	底径：12.6cm。台部内面に赤色顔料付着。	P-1542	1346
105-15	183	IVR-50	III層	注口		晩期1a	外面：沈線。ミガキ。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：なし。	底径：2.0cm。注口部は基部から剥離。	P-1184	1201
105-16	183	IVR-50	III層	注口	III	晩期1b	外面：ナデ。注口部周辺のみ沈線による文様。注口基部に粘土帯。注口先端摩滅。内面：ナデ。胎土：白色の小礫少量。海綿骨針。使用痕：なし。	口径：5.2cm、器高：6.6cm。注口部完存。	P-1291	18
106-1	183	IVR・S-45	III層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。縄文は面取前に施文。内面：ナデ。底部：平底。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コグ。	口径：30.0cm、器高：33.0cm、底径：7.4cm。	P-1150	289
106-2	183	IVR・S-45	III層	粗製鉢	I Aa1	後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。縄文は面取後に施文。内面：ナデ。板状工具痕。底部：平底。胎土：砂粒。使用痕：外スス。内コグ。	口径：30.7cm、器高：25.3cm、底径：9.2cm。	P-1150	183
106-3	183	IVS-45	III層	半精製台付鉢	II Bc2t	晩期3	口縁突起(4単位)。口唇：刻目。外面：沈線。沈線間に刺突列。肩部突起1箇所。体部縄文LR。内面：口縁に強い張り出し。沈線。使用痕：外スス。内コグ。胎土：砂粒。海綿骨針。	口径：19.1cm。外面付着炭化物年代測定中。	P-1179	171

縄文土器観察表 (68)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
106-4	184 巻頭9下	IWS-45	III層	壺	III1	晩期3	口唇：面取なし。外面：口縁沈線。頸部ミガキ。体部沈線。沈線による雲形文(彫去なし)。縄文LR(磨消)。体部下半ミガキ。底部：円形沈線のみで体部との明瞭な区分はない。内面：ナデ。胎土：精良。使用痕：なし。	口径：8.4cm、底径：3.0cm、器高：13.9cm。施文順(縄文→沈線)。外面赤彩(漆)。	P-1055	178
106-5	184	IWS-45	III層・III層下部	半精製壺	III1t	晩期4	平口縁にB突起(1単位)。口唇：面取なし。外面：口頸部ナデ。体部縄文LR。頸部に沈線と突起。底部：平底。内面：体部ケズリ。口縁ナデ。口縁に沈線。胎土：小礫。クサリ礫。使用痕：外スス。外面黒斑。	口径：9.0cm、器高：17.6cm、底径：7.4cm。		1080
106-6	184 巻頭9下	IWS-45	III層	鉢	II Bc1	晩期3	口唇：沈線。外面：ミガキ。平行沈線文。底部：円形の凹底。内面：ミガキ。胎土：精良。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：12.8cm、器高：8.2cm、底径：4.1cm。内外面赤彩(漆)。	P-1297	157
106-7	184	IWS-45	III層	粗製深鉢	I Bb1	後期後葉～晩期	口唇：面取なし。外面：縄文LR。底部直上5cmくらいは縄文なし(ナデ)。底部：平底。底面は丁寧なナデ。内面：ナデ。胎土：小礫多く含む。使用痕：外スス。内コゲ。内面黒斑。	口径：23.0cm、器高：24.3cm、底径：9.0cm。	P-1180	255
106-8	184	IWS-45	III層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：口縁に面取時の粘土の段。口縁をヨコナデした部分もある。縄文LR。底部直上2cmくらいは縄文なし(ナデ)。底部：平底。底面黒斑。使用痕：外スス。内コゲ。外面黒斑。	口径：27.6cm、器高：30.1cm、底径：9.2cm。	P-1057	296
107-1	184	IWS-46	III層	半精製鉢	II Bc4 t	晩期4	小波状口縁に大突起(4単位)。大突起口唇に沈線。外面：無文部ミガキ。頸部中央に沈線。沈線内に刻目。頸部下端に沈線。大突起下で沈線から上方に向かって、トゲ状の抉り。体部縄文LR。原体の異なる縄文LRが2段認められる。体部と底部の境に沈線。底面ミガキ。内面：口縁沈線。大突起裏に三叉状の抉り。ナデ。胎土：精良。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：21.2cm、底径：6.4cm、器高：14.5cm。内面付着炭化物年代測定中。	P-997	1310
107-2	184	IWS-46	III層	深鉢	I	後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：沈線。縄文LR。内面：ナデ。胎土：クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外スス。	補修孔。		1454
107-3	184	IWS-46	III層	半精製深鉢	I Ba1t	晩期5	平口縁にB突起(単位数不明)。口唇：沈線。沈線施文前に端部を上からつぶすようにヨコナデしており、その時に生じた粘土の段は未調整。外面：ナデ。沈線。縄文LR。底部直上2cmほどは縄文なし。肩部から口縁に向けて立ち上がる突起、橋状に口縁に接する。突起付け根に小突起。底部：平底。内面：口縁沈線。ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：19.3cm、底径：6.4cm、器高：19.2cm。施文順(突沈線、縄文→肩部突起)。	P-1171	1208
107-4	184	IWS-46	III層	鉢	I Bb1	晩期3か	片口。口唇：弱い面取。外面：ナデ。内面：ナデ。胎土：精良。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：13.1cm。		1202
107-5	184	IWS-46	III層	粗製深鉢	I Bb1t	後期後葉～晩期	平口縁に突起(B突起1単位か)。口唇：面取なし。外面：縄文LR。粘土紐の接合痕が残る部分が多い。内面：ナデ。底部：平底。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：28.6cm、器高：30.9cm、底径：8.0cm。		1235
107-6	184	IWS-46	III層	粗製壺	III1t	晩期3~4	平口縁に突起(2単位か)。口唇：面取。外面：口縁肥厚。ナデ。縄文LR。内面：口縁沈線。ナデ。胎土：砂粒。使用痕：なし。器壁が非常に厚い。	口径：17.5cm。		1363
107-7	184	IWS-46	III層	壺		晩期4	外面：沈線。縄文LR。内面：ナデ。胎土：精良。海綿骨針。使用痕：なし。			1393
108-1	185 巻頭8上	IWS-47	III層	深鉢	II Ba1t	後期7-4	平口縁に三山状の突起(4単位)。口唇：面取。外面：沈線間に連続する刻目。貼瘤。沈線による入組文。縄文LR(磨消)。磨消部は彫去状。体部下半ナデ。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：17.7cm、底径：7.0cm、器高：18.0cm。	P-1730	1219
108-2	185	IWS-47	III層	鉢	I Aa1t	後期7-4	平口縁に突起。口唇：面取。外面：口縁部文様帯には口縁に平行する幅の狭い1帯の無文帯と2帯の刻目帯を形成し、刻目帯は斜め横方向から等しい間隔で施す刻目で表出する。頸部文様帯の下端は同様の1帯の刻目帯で面取すが、頸部文様帯を無文で構成し、さらに体部文様帯も無文となる。底部：高台。使用痕：口縁部から体部の外面に薄いスス、口縁部から体部上位の内面にコゲが広く帯状に付着する。胎土：緻密で精選され、粘土基質の量比较高い。細砂粒。微量の海綿骨針。	口径：15.8cm、底径：6.6cm、器高：15.0cm。施文順(口縁部は刻目→平行沈線、胴部は平行沈線→刻目)。残存率1/2。	P-1781	100

縄文土器観察表 (69)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
108-3	185	IWS-47	III層	深鉢		後期7-3	口唇：面取。外面：貼瘤。瘤は口縁部に上下2段、体部半ばに1段(2段の可能性もある)に密に施される。口縁直下の貼瘤は数単位おきに大きいものが貼付けられる。ナデ。内面：ナデ。胎土：クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゴ。内面に黒斑残るため使用頻度低い。		P-1768	1401
108-4	185 巻頭8上	IWS-47	III層	粗製深鉢	II Ba1t	後期7~8	平口縁に突起(4単位か)。口唇：面取。外面：体部上半に縄文LR。下部はナデ。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫多く含む。使用痕：外スス。内コゴ。	口径：16.0cm、底径：5.7cm、器高：18.4cm。残存率3/4。体部の屈曲が明瞭である。このような器形は8期は少なくなるとため、7章では7-4期とした。	P-1765	43
108-5	185	IWS-47	III層	粗製鉢	II Ba1	後期後葉 ~晩期	口唇：面取。外面：ナデ。体部縄文LR。体部と底部の境に沈線。底部：高台。内面：ナデ。胎土：砂粒。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：なし。内外面に黒斑が確認できる。	口径：19.2cm、器高：15.4cm、底径：8.8cm。	P-1769	1209
108-6	185	IWS-47	III層	粗製鉢	I Aa1	後期後葉 ~晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。底部：高台。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。内コゴ。	口径：14.4cm、器高：11.8cm、底径：5.6cm。	P-1770	1186
108-7	185	IWS-47	III層	深鉢		後期8	口縁に大小の突起が交互に連続。大突起頂部に刻目。口唇：面取。外面：沈線による入組文。縄文LR。磨消縄文だが磨消しが雑で縄文が残る部分が多い。使用痕：外スス。胎土：海綿骨針。小礫。クサリ礫。	口径：27.2cm。施文順(縄文→沈線)。施文方向が一定せず、充實施文のようだが、無文帯は磨消の痕跡あり。	P-1345, 1346, 1347	1361
108-8	185	IWS-47	III層	粗製深鉢	I Bb1	後期後葉 ~晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゴ。	口径：8.4cm、底径：6.0cm、器高：4.7cm。	P-1729	1233
108-9	185	IWS-47	III層	深鉢	II Ba1 t	後期8	平口縁に連続する突起。口唇：面取。外面：縄文LR(磨消)。沈線。沈線による入組文。沈線間に連続する短沈線。短沈線は縄文地に上下2段で引かれている。体部下半はナデ。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。内コゴ。	口径：27.2cm。施文順(縄文→沈線)。施文方向が一定せず、充實施文のようだが、無文帯は磨消の痕跡あり。	P-1349	1404
108-10	185	IWS-47	III層	半精製深鉢	I Aa1	晩期4	口唇：面取。外面：縄文地に沈線。縄文LR(斜位)。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外面のススはごく少量。黒斑らしきもの認められ、使用頻度は低い。	内面に赤色顔料が付着している。顔料の精製に用いられたものとも考えられる。	P-1258	1246
108-11	185	IWS-47	III層	粗製壺	III 1	晩期3か	口唇：面取なし。外面：口唇部ナデ。頸部と体部の境に沈線。縄文LR。内面：ナデ。口縁沈線。胎土：小礫。使用痕：なし。	口径：7.5cm、器高：13.1cm、底径：4.7cm。	P-1222	1176
108-12	185	IWS-47	III層	半精製壺	III 1 t	晩期4	平口縁にB突起(1箇所残存)。口唇：沈線。外面：口縁外端に粘土紐を貼付け、外側に突出させている。頸部ミガキ。頸部と体部の境に沈線。体部縄文LR(斜位)。内面：口縁沈線。ナデ。板状工具痕。胎土：クサリ礫。使用痕：体部下半にスス。煮沸に用いられたのではないと思われる。外面黒斑。	口径：8.4cm、底径：6.0cm、器高：16.3cm。	P-1221	99
109-1,2	186	IWS-48	III層	壺	IV	晩期1b	外面：頸部眼鏡状隆帯。沈線。縄文LR。底部：凹底。内面：ナデ。底面やや盛り上がる。胎土：クサリ礫。使用痕：なし。	底径：6.3cm。	P-1559	1352
109-3	186	IWS-48	III層	深鉢	I Clt	後期7-4	平口縁に突起(一山のもの二山一組のものが交互か)。口唇：面取。外面：沈線間に連続する刻目。貼瘤。ナデ。内面：ナデ。口縁に面取時の粘土段が一部未調整。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゴ。	口径：26.0cm。	P-1721, 1761	1229
109-4	186 巻頭8上	IWS-48	III層	深鉢	II Ba1t	後期7-4	平口縁に大小の3個一組の突起が交互に配置(計10単位)。大小どちらも3個一組の中央の突起は縦長で、刻目が列状に施される。大突起の両端の突起は頂部に刻目。小突起の両端の突起は、口唇を刻むことにより作出。口唇：面取。頸部文線は上下に分かれ、それぞれ異なる文線が配置される。沈線間に連続する刻目。縄文LR。貼瘤(円と楕円の2種)。磨消部は彫去状。体部下半ナデ。内面：ナデ。使用痕：外スス。内コゴ。外面体部下半、内底面、口縁内面に黒斑残るため使用頻度低い。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。	口径：52.8cm、底径：10.6cm、器高：54.0cm。補修孔2対。一組は胴部中央付近。アクリル系樹脂で修復。	P-1761, 1821, 1822, 1823	1328
109-5	186	IWS-48	III層	注口	II 1	後期7-4	口唇：面取。外面：頸部に貼瘤(5単位。1箇所以外は剥落)。貼瘤間をつなぐ沈線。ミガキ。底部：高台。内面：ナデ。体部最大径の部分に連続した爪痕。胎土：海綿骨針。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：8.9cm、底径：2.6cm、器高：15.9cm。注口部は基部から剥離。	P-1821-2	32
110-1	186	IWS-48	III層	深鉢	II Ba4	晩期1b	小波状口縁。外面：縄文LR。縄文は面取前に施文か。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゴ。	口径：19.4cm。	P-1758	1253
110-2	187	IWS-48	III層	粗製鉢	I Bb1	後期後葉 ~晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。縄文は面取前に施文か。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゴ。高台接地面と底面摩擦。	口径：20.6cm、器高：21.5cm、底径：8.4cm。	P-1758	1211

縄文土器観察表(70)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
110-3	187	IWS-48	III層	注口	III1t	晩期1b	平口縁に突起(1単位。注口部の上に対応)。口唇：弱い面取。外面：沈線。縄文LR。入組三叉文。注口部の上の口縁に「ノ」の字状の文様。ミガキ。注口基部に円形の沈線。玉抱骨針。外面全体を黒色に焼き上げている。内面：ナデ。口縁ミガキ。胎土：精良。海綿骨針。使用痕：なし。	口径：12.0cm。注口部完存。	P-1756, 1794, 1802	1359
110-4	186	IWS-48	III層	注口	III	晩期1b	外面：ミガキ。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：8.4cm、器高：10.6cm、底径：2.5cm。注口部は基部から欠損。	P-1802	1172
110-5	187	IWS-48	III層	粗製鉢	IBb1	後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。底部：低平な高台。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。内コグ。	口径：20.9cm、器高：18.6cm、底径：8.7cm。	P-1753, 1794	1207
111-1	187	IWS-48	III層	深鉢	II Bb4t	晩期1b	小波状口縁。台形状の突起(1単位)。外面：縄文LR(縄文LR)に沈線。突起下に「ハ」の字状の沈線。沈線間に連続する2段の短沈線。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コグ。	口径：20.0cm。施文順(縄文→沈線)。外面付着炭化物年代測定中。	P-1716, 1718	1249
111-2	187	IWS-48	III層	粗製深鉢	II Bb4 t	後期後葉～晩期	小波状口縁に突起(1単位)。口唇：刻目。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コグ。	口径：19.2cm。正面性のある粗製土器。	P-1717, 1793, 1800	1290
111-3	187	IWS-48	III層	粗製深鉢	II Bb4	後期後葉～晩期	小波状口縁。外面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コグ。	口径：13.3cm。	P-1759	1314
111-4	187	IWS-48	III層	深鉢	II Ba3t	後期7-4	波状口縁。波頂部にB突起風の突起。口唇：面取後、刻目。外面：沈線間に連続する刻目。貼瘤。貼瘤は多様(縦長で上部に横3本の刻目があるもの。円形。円形で上部を十字に刻むもの。横長の楕円形で縦1本の刻目があるもの。)文様が異なる部分および体部下半はナデ。内面：口縁刻目。沈線。ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。内コグ。		P-1318	1257
111-5	187	IWS-48	III層	鉢	II Ba1t	後期7-4	平口縁に大小の二山状突起(計8単位)。口唇：面取。外面：沈線間に連続する刻目。貼瘤。沈線による入組文。縄文LR(磨消)。縄文LRは節の大きさが不揃い。磨消部除去。体部無文。使用痕：外スス。内コグ。使用傾度低い。胎土：砂粒。海綿骨針。	口径：21.0cm。施文順(沈線→縄文→沈線再施文)。	P-1817	1296
112-1	187	IWS-48・IWS-49	III層	深鉢	II Ba3	後期7-4	波状口縁(5単位か)。口唇：面取。外面：貼瘤。沈線に連続する刻目。沈線。縄文LR(磨消)。磨消部は彫去状。体部下半ナデ。底部：高台。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。	口径：39.0cm、底径：8.0cm、器高：35.5cm。補修孔あり。完形。	P-1722, 1763	1312
112-2	186	IWS-48	III層	粗製壺	III1	後期8	口唇：面取なし。外面：頸部と体部の境に沈線。体部縄文LR。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外面黒斑。	口径：4.2cm、器高：9.2cm、底径：5.0cm。 内面全体(口縁から2cm下まで)に赤色顔料付着。粉末状ではないことと、破断面にも染まったように付着していることから顔料の水溶液を入れていたものと推定できる。	P-1818	1190
112-3	186	IWS-48	III層	粗製浅鉢	IB1	後末～晩初	口唇：面取。一部面取なし。外面：縄文LR。高台部分強いヨコナデにより体部との境に一段。底部：高台。底面ケズリ。内面：ナデ。底面ケズリ。胎土：小礫。クサリ礫。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：8.7cm、器高：4.1cm、底径：5.6cm。	P-1723	1266
112-4	186	IWS-48	III層	注口	II 1	晩期1a	口唇：面取。外面：ケズリのちミガキ。注口先端磨滅。注口部直下に二袋状の彫らみ。内面：ナデ(板状工具か)。口縁ミガキ。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：なし。小波状口縁。口唇：面取なし。外面：沈線。縄文LR。沈線による入組文。文様部に縄文は施文されない。無文部はミガキ。体部縄文LR。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。	口径：8.5cm、器高：13.5cm、底径：4.5cm。注口部完存。	P-1720	1194
112-5	187	IWS-48	III層	深鉢	II A4	晩期1a	外面：沈線。縄文LR。体部下半ナデ。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。内コグ。	底径：9.0cm。	P-1555	1390
112-6	186	IWS-48	III層	台付深鉢		後末～晩初			P-1565	1372

縄文土器観察表 (71)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
113-1	188	IWS-49	風倒木	深鉢	II Ba3t	後期7-4	波状口縁(6単位)。波底部に突起。口唇：面取。外面：口縁部文様帯には口縁部形態に連動する刻目帯が波状に巡り、波底部の刻目帯直下には帯状文による下向きの弧線文を表出する。波頂部の直下には粒径の小さな円錐形の貼瘤を2個一組で付し、頸部文様帯下端を画する刻目帯上の貼瘤と上下で呼応する。一方、波底部の直下には横長瘤を付す。頸部文様帯には入組文の生成し、入組文の描線の上下と波底部の区画帯に連続する。縄文LR(磨消)。体部は無文となる。使用痕：外面にススとコゲが、内面にススとコゲが付着。胎土：緻密で、粘土基質の量が高い。細砂粒。海綿骨針多い。	口径：23.2cm。外面炭：3005±20vrBP。残存率1/2。		1191
113-2	188	IWS-49	風倒木・III層	深鉢	II Ba1t	後期7-4	平口縁に突起。形態の異なる2種の突起を交互に配置する。一方が両側に耳状の小突起を伴う山形突起で、他方が外面が肥厚する2個一組の山形小突起である。口唇：面取。外面：山形突起の直下には横位の三日月形瘤を、山形小突起の直下には互いに背向する三日月形瘤を付加する。口縁部文様帯と屈曲部に太い刻目による刻目帯を設け、屈曲部の刻目帯には口縁部の突起に対応する位置に、三日月形瘤を付加する。頸部文様帯には描線の上端と下端が区画帯に連続する入組文が生成される。縄文LR(磨消)。体部は無文。底部：高台。使用痕：外面にススとコゲが、内面に波状線の上の帯状のコゲが付着。	口径：25.2cm、底径：8.2cm、器高：25.0cm。残存率1/3。		1332
113-3	188	IWS-49	III層・風倒木	深鉢	II Ba1t	後期7-4	平口縁に突起。口唇：面取。外面：頂部が平坦な山形突起を中央に、その左右両側に山形突起を配し、ともに端部外面が肥厚する。これらの突起の直下に貼瘤を付加するが、中央の貼瘤の直下には縦長瘤が付され、互いに連結する。口縁部文様帯には無文帯を介する2帯の刻目帯を、屈曲部も同様に無文帯を介する2帯の刻目帯を形成する。これらの刻目帯は等間隔に施す斜め横方向からの太い刻目で表出され、屈曲部の刻目帯には突起と突起直下の貼瘤に呼応して3個一組の貼瘤を付加する。頸部文様帯には縄文地に沈線による入組文。縄文LR(磨消)。入組文の上下と下端が区画帯に連続。使用痕：外面にススとコゲが、内面に僅かにコゲが付着。	口径：26.0cm。外面炭：2985±20vrBP。残存率2/5。	P-1683, 1684	1224
113-4	188 巻頭8上	IWS-49	風倒木	台付浅鉢	I B1	後期7-4	口唇：面取。外面：ミガキ。内面：ミガキ。台部はナデ。胎土：小礫多く含む。	口径：18.5cm、器高：12.0cm、底径：12.7cm。風倒木の一括資料のため、後期7-4期と判断した。		1199
113-5	188	IWS-49	風倒木	注口	III 1t	後期7-4	平口縁に突起(6単位)。突起頂部に刻目。口唇：面取。外面：貼瘤。沈線。縄文LR。頸部文様は4単位。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫多い。使用痕：なし。外面摩擦激しい。	口径：6.0cm、底径：2.0cm、器高：13.3cm。注口部は基部から剥離。粉末状の赤色顔料が入った状態で出土したため、内面に赤色顔料が付着。外面頸部は赤彩の可能性がある。		33
113-6	188	IWS-49	風倒木・III層	注口	II 1	後期7-4	口唇：面取。外面：ミガキ。貼瘤。沈線。縄文LR。注口基部中央に貼瘤一つ。その両側に隆帯を貼付。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：6.8cm、底径：2.0cm、器高：15.4cm。注口部は基部から欠損。	P-1814	1305
113-7	188	IWS-49	風倒木	注口	II 1t	後期7-4	平口縁に大交互の突起(計9単位)。突起頂部に刻目。口唇：面取。外面：口縁に突起と一体となった隆帯。隆帯上に横位沈線。縄文LR。体部ミガキ。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：8.8cm、底径：1.8cm、器高：15.9cm。注口部は基部から欠損。		31
113-8	188	IWS-49	風倒木	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：31.9cm。		1237
113-9	188	IWS-49	風倒木	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR(横位)。体部下半は縄文LR(斜位)。底部：高台。使用痕：外面に僅かにスス。	口径：19.0cm、底径：7.6cm、器高：23.0cm。		68
114-1	189	IWS-49	風倒木・III層	台付鉢	II Ba1t	晩期1a	口唇：面取。口縁に突起が連続(単位数不明)。外面：口縁部の沈線はナデで一部途切れている。頸部に沈線と縄文LRによる入組文。文様帯下端は沈線間に連続する短沈線による区画。体部無文。使用痕：外スス。内コゲ。胎土：砂粒。海綿骨針。	口径：30.0cm。		1339
114-2	189	IWS-49	風倒木・III層	台付鉢	II Ba5	晩期1a	口縁に連続した突起。口唇：面取。外面：縄文LR(磨消)。沈線。沈線による入組文。磨消部ナデ。文様帯下端を沈線内に連続する短沈線(縄文地)で区画。体部下半ナデ。内面ナデ。胎土：クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゲ。	口径：30.0cm。		1347

縄文土器観察表(72)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
114-3	189 巻頭8上	IVS-49	III層	台付鉢	II Ba3t	後期7-4	波状口縁(10単位か)。頂部には形態の異なる2種の突起を交互に配す。波底部には縦長帯が垂下する。口唇：面取。外面：口縁部文様帯には口縁部形態に連動して無文帯を介在する刻目帯が波状に巡り、突起下方に刻目を伴う円形文を配し、両側にはくびれのある四角形をしたネガ文様が展開する。屈曲部には無文帯を介在する2帯の刻目帯が巡り、波頂部の突起に呼応して形態の異なる5種の貼瘤を付加する。頸部文様帯には沈線描出による入組文を生成する。縄文RL(磨消)。入組文の描線の先端と下端が区画帯に連結する。体部と高台部はともに無文となる。使用痕：外スス。	口径：27.5cm、底径：12.0cm、器高：31.0cm。 補修孔あり。完形。	P-1771, 1804	1304
114-4	189	IVS-49	III層	注口	II 1t	後期7-4	平口縁に突起。口唇：面取。外面：突起頂部から貼瘤にかけて沈線。頸部文様5単位。沈線。縄文RL。貼瘤。大きい貼瘤は上部に刻目。黒斑残存。底部：高台。胎土：砂粒。海綿骨針。	口径：7.4cm、底径：3.7cm、器高：20.9cm。施文順(縄文→沈線)。注口部は基部から欠損。	P-1776	1308
114-5	189	IVS-49	III層	注口	II 1	後期7-4	口唇：面取。外面：貼瘤。縄文RL。注口下部に弧状の隆帯。器表面磨滅により文様一部不鮮明。底部：高台。胎土：小礫多い。海綿骨針。	口径：5.5cm、底径：1.7cm、器高：11.9cm。注口部は基部から欠損。	P-1746	1184
114-6	189	IVS-49・ IVR-49	III層	深鉢	II Ba5	後期8	平口縁に連続する二山状突起(単位数不明)。口唇：面取。外面：沈線。縄文RL(磨消)。沈線による入組文。入組文の屈曲部に三叉状の沈線。磨消部はナデ。体部下半ナデ。内面：口縁に面取時の粘土の段。ケズリのちナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コダ。	口径：28.6cm。 施文順(縄文→沈線)。	P-1777	1288
114-7	189	IVS-49	III層	粗製 台付鉢		晩期1a~b	口縁形状不明。口唇：面取なし。外面：口縁ナデ。縄文RL。台部と体部接合部付近は縄文なし。内面：ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：なし。内外面黒斑。	底径：4.0cm。		1358
114-8	189	IVS-49	III層	台付鉢	II Ba1t	晩期1a	平口縁に山形突起と台形突起が交互(計8単位)。どちらも突起頂部に刻目。口唇：面取。外面：縄文RL(磨消)。沈線による入組文。磨消部はナデ。入組文の空隙に三叉文。屈曲部に眼鏡状隆帯。隆帯上にも縄文。体部下半縄文RL。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。内コダ。	口径：18.5cm。		1241
114-9	189	IVS-49	III層	浅鉢		晩期1a	小波状口縁。口唇：弱い面取。外面：沈線。縄文RL。沈線間に連続する短沈線。内面：ミカギ。胎土：海綿骨針。使用痕：なし。	内外面赤彩(漆)。 内外面付着漆年代測定中。		1386
114-10	189	IVS-49・ IVT-49	III層	深鉢	I Bb4	晩期1b	小波状口縁。外面：縄文地(縄文RL)に沈線。内面：ナデ。胎土：精良。使用痕：外スス。内コダ。器壁が非常に薄い。			1391
114-11	189	IVS-49	III層	深鉢	II Bb4	晩期1b	小波状口縁。口唇：面取。外面：沈線。沈線間に連続する短沈線。ケズリのち縄文RL。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。内コダ。	口径21.1cm。		1373
115-1	190	IVS-49	III層	台付浅鉢	I B4t	晩期1b	小波状口縁に三山状の突起(簡所)外面：縄文RL。沈線。入組三叉文。体部下半ミカギ。内面：ミカギ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：なし。	口径：23.5cm、底径：7.8cm、器高：12.5cm。		1188
115-2	190	IVS-49	III層	鉢	II Ba1	後期後葉 ~晩期	口唇：面取。外面：頸部に浅い沈線。全面に丁寧なナデ。内面：ナデ。板状工具の痕跡。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。			1477
115-3	190	IVS-49	III層	壺	III	晩期1b	外面：頸部に4単位の突起。突起間を沈線でつなぐ。体部：磨消縄文。文様は3単位。内面：ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：なし。外面黒斑。	器面剥落著しい。外面赤彩か。	P-1772	21
115-4	190	IVS-49	III層	壺		晩期4	外面：沈線。縄文RL。沈線間に連続する刻目。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：なし。	沈線内にやや赤味を帯びた漆塗痕の痕跡が認められることから、外面赤彩(漆)と 思われる。		1399
115-5	190 巻頭8上	IVS-49	III層	粗製深鉢	I Bb1t	後期7~8か コダ	平口縁に突起(単位数不明)。突起は一山と二山と三山があり5単位残存。山の数は3-2-1-3-1の配置。口唇：面取。外面：縄文RL。縄文は面取後に施文。底部：高台。底面に内側から穿孔。内面：ナデ。口縁に面取時の粘土の段。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コダ。	口径：17.9cm、器高：18.4cm、底径：8.0cm。 突起形状から後期のうちに取まると考えられる。7章で後期7-4期としたが、後期8期の可能性もある。	P-1779, 1780	1214
115-6	190 巻頭8上	IVS-50	III層	台付鉢	II Ba5	晩期1a	平口縁に大小の突起が交互に連続(単位数不明)。大突起は三山。小突起は一山。口唇：面取なし。外面：大突起間をつなぐ孤線。大突起下に「ハ」の字状の沈線。縄文RL。沈線による入組文。縄文RL(磨消)。磨消部はナデ。文様帯下端は沈線間に連続する短沈線で区画。体部下半ナデ。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コダ。	口径：13.3cm、底径：5.7cm、器高：11.8cm。		1279

縄文土器観察表 (73)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
115-7	190	IWS-50	Ⅲ層	注口	Ⅲ1	晩期1b	口唇：面取。外面：沈線。ミガキ。注口先端摩擦。注口直下に円形刺突と入組三叉文。注口部周辺に沈線文。内面：ナデ。胎土：精良。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：12.0cm、器高：11.8cm。注口部完存。	P-1634	1301
116-1	190	IVT-48	Ⅲ層	粗製深鉢	IBb1t	後期後葉～晩期	平口縁に突起(1単位)。口唇：面取なし。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コグ。	口径：24.8cm。補修孔。	P-1836	1238
116-2	190	IVT-49	Ⅲ層	深鉢	Ⅱ	後期7～8	口唇：面取。外面：沈線間の連続する刻目。貼瘤。縄文は用いず。沈線間の刻目による入組文。体部は縄文LRか。摩擦により不明。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。			1394
116-3	190	IVT-49	Ⅲ層	深鉢		後期7-3	口唇：面取。外面：連続する小さく低い貼瘤が2段。2段目の瘤より上は地文なし。縄文LR。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。内コグ。			1389
116-4	190	IVT-49	Ⅲ層	深鉢		後期8か	外面：鋭い沈線による格子文。格子の形状は一定でない。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。			1423
116-5	190	IVT-49	Ⅲ層	台付深鉢	ⅡA1t	後期8	平口縁に突起。突起は台形状のものと山形のもの2種が交互。突起頂部に刻目。口唇：面取。外面：縄文LR。沈線。沈線による入組文。縄文LR(磨消)。磨消部ナデ。三叉文。体部下半ナデ。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コグ。	口径：15.6cm。残存率4/5。	P-1705, 1749	1197
116-6	190 巻頭8上	IVT-49	Ⅲ層	深鉢	ⅡBa3t	後期7-4	波状口縁(7単位)。波頂部に円柱状の突起。波底部には上面に刻目のある貼瘤状の突起。口唇：面取。外面：沈線間に連続する刻目。貼瘤。縄文LR(磨消)。沈線による入組文。磨消部は膨去状。体部下半ナデ。内面：ナデ。胎土：小礫多く含む。使用痕：外スス。内コグ。内面黒斑。	口径：39.0cm。	P-1786, 1787	1341
116-7	190	IVT-49	Ⅲ層	注口		後末～晩初	外面：沈線。縄文LR。上部に円形刺突のある貼瘤。ミガキ。注口直下に縄文LRと沈線で施文。底部：高台。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：なし。	底径：4.1cm。注口部は基部から欠損。	P-1783, 1784	1196
116-8	190 巻頭8下	IVT-49	Ⅲ層	注口	Ⅲ1	後期8	口唇：面取。外面：ナデ。沈線。沈線による入組文。磨消縄文(縄文LR)。磨消部ナデ。三叉文を併う。体部ナデ。注口直下に膨らみ。底部：高台。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：8.6cm、底径：2.4cm、器高：18.1cm。注口部は途中から欠損。	P-1736	25
116-9	191	IVT-50	Ⅲ層	壺	I 1	後期7～8か	口唇：面取なし。外面：ケズリのち粗いミガキ。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：なし。外面黒斑。	口径：5.6cm、器高：14.7cm、底径：4.8cm。	P-1678	1318
116-10	191	IVT-50	Ⅲ層	注口	Ⅱ	晩期1a	外面：ナデ。内面：ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：なし。外面黒斑。	底径：2.0cm。注口部は基部から剥離。		1319
116-11	191	IVT-50	Ⅲ層	深鉢	ⅡA1t	後期8	平口縁に突起。突起頂部に刻目があり、二山状となる。口唇：面取。外面：沈線。貼瘤。縄文LR。沈線間に連続する短沈線。体部ナデ。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コグ。	口縁破損部に黒色物質(アスファルトか)付着。		1388
116-12	191	IVT-50	Ⅲ層	粗製深鉢	ⅡA5	後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：ケズリのち縄文LR。縄文は面取後に施文。底部：高台。内面：ナデ。胎土：小礫。砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。内コグ。高台接地面摩擦。	口径：20.3cm、器高：24.4cm、底径：7.6cm。補修孔。	P-1671, 1704	1325
116-13	191	IVT-50	Ⅲ層	粗製深鉢	I Aa1	後期後葉～晩期	口唇：面取。外面：縄文LR。縄文は面取後に施文。底部：高台。内面：口縁に面取時の粘土の段。ナデ。胎土：小礫多く含む。海綿骨針。使用痕：外スス。内コグ。	口径：20.8cm、器高：21.8cm、底径：8.7cm。	P-1789	1216
117-1	191	IVU-32	Ⅲ層	深鉢	Ⅱ	後期7～8	平口縁に突起。口唇：面取。外面：突起頂部に円形刺突。沈線間に連続する刻目。貼瘤。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。内コグ。			2241
117-2	191	IVT-29	Ⅲ層	深鉢		後期8	口唇：面取。外面：沈線。沈線間に連続する刻目。刻目の形状は細くゆるい弧状。ナデ。内面：ナデ。胎土：クサリ礫。使用痕：外スス。	74-3と同一個体か。		2245
117-3	191	IVV-32	Ⅲ層	深鉢		後期8	口唇：面取。外面：沈線。沈線間の刺突。刺突の原体は断面円形で中空の竹管状の工具。工具を締め刺すことにより、CV又はD字の形状をつくるが、所々は円形の刺突となっている。無文部はナデ。内面：ナデ。胎土：小礫。板状工具痕。胎土：海綿骨針。使用痕：外スス。			2209
117-4	191	IWP-35	Ⅲ層	香炉		後期8	香炉頂部。頂部に刻目のある突起が4単位。二方向に貫通孔。沈線。縄文LR。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：内スス。		P-1645	1458
117-5	191	IWP-36・ IVR-36	Ⅲ層	注口		後期8	外面：沈線。縄文LR(磨消)。沈線による入組文。入組部に円形刺突のある円形の貼瘤。貼瘤の周囲に三叉状の罫り。ナデ。内面：ナデ。胎土：クサリ礫。使用痕：なし。		P-259	1378

縄文土器観察表(74)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
117-6	191	IW-32・03川原平(1)/HJ-180	III層・I層	深鉢		後期8	平口縁に突起。口唇：面取。外面：縄文LR(磨消)。一部で糸がきれいに確認できず、別原体による疑似縄文も用いられている可能性がある。沈線。沈線による入組文。磨消部はナデ。内面：ナデ。胎土：小礫多く含む。クサリ礫。使用痕：外スス。内コゴ。			1396
117-7	191	IW-37	III層	深鉢		後期8	口縁突起部分。口唇：面取。外面：粘土紐貼付と沈線で人面を表現。内面：口縁に面取時の粘土の段。胎土：砂粒。使用痕：内コゴ。			2229
117-8	191	IW-31	III層	注口		後末～晩初	外面：ナデ。底面に外側から2箇所孔。内面：ナデ。胎土：海綿骨針。使用度：なし。			2187
117-9	191	IW-31・IW-32	I層～III層・III層	深鉢	II	晩期1b	小波状口縁。口唇：面取。外面：沈線による入組文。縄文LR。内面：ナデ。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外スス。			2307
117-10	191	IW-31	I層～III層	鉢	I Bb5	晩期2	口唇：刻目。外面：沈線。連続する「ノ」の字状の刻目。体部縄文LR。内面：ナデ。胎土：精良。使用痕：外スス。内コゴ。			2184
117-11	191	IW-32	I層・III層	粗製深鉢	I Aa1t	晩期1～2	平口縁にB突起。口唇：面取。外面：糸痕文。幅3mmほどの先端が丸いものを数本束ねたものを工具とした可能性がある。内面：ケズリのみナデ。胎土：クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外スス。			1468
117-12	191	IW-30	I層・III層	半精製深鉢	I	晩期4～5	口唇：面取。外面：沈線。糸痕文。工具は不明。内面：ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゴ。			2221
117-13	191	IW-29	III層	浅鉢		晩期5	口唇：沈線。外面：口縁無文。ミガキ。沈線による工字状の文様。内面：口縁沈線。胎土：小礫。使用痕：なし。			2225
117-14	191	IW-32	III層	蓋か		後期	頂部に突起があったようだが剥落。外面：ナデ。端部は面取後刻目。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：なし。			2303
117-15	191	IW-32	III層	深鉢	I	後期8か	口唇：面取。外面：ナデ。細沈線により文様施文。モチーフ不明。縄文は不使用。内面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：なし。			2217
117-16	192	IWP-49・03川原平(1)トナチ01/ND166-176	III層	壺か		晩期1a	外面：沈線間に連続する刻目。円形刺突。挟りによる三叉文。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：なし。			1385
117-17	192	IW-48	III層	深鉢		晩期2	口唇：細かい刻目。外面：沈線。刺突。沈線と刺突は同一工具によると思われる。崩れた羊歯状文が描かれる。体部縄文LR。内面：ナデ。胎土：凝灰岩片を多く含む。使用痕：外スス。			1451
117-18	192	IWR-57	III層	台付浅鉢	I B4	晩期5	平口縁に一山と二山一組の突起が交互に連続。口唇：沈線。外面：沈線。口縁部の上から3本目の沈線は突起によって区切られ、眼鏡状隆起のようになっている。その突起の上部には2本目の沈線に連続する刻目が施される。体部下半ミガキが、磨滅している。台部：ミガキ。沈線。突起。台部の接合部に沈線。内面：口縁沈線。ミガキ。胎土：海綿骨針。使用痕：煮沸痕跡はないが、内外面に黒色物質が薄く付着。		P-1827, 1826	1470
117-19	192	IWR-57	III層	台付浅鉢	II 4t	晩期5	小波状口縁に大突起(4単位)。大突起口唇に沈線。外面：頸部に平行沈線文4条。体部縄文LR。体部中央に別原体の縄文LRが段巡る。台部：ミガキ。沈線。内面：口縁沈線。ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。		P-1827, 11.2cm.	42
118-1	192	IWS-33	III層下	深鉢		円筒上層 ^c	口縁突起。外面：粘土紐貼付。ナデ。内面：粘土紐貼付。ナデ。胎土：砂粒。クサリ礫。海綿骨針。			2309
118-2	192	IW-44	III層	深鉢		覆林・大木8b	波状口縁。外面：波頂部下に沈線文。その下に楕円形の透かし孔。口縁は粘土紐貼付により肥厚。肥厚部の上下に刺突列。縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。クサリ礫。使用痕：外スス。			1430
118-3	192	IWN-44	III層	深鉢		覆林・大木8b	—			1429
118-4	192	IWU-33	III層下	深鉢		覆林・大木8b	口唇：面取。外面：粘土紐貼付による隆帯。縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外ススか。			2308

縄文土器観察表(75)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
118-5	192	IV0-48	III層	深鉢		榎林・大木8b	外面：粘土紐貼付。沈線。縄文LR。内面：ナデ。胎土：凝灰岩片。小礫。使用痕：内コガ。			1402
118-6	192	IVN-41	III層	深鉢		最花	外面：燃糸文(単軸絡糸体第1類L)。沈線。連続する刺突。内面：ナデ。胎土：凝灰岩片。小礫。使用痕：外スス。内コガ。			1425 ~1428
118-7	192	IV0-44	III層	深鉢		最花	外面：ナデ。刺突。縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。クサリ礫。使用痕：なし。			1431
118-8	192	IVN-41	III層	深鉢		中期後葉	外面：粘土紐貼付による隆帯。縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。			1432
118-9	192	IVN-45	III層	深鉢		中期後葉	口唇：面取。外面：強いヨコナデによる隆線。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：なし。			1422
118-10	192	IVN-40	III層	深鉢か		十腰内I	外面：ナデ。沈線。内面：ナデ。胎土：砂粒。小礫。使用痕：なし。	118-11・12と同一個体。		1297
118-11	192	IVN-40	III層	深鉢か		十腰内I	—	118-10・12と同一個体。	P-468	1298
118-12	192	IVN-40	III層	深鉢か		十腰内I	—	底径：15.8cm。 118-10・11と同一個体。	P-468	1299
118-13	192	IVS-48	III層	壺か		十腰内I	外面：沈線。内面：板状工具によるナデ。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：なし。			1420
118-14	192	IVQ-48	III層	浅鉢か		十腰内I	外面：粘土紐貼付。沈線。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：なし。			1403
118-15	192	IVQ-48	III層下部	深鉢		十腰内I	口唇：面取。外面：条痕文。ナデ。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：なし。		P-1592	1419
118-16	192	IVQ-35	III層	深鉢		十腰内I	外面：網目状燃糸文(単軸絡糸体第5類L)。内面：ナデ。胎土：クサリ礫。使用痕：なし。			1424
118-17	192	IVN-51	攪乱	壺か		十腰内IV	外面：縄文LRとLRで結束部のない羽状縄文。磨消縄文で磨消部は彫去状。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：なし。	外面赤彩。		1387
118-18	192	IVT-52	III層	台付壺か		十腰内IV	外面：ミガキ。沈線。沈線間の刻目。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：なし。		P-1798	1421

縄文土器観察表(76)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
写	193-1	SN45	焼土直上	注口	晩期1a~b	外側：体部の屈曲部によい稜。ナデ。内面：粗いナデ。胎土：砂粒。	写真のみ掲載。			2334
写	193-2	SN45	焼土	注口	晩期3	体部上半部。外面：沈線。細かい縄文LR(磨消)。磨消部は彫去。内面：ケズリに近いナデ。全体に黒褐色で器壁薄く焼成堅緻。胎土：細砂粒。海綿骨針。	写真のみ掲載。			2341
写	193-3	SN45周辺 (IVU-35)	炭層	深鉢	後期7-4	外面：沈線による入組文。縄文LR(磨消)。磨消部は彫去状。胎土：砂粒。クサリ礫。使用痕；外スス。	写真のみ掲載。			2335
写	193-4	SN45周辺 (IVU-34)	炭層	深鉢	後期8	外面：沈線間の連続する刻目。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕；外スス。	写真のみ掲載。			2336
写	193-5	SN45周辺 (IVU-34)	2層	注口	晩期1a~b	頸部～外面：沈線。縄文LRか。内面に段。胎土：砂粒。海綿骨針。	写真のみ掲載。			2340
写	193-6	SI101 (Pit0555)	柱痕	注口	後末～晩初	注口部。外面：雑なナデ。一部ミガキ。胎土：小礫。海綿骨針。	写真のみ掲載。			2315
写	193-7	SI101 (Pit0620)	覆土	台付深鉢	晩期1a	外面：沈線。器壁薄い。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕；外スス。	写真のみ掲載。			2316
写	193-8	SI101 (Pit0542)	覆土	半精製深鉢	晩期4	外面：突起。沈線。縄文LR。胎土：小礫。クサリ礫。使用痕；内面に光沢のある膜状のコーテ。	写真のみ掲載。			2318
写	193-9	SI101 (Pit0644)	覆土	深鉢	晩期1a~b	口唇；面取。外面：沈線。入組三又文。胎土：海綿骨針。クサリ礫。使用痕；外スス。	写真のみ掲載。			2320
写	193-10	SI101 (Pit0598)	覆土	深鉢	晩期1b	小波状口縁。外面：沈線。入組三又文。胎土：海綿骨針。クサリ礫。使用痕；外スス。	写真のみ掲載。			2321
写	193-11	SI101 (Pit0535)	覆土	深鉢	晩期1a	小波状口縁。外面：沈線。縄文LR。使用痕；外スス。	写真のみ掲載。			2322
写	193-12	SI101 (Pit0642)	覆土	注口	後期8	頸部。外面：沈線。縄文LR。胎土：小礫。海綿骨針。	写真のみ掲載。			2323
写	193-13	SI101 (Pit0545)	掘方	深鉢	晩期1a	大突起の付く小波状口縁。外面：沈線。縄文LR。内面：ミガキ。胎土：クサリ礫。砂粒。海綿骨針。使用痕；外スス。	写真のみ掲載。			2326
写	193-14	SI101 (Pit0631)	覆土	深鉢	晩期1a	小波状口縁。外面：沈線。器壁薄い。使用痕；外スス。内コグ。	写真のみ掲載。			2324
写	193-15	SI101 (Pit0623)	柱痕	深鉢	後期7-4	平口縁に突起。口唇；面取。外面：沈線間の連続する刻目。内面：口縁に面取時の粘土の段。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕；外スス。	写真のみ掲載。			2325
写	193-16	SI101 (Pit0189)	柱痕	深鉢	後期8	体部片。粗製深鉢の器形で有文。摩滅。外面：縄文LRを施文したのち沈線で粗雑な文様を描く。胎土：小礫。クサリ礫。使用痕；外スス。	写真のみ掲載。			2347
写	193-17	SI101 (Pit0674)	覆土	深鉢	後末～晩初	底部片。外面：縄文LR。底面付近ナデ。底部：高台。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕；外スス。	写真のみ掲載。			2346
写	193-18	IVU-34	III層下部	深鉢	後期7-4	平口縁に突起。口唇；面取。外面：貼瘤。沈線間の連続する刻目。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕；内コグ。	写真のみ掲載。出土状況は写真80-2。	P-2447		2254
写	193-19	SN45周辺 (IVT-34)	III層床下	深鉢	後期8	口唇；面取。外面：貼瘤。沈線間の連続する刻目。縄文LR。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕；内コグ。外スス。	写真のみ掲載。			2327
写	193-20	SN45周辺 (IVT-34)	III層床下	深鉢	晩期1a	口唇；面取。外面：沈線による渦巻文。縄文LR。胎土：小礫。使用痕；外スス。内コグ。	写真のみ掲載。			2328
写	193-21	SN45周辺 (IVT-34)	III層床下	深鉢	晩期1a	平口縁に突起。外面：縄文LR。沈線。刺突。縄文LR。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕；外スス。内コグ。	写真のみ掲載。			2329
写	193-22	SN45周辺 (IVT-34)	III層床下	半精製蓋	晩期1a~b	頸部。外面：沈線。突起(横方向の貫通孔)。体部縄文LR。内面：ナデ。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。	写真のみ掲載。			2332
写	193-23	SN45周辺 (IVU-35)	III層床下	注口	後期8	注口部。外面：沈線。縄文LR。貼瘤。胎土：シルト質。海綿骨針。	写真のみ掲載。			2333

縄文土器観察表(77)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
写	193-24	SN45周辺 (IVT-35)	Ⅲ層床下	深鉢	晚期1a	外面：幅広い条痕。内面：ケズリ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。	写真のみ掲載。			2337
写	193-25	SN45周辺 (IVT-35)	Ⅲ層床下	深鉢	晚期1a	平口縁に突起。口唇：面取。外面：沈線による入組文。縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。内コグ。	写真のみ掲載。			2338
写	193-26	SN45周辺 (IVT-35)	Ⅲ層床下	深鉢	晚期1a	外面：沈線による入組文。縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：内コグ。	写真のみ掲載。			2339
写	193-27	Pit0707	覆土	深鉢	後期7-4	波状口縁。口唇：面取。外面：沈線間の連続する刻目。縄文LR。胎土：小礫。砂粒。使用痕：外スス。	写真のみ掲載。			2317
写	193-28	Pit0720	Ⅰ層	深鉢	後期7-4	外面：沈線間の連続する刻目。縄文LR。胎土：小礫。使用痕：外スス。	写真のみ掲載。			2319
写	193-29	Pit0176	覆土	深鉢	晚期5か	外面：口縁下に少なくとも2条の沈線。使用痕：外スス。胎土：小礫。	写真のみ掲載。			2369
写	193-30	Pit0176	柱痕	深鉢	晚期	外面：板状工具による条痕文。使用痕：外コグ。	写真のみ掲載。			2370
写	193-31	Pit0176	掘方	壺	晚期3~4	口縁内部に沈線。胎土：海綿骨針。	写真のみ掲載。			2371
写	193-32	Pit0181	柱痕	半精製鉢	晚期3	裝飾的な口縁。外面：沈線。縄文LR。胎土：砂粒。海綿骨針。	写真のみ掲載。			2372
写	193-33	Pit0209	掘方	浅鉢か	晚期1a	刻目による小波状口縁。外面：沈線で入組三又文。胎土：砂粒。	写真のみ掲載。			2373
写	193-34	Pit0436	覆土	深鉢	晚期5	外面：頸胴部界に稜。頸部に浅い沈線。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。	写真のみ掲載。			2374
写	193-35	Pit0743	掘方	浅鉢	晚期3	外面：彫去による雲形文。縄文なし。胎土：精良。	写真のみ掲載。内外面赤彩。			2375
写	194-1	SQ01		台付深鉢	後末~晩初	底部片。外面：縄文LR。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：台部内面にスス。	写真のみ掲載。			1485
写	194-2	SQ02直下	Ⅲ層	注口又は壺	後末~晩初	外面：ナデ。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：なし。外面黒斑。	写真のみ掲載。			1488
写	194-3	SQ02直下	Ⅲ層	深鉢	後期後葉~晩期	外面：縄文L。胎土：小礫。クサリ礫。使用痕：不明。	写真のみ掲載。			1487
写	194-4	SQ02	配石下	深鉢	後期後葉~晩期	外面：縄文RL。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。	写真のみ掲載。			1489
写	194-5	SQ05	Ⅲ層	深鉢	後期後葉~晩期	外面：縄文RL。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。	写真のみ掲載。	P-6		1492
写	194-6	SQ05	Ⅲ層	深鉢	後期後葉~晩期	外面：縄文RL。内面：粗いナデ。胎土：小礫。細砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。内コグ。	写真のみ掲載。写194-9と同一個体。	P-7		1493
写	194-7	SQ02直下	Ⅲ層	深鉢	後期後葉~晩期	底部片。外面：ナデ。胎土：小礫。使用痕：外スス。	写真のみ掲載。			1490
写	194-8	SQ02	配石下	深鉢	後期後葉~晩期	口唇：面取なし。外面：縄文LR。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。	写真のみ掲載。			1491
写	194-9	SQ05	Ⅲ層	深鉢	後期後葉~晩期	外面：縄文RL。内面：粗いナデ。胎土：小礫。細砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。内コグ。	写真のみ掲載。写194-6と同一個体。	P-7		1494
写	194-10	SQ05	Ⅲ層	深鉢	後期後葉~晩期	外面：縄文LR。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外吹きこぼれコグ。内面：コグ。	写真のみ掲載。写194-11と同一個体。	P-1		1495
写	194-11	SQ05	Ⅲ層	深鉢	後期後葉~晩期	外面：縄文LR。胎土：小礫。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外吹きこぼれコグ。内面：コグ。	写真のみ掲載。写194-10と同一個体。	P-2		1496

縄文土器観察表(78)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
写	194-12	SQ11	配石下	深鉢		後期後葉～晩期	外面：縄文LR。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：内コゴ。	写真のみ掲載。		1486
写	194-13	SQ16	構築面	深鉢			体部片。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。	写真のみ掲載。後期末によくみられる胎土。		2360
写	194-14	SQ16 (旧SI17 S-21下・ IVV-32)	III層	深鉢			体部下半片。外面：摩滅。内面：板状工具によるナデ。使用痕：内コゴ。	写真のみ掲載。		2352
写	194-15	SQ19直下 ・IVS-35		注口		晩期1a～b	体部片。外面：ミガキ。内面：ナデ。胎土：精良。	写真のみ掲載。		2330
写	194-16	SQ16下・ IVV-33	III層	—			30点ほどからなる。時期決定の指標になりうる5点を写真掲載。右2点は接合する後期末の注口。中央は後期末の小型壺の口縁部。左下は口唇を面取りし、口縁直下に沈み。縄文LRの有文深鉢で晩期初頭の可能性がある。左上は口唇を面取りした粗製深鉢。	写真のみ掲載。		2368
写	194-17	SQ19直下 ・IVS-35		注口		晩期1a～b	体部片。外面：ミガキ。内面：ナデ。胎土：精良。	写真のみ掲載。		2331
写	194-18	SQ19	1層	注口		後末～晩初	細い筒状の注口部。胎土：砂粒。海綿骨針。	写真のみ掲載。注口部先端欠損。		2342
写	195-1	SQ14	2層	粗製深鉢			体部片。外面：摩滅。縄文あり。内面：ナデ。器壁薄い。使用痕：外スス。	写真のみ掲載。		2364
写	195-2	SQ14 S33 脇	掘方	粗製深鉢			体部片。外面：縄文LR。器壁薄い。焼成良好。使用痕：外スス。	写真のみ掲載。		2348
写	195-3	IVV-33	SQ18下	注口又は壺		後末～晩初	体部片。胎土：精良。海綿骨針。	写真のみ掲載。		2343
写	195-4	IVV-33	SQ18下	深鉢		後期末～晩期	外面：縄文LR。器壁薄く堅い。胎土：小礫多い。海綿骨針。使用痕：外スス。	写真のみ掲載。		2344
写	195-5	SQ18	構築面	粗製深鉢			体部片か。外面：器表面に凹みあり。文様の可能性も。縄文施文後ナデ。器壁薄い。使用痕：外スス。	写真のみ掲載。	P-1	2350
写	195-6	SQ18	III層下	粗製深鉢		後末～晩初	口縁片。口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。使用痕：外スス。	写真のみ掲載。	P-9	2353
写	195-7	SQ18	列石下	深鉢			2点あり。両方とも体部片か。左は器表面に縄文の痕跡なし。外スス。右は摩滅。	写真のみ掲載。	P-4	2357
写	195-8	SQ18	III層下	粗製深鉢			体部片。外面：縄文LR。器壁薄い。使用痕：外スス。内コゴ。	写真のみ掲載。	P-11	2358
写	195-9	SQ18	列石下	浅鉢又は壺			体部片か。外面：摩滅。器壁薄い。	写真のみ掲載。	P-6	2359
写	195-10	SQ18	III層	粗製深鉢		後期末～晩期	口縁片。小波状口縁又は口唇刻目。外面：縄文LR。胎土：砂粒。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外スス。	写真のみ掲載。	P-3	2354
写	195-11	SQ18	III層下	深鉢		縄文中期後葉	薄移層に近い所から出土。体部片。器壁やや厚い。外面：縄文LR。胎土：砂粒。凝灰岩片。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：不明。	写真のみ掲載。	P-7	2355
写	195-12	SQ18	III層下	深鉢			体部片か。外面：摩滅。器壁薄い。使用痕：不明。	写真のみ掲載。	P-10	2356
写	195-13	SQ18	III層下	深鉢		中期か	外面：摩滅。2条の筋。工具痕か胎土：凝灰岩片のような小礫。二次被熱で赤化か。	写真のみ掲載。	P-8	2361
写	195-14	SQ18	掘方	粗製深鉢			体部片か。外面：摩滅。縄文LR。器壁薄い。使用痕：不明。	写真のみ掲載。	P-5	2362
写	195-15	SQ18 西石組	掘方 A1層	粗製深鉢			体部片。外面：摩滅。内面：ナデ。器壁薄い。焼成良好。使用痕：内コゴ。	写真のみ掲載。		2363

縄文土器観察表 (79)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
写	195-16	SQ18	掘方 A1層	—			5点で構成、いずれも摩滅。器壁は薄い。左下は細かい縄文LR。	写真のみ掲載。		2366
写	195-17	SR24		粗製深鉢		晩期	外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゴ。	写真のみ掲載。	P-1	1480・1481
写	195-18	SR05		粗製深鉢		晩期	外面：ケズリのちナデ。内面：ナデ。胎土：砂粒。使用痕：外スス。	写真のみ掲載。		1483
写	195-19	SR05	I層	粗製深鉢		晩期	外面：ケズリ。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゴ。	写真のみ掲載。		1484
写	195-20	SR31		粗製深鉢		晩期	外面：縄文LR。胎土：砂粒。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：外スス。	写真のみ掲載。	埋設土器 本体	1478・1479
写	195-21	Sec3 IVR-44	IV層	深鉢		円筒下層 d	外面：縄文LRか。内面：ナデ。胎土：砂粒。繊維。海綿骨針。	写真のみ掲載。		1513
写	195-22	Sec3 IVR-44	IV層	深鉢		円筒下層 d	外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：砂粒。繊維。海綿骨針。	写真のみ掲載。		1514
写	195-23	SR26 IVR-44	I層	粗製深鉢		晩期	外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：外スス。	写真のみ掲載。		1482
写	196-1	IVT-34	III層	粗製深鉢	IBb1	晩期前葉	口唇：面取。外面：縄文LR。内面：ナデ。使用痕：なし。器表面の黒斑がよく残っている。胎土：砂粒。海綿骨針。	写真のみ掲載。	P-2195	2169
写	196-2	Sec2 IVN-44・IVN-44	III-1層・III層	半精製台付鉢	II Bc2	晩期3	口唇：刻目。外面：沈線。刺突。縄文LR。胎土：砂粒。使用痕：外スス。内コゴ。	口径：9.2cm、底径：5.2cm、器高：8.5cm。写真のみ掲載。		200
写	196-3	IVN-45	III層	半精製台付鉢	II Bc2	晩期3	口唇：刻目。外面：縄文LR。台部：下端肥厚(摩滅)。胎土：砂粒。使用痕：外スス。内コゴ。	口径：10.0cm、底径：6.0cm、器高：10.2cm。写真のみ掲載。	P-1251	226
写	196-4	IVR-50	III層	粗製壺	II 1	晩期	平口縁に3mm程度台形様突起(1箇所)。外面：ナデ。内面：ナデ。使用痕：なし。胎土：砂粒。海綿骨針。	口径：8.2cm、取り上げ日が図105-13と同じ。帰属時期は晩期前葉の可能性が高い。小壺のような形状だが、内面も丁寧なナデ調整が施されるため、深鉢の可能性もある。珍しい形状である。		1205
写	196-5	IVR-50	III層	粗製鉢	II 1	晩期前葉か	小波状口縁。外面：ナデ。内面：ナデ。使用痕：なし。全体に摩滅。胎土：砂粒。海綿骨針。口縁の残存状況悪い。	写真のみ掲載。	P-1330	1204
写	196-6	IV0-45	III層	半精製壺	III 1t	晩期3	平口縁にB突起。外面：頸部沈線。口縁突起位置の下に縦長の突起。縄文LR。全体に摩滅。胎土：砂粒。	写真のみ掲載。		228
写	196-7	IVS-49	III層	半精製台付鉢	I Ba1	晩期5	外面：沈線。頸部隆帯。縄文LR(斜位)。使用痕：外スス。内コゴ。台部内側にスス。外面の黒斑残るため使用頻度低い。胎土：砂粒。クサリ礫。海綿骨針。	写真のみ掲載。	P-170	1317
写	196-8	IVR-45	III層	半精製鉢	I Aa2	晩期3	口唇直下に粘土の剥離度があり、片口唇が付いていると思われる。口唇：刻目。外面：沈線。縄文LR。胎土：砂粒。海綿骨針。使用痕：外スス。内コゴ。	写真のみ掲載。	P-846	254
写	196-9	IVN-45	III層	半精製鉢	I Aa2	晩期3	口唇：刻目。外面：沈線。浅い刺突(退化した芋歯状)。縄文LR。内面：口縁下肥厚。使用痕：外スス。胎土：砂粒。海綿骨針。	写真のみ掲載。	P-157	256
写	196-10	IV0-42	III層	深鉢		晩期2	小波状口縁。頂部に刻目をもつもの1箇所。外面：沈線内に連続する短沈線(短沈線は6段が確認できる)。内面：楕円形(長径1mm程度)の圧痕7箇所。使用痕：外ふきこぼれコゴ厚く付着。胎土：海綿骨針。砂粒。	写真のみ掲載。		1516
写	196-11	IVP-45	III層	粗製深鉢	I Aa1t	晩期前葉	2個一組のB突起を土器正面とする。口唇：面取。外面：縄文LR。使用痕：外スス。胎土：砂粒。海綿骨針。	写真のみ掲載。土偶(図185-1)と共伴。	P-1185, 1186	1049
写	196-12	IVN-45	I層・III層	壺	III 1	晩期3	全体に摩滅。外面：口縁下と頸部に沈線。頸部に突起。体部ナデ。内面：ケズリ。使用痕：はないが二次破裂により外面にスス。	写真のみ掲載。		1045
写	197-1	IV0-41	III層	注口		晩期2	外面：沈線。刻目。ミカギ。胎土：砂粒。	写真のみ掲載。剥離面に黒色物質(アスファルトか)付着。		1499

縄文土器観察表(80)

図番号	写真	出土位置	層位	器種	器形	時期	特徴	備考	取上No.	整理No.
写	197-2	IVQ-46	III層	注口		後期末	外面：注口部直下に二袋状の膨らみ。胎土：砂粒。海綿骨針。	写真のみ掲載。内面：黒色物質(アスファルトか)付着。一部塊状。黒色物質は注口部の内面には付着しない。		1497
写	197-3	IVR-46	III層	注口		後期末	外面：沈線。縄文LR。胎土：砂粒。海綿骨針。	写真のみ掲載。剥離面に黒色物質(アスファルトか)付着。	P-1306	1510
写	197-4	IWT-34	III層	注口		後期末～晩期	外面：注口基部は上方に沈線。注口部直下に二袋状の膨らみ。内面：注口部第1孔の際に外側から棒状の工具を挿し入れた痕跡。胎土：砂粒。海綿骨針。	写真のみ掲載。剥離面に黒色物質(アスファルトか)付着。		2345
写	197-5	IVR-49	風倒木	注口		後期末～晩期	外面：沈線。縄文LR。胎土：砂粒。	写真のみ掲載。剥離面に黒色物質(アスファルトか)付着。		1511
写	197-6	IVS-48		注口		後期末～晩期	外面：沈線。縄文LR。ミガキ。胎土：砂粒。海綿骨針。	写真のみ掲載。剥離面に黒色物質(アスファルトか)厚く付着。	P-1795	1512
写	197-7	IVT-49	III層	注口		後期末～晩期	外面：ミガキ。胎土。砂粒。海綿骨針。	写真のみ掲載。注口部内側を含めた全体および剥離面の一部に黒色物質(アスファルトか)付着。		1498
写	197-8	SI03	覆土2回目	注口又は壺		後末～晩初	外面：ナデ。内面：ナデ。胎土：砂粒。海綿骨針。	写真のみ掲載。内面にタールのような光沢のある黒色物質が全面に付着。膜のようには剥がれない。皺や光沢から漆液と想われる。		591
写	197-9	IVN-42	III層	半精製鉢		晩期4	口唇：細かい刻目。外面：沈線。2個一組の突起。突起間に沈線が貫入。縄文LR(斜位)。内面：沈線。使用痕：外スス。	写真のみ掲載。褐色漆付着。縮み皺あり。外面付着炭化物・内面付着漆年代測定中。		1502
写	197-10	IVN-45	III層	台付鉢		晩期	外面：縄文LR。使用痕：外スス。	写真のみ掲載。見込み部に漆付着。縮み皺あり。		1500
写	197-11	IVR-44	III層	台付深鉢		後期末	台部片。粘土の配向は外傾であり。逆位で成形してから組み合わせたと考えられる。使用痕：不明。	写真のみ掲載。内外面及び接地面に光沢のある黒色物質(漆か)が付着。一部膜状に剥がれる。接地面の剥落はない。黒色物質は分析委託中。		1504
写	197-12	IVR-44	III層	浅鉢		晩期1a	平口縁。口唇：面取。外面：縄文LR。浅い沈線。	写真のみ掲載。内面に部分的に漆の可能性がある黒色塗膜。塗膜消失は2次被熱による。黒色塗膜は分析委託中。		1505
写	197-13	IVR-45	III層	深鉢		晩期	体部片。外面：縄文LR。内面：ナデ。使用痕：外スス。	写真のみ掲載。内面に漆付着。		1507
写	197-14	IVR-45	III層	粗製深鉢		後期末～晩期	体部片。外面：縄文LR。内面：ナデ。胎土：小礫。海綿骨針。使用痕：不明。	写真のみ掲載。内面に褐色漆付着。縮み皺あり。	P-1237	1508・1509
写	197-15	IVS-45	III層	浅鉢		晩期	体部片。外面：細い沈線。焼成良好。	写真のみ掲載。内面：黒色漆。赤色漆塗彩か(彩文浅鉢の可能性はある)。漆は膜状には剥がれない。		1506
写	197-16	IVR-48	III層	粗製深鉢		後期末～晩期	体部片。外面：縄文LR。胎土：砂粒。使用痕：不明。	写真のみ掲載。内面：光沢ある黒色物質(漆か)付着。膜のようには剥がれない。		1503
写	197-17	IVS-46	III層	深鉢		晩期5	外面：縄文LR。底部：平底。体部との境は丸味をおびる。胎土：石英。長石。クサリ礫。海綿骨針。使用痕：なし。	写真のみ掲載。内面：赤色漆塗付着。縮み皺あり。		1501

遺物観察表(剥片石器・自然礫・石斧)(1)

図-No.	写真	出土位置	層位	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	整理 No.
1-8	93	SI01	下層	二次加工剥片	珩質頁岩	42.0	35.9	12.9	16.7		1514
1-9	93	SI01	貼床	二次加工剥片	珩質頁岩	54.2	37.1	9.6	16.9		1515
1-25	93	SI02	覆土	削器	珩質頁岩	64.3	34.6	14.6	26.5	刃部光沢	999
2-5	93	SI04	1層	接合資料	珩質頁岩	61.0	49.0	21.0	30.9	剥片2点接合	8120
2-6	93	SI04	1層	石核	珩質頁岩	39.1	53.3	31.4	35.0		7145
2-7	93	SI04	1層	石核	珩質頁岩	33.0	68.5	36.9	86.2		5092
10-5	98	SQ09	覆土	石匙	珩質頁岩	54.2	65.8	12.5	35.7	アスファルト	1500
13-1	100	SQ19	1層	搔器	珩質頁岩	40.2	45.4	14.5	28.1		8594
13-2	100	SQ19	1層	石核	珩質頁岩	39.7	44.6	64.0	151.8		7128
13-3	100	SQ19	1層	石核	珩質頁岩	50.8	75.7	48.5	220.5		7129
13-4	100	SQ19	直下	石核	珩質頁岩	36.9	69.0	40.2	103.7		6808
13-5	—	SQ19	直下	石核	珩質頁岩	61.0	66.0	41.0	189.3		6804
15-11	102	SR18	1層	剥片	珩質頁岩	35.0	36.0	7.0	6.6	アスファルト	3943
25-1	111	剥片集中1	Ⅲ	接合資料	珩質頁岩	66.0	82.0	26.0	70.5	剥片2点接合 S-53+S-X	8579
25-2	—	剥片集中1	Ⅲ	石核	珩質頁岩	66.0	44.0	24.0	48.1	S-2	8578
25-3	—	剥片集中1	Ⅲ	剥片	珩質頁岩	60.0	33.0	15.0	22.2		8580
25-4	111	剥片集中2	Ⅲ	石核	珩質頁岩	49.2	58.0	36.4	89.6		7149
25-5	111	剥片集中2	Ⅲ	石核	珩質頁岩	77.1	50.4	37.3	131.1		7144
25-6	111	剥片集中2	Ⅲ	石核	珩質頁岩	36.9	40.1	21.9	28.5		7150
25-7	111	剥片集中2	Ⅲ	石核	珩質頁岩	23.4	30.9	21.0	16.4		7148
25-8	111	剥片集中2	Ⅲ	石核	珩質頁岩	26.9	30.6	29.4	25.8		7147
25-9	111	剥片集中2	Ⅲ	剥片	珩質頁岩	33.0	54.0	10.0	10.9	玉髄質に近い	8590
25-10	—	剥片集中2	Ⅲ	剥片	珩質頁岩	30.0	30.0	8.0	5.8		8591
25-11	111	剥片集中4	Ⅲ	接合資料	珩質頁岩	33.0	33.0	13.0	6.9	剥片2点接合	8582
25-12	111	剥片集中4	Ⅲ	接合資料	珩質頁岩	39.0	17.0	10.0	4.0	剥片2点接合、礫皮部分	8586
25-13	—	剥片集中4	Ⅲ	剥片	珩質頁岩	30.0	27.0	8.0	6.0		8585
119-1	198	IVN-43	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	45.5	10.7	5.5	2.0	アスファルト微量	218
119-2	198	IVS-44	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	(28.1)	6.6	3.4	(0.5)	アスファルト	217
119-3	198	IVN-44	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	29.6	10.3	5.1	1.2	アスファルト	180
119-4	198	IVR-37	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	36.0	9.2	4.3	1.3	アスファルト	586
119-5	198	IV0-39	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	32.0	10.5	4.3	1.1	アスファルト	184
119-6	198	IVS-39	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	23.9	10.3	4.2	0.9	アスファルト	178
119-7	198	IVN-41	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	26.2	8.6	3.9	0.9	アスファルト	588
119-8	198	IVP-33	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	20.9	12.6	3.1	0.5	アスファルト	187
119-9	198	IVR-48	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	18.0	8.0	4.0	0.4	アスファルト	3936
119-10	198	IVN-47	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	26.0	10.0	4.0	0.8	アスファルト	3937
119-11	198	IVQ-47	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	27.1	10.1	3.3	0.7	アスファルト	223
119-12	198	IV0-41	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	30.2	13.1	3.4	1.1	アスファルト、主に正面縁辺加工	171
119-13	198	IV0-44	Ⅱ	石鏃	珩質頁岩	28.3	10.0	5.6	1.5	アスファルト	1405
119-14	198	IVT-52	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	27.9	13.1	4.7	1.2	アスファルト	211
119-15	198	IVQ-43	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	19.0	11.1	3.7	0.6	アスファルト	1414
119-16	198	IV0-47	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	37.6	11.8	4.4	1.4	アスファルト	212
119-17	198	IV0-43	Ⅱ	石鏃	珩質頁岩	23.6	9.8	4.3	0.8	アスファルト	210
119-18	198	IVV-40	Ⅰ	石鏃	珩質頁岩	21.1	8.7	2.8	0.5	アスファルト	175
119-19	198	IV0-44	Ⅲ-8	石鏃	珩質頁岩	21.1	9.7	2.2	0.4	アスファルト	1413
119-20	198	IV0-44	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	23.7	8.6	3.2	0.5	アスファルト	154
119-21	198	IVR-30	Ⅰ	石鏃	珩質頁岩	24.4	10.3	3.5	0.8	アスファルト	163
119-22	198	IVT-48	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	22.6	9.3	3.5	0.6	アスファルト	215
119-23	198	IVP-39	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	23.1	11.1	4.3	0.9	アスファルト	152
119-24	198	IV0-44	Ⅲ-8	石鏃	珩質頁岩	37.5	17.8	5.0	1.8	アスファルト	1410
119-25	198	IVR-43	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	23.1	13.8	3.7	0.8	アスファルト	165
119-26	198	IV0-42	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	38.3	14.2	5.2	1.9	アスファルト	201
119-27	198	IVS-51	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	26.1	14.1	5.4	1.2	アスファルト	204
119-28	198	IVN-44	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	37.0	11.2	4.3	1.2	アスファルト	454
119-29	198	IV0-37	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	38.1	15.3	4.8	1.8	アスファルト	200
119-30	198	IVM-47	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	35.0	12.7	4.8	1.7	アスファルト	176
119-31	198	IVR-35 Sec1	Ⅲ-2	石鏃	珩質頁岩	32.6	13.9	4.7	1.3	アスファルト	221
119-32	198	IVQ-43	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	35.2	14.9	5.3	1.9	アスファルト	181
119-33	198	IVR-51	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	41.0	14.1	4.5	1.9	アスファルト微量	149
119-34	198	IVP-39	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	28.1	15.9	3.6	1.4	アスファルト	188
119-35	198	IVQ-42	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	28.6	11.9	5.2	1.3	アスファルト微量	214
119-36	198	IVQ-48	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	33.0	14.9	4.4	1.4	アスファルト	158
119-37	198	IVQ-48	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	34.9	13.5	4.5	1.7	アスファルト微量	194
119-38	198	IVT-56	Ⅱ	石鏃	珩質頁岩	(45.0)	11.5	4.7	(1.7)	アスファルト	1390
119-39	198	IVR-32	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	32.9	14.8	5.0	1.4	アスファルト	177
119-40	198	IVQ-48	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	29.9	12.7	3.5	0.9	アスファルト	189

遺物観察表(剥片石器・自然礫・石斧)(2)

図-No.	写真	出土位置	層位	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	整理 No.
119-41	198	IVQ-38 ベルト	Ⅲ-4	石鏃	珩質頁岩	42.6	12.8	5.4	2.2	アスファルト	155
119-42	198	IVN-47	Ⅲ	石鏃	玉髓	41.1	12.5	5.8	2.3	アスファルト微量	145
119-43	198	IVM-60	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	47.6	12.4	5.3	2.2	アスファルト	1397
119-44	198	IVR-46	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	28.8	15.9	4.6	1.4	アスファルト	179
119-45	198	IVT-56	I	石鏃	珩質頁岩	37.0	12.4	5.0	1.9	アスファルト	1434
119-46	198	IVR-45	Ⅱ	石鏃	珩質頁岩	39.6	10.2	4.6	1.5	アスファルト	208
119-47	198	IVV-31	I	石鏃	珩質頁岩	36.9	15.6	6.5	2.3	アスファルト	173
119-48	198	IVN-43	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	41.4	11.6	5.6	1.7	アスファルト	220
119-49	198	IVP-41	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	(35.9)	16.6	5.5	(1.8)	アスファルト	197
119-50	198	IV0-41	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	30.1	10.2	5.3	1.2	アスファルト	213
119-51	198	IVQ-39	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	32.8	15.2	4.8	1.6	アスファルト	172
120-1	198	IVQ-45	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	(26.8)	13.5	4.0	(1.0)	アスファルト	198
120-2	198	IVR-39	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	(38.0)	13.8	4.5	(1.6)	アスファルト	156
120-3	198	IVR-47	Ⅱ	石鏃	珩質頁岩	(31.3)	11.5	3.6	(1.1)	アスファルト	209
120-4	198	IVM-39	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	23.4	8.8	3.0	0.5	アスファルト	205
120-5	—	IVV-33	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	26.0	14.0	3.0	0.7	アスファルト微量	8119
120-6	198	IV0-38	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	(35.4)	14.5	5.0	(1.8)	アスファルト	169
120-7	198	IV0-40	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	(34.9)	12.1	3.2	(1.1)	アスファルト	467
120-8	198	IVR-45	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	29.7	13.2	4.0	1.2	アスファルト	196
120-9	198	IV0-36	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	(32.2)	13.8	5.0	(2.1)	アスファルト	474
120-10	198	IVR-46	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	(32.5)	9.7	4.2	(1.3)	アスファルト	544
120-11	198	IVM-46	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	36.9	8.8	5.3	1.4	アスファルト	146
120-12	198	IV0-44	Ⅱ	石鏃	珩質頁岩	(31.9)	8.0	4.2	(1.1)	アスファルト	1404
120-13	198	IVS-49	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	(25.6)	14.1	4.2	(1.0)	アスファルト	185
120-14	—	IVR-50	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	23.0	11.0	6.0	0.8	アスファルト	3793
120-15	198	IVR-44	Ⅲ-10	石鏃	珩質頁岩	30.1	15.4	4.7	1.5	アスファルト	1395
120-16	198	IV0-42	Ⅱ	石鏃	珩質頁岩	(33.8)	19.0	4.1	(1.7)	アスファルト	206
120-17	198	IV0-36	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	(26.9)	11.8	4.2	(1.2)	アスファルト微量	199
120-18	198	IVS-45	Ⅲ	石鏃	玉髓珩質頁岩	37.2	12.4	4.8	1.6	アスファルト	186
120-19	198	IVV-32	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	34.2	18.9	4.8	1.9	アスファルト	182
120-20	198	IVN-43	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	24.1	8.7	3.9	0.6	アスファルト	207
120-21	198	IVR-44	Ⅱ	石鏃	珩質頁岩	19.2	11.2	4.5	0.6	アスファルト	1398
120-22	198	IVQ-45	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	25.4	14.2	4.5	0.9	アスファルト	164
120-23	198	IVN-45	Ⅲ-1	石鏃	珩質頁岩	25.9	11.6	4.7	1.0	アスファルト	1396
120-24	198	IVN-46	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	27.1	12.1	4.0	1.7	アスファルト	167
120-25	198	IVR-37	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	25.1	11.6	3.7	0.8	アスファルト	193
120-26	198	IVM-46	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	36.3	12.8	5.8	1.7	アスファルト	166
120-27	—	IVN-43	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	28.0	14.5	4.0	0.9	アスファルト	3691
120-28	198	IV0-46	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	38.0	14.4	4.7	0.7	アスファルト	168
120-29	198	IVN-41	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	36.0	9.3	4.6	1.0	アスファルト	161
120-30	198	IVN-44	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	29.1	9.2	5.0	0.8	アスファルト	195
120-31	198	IVN-46	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	(32.3)	10.8	4.2	(1.0)	アスファルト	160
120-32	198	IVQ-48	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	21.7	12.8	3.3	0.7	アスファルト	153
120-33	198	ブロック HIS103	覆土	石鏃	珩質頁岩	(19.7)	9.0	2.6	(0.3)	アスファルト	219
120-34	198	IVN-44	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	(23.0)	11.2	3.6	(0.7)	アスファルト微量	1071
120-35	198	IVN-45	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	(25.9)	10.3	4.5	(1.1)	アスファルト	162
120-36	198	IVM-46	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	31.8	9.3	3.8	1.2	アスファルト	222
120-37	198	IVT-56	I	石鏃	珩質頁岩	(22.4)	9.2	4.2	(0.8)	アスファルト	1402
120-38	198	IVQ-49	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	27.9	7.0	4.0	0.7	アスファルト	582
120-39	198	IV0-44	Ⅱ	石鏃	珩質頁岩	(24.9)	9.8	5.0	(0.9)	アスファルト	1430
120-40	198	IVS-45	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	28.8	11.9	6.0	1.6	アスファルト	568
120-41	198	IVQ-38	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	45.6	11.3	7.3	3.8	アスファルト微量	574
120-42	198	IVN-45	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	28.2	12.8	3.3	0.9	アスファルト微量	192
120-43	198	IVV-38	I	石鏃	珩質頁岩	22.2	8.9	3.8	0.6	アスファルト微量	183
120-44	198	IVS-45	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	22.2	8.2	4.0	0.6	アスファルト微量	216
120-45	198	IV0-43	Ⅱ	石鏃	珩質頁岩	(28.4)	10.6	7.2	(1.3)	アスファルト微量	136
120-46	198	IVR-49	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	35.4	12.3	7.0	2.6	アスファルト微量	584
120-47	198	IVP-36	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	33.6	15.8	6.2	3.1	アスファルト微量	551
120-48	198	IVN-41	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	25.2	15.6	5.5	2.1	アスファルト	547
120-49	198	IVN-39	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	(18.4)	13.3	2.5	(0.6)	アスファルト	546
120-50	198	IVQ-41	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	21.4	19.1	4.0	1.5	アスファルト	549
120-51	198	IVQ-40	Ⅲ	石鏃	黒曜石	23.6	13.2	3.5	0.8		121
120-52	198	IV0-46	Ⅲ	石鏃	黒曜石	18.6	10.7	3.0	0.4		113
120-53	198	IVS-37	Ⅲ	石鏃	黒曜石	(17.0)	7.0	4.0	(0.5)		565
120-54	198	IVN-41	Ⅲ	石鏃	黒曜石	(26.0)	14.0	4.0	(1.2)		393

遺物観察表(剥片石器・自然礫・石斧)(3)

図-No.	写真	出土位置	層位	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	整理 No.
120-55	198	IVP-41	Ⅲ	石鏃	黒曜石	(21.4)	11.1	4.0	(0.8)		224
120-56	198	IVR-45	Ⅲ	石鏃	黒曜石	(14.0)	8.0	4.0	(0.2)	先端部破片	601
121-1	198	IVS-33	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	61.8	15.3	6.3	4.3		9
121-2	198	IVR-35	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	36.7	15.1	4.5	1.6		1408
121-3	198	IVT-52	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	45.1	13.8	4.5	1.6		46
121-4	198	IVR-45	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	45.5	16.1	4.2	2.0		77
121-5	198	IVQ-47	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	43.8	15.8	4.8	2.1		64
121-6	198	IVR-47	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	35.4	12.8	5.2	2.0		81
121-7	198	IVQ-50	Ⅱ	石鏃	珩質頁岩	30.6	11.2	5.2	1.3		142
121-8	198	IVQ-36	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	35.4	12.1	4.5	1.3		96
121-9	198	IVQ-46	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	37.8	19.3	4.5	2.0		115
121-10	198	IVN-43	Ⅱ	石鏃	珩質頁岩	38.5	9.8	5.8	1.7		101
121-11	198	IVP-37	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	41.2	18.5	5.3	2.7		114
121-12	198	IVT-44	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	45.5	18.7	9.5	5.2		34
121-13	198	IVN-46	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	44.0	10.1	4.0	1.6		132
121-14	198	IVR-46	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	35.5	13.8	4.5	1.5		123
121-15	198	IVR-45	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	32.5	13.7	4.2	1.1		82
121-16	198	IVS-49	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	29.5	13.8	3.8	1.2		63
121-17	198	IVR-45	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	32.0	16.2	4.2	1.3		1401
121-18	198	IVQ-45	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	30.1	13.9	4.4	1.2		120
121-19	—	IVN-47	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	29.0	9.5	5.0	1.1		3779
121-20	198	IVN-42	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	27.1	10.1	3.5	0.8		119
121-21	198	IVQ-43	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	20.1	12.0	3.6	0.6		59
121-22	198	IVQ-49	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	24.5	13.8	3.2	0.8		58
121-23	198	IVR-47	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	(36.6)	14.8	3.5	(1.4)		13
121-24	198	IVP-42	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	30.2	11.7	2.5	0.6		143
121-25	198	IVP-42	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	25.6	13.1	3.9	0.8		140
121-26	198	IVQ-44	Ⅱ	石鏃	珩質頁岩	18.4	12.8	3.4	0.5		1392
121-27	198	IVP-36	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	21.2	10.2	2.8	0.3		118
121-28	198	IVQ-45	Ⅰ	石鏃	珩質頁岩	21.8	12.3	4.5	0.8		33
121-29	198	IVS-44	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	(25.6)	12.9	5.0	(1.2)		109
121-30	198	IVT-50	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	(28.3)	18.0	5.8	(1.8)		67
121-31	198	IVR-45	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	24.1	13.2	3.2	0.6		1409
121-32	198	IVR-45	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	(28.6)	16.4	4.5	(1.5)	火ハネ	14
121-33	198	IVQ-56	Ⅰ	石鏃	珩質頁岩	35.2	11.1	4.6	1.3		1399
121-34	198	IVQ-39	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	32.0	15.3	4.3	1.4		45
121-35	198	IVN-45	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	(23.0)	9.9	4.8	(0.9)		50
121-36	—	IVM-47	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	23.0	11.0	4.0	0.7		3780
121-37	198	IVV-42	Ⅰ	石鏃	珩質頁岩	42.2	12.1	6.7	2.5		21
121-38	198	IVQ-39	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	29.9	11.8	3.8	1.1		48
121-39	198	IVN-44	Ⅲ-1	石鏃	珩質頁岩	(32.5)	9.4	3.5	(0.9)		1400
121-40	198	IVQ-42	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	(24.7)	14.2	3.1	(0.8)		15
121-41	198	IVN-39	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	37.6	12.2	6.2	2.0		47
121-42	198	IVR-44	Ⅱ	石鏃	珩質頁岩	34.0	8.5	4.1	0.7	茎長い	1393
121-43	198	IVQ-44	Ⅱ	石鏃	珩質頁岩	29.1	8.8	5.3	1.1		1403
121-44	198	IVQ-45	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	31.8	14.1	4.2	1.3		41
121-45	198	IVR-46	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	34.4	15.2	4.4	1.4		124
121-46	198	IVN-43	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	(46.2)	16.4	6.5	(3.3)		87
121-47	198	IVN-47	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	35.4	11.2	6.1	1.7		148
121-48	198	IVR-46	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	40.4	17.4	4.6	1.8		72
122-1	198	IVN-45	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	37.4	9.8	7.0	2.0		19
122-2	198	IVN-46	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	26.4	10.1	3.2	0.6		20
122-3	198	IVQ-42	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	26.0	8.5	4.0	0.5		3698
122-4	198	IVS-45	Ⅱ	石鏃	珩質頁岩	(43.0)	15.4	6.0	(2.5)		125
122-5	198	IVQ-44 Sec3	Ⅱ	石鏃	珩質頁岩	(31.5)	10.1	4.4	(1.2)		73
122-6	198	IVT-56	Ⅰ	石鏃	珩質頁岩	34.4	12.1	3.8	1.0		1412
122-7	198	IVT-47	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	33.9	16.6	6.1	2.0		144
122-8	198	IVS-49	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	25.1	11.0	4.3	0.8		107
122-9	198	IVQ-47	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	(34.9)	11.4	5.2	(1.3)		75
122-10	198	IVU-30	Ⅰ	石鏃	珩質頁岩	(27.6)	10.8	4.2	(1.2)		1436
122-11	198	IVN-43	Ⅱ	石鏃	珩質頁岩	(28.8)	8.4	4.0	(0.7)		141
122-12	198	IVR-43	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	(29.4)	15.0	4.3	(1.3)		32
122-13	198	IVS-44 Sec3	Ⅰ	石鏃	珩質頁岩	(35.9)	11.3	4.8	(1.4)		65
122-14	198	表採	—	石鏃	珩質頁岩	29.0	13.1	3.4	0.8		110
122-15	198	IVN-45	Ⅰ	石鏃	珩質頁岩	(37.2)	11.1	4.2	(1.4)		51

遺物観察表(剥片石器・自然礫・石斧)(4)

図-No.	写真	出土位置	層位	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	整理 No.
122-16	198	IV0-44	Ⅱ	石鏃	珩質頁岩	(25.4)	9.5	4.2	(0.6)		137
122-17	198	IVN-45	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	20.5	8.4	3.0	0.4		106
122-18	—	IVM-46	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	21.5	9.5	5.0	0.6		3781
122-19	198	IVP-44	Ⅱ	石鏃	珩質頁岩	25.2	11.2	3.9	0.8	Sec2	1411
122-20	198	IVN-46	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	22.4	9.2	4.6	0.8		18
122-21	198	IVN-44	Ⅲ-7	石鏃	珩質頁岩	31.4	12.9	3.8	0.9	Sec2	1389
122-22	198	IVQ-46	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	23.4	10.0	3.0	0.6		127
122-23	198	IVN-41	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	30.6	12.1	4.5	1.0		23
122-24	198	IV0-44	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	36.2	10.2	4.1	0.8		93
122-25	198	IVS-48	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	(31.6)	10.3	4.8	(0.7)		7
122-26	199	IVP-44	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	29.8	8.7	3.4	1.1		80
122-27	199	IVS-47	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	39.2	11.6	8.3	3.4		951
122-28	199	IVP-41	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	38.4	11.7	9.3	3.4		581
122-29	199	IVN-47	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	24.6	8.3	4.6	0.9		133
122-30	199	IVQ-48	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	35.8	9.8	4.4	1.1		90
122-31	199	IVQ-56	Ⅲ上面	石鏃	珩質頁岩	24.2	7.8	3.5	0.6		1407
122-32	199	IVR-35	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	39.4	14.2	7.0	3.2		583
122-33	199	IVN-43	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	41.4	8.9	5.0	1.4		135
122-34	199	IVT-48	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	30.9	13.9	4.0	1.3		130
122-35	199	IVS-45	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	30.8	9.9	4.2	1.1		577
122-36	—	IVS-34	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	17.0	7.5	3.5	0.5		3785
122-37	199	IV0-42	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	31.3	11.2	7.0	2.0		575
122-38	199	IVP-43	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	32.3	16.3	4.8	2.0		589
122-39	199	IV0-44	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	31.5	8.9	4.5	0.9		49
122-40	199	IV0-44	Ⅱ	石鏃	珩質頁岩	21.9	7.3	5.0	0.7	Sec2	1406
122-41	199	IV0-37	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	36.5	9.9	4.7	1.4		598
122-42	199	IVQ-41	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	26.2	9.2	3.9	0.8		599
122-43	199	IVS-48	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	29.2	8.4	3.7	0.8		578
122-44	—	IVM-47	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	(21.0)	11.0	6.0	(1.0)		3705
122-45	199	IVN-45	Ⅰ	石鏃	珩質頁岩	18.1	7.9	4.3	0.5		573
122-46	199	IVN-46	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	(17.8)	8.7	4.8	(0.6)		600
122-47	199	IVT-51	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	17.8	7.4	3.8	0.4		590
122-48	—	IVM-47	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	26.0	11.0	3.5	0.7		3703
122-49	199	IVP-44	排土	石鏃	珩質頁岩	23.4	9.8	4.7	1.0		1437
122-50	199	IVR-37	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	27.2	11.6	8.1	2.4		570
122-51	199	IVV-33	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	37.5	16.2	6.4	3.3		569
122-52	199	IVV-38	Ⅰ	石鏃	珩質頁岩	39.2	13.0	6.0	2.1		11
122-53	199	IVT-48	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	39.0	11.4	6.8	2.6		593
122-54	199	IVT-47	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	34.7	10.2	5.2	1.8		596
122-55	199	IVU-56	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	34.2	13.9	7.7	3.2		1391
122-56	199	IVP-38	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	28.9	11.6	5.5	1.5		580
122-57	—	IVR-49	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	26.0	16.5	5.0	1.6		3768
123-1	199	IVQ-44	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	43.2	21.4	9.6	4.4		105
123-2	199	IVR-47	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	29.9	18.2	5.5	2.4		62
123-3	199	IVP-39	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	37.2	22.2	6.5	3.7		625
123-4	199	IV0-40	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	24.6	15.8	3.3	1.1		117
123-5	199	IVS-47	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	30.1	9.9	3.9	1.2		579
123-6	199	IVQ-41	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	15.9	10.0	2.0	0.2		548
123-7	199	IVQ-29	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	23.6	12.5	3.6	1.0		545
123-8	199	IVQ-48	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	30.2	13.1	7.2	3.1		553
123-9	199	IVM-44	Ⅰ	石鏃	珩質頁岩	19.9	13.1	3.9	0.9		554
123-10	199	IVN-44	Ⅲ下部	石鏃	珩質頁岩	31.9	14.7	5.8	2.5		550
123-11	199	Pit0072	Ⅰ	石鏃	珩質頁岩	25.9	12.9	5.7	1.8		555
123-12	199	IVN-43	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	18.1	11.1	6.3	1.1		552
123-13	199	IVN-42	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	24.4	12.6	2.4	0.7		556
123-14	—	IVN-46	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	19.0	19.0	5.0	0.5		3692
123-15	—	IVN-46	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	24.5	20.0	5.0	1.9		3763
123-16	199	IVM-47	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	34.5	10.0	5.0	1.2		3767
123-17	199	IVS-49	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	34.5	12.5	6.0	1.8		3802
123-18	—	IVT-45	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	(27.0)	15.0	6.0	(1.5)	未製品?	3783
123-19	—	IVT-35	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	26.0	18.0	6.0	2.0	未製品?	8118
123-20	—	IVQ-50	Ⅱ	石鏃	珩質頁岩	20.0	18.0	5.0	1.3	未製品?	3765
123-21	—	IVM-48	Ⅰ	石錐	珩質頁岩	32.0	19.0	39.0	3.9	未製品?	3741
123-22	—	IV0-42	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	29.0	16.5	4.0	1.3	未製品?	3769
123-23	199	IVW-32	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	22.0	14.0	4.0	1.0	未製品?	8110
123-24	199	IVR-40	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	30.8	18.8	5.4	2.8	未製品?	607

遺物観察表(剥片石器・自然礫・石斧) (5)

図-No.	写真	出土位置	層位	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	整理 No.
123-25	199	IVS-49	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	(52.6)	20.6	7.2	(5.7)	未製品?	151
123-26	—	IVR-44 Sec3	I	石鏃	珩質頁岩	36.0	20.5	8.0	5.3	未製品?	3764
123-27	—	IVQ-42	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	40.0	20.5	8.0	5.6	未製品?	3770
123-28	199	IVQ-38	Ⅲ	石鏃	玉髓	(29.2)	11.9	7.5	(2.3)	未製品?	780
123-29	—	IVV-32	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	(28.0)	20.0	6.0	(2.9)	未製品?	8111
123-30	—	IVT-49	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	28.0	18.0	4.0	1.7	未製品?	3687
123-31	—	IVS-35	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	32.0	23.0	7.0	4.1	未製品?	7795
123-32	199	IVQ-45	I	石槍	珩質頁岩	30.1	18.7	9.0	4.9	側縁非直線の、未製品?	970
123-33	—	IVR-37	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	40.0	21.0	8.0	5.4	未製品?	3742
123-34	—	IVS-48	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	31.0	16.0	5.0	2.1	未製品?	8113
123-35	—	IVP-39	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	41.0	25.5	7.0	5.4	未製品?	3721
123-36	199	IVN-46	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	19.0	13.0	5.0	1.1	未製品	3689
123-37	199	IVU-34	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	28.0	20.0	6.0	2.7	未製品	7818
123-38	—	IVR-50	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	27.5	15.0	6.5	1.5	未製品	3782
123-39	—	IVN-46	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	32.0	15.0	3.5	1.4	未製品	3751
123-40	—	IVS-35 Sec5	Ⅲ-5	石鏃	珩質頁岩	38.0	16.0	5.0	2.9	未製品	8000
123-41	—	IVQ-46	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	25.0	14.0	4.0	1.3	未製品	3666
123-42	—	IVQ-46	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	(25.0)	13.0	4.0	(1.2)	未製品	3761
123-43	—	IVN-43	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	(37.0)	22.0	6.0	(3.4)	未製品	3652
123-44	—	IVQ-42	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	(23.0)	15.0	4.5	(1.6)	未製品	3752
123-45	—	IVQ-48	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	(18.0)	17.0	2.0	(0.8)	未製品	3656
123-46	—	IVQ-46	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	(23.0)	12.0	3.0	(0.8)	未製品	3655
123-47	—	IVN-46	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	(24.0)	20.0	5.0	(2.1)	未製品	3684
124-1	199	IVR-50	Ⅲ	石槍	珩質頁岩	63.6	17.9	10.7	10.9		971
124-2	199	IVR-43	Ⅲ	石槍	珩質頁岩	44.6	21.1	9.7	7.1		1309
124-3	199	IVR-47	Ⅲ	石槍	珩質頁岩	46.5	19.2	10.2	7.0		964
124-4	199	IVQ-42	Ⅲ	石槍	珩質頁岩	(43.6)	18.2	9.8	(6.5)		972
124-5	199	IVQ-41	Ⅲ	石槍	珩質頁岩	46.5	20.9	9.2	6.8		969
124-6	199	IVS-46	Ⅲ	石槍	珩質頁岩	(47.5)	23.9	11.9	(11.3)		965
124-7	199	IVR-39	Ⅲ	石槍	珩質頁岩	47.2	20.4	9.9	8.5		963
124-8	199	IVR-45	Ⅲ	石槍	珩質頁岩	(46.3)	22.1	12.8	(11.8)		966
124-9	199	IVQ-48	Ⅲ	石槍	珩質頁岩	51.0	22.9	8.5	9.1		962
124-10	199	IVN-39	Ⅲ	石槍	珩質頁岩	38.4	25.9	6.9	6.2		955
124-11	199	IVQ-41	Ⅲ	石槍	珩質頁岩	(31.8)	19.6	6.3	(3.2)		1075
124-12	199	IVQ-44	I	石槍	珩質頁岩	36.5	21.1	8.3	5.8	石鏃未製品?	975
124-13	199	IVQ-45	Ⅲ	石槍	珩質頁岩	35.9	25.6	8.9	7.2	石鏃未製品?	1074
124-14	199	IVS-44	I	石槍	珩質頁岩	43.7	23.5	8.4	6.9		974
124-15	199	IVN-47	Ⅲ	石槍	珩質頁岩	46.5	21.1	9.3	9.4		959
124-16	199	IVR-43	Ⅲ	石槍	珩質頁岩	37.6	24.6	8.6	6.9		1386
124-17	199	IVQ-41	Ⅲ	石槍	珩質頁岩	46.5	26.6	9.3	10.6	側面湾曲	1636
124-18	199	IVQ-42	Ⅲ	石槍	珩質頁岩	44.5	20.7	8.8	7.8		958
124-19	199	IVR-36 Sec1	Ⅲ-2	石槍	珩質頁岩	53.8	24.7	9.1	10.6		1637
124-20	199	IVR-37	Ⅲ	石槍	珩質頁岩	38.6	22.5	11.2	6.1		1638
124-21	199	IVN-45	Ⅲ-7	石槍	珩質頁岩	43.0	26.5	13.8	14.1		1642
124-22	199	IVN-40	Ⅲ	石槍	珩質頁岩	37.4	20.2	11.1	6.8		968
124-23	199	IVP-37	Ⅲ	石槍	珩質頁岩	41.8	20.8	9.8	8.1		1639
124-24	199	IVR-42	Ⅲ	石槍	珩質頁岩	49.0	32.5	11.6	18.9	折れ面から再加工	997
124-25	199	IVS-45	Ⅲ	石槍	珩質頁岩	40.7	28.6	9.8	10.5		8598
125-1	199	IVR-46	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	43.4	29.0	5.4	3.3	上面礫面	739
125-2	199	IVQ-47	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	51.1	23.8	7.7	4.8		734
125-3	199	IVQ-49	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	(52.2)	34.9	11.3	(12.3)	上面礫面	776
125-4	199	IVP-41	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	64.5	28.9	6.8	6.7	上面礫面	741
125-5	199	IVS-48	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	(51.3)	24.2	11.8	(7.4)	上面礫面	768
125-6	199	IVP-47	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	53.4	19.7	9.5	4.1		740
125-7	199	IVN-42	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	(44.8)	30.4	9.3	(5.9)		771
125-8	199	IVP-42	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	62.4	23.5	7.9	6.1		726
125-9	199	IVN-43	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	55.7	26.9	5.9	4.5	上面礫面?	723
125-10	199	IVQ-48	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	(40.6)	19.4	6.3	(2.8)		760
125-11	199	IVV-33	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	65.5	29.2	13.1	12.8		8726
125-12	199	IVQ-45	Ⅲ下部	石錐	珩質頁岩	44.4	19.1	8.3	3.9		724
125-13	199	IVT-34	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	73.2	18.9	12.1	9.5		8721
125-14	199	IVT-36	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	47.1	25.0	10.2	8.2	先端摩耗	2925
125-15	199	IVN-46	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	44.1	22.7	7.0	3.7		738
125-16	199	IVT-34	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	70.1	26.0	16.6	17.7		8600

遺物観察表(剥片石器・自然礫・石斧)(6)

図-No.	写真	出土位置	層位	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	整理 No.
125-17	199	IVT-35	III	石錐	珩質頁岩	45.0	17.9	6.2	1.8	ブロック12	2945
125-18	199	IVS-43	III	石錐	珩質頁岩	48.5	15.2	7.2	3.0		721
125-19	199	IVT-38	III	石錐	珩質頁岩	(47.9)	20.4	6.7	(4.3)	火ハネ	758
125-20	199	IVS-45	III	石錐	珩質頁岩	(40.8)	22.1	7.8	(3.8)		725
125-21	199	IVP-42	III	石錐	珩質頁岩	(43.4)	34.5	10.2	(9.2)		751
125-22	199	IVP-40	III	石錐	珩質頁岩	45.9	17.2	4.8	2.5		733
125-23	200	IVQ-37	III	石錐	珩質頁岩	44.4	14.4	6.8	2.2		742
125-24	200	IVS-47	III	石錐	珩質頁岩	42.0	21.7	5.4	2.9		743
125-25	200	IVR-47	III	石錐	珩質頁岩	(45.1)	24.9	4.5	(2.8)		756
125-26	200	IVS-35	III	石錐	珩質頁岩	(37.7)	21.6	9.7	(4.9)		8602
125-27	200	IVP-42	III	石錐	珩質頁岩	(45.8)	24.1	5.7	(3.5)		736
125-28	200	IVN-42	III	石錐	珩質頁岩	44.8	14.4	9.7	4.2		728
126-1	200	IVN-42	III	石錐	珩質頁岩	63.2	34.8	12.7	17.8		763
126-2	200	IVS-44	III	石錐	珩質頁岩	(58.6)	25.1	16.8	(17.1)	未製品?	1481
126-3	200	IVS-49	III	石錐	珩質頁岩	(31.5)	21.6	13.6	(5.2)	基部は礫面付近の軟質部	2918
126-4	200	IVU-33	III	石錐	珩質頁岩	(36.2)	16.4	8.0	(3.7)		8617
126-5	200	IVS-34	III	石錐	珩質頁岩	(53.5)	21.0	9.6	(9.0)	ブロック11	8612
126-6	200	IVR-47	III	石錐	珩質頁岩	35.6	17.4	5.9	3.1		730
126-7	200	IVT-41	I	石錐	珩質頁岩	37.0	15.5	7.0	3.2		732
126-8	200	IVR-45	III	石錐	珩質頁岩	44.0	22.4	5.9	5.4		731
126-9	200	IVQ-54	III	石錐	珩質頁岩	40.4	22.2	6.0	4.1		3638
126-10	200	IVQ-39	III	石錐	珩質頁岩	42.2	13.3	5.2	1.9	アスファルト	747
126-11	200	IVT-52	III	石錐	珩質頁岩	33.5	14.2	5.5	1.8		737
126-12	200	IV0-40	III	石錐	珩質頁岩	30.1	14.8	4.0	1.6		745
126-13	—	IVU-29	III	石錐	珩質頁岩	35.0	15.0	8.0	4.0		8108
126-14	200	IVW-31	I	石錐	珩質頁岩	55.8	15.8	12.7	9.7		8608
126-15	200	IVQ-38	III	石錐	珩質頁岩	43.3	15.3	11.1	6.6	先端摩滅	735
126-16	200	IVT-51	III	石錐	珩質頁岩	35.0	8.7	5.8	1.6		783
126-17	200	IVT-46	III	石錐	珩質頁岩	42.0	10.4	6.8	2.0	上面礫面	711
126-18	200	ブロック HST03	3回目 取り上げ	石錐	珩質頁岩	47.5	15.3	9.9	7.0	先端側縁わずかに摩滅	1517
126-19	200	IVQ-43	III	石錐	玉髓質珩質頁岩	46.1	14.2	10.8	6.2		678
126-20	—	IVV-33	III	石錐	珩質頁岩	38.9	11.6	8.6	3.9	先端摩滅、二重パティナ	8615
126-21	200	IVM-46	III	石錐	珩質頁岩	(33.2)	13.5	6.0	(2.2)		669
126-22	200	IVR-42	III	石錐	珩質頁岩	40.0	10.0	6.1	2.5	先端摩滅	715
126-23	200	IVV-34	III	石錐	珩質頁岩	45.1	14.0	6.4	3.6		2946
126-24	200	IVT-49	III	石錐	珩質頁岩	50.5	10.9	9.6	4.7		695
126-25	200	IVQ-40	III	石錐	珩質頁岩	47.3	10.3	6.4	2.5	先端摩滅	704
126-26	200	IVW-33	III	石錐	珩質頁岩	43.4	8.2	5.8	2.0		8606
126-27	200	IVT-33	III	石錐	珩質頁岩	61.1	9.1	6.6	4.2	先端摩滅	8601
126-28	200	IVQ-48	III	石錐	珩質頁岩	78.5	11.1	7.7	7.5	両端摩滅	671
126-29	200	IV0-43	III	石錐	珩質頁岩	61.2	9.9	8.9	4.6		717
126-30	200	IVT-35	III	石錐	珩質頁岩	(47.3)	8.6	5.9	(2.8)	先端わずかに摩滅	8603
126-31	200	IVQ-48	III	石錐	珩質頁岩	(48.6)	10.1	7.0	(3.5)	先端摩滅	676
126-32	200	IVQ-39	III	石錐	珩質頁岩	48.3	9.1	7.0	2.7	先端摩滅	718
126-33	200	IVT-47	III	石錐	珩質頁岩	42.9	7.7	5.0	1.8		705
126-34	200	IV0-42	III	石錐	珩質頁岩	48.5	8.8	7.5	3.0	先端側縁摩滅	712
126-35	200	IV0-45	III-6	石錐	珩質頁岩	46.4	8.9	5.7	2.4	先端摩滅、Sec2	1415
126-36	200	IVQ-37	III	石錐	珩質頁岩	40.9	7.7	5.7	1.8	両端使用? 基部端部わずかに摩滅、Sec2	687
126-37	200	IVT-35	III	石錐	珩質頁岩	30.1	8.1	5.5	1.2	先端側縁わずかに摩滅	8604
126-38	—	IVV-34	III	石錐	珩質頁岩	26.5	7.3	4.5	0.7	アスファルト、石鏃?	8616
126-39	200	IV0-44	III-5	石錐	珩質頁岩	22.0	5.1	4.0	0.5	両端摩滅	1489
126-40	—	IVU-34	III	石錐	珩質頁岩	34.0	8.4	4.7	1.3	先端側縁わずかに摩滅、ブロック09	8611
126-41	200	IVS-35	III上	石錐	珩質頁岩	33.4	5.7	3.6	0.8	両端使用? 基部側端部摩滅	8725
126-42	200	IVR-39	III	石錐	珩質頁岩	(24.6)	5.2	3.5	(0.5)		719
126-43	200	IVM-46	III	石錐	珩質頁岩	26.1	7.4	5.5	1.1	先端摩滅	697
126-44	200	IVR-45	III	石錐	珩質頁岩	30.8	7.7	4.2	1.1		706
126-45	—	IVU-33	III	石錐	珩質頁岩	19.9	6.2	3.5	0.6		8609
127-1	200	IVT-50	III	石錐	珩質頁岩	38.2	10.2	8.2	3.0	両端摩滅	707
127-2	200	IV0-46	III	石錐	珩質頁岩	47.3	8.5	7.9	2.8	先端摩滅	677
127-3	200	IV0-45	III	石錐	珩質頁岩	48.5	8.8	6.9	2.5		691
127-4	200	IVN-40	III	石錐	珩質頁岩	39.1	8.8	5.5	2.1	両端摩滅	693
127-5	200	IVS-48	III	石錐	珩質頁岩	35.7	7.5	5.5	1.7		690
127-6	200	IVT-49	III	石錐	珩質頁岩	30.1	9.2	5.6	1.9		679
127-7	200	IVU-30	III	石錐	珩質頁岩	42.4	10.6	7.4	3.3	両端摩滅、先端顕著	8618
127-8	200	IVN-45	III	石錐	珩質頁岩	(32.9)	7.3	3.9	(1.0)		709
127-9	200	IVS-46	II	石錐	珩質頁岩	(38.9)	9.8	7.9	(2.6)		674

遺物観察表(剥片石器・自然礫・石斧)(7)

図-No.	写真	出土位置	層位	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	整理 No.
127-10	200	IVN-44	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	43.4	9.9	7.5	2.7		683
127-11	200	IVQ-34	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	38.0	9.5	7.8	2.9	先端摩滅	688
127-12	200	IV0-44	Ⅲ-8	石錐	珩質頁岩	42.1	9.7	6.5	2.6	先端摩滅	1418
127-13	200	IV0-44	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	39.6	10.6	7.8	3.4	先端摩滅	699
127-14	200	IVV-34	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	39.2	8.2	4.2	1.4	先端摩滅	8607
127-15	200	IVQ-37	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	42.7	11.7	8.5	3.6	両端摩滅、先端頭著	779
127-16	200	IVS-47	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	42.5	9.8	7.1	2.9	先端摩滅	708
127-17	200	IVQ-41	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	35.1	9.3	6.5	2.3	先端摩滅	703
127-18	200	IV0-44	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	33.4	10.8	6.8	2.2		685
127-19	200	IVR-46	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	38.5	11.0	7.6	3.3		684
127-20	200	IV0-45	I	石錐	珩質頁岩	30.9	7.0	4.5	1.1		720
127-21	200	IVT-50	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	32.5	8.0	4.5	1.2		680
127-22	200	IVS-47	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	(28.9)	8.9	6.0	(1.5)	先端摩滅	713
127-23	200	IVQ-39	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	26.5	5.7	5.1	0.8		701
127-24	200	IVR-48	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	23.2	7.6	5.5	1.1		675
127-25	200	IVQ-41	I	石錐	珩質頁岩	28.0	7.9	6.5	1.6		686
127-26	200	IVT-33 ブロック9	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	39.3	8.2	6.2	2.0		8720
127-27	200	IVP-42	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	40.9	9.2	6.3	2.4	先端摩滅	681
127-28	200	IVU-33	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	32.7	8.6	5.5	1.6		8610
127-29	200	IVU-55	I	石錐	珩質頁岩	35.4	7.0	5.2	1.0		1490
127-30	200	IVQ-47	Ⅲ下部	石錐	珩質頁岩	(31.6)	11.0	6.4	(2.0)		673
127-31	200	IVS-48	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	(33.6)	7.8	5.2	(1.2)		682
127-32	200	IVS-45	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	(26.4)	7.4	3.5	(0.8)		716
127-33	200	IVV-40	I	石錐	珩質頁岩	24.6	8.6	4.7	1.1	先端摩滅	694
127-34	200	IVR-40	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	30.4	9.6	6.6	2.0		670
127-35	200	IVT-49	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	(26.9)	9.0	5.3	(1.3)	先端からの衝撃により欠損	702
127-36	200	IVR-44	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	37.6	6.3	4.8	1.0		696
127-37	200	ブロック 旧SI03	3回目 取上げ	石錐	珩質頁岩	35.1	7.4	5.0	1.6	先端摩滅	1516
127-38	200	IVQ-44	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	31.8	9.2	6.8	2.0	先端摩滅、火ハネ	700
127-39	200	IVT-49	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	26.8	7.2	5.5	1.2	先端からの衝撃により欠損	672
127-40	200	IV0-43	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	29.0	8.3	5.7	1.4		692
127-41	200	IVN-45	I	石錐	珩質頁岩	22.2	6.0	3.1	0.4	先端摩滅	689
127-42	200	IVR-49	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	29.2	8.3	6.6	1.3	先端摩滅	710
127-43	200	IVN-47	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	26.9	6.8	4.0	0.7		714
127-44	200	IVT-29	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	88.2	49.5	24.7	81.8		2950
127-45	200	IVV-31	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	59.3	44.4	18.2	39.4	先端摩滅	1073
127-46	200	IVR-34	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	(39.6)	20.4	7.0	(3.4)		1072
127-47	200	IVR-48	Ⅲ	石錐	玉髓質珩質頁岩	(27.6)	8.3	3.8	(0.9)		698
127-48	—	IVT-34	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	30.0	10.0	5.0	1.1		8116
127-49	200	IVQ-39	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	40.8	27.6	6.2	4.6		782
127-50	200	IVQ-57	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	(45.9)	39.6	8.7	(11.3)	アスファルト?	2919
127-51	200	IVU-34	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	(30.4)	6.5	4.7	(1.0)		8605
128-1	—	IVV-33	Ⅲ	石筥	珩質頁岩	86.0	39.8	16.5	48.1	光沢	7124
128-2	201	IV0-42	Ⅲ	石筥	珩質頁岩	90.3	41.1	13.1	54.2	刃部・基部光沢	1076
128-3	201	IVR-36	Ⅲ	石筥	珩質頁岩	76.6	39.0	13.2	38.5	光沢、刃部再加工?	6053
128-4	201	IVR-50	Ⅲ	石筥	珩質頁岩	88.9	42.0	15.7	51.5		8595
128-5	201	IVN-42	Ⅲ	石筥	珩質頁岩	63.7	29.6	16.8	30.3		1373
128-6	201	IVN-39	Ⅲ	石筥	珩質頁岩	78.4	34.0	18.9	44.5		1635
128-7	201	IV0-41	Ⅲ	石筥	珩質頁岩	71.4	30.2	13.4	27.8	光沢	988
128-8	201	IVT-44	Ⅲ	石筥	珩質頁岩	87.9	44.1	17.4	73.0		1374
128-9	201	IVR-43	Ⅲ	石筥	珩質頁岩	57.0	35.0	14.8	26.9		1375
128-10	201	IVN-39	Ⅲ	石筥	珩質頁岩	71.6	26.8	10.4	21.2		1634
128-11	201	IVV-40	I	石筥	珩質頁岩	(49.9)	27.1	10.6	(15.2)		989
128-12	201	IVV-30	I	石筥	珩質頁岩	94.4	64.7	25.7	101.7	二重パティナ	7127
129-1	201	IVT-29	Ⅲ	石筥	珩質頁岩	69.4	56.5	20.9	53.8	光沢	7123
129-2	201	IVN-40	Ⅲ	石筥	珩質頁岩	68.4	39.9	29.3	76.4	石核?	1632
129-3	201	IVV-30	I	石筥	珩質頁岩	48.5	19.0	9.1	9.0		7126
129-4	201	IVT-29	Ⅲ	石筥	珩質頁岩	72.6	54.2	15.4	41.8		7122
129-5	201	IVS-35 Sec7	Ⅲ-9	石筥	珩質頁岩	38.5	26.9	7.8	6.3		8599
129-6	201	IVN-45	Ⅲ	石筥	珩質頁岩	42.5	33.3	10.4	11.0		1077
129-7	201	IVN-42	Ⅲ	石筥	珩質頁岩	70.4	76.0	16.2	56.6		937
129-8	201	IVN-46	Ⅲ	石筥	珩質頁岩	44.3	27.5	10.7	12.9	未製品?	4108
129-9	201	IVT-34	Ⅲ	石筥	珩質頁岩	38.5	27.6	8.6	10.5		7125
129-10	201	IVR-46	Ⅲ	石筥	珩質頁岩	38.5	32.0	8.2	8.2		799

遺物観察表(剥片石器・自然礫・石斧)(8)

図-No.	写真	出土位置	層位	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	整理 No.
129-11	201	IVP-40	Ⅲ	石筥	珩質頁岩	70.8	55.2	21.6	58.0	正面基部左側縁つぶれ	1633
129-12	201	IV0-41	Ⅲ	石筥	珩質頁岩	42.4	29.9	6.7	7.5		800
129-13	201	IVR-48	Ⅲ	両面調整石器	珩質頁岩	49.7	30.8	14.4	19.6	石槍・石筥未製品?	3641
129-14	201	IVU-51	Ⅲ	両面調整石器	珩質頁岩	44.1	18.6	9.5	7.2	石錐(未製品)? 石鏃未製品?	960
129-15	201	IVS-44	Ⅲ	両面調整石器	珩質頁岩	47.7	29.9	13.6	18.3	石槍・石筥未製品?	1388
129-16	201	IVS-44 Sec3	I	両面調整石器	珩質頁岩	51.6	26.9	11.3	15.4	石槍未製品?	1641
130-1	201	IVN-39	Ⅲ	両面調整石器	珩質頁岩	53.5	18.5	9.9	10.7	石槍・石錐未製品?	1038
130-2	201	IVR-45	Ⅲ	両面調整石器	珩質頁岩	47.0	15.5	6.4	4.4	石鏃未製品? 削器?	1036
130-3	201	IVR-47	Ⅲ	両面調整石器	珩質頁岩	60.2	18.8	9.9	10.1	石錐未製品?	1037
130-4	202	IVU-29	Ⅲ	両面調整石器	凝灰岩	127.0	41.0	29.0	133.2	正面左側縁つぶれ、石核?	6735
130-5	201	IVP-43	Ⅲ	両面調整石器	珩質頁岩	47.9	25.8	10.5	11.7	石槍・石筥未製品?	2910
130-6	201	IVQ-45	Ⅲ	両面調整石器	珩質頁岩	40.5	24.6	10.8	10.1	石鏃未製品?	973
130-7	201	IVM-39	Ⅲ	両面調整石器	珩質頁岩	47.5	30.5	8.1	10.6		3644
130-8	201	IVR-44 Sec3	Ⅲ-8	両面調整石器	珩質頁岩	71.1	28.6	15.2	32.9	石筥(未製品)?	1581
130-9	201	IV0-41	Ⅲ	両面調整石器	珩質頁岩	72.4	36.5	11.3	30.5	石槍未製品?	1372
130-10	201	IVS-52	Ⅲ	両面調整石器	珩質頁岩	66.7	37.6	12.0	31.2	石筥? 光沢	8597
130-11	202	IVS-41	Ⅲ	両面調整石器	珩質頁岩	44.7	60.0	16.4	34.7	削器?	1621
130-12	202	IVQ-49	Ⅲ	両面調整石器	珩質頁岩	74.2	32.2	12.4	25.4	石槍・石筥未製品?	3645
130-13	202	IV0-43	Ⅲ	両面調整石器	珩質頁岩	70.5	45.9	22.6	62.2	光沢、石筥刃部再加工?	8722
130-14	202	IVN-44	Ⅱ	両面調整石器	珩質頁岩	48.3	25.1	10.6	10.2	石匙(未製品)?	8730
131-1	—	IVT-34	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	28.0	12.0	6.0	1.6		7133
131-2	—	IVQ-49	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	40.0	17.0	5.0	2.5	素材剥片ヒンジフラクチャー	3441
131-3	202	IVQ-45	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	42.9	20.1	4.3	3.2	素材剥片ステップフラクチャー	836
131-4	202	IV0-40	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	(41.5)	21.4	4.4	(3.2)		845
131-5	202	IVS-35 Sec5	Ⅲ-7, 8	石匙	珩質頁岩	60.5	22.0	8.0	5.3	アスファルト	3543
131-6	—	IVP-46	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	65.0	22.0	6.0	6.9		3473
131-7	—	IVQ-36 Sec1	Ⅲ-1	石匙	珩質頁岩	45.5	14.0	9.0	2.8		843
131-8	202	IVS-48	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	42.0	17.0	5.0	2.7		840
131-9	—	IVR-48	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	46.0	19.0	11.0	6.7		3437
131-10	—	IVR-48	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	50.0	22.0	8.0	4.9		6059
131-11	202	IVS-48	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	49.0	19.0	6.0	3.7		823
131-12	—	IVN-47	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	60.0	26.0	12.0	11.5	裏面末端節理	3445
131-13	202	IVS-34 Sec7	Ⅲ-2	石匙	珩質頁岩	56.0	30.0	9.0	8.3	素材剥片ウートラパッセ	3552
131-14	202	IVT-29	I	石匙	珩質頁岩	45.0	33.0	7.0	4.8		3504
131-15	202	IVS-35	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	67.0	24.0	12.0	8.9		3512
131-16	—	IVR-45	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	(61.5)	23.5	9.0	(6.2)		842
131-17	—	IVR-48	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	46.0	24.0	8.0	3.5		6072
131-18	—	IVQ-37	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	62.0	34.0	9.0	10.2		1340
131-19	—	IVT-52	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	50.0	28.0	8.0	5.5		6499
131-20	202	IVT-51	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	53.9	(20.2)	7.5	(5.0)		862
131-21	202	IVW-31	I	石匙	珩質頁岩	60.0	20.0	5.0	4.1		3486
131-22	202	IVQ-46	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	84.0	31.0	13.0	25.7		3480
131-23	202	IVQ-37	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	70.0	30.0	12.0	11.5		1820
131-24	202	IVT-48	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	45.5	14.0	7.0	3.6		3449
131-25	202	IVS-48	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	67.0	34.0	12.0	22.8		6081
131-26	202	IVS-50	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	50.0	30.0	9.0	7.7		858
132-1	—	IVQ-47	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	48.0	14.0	7.0	2.6		6055
132-2	—	IV0-47	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	72.0	34.0	16.0	33.0	アスファルト抉り部に微量	6084
132-3	202	IVS-47	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	51.2	20.2	3.0	2.8		844
132-4	202	IVN-45	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	45.9	32.3	8.9	6.9		853
132-5	202	IVQ-45	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	56.5	22.0	6.0	4.2		860
132-6	—	IVR-48	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	46.0	22.0	8.0	4.2	つまみ部両端	6058
132-7	202	IVS-50	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	75.0	36.0	11.0	22.6	正面右下刃部アスファルト	3478
132-8	202	IVU-34	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	95.4	34.5	15.9	(32.5)	両側縁の一部火ハネ	7140
132-9	202	IV0-43	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	41.0	25.5	8.8	7.1	アスファルト	2889
132-10	202	IVR-48	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	58.1	22.1	7.2	9.1	素材剥片ウートラパッセ	871
132-11	202	IVQ-45	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	79.3	45.1	11.9	36.3		852
132-12	202	IVP-37	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	71.0	39.0	18.0	26.8		1785
132-13	202	IVP-42	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	54.8	24.4	8.3	10.6		856
132-14	202	IVS-49	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	71.2	34.6	10.9	22.0		830
132-15	202	IVR-48	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	64.8	29.5	8.3	11.4		834
132-16	203	IVM-56	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	58.5	32.6	4.6	9.7	素材剥片ヒンジフラクチャー	828

遺物観察表(剥片石器・自然礫・石斧)(9)

図-No.	写真	出土位置	層位	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	整理 No.
132-17	203	IVP-41	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	68.8	31.8	10.2	15.8	アスファルト	805
132-18	203	IVQ-45	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	66.6	47.1	9.6	22.9	アスファルト	798
133-1	203	IVQ-48	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	79.0	29.0	8.0	11.5	アスファルト	6373
133-2	203	IVR-37	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	92.7	29.6	7.7	14.4	アスファルト	804
133-3	203	IVW-31	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	114.3	64.5	20.8	(90.4)	刃部光沢、正面下辺にガジリ	3547
133-4	203	IVS-45	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	75.5	31.3	14.7	27.0	アスファルト	6506
133-5	203	IVN-45	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	87.4	43.8	16.6	38.9	アスファルト	3955
133-6	203	IVQ-37 Sec1	Ⅲ-2	石匙	珪質頁岩	91.1	45.1	14.1	38.7	刃部光沢、S-4	810
133-7	203	IVR-43	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	83.0	26.0	17.0	21.5	アスファルト	3934
133-8	203	IVQ-45	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	72.5	33.9	10.0	20.5	上面節理面、 素材剥片ステップフラクチャー	825
133-9	—	IVS-48	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	(56.2)	(31.6)	6.5	(7.7)	アスファルト	801
133-10	203	IVN-39	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	95.4	32.4	12.2	32.8		6312
133-11	203	IVT-35	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	70.0	38.0	9.0	13.9	つまみ部は礫皮付近の軟質部	3545
133-12	203	IVS-42	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	(73.7)	51.4	17.2	(66.8)		1380
134-1	203	IVP-43	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	63.6	29.8	8.8	18.1	アスファルト	802
134-2	—	IVS-35	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	42.0	22.0	8.0	6.0		3500
134-3	203	IVR-35	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	54.0	12.0	8.0	3.9	つまみ部は礫皮付近の軟質部	839
134-4	203	IVT-49	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	55.9	21.6	13.3	8.0	つまみ部は礫皮付近の軟質部	835
134-5	203	IVQ-48	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	48.8	19.4	6.0	4.7		854
134-6	203	IVU-29	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	75.0	19.0	7.5	6.4	上部は礫皮付近の軟質部	3521
134-7	—	IVR-46	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	68.0	22.0	10.0	9.2		6091
134-8	203	IVS-48	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	71.3	36.5	11.4	32.5		829
134-9	—	IVQ-48	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	72.0	38.0	16.0	34.2		6482
134-10	—	IVR-37	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	83.0	42.0	8.0	25.7	上面節理面、 素材剥片ステップフラクチャー	1825
134-11	203	IVR-48	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	55.4	30.9	9.0	14.6		849
134-12	203	IVQ-29	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	59.0	24.0	8.0	9.6		1786
134-13	—	IVT-49	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	53.0	26.0	9.0	7.5		3442
134-14	—	IVN-46	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	57.0	30.0	9.0	7.5		3464
134-15	—	IVQ-39	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	67.0	31.0	7.0	8.1		1341
134-16	203	IVS-34	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	34.0	21.5	5.0	2.6		3519
134-17	—	IVS-48	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	46.0	21.0	7.0	3.5		6075
134-18	203	IVS-35	Ⅲ-7	石匙	珪質頁岩	32.0	26.5	5.0	3.8		3533
134-19	—	IVO-43	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	44.0	41.0	8.0	9.3		3469
134-20	203	IVR-45	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	(43.2)	15.7	7.0	(3.2)		876
134-21	—	IVN-41	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	44.0	51.5	12.0	12.8		1808
134-22	203	IVR-45	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	59.2	31.8	9.7	12.3		851
135-1	—	IVT-48	Ⅲ	石匙	玉髄質珪質頁岩	43.0	32.0	5.0	2.6		848
135-2	—	ブロック 旧SI03	3回目 取上げ	石匙	珪質頁岩	41.0	47.0	9.0	7.1		1518
135-3	—	IVQ-40	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	41.0	35.0	9.0	8.8		855
135-4	203	IVS-46	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	68.5	25.2	8.8	13.4	素材剥片ヒンジフラクチャー、S-164	864
135-5	—	IVO-42	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	59.0	32.0	5.0	5.5		846
135-6	203	IVS-48	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	(55.4)	27.6	7.7	(9.5)		872
135-7	—	IVR-46	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	47.0	26.0	7.0	4.4		6069
135-8	—	IVU-34	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	30.0	23.0	7.0	2.9		8114
135-9	203	IVO-42	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	52.5	42.0	6.0	7.9	アスファルト	3465
135-10	203	IVQ-37	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	34.6	51.4	8.4	15.5		826
135-11	203	IVS-49	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	36.9	68.8	8.9	22.2	上部礫皮付近の軟質部	831
135-12	203	IVO-47	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	44.6	58.8	9.0	18.3	挟り部にアスファルト?微量	936
135-13	—	IVN-43	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	55.0	55.0	10.0	22.1	アスファルト	6354
135-14	203	IVQ-36 Sec1	Ⅲ-2	石匙	珪質頁岩	73.0	30.6	7.7	16.2		859
135-15	203	IVS-49	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	58.0	31.0	10.0	10.9	アスファルト、S-49	2892
135-16	203	IVN-42	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	60.8	46.5	11.2	27.9	素材剥片ヒンジフラクチャー	1379
135-17	203	IVT-49	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	36.9	66.1	7.8	18.2	アスファルト	807
136-1	203	IVT-50	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	35.8	52.0	7.8	13.5	アスファルト	837
136-2	204	IVS-47	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	42.4	63.1	11.1	22.7		838
136-3	204	IVS-47	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	27.1	70.7	10.9	15.2	S-119	875
136-4	204	IVN-42	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	56.8	50.0	9.2	24.7		873
136-5	204	IVQ-42	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	26.9	42.0	10.5	11.3	アスファルト	806
136-6	204	IVS-34	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	36.0	32.0	6.5	4.6		3531
136-7	204	IVQ-45	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	53.1	30.4	10.2	15.1		850
136-8	204	IVR-49	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	58.5	(79.2)	14.7	(53.6)	正裏ともに下部刃部に薄く光沢	847
136-9	204	IVO-44	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	38.5	46.5	8.0	14.1	アスファルト	803

遺物観察表(剥片石器・自然礫・石斧) (10)

図-No.	写真	出土位置	層位	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	整理 No.
136-10	204	IVT-35	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	50.3	65.7	12.6	28.2	アスファルト	3546
136-11	204	IVN-46	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	36.7	42.4	12.0	13.3		3471
136-12	204	IVR-49	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	35.0	33.0	7.0	3.7	アスファルト	2891
136-13	204	IVM-46	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	34.0	22.0	7.0	3.2		3475
136-14	204	IVP-42	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	38.4	46.5	9.4	14.0		833
136-15	204	IVR-48	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	65.5	48.0	8.0	10.7		6056
136-16	—	IVT-34	Ⅲ-7~8	石匙	珩質頁岩	37.0	34.0	4.0	2.8		3540
136-17										欠番	3540
137-1	—	IVS-44	I	石匙	珩質頁岩	55.0	49.5	11.0	18.9		1771
137-2	204	IVQ-36 Sec1	Ⅲ-2	石匙	珩質頁岩	55.4	14.8	9.2	6.6		841
137-3	204	IVT-29	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	60.0	50.0	20.0	39.2		3520
137-4	—	IVR-46	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	53.0	38.0	101.0	15.8		3467
137-5	204	IVS-49	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	53.0	48.0	13.0	22.0	アスファルト	3951
137-6	204	IVT-49	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	46.0	34.0	8.0	13.8	緑色	992
137-7	204	IVN-45	I	石匙	珩質頁岩	60.2	71.9	12.8	32.2	アスファルト	1822
137-8	204	IVR-45	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	28.0	62.5	6.7	11.2		888
137-9	—	IVT-49	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	32.0	46.0	7.0	4.5		6093
137-10	—	IVS-45	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	77.0	71.0	14.0	45.6		6505
137-11	204	IVR-37	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	51.6	51.0	13.5	29.8	アスファルト	797
137-12	—	IVV-33	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	39.0	21.0	6.0	2.5		3505
137-13	204	IVN-40	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	52.0	46.5	9.0	13.0	アスファルト	1779
137-14	—	IV0-41	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	57.0	29.0	6.0	4.7		1802
137-15	204	IVS-45	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	91.0	62.0	15.0	26.8	つまみ部2個	6079
137-16	204	IVS-36 Sec5	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	45.0	55.0	11.0	14.1	アスファルト	3430
138-1	204	IVQ-47	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	56.5	44.0	8.0	14.2	アスファルト	3931
138-2	204	IVQ-49	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	32.5	88.9	11.7	18.7	アスファルト、特38	868
138-3	204	IV0-40	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	45.5	64.6	9.2	22.3		930
138-4	204	IVU-35	SN45下	石匙	珩質頁岩	23.5	48.5	5.0	3.7		3513
138-5	204	IVT-52	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	33.7	56.9	8.3	12.4		913
138-6	204	IVS-47	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	37.4	52.5	8.6	11.4		921
138-7	204	IVR-49	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	38.3	53.2	10.8	18.5		824
138-8	204	IVR-37	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	39.5	56.0	9.2	16.1		934
138-9	205	IVQ-50	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	35.4	60.8	13.1	24.4		925
138-10	205	IV0-41	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	45.2	73.5	10.7	29.9		933
138-11	205	IVQ-46	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	35.5	60.6	8.6	12.0		917
138-12	—	IVN-44	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	53.0	61.0	9.0	26.2		6480
138-13	205	IVR-48	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	38.5	55.6	10.1	15.1		909
138-14	205	IVT-33 ブロック9	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	34.8	69.8	11.5	15.8		2858
139-1	205	IVS-46	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	34.8	69.8	11.5	15.8		6060
139-2	205	IVT-34	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	36.0	69.7	12.4	22.3		8728
139-3	205	IVS-49	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	48.0	49.0	13.0	16.3	アスファルト	6063
139-4	205	IVT-44	I	石匙	珩質頁岩	58.1	66.9	14.9	41.4	Sec3	1378
139-5	205	IVS-48	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	43.1	50.1	8.2	12.5		914
139-6	205	IV0-41	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	34.3	72.5	12.3	(17.6)	アスファルト	1803
139-7	205	IVR-47	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	51.5	53.3	11.2	19.2		922
139-8	205	IVR-35	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	35.6	74.7	9.1	14.9	アスファルト	1070
139-9	205	IVP-42	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	33.0	64.0	11.0	16.1	アスファルト	6478
139-10	205	IVN-44	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	41.1	56.8	11.3	16.7	アスファルト、S-67	899
139-11	205	IVN-39	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	53.0	68.8	13.8	33.6	アスファルト	900
139-12	205	IVQ-45	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	31.9	66.8	9.2	12.7	アスファルト	919
139-13	205	IVR-49	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	46.4	62.7	9.3	17.8	アスファルト	903
139-14	205	IVT-34	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	26.0	30.0	6.0	2.0		3508
140-1	205	IV0-47	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	74.0	69.5	13.0	47.5	正面挟り部変色、アスファルト痕? 装着の紐痕? 写真参照	908
140-2	205	IVT-34	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	42.5	56.0	12.0	18.6	アスファルト	2859
140-3	205	IVS-47	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	40.0	61.0	9.0	16.6	アスファルト、 つまみ部礫皮付近の軟質部	3466
140-4	205	IVS-37	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	36.0	53.0	10.0	13.4	裏面下部にアスファルト	1817
140-5	205	IVQ-48	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	34.0	43.1	10.5	13.3	アスファルト	935
140-6	205	IVV-30	I	石匙	珩質頁岩	49.0	40.0	10.0	12.7	アスファルト	3416
140-7	205	IVQ-46	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	42.0	52.0	10.0	16.0	アスファルト	3450
140-8	205	IVT-34	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	43.0	54.0	10.0	19.4	アスファルト	2860
140-9	205	IVP-38	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	51.5	74.0	16.0	28.8	アスファルト、S-12	942

遺物観察表(剥片石器・自然礫・石斧)(11)

図-No.	写真	出土位置	層位	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	整理 No.
140-10	205	IVT-50	I	石匙	珪質頁岩	37.2	53.2	10.2	14.4		932
140-11	205	IVR-47	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	36.2	39.6	7.9	8.5		931
140-12	205	IVR-47	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	42.5	47.4	10.9	15.5	アスファルト、 つまみ部礫皮付近の軟質部	3933
140-13	206	IVS-47	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	67.0	60.2	11.0	34.3	アスファルト	2890
140-14	206	IVS-44	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	27.1	24.4	5.2	2.5	アスファルト	895
140-15	206	IVT-47	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	48.5	50.9	10.2	20.6		926
140-16	206	IVS-44	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	65.1	(37.4)	14.9	(29.6)	アスファルト、 下部刃部の表裏に薄く光沢	878
140-17	206	IVS-35	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	47.2	34.9	11.6	12.3	アスファルト、 下部刃部の表裏に薄く光沢	8727
141-1	206	IVR-34	I	石匙	珪質頁岩	50.0	53.0	9.0	19.3	アスファルト	1331
141-2	206	IVT-33	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	47.0	60.0	11.0	22.1	アスファルト	2856
141-3	206	IV0-43	Ⅱ	石匙	珪質頁岩	32.1	34.3	8.2	5.6	アスファルト	896
141-4	206	IVR-36 Sec1	Ⅲ-2	石匙	珪質頁岩	30.6	54.5	7.3	10.0	S-48	924
141-5	206	IVS-48	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	20.8	29.9	5.0	2.1		918
141-6	206	IVT-29	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	44.0	58.0	9.0	17.0	アスファルト	3537
141-7	206	IVT-51	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	41.8	61.9	6.7	10.4		916
141-8	206	IVS-48	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	42.8	53.4	9.8	15.6		897
141-9	206	IVT-28	I	石匙	珪質頁岩	42.5	60.0	9.0	13.8	アスファルト	2854
141-10	206	IVS-50	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	41.5	49.5	8.9	13.9	つまみ部礫皮付近の軟質部	923
141-11	206	IVN-44	Ⅲ-1	石匙	珪質頁岩	70.3	69.2	14.7	47.5	アスファルト、Sec2	1381
141-12	206	IVQ-34	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	37.9	47.4	7.8	9.0		910
141-13	206	IVT-50	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	36.9	62.4	9.5	13.0		927
141-14	206	IVS-45	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	66.3	64.7	14.8	47.4	アスファルト	939
142-1	206	IVR-47	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	50.0	54.4	11.1	20.5		940
142-2	206	IVQ-34	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	49.2	(59.3)	10.9	(26.3)	アスファルト	938
142-3	206	IVN-45	Ⅲ-1	石匙	珪質頁岩	45.4	45.8	10.6	19.5	アスファルト	1377
142-4	206	IVN-43	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	53.8	68.2	15.2	36.6		869
142-5	206	IVR-38	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	38.6	57.1	13.8	20.0	アスファルト	898
142-6	206	IVS-35	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	48.0	59.0	9.0	13.7	アスファルト	2851
142-7	206	IVR-47	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	41.0	(45.0)	11.0	(14.1)	アスファルト	2880
142-8	206	IVM-38	I	石匙	珪質頁岩	62.0	78.8	14.1	42.7	アスファルト	1376
142-9	206	IVS-50	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	54.1	62.2	9.8	22.4		915
142-10	206	IV0-40	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	29.4	43.4	7.6	7.0		941
142-11	206	IVT-28	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	51.0	62.0	15.0	30.8	アスファルト	2855
142-12	206	IVS-47	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	58.6	37.0	8.2	12.7	つまみ部上面礫皮	827
142-13	206	IVQ-51	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	44.0	40.0	8.8	14.2	アスファルト	902
143-1	207	IVR-30	I	石匙	珪質頁岩	41.9	62.5	12.1	26.6	アスファルト	929
143-2	207	IVS-47	Ⅱ	石匙	珪質頁岩	46.5	51.8	8.9	15.8	アスファルト	943
143-3	207	IVV-32	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	43.1	43.5	8.3	9.7		928
143-4	207	IVN-44	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	47.0	77.4	12.4	30.0	アスファルト	3482
143-5	207	IVT-41	I	石匙	珪質頁岩	57.4	58.1	13.3	30.8	刃部わずかに光沢	906
143-6	207	IVR-50	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	46.8	67.2	11.7	23.8	アスファルト	901
143-7	207	IVR-46	Ⅲ	石匙	珪質頁岩	54.0	76.0	14.4	41.1		920
143-8	207	IVQ-46	Ⅲ	削器	珪質頁岩	53.0	48.0	16.0	28.6	アスファルト	3970
143-9	207	IVS-48	Ⅲ	微細剥片	珪質頁岩	33.0	39.0	7.0	7.1	アスファルト	3948
143-10	207	IVQ-49	Ⅲ	削器	珪質頁岩	56.0	36.0	11.0	7.6	アスファルト、正面右に微細剥離痕	3969
143-11	207	IVV-30	I	削器	珪質頁岩	88.0	30.0	10.0	16.7		6996
144-1	207	IVQ-45	Ⅲ	搔器	珪質頁岩	99.0	45.6	18.6	70.1	削器と複合	8593
144-2	207	IVR-48	Ⅲ	搔器	珪質頁岩	42.4	31.9	12.1	14.2		4152
144-3	207	IVP-41	Ⅲ	搔器	珪質頁岩	57.0	38.0	10.0	19.0	削器と複合	1958
144-4	207	IVQ-45	Ⅲ	搔器	珪質頁岩	48.4	43.7	11.1	23.0		990
144-5	207	IV0-45	Ⅲ	削器	珪質頁岩	(56.4)	26.4	6.3	(12.4)		1018
144-6	207	IVN-45	Ⅲ	削器	珪質頁岩	59.8	48.7	12.7	23.3		1382
144-7	207	IVQ-40	Ⅲ	削器	珪質頁岩	70.5	36.9	22.1	44.0	素材剥片ウートラパッセ	998
144-8	—	ブロック 旧SI03	覆土	削器	珪質頁岩	51.0	26.0	9.0	6.5	石匙?	1507
144-9	207	IVU-30	Ⅲ	削器	珪質頁岩	84.8	41.7	16.8	34.0		7205
144-10	207	IVV-30	Ⅲ	削器	珪質頁岩	74.2	42.5	13.3	35.8		7175
144-11	207	IVN-44 Sec2	Ⅲ-1	削器	珪質頁岩	91.5	40.4	13.0	48.9	正面右側軟質部	1545
144-12	207	IVQ-45	Ⅲ	削器	珪質頁岩	38.4	38.8	9.7	12.4		993
144-13	—	IVS-33	Ⅲ	削器	珪質頁岩	57.0	42.0	15.0	23.4		7197
144-14	207	IVN-44	Ⅲ	削器	珪質頁岩	80.0	86.0	17.0	107.8		3910
145-1	207	IV0-44	Ⅲ	削器	珪質頁岩	112.6	42.5	26.1	105.2	正面右側軟質部	6461

遺物観察表(剥片石器・自然礫・石斧) (12)

図-No.	写真	出土位置	層位	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	整理 No.
145-2	208	IVN-42	Ⅲ	削器	珩質頁岩	60.8	40.8	18.2	39.6	正面左側軟質部	1383
145-3	—	IVR-45	Ⅲ	削器	珩質頁岩	38.0	26.0	8.0	7.1		3658
145-4	208	IVR-35	Ⅲ	削器	珩質頁岩	(68.7)	36.2	8.1	(26.6)		1010
145-5	208	IVR-45	Ⅲ	削器	珩質頁岩	68.2	29.9	11.7	20.1		8596
145-6	208	IV0-45	Ⅲ	削器	珩質頁岩	83.3	49.3	17.0	63.5		6383
145-7	208	IVU-30	Ⅲ	削器	珩質頁岩	55.4	71.3	15.3	49.5		7206
145-8	208	IVU-34	Ⅲ	削器	珩質頁岩	80.6	40.6	17.3	44.6	素材剥片打面線状・ウートラパッセ	7208
145-9	208	IVS-31	Ⅲ	削器	珩質頁岩	83.4	44.6	11.5	37.6		7845
145-10	208	IVQ-48	Ⅲ	削器	珩質頁岩	102.3	33.1	10.3	31.8		1014
145-11	208	IV0-41	Ⅲ	削器	珩質頁岩	68.8	34.0	7.9	19.5		1017
145-12	208	IVQ-41	I	削器	珩質頁岩	61.0	48.2	16.3	46.5		1385
145-13	208	IVU-34 SN45周辺	2	削器	珩質頁岩	69.1	37.7	8.7	16.4		8613
146-1	208	IVN-39	Ⅲ	削器	珩質頁岩	84.8	50.8	13.9	55.0		1384
146-2	208	IVT-35	Ⅲ上	削器	珩質頁岩	95.9	58.7	22.4	82.1		7293
146-3	208	IVP-45	Ⅲ	削器	珩質頁岩	80.6	25.8	12.6	20.8	アスファルト、石匙?	6427
146-4	208	IVQ-45	Ⅲ	削器	珩質頁岩	51.0	27.2	9.3	14.7	アスファルト	991
146-5	208	IVM-44	Ⅲ	削器	珩質頁岩	18.9	40.3	8.1	6.3	アスファルト	6355
146-6	208	IVQ-46	Ⅲ	削器	珩質頁岩	33.0	26.0	6.0	3.5	アスファルト	3651
146-7	208	IVS-44	I	削器	珩質頁岩	41.0	20.0	6.0	4.0	正面左側にアスファルト微量、 右側に光沢	2302
146-8	208	IVR-44	Ⅲ	削器	珩質頁岩	37.7	19.6	9.2	6.2		1387
146-9	208	IVN-44	Ⅱ	削器	珩質頁岩	75.0	25.7	10.8	18.2		8592
146-10	208	IV0-43	Ⅲ	削器	珩質頁岩	46.0	22.3	8.4	8.4		967
146-11	—	IVR-48	Ⅲ	削器	珩質頁岩	37.0	29.0	7.0	8.2	石鏃・削器・石錐未製品?	3662
146-12	—	IVR-48	Ⅲ	削器	珩質頁岩	42.0	27.0	7.0	6.9	石鏃・削器・石錐未製品?	3659
146-13	208	IVQ-46	Ⅲ	削器	珩質頁岩	40.0	29.0	7.0	7.4	石鏃・削器・石錐未製品?	3759
146-14	—	IV0-42	Ⅲ	削器	珩質頁岩	41.0	23.0	5.0	3.9	石鏃・削器・石錐未製品?	3756
146-15	—	IVU-30	I	削器	珩質頁岩	36.0	40.0	11.0	10.9	三脚石器に形状類似	7659
146-16	208	ブロック 旧SI03	覆土	削器	珩質頁岩	33.4	40.0	9.6	10.3		1511
146-17	—	IVM-47	Ⅲ	削器	珩質頁岩	45.0	28.0	9.0	12.8	石鏃・削器・石錐未製品?	3671
146-18	208	ブロック 旧SI03	覆土	削器	珩質頁岩	52.6	39.0	12.4	27.7		1508
146-19	208	IVU-34	Ⅲ	両極石器	珩質頁岩	43.8	21.5	11.3	11.0	正面側左右から両極打撃	8729
146-20	—	IVS-48	Ⅲ	両極石器	珩質頁岩	22.0	33.0	12.0	8.4		8117
146-21	—	IVV-31	I	両極石器	玉髓質珩質頁岩	22.1	13.4	3.5	1.0		1080
147-1	—	IVN-41	Ⅲ	両極石器	珩質頁岩	42.9	40.4	11.2	23.0		1079
147-2	—	IVS-43	Ⅲ	両極石器	珩質頁岩	43.5	39.4	12.9	26.7		1081
147-3	208	IVT-44	Ⅲ	両極石器	珩質頁岩	34.0	36.7	15.2	21.0		1078
147-4	—	IVQ-39	Ⅲ	二次加工剥片	珩質頁岩	30.4	46.9	15.5	16.7		1082
147-5	209	IVU-34	Ⅲ	二次加工剥片	珩質頁岩	34.0	23.0	6.0	5.0	左右縁辺両極打法?石鏃未製品?	7793
147-6	—	IVT-47	Ⅱ	二次加工剥片	珩質頁岩	(28.0)	17.0	5.0	(2.5)	石鏃未製品?	3653
147-7	—	IVN-46	Ⅲ	二次加工剥片	珩質頁岩	25.0	17.0	3.0	0.7	石鏃・削器・石錐未製品?	3679
147-8	209	IVQ-37 Sec1	Ⅲ-4	二次加工剥片	玉髓質珩質頁岩	(27.0)	16.0	6.0	(1.6)	石錐未製品?	3753
147-9	—	IVQ-47	Ⅲ	二次加工剥片	珩質頁岩	39.0	25.0	9.0	5.9	石鏃・削器・石錐未製品?	3788
147-10	209	IVS-35 Sec5	Ⅲ-7,8	二次加工剥片	珩質頁岩	50.0	20.0	7.0	6.8	石鏃未製品?	7995
147-11	—	表採	-	二次加工剥片	珩質頁岩	36.0	33.0	8.0	6.8	石鏃・削器・石錐未製品?	3686
147-12	209	IVR-56	Ⅲ	二次加工剥片	珩質頁岩	38.0	15.5	5.0	2.8	石鏃・削器・石錐未製品?	3801
147-13	—	IVP-44	-	二次加工剥片	珩質頁岩	38.0	22.0	5.0	2.9	石鏃・削器・石錐未製品?	3680
147-14	—	IV0-42	Ⅲ	二次加工剥片	珩質頁岩	29.0	16.0	7.0	1.8	石鏃・削器・石錐未製品?	3760
147-15	—	IVR-48	Ⅱ	二次加工剥片	珩質頁岩	29.0	22.0	7.0	4.4	石鏃・削器・石錐未製品?	3657
147-16	—	IV0-46	Ⅲ	二次加工剥片	珩質頁岩	25.0	19.0	6.5	3.5	石鏃・削器・石錐未製品?	3663
147-17	—	IV0-40	Ⅲ	二次加工剥片	珩質頁岩	37.0	20.0	3.0	2.0	石鏃未製品?	3660
147-18	209	IVN-43	Ⅲ	二次加工剥片	珩質頁岩	30.0	22.5	5.0	1.5	石鏃・石錐未製品?	3715
147-19	—	IVN-46	Ⅲ	二次加工剥片	珩質頁岩	40.0	21.0	5.0	2.8	石鏃未製品?石匙?	3665
147-20	—	IVS-48	Ⅲ	二次加工剥片	珩質頁岩	32.0	23.0	6.0	2.4	石鏃未製品?	3754
147-21	—	IVM-46	Ⅲ	二次加工剥片	珩質頁岩	32.5	16.0	4.0	1.6	石鏃未製品?	3749
147-22	209	IVU-30	I	二次加工剥片	珩質頁岩	35.0	74.0	4.0	4.1	石鏃未製品?	7686
147-23	—	IVN-47	Ⅲ	削器	珩質頁岩	(24.0)	16.0	6.0	(2.4)	石鏃未製品?	3758
147-24	—	IVN-47	Ⅲ	削器	珩質頁岩	(17.0)	12.0	3.0	(0.7)	石鏃未製品?火ハネ	3685
147-25	—	IV0-46	Ⅲ	二次加工剥片	珩質頁岩	30.0	25.0	7.0	3.4	石鏃未製品?	3664
147-26	—	IVN-40	Ⅲ	二次加工剥片	珩質頁岩	30.5	21.0	7.0	4.5	石鏃未製品?	3738
147-27	—	IVR-48	Ⅱ	二次加工剥片	珩質頁岩	34.0	21.0	8.0	5.0	石鏃未製品?	3675
147-28	209	IVR-47	Ⅲ	二次加工剥片	珩質頁岩	37.0	24.0	4.5	5.0	石鏃未製品?	3734

遺物観察表(剥片石器・自然礫・石斧) (13)

図-No.	写真	出土位置	層位	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	整理 No.
147-29	—	IVR-48	Ⅲ	二次加工剥片	珩質頁岩	35.0	21.0	8.0	6.3	石鏃未製品?	3682
147-30	—	IVN-46	Ⅲ	二次加工剥片	珩質頁岩	39.0	18.0	5.0	2.2	石鏃未製品?	3690
147-31	—	IVS-49	風倒木	二次加工剥片	珩質頁岩	29.0	17.0	5.0	1.9	石鏃未製品?	3712
147-32	—	IVN-47	Ⅲ	二次加工剥片	珩質頁岩	30.0	15.0	5.0	2.2	石鏃未製品?	3688
147-33	—	IVR-48	Ⅲ	二次加工剥片	珩質頁岩	34.0	16.0	7.0	(3.4)	石鏃未製品? 火ハネ	3676
147-34	—	IVN-46	Ⅲ	二次加工剥片	珩質頁岩	20.0	15.0	3.0	0.6	未製品?	3755
148-1	—	IVR-48	Ⅲ	二次加工剥片	珩質頁岩	(34.0)	24.0	8.0	(4.1)	未製品?	3762
148-2	—	IVQ-50	Ⅱ	二次加工剥片	珩質頁岩	35.0	24.0	8.0	6.3	石槍破片? 石器未製品?	3661
148-3	—	IVN-46	Ⅲ	二次加工剥片	珩質頁岩	40.0	26.0	8.0	8.5	石鏃未製品?	3677
148-4	209	IVU-30	Ⅲ	二次加工剥片	珩質頁岩	78.0	27.0	10.0	13.8	石匙?	7075
148-5	209	IVS-34 Sec7	Ⅲ下	二次加工剥片	珩質頁岩	91.0	106.0	29.0	189.6	光沢	7074
148-6	209	IVU-29	Ⅲ	二次加工剥片	珩質頁岩	47.0	23.0	6.0	5.7	削器? 石鏃未製品? 加工側縁非直線的	7660
148-7	209	IVV-30	I	二次加工剥片	珩質頁岩	87.7	61.6	21.5	(95.5)	異形石器? ガジリ有	7176
148-8	209	IVN-46	Ⅲ	二次加工剥片	珩質頁岩	51.0	31.0	9.0	8.3	異形石器?	4163
148-9	—	IVM-47	Ⅲ	二次加工剥片	珩質頁岩	50.2	20.2	9.0	6.4	削器? 加工側縁非直線的	3683
148-10	—	ブロック 旧SI03	覆土	二次加工剥片	珩質頁岩	53.0	37.0	12.0	16.6		1506
148-11	209	IVS-35	Ⅲ	二次加工剥片	珩質頁岩	34.0	27.0	5.0	2.4	アスファルト	3417
148-12	209	IVU-34 ブロック7	Ⅲ	二次加工剥片	珩質頁岩	35.0	38.0	9.0	10.3	アスファルト	3432
148-13	209	IV0-36	Ⅲ	二次加工剥片	珩質頁岩	34.0	29.0	5.0	3.5	アスファルト	3944
148-14	209	IVS-35 Sec5	Ⅲ-7,8	二次加工剥片	珩質頁岩	50.0	36.0	15.0	23.9	アスファルト	3431
148-15	209	IVN-45	Ⅲ	二次加工剥片	珩質頁岩	78.0	42.0	15.0	33.4	アスファルト	3952
148-16	209	IVT-50	Ⅲ	二次加工剥片	玉髓質珩質頁岩	47.0	45.0	16.0	26.1	アスファルト	3950
148-17	—	IVR-44 Sec3	Ⅲ-10	二次加工剥片	珩質頁岩	29.0	23.0	9.0	4.7	アスファルト	3946
149-1	—	IVN-46	Ⅲ	異形石器	珩質頁岩	20.0	9.0	5.0	0.7	黒褐色(10YR3/1)	4162
149-2	209	IVR-40	Ⅲ	異形石器	玉髓質珩質頁岩	(25.6)	12.4	6.3	(1.7)	石鏃? 黄灰色(2.5Y6/1)	953
149-3	209	IVQ-39	Ⅲ	異形石器	玉髓質珩質頁岩	24.6	12.3	5.5	1.5	灰黄色(2.5Y7/2)	952
149-4	209	IVP-43	Ⅲ	異形石器	珩質頁岩	23.4	26.3	5.8	2.6	黒色(2.5Y2/1)、S-89	949
149-5	209	IVT-35 ブロック12	Ⅲ	異形石器	珩質頁岩	81.0	42.0	18.0	36.3	黄灰色(2.5Y6/1)	8718
149-6	209	IVS-49	Ⅲ	異形石器	ジャスパー	84.3	32.4	11.1	(22.1)	火ハネ 暗灰色(N3/0)、S-173	1067
149-7	209	IVR-46	Ⅲ	異形石器	珩質頁岩	60.0	33.6	10.4	18.7	灰黄褐色(10YR4/2)、S-70	944
149-8	209	IVR-49	Ⅲ下部	異形石器	珩質頁岩	39.0	29.8	5.9	(3.1)	黒褐色(10YR3/1)、S-184	1068
149-9	209	IVQ-48	Ⅲ	異形石器	黒曜石	21.8	17.1	7.6	1.7	黒色(N2/0)	945
149-10	209	IV0-44	Ⅲ	異形石器	玉髓質	(38.0)	29.4	4.7	(3.1)	被熱 灰白色(2.5Y8/1)、S-73	950
149-11	209	IV0-42	Ⅲ	異形石器	珩質頁岩	52.3	44.3	12.8	17.4	黄灰色(2.5Y4/1)	4164
149-12	209	IVT-34 ブロック12	Ⅲ	異形石器	緑色凝灰岩	28.2	23.2	5.1	1.3	緑灰色(10GY6/1)	2846
149-13	209	IVQ-45	Ⅲ	異形石器	黒曜石	32.0	13.2	5.2	2.1	黒色(N2/0)	947
149-14	209	IVR-47	Ⅲ	異形石器	珩質頁岩	42.2	12.7	9.1	5.3	黒褐色(2.5Y3/1)、S-89	946
149-15	209	IVS-45	Ⅲ	異形石器	凝灰岩	34.8	17.9	6.4	2.3	灰白色(5GY8/1)、特55	948
149-16	209	IVT-32	Ⅲ	異形石器	珩質頁岩	64.4	39.6	8.3	12.0	灰白色 灰黄色(2.5Y7/2)	2844
149-17	209	IV0-41	Ⅲ	異形石器	珩質頁岩	45.3	52.7	7.2	15.5	褐灰色(10YR6/1)、S-38	954
149-18	210	IVU-33	Ⅲ	異形石器	珩質頁岩	39.6	16.3	6.7	3.4	黄灰色(2.5Y4/1)	2845
149-19	210	IVP-46	Ⅲ	異形石器	珩質頁岩	36.0	21.9	6.0	4.4	灰黄色(2.5Y6/2) アスファルト	1069
149-20	210	IVR-45	Ⅲ	異形石器	珩質頁岩	143.2	50.8	35.5	221.7	石核?裏面アスファルト? 灰黄褐色(10YR5/2)	6280
149-21	210	IVS-36	Ⅲ	異形石器	珩質頁岩	17.0	31.0	8.0	2.2	被熱、灰色(N4/0)	8112
150-1	210	IVT-28	I	微細剥片	凝灰岩	123.0	8.0	22.0	159.2	刃部摩滅	7007
150-2	210	IVQ-36 Sec1	Ⅲ-2	微細剥片	珩質頁岩	118.0	54.0	20.0	96.1	打面小さい	1533
150-3	210	IVT-29	Ⅲ	微細剥片	珩質頁岩	74.0	128.0	23.0	145.1		7006
150-4	210	ブロック 旧SI03	3回目 取上げ	微細剥片	黒曜石	24.0	21.0	6.0	2.5	被熱	1519
150-5	210	IVS-45	Ⅲ	微細剥片	珩質頁岩	46.0	26.0	10.0	9.3	アスファルト	3938
150-6	210	IVQ-37	Ⅲ	微細剥片	珩質頁岩	72.0	21.0	8.0	9.6	石刃状、剥片剥離軸はねじれ	1763
150-7	210	IVU-30	I	微細剥片	珩質頁岩	47.0	25.0	9.0	8.2	アスファルト	7682
150-8	210	IVU-34	Ⅲ	微細剥片	珩質頁岩	141.0	63.0	27.0	139.8		7073
150-9	210	IVR-48	Ⅱ	微細剥片	珩質頁岩	42.0	36.0	13.0	11.7	アスファルト、石匙?	3968
150-10	210	IVQ-55	Ⅲ	微細剥片	珩質頁岩	41.0	24.0	10.0	5.9	アスファルト	3956
151-1	211	IVT-48	Ⅲ	石核	黒曜石	26.4	22.4	20.7	11.0		K783
151-2	211	IVR-48	Ⅲ	石核	黒曜石	25.9	28.8	16.7	12.2	下部打面つぶれ 最後は両極打法	979
151-3	211	IVV-33	Ⅲ	石核	黒曜石	33.4	33.5	15.2	14.1		K911

遺物観察表(剥片石器・自然礫・石斧) (14)

図-No.	写真	出土位置	層位	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	整理 No.
151-4	211	IVR-47	Ⅲ	石核	黒曜石	37.1	39.6	32.4	55.0		K906
151-5	211	IVR-50	Ⅲ	石核	黒曜石	18.9	42.5	27.8	23.6		K907
151-6	211	IVR-46	Ⅲ	石核	黒曜石	29.6	37.7	19.4	16.6		K788
151-7	211	IVT-35	Ⅲ	石核	黒曜石	28.2	21.5	13.5	8.5		K988
151-8	211	IVR-47	Ⅱ	石核	黒曜石	45.6	39.0	28.1	48.5		K787
151-9	211	IVT-34	Ⅲ	石核	黒曜石	41.9	37.8	32.3	53.2		K909
151-10	211	IVU-35 SN45周辺		石核	黒曜石	25.9	27.6	21.1	16.2	不純物なく良質	K908
151-11	211	IVN-42	Ⅲ	石核	黒曜石	30.5	31.2	15.4	13.3	最後両極打法?	983
151-12	211	IV0-41	Ⅲ	石核	黒曜石	27.8	38.0	25.5	26.3	不純物なく良質	K786
151-13	211	IVV-31	Ⅲ	石核	黒曜石	24.4	19.2	19.3	9.2		K912
151-14	211	IVU-33	Ⅲ	石核	黒曜石	31.1	21.4	12.0	7.2	二次加工剥片?	K910
151-15	211	IVR-45	Ⅲ	石核	黒曜石	28.9	33.5	23.2	20.5		K780
151-16	211	ブロック 旧SI03	覆土	石核	珩質頁岩	29.1	44.3	20.6	27.6		5091
151-17	211	ブロック 旧SI03	覆土	石核	珩質頁岩	35.1	51.2	27.3	47.2		5099
151-18	211	IVU-35	Ⅲ	石核	珩質頁岩	27.4	38.5	14.8	16.2		6689
151-19	211	IVT-48	Ⅲ	石核	珩質頁岩	33.1	47.9	20.4	31.3		5102
151-20	211	IVN-41	Ⅲ	石核	珩質頁岩	61.2	87.9	35.0	179.7		5270
152-1	211	IVR-43	Ⅲ	石核	珩質頁岩	35.8	59.8	21.0	31.6		5075
152-2	211	IV0-44	Ⅲ	石核	珩質頁岩	102.5	108.1	44.0	487.1		5003
152-3	211	IVT-33	Ⅲ	石核	珩質頁岩	27.9	47.4	22.9	31.3		7133
152-4	211	IVS-35	Ⅲ	石核	珩質頁岩	68.2	79.7	39.0	196.4		6739
152-5	211	IV0-43	Ⅱ	石核	珩質頁岩	39.0	39.3	21.9	28.8		7126
152-6	211	IV0-43	Ⅲ	石核	珩質頁岩	29.0	55.0	20.0	22.5		5784
152-7	—	IVS-48	Ⅲ	石核	珩質頁岩	44.0	42.0	24.0	37.9		5799
152-8	211	IVW-31	Ⅲ	石核	珩質頁岩	43.9	76.8	28.8	81.5		6584
152-9	211	IVU-34	Ⅲ	石核	珩質頁岩	35.0	38.0	16.0	18.5		7116
152-10	211	IVR-43	Ⅲ	石核	珩質頁岩	33.5	49.5	28.6	40.9		5211
152-11	211	IVS-35	Ⅲ-2	石核	珩質頁岩	22.4	42.3	24.7	25.2	Sec7	6602
153-1	211	IVS-35	Ⅲ下	石核	珩質頁岩	27.6	38.7	29.1	29.3		6803
153-2	211	IVN-41	Ⅲ	石核	珩質頁岩	55.5	62.6	47.0	187.3		5020
153-3	211	IVU-35	Ⅲ	石核	珩質頁岩	56.2	85.7	54.5	253.1		6682
153-4	211	IVS-43	Ⅲ	石核	珩質頁岩	23.9	29.7	26.0	22.6		5191
153-5	212	IVT-52	Ⅲ	石核	珩質頁岩	43.5	46.3	24.2	57.0		7143
153-6	212	IV0-48	Ⅲ	石核	珩質頁岩	33.4	31.6	24.6	28.3		7130
153-7	212	IVU-29 IVV-30	I	石核	珩質頁岩	105.0	87.0	40.0	412.6		6672
153-8	212	IVS-35	Ⅲ-7	石核	珩質頁岩	39.7	45.2	32.5	60.4		6615
153-9	212	IVU-33	Ⅲ	石核	珩質頁岩	46.2	75.3	36.1	118.3		6654
154-1	212	IVR-41	Ⅲ	石核	珩質頁岩	27.6	36.9	36.1	37.8		5015
154-2	212	IVQ-43	Ⅲ	石核	珩質頁岩	86.6	104.4	83.7	948.8		5287
154-3	—	IV0-41	Ⅲ	石核	珩質頁岩	73.8	86.3	86.3	48.5		5258
154-4	212	IVS-34	Ⅲ	石核	珩質頁岩	59.1	64.4	40.1	148.0		6632
155-1	—	IVT-29	I	石核	珩質頁岩	40.4	90.7	46.3	175.2		5148
155-2	212	IVM-41	Ⅲ	石核	珩質頁岩	40.9	60.8	32.5	86.0		5245
155-3	212	IVQ-45	Ⅲ	石核	珩質頁岩	28.9	35.5	23.6	25.0		7132
155-4	212	IVS-37	Ⅲ	石核	珩質頁岩	53.8	75.4	41.1	173.9		5121
155-5	212	IVW-31	Ⅲ	石核	珩質頁岩	33.1	44.8	14.0	23.3		6552
155-6	212	IVU-33	Ⅲ	石核	珩質頁岩	42.2	78.8	34.7	97.8		6677
155-7	212	IVR-44	Ⅲ	石核	珩質頁岩	31.0	44.6	20.2	25.4		5021
155-8	212	IVU-34	Ⅲ	石核	珩質頁岩	40.0	70.5	26.2	89.1		6533
155-9	212	IVQ-37	Ⅲ	石核	珩質頁岩	67.7	68.2	40.1	119.4		5028
156-1	212	IVQ-43	Ⅲ	石核	珩質頁岩	36.9	43.4	35.4	56.7		5236
156-2	212	IVS-35	Ⅲ	石核	珩質頁岩	67.3	84.4	66.8	378.1		7134
156-3	212	IVS-36	Ⅲ	石核	珩質頁岩	34.8	41.0	20.8	33.6		6685
156-4	212	IVS-35	Ⅲ上	石核	珩質頁岩	44.2	84.3	48.7	245.9		6777
156-5	212	IVT-37	Ⅲ	石核	珩質頁岩	31.8	34.4	29.8	40.3		5053
156-6	212	IV0-36	Ⅲ	石核	珩質頁岩	34.1	43.1	24.9	37.8		5056
156-7	212	ブロック 旧SI03	覆土	石核	珩質頁岩	30.6	43.2	35.7	60.5		5093
156-8	212	IVN-41	Ⅲ	石核	珩質頁岩	39.2	35.9	34.3	52.6		5022
157-1	213	IV0-41	Ⅲ	石核	珩質頁岩	39.8	97.5	52.3	199.3		5266
157-2	213	IVS-35	Ⅲ	石核	珩質頁岩	119.2	51.3	40.1	216.0		6785
157-3	213	IVN-43	Ⅲ	石核	珩質頁岩	44.0	86.0	48.1	181.8		7136
157-4	213	IVS-45	Ⅲ	石核	珩質頁岩	94.8	42.5	39.1	183.2		7125

遺物観察表(剥片石器・自然礫・石斧) (15)

図-No.	写真	出土位置	層位	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	整理 No.
157-5	213	IVS-34	Ⅲ	石核	珩質頁岩	55.6	131.2	62.6	417.4	S-218	7135
158-1	—	IVS-43	Ⅲ	石核	珩質頁岩	20.3	38.1	31.2	26.5		5182
158-2		欠番									
158-3	213	IVR-37	Ⅲ	石核	珩質頁岩	38.2	35.9	29.1	46.4		5055
158-4	213	IVU-30	Ⅲ	石核	珩質頁岩	45.6	37.2	24.8	35.5		6532
158-5	213	IVS-44 Sec3	Ⅲ-2	石核	珩質頁岩	39.9	59.2	45.6	120.7		5094
158-6	213	IVS-35	Ⅲ上	石核	珩質頁岩	40.0	29.0	23.2	25.9		6792
158-7	213	IVT-34	Ⅲ	石核	珩質頁岩	26.1	31.2	22.6	18.2		6742
158-8	213	IVQ-41	Ⅲ	石核	珩質頁岩	28.1	53.8	21.7	35.4		5025
158-9	213	IVP-36	Ⅲ	石核	珩質頁岩	31.4	29.8	34.5	34.7		7131
158-10	—	IVQ-57	Ⅲ	石核転用敲石	珩質頁岩	63.5	43.2	36.2	140.4		313
158-11	213	IVW-33	Ⅲ	石核転用敲石	珩質頁岩	31.2	34.3	34.8	42.2		6646
158-12	213	IVS-57	Ⅱ	石核転用敲石	珩質頁岩	48.3	47.0	39.4	44.6		1318
159-1	213	IVR-47	Ⅲ	石核転用敲石	珩質頁岩	55.0	54.0	51.8	175.0		508
159-2	213	IVM-47	Ⅲ	石核転用敲石	珩質頁岩	60.4	56.3	52.0	240.6		507
159-3	213	IVR-42	Ⅲ	石核転用敲石	珩質頁岩	58.1	39.0	28.4	65.0		451
159-4	213	IVN-39	Ⅲ	石核転用敲石	珩質頁岩	51.8	32.7	33.5	67.7		452
159-5	—	IVS-49	Ⅲ	石核転用敲石	珩質頁岩	72.0	64.0	44.2	268.9	S-142	25
160-1	213	IVR-35	Ⅲ	石核転用敲石	珩質頁岩	66.7	46.9	43.7	174.3		1315
160-2	213	IVN-44	Ⅲ	石核転用敲石	珩質頁岩	46.0	29.8	26.4	33.1		1316
160-3	213	IVU-30	I	石核転用敲石	珩質頁岩	34.0	35.9	22.6	34.7		1319
160-4	213	IVS-51	Ⅲ	石核転用敲石	珩質頁岩	38.9	39.1	27.2	49.6		1317
160-5	214	IVR-45	Ⅲ	石核転用敲石	珩質頁岩	52.3	54.5	49.1	181.0		8614
160-6	214	IVQ-35	Ⅲ	石核転用敲石	珩質頁岩	45.5	50.1	20.6	49.9		454
160-7	214	IVQ-46	Ⅲ	石核転用敲石	珩質頁岩	69.3	60.6	57.1	249.6	S-114	24
160-8	214	IVQ-39	Ⅲ	石核転用敲石	珩質頁岩	52.9	54.3	34.4	133.6		5250
161-1	214	IVS-49	Ⅲ	接合資料	珩質頁岩	63.2	72.7	23.9	61.0	同一グリッドの剥片3点接合	8724
161-2	214	IVS-49	Ⅲ	接合資料	珩質頁岩	71.3	54.0	22.6	52.3	同一グリッドの剥片5点接合	8723
161-3	—	IVQ-49	Ⅲ	剥片	珩質頁岩	20.0	13.0	4.0	0.8		3654
161-4	214	IVQ-45	Ⅲ	剥片	黒曜石	18.2	14.8	4.8	1.0	両極剥片	982
161-5	214	IVS-34 Sec5	A	剥片	珩質頁岩	41.0	44.0	12.0	15.1	アスファルト	3428
161-6	214	IVR-47	Ⅲ	剥片	珩質頁岩	29.0	27.0	8.0	4.1	アスファルト	3962
161-7	214	IVR-44 Sec3	Ⅱ	剥片	珩質頁岩	43.0	44.0	11.0	14.5	アスファルト	3935
161-8	214	Pit0006	覆土	剥片	珩質頁岩	37.0	35.5	8.0	3.7	アスファルト、IV0-35	3939
161-9	214	IVS-49	Ⅲ	剥片	珩質頁岩	28.0	44.0	9.0	7.9	アスファルト	3966
161-12	214	IVM-45	Ⅲ	剥片	珩質頁岩	50.0	29.0	11.0	10.5	アスファルト	3949
161-10	214	IVR-35	Ⅲ	剥片	珩質頁岩	32.0	50.0	7.5	8.3	アスファルト	3941
161-11	214	IVT-35	Ⅲ	剥片	珩質頁岩	30.0	32.0	8.0	4.0	アスファルト	3418
161-13	214	IVS-42	Ⅲ	剥片	珩質頁岩	44.0	24.0	5.0	5.5	アスファルト	3940
161-14	214	IVU-35	Ⅲ	剥片	珩質頁岩	31.0	18.0	10.0	4.0	アスファルト	8109
162-1	215	IVS-35 Sec7	Ⅲ-5	打製石斧	緑色凝灰岩	136.7	66.2	40.5	371.6		3929
162-2	215	IVT-48	Ⅲ	打製石斧	珩質頁岩	145.7	61.4	36.0	(300.9)		6217
162-3	215	IVS-49	Ⅲ	打製石斧	粗粒玄武岩	149.0	57.3	21.6	212.7	S-149	506
162-4	215	IVQ-48	Ⅲ	磨製石斧	粗粒玄武岩	(88.1)	61.4	33.3	(298.0)	S-96	4
163-1	215	Pit0035	1層	磨製石斧	粗粒玄武岩	130.8	56.3	28.7	318.8	S-50	71
163-2	215	表採	—	磨製石斧	粗粒玄武岩	106.5	59.0	29.0	303.1		504
163-3	215	排土	—	磨製石斧	粗粒玄武岩	(63.8)	43.5	30.6	(123.3)		73
163-4	215	IVS-38	Ⅲ	磨製石斧	粗粒玄武岩	(78.5)	61.9	34.2	(321.1)		177
163-5	215	IVP-29	Ⅲ	磨製石斧	粗粒玄武岩	(51.4)	36.5	22.6	(54.8)	脱稿後6と接合	75
163-6	215	IVR-49	Ⅲ	磨製石斧	粗粒玄武岩	(69.1)	49.2	23.1	(126.1)	脱稿後5と接合	8
163-7	215	IVU-34	Ⅲ	磨製石斧	粗粒玄武岩	(100.0)	43.0	28.0	(181.0)		8115
163-8	215	IVS-49	Ⅲ	磨製石斧	粗粒玄武岩	96.3	47.1	22.0	142.1	S-154	2
163-9	216	IVU-30	Ⅲ	磨製石斧	粗粒玄武岩	68.0	34.0	12.0	37.3		8717
163-10	216	Pit1228	掘方	磨製石斧	粗粒玄武岩	(43.0)	15.0	10.0	(11.4)		8107
164-1	216	IVS-34	Ⅲ	磨製石斧	粗粒玄武岩	(81.0)	45.0	30.0	(150.9)		3927
164-2	—	IVS-35	Ⅲ	磨製石斧	デイサイト	78.0	57.0	31.0	192.5		8102
164-3	216	IVQ-45	Ⅲ	磨製石斧	砂岩	72.8	45.5	22.8	119.6		1009
164-4	216	IVT-24	Ⅲ	磨製石斧	凝灰岩	114.0	47.0	26.0	185.3	基部再加工	8104
164-5	216	IVQ-50	Ⅲ	磨製石斧	凝灰岩	113.5	53.5	30.7	320.3		505
164-6	216	IVP-42	Ⅲ	磨製石斧	凝灰岩	(84.4)	41.8	21.3	(73.9)	火ハネ	436
164-7	216	IVQ-45	Ⅱ	磨製石斧	凝灰岩	92.1	36.9	20.3	103.2		457
164-8	216	IVS-48	Ⅲ	磨製石斧	緑色凝灰岩	86.5	48.8	24.7	185.4		7
165-1	216	IVU-33	Ⅲ	磨製石斧	緑色凝灰岩	(70.0)	47.0	25.0	(132.8)		8103

遺物観察表(剥片石器・自然礫・石斧) (16)

図-No.	写真	出土位置	層位	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	整理 No.	
165-2	216	IV0-47	Ⅲ	磨製石斧	緑色岩	26.8	22.8	7.5	8.2		74	
165-3	216	Pit0206	堆積土	磨製石斧	緑色岩	42.0	19.0	15.0	7.0		8742	
165-4	216	IVS-46	Ⅲ	磨製石斧	緑色岩	90.8	54.0	27.4	219.1	基部再加工	6	
165-5	216	IVW-44	Ⅱ	磨製石斧	緑色岩	84.0	53.0	27.0	207.0	正面側赤色顔料?付着	8105	
165-6	216	IV0-39	Ⅲ	磨製石斧	緑色岩	66.8	46.3	10.9	138.1	折れ面敲打初期?敲石転用?	5	
165-7	216	IVT-48	Ⅲ	磨製石斧	緑色岩	(85.6)	45.3	11.9	(146.7)		72	
165-8	216	IVQ-45	Ⅲ	磨製石斧	緑色岩	(51.4)	39.2	21.8	(70.3)		1	
165-9										欠番		
165-10	216	IVQ-44 Sec3	Ⅲ-9	磨製石斧	緑色岩	45.6	25.1	10.2	18.0		70	
写真 の み 掲 載	1	217	IVS-34	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	42.0	14.0	4.0	1.9	正面側面周辺加工	8739
	2	217	IV0-41	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	28.0	13.0	3.5	1.1	正面側面周辺加工	636
	3	217	SQ19	Ⅰ	石鏃	珩質頁岩	37.0	11.0	4.0	1.3		8741
	4	217	IVU-29	Ⅲ	石鏃	珩質頁岩	15.0	8.0	4.0	0.3	超小形	8740
	5	217	IVT-41	Ⅰ	石錐	鉄石英	30.0	23.0	8.0	4.6		961
	6	217	IVQ-47	Ⅲ	石錐	珩質頁岩	41.0	7.5	7.0	1.6	アスファルト	562
	7	217	IV0-42	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	52.0	36.0	12.0	14.1	アスファルト	1836
	8	217	IVN-45	Ⅰ	石匙	珩質頁岩	56.0	48.0	14.0	22.7	アスファルト	3932
	9	217	IVR-39	Ⅲ	石匙	珩質頁岩	75.0	17.0	5.5	6.9		1804
	10	217	IVQ-46	Ⅱ	石篋	珩質頁岩	47.0	33.0	9.0	10.3		4113
	11	217	IVU-30	Ⅲ	石篋	珩質頁岩	107.0	57.0	27.0	126.4		8736
	12	217	IVV-29	Ⅲ	削器	珩質頁岩	76.0	48.0	22.0	59.3	刃部は良質部分にのみ加工	1212
	13	217	IVV-29	Ⅲ	削器	珩質頁岩	85.0	45.0	15.0	28.7		7174
	14	217	IVT-51	Ⅲ	削器	珩質頁岩	86.0	41.0	14.5	48.9		5555
	15	217	IVT-34	床下	両極石器	珩質頁岩	46.0	38.0	15.0	26.0		8751
	16	217	IV0-42	Ⅲ	両極石器	珩質頁岩	62.0	35.0	20.0	45.6		4120
	17	217	IVN-41	Ⅲ	両極石器	珩質頁岩	58.0	35.0	12.0	32.5		4117
	18	217	IVS-41	Ⅲ	二次加工剥片	珩質頁岩	136.0	58.0	24.0	147.4		8791
	19	217	IVQ-40	Ⅲ	二次加工剥片	珩質頁岩	48.0	18.0	11.0	7.2		1107
	20	217	IVR-38	Ⅲ	石篋	珩質頁岩	110.0	66.0	23.0	110.3		4109
	21	217	IVN-42	Ⅲ	微細剥片	珩質頁岩	134.0	55.0	32.0	144.4	刃部光沢	1753
	22	217	IV0-41	Ⅲ	二次加工剥片	珩質頁岩	38.0	31.5	10.0	6.2	アスファルト	2104
	23	217	IVR-49	Ⅲ	剥片	珩質頁岩	16.0	14.0	9.0	6.1	アスファルト	6207
	24	217	IVN-41	Ⅲ	剥片	珩質頁岩	36.0	24.0	7.0	4.6	アスファルト	1083
	1	218	IVN-44	Ⅱ	剥片	珩質頁岩	25.0	13.0	4.0	1.5	アスファルト	6198
	2	218	IVQ-46	Ⅲ	RF	珩質頁岩	40.0	39.0	11.0	10.3		2124
	3	218	IVT-49	Ⅲ	剥片	ジャスパー	35.0	31.0	7.0	4.4		4127
	4	218	IVS-49	Ⅲ	剥片	珩質頁岩	40.0	38.0	7.0	7.7		8750
	5	218	IVS-34	ブロック11	自然礫	水晶	34.0	25.0	16.0	13.9	3片(10.1g、2.3g、1.5g) 接合	8731
	6	218	IVR-40	Ⅲ	自然礫	水晶	28.0	15.0	9.0	4.3		3804
	7	218	IVV-40	Ⅰ	自然礫	水晶	18.0	11.0	5.0	1.0		3805
8	218	IVN-41	Ⅲ	石核転用敲石	珩質頁岩	53.0	35.0	12.0	28.8	「剥片」の転用品か	8767	
9	218	IVR-47	Ⅲ	石核転用敲石	珩質頁岩	114.0	46.0	43.0	271.0		8757	
10	218	IVR-35	Ⅲ	石核転用敲石	珩質頁岩	55.0	27.0	31.0	92.5		8759	
11	218	IVR-50	Ⅲ	石核転用敲石	珩質頁岩	48.0	44.0	42.0	119.2		8775	
12	218	IVR-45	Ⅱ	石核転用敲石	珩質頁岩	53.0	43.0	26.0	68.7		8765	
13	218	IVQ-37	Ⅲ	石核転用敲石	珩質頁岩	64.0	31.0	30.0	66.8		8761	
14	218	IVQ-37	Ⅲ	石核転用敲石	珩質頁岩	59.0	54.0	41.0	132.3		8758	
15	218	IVN-37	Ⅰ	原石	玉髄質珩質頁岩	26.0	22.0	17.0	16.5		8795	
16	218	IVT-48	Ⅲ	原石	玉髄質珩質頁岩	32.0	19.0	12.0	13.0		8793	
17	218	IVP-53	Ⅲ	原石	黒曜石	53.0	38.0	31.0	94.0	2片に割れ、割れ面撮影	8794	
18	218	IVR-49	Ⅲ	原石	珩質頁岩	94.0	76.0	41.0	420.5		7330	
19	218	IVT-47	Ⅲ	原石	珩質頁岩	125.0	105.0	88.0	1280.0		8792	
20	218	IVR-50	Ⅲ	原石	珩質頁岩	195.0	105.0	70.0	1058.6		7333	
21	218	IVQ-45	Ⅲ	原石	珩質頁岩	220.0	180.0	163.0	5350.0		8752	
写218	剥片集中1	Ⅲ	接合資料	珩質頁岩	34.0	22.0	10.5	4.6	剥片2点接合	8581		
写218	剥片集中3	Ⅲ	接合資料	珩質頁岩	124.0	57.5	29.0	136.0	剥片3点接合、裏面含め節理で割れ	8735		
写218	剥片集中4	Ⅲ	接合資料	珩質頁岩	39.0	29.0	11.0	5.4	剥片3点接合	8583		

礫石器観察表(1)

図-No.	写真	出土位置	層位	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	整理 No.
1-10	93	SI01	下層	石皿	粗粒玄武岩	28.9	33	6.5	7,500	やや凹む 縁なし	120
1-11	93	SI01	床面	石皿	安山岩	22.2	41.1	4.6	4,940	板状節理 破損	118
1-26	93	SI02	1層	磨石	安山岩	12.6	10.2	7.8	1,350	トノキ石に似る	59
1-27	93	SI02	床面	石皿	斑岩	28.7	35	11.7	13,340	完形 中央窪む	119
3-16	94	SN45周辺 IVU-35	Ⅲ	凹石	凝灰岩	12.6	6.3	3.4	330.4	両面に凹孔	1138
3-17	226	SN45周辺 IVU-35	Ⅲ	石皿	凝灰岩				14,180		1359
5-1	95	SN38 IVT-48		敲石	花崗閃緑岩	9.5	11.8	7.7	1,300	平坦面は平滑 側面に打痕	58
5-2	95	SN38 IVT-48		砥石	安山岩	16.2	11	4.6	1,210	平坦面に磨痕	83
5-3	95	SQ12 IVT-48	Ⅲ	石皿	凝灰岩	24.1	32.2	4.9	5,200	板状 縁なし 平滑 ※SQ12はSN39上部の配石。	1011
5-4	95	SQ12 IVT-48	Ⅲ	石皿	安山岩	29.5	39.9	9.8	15,400	完形 縁なし 両面利用 ※SQ12はSN39上部の配石。	1010
5-6	96	SN39 IVT-48	Ⅲ	石皿	凝灰岩	24.3	19.3	3.6	17,380	両面利用	460
6-1	96	SN39 IVT-48		石皿	安山岩	20.5	28.6	4.9	7,540	破損品 縁なし 平坦で滑らか	122
9-6	97	SQ01	確認面	台石	安山岩	17.9	13.1	6.7	1,780		32
9-14	97	SQ06	Ⅲ	石皿	デイサイト	52	44.6	5	15,150	板状	124
9-18	98	SQ07	1層	敲石	デイサイト	8.7	10.2	7.1	670	一部にアバタ状の敲打痕	67
10-6	98	SQ09 IVR-45	覆土	石皿	凝灰岩	31.4	40	7.3	9,750	完形 縁なし赤色顔料付着	79
11-3	99	SQ11		石皿	安山岩	36.8	46.4	4.5	10,100	板状節理 片面平滑	138
11-6	99	SQ14		石皿	凝灰岩	24.5	23.8	6.2	3,802	両面利用 平滑な部分と打痕	1354
11-7	99	SQ14		石皿	安山岩	23.4	28	7.5	5,860		1209
12-6	100	SQ19		石皿	花崗閃緑岩	33.5	40.7	10	19,200	大形	1210
12-7	—	SQ19	I	凹石	安山岩	10.5	9	5.8	644.5	破礫利用 両面に凹孔	1339
13-6	99	SQ41 IVT-48	Ⅲ	礫器	デイサイト	10	18.4	7.9	1637.3	一側面に打痕	139
166-1	219	IVR-47	Ⅲ	磨石	粗粒玄武岩	5.5	5	4.7	170	表面に磨痕	885
166-2	219	IVT-35	Ⅲ	磨石	デイサイト	10.4	8.4	5.4	699.4	赤色顔料付着 平坦面に磨痕	1110
166-3	219	IVT-52	Ⅲ	磨石	凝灰岩	7.3	6.5	3.5	210	黒色物質の付着	1008
166-4	219	IVQ-42 (旧SI03)	覆土 3回目	磨石	緑色凝灰岩	10.5	7.5	4.5	460	平坦面に磨痕	65
166-5	219	IVQ-44	Ⅲ	磨石	粗粒玄武岩	11.1	8.2	4.8	690	平坦面に磨痕	251
166-6	219	IV0-45	Ⅲ	磨石	安山岩	8.9	9.6	7.4	890	表面に磨痕	920
166-7	219	IVU-34	Ⅲ	磨石	花崗閃緑岩	11.2	9.2	8.8	1,240	全体に磨痕	1082
166-8	219	ブロック11 IVT-34	Ⅲ	磨石	安山岩	14.5	11.1	7.7	1,640	平坦面に磨痕と線状痕	1299
166-9	219	IVP-49	Ⅲ	磨石	安山岩	11.5	8.4	6.5	800	片面に磨痕	927
166-10	219	IVP-48	Ⅲ	磨石	斑岩	10.4	8.2	7.4	963	表面に光沢 敲打整形	347
166-11	219	IVN-36	Ⅲ	磨石	安山岩	8.9	9	6.2	740	平坦面に磨痕 側面打痕	169
166-12	219	IVT-35	Ⅲ上	磨石	安山岩	8.6	7.8	4.4	426.3	両面に磨痕 片面に線状痕	1112
166-13	219	IVS-48	Ⅲ	磨石	花崗閃緑岩	9	6.9	5	460	全体整形 両面に磨痕	882
166-14	219	IVP-43	Ⅲ	磨石	花崗閃緑岩	9	8	5.8	580	一部被熱 両面に磨痕	435
166-15	219	IVR-34	Ⅲ	磨石	花崗閃緑岩	10	7.8	6	680.1	両面に磨痕 側面に打痕	1066
166-16	219	IVS-34	Ⅲ	磨石	花崗閃緑岩	10.1	6.9	5.5	574.3	両面に磨痕 全体整形	1109
166-17	219	IVS-35	Ⅲ	磨石	花崗閃緑岩	11.7	7.8	6.8	950.6	両面に磨痕	1098
166-18	219	Sec7 IVS-35	Ⅲ-7	磨石	安山岩	11.1	8.5	6.3	760.6	両面に磨痕	1119
166-19	219	IVP-46	Ⅲ	磨石	安山岩	11.3	9.2	7.2	1,040	側面に黒色物質付着	886
166-20	219	IVQ-45	Ⅲ	磨石	安山岩	10.9	9.4	6.6	790	両面に光沢	353
166-21	219	IVT-51	Ⅲ	磨石	緑色凝灰岩	11.6	9.3	6.5	790	平坦面は平滑 線状痕あり	773
166-22	219	Sec3 IVQ-44	Ⅲ-6	磨石	安山岩	10.6	9.5	6.4	920	平坦面に磨痕 側面に打痕	62
167-1	219	IVR-47	Ⅲ	磨石	安山岩	10.5	10.2	7.1	1,050	表裏面に滑らかな磨痕	884
167-2	219	IVT-49	Ⅲ	磨石	粗粒玄武岩	10.7	9.8	6	940	器面は滑らか；磨痕	18
167-3	219	Sec3 IVS-44	Ⅲ-2	磨石	粗粒玄武岩	15	8.7	5.8	1,140	凹孔周辺は滑らかな磨痕	63
167-4	219	IVN-42	Ⅲ	磨石	安山岩	10.1	9	6	770		384
167-5	219	IVT-52	Ⅲ	磨石	花崗閃緑岩	10.4	8.5	5.6	710	平坦面に磨痕と打痕	954
167-6	219	IVR-50	Ⅲ	磨石	緑色凝灰岩	10.6	9.6	5.2	700	磨り潰し状の磨痕と線条痕	652
167-7	220	IVQ-46	Ⅲ	磨石	安山岩	9.6	8	5.7	580	中央にアバタ状の打痕	922

礫石器観察表(2)

図-No.	写真	出土位置	層位	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	整理 No.
167-8	220	IVT-48	Ⅲ	磨石	安山岩	10.3	8.8	7.1	930	3面に凹孔	494
167-9	220	IVT-50	Ⅲ	磨石	安山岩	12.4	8.6	7.3	1,120	平坦面に磨痕 側面に打痕	944
167-10	220	IV0-42	Ⅲ	磨石	玄武岩	10.1	8.3	6.3	736.3	平坦面に凹孔	398
167-11	—	IVS-35	Ⅲ	磨石	安山岩	11	7.3	6.4	656.1	3面の平坦な面に光沢	1090
167-12	220	IVS-38	Ⅲ	磨石	緑色凝灰岩	12.3	8.8	3	346.9	側面に敲打痕	264
167-13	220	IVS-45	Ⅲ	磨石	緑色凝灰岩	15.9	10.1	7.2	1,440	広い磨痕と大きな凹孔	657
168-1	220	IVS-35	Ⅲ	磨石	緑色凝灰岩	14.8	8.7	2.7	464.6	側面に敲打痕	1159
168-2	220	IV0-42	Ⅲ	磨石	緑色凝灰岩	13.4	7.6	4.4	610	扁平磨石 両面に浅い凹孔	382
168-3	220	IVS-47	Ⅲ	磨石	デイスait	12.3	7.8	4.9	647.5	扁平磨石 両面に凹孔	739
168-4	220	IVR-46	Ⅲ	磨石	緑色凝灰岩	17.5	7.9	4	561.6	扁平磨石 平坦面に凹孔	694
168-5	—	IVR-45	Ⅲ	磨石	凝灰岩	13	3.7	2.5	142.5	端部に磨痕 スリコギ的	1240
168-6	220	Sec7 IVS-36	Ⅲ-10	磨石	安山岩	9.2	4	1.5	87.2	スリコギ的 両端部に磨痕	1345
168-7	220	IVT-34	Ⅲ	磨石	粗粒玄武岩	13.5	7.3	5.4	737.5	側面に打痕 端部に磨痕	1115
168-8	220	IVW-32	Ⅲ	凹石	安山岩	10.6	8.7	7.3	718.5	片面に凹孔	1154
168-9	220	IVQ-49	Ⅲ	凹石	安山岩	9	10.3	7.1	820	片面利用 平坦面に凹孔	840
168-10	220	IV0-44	Ⅲ	凹石	凝灰岩	11.1	7.1	4.5	440	凹孔は浅い 敲打による	356
168-11	220	IVS-45	Ⅲ	凹石	玄武岩	14.3	6.1	3.6	469.2	片面に凹孔	666
168-12	—	IV0-45	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	16.6	9.9	2.4	450	片面に凹孔 裏面平滑	664
168-13	—	IVP-45	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	13	6.8	5.9	710	凹孔のある面は滑らか	681
168-14	—	IVS-52	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	11.1	8.3	3	300	片面に凹孔	663
168-15	220	Sec2 IVN-44	Ⅲ-1	凹石	凝灰岩	9.9	7.9	2	150	片面に凹孔	57
168-16	220	IVT-52	Ⅲ	凹石	凝灰岩	10.7	10	6.5	780	両面に凹孔	768
168-17	—	Sec5 IVS-35	Ⅲ-5	凹石	砂岩	14.5	10.2	3.5	427.9		1120
168-18	220	IVQ-46	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	7.6	6.3	4.1	227.6	浅い凹孔と深い凹孔	691
169-1	—	IVS-45	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	6.8	7.6	3.6	240		665
169-2	221	IVR-44	Ⅲ	凹石	安山岩	8	5.7	4.9	230.2	両面利用 器面はザラツク	275
169-3	—	IVR-50	Ⅲ	凹石	安山岩	7.7	6	5.6	270	両面に凹孔	651
169-4	—	IVR-46	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	7.8	7.1	6	360	両面に凹孔	706
169-5	—	IVT-49	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	9	7.4	3.5	250	両面に凹孔	586
169-6	221	IVP-43	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	8.5	6.4	4	203.7	両面に浅い凹孔	371
169-7	—	IVR-47	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	9.3	7	3.7	320	両面に凹孔	743
169-8	—	IVR-47	Ⅲ	凹石	粗粒玄武岩	8.4	8.3	5.3	510	平坦面に凹孔	741
169-9	—	IVR-45	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	9.8	9.3	3	290	両面に凹孔	717
169-10	—	IVT-49	Ⅲ	凹石	凝灰岩	9.1	6.1	2.2	150	両面に凹孔	571
169-11	—	IVS-46	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	9.8	9.9	5.5	610	両面に凹孔	715
169-12	221	IVS-27	I	凹石	凝灰岩	14.1	8.6	4.1	637.8	両面に深い凹孔	1172
169-13	—	IVQ-49	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	7.3	9.4	2.9	220	両面に打痕による凹孔	764
169-14	221	IVW-31	Ⅲ	凹石	凝灰岩	9.9	8	4.1	327.4	両面に凹孔	1152
169-15	—	IV0-42	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	14.4	7.7	4.4	540	両面に凹孔	758
169-16	221	IVQ-46	Ⅲ	凹石	安山岩	12.3	6.3	5.4	562.1	平坦面にすり鉢状の凹孔	661
169-17	221	IVS-47	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	11.5	7.8	4.5	390	被熱 両面に凹孔	722
169-18	221	IVU-30	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	12.8	7.6	4.2	429.8	両面に凹孔 一部に擦痕	1096
169-19	221	IVR-49	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	8.4	7.7	3.5	260	両面に凹孔 平坦面なめらか	572
170-1	—	IVR-47	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	9.7	9	5	510	両面に凹孔	734
170-2	—	IVT-49	Ⅲ	凹石	凝灰岩	11	7.1	5.5	440	両面に凹孔	583
170-3	221	IVS-48	Ⅲ	凹石	安山岩	11	6.3	4.7	369.5	両面に深い凹孔	813
170-4	221	IVS-48	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	11.6	10.6	2.8	450	両面に凹孔 側縁打ち欠き	286
170-5	221	IVR-50	Ⅲ	凹石	安山岩	12.8	8	6	850.7	タール状の物質付着	655
170-6	221	IVQ-46	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	10.3	8.1	4.6	380	両面に凹孔	638
170-7	—	IVP-46	Ⅲ	凹石	凝灰岩	13.6	10	3.8	550	板状に加工・整形	762
170-8	—	IVN-45	Ⅲ	凹石	安山岩	10.1	6.9	5.1	480	両面に複数の深い凹孔	669
170-9	—	IVS-44	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	11.1	8.7	4.4	500	両面に凹孔	483
170-10	221	IV0-45	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	10	8.2	5.5	440	両面利用 深い凹孔	686
170-11	—	IVS-48	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	11.7	7.6	4	460	両面に連続する凹孔	746
170-12	221	IVS-48	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	13.1	7.9	3.7	408.9	片端に剥離痕 被熱	751
170-13	—	IVS-50	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	11.2	7.8	4.1	560	両面に連続する凹孔	642
170-14	—	IVM-46	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	10.1	7.4	2.6	290	両面に凹孔	754
170-15	—	IVP-45	Ⅲ	凹石	デイスait	13	8.9	2.8	370	両面に凹孔	680
170-16	221	IVU-34	Ⅲ	凹石	凝灰岩	11.8	7.5	3.9	386.8	両面に凹孔	1136
170-17	—	IVR-48	Ⅲ	凹石	粗粒玄武岩	10.4	5.6	3.3	290	両面に凹孔	749
171-1	221	IVR-47	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	10	6.9	5.5	440.5	凹孔の一つはすり鉢状	731

礫石器観察表(3)

図-No.	写真	出土位置	層位	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	整理 No.
171-2	221	IVW-33	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	12.5	6.9	4.2	385.1	両面に凹孔	1147
171-3	—	IV0-45	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	11.9	7.5	2	210	両面に凹孔	689
171-4	221	IVN-45	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	13.6	7.3	2.6	330	凹孔は深くすり鉢状	233
171-5	221	IVR-47	Ⅲ	凹石	デイサイト	15.4	8.5	2.7	410	両面に連続する凹孔	723
171-6	—	IVR-50	Ⅲ	凹石	安山岩	12.6	8.1	5.6	760	両面に凹孔 片端に弱い打痕	647
171-7	221	IVR-46	Ⅲ	凹石	凝灰岩	12.7	9.8	6.2	830	両面に凹孔	704
171-8	221	IVS-27	I	凹石	玄武岩	15.7	8	3.5	534	両面に凹孔	1168
171-9	222	IVR-44	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	16.3	6.2	2.9	389.9	両面に凹孔	397
171-10	222	IVR-34	Ⅲ下	凹石	凝灰岩	16.5	5.6	3.6	369	片端に剥離	1183
171-11	222	IVT-50	Ⅲ	凹石	安山岩	14.8	7.8	3.7	600		611
171-12	222	IVR-44	Ⅲ	凹石	安山岩	14.2	5.3	3.1	310	両面に凹孔 被熱	404
171-13	—	IVR-46	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	12.3	8	3.5	490		703
172-1	222	IVQ-42	Ⅲ	凹石	粗粒玄武岩	15.5	7.1	4.4	547.5	端部欠損 煤付着	160
172-2	222	IVT-49	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	13.1	5.1	3	240	両面に凹孔	577
172-3	—	IVP-45	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	13.9	6.7	4.7	610		688
172-4	222	IVT-48	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	10.3	7	6.4	480	3面に凹孔	591
172-5	222	IVP-47	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	13.4	7.4	6.1	776.7	3面に凹孔 一部に線条痕	599
172-6	222	IVR-37	Ⅲ	凹石	凝灰岩	11.1	4.5	4.1	250	円柱状 凹孔付近に打痕	210
172-7	222	IVR-44	Ⅲ	凹石	凝灰岩	8.6	7.2	5.5	410	4面に凹孔	274
172-8	222	IVR-46	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	13.1	8.1	5.5	730	4面に凹孔	1007
172-9	222	IVR-47	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	14.4	5.4	4.1	400	側面は敲打痕が主体	709
172-10	222	IVQ-45	Ⅲ	凹石	デイサイト	12.3	6.7	4.7	450		424
172-11	222	IVQ-49	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	9.5	4.1	3.2	170	3面に凹孔	835
172-12	222	IVQ-47	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	12.8	4.8	4	300	側面にも敲打痕	710
172-13	222	IVV-34	Ⅲ	凹石	凝灰岩	13.1	5.2	2.9	241.3	平面に回転系の凹孔	1189
172-14	222	IVR-48	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	11.4	8.4	4.9	520	平坦面の凹孔はすり鉢状	755
173-1	223	IVS-51	Ⅲ	凹石	粗粒玄武岩	13.5	5.3	2.9	247.6		772
173-2	—	IVS-46	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	7.7	6.7	4.4	310	両面利用	707
173-3	—	IVS-45	Ⅲ	凹石	安山岩	10.5	9.7	6.5	860	両面に打痕による凹孔	668
173-4	223	IVS-53	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	12.9	8.2	3.5	350	側面に打痕	341
173-5	223	IVM-48	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	13.9	6.5	3.6	450	端部に敲打痕	733
173-6	223	IVT-49	Ⅲ	凹石	安山岩	9.8	8.8	6	639.7	両面に凹孔 側面に磨痕	573
173-7	223	IVS-44	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	10.3	8.4	3.7	310	両面に凹孔 側面に打痕	496
173-8	223	IVV-34	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	15.3	11.4	3.4	790.3	両面に連続する凹孔	1153
173-9	223	IVR-45	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	10.9	10.4	6.1	740	側面には敲打痕	365
173-10	223	IVS-33	Ⅲ	凹石	凝灰岩	12.3	8.6	5.7	666	凹孔付近に磨痕 端部に打痕	1173
173-11	223	IVQ-45	Ⅲ	凹石	粗粒玄武岩	13.5	8.9	4.2	720	両面に凹孔が連なる	423
173-12	223	IVP-42	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	10.5	8.3	3.2	288.4	両面に凹孔	390
174-1	223	IVN-39	Ⅲ	凹石	安山岩	10.8	7.2	3.2	280	側縁部に打痕2か所	156
174-2	223	IVR-50	Ⅲ	凹石	安山岩	11.8	5.2	3.3	270	両面に凹孔 側面に刻み	656
174-3	223	IVR-48	Ⅲ	凹石	緑色凝灰岩	12.2	5.1	4.1	340	両面、片面に凹孔	750
174-4	223	IVU-33	Ⅲ	凹石	凝灰岩	11	8.3	5.2	469.1	両面と側縁に側縁に打痕	1142
174-5	223	ブロック H5I03	覆土	凹石	緑色凝灰岩	12.4	10.5	6.4	1,050	片側に磨り痕、IVQ-42	49
174-6	—	IV0-45	Ⅲ	敲石	デイサイト	8.9	4.1	3.1	153.6	小形 端部に打痕	1239
174-7	224	IVR-48	Ⅲ	敲石	デイサイト	7.1	5	2.5	120	小形 端部に打痕	876
174-8	—	IVV-34	Ⅲ	敲石	デイサイト	7.4	5.7	4	233.9	小形 端部に打痕	1046
174-9	224	IVS-47	Ⅲ	敲石	凝灰岩	10.6	6.4	4.8	377.4	やや柱状 端部に打痕	489
174-10	224	IVS-49	Ⅲ	敲石	凝灰岩	14.7	5.9	4	425.9	端部に打痕 平坦部に磨痕	1054
174-11	224	IVN-43	Ⅲ	敲石	花崗閃緑岩	9.2	7.1	4.9	428.9	ザラツク器面 端部に打痕	432
174-12	224	IVQ-50	Ⅲ	敲石	花崗閃緑岩	14.6	8.1	7.8	1,240	平面に磨痕 端部に打痕	947
174-13	224	IVR-47	Ⅲ	敲石	花崗閃緑岩	11.9	6.8	6.1	660	全面打痕 磨石的	872
174-14	—	IVS-50	Ⅲ	敲石	粗粒玄武岩	10	9.5	7.3	960	周縁に打痕 平坦面に凹み	645
174-15	224	IVS-44	Ⅲ	敲石	安山岩	13.3	8	7.3	1,210		366
174-16	224	Sec5 IVS-35	Ⅲ-4	敲石	凝灰岩	9.7	7.6		534.3	楕円球状礫 全面に敲打痕	1123
174-17	—	IVR-34	Ⅲ	敲石	花崗閃緑岩	7.8	7.1	6.1	446	全面打痕	1034
174-18	224	IV0-44	Ⅱ	敲石	凝灰岩	7	5.9	5.2	220.5	全体打痕 3面に打痕	362
174-19	224	IVT-53	Ⅲ	敲石	デイサイト	8.5	7.5	5.4	435.1	全面打痕	297
174-20	224	IVQ-46	Ⅲ	敲石	凝灰岩	5	4.4	3	90	平坦面に打痕	860
174-21	224	IVR-49	Ⅲ	敲石	凝灰岩	5.4	4.7	3.6	120	片面に打痕	866
174-22	—	IVS-50	Ⅲ	敲石	凝灰岩	5.5	4.7	3.9	130	表裏面に打痕	644
174-23	—	IVT-35	Ⅲ	敲石	安山岩	9.8	8.7	2.2	186.4	平坦面にアバタ状の打痕	1018

礫石器観察表(4)

図-No.	写真	出土位置	層位	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	整理 No.
174-24	224	Sec2 IVP-44	Ⅲ-8	敲石	安山岩	12.3	8.6	6.4	930	片面にアバタ状の打痕	69
174-25	224	IVS-47	Ⅲ	敲石	凝灰岩	14.9	9.1	3.4	490	側面に打痕	854
175-1	224	IVS-48	Ⅲ	石錘	粗粒玄武岩	4.8	7.8	1.1	53.2	小形 短軸辺を挟り敲打	516
175-2	224	IVQ-45	Ⅲ	石錘	安山岩	4.8	6.2	2.3	80	小形 短軸辺を挟り	448
175-3	224	IVS-49	Ⅲ	石錘	凝灰岩	8.1	8.8	2.2	190.6	短軸辺に挟り	515
175-4	224	IVS-54	Ⅲ	石錘	粗粒玄武岩	7.9	6.4	2.2	167.8	長軸端に剥離	514
175-5	224	IVM-46	Ⅲ	加工礫	緑色凝灰岩	13.1	9.4	2.9	481.6	長軸端と短軸辺に剥離	513
175-6	224	IVN-41	Ⅲ	礫器	珪質頁岩	10.6	5.3	4.4	260.5		509
175-7	224	IVS-50	Ⅲ	礫器	珪質頁岩	12.8	8.7	6	567.3		512
175-8	224	IVT-46	Ⅲ	礫器	珪質頁岩	17.6	5.4	5.3	508.3		511
175-9	224			礫器	デイサイト	15.4	5.7	4.3	459.2		510
175-10	224	IVS-48	Ⅲ	砥石	安山岩	20.3	20.9	5.8	2811.8	有溝砥石 片面を利用	15
176-1	224	IVR-46	Ⅲ	砥石	凝灰岩	12.4	12	7.8	862.9	有溝砥石	14
176-2	224	IVT-35	Ⅲ	砥石	凝灰岩	26.5	23.1	4.3	3,040	中央が滑らか	1219
176-3	225	IVV-34	Ⅲ	砥石	凝灰岩	17.2	9.4	2.8	580	縁辺部整形 片面に擦痕	1230
176-4	225	IVQ-45	Ⅲ	砥石	凝灰岩	9.3	7.8	2	176.4	扁平 両面平滑	442
176-5	225	IVS-33	Ⅲ	石皿	安山岩	34.5	46.8	3.5	6,940	板状節理	1218
176-6	225	IVU-34	Ⅲ	石皿	安山岩	31.1	36.3	3.6	5,300	板状節理 片面利用	1227
177-1	225	IVU-32	Ⅲ	石皿	安山岩	28.3	32.5	1.9	1,790	板状節理 片面	1083
177-2	225	IVU-33	Ⅲ	石皿	安山岩	31.4	44.4	2	3,620	板状節理 両面利用	1206
177-3	—	ブロック 旧S103	覆土	石皿	安山岩	13.4	12.7	2	388.3	板状節理 片面	1350
177-4	225	IVT-35	Ⅲ上	石皿	礫岩	21.4	16.3	3.1	1,690	縁あり 被熱	1196
177-5	225	IVT-29	Ⅲ	石皿	凝灰岩	23.3	22.1	5.8	2,140	破損 縁あり	1233
177-6	225	IVS-45	Ⅲ	石皿	凝灰岩	29.4	43	9.2	8,100	一部破損 大きく窪む	459
177-7	225	Sec3 IVS-44	Ⅲ-4-C	石皿	安山岩	22.5	37.4	6.5	5,750	縁あり 破損	116
178-1	225	IVR-46	Ⅲ	石皿	凝灰岩	58.6	47	16	24,660		458
178-2	225	IVS-43	Ⅲ	石皿	安山岩	15.9	19.9	5.5	2,030	完形 縁あり 大きく凹む	544
178-3	226	IVQ-46	Ⅲ	石皿	凝灰岩	37	46.4	7	12,350	完形 縁あり	137
178-4	225	IVQ-35	Ⅲ	石皿	安山岩	23.3	27.2	5	5,300	縁なし タール状物質付着	179
178-5	226	IVR-57	Ⅲ	石皿	安山岩	27.6	37.1	8.2	5,200	大形 完形 縁なし	1012
179-1	226	IV0-49	Ⅲ	石皿	安山岩	25.4	40.8	14.2	20,400	大型 縁なし	1013
179-2	226	Sec3 IVR-44	Ⅲ-4-C	石皿	デイサイト	18	36.4	5.5	4,000	扁平 完形 縁なし片面平滑	114
179-3	226	IVT-47	Ⅲ下部	石皿	凝灰岩	27.2	30.3	13.5	13,160	完形 縁なし	471
179-4	226	ブロック 旧S103	覆土	石皿	安山岩	41.4	45.4	8	19,600	完形縁なし	123
179-5	226	Sec3 IVR-44	Ⅲ-4-C	石皿	凝灰岩	29.6	22.3	5.5	3,860	扁平 完形 縁なし片面平滑	115
180-1	227	IVP-46	Ⅲ	磨石	デイサイト	10.8	8.5	6.2	760	赤色顔料付着 片面に顕著	889
180-2	—	IVS-35	Ⅲ	磨石	安山岩	6.5	5.7	4.5	212.5	小形 平坦面に磨痕	1100
180-3	227	IVU-54	Ⅲ	磨石	斑岩	11.2	8.6	6	774.6	平坦面を中心に赤色顔料付着	777
180-4	227	IVR-43	Ⅲ	磨石	花崗閃緑岩	8.7	8.5	6.4	700	赤色顔料付着	13
180-5	227	IVP-42	Ⅲ	磨石	緑色凝灰岩	10	8.6	6.7	768.4	赤色顔料の付着	383
180-6	227	IVS-47	Ⅲ	磨石	安山岩	11.1	7	4.7	522.5	赤色顔料付着	725
180-7	227	IVS-45	Ⅲ	磨石	デイサイト	11.6	9	7.1	1,020	痕跡的に赤色顔料が付着	912
180-8	227	Sec2 IV0-44	Ⅲ-6	磨石	凝灰岩	13.1	8	4.8	700	赤色顔料の付着	66
180-9	227	IVQ-45	Ⅲ下部	凹石	安山岩	7.1	6.4	4.4	280	痕跡的に赤色顔料が付着	358
180-10	227	IV0-45	Ⅲ	石皿	安山岩	9.5	10.5	1.7	200	板状節理 赤色顔料付着	979
180-11	227	IVU-29	Ⅲ	石皿	安山岩	10.6	15.8	1.7	337.1	赤色顔料付着 板状節理	1351
180-12	227	IVS-37	Ⅲ	石皿	デイサイト	9.2	24.4	2	430	板状節理 片面に赤色顔料付着	81
181-1	227	IVR-43	Ⅲ	石皿	デイサイト	15.8	28.8	2	800	板状節理 片面に赤色顔料付着	80
181-2	227	Pit0145	確認面	石皿	安山岩	21.6	26.2	2.7	1,911	赤色顔料付着 板状節理	1352
181-3	227	IVQ-41	Ⅲ	石皿	安山岩	11.8	17.6	3	910	板状節理 片面に赤色顔料付着	215
181-4	227	IVR-43	Ⅲ	石皿	安山岩	35	25.6	10.1	8,150	縁なし 片面に赤色顔料付着	20
181-5	227	IVR-45	Ⅲ	石皿	安山岩	32.1	39.8	5.9	8,450	縁なし 赤色顔料付着	135

土製品観察表(1)

図No.	写真	遺構名	グリッド	層位	分類	部位・形状	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	取上No.	整理 No.
182-1	228	S103※		覆土	土偶(中空)	顔	28.9	32.7	10.5	6.9			135
182-2	228		IVR-49	Ⅲ	土偶(中空)	顔	35.2	36.4	10.4	8.9			124
182-3	228	Sec2	IV0-44	Ⅲ-5	土偶(中空)	顔	45	52	33	22.5		P-15	10
182-4	228		IVT-54	Ⅲ	土偶	角状突起	20.9	19.6	13	4.2		特-93D	16
182-5	228		IVT-54	Ⅲ	土偶(中空)	上半身	101.5	109.2	51.4	137.8		特-84	1
182-6	228		IVT-34	Ⅲ	土偶(中空)	頭部	49	42	28	19.6	顔面欠損		169
182-7			IVT-54	Ⅲ	土偶	不明	23.1	18.6	19	3.5		特-93E	17
182-8	228		IVT-54	Ⅲ	土偶(中空)	口部	17.6	27.3	13.5	3.9		特-93C	15
183-1	228	P-1020 付近	IVN-44 IVP-45	Ⅲ	土偶(中空)	全身	183	88	55	210.7	8+9+36+121+122	土偶	8
183-2	229		IVN-41	Ⅲ	土偶(中空)	背中	58	95	56	67.1	127+128		127
183-3	228		IVQ-38	Ⅲ	土偶(中空)	脚部	52.9	35.1	38.2	18.8		土偶-X	7
183-4	228		IVT-54	Ⅲ	土偶(中空)	右肩	34	58	43.4	26.4		特-93A	13
184-1	229		IV0-44 IVV-48	Ⅲ	土偶(中空)	腰部	96	125	54	331.9		P-1016 P-1591	56
184-2			IVQ-48	Ⅲ	土偶?	不明	-	-	9	23			123
184-3			IVS-48	Ⅲ	土偶?	不明	-	-	4	8.1			126
184-4			IVT-54	Ⅲ	土偶?	不明	23	34	27	8.6		特-93B	14
184-5			IVR-44	Ⅲ	土偶?	不明	-	-	8	8			130
184-6	228		IVR-44	Ⅲ	土偶?	不明	44.6	47.5	12.9	22.3	破断面に黒色付着物。沈線内赤彩		125
184-7			IVN-41	Ⅲ	土偶?	不明	-	-	5	4.9			134
184-8			IVS-50	Ⅲ	土偶?	不明	-	-	6	34.8			184
185-1	230		IVP-45	Ⅲ	土偶(中実)	頭髮	91	78	67	250.3	2+3	特-73 特-74	2
185-2	230	Sec1	IVR-36 IVQ-46 IVW-32	Ⅲ-2	土偶(中実)	上半身	92	174	46	310	5+6+146	特-25 特-58 特-207	5
185-3	230		IVQ-43	Ⅲ	土偶(中実)	腕部	75	37	27	62.6	5+6+146と同一?	特-12	28
186-1	230		IVS-35	配石面	土偶(中実)	腕部	89	36	31	75.7	5+6+146と同一?	特-213	157
186-2	229		IVV-32	Ⅲ	土偶(中実)	頭部	87	71	59	215.2	SQ16付近	特-201	142
186-3	229	Sec7	IVS-35	Ⅲ-10	土偶(中実)	腕部	75	49.5	44	110.9		特-239	158
187-1	231		IVQ-45	Ⅲ	土偶(中実)	上半身	67.3	52.9	17.3	37.3		特-37	4
187-2	230		IVS-50	Ⅲ	土偶(中実)	上半身	108.5	83	49.5	229.4		特-82	11
187-3	231		IVV-33	Ⅲ	土偶(中実)	下半身	70.2	43	25.5	37.6			189
188-1	231		不明	不明	土偶	頭髮	35	63.2	19.6	24.1			137
188-2	231		IVW-31	Ⅲ	土偶	頭髮	46.4	30.5	19.2	15.1		特-206	155
188-3	231		不明	不明	土偶	頭髮	18.2	37.4	18.3	9.7			136
188-4			IVR-45	Ⅲ	土偶	頭髮	21.1	22.4	23	8.8			133
188-5	231		IVR-50	Ⅲ	土偶	頭髮	27.4	18.4	23.5	11.2			167
188-6	231		IVU-30	I	土偶	肩部	63.6	41	23.4	42.4			153
188-7	231		IVP-37	Ⅲ	土偶	不明	-	-	20	12.2	肩もしくは頭髮部	P-X	53
188-8	231		IVR-43	Ⅲ	土偶?	不明	74.2	74.5	39	99.4			32
188-9			IVW-33	I	土偶?	不明	52.2	33.3	21.9	18.1	土器の一部?	特-202	145
188-10	231		IVQ-45	Ⅲ	土偶(中実)	腕部	47.4	31	26	29.4		特-27	12
188-11	231		IVS-30	Ⅲ	土偶?	不明	-	24.1	23.4	50.9			159

土製品観察表(2)

図No.	写真	遺構名	グリップド	層位	分類	部位・形状	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考	取上No.	整理No.
189-1	231		IVR-48	Ⅲ	耳飾	白形	—	—	19.9	19.1	赤彩		113
189-2	231		IVR-35	Ⅲ	耳飾	白形	54.3	57.6	24.9	47	赤彩		33
189-3	231		IVU-33	Ⅲ	耳飾	白形	49.6	51.6	21	35.6		特-215	114
189-4	231		IVU-34	Ⅲ	耳飾	白形	46.7	27.4	29.4	28.5			187
189-5	231		IVM-38	Ⅲ	耳飾	白形	26	25	12	5		特-21	21
189-6	231		IVN-40	Ⅲ	耳飾	車輪形	24.8	24.6	14.4	7.3	赤彩	P-X	111
189-7	231		IVS-48	Ⅲ	耳飾	車輪形	24	23.6	14.8	7.2		特-91	41
189-8	231		IVU-34	Ⅲ	耳飾	車輪形	40.5	35.6	20.1	22.7	赤彩		188
189-9	231		IVV-32	Ⅲ	耳飾	車輪形	21.6	21.5	19.3	8		特-203	116
189-10	231		IVU-32	Ⅲ	耳飾	車輪形	24	27	26	16.2			202
189-11	231		IVS-50	Ⅲ	耳飾	鼓形	17	23	23	3.3			171
189-12	231		IVP-35	Ⅲ	耳飾	鼓形	26.7	29.5	29.2	11.9			179
189-13	231		IVR-46	Ⅲ	耳飾	環状	48	48	15	25.4	赤彩		104
189-14	231		IVQ-46	Ⅲ	耳飾	環状	41	40	16	13.5		特-46	18
189-15	231	Sec7	IVS-34	Ⅲ-2	耳飾	環状	35	37	13	15		特-236	119
189-16	231		IVQ-44	Ⅲ	耳飾	環状	31	31.6	19.6	10.3			110
189-17	231		IVO-44	Ⅱ	耳飾	環状	18.3	18.2	11.4	1.7			35
190-1	231		IVT-51	Ⅲ	耳飾	環状	—	—	14.6	7.2			182
190-2	231		IVS-49	Ⅲ	耳飾	環状	—	—	16	5.9		P-X	55
190-3			IVS-47	Ⅲ	耳飾	環状	—	—	19.3	6			105
190-4			IVQ-46	Ⅲ	耳飾	環状	—	—	15.4	1.4		P-1249	107
190-5			IVQ-48	Ⅲ	耳飾	環状	—	—	18.9	4.9			106
190-6			IVS-47	Ⅲ	耳飾	環状	—	—	16.4	2.4	P-1765の地点で出土	P-1765	50
190-7			IVQ-47	Ⅲ下部	耳飾	環状	—	—	13.2	2			19
190-8			IVQ-45	Ⅲ	耳飾	環状	—	—	11.2	5.9		P-X	54
190-9	231		IVR-41	Ⅲ	耳飾	環状	—	—	17.8	4.4		P-X	49
190-10			IVT-48	Ⅲ	耳飾	環状	—	—	9.8	1.8		特-108	40
190-11	231		IVS-48	Ⅲ	耳飾	環状	—	—	15.1	4.7		P-X	51
190-12		Sec3	IVR-44	Ⅲ-8	耳飾	環状	—	—	13.8	2.1		P-X	59
191-1		Pit0707		覆土	耳飾	環状	—	—	18	4.5			165
191-2			IVT-34	Ⅲ	耳飾	環状	—	—	19	6.1			185
191-3			IVS-35	Ⅲ	耳飾	環状	—	—	11	2.2			186
191-4			IVR-50	Ⅲ	耳飾	環状	—	—	15.5	2			168
191-5	231		IVQ-45 IVV-33	Ⅲ	土玉	星型	25	24	16	5.8	赤彩。50m近く離れてそれぞれ出土	特-66 特-208	22
191-6	231		IVT-49	Ⅲ	土玉	星型	21	21	13	3.4	赤彩	特-92	25
191-7	231	Sec5	IVR-35	Ⅲ-9 相当	土玉	歯車形	20	20.2	13.4	3.8	赤彩	特-234	120
191-8	231		IVQ-46	Ⅲ	土玉	歯車形	19	19	17	4.8	赤彩	特-52	24
191-9	231		IVT-35	Ⅲ	土玉	歯車形	14.4	16	13.6	2.3	赤彩		118
191-10	231		IVO-43	Ⅱ	耳飾	耳栓	17	17	17	1.5		特-28	20
191-11	231		IVR-43	Ⅲ	土玉	勾玉	15.2	8.7	3.6	0.4	赤彩		42
191-12	231		IVR-43	Ⅲ	土玉	勾玉	16.4	10.2	3.8	0.5	赤彩	特-6	45
191-13	231	Sec3	IVR-44	Ⅲ-4-d	土玉	丸玉	7	7	6	0.3	赤彩		37
191-14	231		IVR-43	Ⅲ	土玉	丸玉	7	7	7	0.2	赤彩	特-8	43

土製品観察表(3)

図No.	写真	遺構名	グリッド	層位	分類	部位・形状	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	取上No.	整理 No.
191-15	231		IVR-43	Ⅲ	土玉	丸玉	7	7	7	0.3	赤彩	特-7	44
191-16	231		IVR-43	Ⅲ	土玉	丸玉	6	6	7	0.2	赤彩	特-10	46
191-17	231		IVR-43	Ⅲ	土玉	丸玉	6	7	6	0.2	赤彩	特-9	47
191-18	231		IVR-43	Ⅲ	土玉	丸玉	8	7	7	0.3	赤彩		48
191-19	232		IVR-45	Ⅲ	垂飾品	油巻き	30	27	7	4.9		特-77	23
192-1	232		IVR-47	Ⅲ	ニニチュア土器	壺形	36.7(器高)	36(最大径)	4	21.9			38
192-2	232	SR31		覆土	ニニチュア土器	鉢形	28(器高)	42(口径)	4	6.3			94
192-3	232		IVR-49	Ⅲ	ニニチュア土器	注口	62.4(器高)	56(最大径)	4	60.6		P-1633	99
192-4			IVR-49	Ⅲ	ニニチュア土器	壺形	47(器高)	56(最大径)	3	11.8			95
192-5	232		IVR-48	Ⅲ	ニニチュア土器	壺形	45(器高)	48(最大径)	4	19.5			101
192-6			IVR-48	Ⅲ	ニニチュア土器	壺形・注口	11(器高)	15(底径)	—	2.6			109
192-7	232		不明	不明	ニニチュア土器	鉢形	29(器高)	52(最大径)	4	21.5			201
192-8			IVW-31	Ⅲ	ニニチュア土器	鉢形	14(器高)	21(口径)	2	1.7			203
192-9			IVQ-49	不明	ニニチュア土器	口縁部	—	—	4	1.9			100
192-10	232		IVR-37	Ⅲ	ニニチュア土器	口縁部	—	—	5	3.4		P-X	60
192-11	232		IVR-49	Ⅲ	ニニチュア土器	不明	63	37.5	37.5	28.5			96
192-12	232	Sec3	IVS-44	Ⅲ-2	土製品	棒状	54.8	19.4	20.1	13.3		特-112	30
192-13	232		IVS-49	Ⅲ	土製品	不明	32	46.5	26	19.9			97
192-14	232		IVS-48	Ⅲ	土製品	不明	37.2	21.4	8	4.1		特-103	39
192-15	232		IVS-48	Ⅲ	土製品	不明	—	—	5	22.5		P-X	57
192-16			IVS-50	Ⅲ	土製品	不明	—	—	5	21.8			184
192-17		欠番											
192-18	232		IVR-49		土製品	不明	—	—	4	1.2			98
193-1	232		IVS-49	Ⅲ	円盤	—	32.2	29.4	7.8	7.9		P-X	52
193-2	232		IVT-47	Ⅲ	円盤	—	35	33	6	7.5			64
193-3			IVS-49	Ⅲ	円盤	—	31	29	12	11.6			65
193-4	232		IVS-45	Ⅲ	円盤	—	41	40	6	10.1			66
193-5	232		IVQ-49	Ⅲ	円盤	—	31	35	8	9.9			67
193-6			IVR-48	Ⅲ	円盤	—	30	33	7	6.1			68
193-7			IVR-46	Ⅲ	円盤	—	22	24	5	2.9			70
193-8	232		IVS-?	Ⅲ	円盤	—	26	26	5	4.3			71
193-9	232		IVR-49		円盤	—	23	24	4	2.1			72
193-10	232		IVR-48	Ⅲ	円盤	—	27	29	5	4			73
193-11			?	Ⅲ	円盤	—	31	35	6	6.8			75
193-12			IVN-41	Ⅲ	円盤	—	35	36	5	8.2			76
193-13			IV?-38	Ⅰ	円盤	—	29	31	5	4.7			77
193-14	232		IVK-47	Ⅲ	円盤	—	31	35	7	7.1			78
193-15			IVS-47	Ⅱ	円盤	—	37	35	5	8.5			79
193-16			IVN-41	Ⅲ	円盤	—	31	35	7	8.8			80
193-17			IVO-46	Ⅲ	円盤	—	30	30	6	5			81
193-18			IVR-49	Ⅲ	円盤	—	45	47	5	13.9			82
193-19			IVT-49	Ⅲ	円盤	—	48	46	10	24.1			85
193-20	232		IVO-45	Ⅲ	円盤	—	49	51	8	23			87
193-21	232		IVT-49	Ⅲ	円盤	—	51	48	7	19.5			89

※図No.に網掛けのあるものは、完形品として扱った小型土器。

土製品観察表(4)

図No.	写真	遺構名	グリップド	層位	分類	部位・形状	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考	取上No.	整理No.
193-22			IVT-49	Ⅲ	円盤	-	32	34	8	8.5			90
193-23			IVT-49	?	円盤	-	37	39	8	11.3			91
193-24		?	IVT-49	Ⅲ	円盤	-	39	46	8	11.9			92
193-25			IVR-50	Ⅲ	円盤	-	33	38	6	8.7			166
193-26		ﾌﾟｯｸ/11	IVS-34	Ⅲ	円盤	-	26	29	8	5		P-3000の中	170
193-27			IVS-51	Ⅲ	円盤	-	4	36	7	11.1			172
193-28			IVS-50	Ⅲ	円盤	-	36	33	4	5.6			173
193-29			IVX-31	I	円盤	-	30	31	6	6.5			174
193-30	232		IVT-34	Ⅲ	円盤	-	23	3	5	4		P-2174	175
193-31			IVS-50	Ⅲ	円盤	-	41	43	6	8.8			176
194-1			IVS-50	Ⅲ	円盤	-	48	47	7	13.6			177
194-2			IVT-49	Ⅲ	円盤	-	35	39	6	8			178
194-3			IVT-50	Ⅲ	円盤	-	49	49	7	19.7			180
194-4			IVS-50	Ⅲ	円盤	-	34	35	5	7.1			181
194-5			IVT-35	Ⅲ	円盤	-	41	48	48	15.4			190
194-6	232		IVT-34	Ⅲ	円盤	-	55	47	5	17.1			191
194-7			IVF-35	Ⅲ	円盤	-	39	41	7	10.1			194
194-8			IVU-34	Ⅲ	円盤	-	27	30	5	5			193
194-9			IVT-35	Ⅲ上	円盤	-	46	45	6	11.2			192
写真のみ	232		IV0-44	Ⅲ	円盤	-	-	-	-	15.8		P-X	58
写真のみ	232		IVT-48	Ⅲ	粘土塊	-	-	-	-	91.5			208
写真のみ	232	Sec3	IVS-44	I	粘土塊	-	-	-	-	4.2			210
写真のみ	232		IVR-45	Ⅲ	粘土塊	-	-	-	-	6.6			211
写真のみ	232		IVR-47	Ⅲ	粘土塊	-	-	-	-	17.6			209
写真のみ	232		IVT-47	Ⅲ	粘土塊	-	-	-	-	13.9		特-94	29
図示なし			IVR-48	Ⅲ	ミニチュア土器	-	-	-	-	1.4			108
図示なし			IVN-45	Ⅲ	ミニチュア土器	-	-	-	-	5.2			102
図示なし		ﾌﾟｯｸ/11下	IVS-34	Ⅲ	不明	-	-	-	-	14.4		特-230	161
図示なし			IV0-47	Ⅲ	不明	-	-	-	-	8.1			129
図示なし			IVT-49	Ⅲ	円盤	-	-	-	-	9.3			83
図示なし			IVT-49	Ⅲ	円盤	-	-	-	-	9.5			84
図示なし			IVT-49	Ⅲ	円盤	-	-	-	-	2.4			86
図示なし			IVT-49	Ⅲ	円盤	-	-	-	-	18			74
図示なし			IVS-35	Ⅲ-4	円盤	-	-	-	-	8.6			195
図示なし			IVS-35	Ⅲ	円盤	-	-	-	-	16.4			207
図示なし			IVS-44	Ⅲ	円盤	-	-	-	-	5.9			69
図示なし			IVR-40	Ⅲ	円盤	-	-	-	-	18.6			88
図示なし			IVR-46	Ⅲ	円盤	-	-	-	-	15			31
図示なし			IVI-34	Ⅲ	円盤	-	-	-	-	7.7			206
図示なし		SN45周辺	IVT-35		耳飾	-	-	-	-	3.6			205
図示なし			IVR-46	Ⅲ	耳飾	-	-	-	-	2.2			204
図示なし			IVS-48	Ⅲ		-	-	-	-	2.4		P-X	103

石製品観察表(1)

図-No.	写真	出土位置	層位	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	取上 No.	整理 No.
195-1	233	IV0-45	Ⅲ	岩版類	凝灰岩	63	46	10	33.7		P-1272	135
195-2	233	IVM-52	攪乱	岩版類	凝灰岩	51	41	7	12.3			395
195-3	233	IVR-50	Ⅲ	岩版類	凝灰岩	88.5	60.2	19.7	105.3		特-35	136
195-4	233	IVT-29	I	岩版類	凝灰岩	35	37	6				
195-5	233	IVR-57	Ⅲ	岩版類	凝灰岩	78.6	65.1	18	99.7		特-104	131
195-6	233	IVS-48	Ⅲ	岩版類	凝灰岩	146	170	40	970.1	中央部に盲孔	特-70	99
195-7	233	IVR-44	Ⅲ	岩版類	凝灰岩	31	30	23	24.9	十字の線刻	特-5	134
195-8	233	IVT-51	Ⅲ	岩版類	安山岩	46	41	11.5	18.7	十字の線刻	特-160	102
195-9	—	IVS-34		岩版類		65	36	28	36.2	下半部に線刻	特-217	339
195-10	233	IVN-45	Ⅲ	岩版類	安山岩	87.3	61.7	21	123.4	正面放射状の線刻	特-60	101
195-11	233	IV0-41	Ⅲ	有孔石製品	ヒスイ	8.5	8.6	6.2	0.8	小玉 片側穿孔	特-17	121
195-12	233	IV0-39	Ⅲ	有孔石製品	ヒスイ	9.2	9.2	6.1	0.8	小玉 片側穿孔	特-14	122
195-13	233	IVR-45	Ⅲ	有孔石製品	緑色凝灰岩	10.8	10.6	9.4	1	小玉 両側穿孔	特-47	118
195-14	233	IVR-46	Ⅲ	有孔石製品	緑色凝灰岩	11.5	11.7	7.6	0.9	小玉 両側穿孔	特-41	119
195-15	233	IVR-47	Ⅲ	有孔石製品	緑色凝灰岩	12.2	11.4	5.6	0.8	小玉 両側穿孔	特-48	123
195-16	233	IVQ-41	Ⅲ	有孔石製品	凝灰岩	12.5	12	3	0.5	小玉 片側穿孔		120
195-17	—	IVS-34	Ⅲ	有孔石製品		11	9	5	0.5	小玉未成品? 盲孔	特-218	340
195-18	233	IVN-44	Ⅲ	有孔石製品	緑色凝灰岩	25	15	8	3.7	未成品? 盲孔		144
195-19	233	IVT-34	Ⅲ	有孔石製品	緑色凝灰岩	2.4	2	1.2		搬入礫		
195-20	—	IV0-42	Ⅲ	有孔石製品	緑色凝灰岩	31	26	20	18.8	未成品? 盲孔		124
195-21	—	IVN-44	Ⅱ	有孔石製品	緑色凝灰岩	33	22	17	16.5	搬入礫		125
195-22	233	IVT-34 SN45周辺	床下 Ⅲ	有孔石製品	軽石	60	35	15	3.5	垂飾品 片側穿孔	特-224	342
195-23	233	IV0-42	Ⅲ	有孔石製品	軽石	42	27	14	3.7	垂飾品 片側穿孔		167
195-24	233	IVQ-43	Ⅲ	有孔石製品	凝灰岩	50.1	38.4	8.7	12.9	垂飾品? 破断面に両側穿孔の貫通孔 側面盲孔に赤彩残る部分有	特-2	137
195-25	233	IV0-42	Ⅲ	有孔石製品	粘板岩	53	25	5	10.1	垂飾品? 両側穿孔		311
195-26	233	IVR-35	Ⅲ	有孔石製品	凝灰岩	52	35	27	23.3	垂飾品? 両側穿孔・正面に赤彩	P-×	312
195-27	233	IVQ-37	Ⅲ	有孔石製品	凝灰岩	47	30	19	13.9	垂飾品? 両側穿孔		130
195-28	233	IVR-36	Ⅲ	有孔石製品	粘板岩	34	17	5	3.8	垂飾品 前面研磨 両側穿孔		443
195-29	233	IVT-45	Ⅲ	有孔石製品	マンガン ノジュール	2.9	2.8	0.8		盲孔(穿孔未達)両側穿孔		マンガン 001
195-30	233	IVQ-48	Ⅲ	有孔石製品	凝灰岩	85	42	17	71.8	盲孔(周囲に敲打痕)		171
196-1	234	IV0-42	Ⅲ	円盤状石製品	凝灰岩	31	29.3	5	7.2	全面研磨	S-37	39
196-2	234	IVQ-53	Ⅲ	円盤状石製品	緑色凝灰岩	30.2	32.6	8.4	12.5	全面研磨		188
196-3	234	IVQ-41	Ⅲ	円盤状石製品	凝灰岩	26.8	28	6.2	7	全面研磨		40
196-4	234	IVS-49 風倒木痕		円盤状石製品	凝灰岩	35.2	34.8	5	7.5	全面研磨・中央部に浅い盲孔	S-183	42
196-5	234	IVR-36 Sec1	Ⅲ-3	円盤状石製品	凝灰岩	26.2	27.4	7.4	6.1	全面研磨		41
196-6	—	IVN-44	Ⅲ	円盤状石製品	凝灰岩	56	58	13	51.2	側面研磨		206
196-7	234	IVR-50	Ⅲ	円盤状石製品	凝灰岩	25	26	11	12.3	稜線磨耗	特-44	33
196-8	—	IVT-52	Ⅲ	円盤状石製品	凝灰岩	25	28	10	9.7	稜線磨耗		36
196-9	234	IVT-49	Ⅲ	円盤状石製品	凝灰岩	28	27	12	11.1			209
196-10	234	IVR-46	Ⅲ	円盤状石製品	凝灰岩	32	31	13	18.3		—	35
196-11	234	IVS-41	Ⅲ	円盤状石製品	凝灰岩	31	32	10	14.9	稜線磨耗		208
196-12	—	IVR-50	Ⅲ	円盤状石製品	凝灰岩	36	37	13	27.9	側面一部磨耗激しい	S-126	16
196-13	—	IVR-44 Sec3	Ⅲ-8	円盤状石製品	緑色凝灰岩	38	38	12	23.3		S-3	2
196-14	—	IVS-46	Ⅲ	円盤状石製品	安山岩	36	36	15	29.4			381
196-15	234	IVS-41	Ⅲ	円盤状石製品	凝灰岩	38	40	12	28.6			156
196-16	—	IVS-52	Ⅲ	円盤状石製品	凝灰岩	41	41	19	42.6			176
196-17	—	IV0-47	Ⅲ	円盤状石製品	緑色凝灰岩	47	45	14	29	側面一部敲打	S-134	21
196-18	234	IVR-46	Ⅲ	円盤状石製品	凝灰岩	43	45	14	32.8			183
196-19	234	IVR-46	Ⅲ	円盤状石製品	凝灰岩	54	51	25	92.5			179
196-20	—	IVS-35	Ⅲ	円盤状石製品	安山岩	45	48	17	56.7			221
196-21	234	IVQ-46	Ⅲ	円盤状石製品	凝灰岩	46	45	13	30.2	側面一部敲打		202
196-22	—	IVS-38	Ⅲ	円盤状石製品	安山岩	50	49	19	69.8			210
196-23	—	IV0-42	Ⅲ	円盤状石製品	デイサイト	54	51	20	77.2		S-47	26
196-24	—	IVR-46	Ⅲ	円盤状石製品	凝灰岩	55	52	23	84.9		S-55	10
196-25	—	IVS-52	Ⅲ	円盤状石製品	泥岩	57	55	19	55.6	黒色物質付着	P-×	391
196-26	234	IVR-42	Ⅲ	円盤状石製品	デイサイト	51	57	10	35.7	赤色顔料・粘土状物質付着		159
196-27	—	IVQ-46	Ⅲ	円盤状石製品	デイサイト	57	63	20	85.3		S-107	6

石製品観察表(2)

図-No.	写真	出土位置	層位	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	取上 No.	整理 No.
196-28	234	IVT-34	Ⅲ	円盤状石製品	粘板岩	58	60	13	69.1			216
196-29	—	IVR-46	Ⅲ	円盤状石製品	凝灰岩	56	60	15	77		S-56	4
196-30	—	IVS-49	Ⅲ	円盤状石製品	粗粒玄武岩	65	63	19	85.3		S-144	31
196-31	—	IVR-46	Ⅲ	円盤状石製品	安山岩	65	58	36	178.4			174
196-32	234	IVR-49	Ⅲ	円盤状石製品	安山岩	55	60	20	118.9	側面一部敲打	S-94	19
197-1	—	IVS-49	Ⅲ	円盤状石製品	緑色凝灰岩	75	72	19	142.6		S-183	8
197-2	—	IV0-43	Ⅲ	円盤状石製品	デイサイト	79	82	17	141.6			157
197-3	234	IVV-33	Ⅲ	円盤状石製品	デイサイト	68	71	18	134.5			141
197-4	—	IVS-53	Ⅲ	円盤状石製品	デイサイト	86	84	14	163.4		特-101	20
197-5	—	IVR-50	Ⅲ	円盤状石製品	凝灰岩	85	90	32	350		—	34
197-6	—	IVV-33	Ⅲ	円盤状石製品	凝灰岩	84	85	20	209.6			386
197-7	—	IVW-31	Ⅲ	円盤状石製品	凝灰岩	83	85	13	110.5			375
197-8	—	IVP-34	Ⅱ～Ⅲ	円盤状石製品	凝灰岩	34	36	16	25.2	側面敲打		376
197-9	—	欠番										
197-10	—	IVW-31	Ⅲ	円盤状石製品	安山岩	62	68	20	132.9	側面敲打		352
197-11	—	IVS-49	Ⅲ	円盤状石製品	安山岩	58	57	29	103.3	側面一部敲打	S-143	14
197-12	—	IVS-54	Ⅲ	円盤状石製品	デイサイト	43	45	10	27.6	不整形	S-179	5
197-13	—	IVR-44	Ⅲ	円盤状石製品	凝灰岩	45	51	11	32.2	不整形		160
197-14	—	IVS-49	Ⅲ	円盤状石製品	安山岩	53	52	16	58.8	不整形	S-129	30
197-15	—	IVS-49	Ⅲ	円盤状石製品	安山岩	60	63	16	65.3	不整形	S-148	180
197-16	—	IVR-50	Ⅲ	円盤状石製品	凝灰岩	45	50	14	43.2	不整形	S-127	28
197-17	—	SI02	1	円盤状石製品	泥岩	57	55	18	60.6	不整形	S-1	3
197-18	—	IVT-48	Ⅲ	円盤状石製品	凝灰岩	88	83	28	311.2	不整形		161
198-1	234	IV0-45	Ⅲ	円盤状石製品	凝灰岩	45	44	8	22.1	側縁両面からの剥離		196
198-2	234	IV0-49	落ち込み	円盤状石製品	デイサイト	56	54	18	75.1	側縁両面からの剥離		164
198-3	—	IVQ-44 Sec3	Ⅱ	円盤状石製品	凝灰岩	62	66	14	69.3	側縁両面からの剥離		198
198-4	—	IVR-57	Ⅲ	円盤状石製品	凝灰岩	62	60	12	57.3	側縁両面からの剥離・ 黒色物質付着	S-182	32
198-5	—	IVR-44 Sec3	Ⅲ-10	円盤状石製品	緑色凝灰岩	82	75	19	141	側縁両面からの剥離・ 側面一部敲打		17
198-6	234	IVQ-45	Ⅲ	円盤状石製品	安山岩	89	75	20	174.3	側縁両面からの剥離・ 側面一部敲打		155
198-7	—	IVN-44 Sec2	Ⅲ-7	円盤状石製品	凝灰岩	67	61	20	121.7	側縁両面からの剥離・ 側面一部敲打		199
198-8	—	IVR-49	Ⅲ	円盤状石製品	安山岩	68	71	21	148.7	側縁両面からの剥離	S-99	385
198-9	—	IVQ-53	Ⅲ	円盤状石製品	緑色凝灰岩	62	62	23	98.6	側縁両面からの剥離	特-105	191
198-10	234	IVT-54	Ⅲ	円盤状石製品	デイサイト	66	87	22	213.5	側縁両面からの剥離		152
198-11	234	IVR-49	Ⅲ	円盤状石製品	凝灰岩	63	61	19	94.4	側面一部敲打・磨耗、線刻有	S-98	1
198-12	—	IVR-50	Ⅲ	円盤状石製品	デイサイト	60	64	20	99.3	線刻有	S-112	7
198-13	234	IVR-45	Ⅲ	円盤状石製品	安山岩	80	75	18	150.1	一部分のみ加工		153
198-14	—	IVQ-49	Ⅲ	円盤状石製品	安山岩	64	65	22	115.8		S-86	22
199-1	235	IV0-42	Ⅲ	石棒	凝灰岩	116	34	38	49.1	正面溝内に赤彩、表面に擦痕	S-58	104
199-2	235	IVT-44 Sec3	I	石棒	砂岩	92	34	15	63	表面に札紺		103
199-3	235	IVT-49	Ⅲ	石棒	凝灰岩	56	41	37	83.4		S-161	64
199-4	235	IVT-47	Ⅲ	石棒	粘板岩	69	43	39	137.2	腫状の線刻	特-96	132
199-5	235	IVS-35 Sec5	Ⅲ-7	石棒	粘板岩	278	37	30	473.6	先端部に遮光器状の線刻、 先端部直下に貫通孔	特-237	245
199-6	235	IVR-37	Ⅲ	石棒	凝灰岩	113	28	22	126.1	带状敲打痕・沈線縁取り	特-18	66
199-7	235	IVN-43	Ⅲ	石棒	粘板岩	92	28	11	28.1	带状敲打痕・沈線縁取りとX字状	S-60	75
199-8	235	IVT-50	Ⅲ	石棒	粘板岩質 凝灰岩	196	34	23	283.7		S-171	55
199-9	—	IVT-50	Ⅲ	石棒	粘板岩	64	29	22	43.1	X字状沈線		170
199-10	235	IVS-51	Ⅲ	石棒	粘板岩質 凝灰岩	89	24	7	21.8	带状敲打痕	S-166	46
199-11	235	IV0-43	Ⅲ	石棒	粘板岩質 凝灰岩	142	32	22	166.5	破損品の両端部を 研磨し再加工	S-72	71
199-12	235	旧SI03	フク土 2回目	石棒	凝灰岩	104	33	29	170.9		S-3	58
199-13	—	IVT-53	Ⅲ	石棒	粘板岩質 凝灰岩	118	35	13	102.2		特-102	61
199-14	—	IVS-49	Ⅲ	石棒	粘板岩質 凝灰岩	159	37	17	161		S-95	70
199-15	235	IVS-47	Ⅲ	石棒	泥岩質粘板岩	189	33	25	282.1	带状の擦痕	S-118	69

石製品観察表(3)

図-No.	写真	出土位置	層位	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	取上 No.	整理 No.
199-16	235	IV0-42	Ⅲ	石棒	凝灰岩	120	28	22	121.8			57
200-1	—	IVR-36 IVQ-37 Sec1	Ⅲ-2	石棒	粘板岩質 凝灰岩	365	38	15	287.5		特-24 S-5	43 68
200-2	236	IVV-33	Ⅲ	石棒	泥岩質粘板岩	202	30	25	277.3	沈線	S-202	243
200-3	235	IVT-50	Ⅲ	石棒	粘板岩	140	27	18	114.7		S-169	62
200-4	236	IVR-46	Ⅲ	石棒	凝灰岩	66	42	35	145.9	やや反る	特-61	53
200-5	236	IVW-31	I	石棒	安山岩	248	88	80	2086	表面に敲打痕、西捨場と接合		373
200-6	236	IV0-46	Ⅲ	石棒	デイサイト	100	78	62	669	表面に擦痕・被熱	S-123	168
201-1	—	IVT-34	Ⅲ	石棒	粘板岩	291	30	22	310.6	下部部折損後研磨し再加工	S-215	360
201-2	236	IVN-44 Sec2	Ⅲ-7上面	石剣	粘板岩質 凝灰岩	176	25	19	132.8			84
201-3	236	IVR-33	I	石剣	ホルンフェルス	139	23	17	86.7			91
201-4	236	IVR-48	Ⅲ	石剣	粘板岩質 凝灰岩	164	30	23	192.1		S-97	54
201-5	—	IVS-44	Ⅲ	石剣	ホルンフェルス	67	23	20	56.3	沈線		258
201-6	—	IVR-42	Ⅲ	石剣	粘板岩	127	30	17	116.1	下半柄部に敲打痕残存	S-8	88
201-7	236	IV0-42	Ⅲ	石剣	ホルンフェルス	95	22	18	46.8		S-59	89
201-8	236	IVS-33	Ⅲ	石剣	粘板岩	207	24	20	97.9	折損部研磨再加工、下端面磨耗	S-203	244
201-9	236	IVN-39	Ⅲ	石剣	粘板岩	151	22	18	76.9		特-22	85
201-10	236	IVR-43	Ⅲ	石剣	粘板岩	198	29	23	196.8	帯状敲打痕、沈線縁取り	特-3	73
201-11	236	IVS-50	Ⅲ	石剣	ホルンフェルス	265	30	25	339.5	帯状敲打痕、下端面磨耗	S-152	87
201-12	236	IVM-52	I	石剣	泥岩質粘板岩	149	35	23	166.7	帯状敲打痕、下端面磨耗		169
201-13	236	IVS-50	Ⅲ	石剣	粘板岩	52	17	8	12.1	小型、沈線	特-68	60
202-1	237	IVR-39	Ⅲ	石刀	凝灰岩	206	61	23	294.9		S-14	109
202-2	237	IVN-45	Ⅲ	石棒	凝灰岩	134	32	16.5	246.9	擦痕	S-110	59
202-3	237	IVT-49	Ⅲ	石棒	粘板岩質 凝灰岩	215	32	16.5	73.3	柄部沈線、峰に沈線	S-160	51 266
202-4	237	IVV-53	Ⅲ	石棒	粘板岩質 凝灰岩	98	36	10	50			267
202-5	237	IVW-31	I	石棒	粘板岩	45	31	7	12.1	柄部に沈線		56
202-6	237	IV0-42	Ⅲ	石棒	砂岩(古期)	91	32	6	37.1	擦痕		106
202-7	237	IVT-52	Ⅲ	石棒	粘板岩	208	34	12	104.8	刃部内反り	S-167	94
202-8	—	IVT-48	Ⅲ	石棒	粘板岩	84	26	12	49.1		S-158	96
202-9	237	IVS-44 Sec3	Ⅲ-2	石棒	粘板岩	87	32	12	37.4	刃部にまち		92
202-10	237	IV0-44 Sec2	Ⅲ-1	石棒	粘板岩	167	32	25	195.9		S-2	93
202-11	—	IVV-34 ブロック8	Ⅲ	斧状	粘板岩	220	33	14	185.1	剥離整形→研磨	S-226	361
202-12	237	IVS-34 ブロック11	Ⅲ	斧状	粘板岩質 凝灰岩	290	32	21	304.3	黒色物質付着	特-209	242
202-13	—	IVN-43	Ⅲ	棒状石製品	チ	92	16	15	48.5	全面研磨	S-65	116
202-14	—	IVR-42	Ⅲ	棒状石製品	凝灰岩	38	9.4	9.7	6.4			105
202-15	237	IVS-45	Ⅲ	石製模倣品	凝灰岩	32	37	16	7.3	容器状、外面に沈線		330
203-1	238	IVQ-46	Ⅲ	石製模倣品	安山岩	66	68	49	237.5	敲打整形、正面が凹む	S-71	107
203-2	238	IVS-47	Ⅲ	石製模倣品	凝灰岩	66	56	31	68.8	素材軟質	S-109	108
203-3	238	IVR-35	Ⅲ下	石製模倣品	粗粒玄武岩	83	72	46	369.7	裏面に敲打痕、正面弱く凹む		402
203-4	—	IVS-35	Ⅲ	石製模倣品	粗粒玄武岩	101	96	27	326	黒色物質付着、下端敲打痕		393
203-5	238	IVV-34	Ⅲ	石製模倣品	粗粒玄武岩	54	57	27	102.9	表裏面に敲打痕		380
203-6	238	IVT-35	Ⅲ	石製模倣品	デイサイト	197	61	40	537.4	石槍の模倣品?一部に敲打痕		430
203-7	238	IVT-43	Ⅲ	石製模倣品	安山岩	95	39	11	42.2	石冠? 背部に擦痕、 表裏面にく凹みと敲打痕		321
203-8	—	IVT-56	I	石製模倣品	凝灰岩	94	92	14	91.8	石槍の模倣品?		394
203-9	238	IVN-44 Sec2	Ⅲ-1	石製模倣品	凝灰岩	141	86	35	408.5	石槍の模倣品?擦痕		138
203-10	238	IVT-43	Ⅲ	石製模倣品	凝灰岩	77	155	35	411.6		S-1	100
204-1	239	IVR-49	Ⅲ	擦痕の見られる 石製品	凝灰岩	84	43	15	57.4	表面研磨	S-90	98
204-2	239	IVS-50	Ⅲ	擦痕の見られる 石製品	粘板岩	107	18	9	22.4	表面研磨、盲孔	S-153 特-69	65・67
204-3	239	IVM-52	攪乱	擦痕の見られる 石製品	凝灰岩	55	25	17	41.2	表面研磨		441
204-4	239	IVT-56	Ⅲ上面	擦痕の見られる 石製品	凝灰岩	77	52	15	71.2	表面研磨・敲打	特-×	193

石製品観察表(4)

図-No.	写真	出土位置	層位	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	取上 No.	整理 No.
204-5	—	IVQ-43	Ⅲ	擦痕の見られる 石製品	凝灰岩	30	24	24	8.1	上下端面に凹み	S-20	133
204-6	—	IVP-42	Ⅲ	擦痕の見られる 石製品	瑪瑙	34	32	18	29	側面に敲打痕	S-49	115
204-7	239	IV0-53	Ⅲ	擦痕の見られる 石製品	緑色凝灰岩	111	72	16	152.7	全面研磨		151
204-8	—	IV0-45	Ⅲ	擦痕の見られる 石製品	緑色岩	123	48	25	2.8	全面研磨、凝灰岩	S-162	277
204-9	239	IVQ-46	Ⅲ	擦痕の見られる 石製品	凝灰岩	80	73	19	148.9	表面研磨		97
204-10	239	IVS-34	Ⅱ	擦痕の見られる 石製品	凝灰岩	79	62	18	104.3	表面研磨		396
204-11	239	IVS-34	Ⅲ	擦痕の見られる 石製品	凝灰岩	137	73	31	335.8	正面に線刻?	特-219	337
204-12	239	IVR-46	Ⅲ	擦痕の見られる 石製品	凝灰岩	163	109	25	395.7	正面中央部磨耗		173
204-13	239	IVT-53	Ⅲ	擦痕の見られる 石製品	凝灰岩	134	117	42	480	一部研磨	特-88	187
204-14	239	IVR-43	Ⅲ	自然礫利用	凝灰岩	55	54	37	96.2	自然に孔の開いた礫	S-137	110
204-15	239	IVS-35	Ⅰ	自然礫利用	凝灰岩	60	51	18	64.2	自然に孔の開いた礫		336
報告なし	—	IVN-43	Ⅲ	円盤	緑色凝灰岩				60.7		S-83	9
報告なし	—	IVQ-40	Ⅲ	円盤	凝灰岩				17		P-X	11
報告なし	—	IVN-45 Sec2	Ⅲ-1	円盤	閃緑岩				112.2			12
報告なし	—	IVR-50	Ⅲ	円盤	泥岩				44		特-39	13
報告なし	—	IVQ-45	Ⅲ	円盤	泥岩				43.8			15
報告なし	—	IVT-31	Ⅲ	円盤	凝灰岩				101.8			18
報告なし	—	IVW-32	Ⅲ	円盤	緑色凝灰岩				143.6			23
報告なし	—	IVR-50	Ⅲ	円盤	凝灰岩				212.4		S-135	24
報告なし	—	IVT-52	Ⅲ	円盤	凝灰岩				9.2			25
報告なし	—	IVS-54	Ⅲ	円盤	粗粒玄武岩	48	52	14	37		S-180	27
報告なし	—	IVS-49	Ⅲ	円盤	安山岩				7			29
報告なし	—	IVR-46	Ⅲ	円盤	凝灰岩				37.9		—	37
報告なし	—	IVT-31	Ⅰ	円盤	シルト				1.1			38
報告なし	—	IVS-47	Ⅲ	石棒類	粗粒玄武岩				191.7	自然石だろう	S-106	44
報告なし	—	IVS-48	Ⅲ	石棒類	粗粒玄武岩				65	自然石だろう	S-131	45
報告なし	—	IVQ-39	Ⅲ	石棒類	粘板岩質 凝灰岩				11.1			47
報告なし	—	IVQ-37	Ⅲ	石棒類	粘板岩				5.5			48
報告なし	—	IVR-36 Sec1	Ⅲ-3	石棒類	粘板岩				32.8			49
報告なし	—	IV0-42	Ⅱ	石棒類	—				90.2			50
報告なし	—	IVQ-41	Ⅲ	石棒	粘板岩				144.2	No. 143と接合	特-15	52
報告なし	—	IVQ-45	Ⅲ	石棒	角閃石				25.3	接合しない 同一個体 破片2点	S-115	63
報告なし	—	IV0-41	Ⅲ	石棒	粘板岩質 凝灰岩				87.2		S-29	72
報告なし	—	IVQ-47	Ⅲ	石棒	粘板岩				121	No. 248と接合	S-105	74
報告なし	—	IV0-43	Ⅲ	石棒	粘板岩				14.9		S-77	76
報告なし	—	IV0-42	Ⅲ	石棒	粘板岩質 凝灰岩				27.1		S-57	77
報告なし	—	IVS-48	Ⅲ	石棒	粘板岩質 凝灰岩				57.5		S-176	78
報告なし	—	IVT-46	Ⅲ	石棒	粘板岩質 凝灰岩				174.7		S-80	79
報告なし	—	IVS-45	Ⅲ	石棒	粘板岩				74.7		S-139	80
報告なし	—	IVR-45	Ⅲ	石剣	粘板岩				55.1	写真はS054になっている	特-34	81
報告なし	—	IVQ-45	Ⅱ	石剣	粘板岩				26.8			82
報告なし	—	IVQ-34	Ⅲ	石剣	粘板岩				7.8			83
報告なし	—	IVS-43	Ⅲ	石剣	粘板岩				37.1	写真はS058になっている	S-15	86
報告なし	—	IVN-45	Ⅲ	石剣	粘板岩質 凝灰岩				—	No. 84と接合		90
報告なし	—	IVS-43	Ⅲ	石剣	粘板岩				32.6			95
報告なし	—	IVN-44	Ⅲ	搬入礫	玉髓				33.2			111
報告なし	—	IVN-41	Ⅲ	搬入礫	水晶				0.2			112
報告なし	—	IVR-33	Ⅰ	搬入礫	水晶				1.1			113

石製品観察表(5)

図-No.	写真	出土位置	層位	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	取上 No.	整理 No.
報告なし	—	IVR-46	Ⅲ	搬入礫	珪化木				120.9			114
報告なし	—	IVN-44 Sec2	Ⅲ-1	搬入礫	安山岩				76.1			117
報告なし	—	IVR-48	Ⅲ	搬入礫	緑色凝灰岩				0.9		S-133	126
報告なし	—	IVN-44	Ⅲ	搬入礫	緑色凝灰岩				0.5			127
報告なし	—	IVR-48	Ⅲ	搬入礫	緑色凝灰岩				0.6		特-56	128
報告なし	—	IVR-48	Ⅲ	搬入礫	緑色凝灰岩				1.3		特-55	129
報告なし	—	IVV-38	I	搬入礫	カルセドニー				53.6			139
報告なし	—	IVS-44	Ⅲ	円盤打次	泥岩				129.9			140
報告なし	—	IVS-37	Ⅲ	不明	凝灰岩				95.4			142
報告なし	—	IVS-48	Ⅲ	石剣	—				—	No. 52と接合	S-168	143
報告なし	—	IVQ-38	Ⅲ-4	石剣	粘板岩				49.8			145
報告なし	—	IVQ-36	Ⅲ	石剣	粘板岩				—	No. 50と同一接合		146
報告なし	—	—	表採	円盤	凝灰岩				208.1			147
報告なし	—	IVQ-57	Ⅲ	円盤	安山岩	51	50	22	103			148
報告なし	—	IVP-53	Ⅲ	円盤	泥岩				110.2			149
報告なし	—	IVQ-57	Ⅲ	円盤	泥岩				102.1			150
報告なし	—	IVO-43	Ⅲ	円盤	泥岩	65	76	20	144.1			154
報告なし	—	SI02	I	円盤	凝灰岩	53	56	13	53.9			158
報告なし	—	—	排土	円盤	安山岩				182.1			162
報告なし	—	IVT-47	Ⅲ下部	円盤	花崗閃緑岩				149.7			163
報告なし	—	IVO-49	落ち込み	円盤	安山岩				119.9			165
報告なし	—	IVO-44	Ⅲ	石剣	粘板岩				47			166
報告なし	—	IVO-45	Ⅲ	岩版(三角形)	凝灰岩	120	125	23	356.8			172
報告なし	—	IVQ-48	Ⅲ	円盤	緑色凝灰岩				55.8			175
報告なし	—	IVT-50	Ⅲ	円盤	流紋岩				255.1			177
報告なし	—	IVT-52	Ⅲ	円盤	安山岩				214.8			178
報告なし	—	IVS-49	Ⅲ	円盤	安山岩				89.7		S-147	181
報告なし	—	IVR-46	Ⅲ	円盤	閃緑岩				183.8			182
報告なし	—	IVR-46	Ⅲ	円盤	安山岩				118.3			184
報告なし	—	IVT-49	Ⅲ	円盤	花崗閃緑岩				44.6			185
報告なし	—	IVN-45 Sec2	Ⅲ-1	石剣	粘板岩				11.6			186
報告なし	—	IVN-54	Ⅲ	円盤	花崗閃緑岩				27.1		特-×	189
報告なし	—	IVT-48	Ⅲ	石剣	粘板岩				36.8		特-107	190
報告なし	—	IVQ-30	I	円盤	泥岩				20.3		特-×	192
報告なし	—	IVS-44 Sec3	I	円盤	安山岩				41.9			194
報告なし	—	IVO-44	Ⅲ	円盤	凝灰岩				11.8			195
報告なし	—	IVN-46	Ⅲ	円盤	ホルンフェルス				63.7			197
報告なし	—	IVO-45	I	円盤	—				6.2			200
報告なし	—	IVR-45	Ⅲ	円盤	凝灰岩				33.6	自然石かも		201
報告なし	—	IVT-50	Ⅲ	円盤	凝灰岩				46.9			203
報告なし	—	IVO-45	Ⅲ	円盤状石製品	玄武岩				112.8			204
報告なし	—	IVP-45	Ⅲ	円盤状石製品	凝灰岩				26.8			205
報告なし	—	IVR-51	Ⅱ	円盤	泥岩				73.4			207
報告なし	—	IVS-38	Ⅲ	円盤	凝灰岩				30.4			211
報告なし	—	IVO-41	Ⅲ	円盤	凝灰岩				14.7			212
報告なし	—	IVT-29	I	円盤	泥岩				81.9			213
報告なし	—	IVR-41	Ⅲ	円盤	凝灰岩				10.7			214
報告なし	—	IVT-29	I	円盤状石製品	凝灰岩				7.9			215
報告なし	—	IVU-52	仮Ⅲ	円盤状石製品	凝灰岩				91			218
報告なし	—	IVT-36	Ⅲ	円盤状石製品	泥岩				110.8			219
報告なし	—	IVU-55 Sec4	I	円盤状石製品	凝灰岩				79.1			220
報告なし	—	IVW-33	Ⅲ	円盤	花崗閃緑岩				149.2			227
報告なし	—	IVU-52 ブロック2	フク土	円盤	緑色凝灰岩	34	34	9	14.7			229
報告なし	—	—	排土	円盤状石製品	安山岩				67.8	未製品		235
報告なし	—	—	表採	石棒	—				—	No. 74と接合		248
報告なし	—	IVU-34	Ⅲ	石棒	—				30.9		S-209	249
報告なし	—	IVV-34	Ⅲ	石棒	—				18.9		S-23	250
報告なし	—	IVU-33	Ⅲ	石棒	—				52.8		S-220	252
報告なし	—	IVV-31	I	石棒	—				27			253

石製品観察表(6)

図-No.	写真	出土位置	層位	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	取上 No.	整理 No.
報告なし	—	IVS-34 Sec5	Ⅲ-3	石棒	—				131.1		S-249	254
報告なし	—	IVS-35	Ⅲ	石棒	—				10.6			256
報告なし	—	IVR-44	Ⅲ	石棒	—				17.3			257
報告なし	—	IVR-44	Ⅲ	石棒	—				6.6			259
報告なし	—	IVQ-44	Ⅲ	石棒	粘板岩				42.8			260
報告なし	—	IVN-46	Ⅲ	石棒	—				34.6			261
報告なし	—	IVT-46	Ⅲ	石棒	—				11.5			262
報告なし	—	HSI03	フク土	石棒	—				63.5	No. 264と接合	S-1	263
報告なし	—	IVR-42	Ⅲ	石棒	—				—	No. 263と接合		264
報告なし	—	IVR-47	Ⅱ	石棒	—				15.8			265
報告なし	—	IV0-42	Ⅲ	玉類	緑色石				1			276
報告なし	—	IV0-42	Ⅲ	玉類	緑色石				1.3			278
報告なし	—	IVN-46	Ⅲ	玉類	緑色石				11.1			279
報告なし	—	IV0-41	Ⅲ	玉類	—				15.7			280
報告なし	—	IV0-40	Ⅲ	玉類	—				4.8			281
報告なし	—	IVM-46	Ⅲ	玉類	—				17.4			282
報告なし	—	IVM-42	Ⅲ	その他	—				40.3			313
報告なし	—	IV0-42	Ⅲ	その他	—				14.4			314
報告なし	—	IVR-44	Ⅰ	その他	—				17.9			315
報告なし	—	IVV-44	Ⅰ	その他	—				6.6			316
報告なし	—	IVV-44	Ⅰ	その他	—				1.1			317
報告なし	—	IVR-44	Ⅰ	その他	—				3.3			318
報告なし	—	IVR-44	Ⅰ	その他	—				1.7			319
報告なし	—	IVN-42	Ⅲ	その他	—				14.1			320
報告なし	—	IVV-44	Ⅰ	その他	—				7			322
報告なし	—	IVR-44	Ⅲ	その他	—				1.4			323
報告なし	—	IVR-45	Ⅲ	その他	—				58.8			324
報告なし	—	IVS-48	Ⅲ	その他	—				5.7			325
報告なし	—	IVT-49	Ⅲ	その他	—				6.2			326
報告なし	—	IVP-41	Ⅲ	その他	—				8.4			327
報告なし	—	IV0-41	Ⅲ	その他	—				9.9			328
報告なし	—	IVT-49	Ⅲ	その他	—				5			329
報告なし	—	IVV-39	Ⅰ	その他	凝灰岩	27	15	9	3			332
報告なし	—		排土	その他	—				124.7			334
報告なし	—	IVU-54	仮Ⅲ下	その他	—				4.4			335
報告なし	—	IVU-54	仮Ⅲ2	その他	粗粒玄武岩	91	57	23	144.4			338
報告なし	—	IVU-55	Ⅰ	その他	凝灰岩	19	26	18	5.5			341
報告なし	—	IVS-39	Ⅱ	その他	—				5.3		特×	345
報告なし	—	IVU-54	仮Ⅲ	その他	ホルンフェルス	44	6	6	2.4			347
報告なし	—	IVV-54	仮Ⅲ下	その他	—				1.4			348
報告なし	—	IVS-34	Ⅲ	その他	—				69.7			350
報告なし	—	IVU-56 Sec4	仮Ⅲ1	その他	—				0.7		特-229	351
報告なし	—	IVW-31	Ⅲ	円盤	—				78.2			354
報告なし	—	IVW-31	Ⅲ	石棒	—				95.7			356
報告なし	—	IVT-33	Ⅲ	石棒	—				150.5		S-214	359
報告なし	—	IVU-35	Ⅲ	石棒	—				22.8			362
報告なし	—	IVS-30	Ⅲ	石棒	—				89			363
報告なし	—	IVS-30	Ⅲ	石棒	—				23			364
報告なし	—	IVV-30	Ⅰ	石棒	—				14.6			365
報告なし	—	IVU-30	Ⅲ	石棒	—				76.4			366
報告なし	—	IVU-29	Ⅲ		—				—	No. 366と接合		367
報告なし	—	IVU-30	Ⅲ	石棒	—				—	No. 366と接合		368
報告なし	—	IVT-35	Ⅲ	石製品	—				52.8			369
報告なし	—	IVV-33	Ⅲ		—				18.2			370
報告なし	—	IVS-47	Ⅱ	石製品素材?	—				6.9			371
報告なし	—	IVV-31	Ⅲ	石製品	—				4.2			372
報告なし	—	IVS-32	Ⅲ	石棒	—				376.9			374
報告なし	—	IVT-53	Ⅲ	石製品	安山岩				10.9			377
報告なし	—	IVU-32	Ⅰ		緑色凝灰岩				7			378
報告なし	—	IVT-56	Ⅲ		泥岩				57			379
報告なし	—	IVV-30	Ⅰ		凝灰岩				15.4			382
報告なし	—	IVW-31	Ⅲ	石製品	泥岩				61.7			383

石製品観察表(7)

図-No.	写真	出土位置	層位	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	取上 No.	整理 No.
報告なし	—	IVS-35	Ⅲ下		珪化木	60	61	24	116.5			384
報告なし	—	IVR-46	Ⅲ	円盤状石製品	泥岩				19.5			387
報告なし	—	IVQ-53	Ⅲ	石製品	凝灰岩				15.1			388
報告なし	—	IVT-47	Ⅲ	石製品	安山岩				82.1			389
報告なし	—	IVP-52	I	石製品	凝灰岩				168.9			390
報告なし	—	IVS-49	Ⅲ	石製品	安山岩				101.8			392
報告なし	—	IVS-48	Ⅲ	石製品	緑色凝灰岩				5.6			397
報告なし	—	IVU-30	I	石製品	粘板岩				2.5			398
報告なし	—	IVT-33	Ⅲ		緑色凝灰岩				61.3			399
報告なし	—	IVS-48	Ⅲ	石製品素材	緑色凝灰岩				24.5			400
報告なし	—	IVR-32	Ⅲ		凝灰岩				93.5			401
報告なし	—		Ⅲ	石製品	—				17.7			403
報告なし	—		Ⅲ	石製品	—				51.4			404
報告なし	—		Ⅲ	石製品素材?	—				57.5			405
報告なし	—	ブロック9	Ⅲ		—				170			406
報告なし	—		Ⅲ		—				15.7			407
報告なし	—		Ⅲ	石製品	—				4.1			408
報告なし	—		I	石製品	—				19.1			409
報告なし	—		Ⅲ	石製品	—				6.8	P-×		410
報告なし	—			石製品	—				60.5	P-×		411
報告なし	—		Ⅲ		—				76			412
報告なし	—		Ⅲ	石製品	—				240.5			413
報告なし	—		Ⅲ		—				13.1			414
報告なし	—		Ⅲ	石製品	—				37.7			415
報告なし	—	不明	不明	石製品	—				16		不明	416
報告なし	—	IVQ-59	I	石製品	—				6.1			417
報告なし	—	IVQ-58	Ⅲ		—				18.5			418
報告なし	—	IVU-33	Ⅲ	石製品	—				77.1			419
報告なし	—	IVM-52		石製品	—				16.7			420
報告なし	—	IVS-52	Ⅲ	石製品	—				15.1	P-×		421
報告なし	—	IVQ-56	Ⅲ	石製品	—				13.5	P-×		422
報告なし	—	IVS-33	Ⅲ	石製品素材?	—				90.1			423
報告なし	—	IVS-35	Ⅲ	石製品?	—				155.6			424
報告なし	—	IVT-53	Ⅲ		—				42.3			425
報告なし	—	IVU-33	Ⅲ	石製品	—				119.5			426
報告なし	—	IVU-34	Ⅲ	石製品	—				230.9			427
報告なし	—	IVU-28	I	石製品	—				5.7			428
報告なし	—	IVU-33	Ⅲ		—				49.5			429
報告なし	—	IVS-35	Ⅲ	円盤状素材	—				48.9			431
報告なし	—	IVS-35	Ⅲ	石製品素材?	—				31			432
報告なし	—	IVT-48	Ⅲ	石製品素材?	—				114.5			433
報告なし	—	IVQ-54	Ⅲ	石製品	—				53			434
報告なし	—	IVV-34	Ⅲ	石製品	—				956.4			435
報告なし	—	IVR-48	Ⅲ	石製品	—				10.1			436
報告なし	—	—	表採	石棒破片	—				25.1	—		437
報告なし	—	IVP-45	Ⅲ		—				91.5			438
報告なし	—	IVT-50	Ⅲ	円盤状石製品	凝灰岩				28.2			439
報告なし	—	IVT-48	Ⅲ	石皿破片	凝灰岩				14.5			440
報告なし	—	IVR-50	Ⅲ	石製品	—				3.5			442
報告なし	—	IVS-50	Ⅲ		—							444
報告なし	—	IVT-50	Ⅲ		凝灰岩							445
報告なし	—	IVS-49	Ⅲ		安山岩							446
報告なし	—	IVU-30	I		凝灰岩							447
報告なし	—	IVT-29	I		凝灰岩							448
報告なし	—	IVR-47	Ⅲ		凝灰岩							449
報告なし	—	IVQ-44	Ⅲ		安山岩							450
報告なし	—	IVQ-55	Ⅲ		凝灰岩							451
報告なし	—	IVR-49	Ⅲ		緑色凝灰岩							452

漆製品観察表

図-No.	写真	出土位置	層位	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	備考	取上No.	整理 No.
205-1	240	IVR-43	Ⅲ	竪櫛	7	19	8		特-16	J-8
205-2	240	IVR-43	Ⅲ	竪櫛	14	51	19		特-4	J-1
205-3	240	IVR-47	Ⅲ	竪櫛	16	27	19		特-47	J-11
205-4	240	IVU-34	Ⅲ	籃胎漆器	—	—	—			J-26
写真のみ	240	IVQ-36 Sec1	Ⅲ-2	不明	—	—	—		Sec1 特-1	J-5
写真のみ	240	IVQ-36 Sec1	Ⅲ-2	不明	—	—	—	籃胎漆器?	Sec1 特-2	J-9
写真のみ	240	IVQ-37	Ⅲ	竪櫛	—	—	—		特-1	J-7
写真のみ	240	IVQ-44	Ⅲ	竪櫛	—	—	—		特-42	J-6
写真のみ	240	IVQ-44	Ⅲ	不明	—	—	—	繊維痕みられる。	特-83	J-12
写真のみ	240	IVR-36 Sec1	Ⅲ-2	不明	—	—	—	籃胎漆器?	特-23	J-10
写真のみ	240	IVR-37	Ⅲ	竪櫛	—	—	—		特-19	J-3
写真のみ	240	IVT-50	Ⅲ	竪櫛	—	—	—		特-95	J-4
写真のみ	240	IVT-50	Ⅲ	不明	—	—	—	繊維痕みられる。	特-87	J-13
写真のみ	240	IVS-35 Sec5	Ⅲ-8	竪櫛	—	—	—		特-238	
図示なし		IV0-39	Ⅲ	不明	—	—	—	竪櫛?	特-20	J-17
図示なし		IVQ-36 Sec1	Ⅲ-2	不明	—	—	—		特-4	J-16
図示なし		IVQ-44	Ⅲ	不明	—	—	—	竪櫛?	特-86	J-22
図示なし		IVQ-45	Ⅲ	不明	—	—	—		特-89	J-14
図示なし		IVQ-45	Ⅲ	不明	—	—	—		特-3	J-19
図示なし		IVR-36 Sec1	Ⅲ-3	不明	—	—	—		特-31	J-18
図示なし		IVR-44 Sec3	Ⅲ-5-d	不明	—	—	—		特113	J-25
図示なし		IVR-47	Ⅲ	不明	—	—	—		特-62	J-21
図示なし		IVR-48	Ⅲ	不明	—	—	—		特-61	J-20
写真のみ	240	IVS-47	Ⅲ	不明	—	—	—		特-65	J-2
図示なし		IVS-49	Ⅲ	不明	—	—	—		特-99	J-24
図示なし		IVT-50	Ⅲ	不明	—	—	—		特-98	J-23

アスファルト関連遺物観察表

図-No.	写真	出土位置	層位	器種	重量 (g)	備考	取上No.	整理 No.
205-5	241	IVS-49	Ⅲ	土器内面付着	30.4	P-1796壺・注口の底部に付着		A1
205-6	241	IVS-50	Ⅲ	土器内面付着	41.9			土183
205-7	241	IVP-42	Ⅲ	土器内面付着	6.6		特-29	A2
205-8	241	IVR-42	Ⅲ	アスファルト塊	78.4		特-13	A5
205-9	241	IVU-33	Ⅲ	アスファルト塊	1.5			A4
205-10	241	IVQ-48	Ⅲ	アスファルト塊	3.8			A3
205-11	241	IVR-36 Sec1	Ⅲ-3	アスファルト塊	76.9		特-32	A6
写真のみ	241	IVR-35	Ⅲ	アスファルト塊	2.7	P-1834より下から出土		A7
写真のみ	241	IVR-51	Ⅱ	アスファルト塊	1.0		C-×	A8
写真のみ	241	IVR-48	Ⅲ	土器内面付着	26.6	土器の底部に付着		A9

弥生土器観察表

図-No.	写真	出土位置	層位	器種	時期	特徴	整理 No.
206-1	242	IVS-44 Sec3	Ⅱ	甕・壺・鉢	不明	外面隆帯、無文頸部、2条の横走沈線。横走沈線に粘土粒被さる。内面は3条の凹線、縄文(LRかRLか不明)。復元口径20.7cm。	弥生1

土師器観察表

図-No.	写真	出土位置	層位	器種	時期	特徴	整理 No.
206-2	242	IVS-49	Ⅱ	坏	10世紀 代	ロクロ 口縁部 大きく端反る 外面段状のロクロ目 灰白～灰黄色 焼成堅緻 砂粒と海面骨針含む	土師器 1

陶磁器観察表

写真-No.	出土位置	層位	種別	器種	時期	産地	文様など	整理No.
写真242-1	IVP-49	I	磁器	皿類	肥前IV期	肥前	人物文か	陶磁器002
写真242-2	IVV-40	I	磁器	皿類	肥前IV期	肥前	内面見込み蛇目釉剥 外面高台付近露胎	陶磁器001
写真242-3	IVR-48	I	磁器	皿類	肥前IV期	肥前	内外面唐草文	陶磁器027
写真242-4	IVP-51	I	磁器	碗類	肥前IV期	肥前	内面一重網目文 外面二重網目文	陶磁器069
写真242-5	IVU-55	I	磁器	碗類	肥前IV期	肥前	内面四方樺文か 外面青磁釉	陶磁器072-a
写真242-6	IVV-34	I	磁器	瓶類	肥前IV期	肥前	外面雨降文 内面無釉	陶磁器071
写真242-7	IVQ-30	I	磁器	碗類	19世紀中葉	瀬戸	内外面染付	陶磁器005-a
写真242-8		排土	磁器	碗類	19世紀中葉	瀬戸	内外面染付	陶磁器031
写真242-9	IVU-30	I	磁器	碗類	19世紀中葉	瀬戸	外面染付	陶磁器054
写真242-10	IVT-29	I	磁器	碗類	19世紀中葉	瀬戸	外面染付 口唇部口鏽	陶磁器074
写真242-11	IVU-55	I	磁器	瓶類	19世紀中葉	瀬戸	赤が主体 一部に青あり	陶磁器081-a
写真242-12	IVU-30	I	磁器	皿類	19世紀後葉以降	不明	摺絵 外底面蛇目釉剥	陶磁器041
写真242-13	IVU-30	I	磁器	碗類	19世紀後葉以降	不明	摺絵	陶磁器052
写真242-14	IVU-30	I	磁器	瓶類	19世紀後葉以降	不明	摺絵 内面無釉 外底面無釉	陶磁器049
写真242-15	IVU-55	I	磁器	皿類	19世紀後葉以降か	不明	内面鉄絵 内外面貫入	陶磁器075
写真242-16	IVU-54	I	陶器	碗類か	19世紀中葉以降か	不明	外面鉄塗と白濁釉 内面白濁釉	陶磁器077-a
写真242-17	IVU-30	I	陶器	瓶類か	19世紀中葉以降か	不明	内外面灰釉	陶磁器062-a
写真242-18	IVT-54	I	陶器	鉢類	肥前IV期	肥前	鉢類(播鉢)	陶磁器068
写真242-19	IVT-29	I	陶器	鉢類	19世紀中葉	悪戸	鉢類(播鉢) 内外面鉄塗	陶磁器060-a
写真242-20	IVS-32	I	陶器	碗類か	19世紀中葉以降か	不明	内外面灰釉、貫入	陶磁器039-a
写真242-21	IVW-34	I	陶器	瓶類か	19世紀中葉以降か	不明	外面一部に灰釉? 外底面回転糸切痕 露胎 内面無釉	陶磁器022
写真242-22	IVV-40	I	陶器	鉢類	19世紀中葉	悪戸	鉢類(片口鉢か) 内外面灰釉	陶磁器016
写真242-23	IVT-34	I	陶器	鉢類	19世紀中葉	悪戸	鉢類(片口鉢か) 内外面灰釉	陶磁器067
写真242-24	IVP-44	I	陶器	壺類か	肥前IV期か	肥前か	内面鉄釉 外面熱弾け	陶磁器037
写真242-25	IVM-45	I	陶器	鉢類	19世紀中葉以降か	不明	内外面鉄塗 外面鉄釉掛け	陶磁器040
写真242-26	IVU-55	I	陶器	瓶類か	19世紀中葉以降か	不明	内外面灰釉	陶磁器064
写真242-27	IVU-30	I	土器	焜炉	19世紀中葉頃か	不明	出窓あり 舟カマド形	陶磁器061-a
写真242-28	IVU-30	I	土器	焜炉	19世紀中葉頃か	不明	出窓あり 舟カマド形	陶磁器059-a

報 告 書 抄 録

ふりがな	かわらたい (1) いせきに						
書名	川原平 (1) 遺跡 II						
副書名	津軽ダム建設事業に伴う遺跡発掘調査報告						
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第564集						
編著者	岡本洋 笹森一朗 齋藤岳 木村高 畠山昇 高橋哲 茅野嘉雄 岩井美香子 佐々木雅裕						
編集機関	青森県埋蔵文化財調査センター						
所在地	〒038-0042 青森県青森市大字新城字天田内152-15 TEL 017-788-5701 FAX 017-788-5702						
発行機関	青森県教育委員会						
発行年月日	西暦 2016年 3月 25日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系 (JGD2000)	調査期間	調査面積	調査原因
かわらたい いせき 川原平(1)遺跡	あおもりけんなかつがるぐんにしめ やわらおおあざがわらたい 青森県中津軽郡西目屋村大字川原平 あざふくおかちない 字福岡地内	市町村 02343	遺跡番号 343009	北緯 40° 31' 35"	東経 140° 13' 31"	20110511 } 20111028 } 20130507 } 20131114 4,250㎡ (報告範囲)	記録保存調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
川原平(1)遺跡	集落	縄文	建物跡 6棟 焼土遺構 42基 柱穴(単独検出)225基 土坑 5基 石棺状配石 (列石伴う) 3基 配石遺構 15基 土器埋設遺構 36基	縄文土器(前期～晩期) 石器 土製品 石製品 漆製品 アスファルト 焼成粘土塊 鉱物(マンガンノジュール) 赤色顔料原礫	・後期後葉～晩期後葉にかけての大規模な集落跡で、遺物が大量に出土。 ・石棺状配石はいわゆる石棺墓と同じ構造であるが、後期末葉頃に構築されたものである。 ・瘤付土器後半(青森県史による後期7-4期)～晩期初頭(晩期1a期)の土器がまとまって出土している。 ・人面付土器が複数個体出土している。		
	散布地	弥生(?)	なし	弥生土器(?)	・田舎館式並行(?)の破片1点		
	散布地	平安	なし	土師器	・坏の破片1点		
	散布地	近世以降	なし	陶磁器・土器・銭貨			
要約	<p>川原平(1)遺跡は西目屋村役場から南西約9kmに位置し、岩木川右岸の河成段丘上に立地する。</p> <p>本報告は川原平(1)遺跡に関する2冊目の報告書である。今回の報告範囲は、2011年度本調査範囲全てと、2013年度本調査範囲の一部である。また、両年度の本調査範囲には、青森県埋蔵文化財調査報告書第409集として刊行された2003年度本調査範囲も含まれており、当時確認されたまま未精査だった遺構も2013年度に精査が終了し、今回の報告となっている。</p> <p>本報告の対象となった出土遺物は、段ボール箱にして土器・土製品が724箱、石器・石製品が404箱、漆製品が3箱の合計1,131箱である。遺物のほとんどは縄文時代後期後葉～晩期後葉に属する。</p> <p>本遺跡から検出された縄文時代の集落は後期後葉(青森県史による後期7-4期)～晩期後葉(晩期5期)にかけて継続して営まれており、津軽ダム建設予定地内における該期の拠点的な集落と考えられる。今回の報告範囲は遺物出土量に対して建物跡の検出数が少なく、居住域に隣接した「捨て場」であると考えられ、居住域の主体は今回報告範囲の北側に広がる。捨て場に重なるように焼土遺構や配石遺構、土器埋設遺構が検出されている。土器埋設遺構の検出数は、これまでに調査された青森県内の晩期遺跡では最多である。また、いわゆる石棺墓と類似した遺構が3基検出され、これらの構築時期が後期末葉頃と確定したのは特筆される成果である。石棺墓は青森県内で多数検出されているが、構築時期は中期末葉～後期前葉であり本遺跡とは時期が異なる。また、該期の石棺墓は改葬を前提とした一次葬施設と考えられているのに対し、本遺跡の石棺墓類似遺構は内部が埋め戻されている点で異なり、人骨も出土しないため墓と断定することができず、石棺状配石として報告した。秋田県大館市矢石館遺跡では晩期の組石棺が報告されており、本遺跡の石棺状配石は秋田県方面との関連も検討する必要がある。</p> <p>大量に出土した後期後葉～晩期後葉の遺物のなかでも、後期7-4期～晩期1a期の土器はこれまで青森県内でまとまって出土することが稀であったため、本遺跡出土資料は今後土器編年の基準としての役割を果たすものと考えられる。該期の土器付着炭化物25点については放射性炭素年代測定を実施しており、晩期開始年代を3000yrBP頃とする見通しが得られた。人面付土器も複数出土しており、その中には精巧に作られた注口土器も含まれる。</p> <p>なお、川原平(1)遺跡の発掘調査は2015年8月に完了し、今後数冊の報告書が刊行される予定である。また、放射性炭素年代測定を含め、今回報告範囲に係る自然科学分析の詳細な結果は本書には収録しておらず、今後刊行される報告書にまとめて掲載する予定である。</p>						

青森県埋蔵文化財調査報告書 第564集

川原平(1)遺跡 II

—津軽ダム建設事業に伴う遺跡発掘調査報告—
(第1分冊)

発行年月日	2016年3月25日
発行	青森県教育委員会
編集	青森県埋蔵文化財調査センター 〒038-0042 青森県青森市大字新城字天田内152番15 TEL (017) 788-5701 FAX (017) 788-5702
印刷	ワタナベサービス株式会社 〒030-0803 青森県青森市安方二丁目17-3 TEL (017) 777-1388 FAX (017) 735-5982
